

豊 後 府 内 9

－庄の原佐野線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)－
(大友36次・55次)

2008

豊 後 府 内 9

－庄の原佐野線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)－
(大友 36 次・55 次)

2 0 0 8

大分県教育庁埋蔵文化財センター

例 言

1. 本書は大分県大分市六坊北町に所在する中世大友府内町跡第36次調査・第55次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は大分駅付近連続立体交差事業の実施に伴い、大分県土木建築部大分駅周辺総合整備事務所の委託を受けて大分県教育委員会文化課（第36次調査）・埋蔵文化財センター（第55次調査）が実施した。
3. 中世大友府内町跡第36次調査は平成15(2003)年10月15日から平成16(2004)年3月15日にかけて実施し、高橋信武・綿貫俊一・生野令子・安井由加梨・河原英明・細川愛（大分県教育委員会）が担当した。
また、中世大友府内町跡第55次調査は平成17(2005)年5月9日から平成17(2005)年10月20日にかけて実施し、高橋信武・河原英明が担当した。
4. 現地での写真撮影・遺構の実測は上記職員のほか、第36次調査では(株)埋蔵文化財サポート(調査員 田中顕・池田あゆ子)が担当した。
5. 遺物実測・トレースなど報告書作成に伴う現地調査終了後の諸作業については調査員のほか、大分県教育庁埋蔵文化財センターの整理補佐員が大部分を行ったが、陶磁器の一部については(株)岡三リビック(第36次調査)・(有)九州文化財リサーチ(第55次調査)に委託した。
6. 出土遺物ならびに図面・写真等は、大分県教育庁埋蔵文化財センター(大分市大字中判田字ビワノ門1977番地)において保管している。
7. 本所で使用する方位はいずれも座標北である。旧日本測地系と座標値については世界測地系の数値を併記している。
8. 本書で使用する遺構略号は以下のとおりである。
SD(溝)、SB(掘立柱建物)、SK(土坑)、SE(井戸)、SF(道路)、SA(柱穴列)、SP(柱穴および小穴)、SX(性格不明土坑および集石土坑)
9. 本書で使用した出土遺物の分類については、以下の文献による。
青花 小野正敏「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」(『貿易陶磁研究』No.2 1982年)
青磁 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」(『貿易陶磁研究』No.2 1982年)
白磁 森田 勉「14～16世紀の白磁の分類について」(『貿易陶磁研究』No.2 1982年)
備前系陶器 乗岡 実「中世備前焼甕(壺)の編年案」・「備前焼播鉢の編年案」(『第3回中近世備前焼研究会資料 付第1回・第2回研究資料』所収 2000年)
乗岡 実「近世備前焼播鉢の編年案」(『岡山城三之曲輪跡-表町一丁目地区再開発ビル建設に伴う発掘調査-』岡山市教育委員会 2000年)
中国南部製焼締陶器鉢 吉田 寛「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」(『貿易陶磁研究』No.28 2003年)
京都系土師器 塩地潤一「大友領国内における京都系土師器の分布とその背景」(『博多研究会誌』第6号 1998年)
塩地潤一「九州出土の京都系土師器皿」(『中近世土器の基礎研究』XIV 1999年)
坂元嘉弘「」
河野史郎「大友府内4-中世大友府内町跡第4次発掘調査報告書-」大分市教育委員会 2002年
10. 魚骨・獣骨については、独立行政法人国立歴史民俗博物館の西本豊弘教授に同定を依頼し、原稿を頂いた。
11. 本書の執筆・編集は高橋信武が担当した。

序 文

本書は、大分県教育委員会が大分県大分駅周辺総合整備事務所の依頼を受けて実施した県道庄の原佐野線事業に伴う、中世大友府内町跡第36次・第55次調査の発掘調査報告書です。

大分市には旧石器時代以来の多数の遺跡が存在します。古代・中世には豊後国の中心として豊後「国府」や「守護所」が置かれていました。戦国時代には大友氏館を中心にして周辺には「府内町」が広がっていました。この範囲では近年、JR線路の高架化や国道10号の拡幅に伴い発掘調査が行われ中世の町跡としては全国的にも注目されています。

今回調査した遺跡は中世大友府内町跡のうち、大友氏館跡の南側にあったとされる御蔵場の南部付近や外側の町屋跡一帯を調査した報告書です。15世紀・16世紀の遺構・遺物を多数検出し、この地で長期にわたる生活活動の展開したことが窺われます。

本書が、埋蔵文化財の保護に向けて、また地域の先人の生活を理解する資料として、さらには学術研究の一助として活用されれば幸いです。

終わりに、長期間にわたる発掘調査に御支援、御協力をいただきました関係各位に、衷心から感謝申し上げます。

平成20年3月31日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所 長 福 田 快 次

目 次

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯

1. 調査に至る経過…………… 1
2. 調査の体制…………… 2

第2節 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境…………… 2
2. 歴史的環境…………… 2

第3節 報告書作成にあたって

1. 府内古図と御蔵場周辺…………… 3
2. 本書で使用する中世大友城下町跡出土の土師質土器編年 …… 3
3. 整理作業の経過…………… 3

第2章 中世大友府内町跡第36次調査区

- 第1節 調査区の設定…………… 5
 - 第2節 遺構の概要と基本層序…………… 5
 - 第3節 近世の遺構と遺物…………… 5
 - 第4節 中世の遺構と遺物…………… 18
- 府内町跡第36次調査遺物観察表 …… 142

第3章 中世大友府内町跡第55次調査区

- 第1節 遺構の概要と基本層序…………… 163
 - 第2節 近世の遺構と遺物…………… 167
 - 第3節 中世の遺構と遺物…………… 167
- 府内町跡第55次調査遺物観察表 …… 248

第4章 中世大友城下町跡第36次調査区出土の動物遺体

- 中世大友城下町跡第36次調査区出土の動物遺体一覧表 …… 258

第5章 まとめ

- 第36次・第55次調査結果について…………… 259
- 写真図版…………… 265

挿図目次

第36次調査図版目次

第1図	調査区位置図	4	第69図	SK37 出土遺物実測図	65
第2図	第36次・55次調査区位置と方眼	5	第70図	SX54・SK55 実測図	66
第3図	調査区南壁層序図	8	第71図	SK53・SX54 出土遺物	66
第4図	調査区内南北断面図	9	第72図	SK55 出土遺物実測図	67
第5図	全体図①	10	第73図	SK69 実測図	68
第6図	桂穴類の番号 (SP)	11	第74図	SK69 出土遺物実測図	69
第7図	SK1・SK25・SK29・SK32・SK33 実測図	12	第75図	SD80 実測図	70
第8図	SK1・SK2・SK39 出土遺物実測図	13	第76図	SK85 実測図	71
第9図	SK2 実測図	13	第77図	S85～S108 出土遺物実測図	72
第10図	SK31 実測図	14	第78図	SD80 出土遺物実測図	73
第11図	SK31 出土遺物実測図	14	第79図	SK81・SK82 出土遺物実測図	73
第12図	SK4 実測図	15	第80図	SK75～77 実測図	74
第13図	SK4 出土遺物実測図	15	第81図	SD110～112・SK114・117 出土遺物実測図	75
第14図	SK3・SK5 実測図	16	第82図	SK56・SK57 実測図	76
第15図	SK3 出土遺物実測図	16	第83図	SK58 出土遺物実測図	76
第16図	SD7・SD8・SK43 出土遺物実測図	17	第84図	SK48・SK49・SK60 実測図	77
第17図	SE10 実測図	19	第85図	SK47 実測図	77
第18図	SE10 側面見通図	20	第86図	SK45 出土遺物実測図	77
第19図	SE10 縦割見通図	21	第87図	SE59 実測図	78
第20図	SE10 出土実測図	22	第88図	SE59 出土遺物実測図	79
第21図	SE10 出土遺物実測図	23	第89図	SK60～62 出土遺物実測図	80
第22図	SE10 出土遺物実測図	24	第90図	SK49 出土遺物実測図	81
第23図	SE14 出土縦断面見通図	25	第91図	SX65 出土遺物実測図	82
第24図	SE14 平面図・断面図	26	第92図	SK58・SK70 実測図	83
第25図	SE14 側面見通図・下部平面図	27	第93図	SK70・71・41 の下位出土遺物実測図	84
第26図	SE14 出土遺物実測図	28	第94図	SK72 出土遺物実測図	85
第27図	SE14 出土遺物実測図	29	第95図	SK72 実測図	85
第28図	SE14 出土遺物実測図	30	第96図	SK72 出土遺物実測図	86
第29図	SK12 実測図	31	第97図	SK72 出土遺物実測図	87
第30図	SK12 出土遺物実測図	31	第98図	SK72 出土遺物実測図	88
第31図	SX41 遺構及び出土遺物実測図	32	第99図	SK73 実測図	89
第32図	道路SF1 平面図	33	第100図	SK75・76 出土遺物実測図	89
第33図	SK18 実測図	34	第101図	SK78・SK88 実測図	90
第34図	SK67 実測図	34	第102図	SK79 実測図	91
第35図	SK18 出土遺物実測図	35	第103図	SK79 出土遺物実測図	91
第36図	SK18 出土遺物実測図	36	第104図	SX66 出土遺物実測図	92
第37図	SK18 出土遺物実測図	37	第105図	SD109 実測図	93
第38図	SK26 実測図	38	第106図	SD109 出土遺物実測図	94
第39図	SK26 出土遺物実測図	38	第107図	SD109 出土遺物実測図	95
第40図	SK26 出土遺物実測図	39	第108図	SK114・SK118・SD110 実測図	96
第41図	SK51 実測図	40	第109図	SK118 出土遺物実測図	97
第42図	SK51 出土遺物実測図	41	第110図	SK118～120 出土遺物実測図	98
第43図	SK51 出土遺物実測図	42	第111図	柱穴出土遺物実測図	99
第44図	SK20 遺構及び出土遺物実測図	44	第112図	柱穴実測図	100
第45図	SE24 上部礫出土状況・井戸側検出平面図	45	第113図	柱穴出土遺物実測図	101
第46図	SE24 土層図・井戸側側面図	46	第114図	包含層出土遺物実測図	102
第47図	SE24 出土遺物実測図	47	第115図	包含層出土遺物実測図	103
第48図	SE24 出土遺物実測図	48	第116図	包含層出土遺物実測図	104
第49図	SE24 出土遺物実測図	49	第117図	包含層出土遺物実測図	105
第50図	SE24 出土遺物実測図	50	第118図	包含層出土遺物実測図	106
第51図	SK27・SK29 出土遺物実測図	51	第119図	包含層出土遺物実測図	107
第52図	SK30 実測図	52	第120図	包含層出土遺物実測図	108
第53図	SK30 出土遺物実測図	52	第121図	包含層出土遺物実測図	109
第54図	SK34 実測図	53	第122図	包含層出土遺物実測図	110
第55図	SK34 出土遺物実測図	53	第123図	包含層出土遺物実測図	111
第56図	SK34 出土遺物実測図	54	第124図	包含層出土遺物実測図	112
第57図	SK34 出土遺物実測図	55	第125図	包含層出土遺物実測図	113
第58図	SK34 出土遺物実測図	56	第126図	包含層出土遺物実測図	114
第59図	SK34 出土遺物実測図	57	第127図	包含層出土遺物実測図	115
第60図	SK35・SX36 実測図	58	第128図	包含層出土遺物実測図	116
第61図	SK35・SX36・SK37 出土遺物実測図	59	第129図	包含層出土遺物実測図	117
第62図	SK38 実測図	60	第130図	包含層出土遺物実測図	118
第63図	SK38 出土遺物実測図	61	第131図	包含層出土遺物実測図	119
第64図	SK38・SK40 出土遺物実測図	62	第132図	包含層出土遺物実測図	120
第65図	SK63・SK64 出土遺物実測図	63	第133図	包含層出土遺物実測図	121
第66図	SK52 実測図	63	第134図	包含層出土遺物実測図	122
第67図	SK51・SK52 出土遺物実測図	64	第135図	包含層出土遺物実測図	123
第68図	SK37 実測図	65	第136図	包含層出土遺物実測図	124
			第137図	包含層出土遺物実測図	125

第 138 図	包含層出土遺物実測図	126
第 139 図	包含層出土遺物実測図	127
第 140 図	包含層出土遺物実測図	128
第 141 図	包含層出土遺物実測図	129
第 142 図	包含層出土遺物実測図	130
第 143 図	包含層出土遺物実測図	131
第 144 図	包含層出土遺物実測図	132
第 145 図	包含層出土遺物実測図	133
第 146 図	包含層出土遺物実測図	134

第 147 図	包含層出土遺物実測図	135
第 148 図	包含層出土遺物実測図	136
第 149 図	銭貨	137
第 150 図	銭貨	138
第 151 図	銭貨	139
第 152 図	銭貨	140
第 153 図	銭貨	141

第 55 次調査図版目次

第 1 図	第 55 次調査区地形図	163
第 2 図	第 55 次調査区西壁実測図 (1/60)	167
第 3 図	調査区南・北壁図	168
第 4 図	近世耕作痕	169
第 5 図	近世遺構出土遺物	169
第 6 図	遺構配置図 1・遺物分布図	170
第 7 図	SD51 実測図	171
第 8 図	SD51 出土遺物実測図	172
第 9 図	SD51 出土遺物実測図	173
第 10 図	SK105 実測図	174
第 11 図	SK105 出土遺物実測図	174
第 12 図	SE107 検出面実測図	175
第 13 図	SE107 出土遺物実測図	175
第 14 図	SK96 実測図	176
第 15 図	SK96 出土遺物実測図	176
第 16 図	SX46 実測図	177
第 17 図	SK106 実測図	177
第 18 図	SK45～67 出土遺物実測図	178
第 19 図	SX99 実測図	179
第 20 図	SX99 出土遺物実測図	179
第 21 図	SK113 実測図	179
第 22 図	SK127 実測図	180
第 23 図	SK127 出土遺物実測図	180
第 24 図	SK135 他出土遺物実測図	181
第 25 図	SK182 他出土遺物	181
第 26 図	SD263 実測図	182
第 27 図	SK218 実測図	183
第 28 図	SK174・198・201・218 出土遺物実測図	183
第 29 図	SK223 実測図	184
第 30 図	SK223 出土遺物実測図	184
第 31 図	SK69 実測図	185
第 32 図	SK69 出土遺物実測図	186
第 33 図	SD53・SK80 実測図	187
第 34 図	SK80 土層図	188
第 35 図	SK80 断面図	189
第 36 図	SK53・SK80 出土遺物実測図	190
第 37 図	SK139・SK140 出土遺物実測図	191
第 38 図	SD120 実測図	192
第 39 図	SD120 出土遺物実測図	192
第 40 図	SK139・SK140 実測図	193
第 41 図	SK164 実測図	194
第 42 図	SK164 出土遺物実測図	194
第 43 図	SK164 出土遺物実測図	195
第 44 図	SK130 実測図	196
第 45 図	SK130 出土遺物実測図	196
第 46 図	SK191 実測図	197
第 47 図	SK191 出土遺物実測図	197
第 48 図	SP169 実測図	198
第 49 図	SK129・SP133・134 実測図・SP134 出土遺物	198
第 50 図	SK200 実測図・出土遺物実測図	199
第 51 図	SK141・142・144	200
第 52 図	SK108 出土遺物実測図	200
第 53 図	SP257 実測図	201
第 54 図	SP257・SP211 出土遺物実測図	201
第 55 図	SK210 実測図	201
第 56 図	SX100 実測図	202
第 57 図	SX100 出土遺物実測図	202
第 58 図	SK157・SK174 実測図	203
第 59 図	SK148 実測図	204
第 60 図	SK148 出土遺物実測図	204
第 61 図	SK157 出土遺物実測図	205
第 62 図	SE104 実測図	206

第 63 図	SE104 出土遺物実測図	207
第 64 図	遺構配置図 2	208
第 65 図	SK225 実測図	208
第 66 図	SP224 出土遺物	209
第 67 図	SK225 出土遺物実測図	209
第 68 図	SK259 実測図	210
第 69 図	SE188 実測図	210
第 70 図	SE188 出土遺物実測図	211
第 71 図	SE188 出土遺物実測図	212
第 72 図	SK245 実測図	213
第 73 図	SK246 実測図	214
第 74 図	SK245・SK246 出土遺物実測図	214
第 75 図	SK258 実測図	215
第 76 図	SK258 出土遺物実測図	215
第 77 図	SK183 出土遺物実測図	215
第 78 図	SK230・SK240・SK249 実測図	216
第 79 図	SK240 出土遺物実測図	217
第 80 図	SE85 実測図	218
第 81 図	SE85 出土遺物実測図	219
第 82 図	SE85 出土遺物実測図	220
第 83 図	SE85 出土遺物実測図	221
第 84 図	SE85 出土遺物実測図	222
第 85 図	SE186・SK183 実測図	223
第 86 図	SE184・186 出土遺物実測図	224
第 87 図	SP265 実測図	225
第 88 図	SP265 出土遺物実測図	225
第 89 図	SK229 実測図	226
第 90 図	SK229 出土遺物実測図	226
第 91 図	SD260・261・267 実測図	227
第 92 図	SD260 出土遺物実測図	228
第 93 図	SD267 実測図	228
第 94 図	SP201・232 SP235 出土遺物実測図	229
第 95 図	最下層の遺構	229
第 96 図	包含層出土遺物実測図	230
第 97 図	包含層出土遺物実測図	231
第 98 図	包含層出土遺物実測図	232
第 99 図	4 層出土遺物実測図	233
第 100 図	包含層出土遺物実測図	234
第 101 図	4 層出土陶磁器	235
第 102 図	4 層出土遺物実測図	236
第 103 図	4 層出土遺物実測図	237
第 104 図	4 層出土鉄製品実測図	238
第 105 図	4 層出土遺物実測図	239
第 106 図	4 層出土遺物実測図	240
第 107 図	4 層その他出土遺物実測図	241
第 108 図	5 層出土遺物実測図	242
第 109 図	6 層出土遺物実測図	243
第 110 図	6 層出土遺物実測図	244
第 111 図	包含層出土遺物実測図	245
第 112 図	番号採上遺物実測図	246
第 113 図	6 層出土遺物実測図	247

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯

1. 調査に至る経過

発掘調査の発端となった庄の原佐野線は、高速道路の大分道の椎迫出入口（庄の原にある）から東に向かって直線的に延びた路線であり、大分駅付近連続立体交差事業に伴って建設工事が実施されている。現在、国道10号と直交する地点までの工事を来年度までに行うことが決定している。今後の予定としては、名称が示すとおり大分川を越え古代大分郡衙（今でいう大分市役所）所在地に想定されている下郡の平野地帯を抜け、明野丘陵に上りさらに大分市東部の佐野に至る予定である。

路線は国道10号に合流する直前に中世豊後の中心都市であった府内を通過する。中世末期に豊後守護であった大友氏が廃された際に当時の城下町も捨てられ、別の場所に近世の城下町が作られたのが現在の大分市街地の始まりであった。第二次大戦中の空撮写真をみると、近世城下町の東南部外側に郊外の耕作地帯として存在するのが豊後府内町のあった場所である。戦後は建物も多く見られるようになった。庄の原佐野線と中世大友府内町跡の位置関係は、近世初頭に描かれた「府内古図」によれば御蔵場南端部およびその西側から東南側に該当する。「府内古図」は中世末期の状況を回想した地図であり、それ以前の府内の状態は示されていない。最近の発掘調査によれば中世末期以前にはその後埋められた多数の堀があったことが分かってきたが、絵図には描かれていない。

以上のように庄の原佐野線は中世大友府内町跡と重複するため、大分県教育委員会は大分県土木建築部と協議を行い工事に先立ち発掘調査を実施することとなった。

大分駅付近連続立体交差事業に伴う大分県教育委員会による中世大友城下町跡の発掘調査は、平成11（1999）年8月から始まった。また、国土交通省も城下町跡を南北に貫いて国道10号の拡幅と一部路線変更した国道10号古国府拡幅事業を平成12（2000）年度から本格的に実施しており、これにも大分県教育委員会が対応し発掘調査を重ねている。県とは別に大分市教育委員会も民間開発や大友氏館跡と万寿寺跡の史跡指定のため中世大友城下町跡の発掘調査を実施してきており、調査個所の混同を回避し遺跡の理解を容易にするため県市を越えて一連の調査次数を付している。中世大友城下町跡を性格によって二分し遺跡全体は「中世大友城下町跡」とし、中心部にあった大友氏の館跡を「大友氏館跡」、周辺の町屋部分と御蔵場等を「中世大友府内町跡」と区別している。

現在までに実施した庄の原佐野線が関連する御蔵場周辺の発掘調査は、今回報告する平成14（2003）年10月から平成15（2004）年3月に調査した府内町跡第36次調査と、平成16（2005）年5月から平成17（2006）年10月に調査した府内町跡第55次調査である。このほか今回調査場所に直接隣接する調査例には、第41次調査（2005年度）・第69次調査（2006年度）・第75次調査（2006年度）・第77次調査（2007年度）がある。なお現地調査にあたり、発掘作業員を含んだ調査支援委託を第69次調査・第75次調査・第77次調査に導入した。

第36次調査区は庄の原佐野線の道路下に埋設する金池放水路部分にあたり、工事の中では先行して行う必要があった。その年度はJR久大本線高架化に伴う中世大友府内町跡第31次調査区の調査を年度前半に行ない、その調査終了後、幅40m程度ある庄の原佐野線の南部に幅8mで設定した第36次調査区を調査した。

発掘調査と工事との関係について触れれば、原則的に工事予定地が県によって買収されることにより調査が可能になった時点で発掘調査を実施してきた。2007（平成19）年10月には、工事計画

が確定している場所におけるすべての現地発掘調査を終了した。今後は今回報告していない調査個所の報告が残されている。

2. 調査の体制

大分駅付近連続立体交差事業に伴う中世大友城下町跡の発掘調査、国土交通省による国道10号関係の発掘調査に加え、この遺跡中心部には「大友氏館跡」も想定されており、1999（平成11）年度からは国指定史跡化のために範囲や性格を把握するため確認調査が大分市教育委員会が実施されている。このように大規模な事業が重要遺跡に近接して実施される状態であるため、事業と遺跡保存の調整が行われる場面も想定できることから県及び市教育委員会では文化庁と協議して調査指導者会を開催することとした。2000（平成12）年度から大分県教育委員会と大分市教育委員会とが各1回主体となって年2回開催し、指導者会の指導を受けながら調査を実施して現在に至った。

本書に報告する2003（平成15）・2005（平成17）年に発掘調査した府内町跡第36次・第55次調査は以下の体制で調査した。役職名は調査当時のものである。

調査指導者 河原純之（千葉大学文学部教授）
 後藤宗俊（別府大学文学部教授）
 小野正敏（国立歴史民俗博物館教授）
 坂井秀弥（文化庁記念物課文化財担当調査官）

2003（平成15）年度

大分県教育庁文化課

課長 今永一成
 参事兼課長補佐 麻生祐治

大型事業担当

主幹 高橋信武
 嘱託 細川愛
 嘱託 生野令子

2005（平成17）年度

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所長 渋谷忠章
 調査第一課長 栗田勝弘

大型事業担当

主幹 高橋信武
 嘱託 河原英明

第2節 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

調査区が位置するのは大分川下流域である。流域左右には標高約100m以下の段丘地形が展開する。左岸には上野丘丘陵がありその西側にはやや高い庄の原面がある。右岸の明野台地は西が高く、東に向かって段々下がる段丘地形である。これらは120万年位前海底に堆積した層が海面上昇に伴う大分川と大野川の下刻により複数の段丘面として形成されたものである。

2. 歴史的環境

現在の大分市市街地は近世初頭に新設された城下町に由来する。鎌倉時代以来豊後国を支配した大友氏は豊臣秀吉のために除国されてしまう。中世後半の下剋上を生き延びた我が国でも数少ない守護大名大友氏は薩摩の島津氏のように近世にまで続くことはできなかった。替わって入国した福

原氏は大友時代の城下町よりも海岸寄り、かつ西側に府内城（別名荷揚城と言うのは海岸から荷揚げできるという意）を造り、それに伴い内陸側に城下町を造った。府内城は石垣を多用し、本丸を中心に二の丸、三の丸を廻らせ防禦に意を注いだ縄張りである。城下町の周囲は外側とは堀で区画し、出入口は数カ所に限定されていた。明治三十年代に初めて作られた五万分の一図でも、当時の市街地は城下町の範囲に止まっている。大分駅は城下町の南側にあたり、駅前広場の北方を東西に走る外堀通りが府内城下町の南を画する堀跡である。したがって現在の府内城跡は大友時代とは無関係の存在である。

大友時代の城下町は中世末期の島津侵攻による大火（1586年）で焼け、以後放棄されたと思われるが、最近の発掘調査では火事以前の道筋を踏襲し少なくとも一部で復興していたことが分かってきた。島津侵攻大火の焼土面に切り込んで溝や柱穴が一部の調査区で見つかっている。大友時代の城下町の状況はキリスト教の宣教師が残した記録に断片的に現れている。しかし、当時描かれた地図は存在しない。大友時代を示すものとして知られている「府内古図」は江戸初期に描かれたとされている。それでも島津侵攻前の府内の記憶が写されているのは疑いない。

第3節 報告書作成にあたって

1. 府内古図と御蔵場周辺

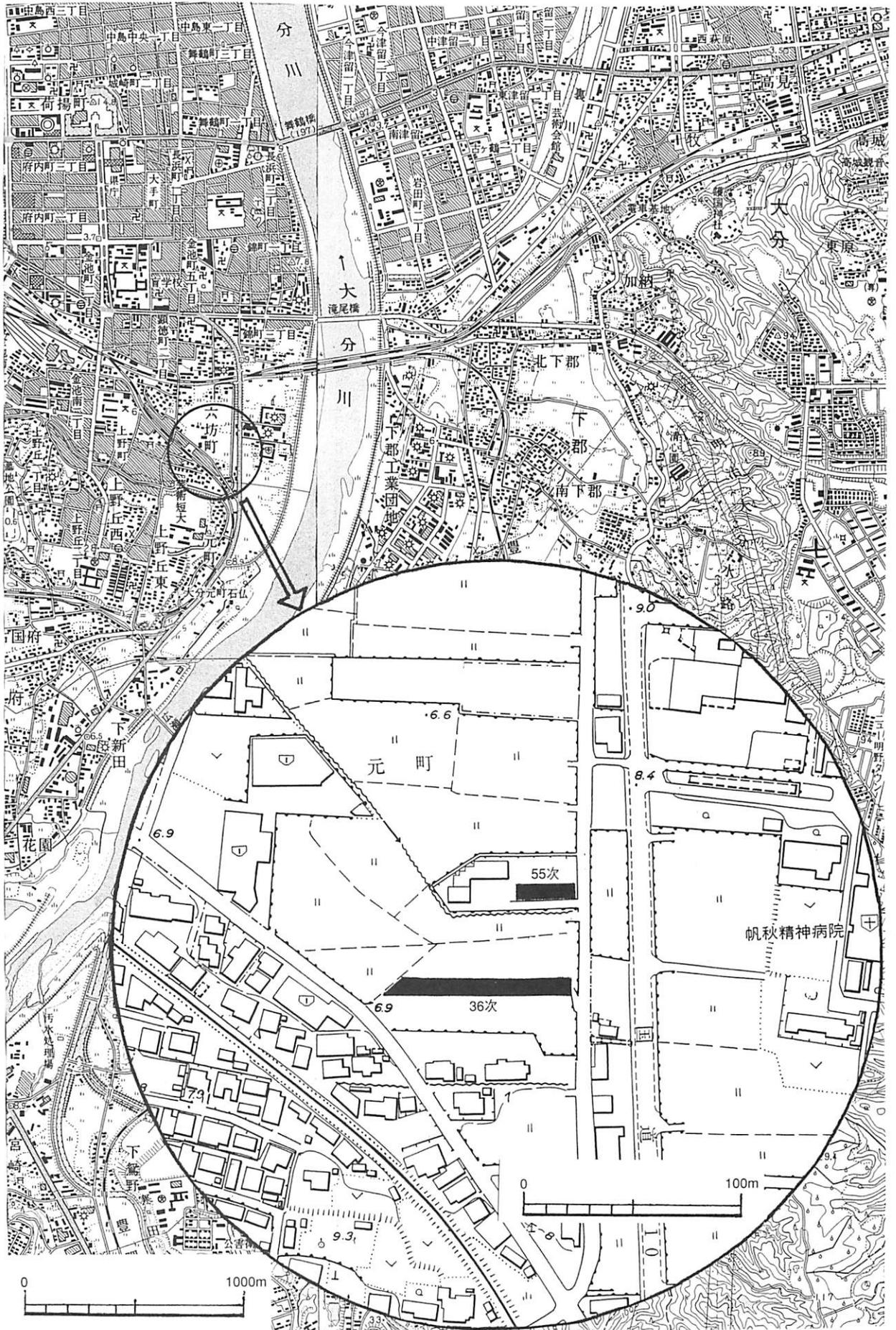
中世末の府内を近世初頭に描いたとされる「府内古図」の研究によれば、同図の成立年代は1634年を遡らず、古い方からA類→B類→C類と分類されている。1980年代後半に編集された「大分市史」では同図を現地に比定する作業が行われている。それによれば今回報告する第55次調査区は市史の想定では御蔵場の東南端部に、第36次調査区はその外側の道路・「魚之店」・「ノコギリ町」に該当する。ただし、御蔵場の名称は一番新しいC類にしか記載されていない点の背景は不明である。「府内古図」には東西方向の道路のほかに南北方向の道路が4本描かれている。このうち東から二番目の南北道路は市史では二之大路と仮称されているが、大友関連のほかの発掘調査報告書にならない第2南北街路を使用する。

2. 本書で使用する中世大友城下町跡出土の土師質土器編年

遺構の時期を判断するに際し主に土師質土器を用いることになるが、本書ではこれまでに出版された中世大友城下町跡の発掘調査報告書や京都系土師器に関する研究を踏襲することにする。中国製陶磁器類・備前焼等については、例言で触れたとおりである。

3. 整理作業の経過

中世大友府内町跡第36次調査区と第55次調査区の整理作業は2007年度におこなった。報告する遺物はほとんど埋蔵文化財センターの整理補佐員が実測図を作成したが、陶磁器類のうち第55次調査区の一部は（株）岡三リビックに、第36次調査区は（有）九州文化財リサーチに委託した。整理作業のうち、水洗・注記・接合の基礎作業は第36次調査区を石井蓉子・岩本真由美・河野清美・吉田ひとみが、第55次調査区を安部典子・石井蓉子・今別府洋・田端里美・姫野真知子がおこなった。実測図作成作業と同製図作業は第36次調査区を赤嶺博美・小野千恵美・田嶋智子・西嶋スミエが、第55次調査区は麻生廣美・安部明美・上杉里枝子・上田はるみ・大嶋のぞみ・金丸涼子・佐藤 綾・松本ひとみが分担した。陶磁器類については吉田寛の教示を得た。現地での遺構実測は調査員のほか、（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。



第1図 調査区位置図

第2章 中世大友府内町跡第36次調査区

第1節 調査区の設定

発掘および遺構実測・遺物採上げにおいては、旧国土地標軸に基づいた10m方眼で調査区を区画した。この方眼は周辺の中世大友城下町跡発掘調査と共通のもので、南北にアルファベットを、東西に二桁のアラビア数字を用い、例えばX64区・Y65区というようにした。

第2節 遺構の概要と基本層序

調査区南壁の層序を基に調査区全体の基本層序を説明する。

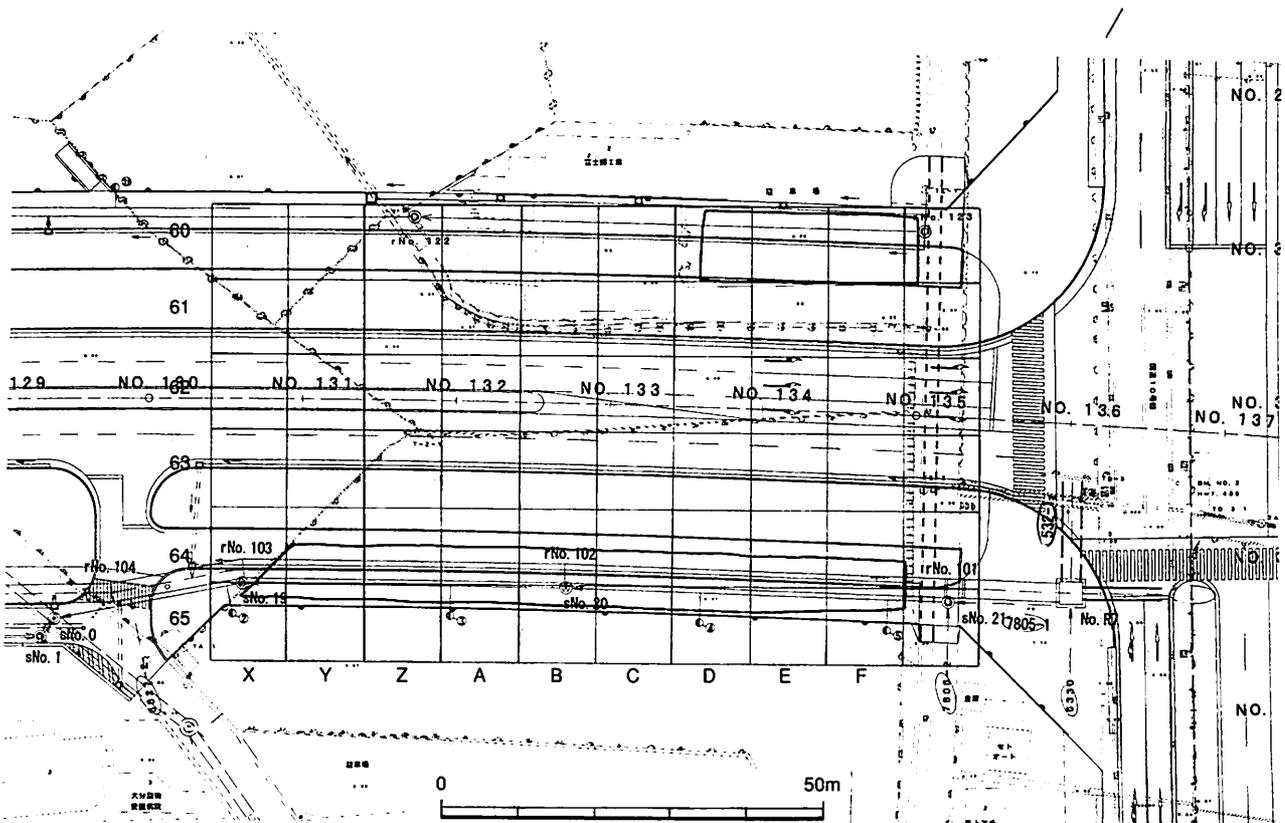
現耕作土：調査着手時点で調査区の表土は南側の耕作地に運ばれていた。そのため南側耕作地は嵩上げされている。旧地主によれば野菜を栽培し、ある程度成長した時点で斜め方向に成長度合いが異なる線状の場所が例年現れたという。この部分では中世の砂利敷き道路路面を検出した。

焼土層：現地は近世以降は水田として利用されており、市街地近郊地として開発が進んだのは近年のことである。水田床土の高さでは焼土が混入しており、主に1586年の島津侵攻による火災の痕跡である。中世の遺構はこの面に掘り込まれるものが最後で、これより下層に50cm前後が中世の遺構が重複して存在する。

遺構番号の少ない順に図版を並べたので、時間的には前後する場合があることを断っておきたい。

第3節 近世の遺構と遺物

この節でとり上げるのは、中世府内町が近世府内城下町に移転した後の遺構と遺物である。調査

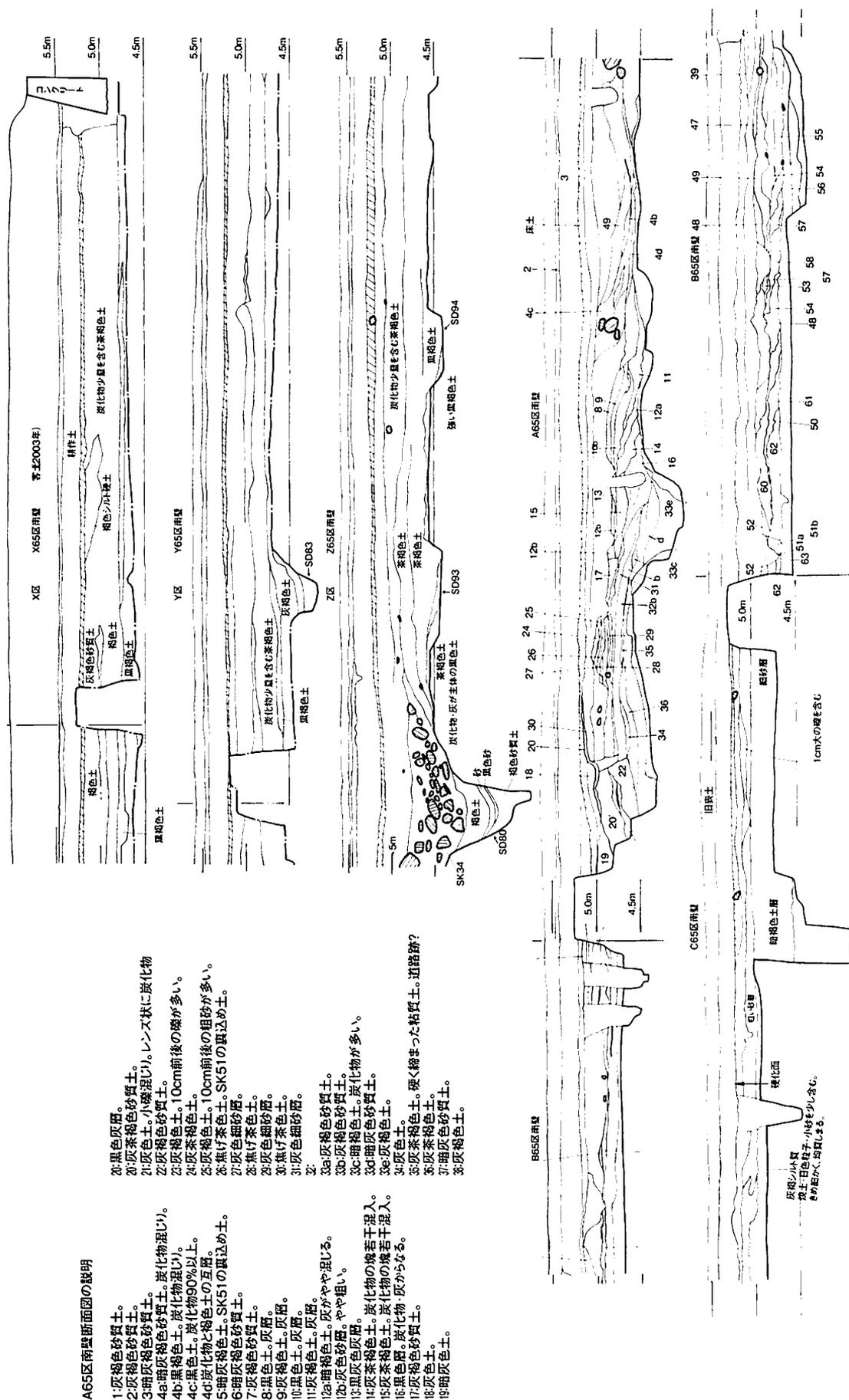


第2図 第36次・55次調査区位置と方眼

第36次調査区遺構一覧表

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の 性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項
SF1		道	C・D区	16世紀	青花
SK1	S1	土坑	F64区	近世	14・16世紀土師器、古伊万里
SK2	S2	土坑	A65区	近世	
SK3	S3	土坑	A65区	近世	陶胎染付
SK4	S4	土坑	B64区	近世	唐津系陶器・タイ製四耳壺
SK5	S5	土坑	A65区		
SK6	S6	土坑	B64区		焼土の詰まった穴
SD7	S7	溝	F65区		肥前系磁器碗
SD8	S8	溝	D64区		
SK9	S9	土坑	B64区		
SE10	S10	井戸	E65区	16世紀末葉以降	六角形石組・桶材・食膳用台
SD11	S11	溝	F65区		
SK12	S12	土坑	Y65区	16世紀末葉以降	天目碗・埴塼・埴瓦
SD13	S13		D64区		SD8に切られる
SE14	S14	井戸	Z64区	16世紀末葉以降	六角形石組・備前焼・風炉・木製品
SD15	S15		F65区		
SD16	S16	溝	F65区		
SK17	S17	土坑	E64区		
SE18	S18	井戸	D64区	16世紀末葉以降	埴塼・青銅製品・平瓦
SK19	S19	土坑	B65区		
SD20	S20	溝	D65区	16世紀中葉～後葉	土錘・瓦質火鉢・土師器・鉄釘
	S21		D65区		
SK22	S22	土坑	B64区		
SK23	S23	土坑	Z64区		
SE24	S24	井戸	A64区	16世紀中葉～後葉	井戸側は桶。漆器椀
SK25	S25	土坑	F64区	近世	
SK26	S26	土坑	B64区	16世紀末葉以降	石臼・瓦質火鉢・青花
SK27	S27	土坑	B64区	16世紀末葉以降	赤間石製硯
	S28		B64区		
SK29	S29	土坑	F64区	近世	
SK30	S30	土坑	Y64区	16世紀中葉～後葉	石臼がSK72のものと同接合
SK31	S31	土坑	F64区	近世	青花皿
SK32	S32	土坑	F65区	近世	
SK33	S33	土坑	F64区	近世	
SK34	S34	土坑	Z65区	16世紀中葉～後葉	埴塼8点・鞠の羽口
SK35	S35	土坑	A64区	16世紀中葉～後葉	天目碗
SK36	S36	土坑	B64区	16世紀中葉～後葉	景徳鎮青花
SK37	S37	土坑	B65区	近世	内野山窯皿
SK38	S38	土坑	B64区	16世紀中葉～後葉	砥石・石臼・埴瓦
SX39	S39	土坑	B64区	近世	礫の小集中
SK40	S40	土坑	D64区		
SX41の下	S41の下		D65区	14世紀中葉～後葉	
SX41	S41		D65区	16世紀末葉以降	京都系土師器
SD42a	S42	溝	Y65区		
SD42b	S42	溝	Y65区	16世紀前葉～中葉	
SD42c	S42	溝	Y65区	16世紀前葉～中葉	
SD43	S43	溝	X65区	16世紀前葉～中葉	
SP44	S44	柱穴	E64区		
SK45	S45	土坑	E64区	16世紀中葉～後葉	常滑焼
SK46	S46	土坑	E65区		
SK47	S47	土坑	E65区	16世紀前葉～中葉	なし
SK48	S48	土坑	F65区	16世紀中葉～後葉	遺物なし
SK49	S49	土坑	F65区	14世紀中葉～後葉	
SK50	S50	土坑	E65区		
SK51	S51	土坑	A65区	16世紀末葉以降	京都系土師器・風炉・石臼・束播系
SK52	S52	土坑	B65区	16世紀末葉以降	風炉・備前交叉揺目播鉢
SK53	S53	土坑	E65区		
SX54	S54		B64区	16世紀前葉～中葉	京都系土師器皿二枚重ね
SK55	S55	土坑	B64区	16世紀末葉以降	タイ製四耳壺・近世1b期備前播鉢
SD56	S56	溝	C65区	14世紀前葉	礫の詰まった穴
SK57	S57	土坑	C65区	16世紀末葉以降	礫の詰まった穴
SK58	S58	土坑	C65区	16世紀末葉以降	瓦質土器の皿
SK59	S59	土坑	D64区	14世紀中葉～後葉	
SK60	S60	土坑	F65区	14世紀中葉～後葉	
SK61	S61	土坑	E64区	16世紀中葉～後葉	備前焼播鉢

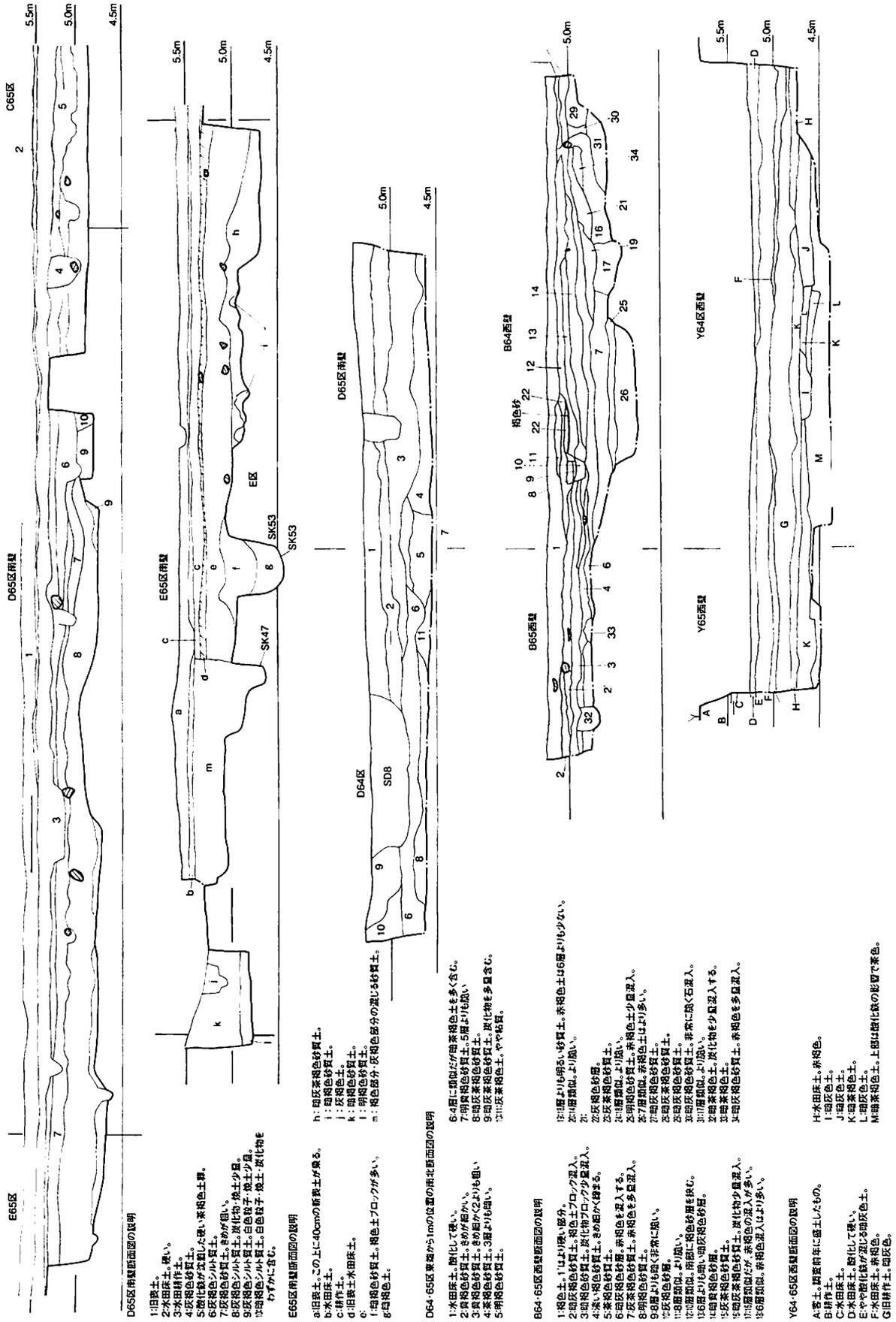
本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の 性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項
SK62	S62	土坑	B64区	16世紀末葉以降	天草砂岩製砥石
SK63	S63	土坑	C65区	16世紀末葉以降	京都系土師器・瓦質鍋
SK64	S64	土坑	B64区		
SK65	S65	土坑	D64区	14世紀前葉	
SK66	S66	土坑	D64区	13世紀	吉備系土器
SK67	S67	土坑	C64区	16世紀末葉以降	遺物なし
SX68	S68		D64区		灰層
SK69	S69	土坑	C64区	16世紀前葉～中葉	丸瓦
SK70	S70	土坑	C65区	16世紀末葉以降	備前焼壺
SK71	S71	土坑	Y64区	16世紀前葉～中葉	高麗青磁
SK72	S72	土坑	Z64区	16世紀中葉～後葉	石臼・瓦
SK73	S73	土坑	C64区	16世紀前葉～中葉	遺物なし
SD74	S74	溝	C65区		
SK75	S75	土坑	A64区	16世紀中葉～後葉	土師器
SK76	S76	土坑	A64区	15世紀後葉	
SK77	S77	土坑	A64区	15世紀後葉	
SK78	S78	土坑	A64区	16世紀中葉～後葉	遺物なし
SK79	S79	土坑	Z64区	16世紀中葉～後葉	京都系土師器
SD80	S80	溝	Z64区	16世紀前葉～中葉	土師器・瓦質火鉢
SK81	S81	土坑	Z64区		
SK82	S82	土坑			
SD83	S83	溝	Y65区	15世紀末葉～16世紀中葉	
SK84	S84	土坑	Y64区		
SK85	S85	土坑	A65区	16世紀前葉～中葉	
SK86	S86	土坑	Y64区		
SK87	S87	土坑	Y64区		
SK88	S88	土坑	A64区	16世紀中葉～後葉	漳州窯青花碗
SD89	S89	溝	Y65区		
SD90	S90	溝	Y64区		
SX91	S91		D64区区	14世紀前葉前後	
SD92	S92	溝	Z64区		
SD93	S93	溝	Z65区		
SD94	S94	溝	Z65区		
	S95		Z65区		
SD96	S96	溝	Y64区		
SD89	S97	溝	Y65区	14世紀中葉～後葉	SD89と番号重複
SD98	S98	溝	Y64区		
SD99	S99	溝	Y64区		
SK100	S100	土坑	A65区		
SK107	S107	土坑	Y64区		
SD108	S108		C64区		
SD109	S109	溝	C65区	13世紀	亀山焼・瓦質鍋
SD110	S110	溝	C64区	15世紀後葉	
SD111	S111	溝	C64区		
SD112	S112	溝	C65区	15世紀後葉	
SD113	S113	溝	B64区		
SK114	S114	土坑	C64区		
SD115	S115	溝	C64区		
SK116	S116	土坑	B64区		
SD117	S117	溝	C64区		
SK118	S118	土坑	C64区	13世紀	青磁鍋蓋弁紋碗
SP119	S119	柱穴	D65区		
SD120	S120	溝	C65区		
SD121	S121	溝	C64区	15世紀後葉	
SD122	S122	溝	D65区		



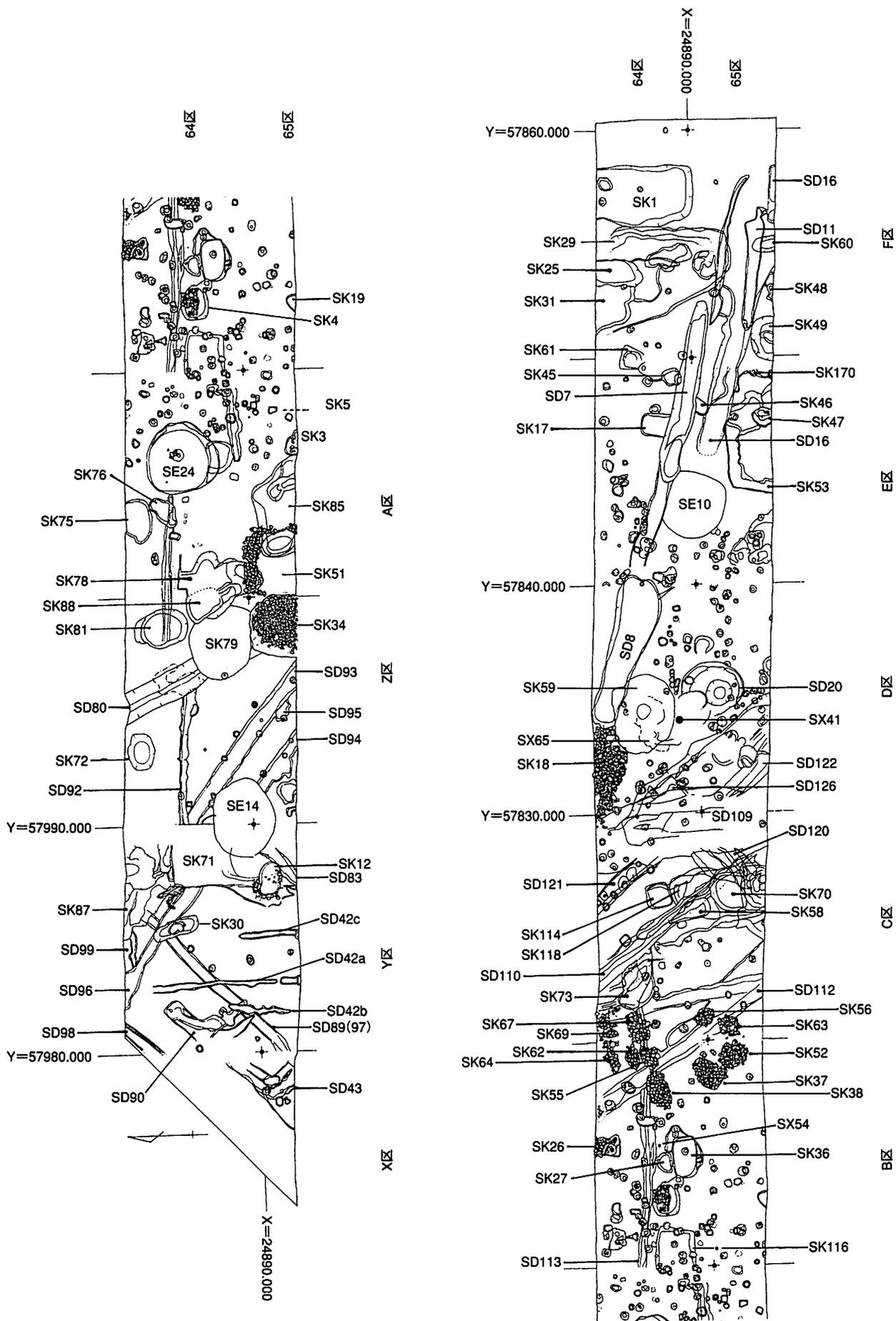
A65区南壁断面図の説明

- 1: 灰褐色砂質土。
- 2: 灰褐色砂質土。
- 3: 暗灰褐色砂質土。
- 4a: 暗灰褐色砂質土。炭化物混じり。
- 4b: 黒褐色土。炭化物混じり。
- 4c: 黒褐色土。炭化物90%以上。
- 4d: 炭化物と褐色土の互層。
- 5: 暗灰褐色土。SK51の裏込め土。
- 6: 暗灰褐色砂質土。
- 7: 灰褐色砂質土。
- 8: 黒褐色土。灰層。
- 9: 灰褐色土。灰層。
- 10: 黒褐色土。灰層。
- 11: 灰褐色土。灰層。
- 12a: 暗褐色土。灰がやや混じる。
- 12b: 灰褐色土。やや粗い。
- 13: 重灰褐色土。炭化物の焼至干混入。
- 14: 暗茶褐色土。炭化物の焼至干混入。
- 15: 灰褐色土。炭化物・灰からなる。
- 16: 黒褐色土。炭化物・灰からなる。
- 17: 灰褐色砂質土。
- 18: 灰褐色土。
- 19: 暗灰褐色土。
- 20: 灰褐色土。
- 21: 灰褐色土。硬く締まった粘質土。道路跡?。
- 22: 灰褐色土。
- 23: 灰褐色土。
- 24: 灰褐色土。
- 25: 灰褐色土。
- 26: 灰褐色土。
- 27: 灰褐色土。
- 28: 灰褐色土。
- 29: 灰褐色土。
- 30: 灰褐色土。
- 31: 灰褐色土。
- 32: 灰褐色土。
- 33a: 灰褐色砂質土。
- 33b: 灰褐色砂質土。
- 33c: 暗褐色土。炭化物が多い。
- 33d: 暗褐色砂質土。
- 33e: 灰褐色土。
- 34: 灰褐色土。
- 35: 灰褐色土。
- 36: 灰褐色土。
- 37: 暗灰褐色土。
- 38: 暗灰褐色土。
- 39: 暗灰褐色土。

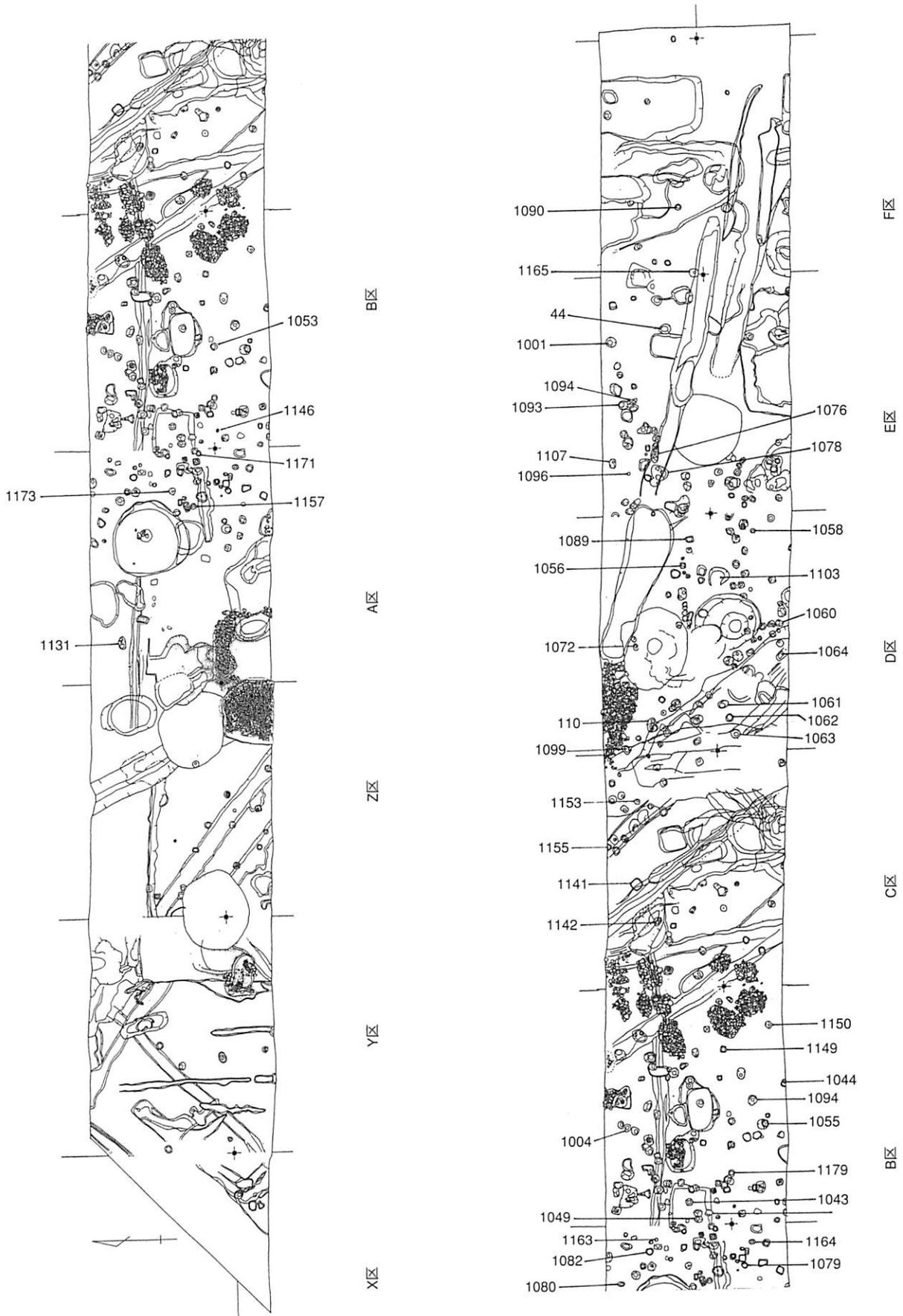
図3 調査区南壁断面図



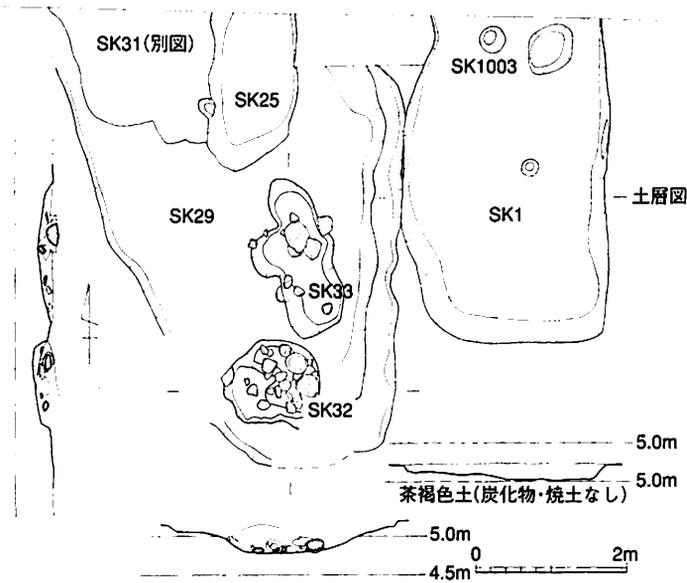
第4図 調査区内南北断面図



第5図 全体図①



第6図 柱穴類の番号 (SP)



第7図 SK1・SK25・SK29・SK32・SK33 実測図

区全体に中世層の上に水田床土が分布するので、近世には水田として利用されていたものと思われる。近世・中世の遺物を含む遺構を標高5.2m前後で検出したSK1・2・24・25・29・31～33・37・39。同一場所で繰り返し掘り返した状態である。溝状遺構SD7・8・15・16もこの時期である。同じ面に存在する近世の遺構である。礫を多量に詰めた土坑がB区からC区に集中していた。出土遺物は中世のものを含むが、一部に江戸時代初め頃の遺物が出土している。報告では各出土遺物に従って記述するが、これらは一括して江戸の可能性はある。

近世の遺構・遺物 代表的なものを説明する。SK1(第8図1～7)の1は14世紀の在地系土師器皿、2は16世紀末頃の京都系土師器皿。3は18世紀前葉の古伊万里梅樹紋碗。SK2(第8図)は標高5.2m前後で検出した浅い円形の土坑である。SK29からは第47図の遺物が出土している。

SK3 出土遺物 (第15図1・2・9) 1・2は口縁部が外湾する形態で、外面に牡丹唐草紋、見込みに宝相華紋をもつB1群皿。

SK29 (第7図) F区北部の近世の土坑が重複した場所にある。長さ6m、幅4.2m、深さ0.5m。
出土遺物 (第51図1～3) 中世の遺物が混入したものである。

SK31 (第10図) F64区の標高5.2m前後で検出した浅い不整形の土坑である。

出土遺物(第11図1～3)1は碁笥底の青花皿C群。2は吉備系土師器。3は四面を使用した砥石。

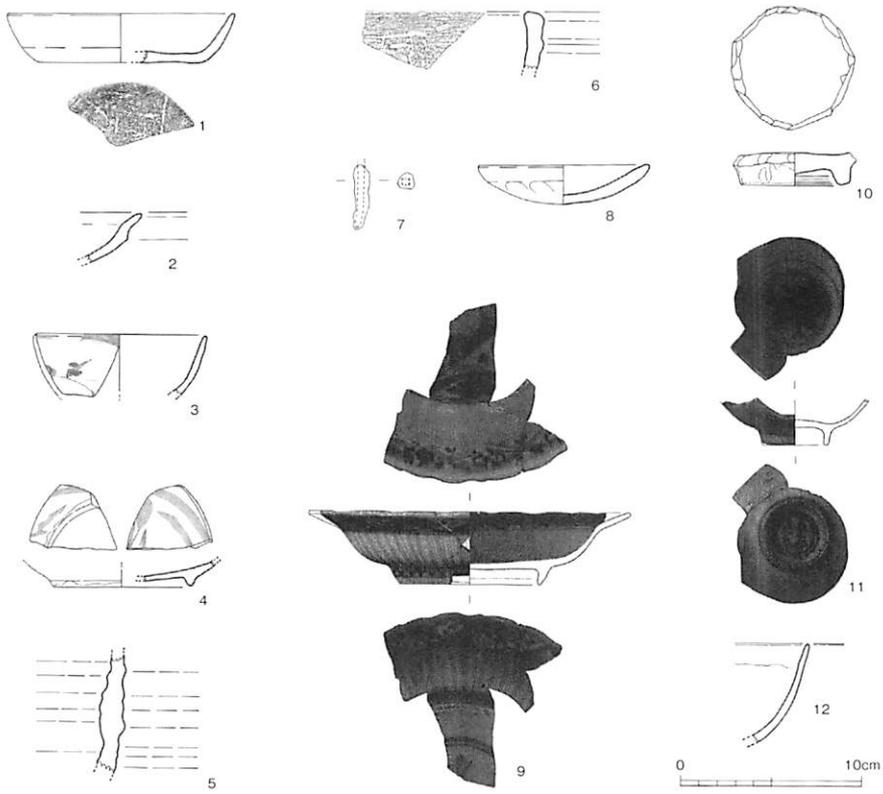
SK4 (第12図) 標高5.2m前後で検出した方形の土坑で、南半分は掘り下げ過ぎた。内部には川原石多数が廃棄されていた。埋土は上層から焼土を多量に含む砂質土、焼土を少量含む茶褐色砂質土、焼土を含まない茶褐色土の順であった。肥前系磁器(6)、唐津系陶器溝縁皿(8)を伴うので近世初頭の遺構である。第75図のタイ製四耳壺の破片も出土している。

SK3・5 (第14図) A65区に位置する浅い土坑である。SK3出土遺物には18世紀前半の陶胎染付け(第15図3)があるので、近世の遺構である。

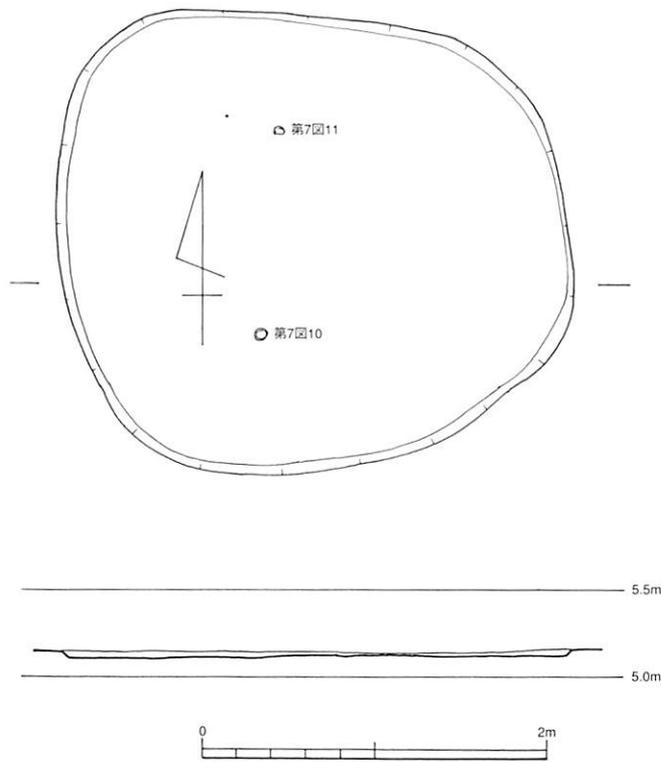
SD7 (第5図) E区にある溝状遺構で、西側のSD8と連続的な状態を示す。

SD7 出土遺物 (第16図1～6) 3は肥前系磁器碗である。

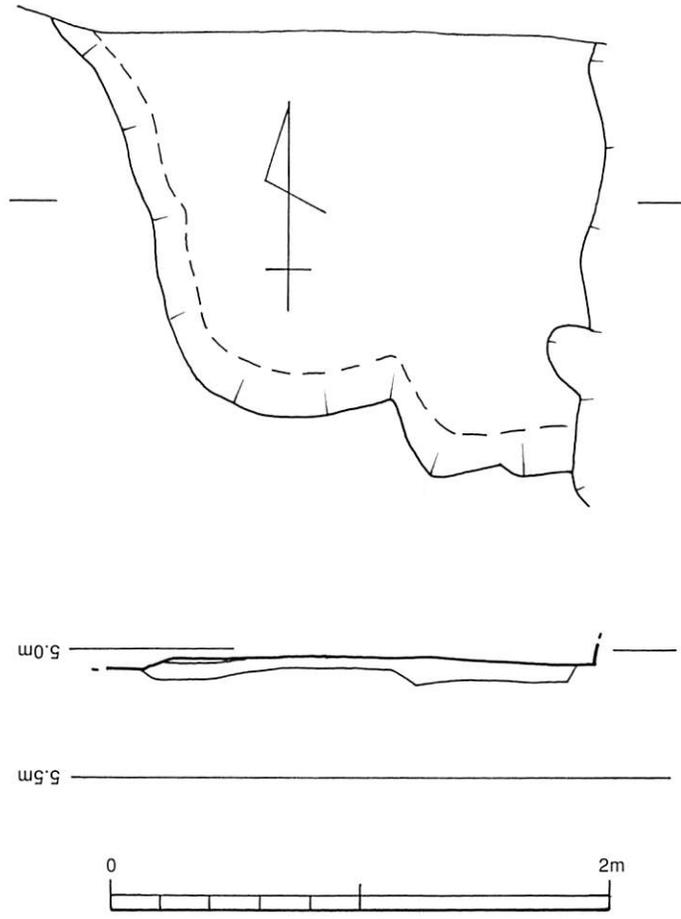
SK37 (第69図) B64・64にあり、SK52とSK38の間に位置する。礫を集中的に廃棄したような土坑である。出土遺物に17世紀前葉の遺物があり、遺構の所属時期の一端を示すものである。



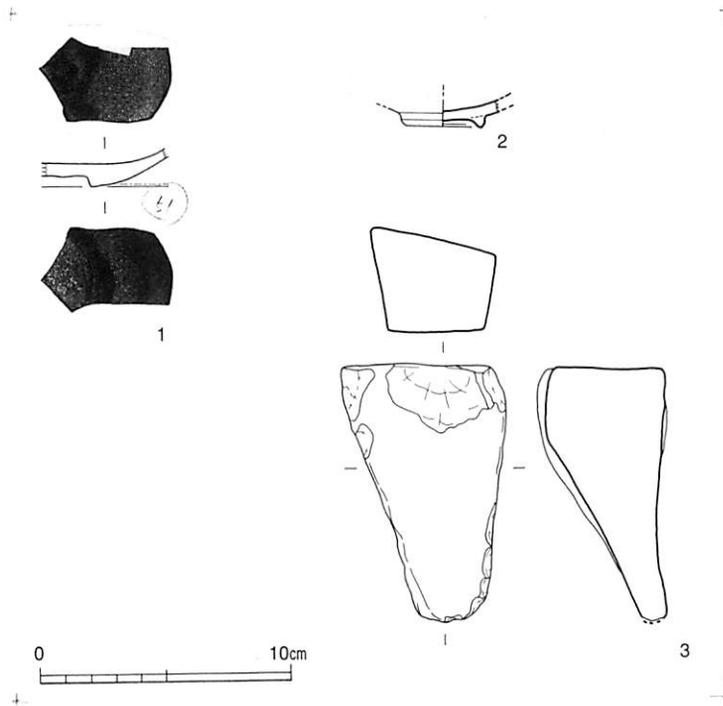
第8図 SK1・SK2・SK39 出土遺物実測図



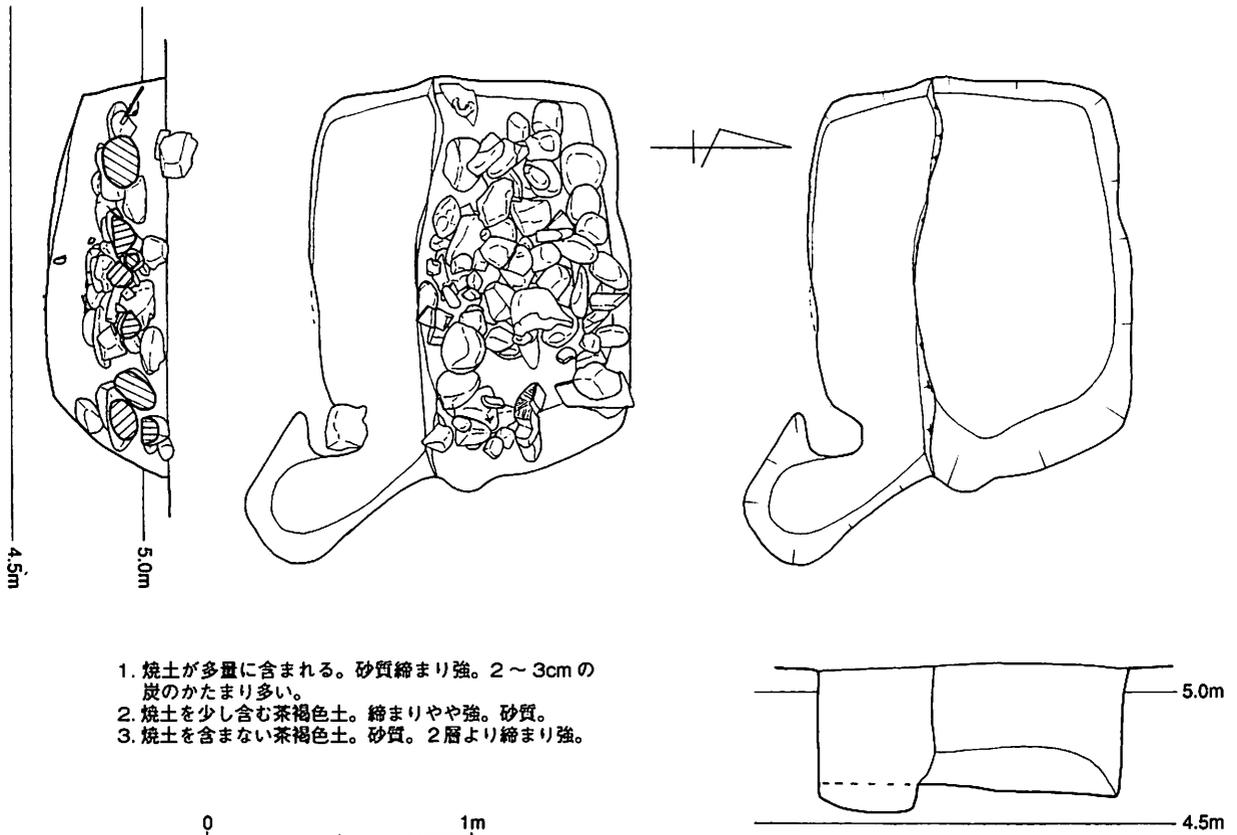
第9図 SK2 実測図



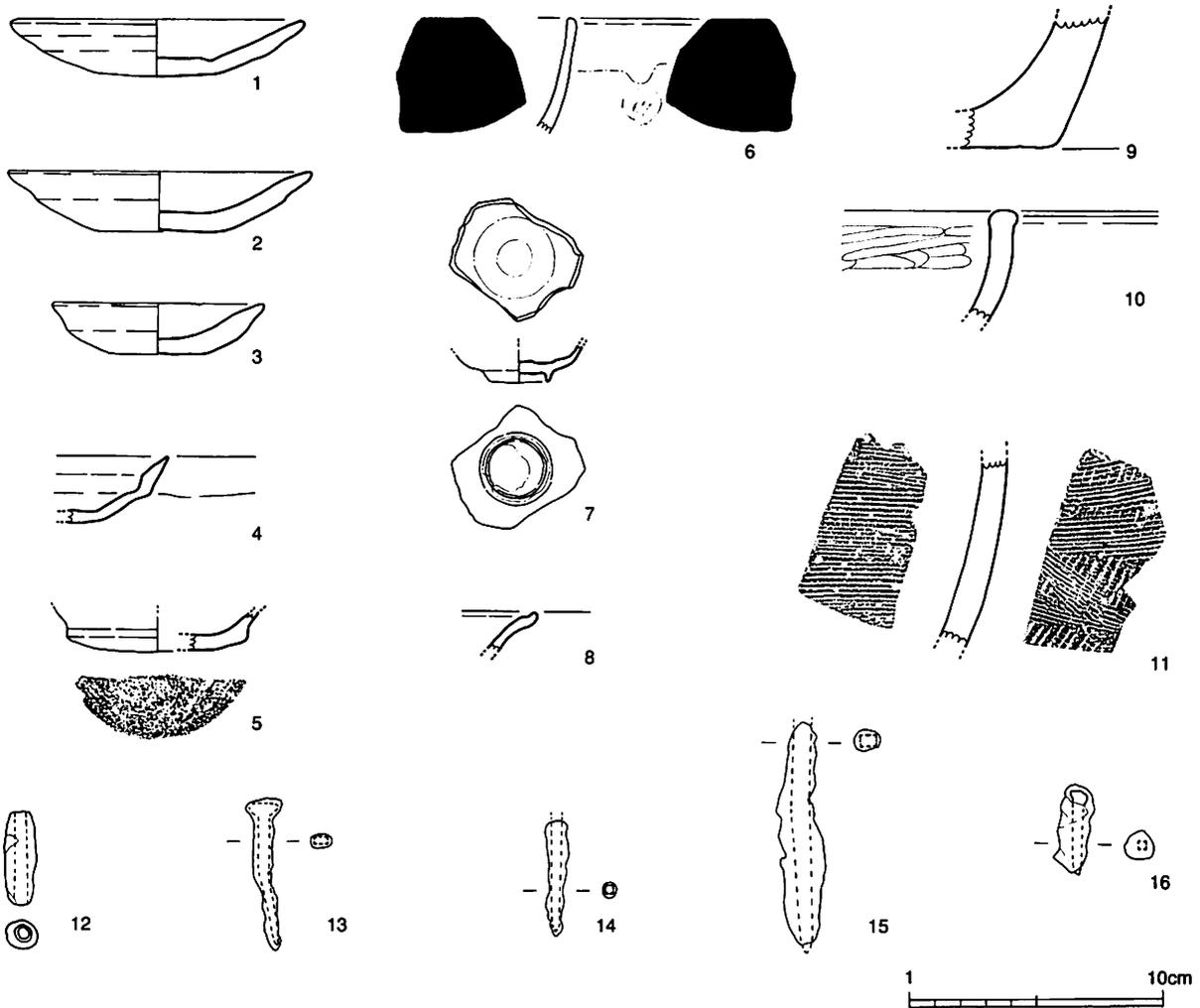
第10図 SK31 実測図



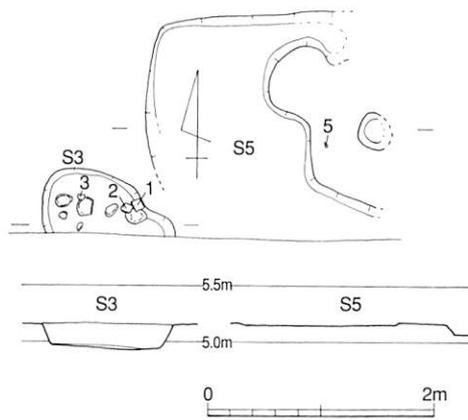
第11図 SK31 出土遺物実測図



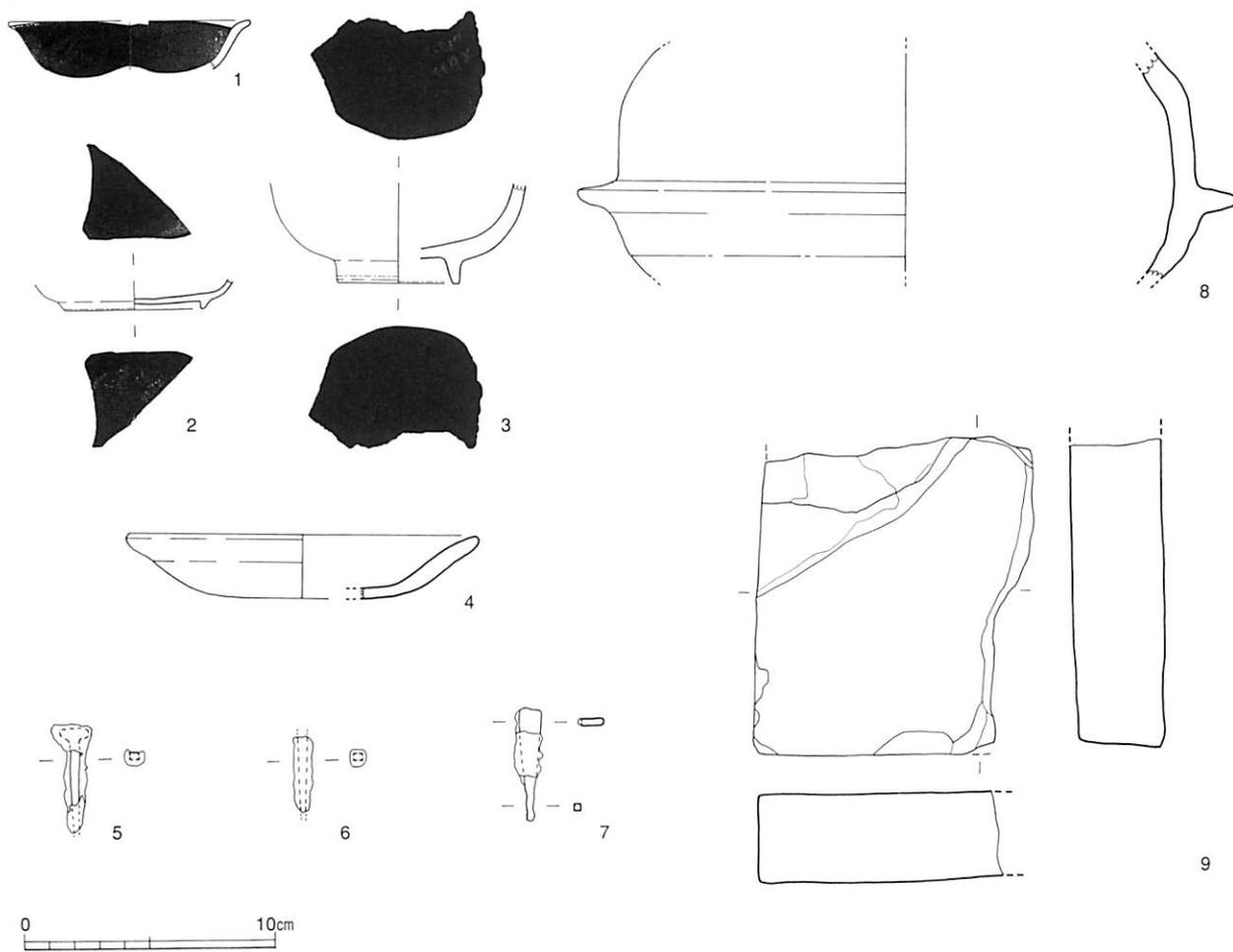
第12図 SK4 実測図



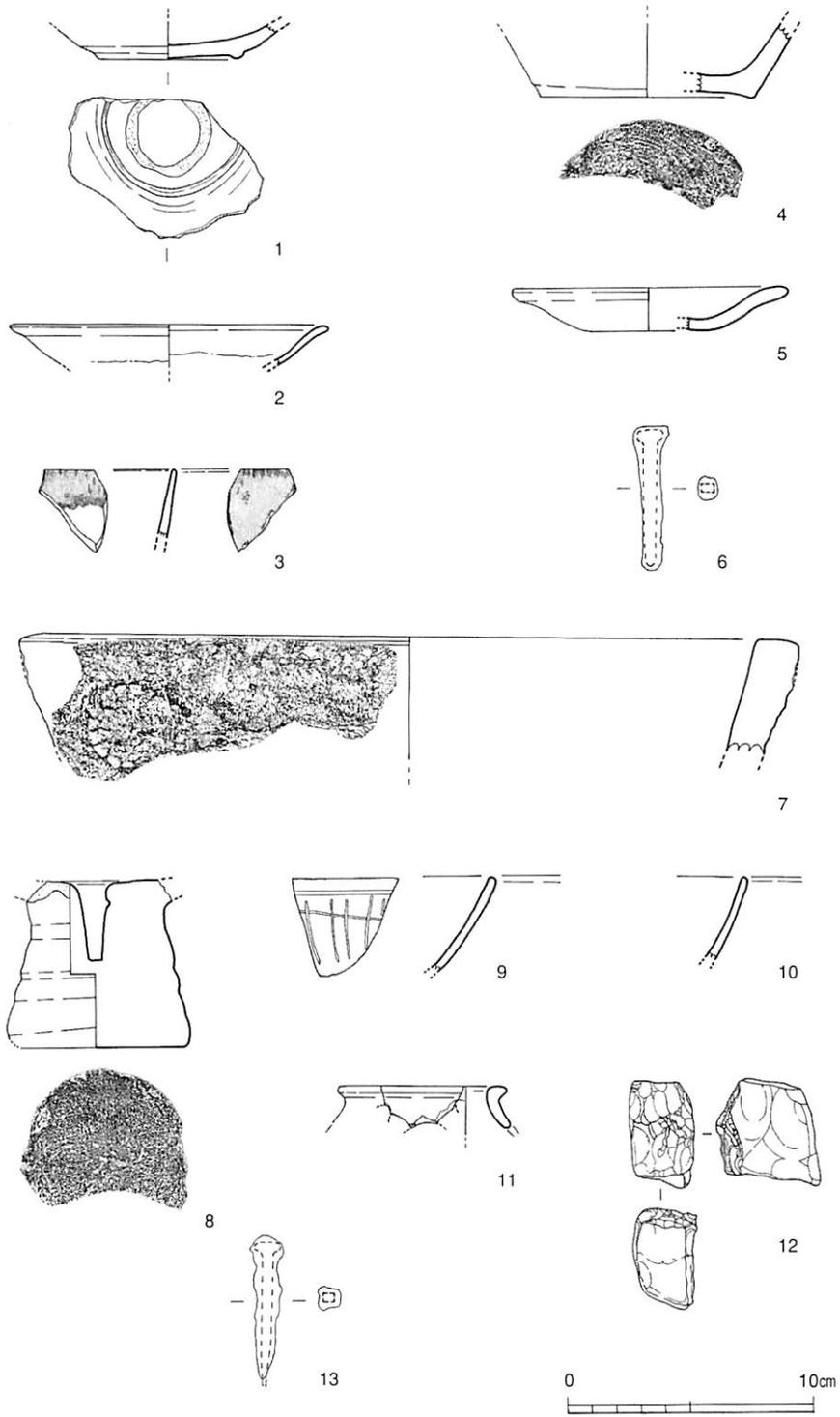
第13図 SK4 出土遺物実測図



第14図 SK3・SK5 実測図



第15図 SK3 出土遺物実測図



第16図 SD7・SD8・SK43 出土遺物実測図

掘込み面は検出位置よりも上に想定する。

出土遺物（第61図6～8、第69図）6～8は石臼。第72図1・2は京都系土師器、3は17世紀後半の長崎県内野山窯製皿で、茶褐色。4・7は瓦質土器、5・6は備前焼播鉢。これらは15世紀から17世紀までの年代幅があり、17世紀に一括して廃棄されたとみられる。

第4節 中世の遺構と遺物

中世に属す遺構を新しい段階から説明する。

○16世紀末葉以降の遺構と遺物

概要 この段階は京都系土師器が3期で備前焼播鉢が交叉播目をもつこと（近世1b期）を主な特徴とする。年代が分かる遺構には、井戸（SE）2基・土坑（SK）6基・道路（SF）1条・磔列（SX）1基がある。土坑のうち、磔の詰まったSK26・38・51・52・55～57・62・64・63等は近接した場所にあり、すべてから同じ時期の遺物が出ている訳ではないが、おそらく年代は16世紀末葉以降であろう。火災跡地の片付けに伴うゴミ穴の場合、近世に下るものもありうるが、遺物面からは判断できない。

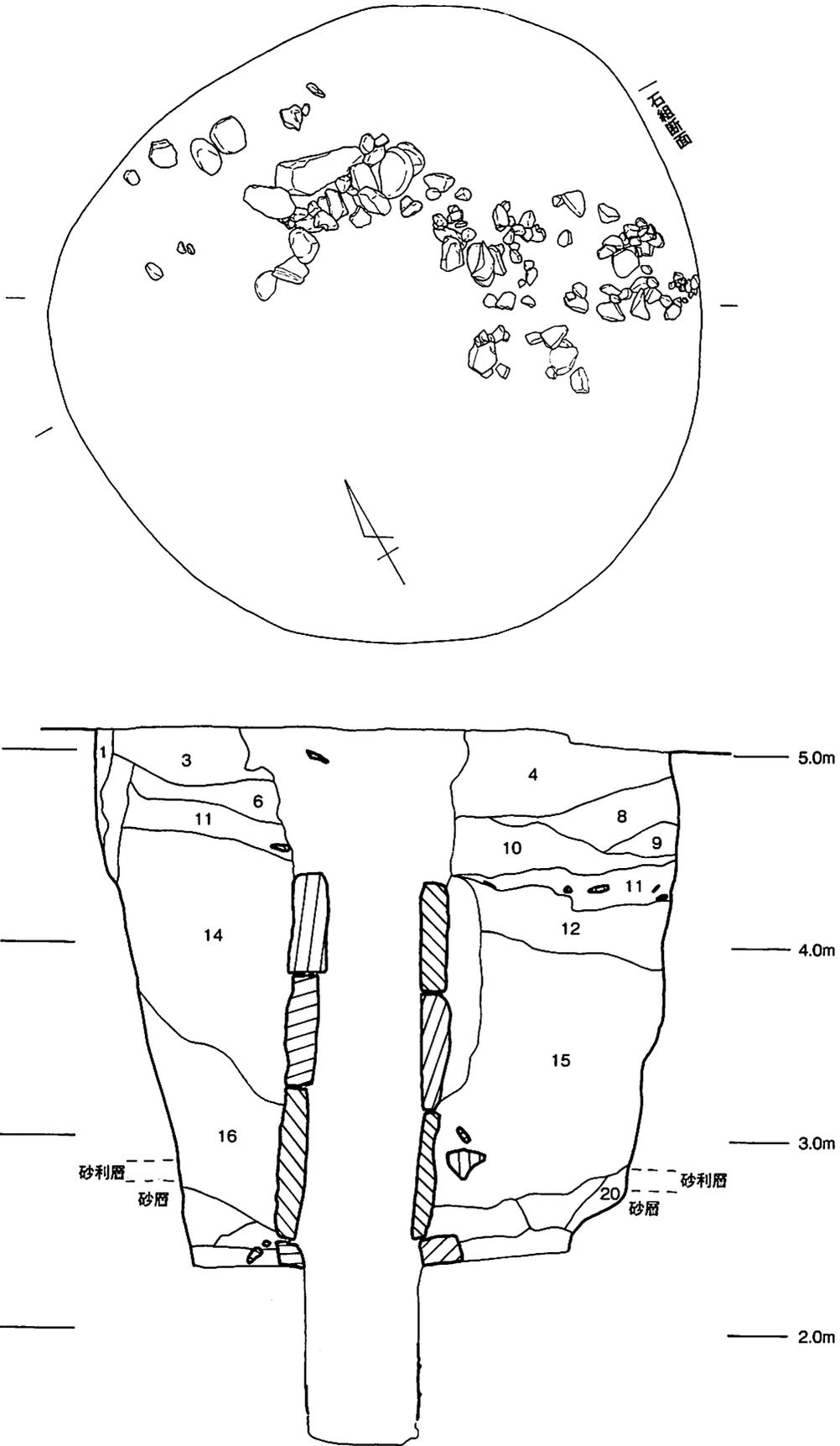
SE10（第17～19図）E区中央で検出した。検出面では磔が散乱していたが、0.8mより下には凝灰岩板石を六角に三段組んだ井戸側があり、基部には重量分散のためか4枚の板石を並べる。最下部の掘削は桶の水溜部分だけである。井戸の壁を観察すると、標高約2.7mの砂層が湧水層となっており、ここからの水を利用している。上部には木製井戸枠があったのか、板石を一段抜いたのか解釈が分かれる。

出土遺物（第20～22図）第20図1は中国南部製の焼締陶器、2は備前焼甕、3は東播系こね鉢。4は瓦質土器、5は平瓦、6は杉の板材で井戸水溜の桶材である。第21図1・2は中国南部製焼締陶器、3～6は備前焼播鉢で、5・6は近世1期の交叉播目をもつもの。7は埴塼、8は瓦質の火鉢、9は京都系土師器、10は結晶片岩製砥石である。第22図1は？州窯系青花碗。2は杉の桶材、3は食膳用台である。

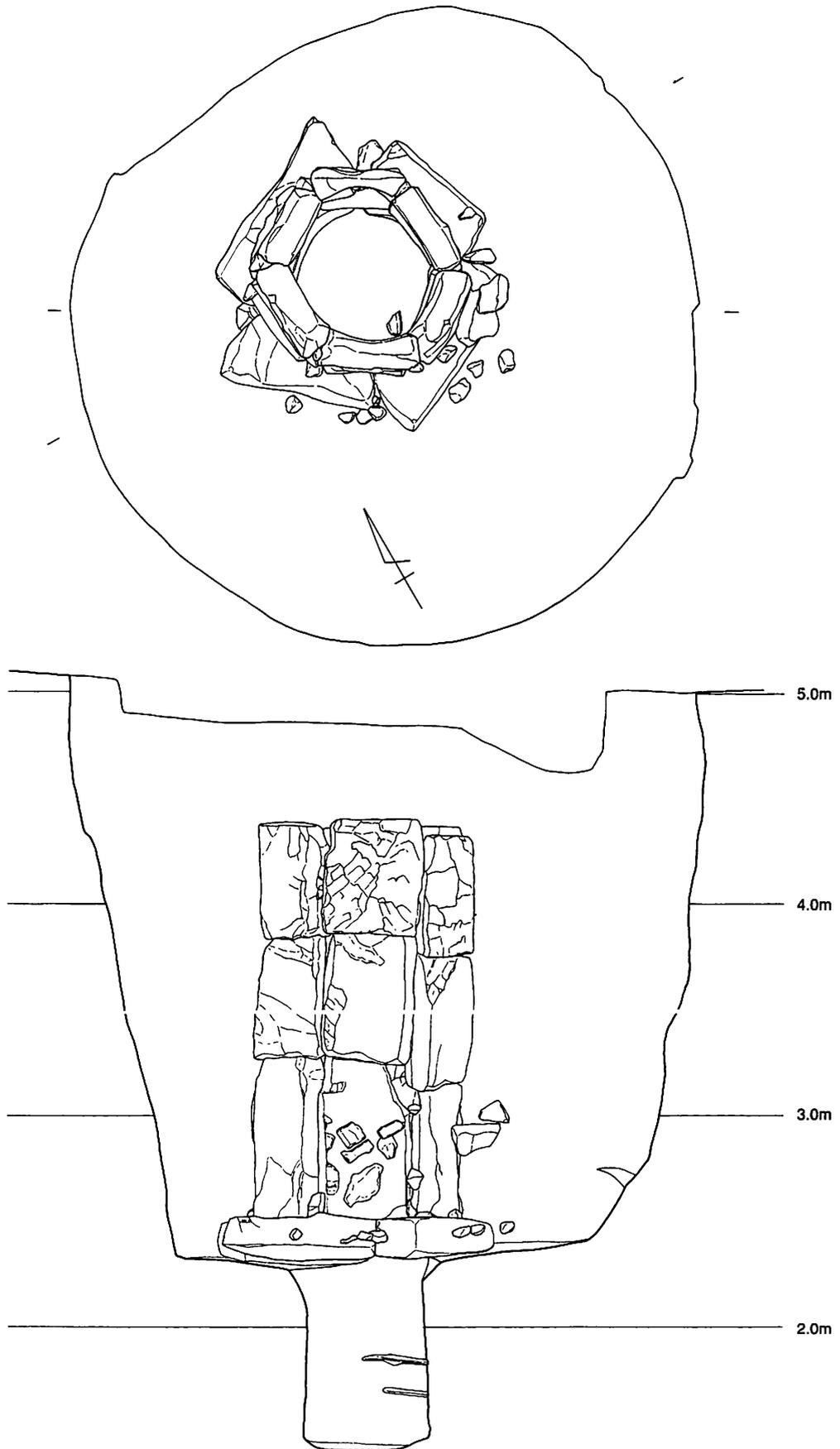
SE10は出土遺物に交叉播目をもつ備前焼播鉢や中国？州窯青花が存在することから、16世紀第4四半期に廃絶した井戸である。

SE14（第23～25図）Z区西部の標高5.1m前後で検出した井戸である。掘方は逆円錐状で底面は平らである。水溜は桶一段作りである。桶の板は一周22枚からなる。桶の高さの三分の二ほど埋めた段階で、井戸側を支える凝灰岩を花卉状に配し、その上に六角形に四段、凝灰岩板石を積んでいる。断割り観察によると、板石を一段積む毎に背後を埋め立てた状態がみられる。標高4m以上は井戸側を抜いたようには見えず、桶が腐朽したものと思われる。埋土1よりも上の第4層は井戸を埋めた層であろう。この井戸の廃絶時期は交叉播目の備前焼播鉢から判断した。上部構造についてはSE10と同様である。

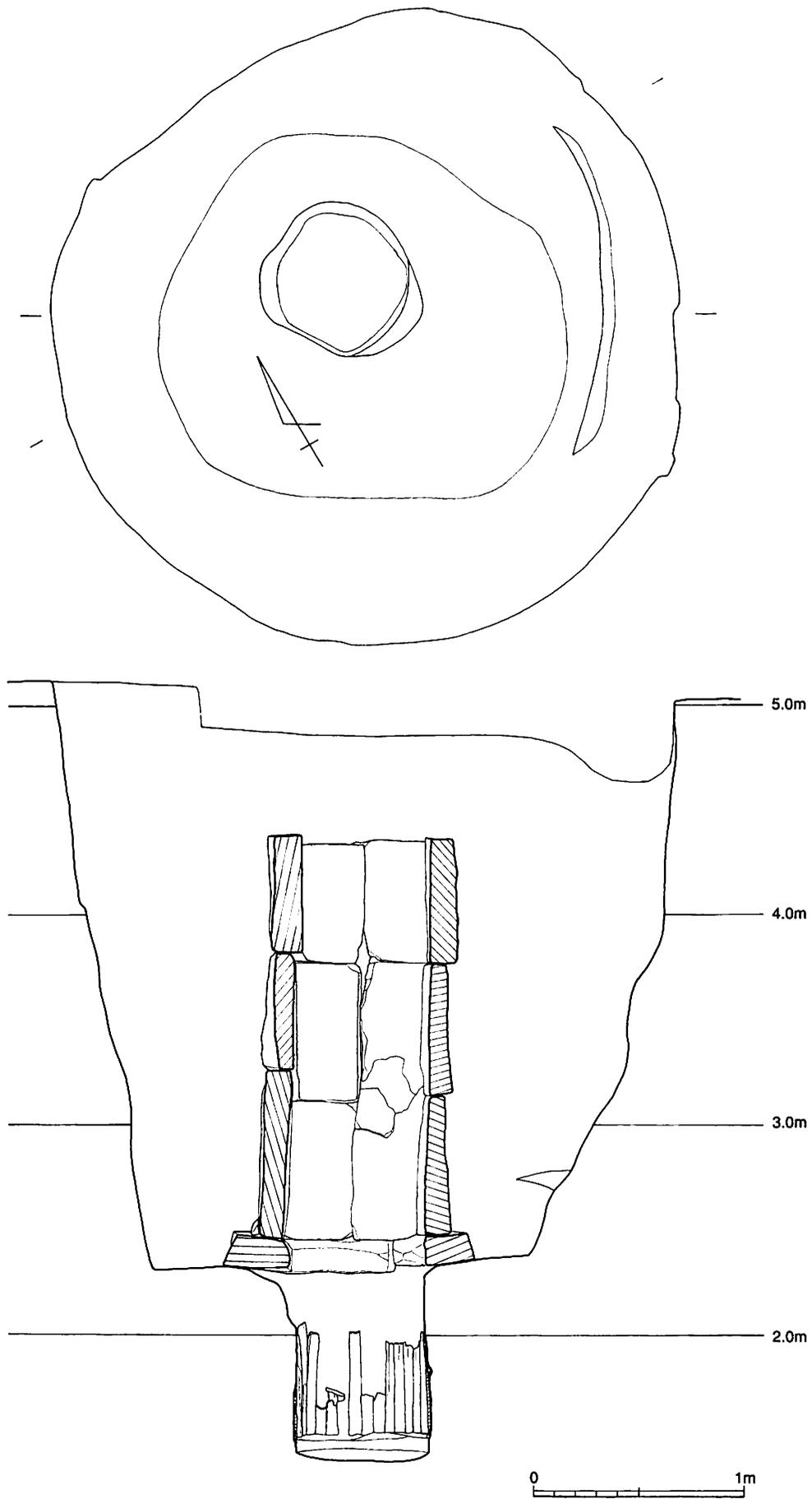
出土遺物（第26～28図）1～4・7は瓦質土器で、1・4は火鉢、2・3・7は鉢、である。5は裏込めから出土した15世紀の備前焼甕である。6・8も備前焼甕。第27図1～4は備前焼、3は交叉播目の近世1期播鉢。4も近世1期の特徴をもつ。5は天目碗、6は瓦質風炉の穴空き部の上、7・



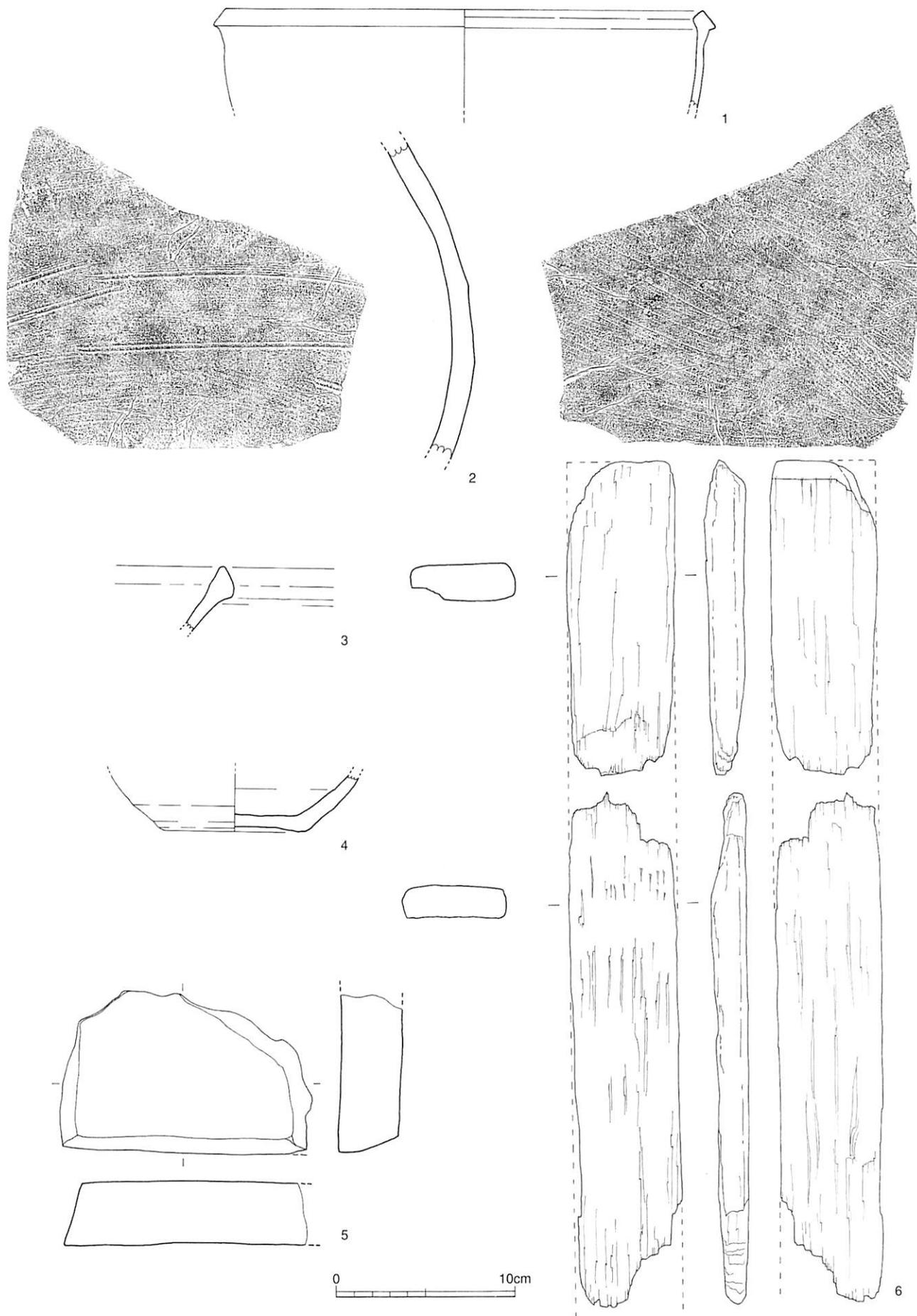
第17図 SE10 実測図



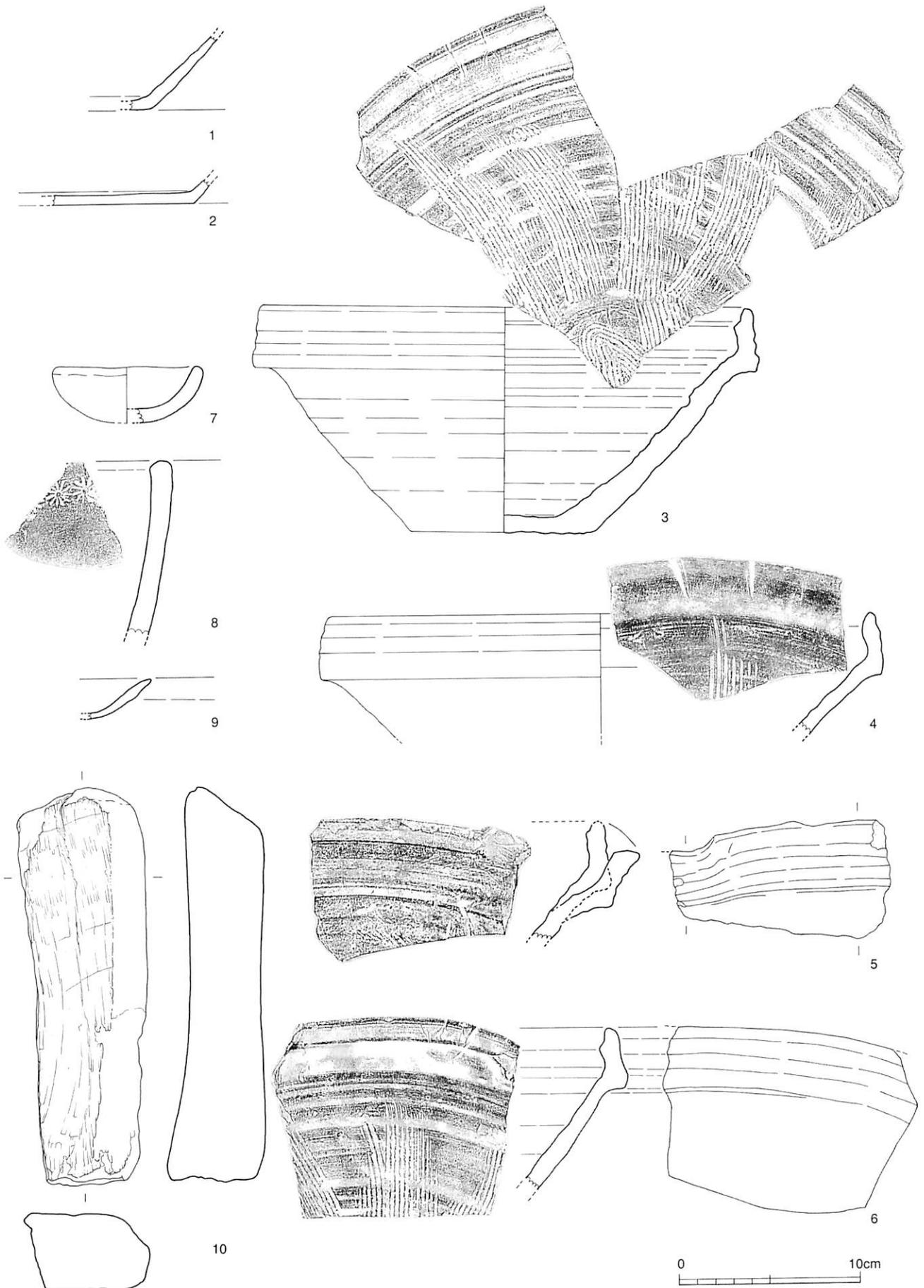
第18図 SE10 側面見通図



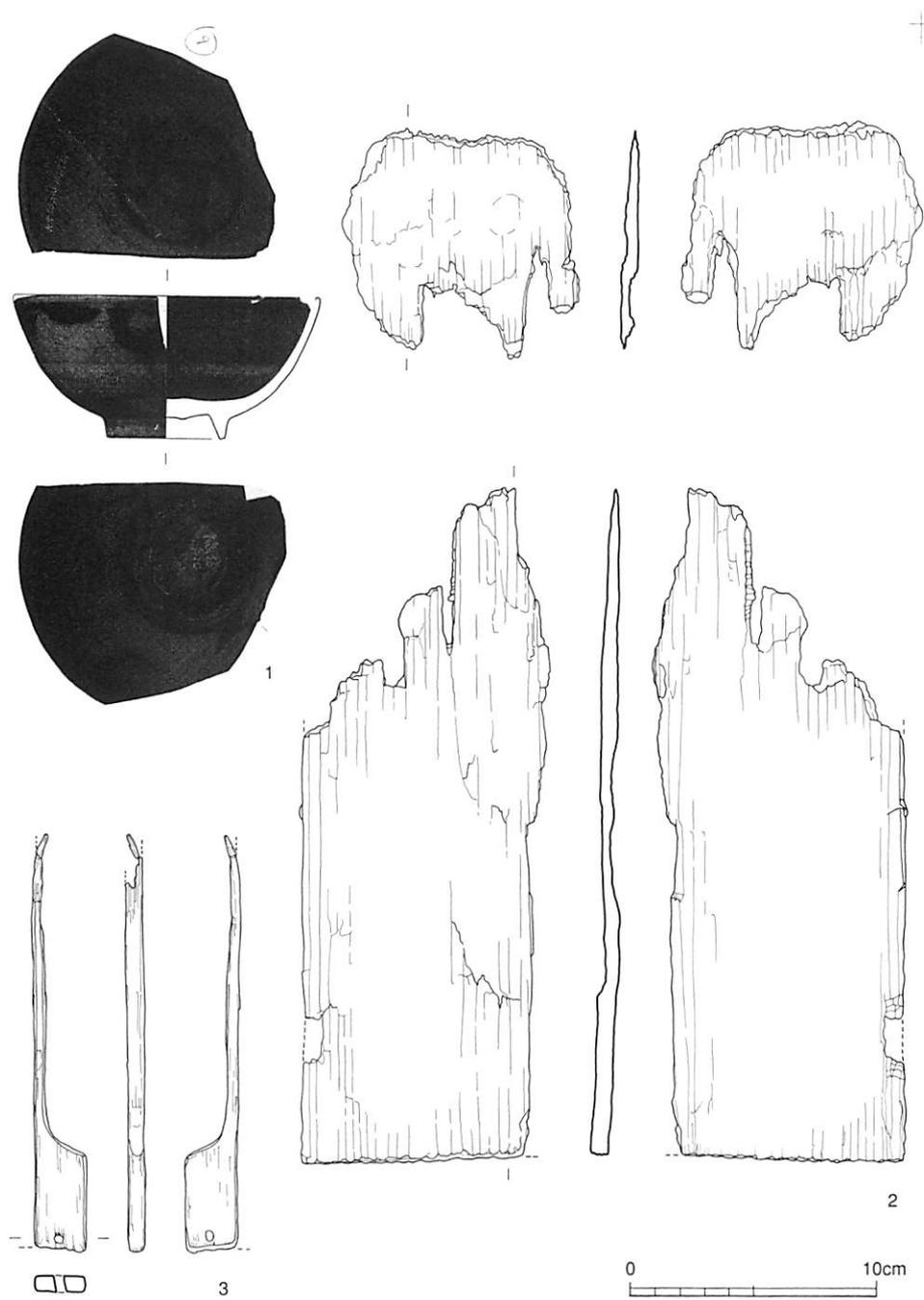
第19図 SE10 縦剖見通図



第20図 SE10 出土実測図

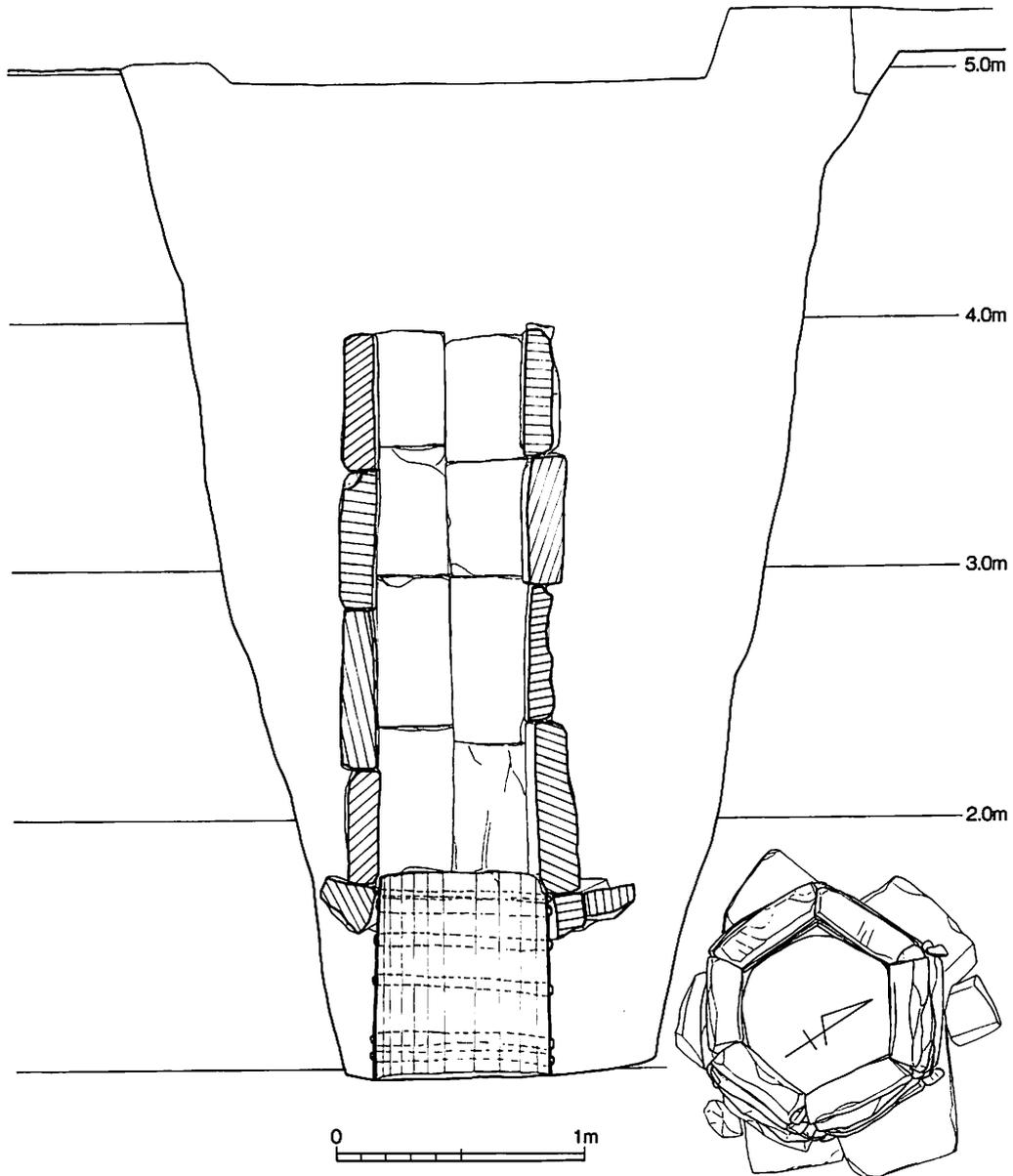


第21図 SE10 出土遺物実測図

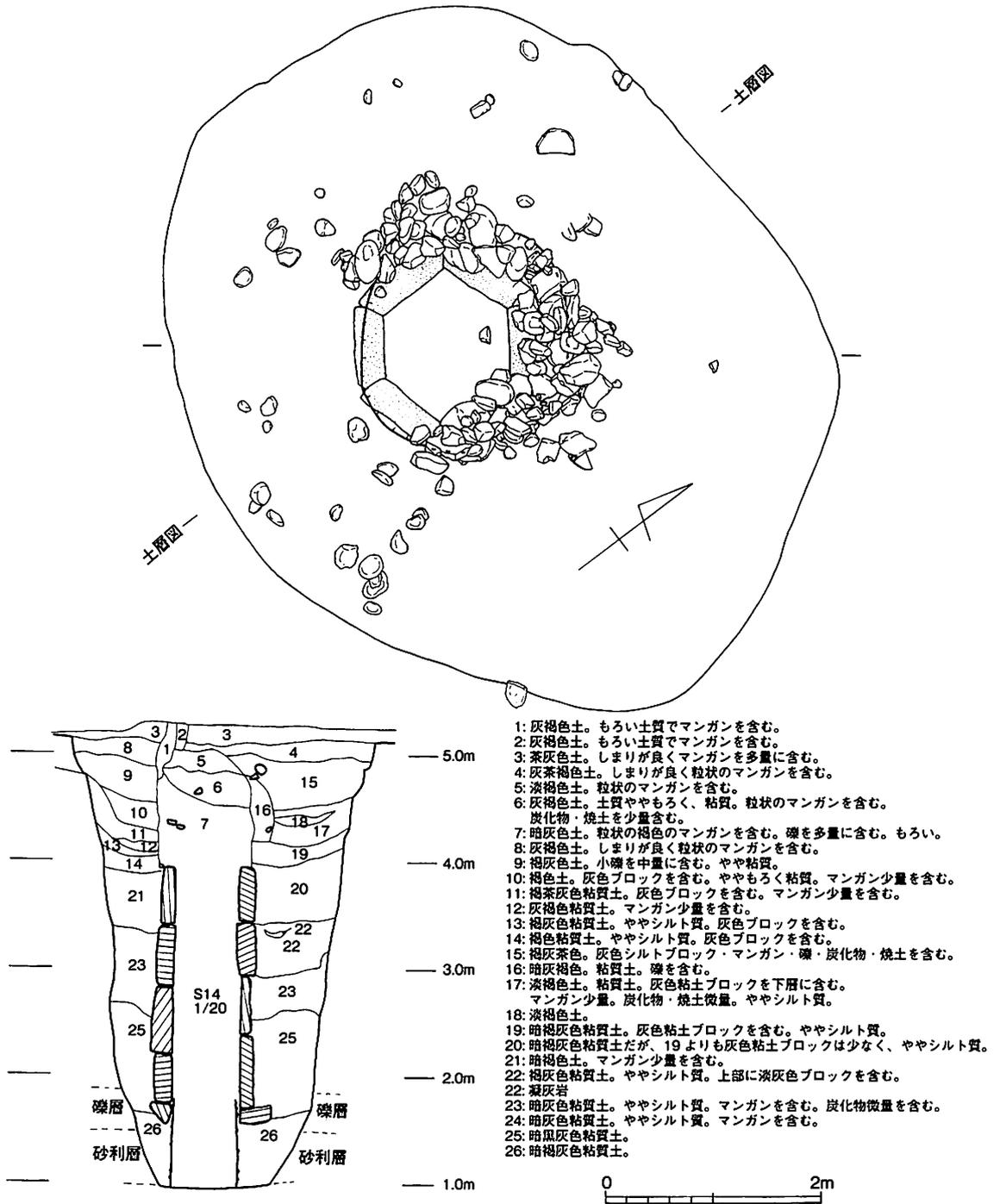


第22図 SE10出土遺物実測図

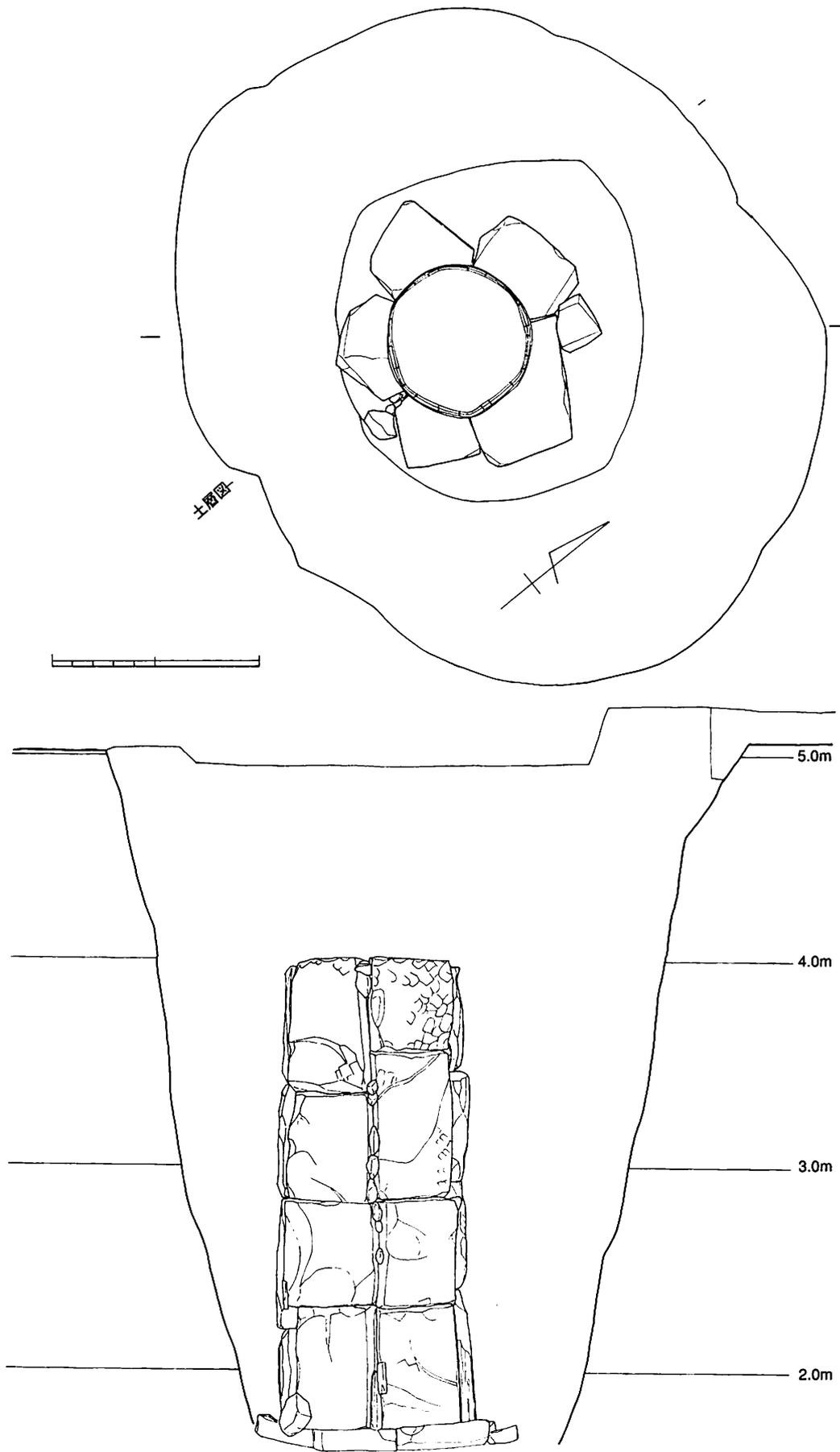
8は埴塙、9は漆器椀で、赤い紋様をもつ。10・11は?瓦である。第28図1は凝灰岩製の輪羽口で図の左は赤変している。2は播り粉木状の木製品。3は側面に削り面が多い木製品。4は中心から放射状に分割した木材。5～7は鉄釘。



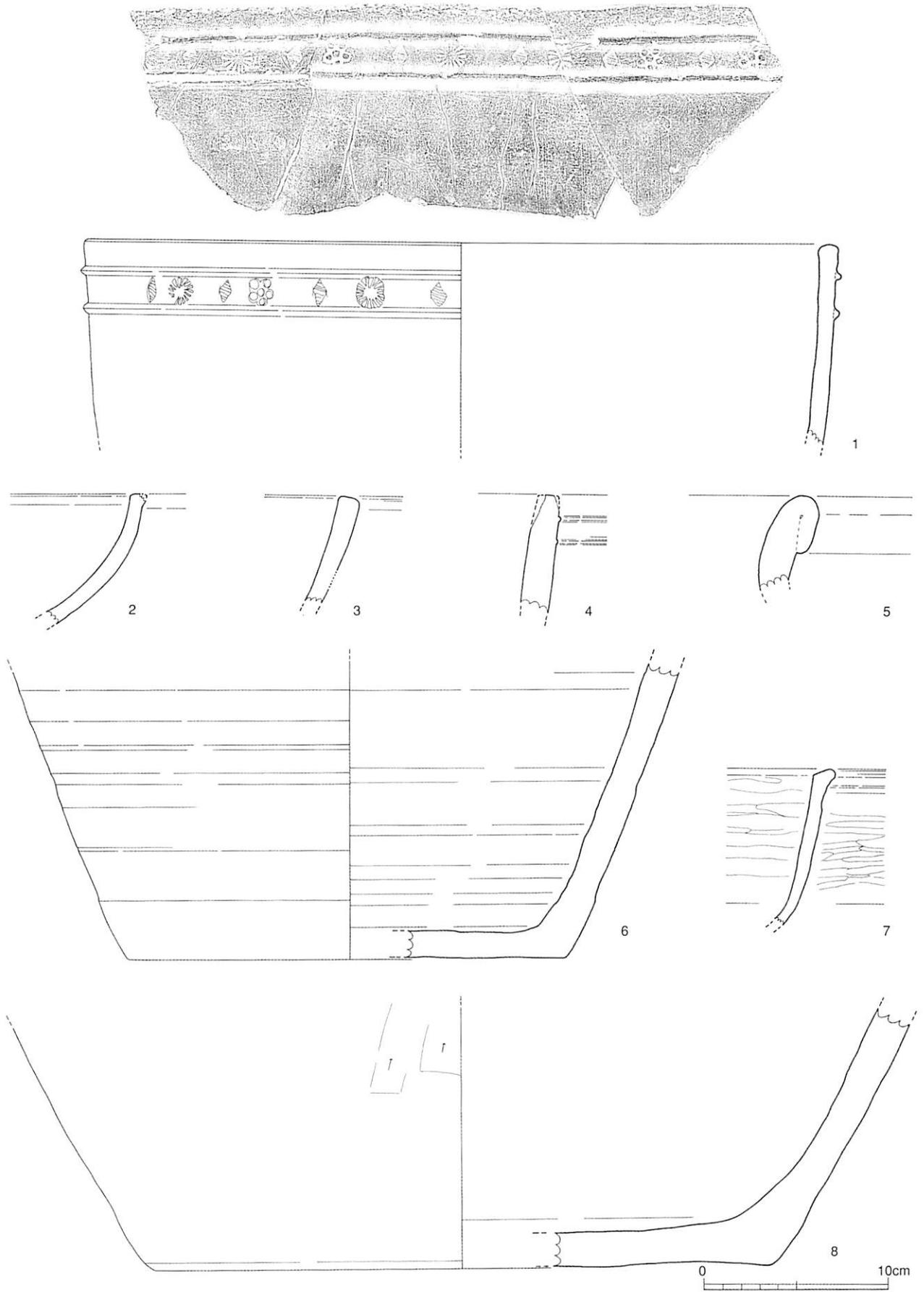
第23図 SE14 出土縦断面見通図



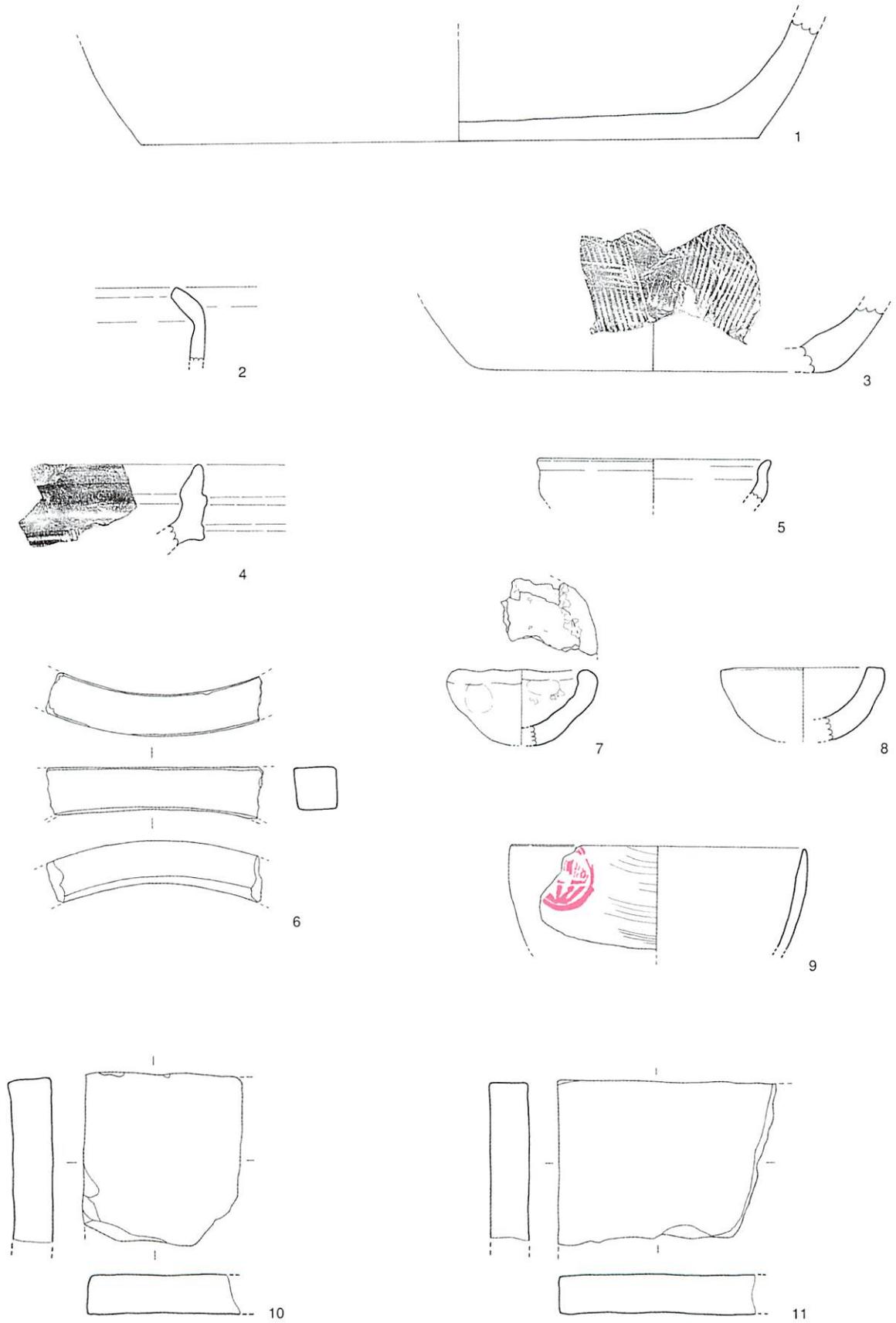
第24図 SE14平面図・断面図



第25図 SE14 側面見通図・下部平面図

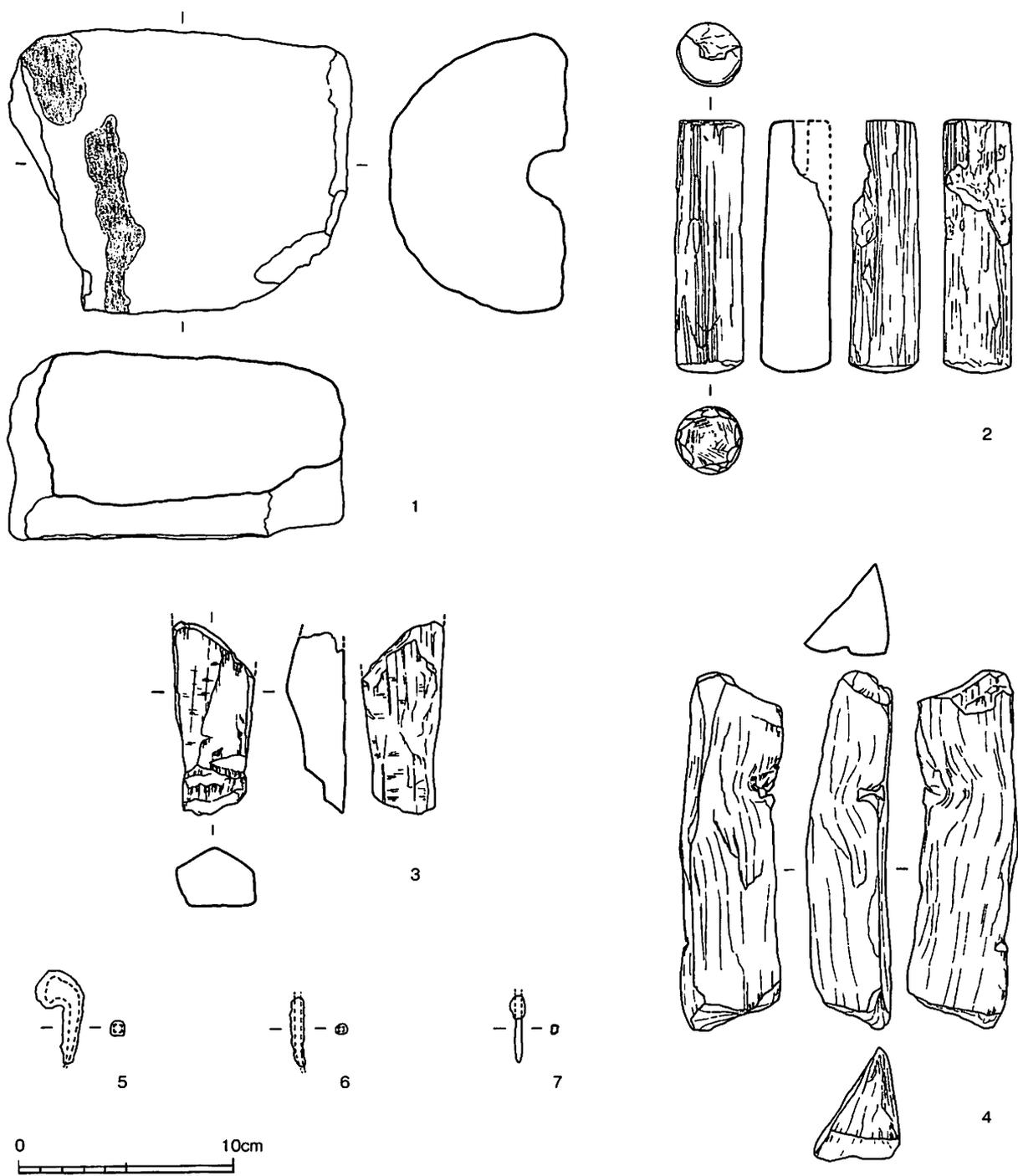


第26図 SE14出土遺物実測図



0 10

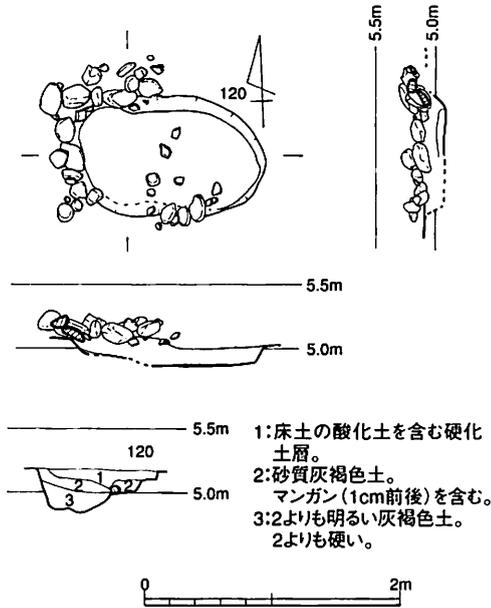
第27図 SE14 出土遺物実測図



第28图 SE14 出土遺物実測図

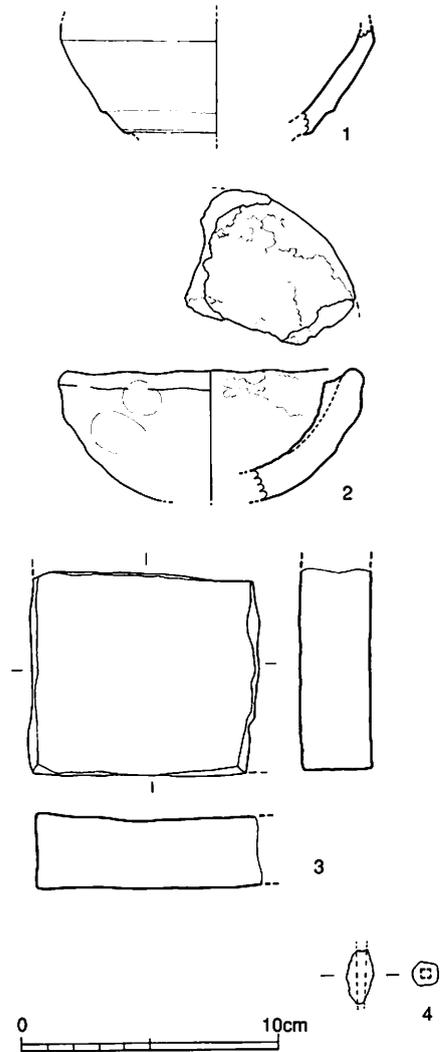
SK12 (第29図) Y65区東端で検出した。礫の上端は標高5.3m。近世水田の床土酸化層直下で検出した浅い楕円形の土坑である。出土遺物からではなく、検出面の位置からこの時期に置く。

出土遺物 (第30図1~3) 1は天目碗、2は埴塙、3は埴瓦、4は鉄釘である。



- 1:床土の酸化土を含む硬化土層。
- 2:砂質灰褐色土。マンガン(1cm前後)を含む。
- 3:2よりも明るい灰褐色土。2よりも硬い。

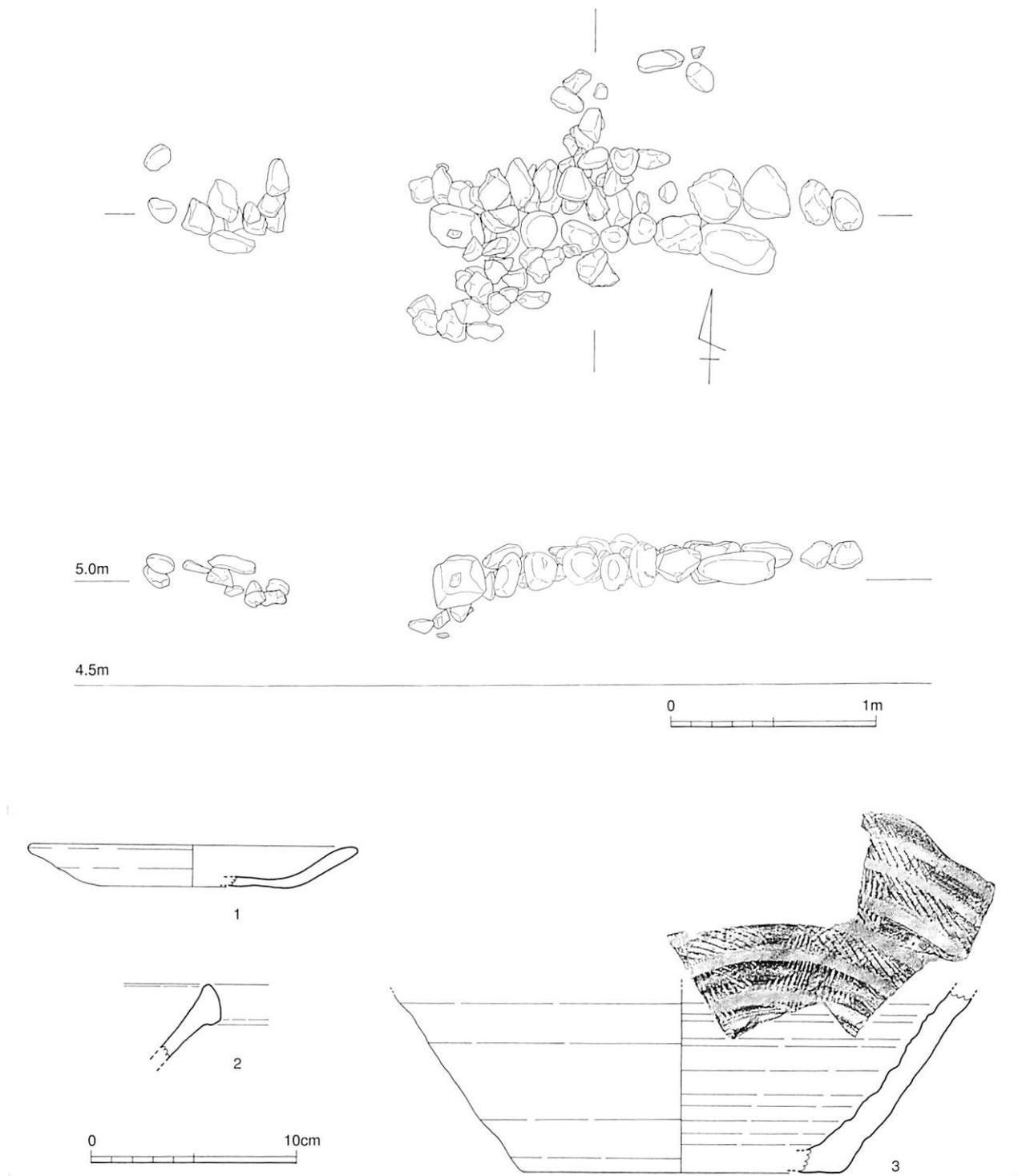
第29図 SK12実測図



第30図 SK12出土遺物実測図

SX41 (第31図) Z64区で礫が長さ3.5mにわたって平面的にまとまっていた部分である。検出面の標高位置と周辺から出土した遺物からこの時期に置く。側面から見ると標高5m付近に人工的に並べた状態である。

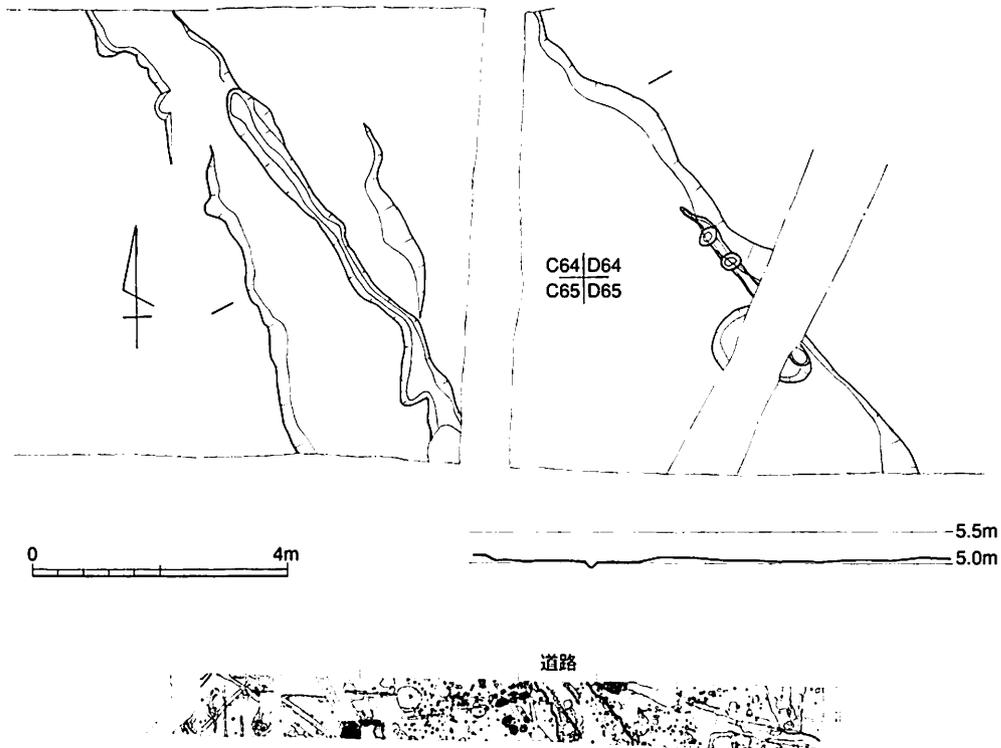
出土遺物 (第31図1~3) 1は1期の京都系土師器皿で、2は東播系のこね鉢、3は近世1期の備前焼播鉢である。



第31図 SX41 遺構及び出土遺物実測図

SF1（第32図） 調査区中央部を北西から南東に斜行する道路である。現地にはこの延長上に耕作区画の境界線が北に向かって延びており、現在の境界線は中世の道路と何らかの関連性をもつものとみられる。この道路は、「府内古図」で御蔵場の南から西側に描かれている道路と同一のものである。路面は砂利の分布として捉えられ、上面は硬い。砂利は散乱した状態であり、直線的に道路を示す状態ではなかった。断面観察によれば、何度か若干位置を微妙に変動させながら、存続したようである。

出土遺物（第140図10・11、14～17、第141図13、第147図1～11、第153図90） 道路の砂利層中から第147図1～11、第153図90が出土した。砂利層の直下で出土したのが第146図18、道路砂利層から30cm下で出土したのが第142図2・7である。

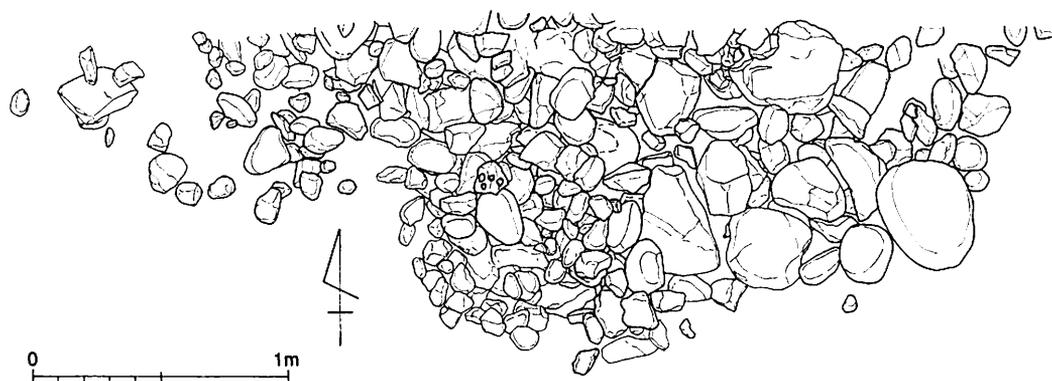


第32図 道路SF1平面図

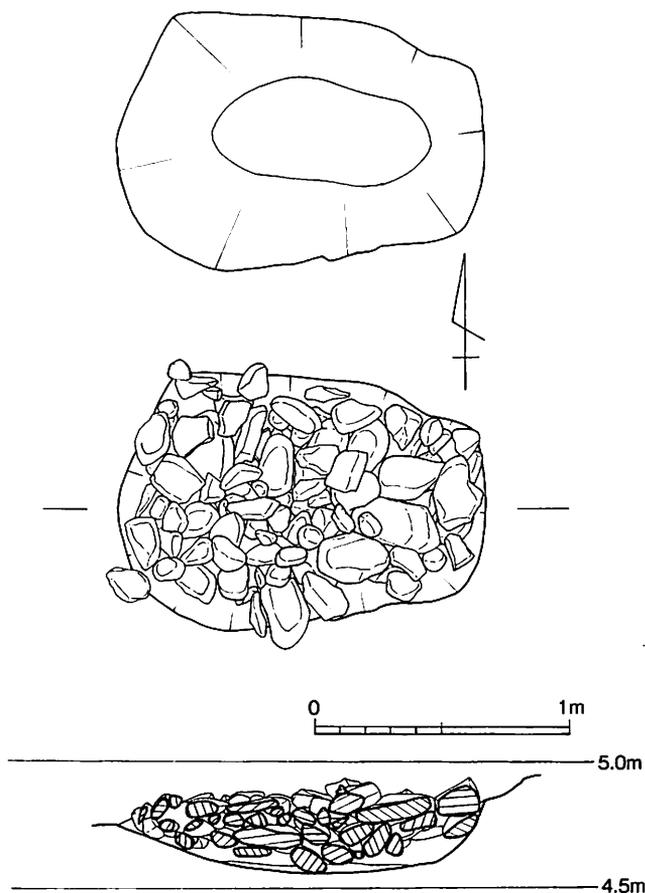
SK18 (第33図) D区北西部にあり、半分は未調査区に属す礫を多量廃棄した土坑である。近世の溝状遺構SD8の西で検出した。検出面は近世水田の床土直下である。礫に混じって人工遺物が出土した。

出土遺物 (第35～37図) 第35図では、ロクロ目を残す在地系土師器 (1) や1～2期の京都系土師器 (2) もあるが、3～8の京都系土師器は3期である。9・10は埴塙、11は備前焼壺、12・13は瓦質の火鉢である。

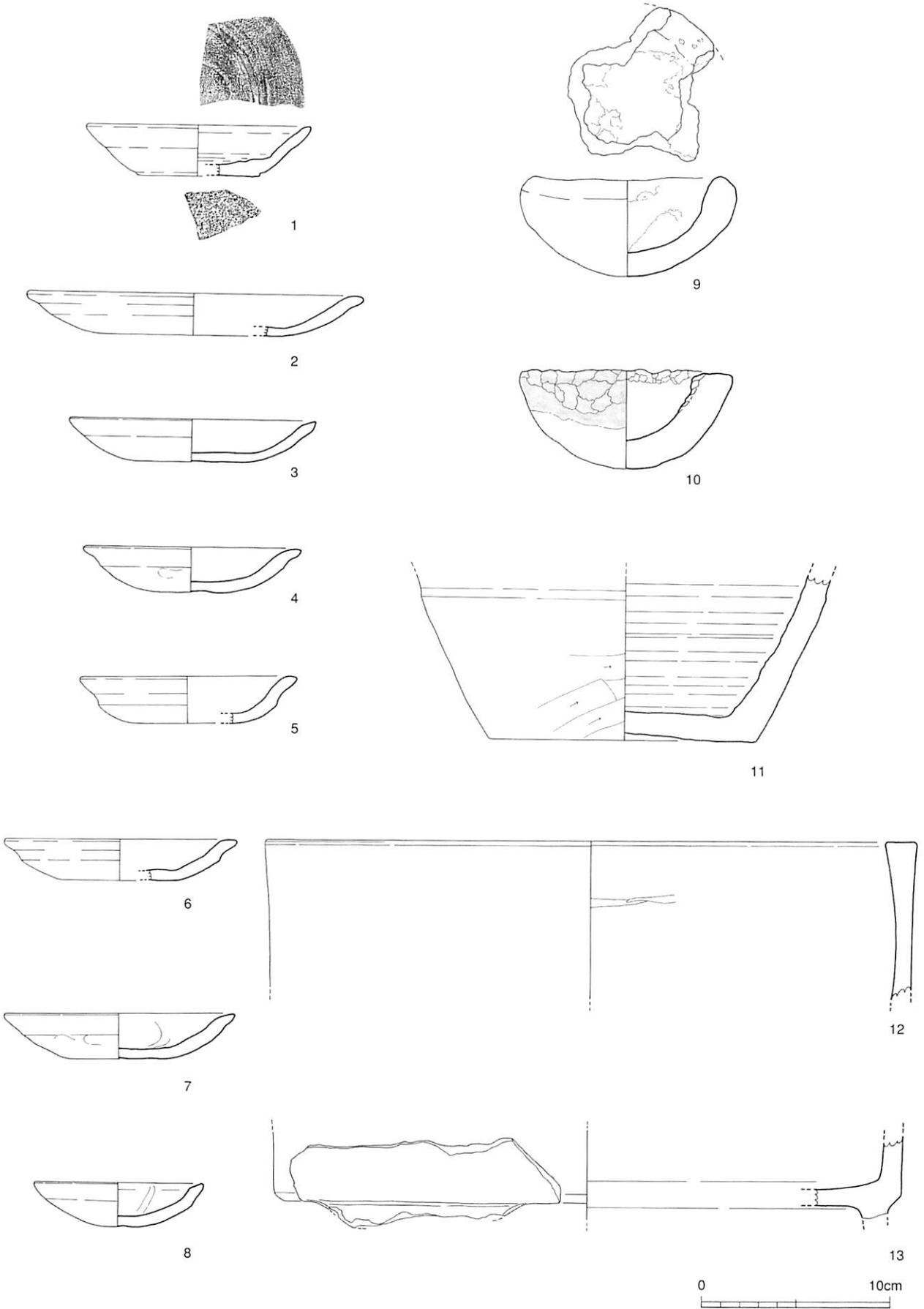
第36図1～4は備前焼、3は中国南部製陶器、5・6は青銅製品、7は容器状の凝灰岩製品、8は安山岩製石臼で故意に打ち割った痕跡がある。9は軟質の凝灰岩に彫り込んだ用途不明のものである。第37図1は平瓦で、内面は紐で切り離す技法が明瞭である。長さ31cm、幅23.8cm。



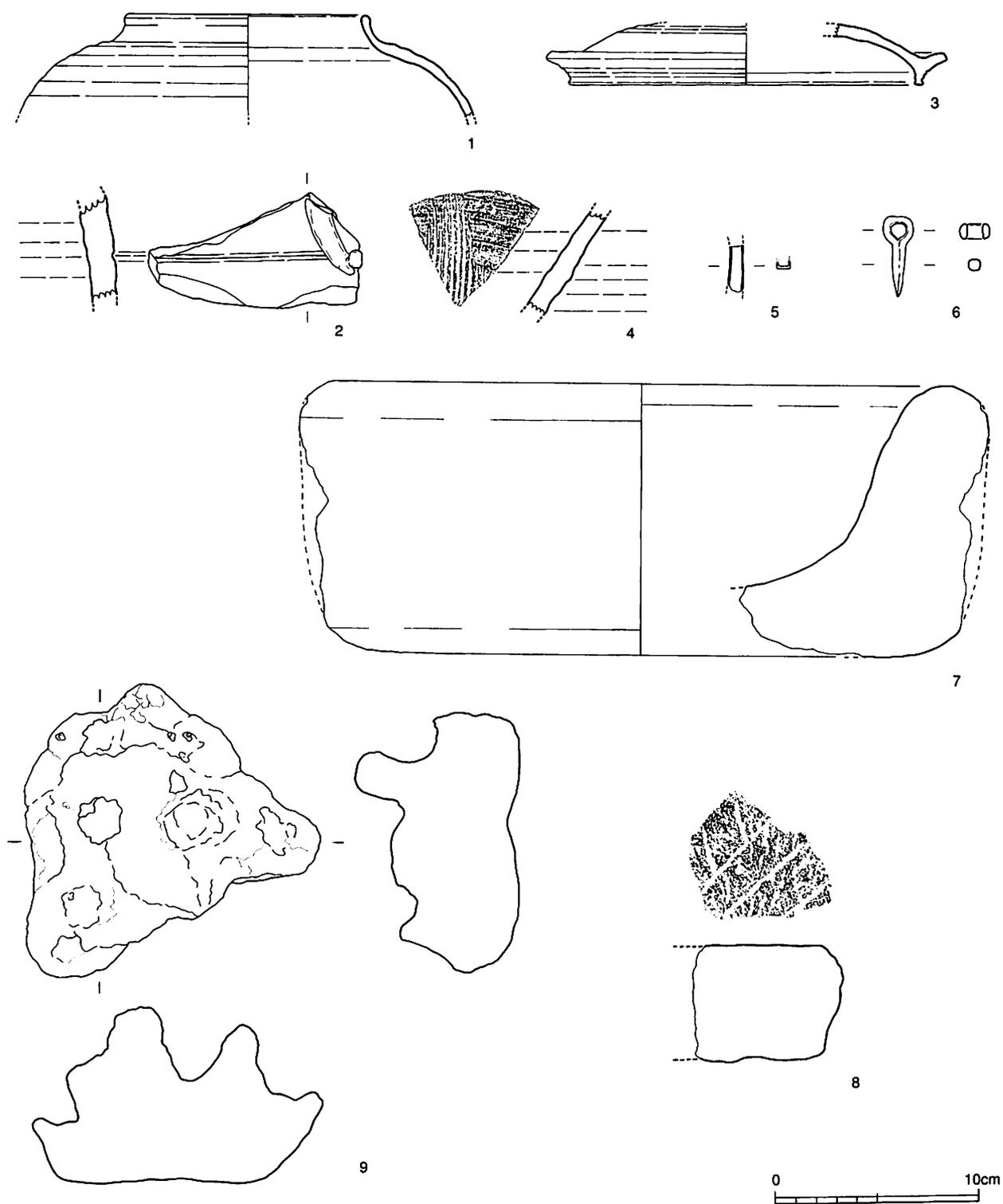
第33図 SK18 実測図



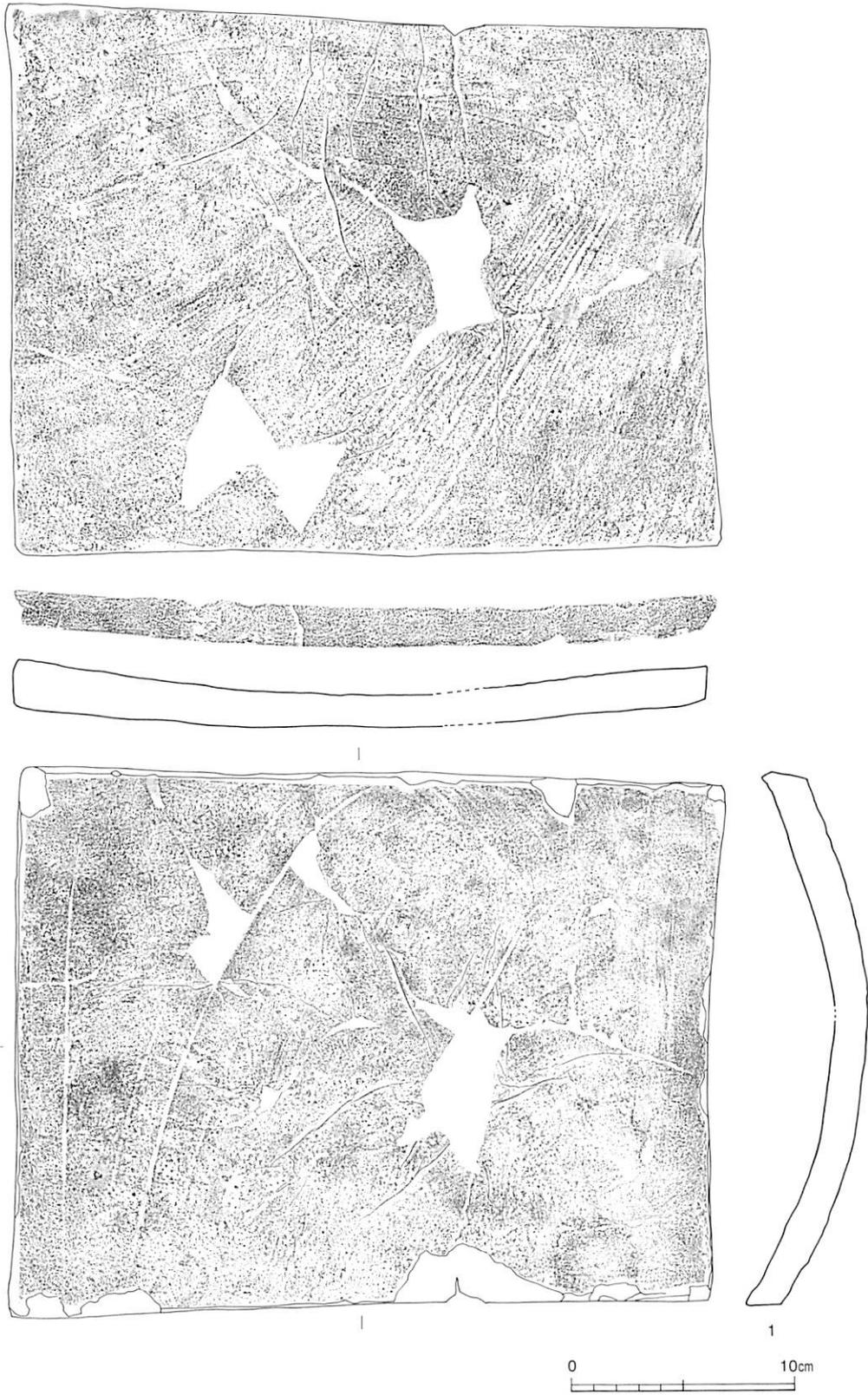
第34図 SK67 実測図



第35図 SK18 出土遺物実測図



第36図 SK18 出土遺物実測図



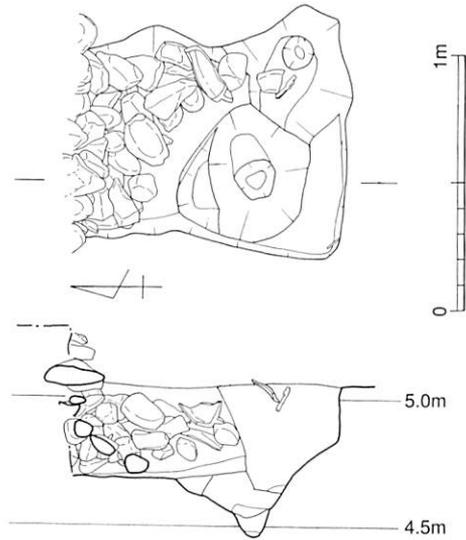
第37図 SK18 出土遺物実測図

SK26 (第38図) B区北部にあり、一部は調査区外に延びる。北部は礫が詰まる状態で、礫の上面は標高5.2mにある。南部は礫がなく、別の穴が重複したものである可能性が高い。

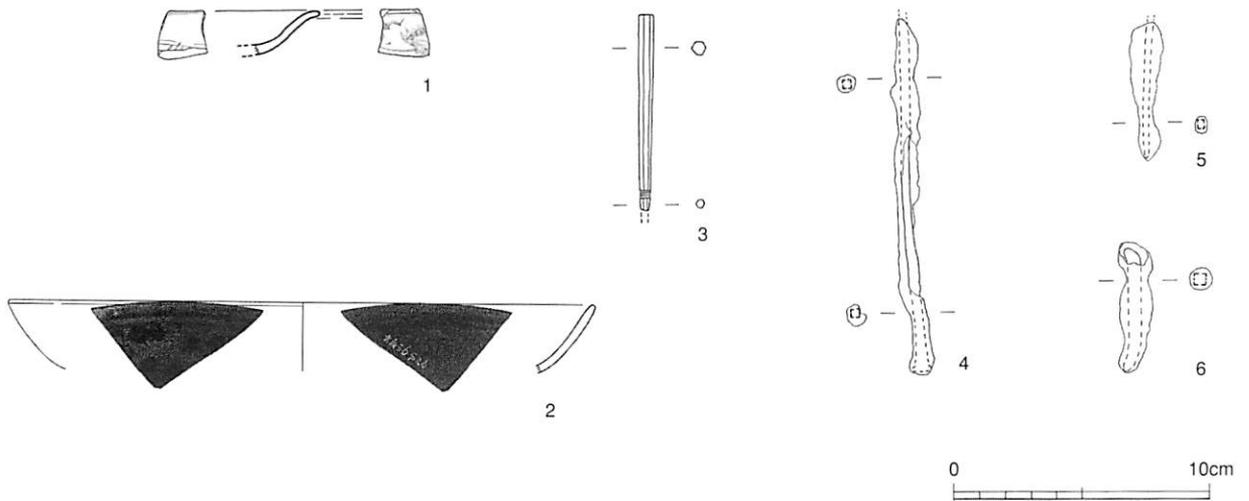
出土遺物 (第39・40図) 第39図1は中国景德鎮窯の青花皿。2は?洲窯系青花碗。3は青銅製品で鍵か。4~6は鉄釘。第39図1は石臼、2は瓦質火鉢、3は流紋岩製の変形砥石で、上下の二面をよく利用している。

SK27 (第5図) B区中央、SK36の北側にある小型の土坑である。

出土遺物 (第51図4) 赤間石製の硯である。上下両面使用可能。



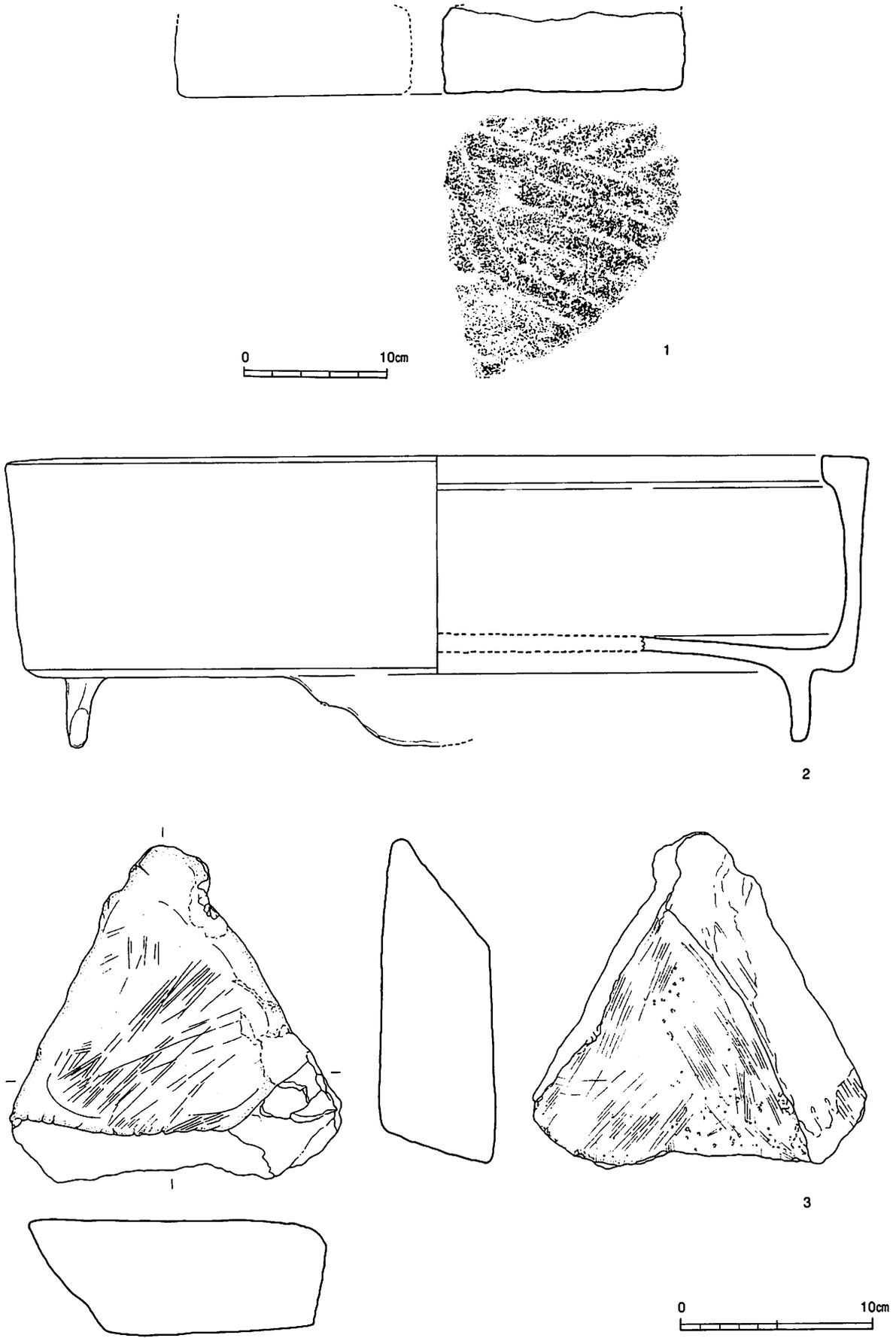
第38図 SK26 実測図



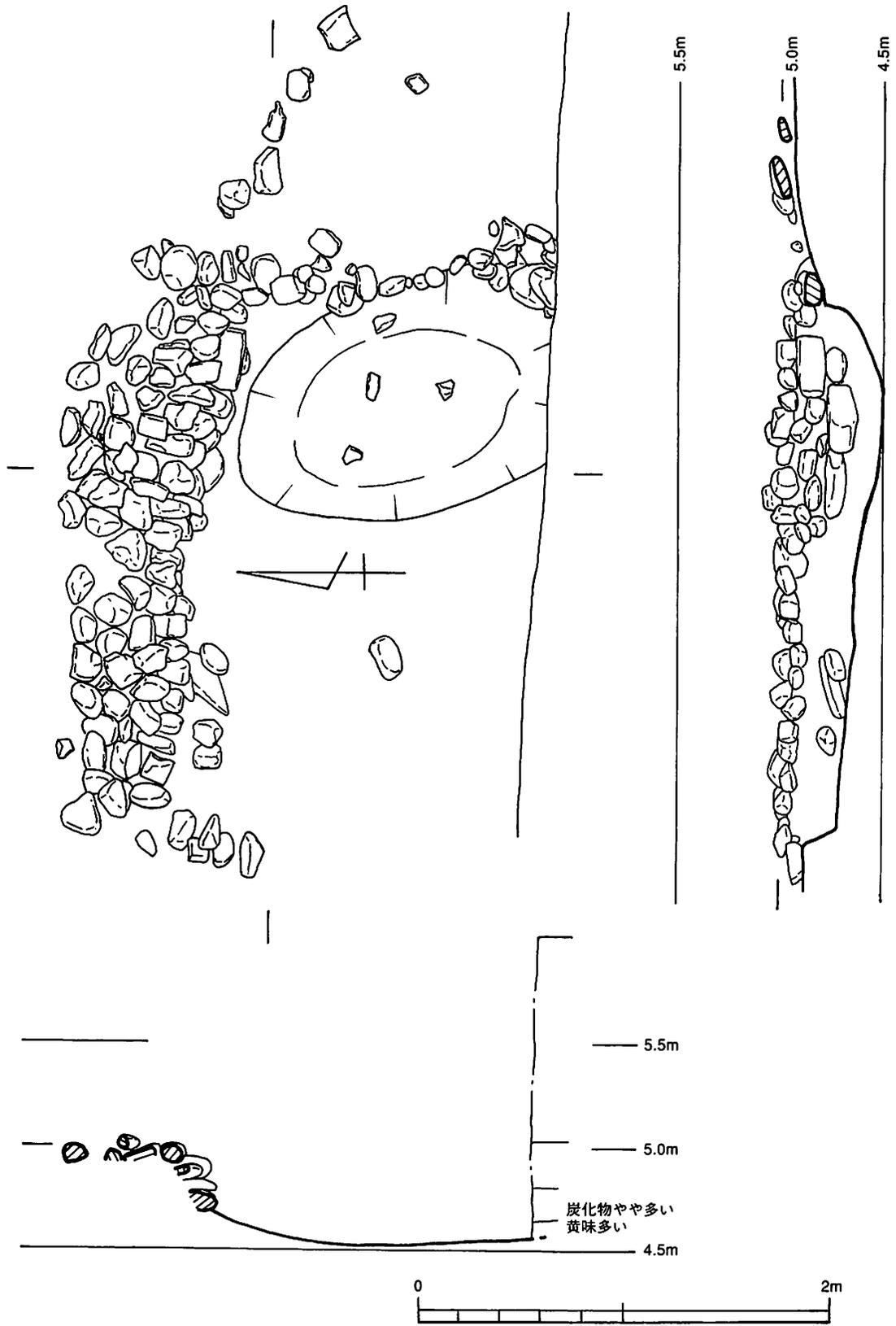
第39図 SK26 出土遺物実測図

SK51(第41図) A65区西部で検出した礫で二辺を囲まれた遺構である。東西約3m、南北は現状で2.9mである。内側に向いた礫は積み重ねた状態であった。方形竪穴の可能性が高い。調査区南側土層図(第3図)に標高4.9mから掘り込まれている。内部に炭化物・灰層が重複して流れ込んだ状態で堆積していた。16世紀前葉の京都系土師器が複数存在するが、近世1期の備前焼もみられるので、この段階に位置づける。

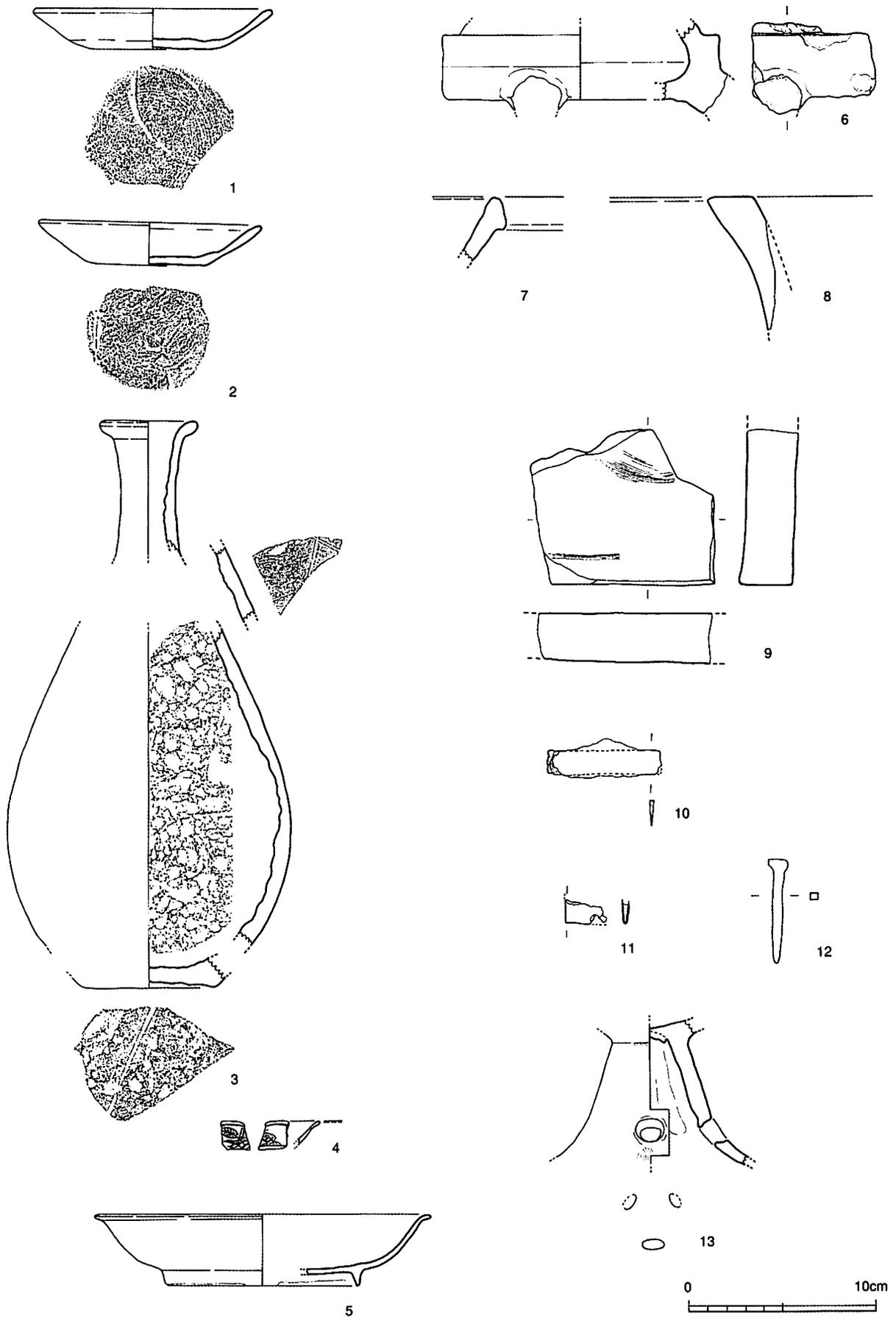
出土遺物 (第42・43・67図) 第42図1・2は胎土は京都系土師器的で、底部は在地的に糸切り



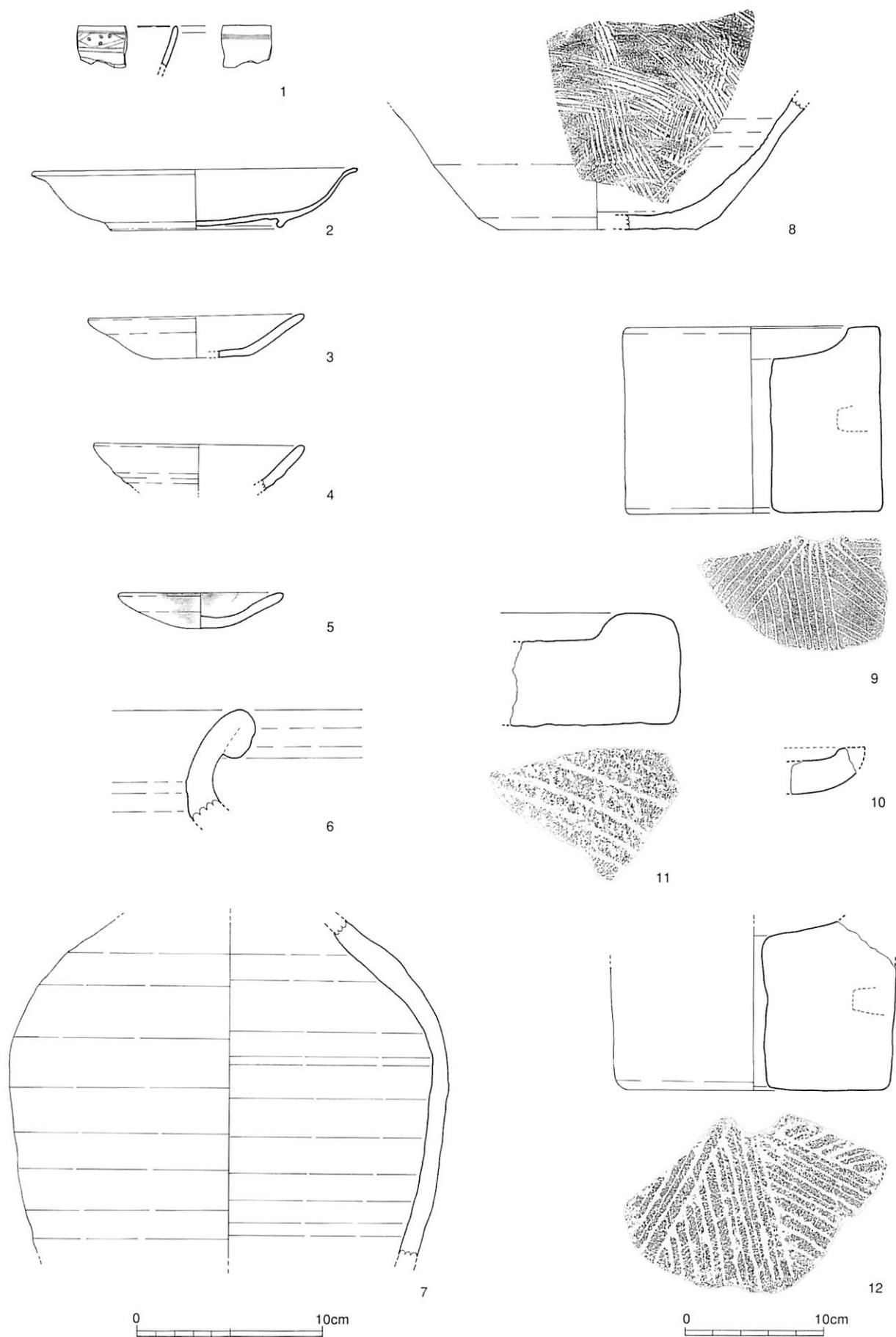
第40図 SK26 出土遺物実測図



第41図 SK51 実測図



第42図 SK51 出土遺物実測図



第43図 SK51 出土遺物実測図

底である。在地系土師器を造っていた職人が京都系土師器を模作した例であろう。3は備前焼瓶で、肩部と接地面にヘラ記号がある。4は青花皿、5は白磁、6は陶器香炉、7は土師質の東播系土器、8は瓦質風炉、9は?瓦である。10・11は青銅製品で、10は小刀。12は鉄釘、13は古墳時代の高坏。第43図1は景德鎮青花、2は白磁皿破片は、別にSK2に1片、SP1011に4片、A64区包含層に6片分散していた。3・5は京都系土師器、4は在地系土師器。6～8は備前焼、9～12は石臼。9と10はきめの細かい岩質で、おそらく近畿産。11は凝灰岩製、12は安山岩製である。第70図1は土師質の燭台。

SK52 (第66図) B65区東部で検出した礫の詰まった土坑である。

出土遺物 (第67図) 2は青磁、3は在地系土師器、4は備前焼の交叉播目播鉢。5は瓦質土器の鍋、6・8は備前焼で6は甕、8は瓶。7は瓦質土器の風炉。9は花崗岩製石臼である。

SK55 (第70図) B64区で検出した礫の詰まった土坑である。SK38とSK67に挟まれた位置に検出した。

出土遺物 (第72図1～4) 1はタイ製四耳壺である。この個体は破片の過半数はここにあったが、他にもSK10・29・37・54・67や包含層にも分布していた。最大径37cm、底径20.4cm、現存高38.4cmで、胴部下半には軸が掛からない。2は近世1b期の備前焼播鉢。3は砂岩製の石臼。4は結晶片岩製の砥石。

SK56 (第82図) C区西部、SK63の東北側で検出した礫の詰まった土坑である。時期の判明する遺物はない。

SK57 (第82図) C区、SK63の東南に位置する礫の詰まった土坑である。

SK58 (第92図) C区中央に位置する不整形土坑である。

出土遺物 (第83図1) 1は瓦質土器の皿。16世紀後葉の豊後以外からの搬入品である。

SK62 (第5図) B区の東端、SK55とSK64の間に位置する礫の詰まった長さ1.2m、幅0.6m、深さ0.35mの土坑である。

出土遺物 (第89図8) 8は天草砂岩製砥石で、長い四面を使用している。

SK63 (第65図) C65区で検出した礫の詰まった土坑である。

出土遺物 (第65図) 1・4は3期の京都系土師器。3は近世1期の備前焼播鉢。5は瓦質の鍋。

SK67 (第84図) B区とC区にかけて検出した礫が詰まった土坑である。土坑は1.45m×1.0mの平面規模で、深さは0.3mである。人工的な出土遺物はない。

SK70 (第92図) C区南部で検出した。掘り下げの結果、二基の土坑が重複していた。

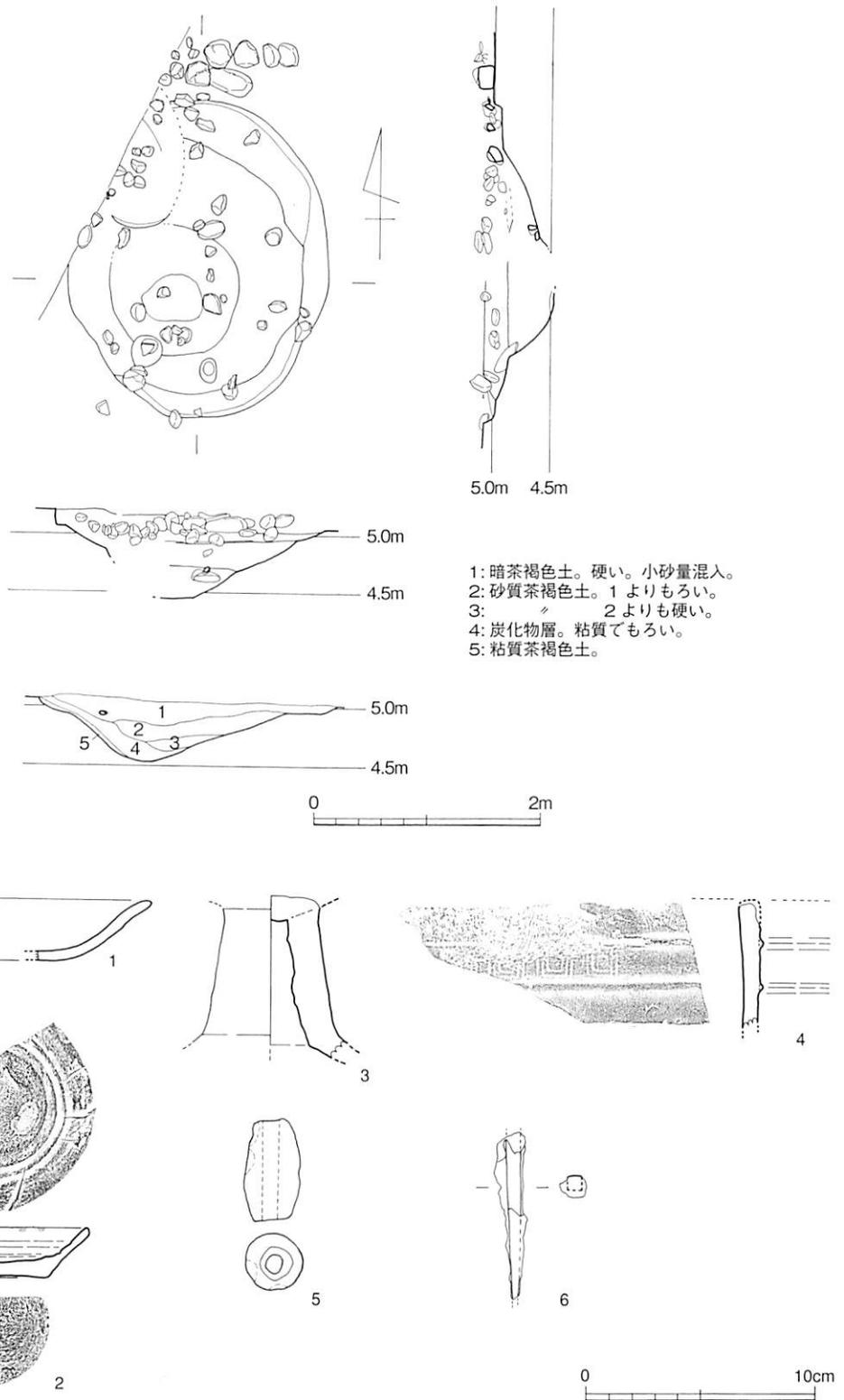
出土遺物 (第93図1) 備前焼の壺である。

○ 16世紀中葉から後葉の遺構と遺物

概要 この段階は京都系土師器の2期の存在を主な特徴とし、ロクロ目の土師器は存在しない。井戸1基・土坑2基があるだけで、遺構は少ない。

SK20 (第44図) D区南部で検出した長さ2.75m、幅2.3mの円形土坑で、皿状に窪む。北西部が欠けているのは、中世道路に対して直交する試掘溝を入れたため、削ってしまったためである。標高5.1mで検出した。

出土遺物 (第44図1～6) 1は2期の京都系土師器の皿、2は内面にロクロ目を残す在地系土師器皿、3は古墳時代の高坏、4は瓦質火鉢、5は土師質の土錘、6は鉄釘である。



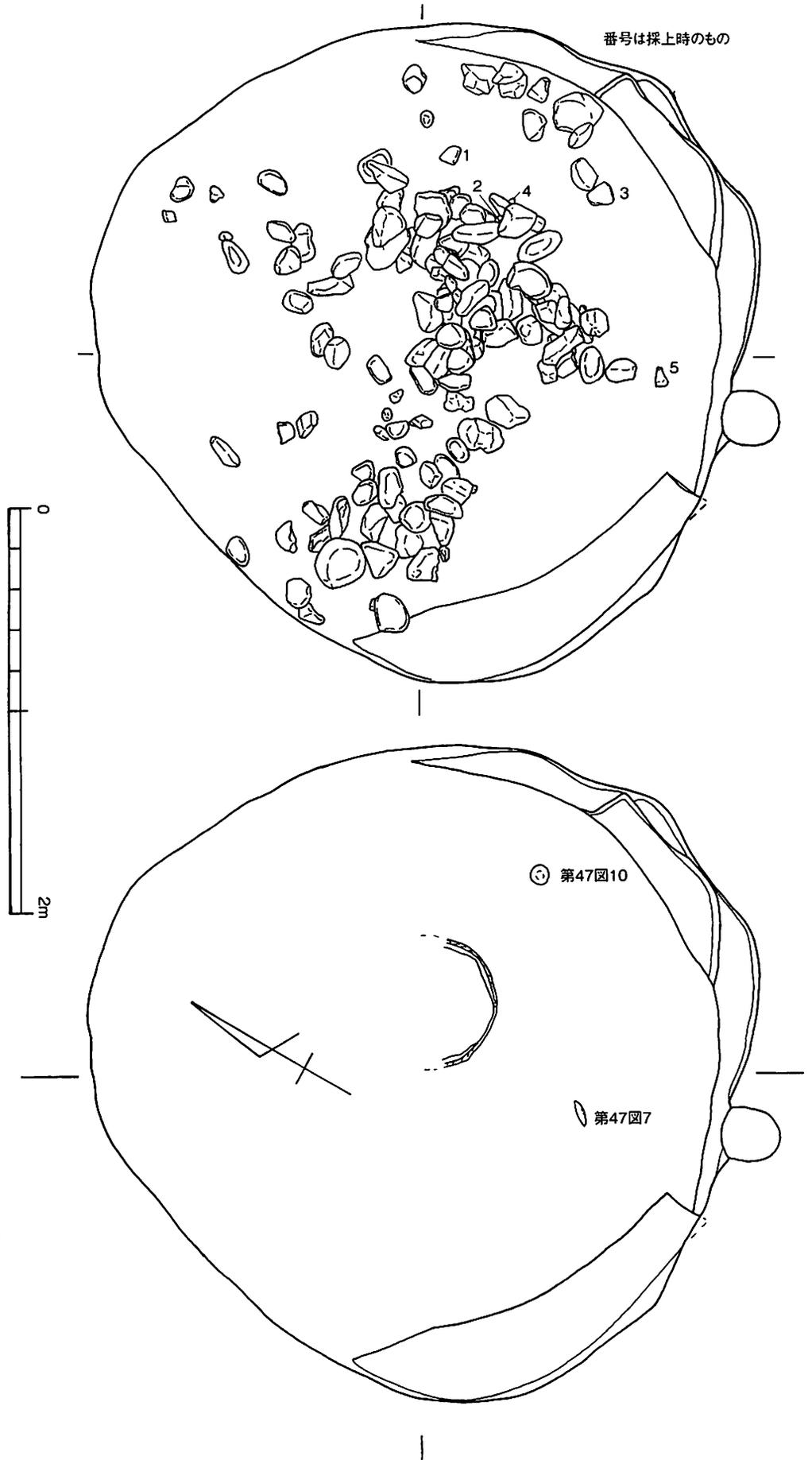
第 44 図 SK20 遺構及び出土遺物実測図

SE24 (第45・46図)

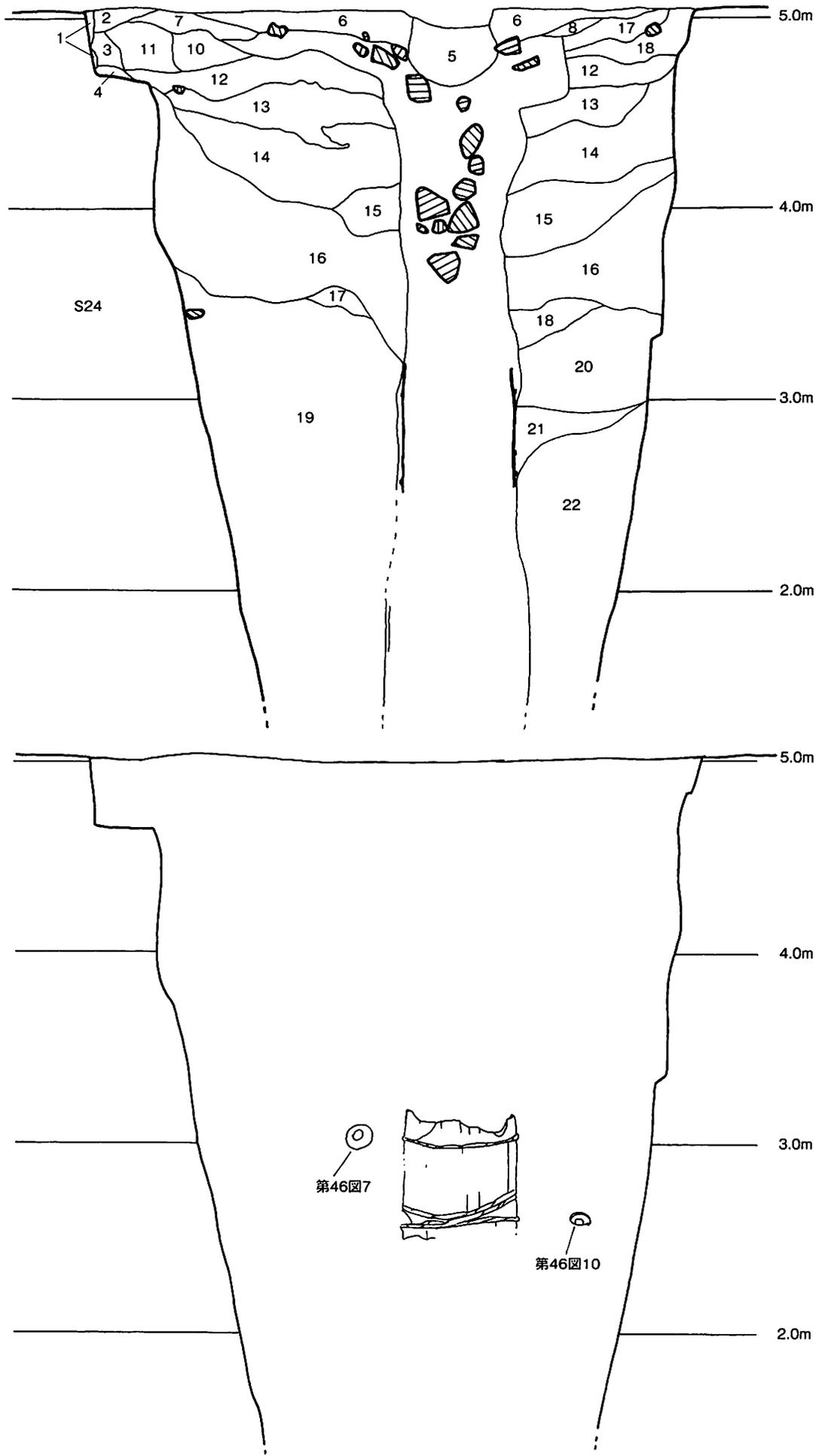
A64区にある。桶重ねの井戸側が下部に残っていたが、縦割り調査中に崩落したので図は途中までである。掘方内から完形品の2期の京都系土師器2点が出土した。一気に埋め立てた埋土の19・20層に該当し、その際呪術的な意味で埋納したのであろう。井戸作製時期を示す珍しい例である。その2点は第40図7と10である。井戸側の内部から漆器椀が出土している(第49図)。

出土遺物(第47～50図)

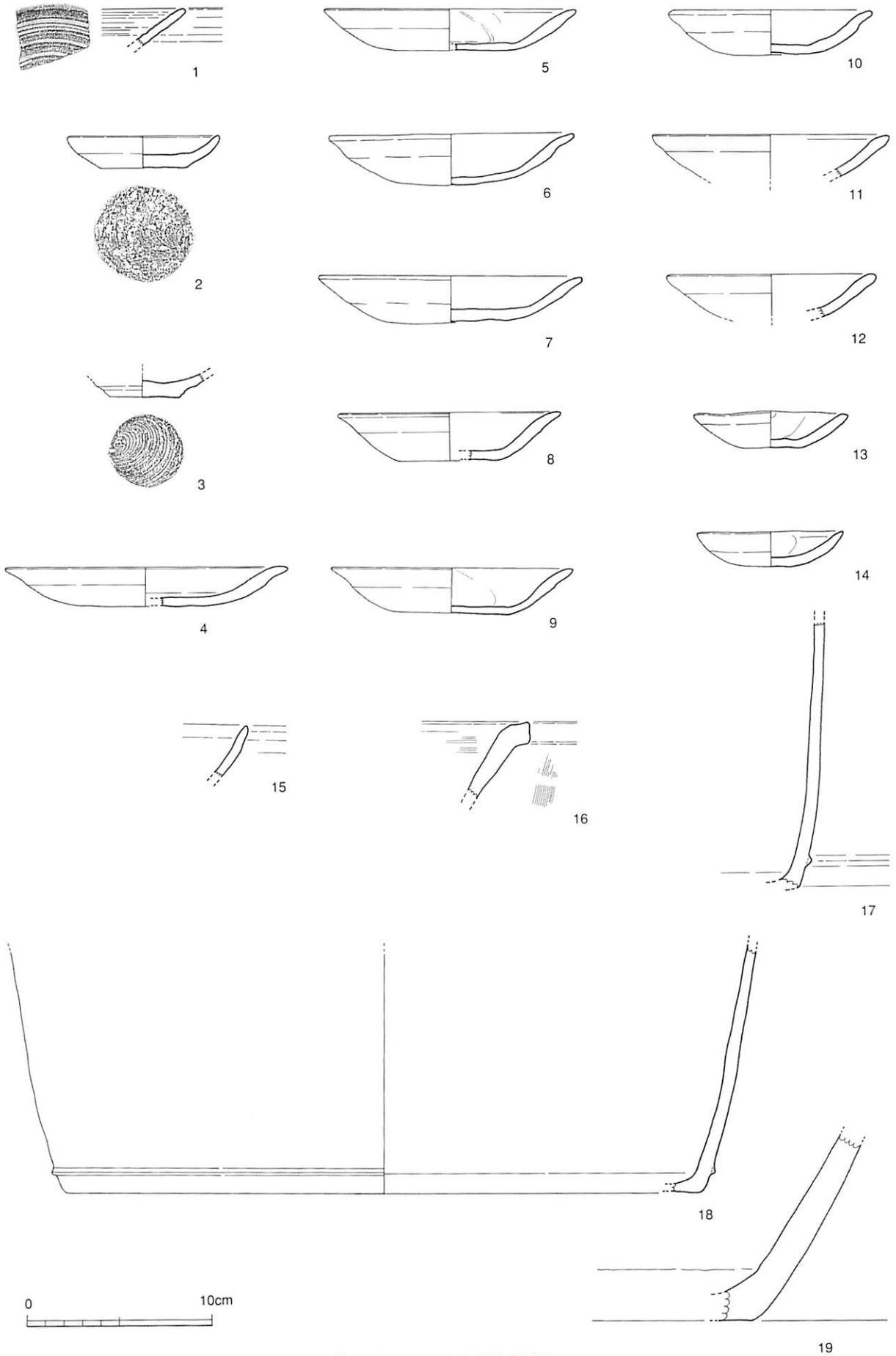
第40図1～3は井戸側の裏込めから出土した在地系土師器、4～14は京都系土師器である。7・10は井戸側を設置する時に、外側を埋め立てた際に埋納したものか。平面図(第45図)・横方向の投影図(第46図下)に示すように、第19層と第22層という同時に埋められた土に含まれている。15は天目碗、16～18は瓦質土器で、16は鍋、他は火鉢である。19は備前焼甕である。第48図1は掘方出土のB群の青花皿。2・3は碁笥底をなすC群の皿で、見込みに寿字が描かれる。4は井戸側内出土。1～5は中国? 洲窯製の青花。5は掘方出土。6は鉄鍋で、口径28.0cmである。第49図は漆器椀・皿



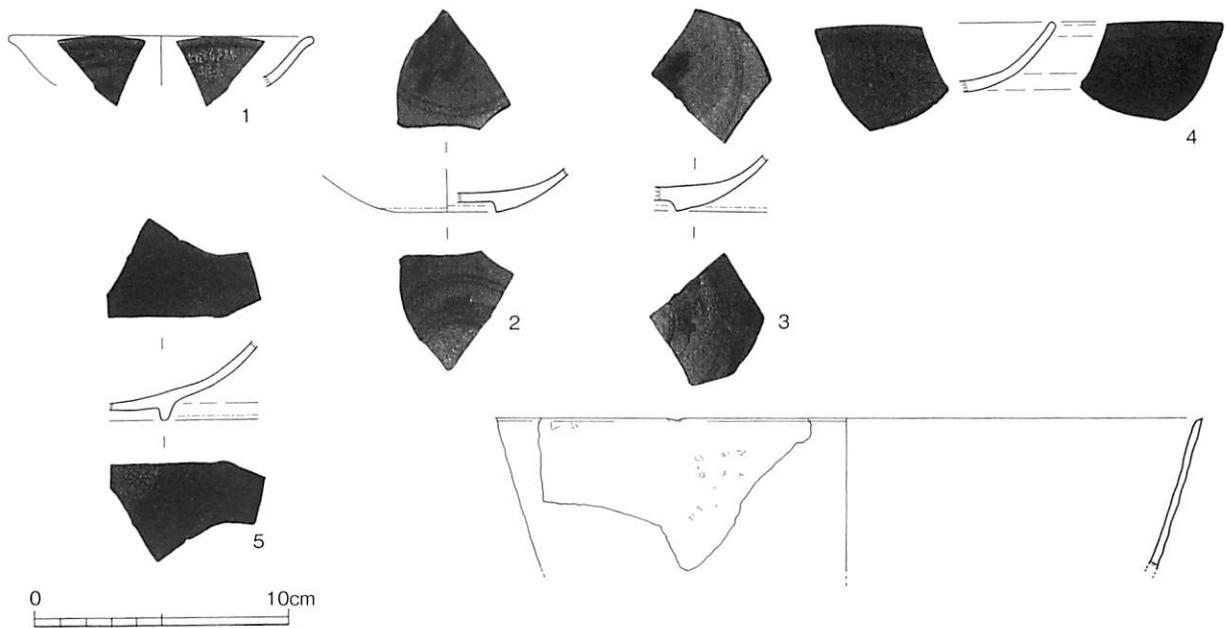
第45図 SE24 上部磔出土状況・井戸側検出平面図



第46図 SE24土層図・井戸側側面図



第47図 SE24 出土遺物実測図



第48図 SE24 出土遺物実測図

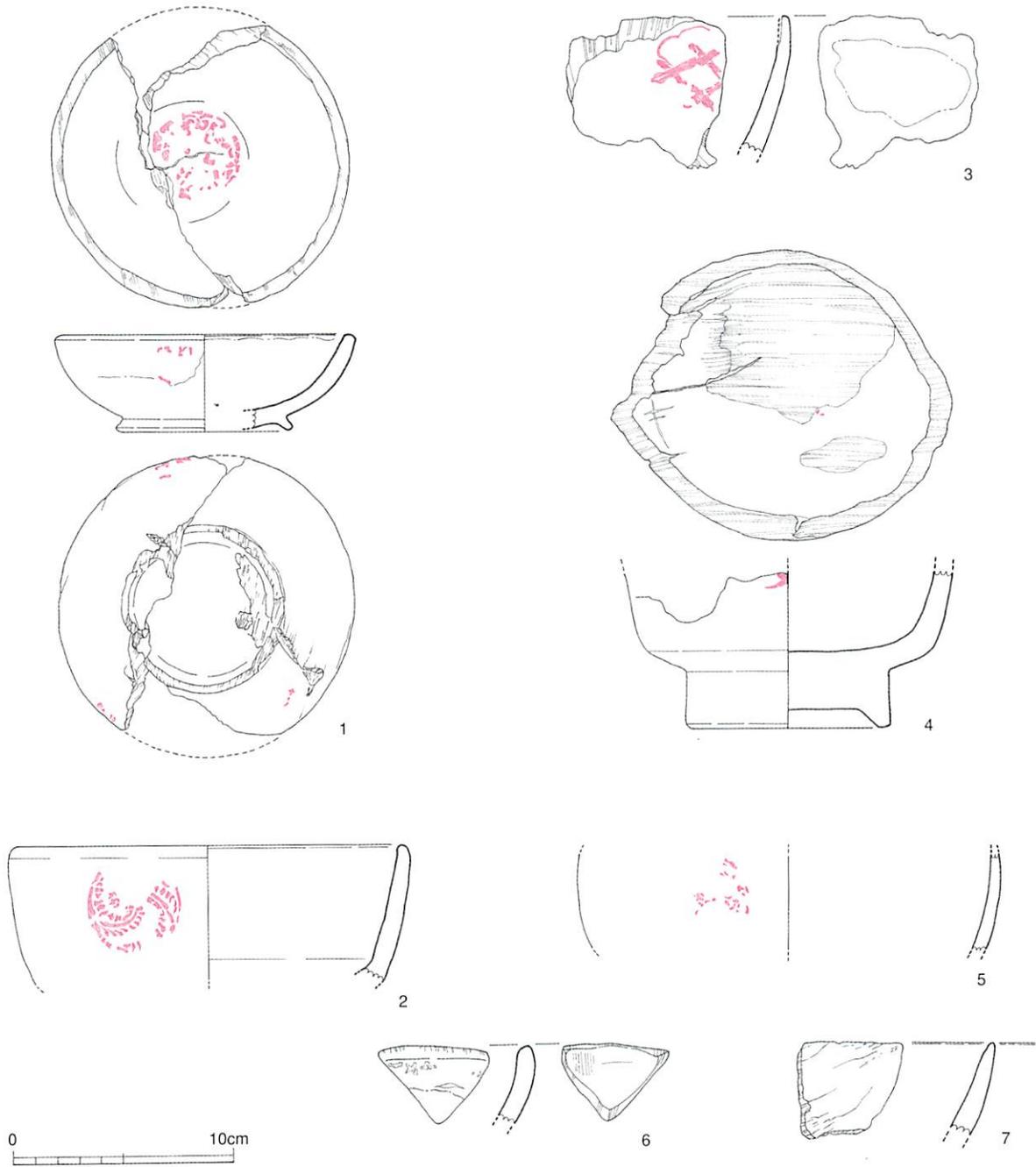
である。器形は立ち上がりが直線的な2・4・7と湾曲気味のその他に分かれる。1は口径13.4cm、器高4.3cm、高台径7.4cmの皿。見込みと外面に赤色の紋様がある。2は底部を欠く椀で、外面に赤色の紋様をもつ。3は口縁部の小片で、外面に赤色の「井」を押し潰したような紋様をもつ椀。4は底部が厚く、高台が垂直に近く立ち上がる椀で、見込みと外面に赤色の紋様が少し残る。5は器壁が薄く、外面に赤色の紋様が少し残る。6・7には紋様は認められない。第43図1～3は木製品で、1は六面を削り平坦にしている。発掘時の傷が二面に残る。3・4は棒が折れたもの。4は鉄釘。5は凝灰岩製で、五輪塔の部材。6は中国銭の咸平元宝。

SK30 (第52図) Y64区中央にある長さ2.08m、幅0.72m、深さ0.42mの楕円形土坑である。出土小片がSK72出土の石臼と接合した。

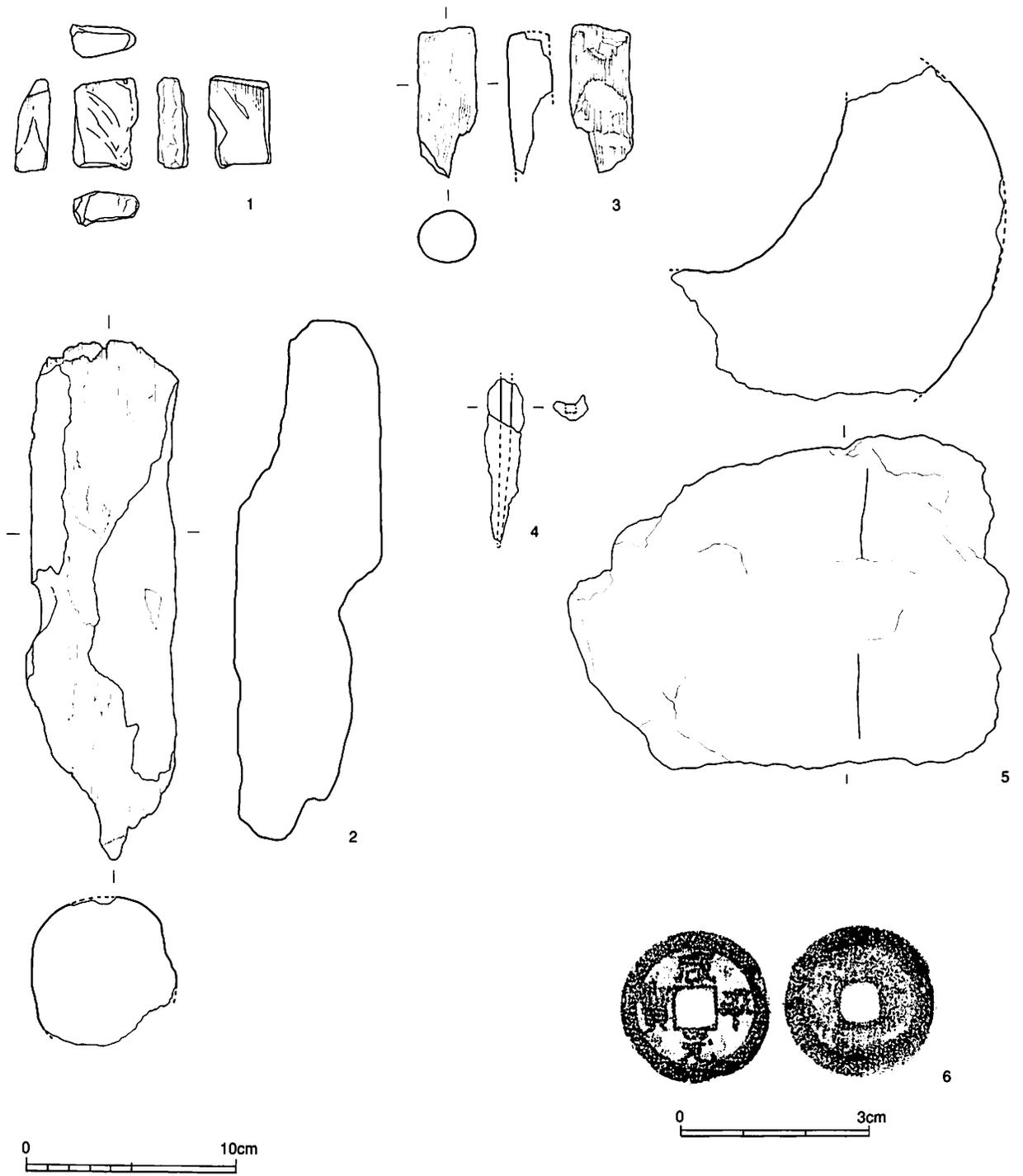
出土遺物 (第53図1～4) 1は京都系土師器皿。2～4は鉄釘。

SK34 (第54図) Z65区東端にある半分だけ調査区にある円形土坑である。現状で幅3.1mあり、深さは0.6m、中央に向かって窪む。多量の礫と共に図示する遺物が出土した。廃棄土坑、ゴミ穴である。遺物には16世紀末葉のものはないが、もう少し古い後葉であるのかは不確定である。

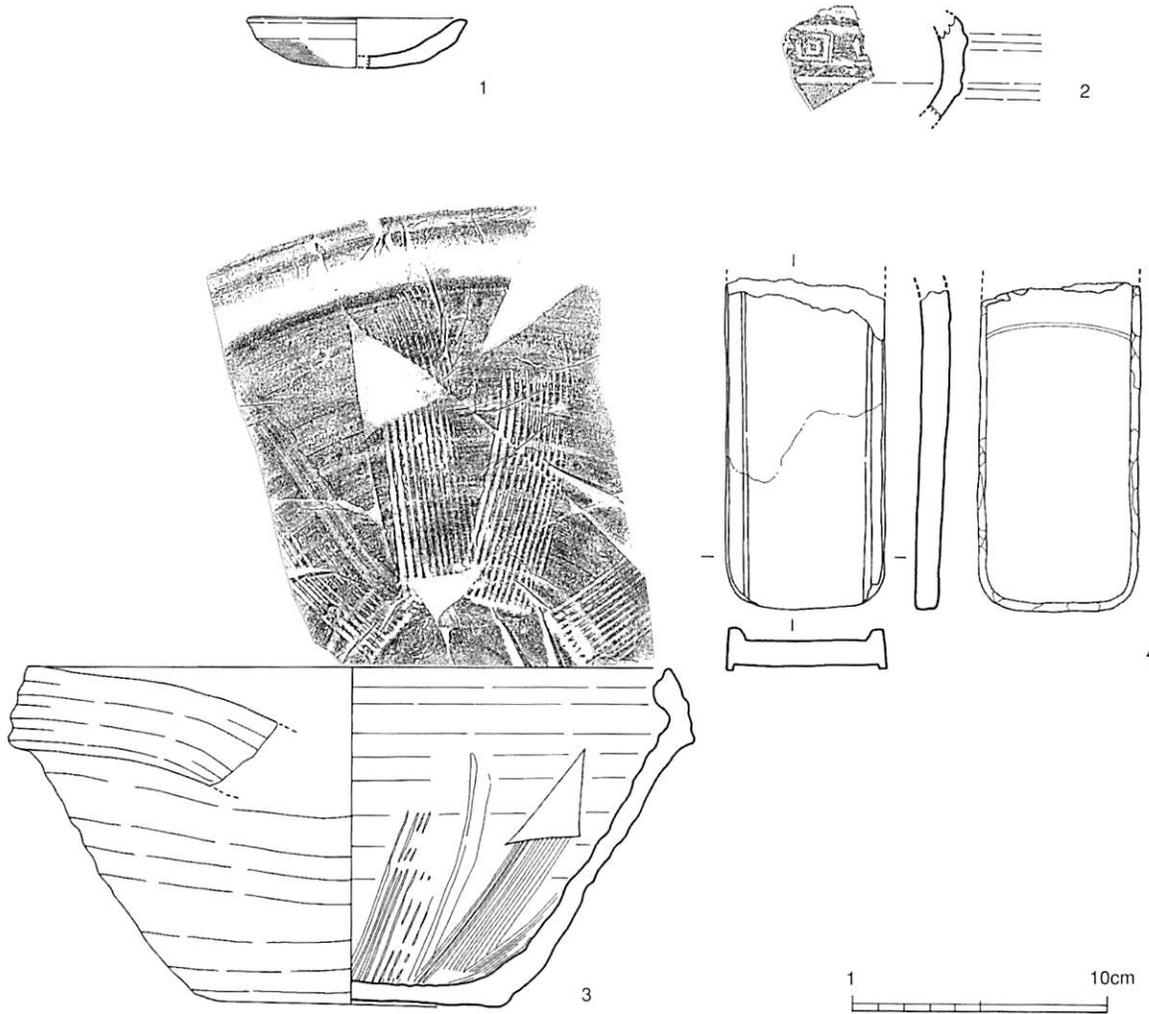
出土遺物 (第56～59図) 特徴的なのは金属関係の作業用具で、埴塼8点があり、第54図7・9は内面に金属の溶融物が付着する。第57図1の風炉は口縁部上端が剥げているが、整形時に横方向に指押さえた跡が残る。4は龍泉窯系青磁碗。6は鞆の羽口である。



第49図 SE24 出土遺物実測図



第50図 SE24 出土遺物実測図



第51図 SK27・SK29 出土遺物実測図

SX35 (第60図) A64区の北西で検出した礫群である。長さ2m、幅1.2mにわたり平面的に礫が集中していた。

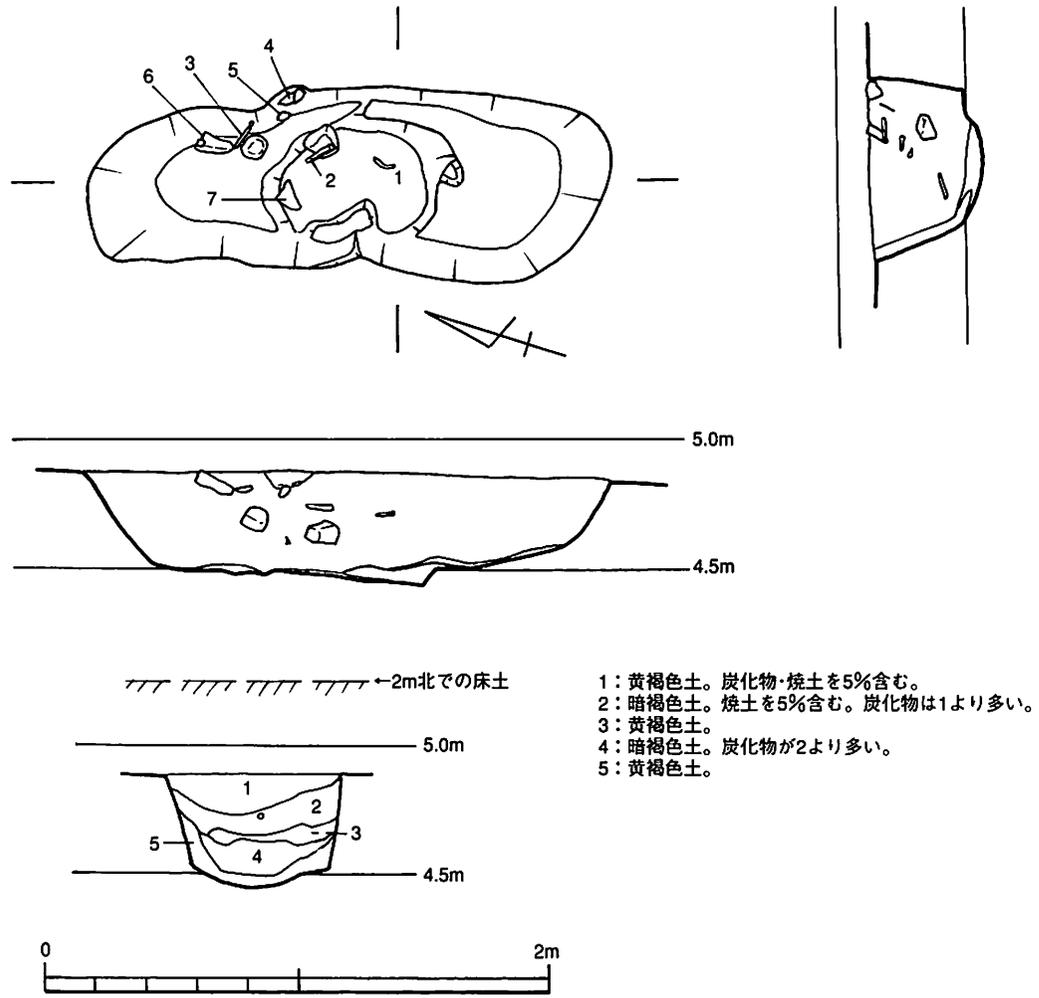
出土遺物 (第61図5) 天目碗である。

SX36 (第60図) B区中央の標高5mで検出した長方形気味の土坑である。浅い土坑と重複した状態で、南側もこの土坑ではない。長さ1.85m、幅1.1m、深さ0.7m。

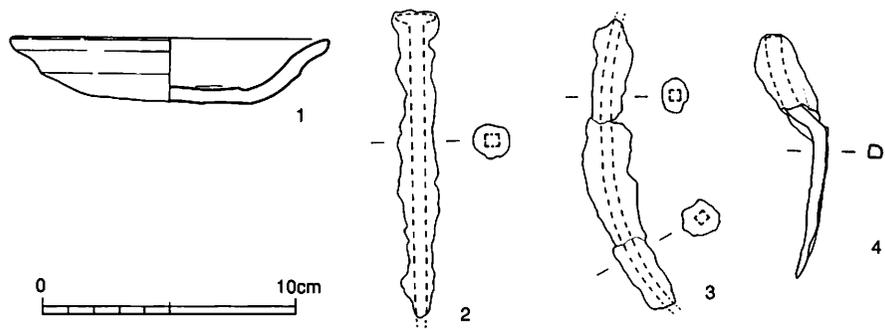
出土遺物 (第61図1~4) 1・2は中国景德鎮窯青花。2の破片がSK118からも出土した。3は土錘、4は備前焼。

SK38 (第62図) B区に位置する礫が詰まった長さ1.93m、幅1.04m、深さ0.3mの楕円形土坑である。

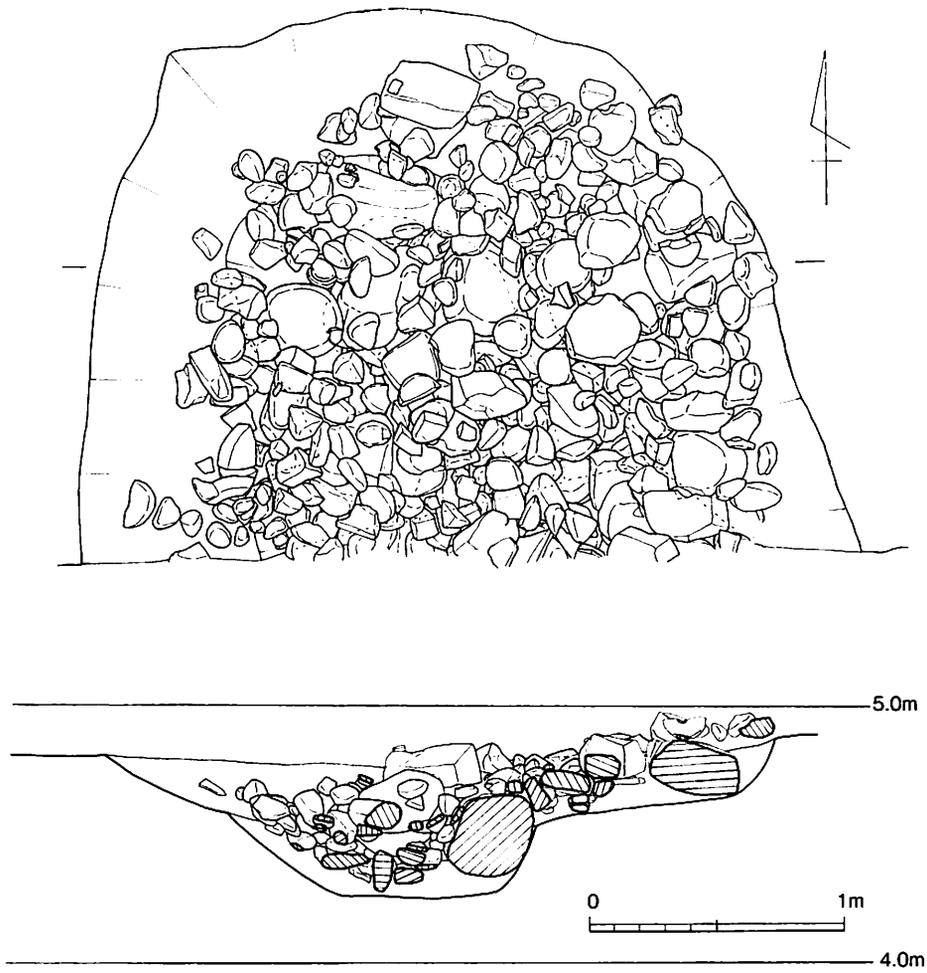
出土遺物 (第63図・64図) 1~4は同一個体の備前焼壺である。5は14世紀の備前焼播鉢、6は天草砂岩製砥石で、長い四面を使用している。7は鉄釘、8は埴瓦。第64図1は備前焼播鉢。2は凝灰岩製で容器状に窪み、一部貫通する。3は凝灰岩製石臼で、SK34から出土した破片と接合した。



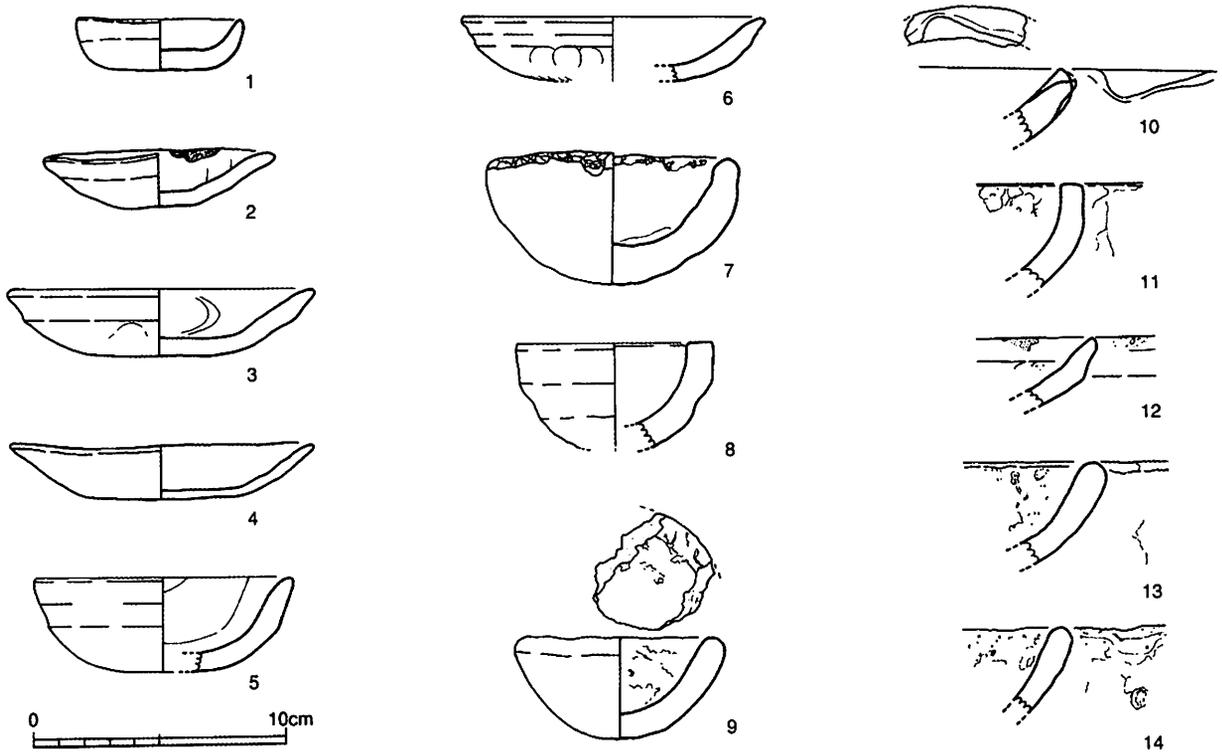
第52図 SK30 実測図



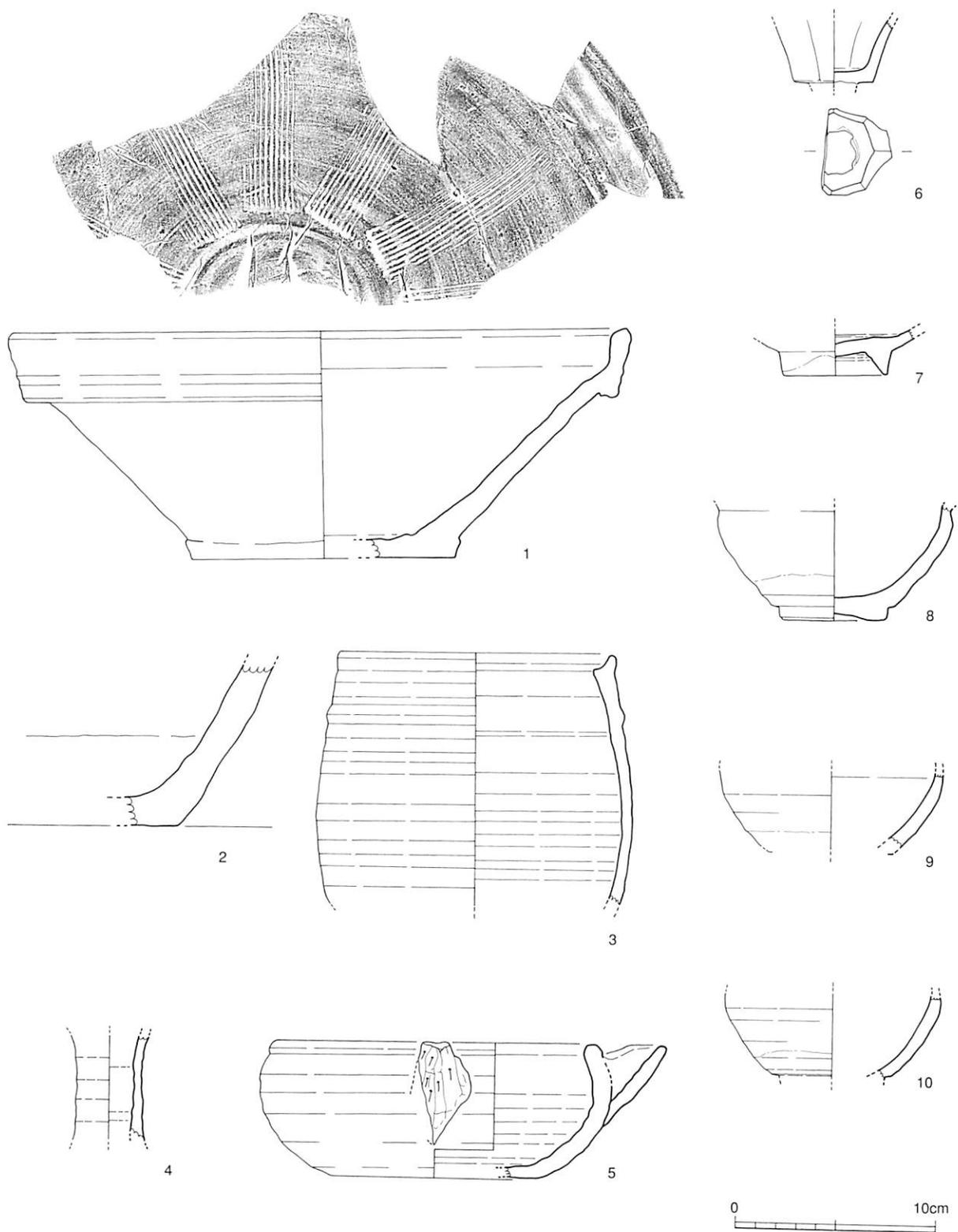
第53図 SK30 出土遺物実測図



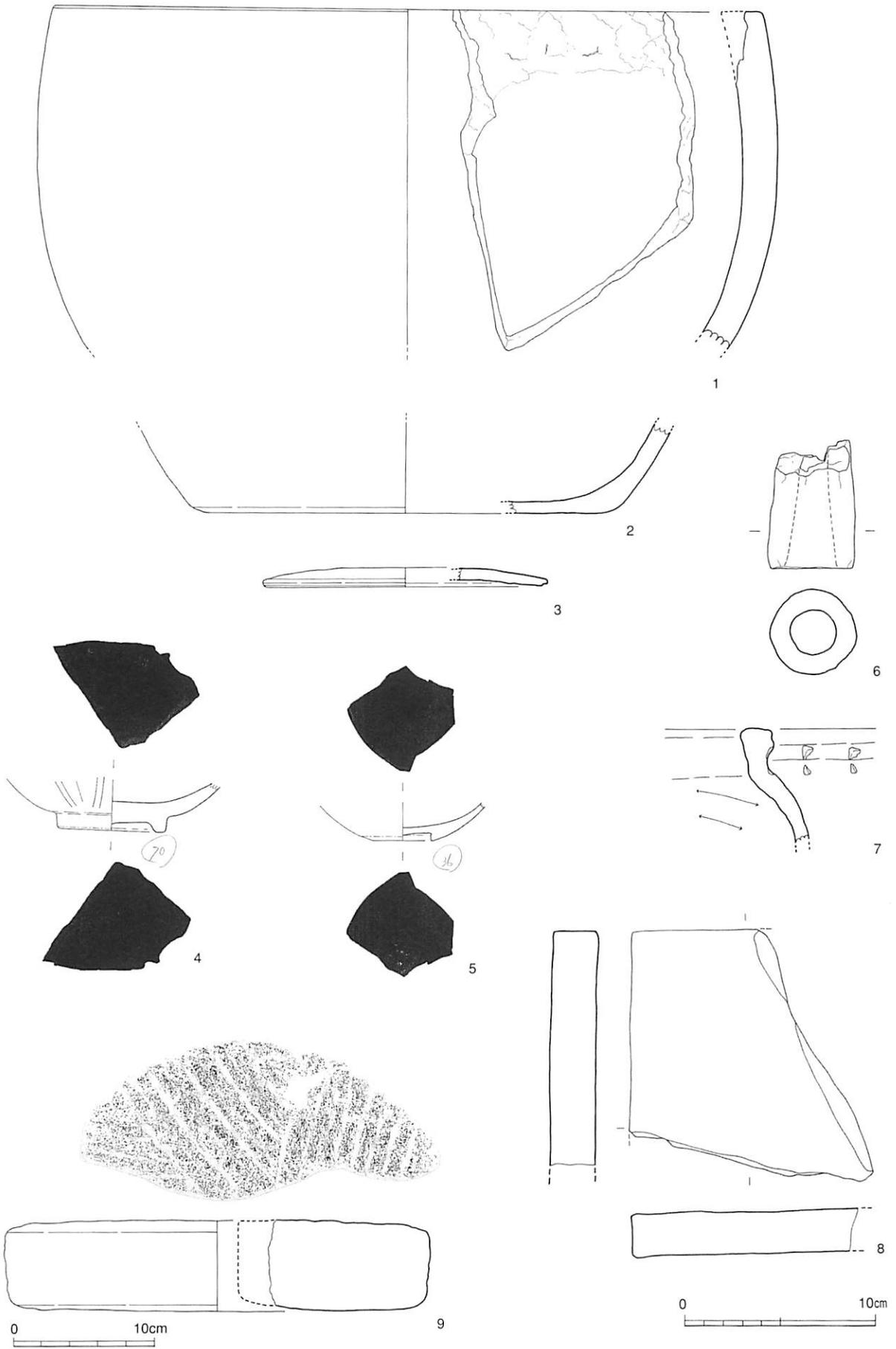
第54図 SK34実測図



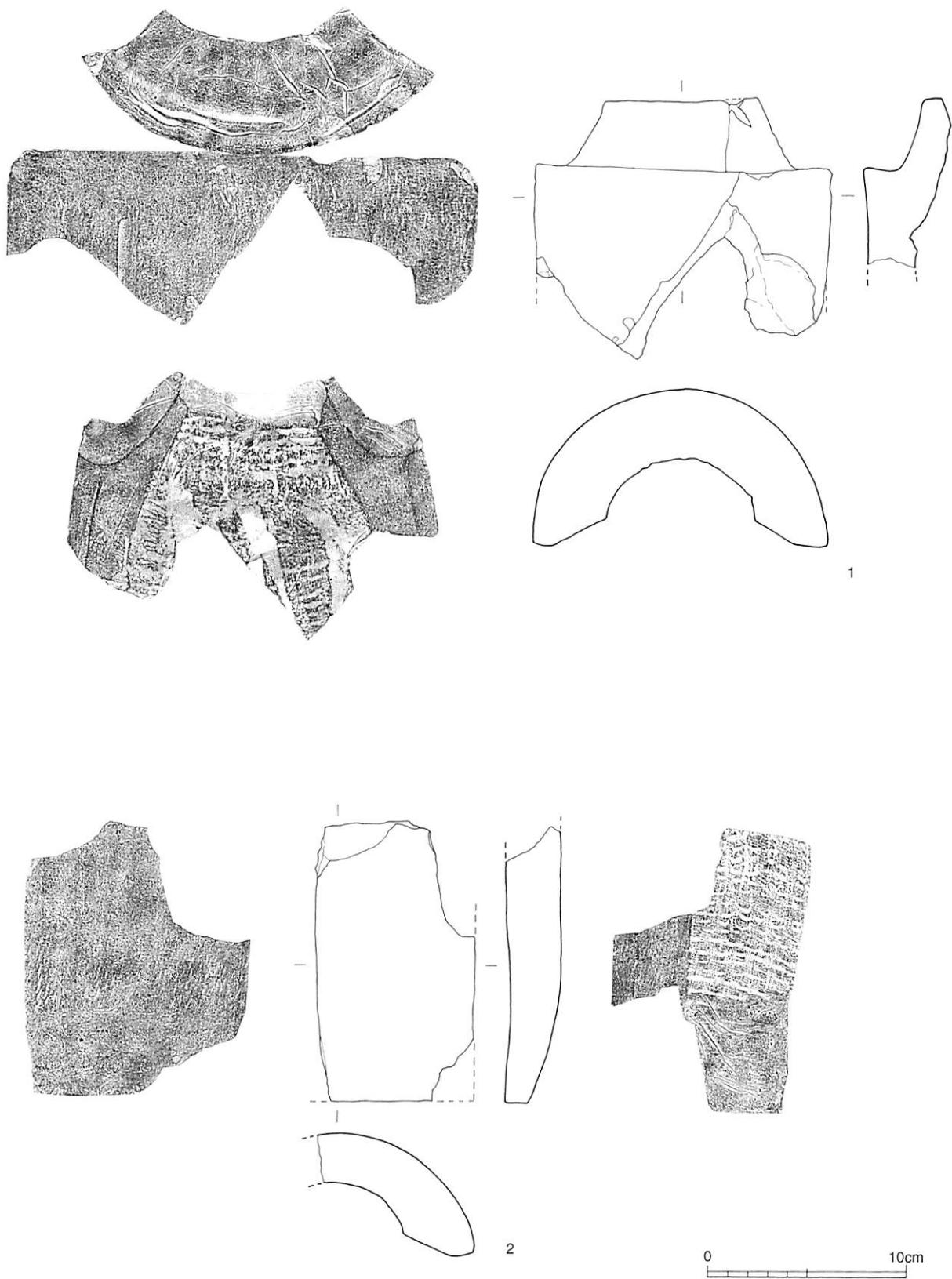
第55図 SK34出土遺物実測図



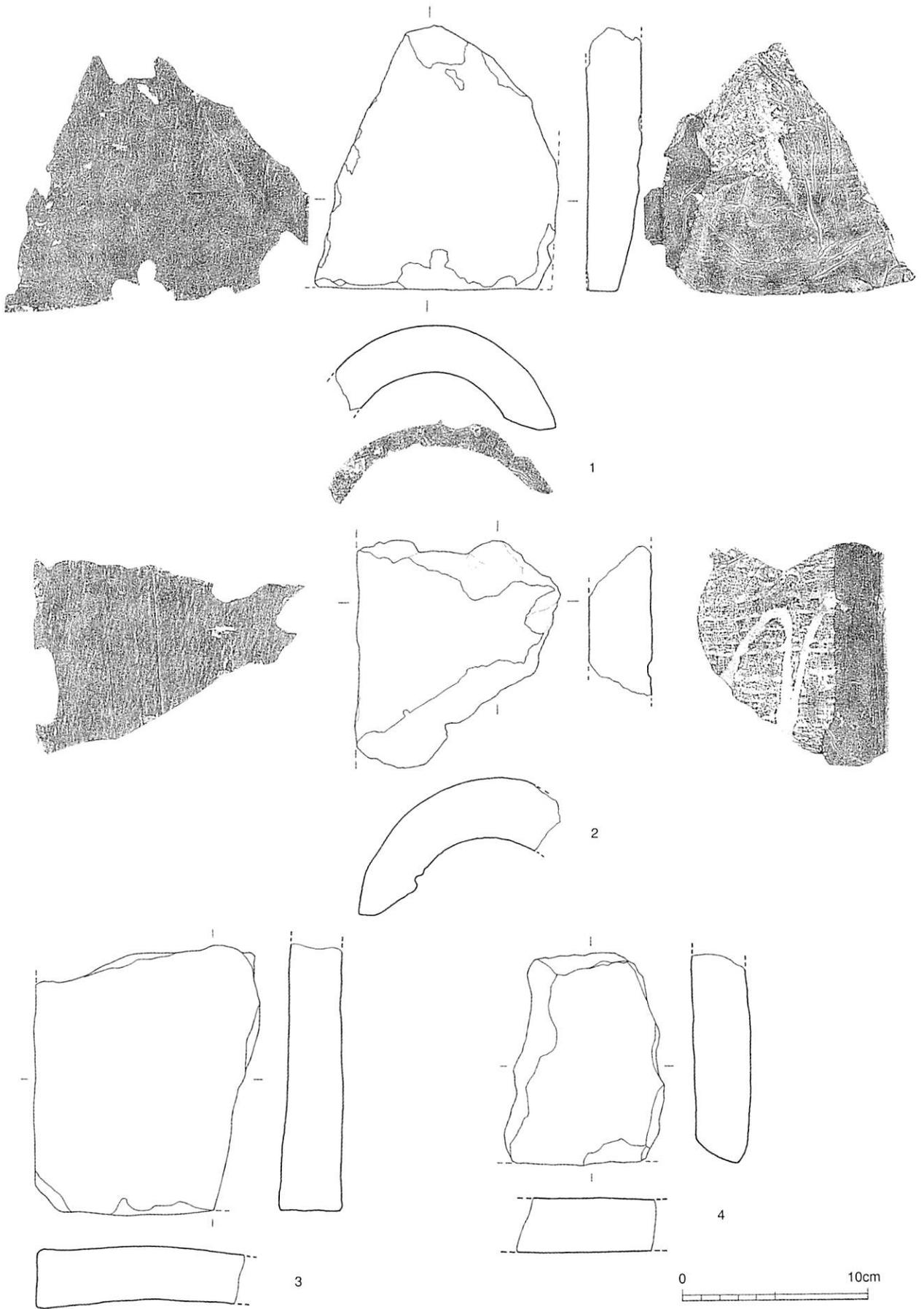
第56図 SK34 出土遺物実測図



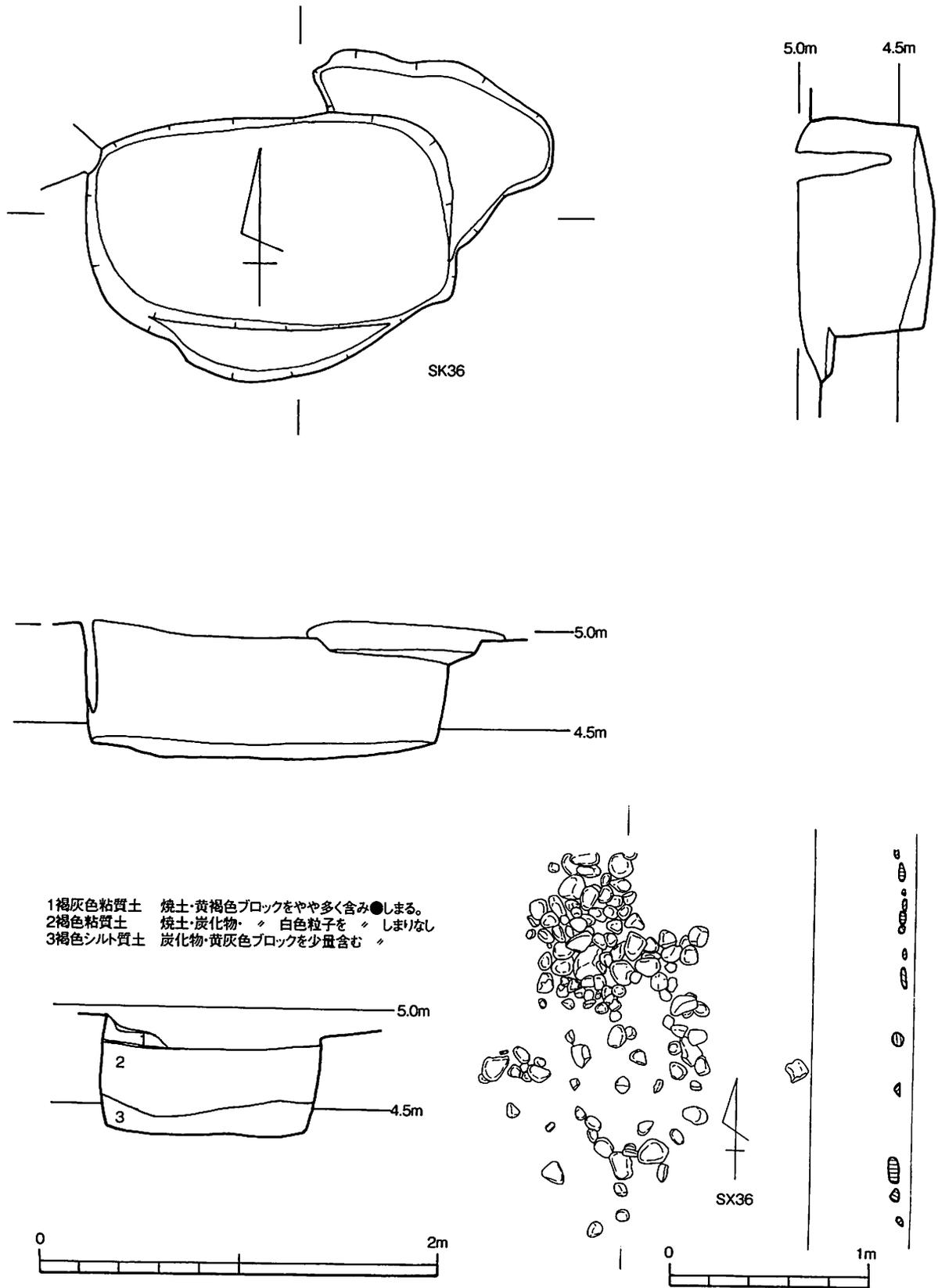
第 57 図 SK34 出土遺物実測図



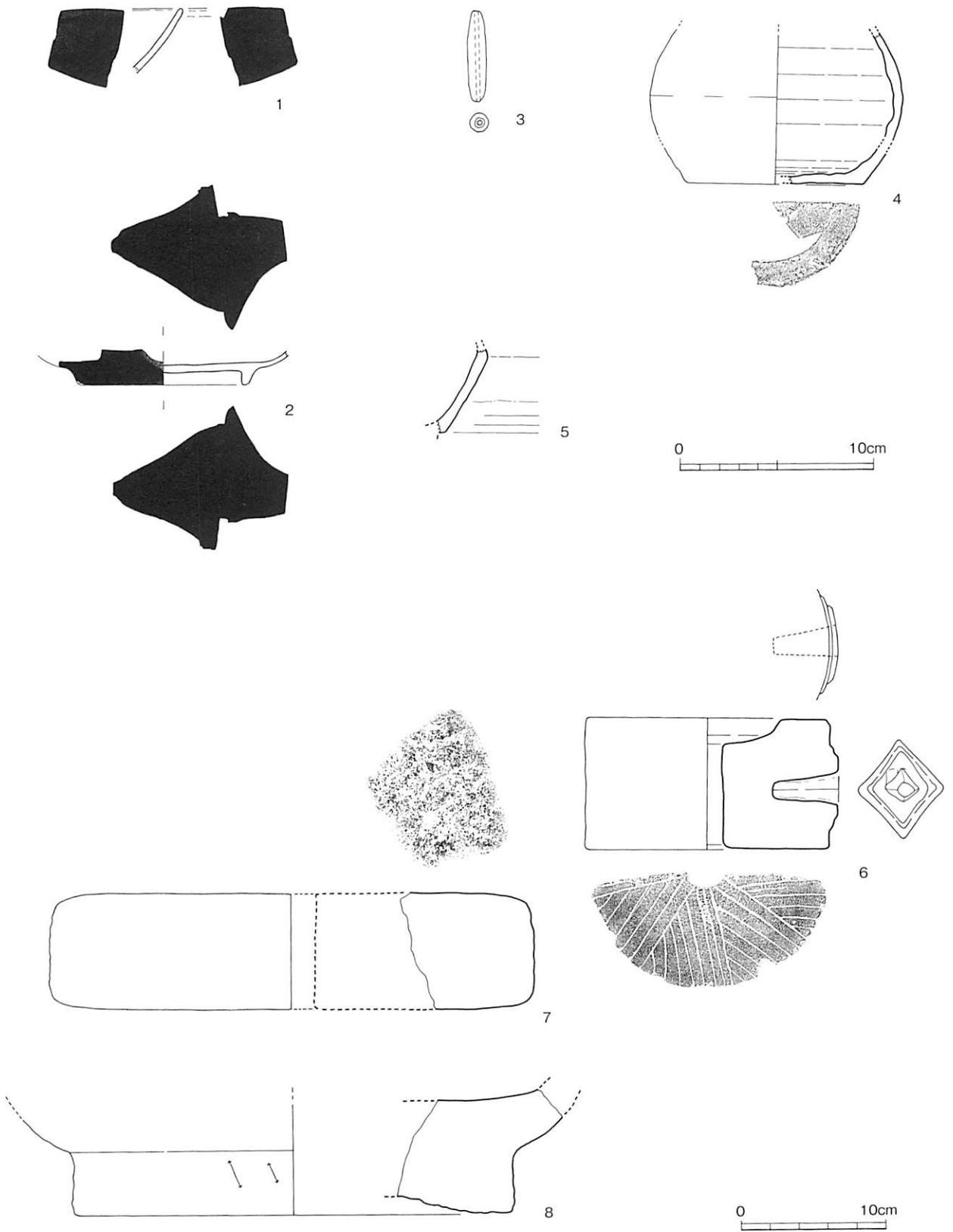
第 58 図 SK34 出土遺物実測図



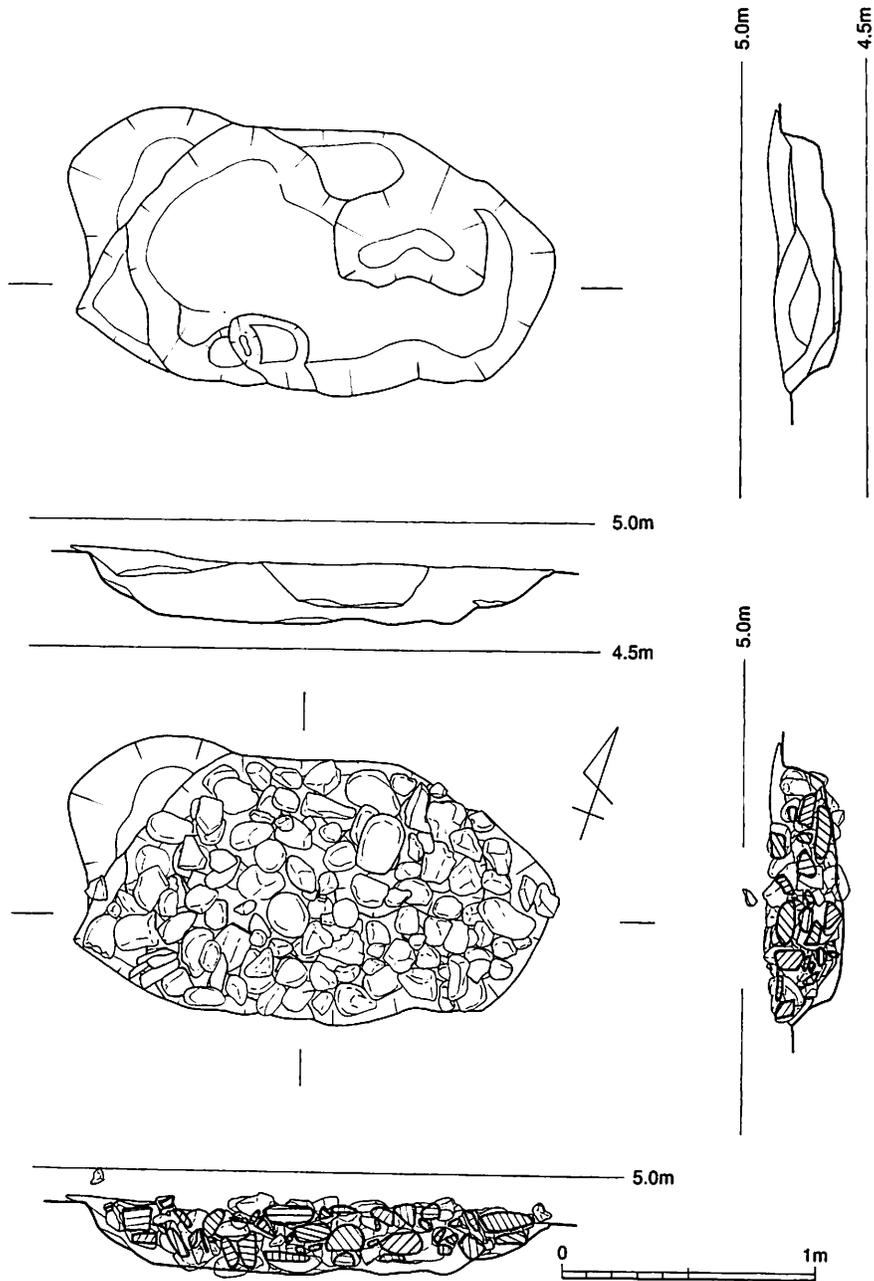
第59図 SK34 出土遺物実測図



第 60 図 SK35・SX36 実測図



第61図 SK35・SX36・SK37 出土遺物実測図



第 62 図 SK38 実測図

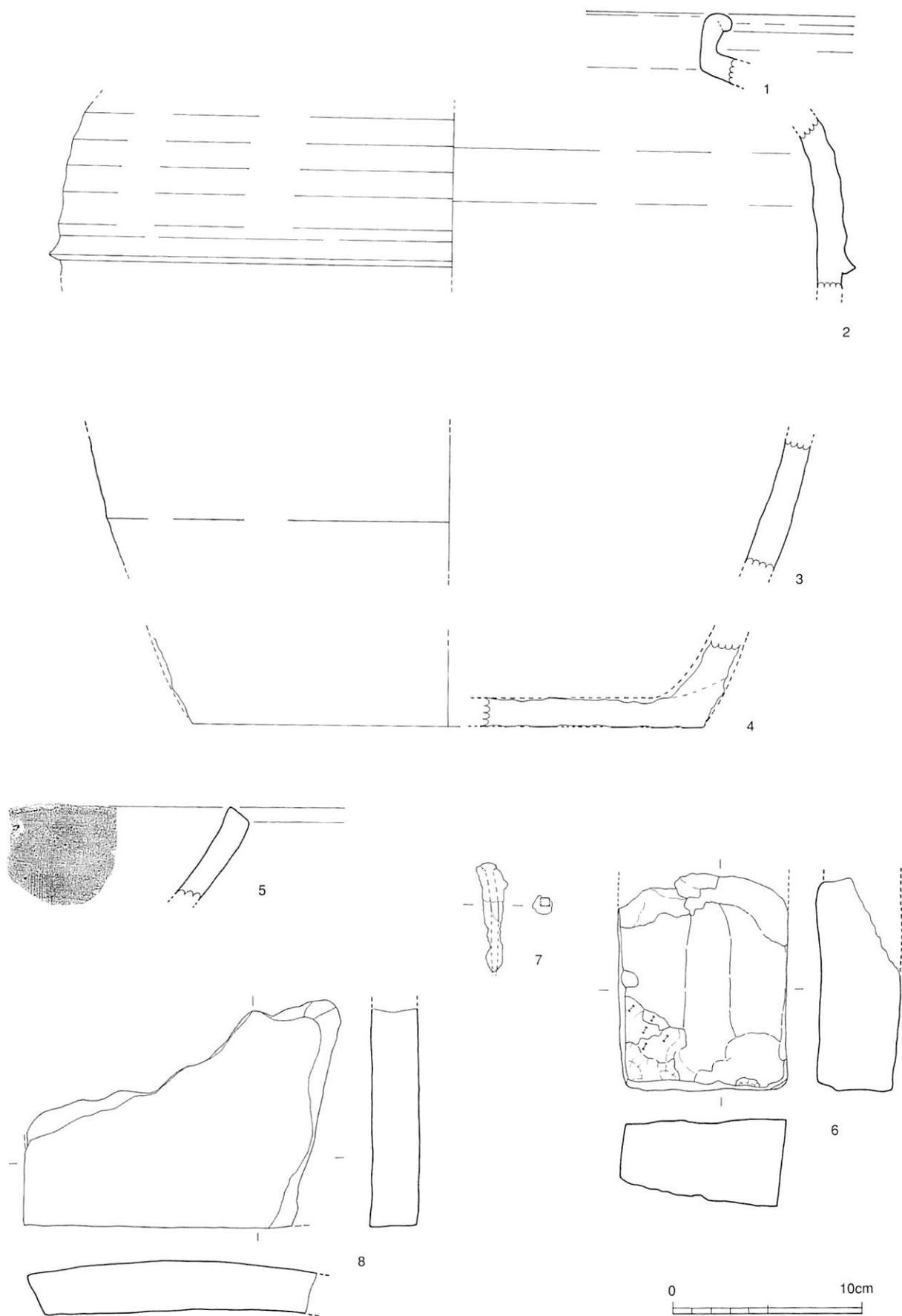
SK48 (第5図) F区南端の調査区外にかかって標高5m前後で検出した遺構である。出土遺物がないが、この時期に位置づける。

SK45 (第5図) E区東部でSD7に切られた小型土坑である。

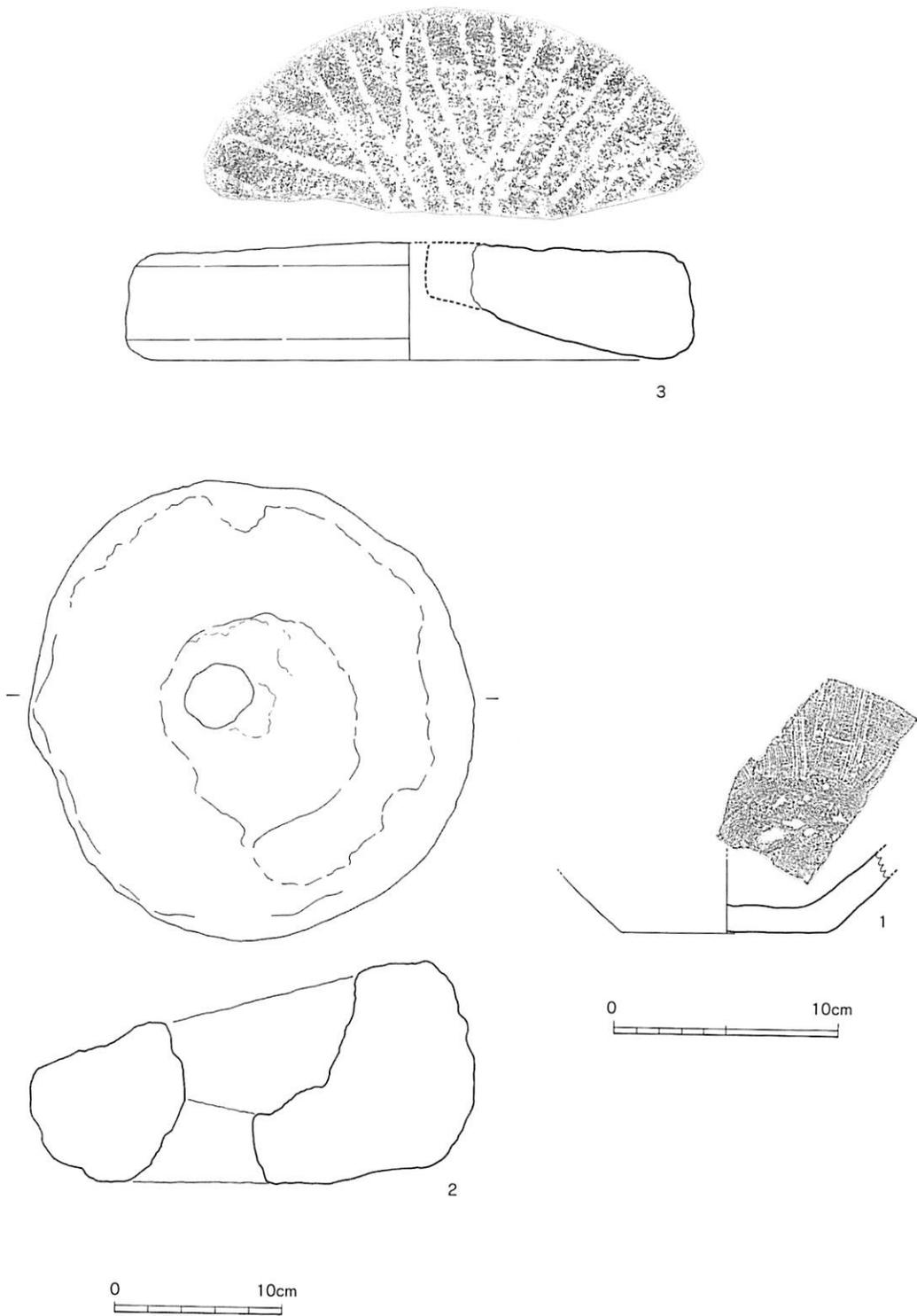
出土遺物 (第5図) 常滑焼き甕で、外面に刻印がある。

SK78・88 (第101図) A区にあり、SK51の下位で検出した。掘り下げの結果、二三基の遺構が重複したものであることが分かったが、前後関係については把握できなかった。SK78は南部から東部に礫を並べた状態が認められる。出土遺物が少なく、細かな時期ははっきりしない。

出土遺物 (第77図11・14) 11はSK88出土の中国漳州窯青花碗である。14は鉄釘。



第63図 SK38 出土遺物実測図



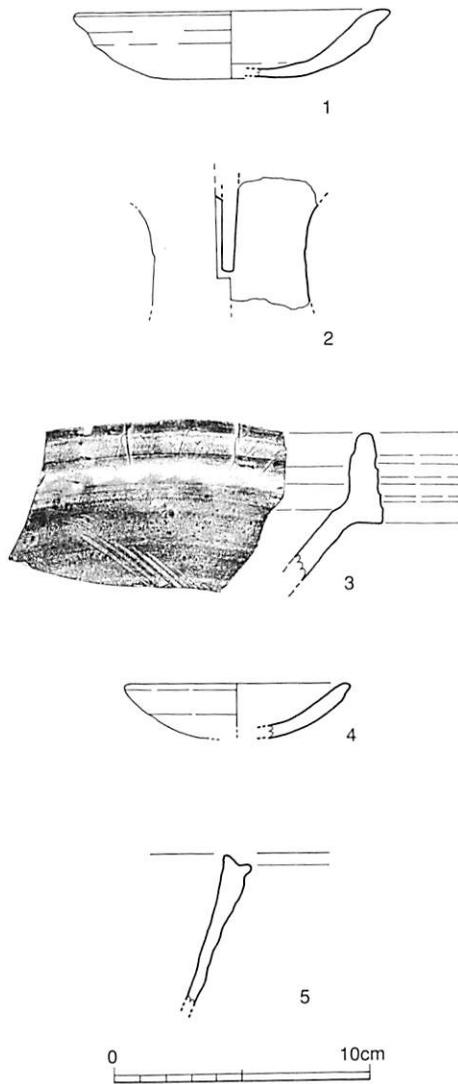
第64図 SK38・SK40 出土遺物実測図

SK79 (第102図) Z65区にある礫がやや多量に堆積した土坑である。SD80を切るが、SK78との前後関係は掴めなかった。平面形は円で、2.65m×2.0m程あり、中央に向かって窪んでいる。上部にレンズ状に礫が多数埋没していた。

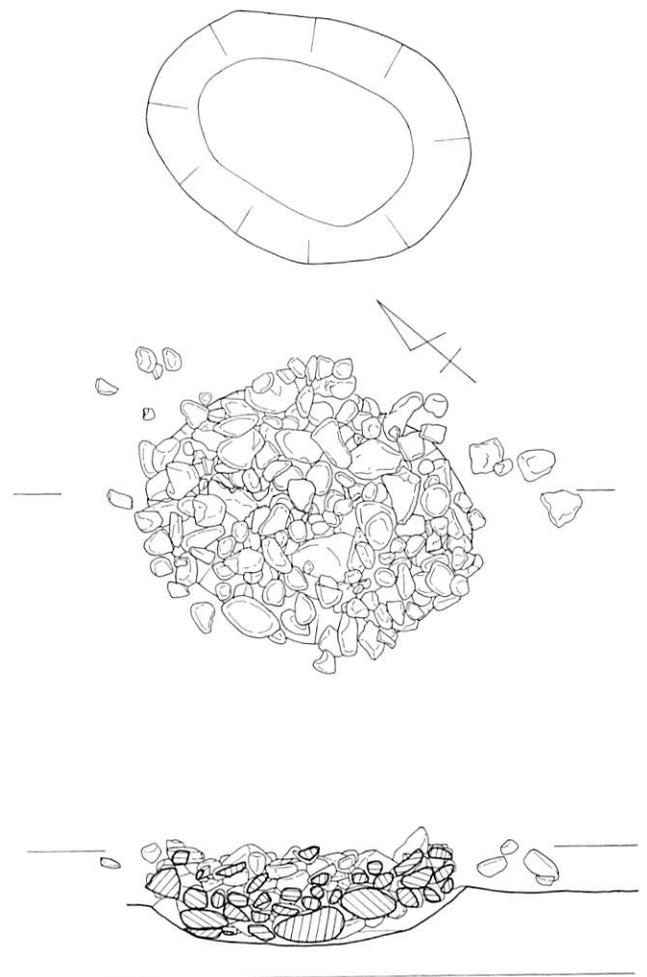
出土遺物 (第103図1・2) 二点とも京都系土師器3期の皿である。

SK61 (第5図) E区とF区の中に位置する小型の土坑である。

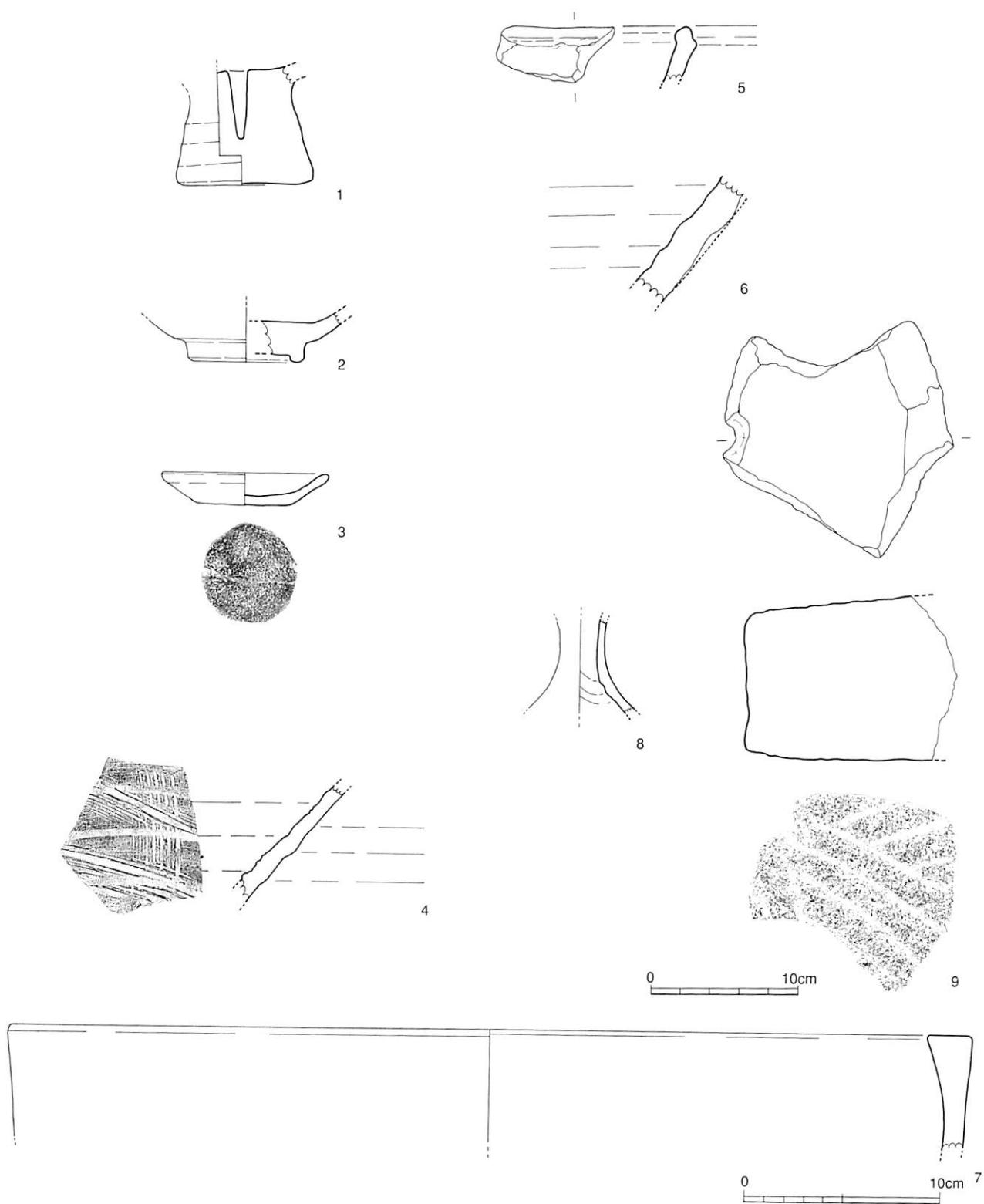
出土遺物 (第89図1・2) 6は壺、7は挿鉢で共に備前焼。



第 65 図 SK63・SK64 出土遺物実測図



第 66 図 SK52 実測図



第 67 図 SK51・SK52 出土遺物実測図

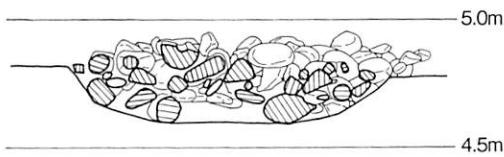


SK72 (第95図) Z区北部で検出した楕円形の遺構である。

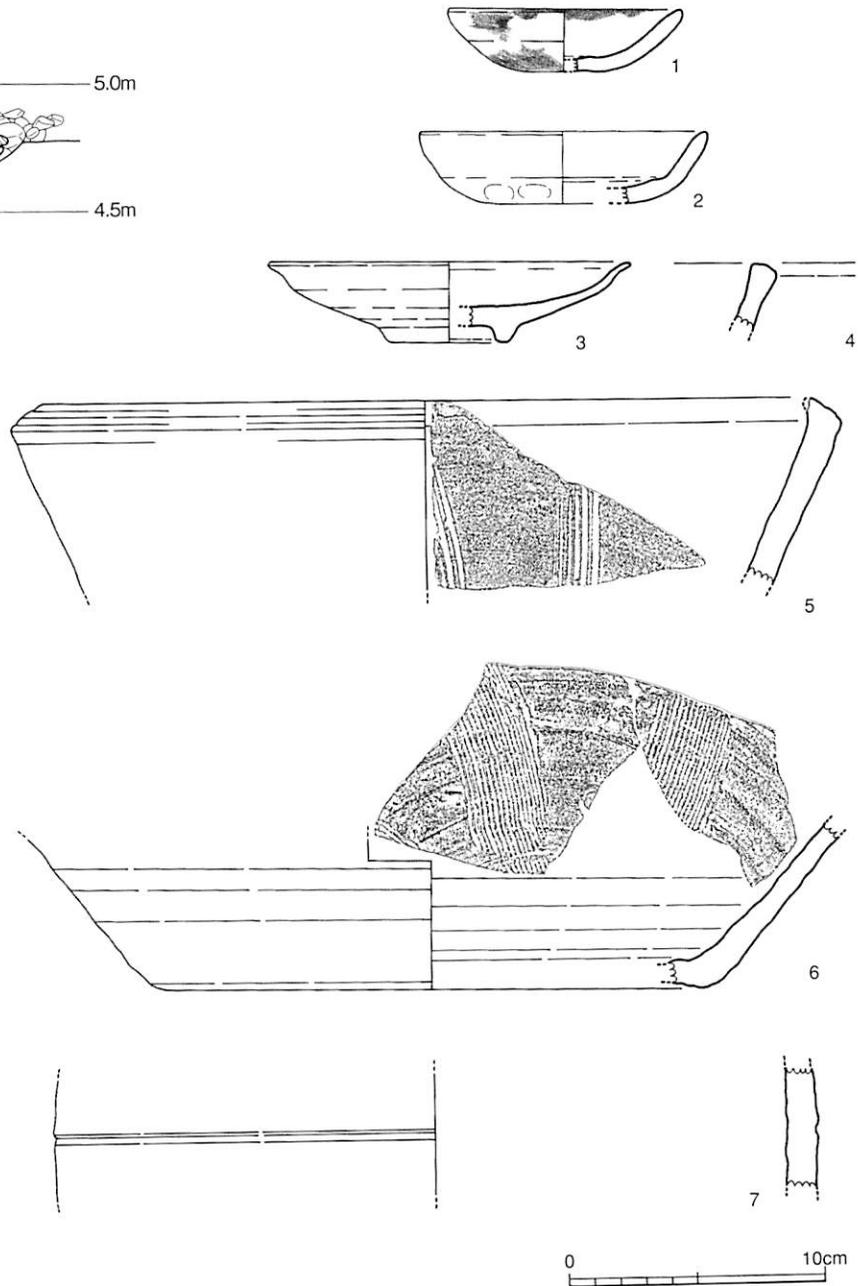
出土遺物 (第89図・91～93図) 第89図1は棟の中央上部に使う瓦である。石英を多く含み、浅橙色を呈する。第91図1は京都系土師器、2は備前焼瓶、3は凝灰岩製白である。接合した小破片がSK30からも出土した。第92図・第93図は丸瓦である。

SK75 (第80図) A区北部にあり、一部が調査区外に出ている。床面の一部に炭化物が堆積していた。

出土遺物 (第100図1～4) 1は在地系土師器、2・3は京都系土師器である。3は2期くらいの特徴があり、1のロクロ目をもつものは混入と見られる。



第68図 SK37 実測図



第69図 SK37 出土遺物実測図

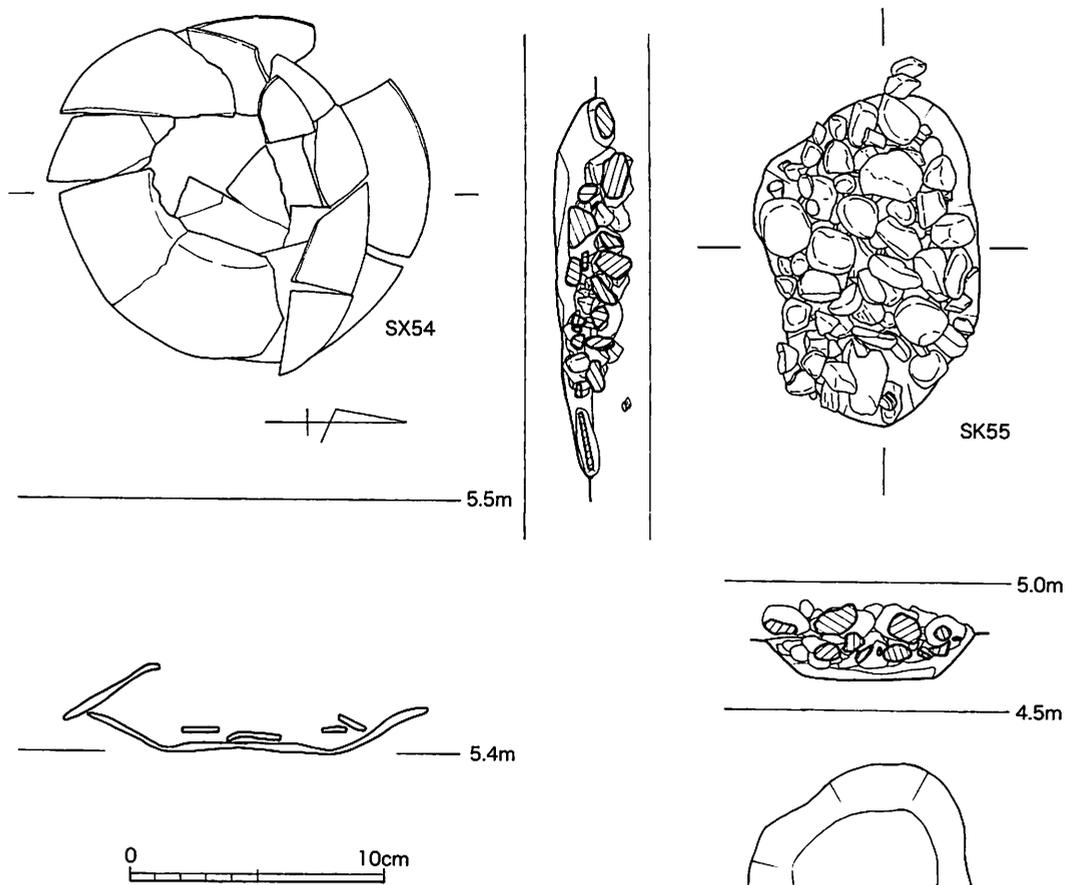
○ 16世紀前葉から中葉の遺構と遺物

概要 この段階は京都系土師器1期とロクロ目の残る在り系土師器が伴う。判明する遺構は少ない。

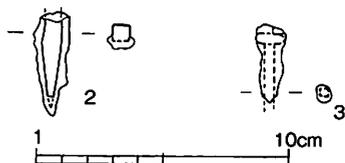
SX54 (第70図) B64区南部で出土した京都系土師器皿を二枚重ねたものである。底面が標高5.40mにあった。図示したのは下の一枚である(第74図1)。

SD42 (第5図) Y区西部の標高4.745m前後で検出した幅20~39cmの溝状遺構である。この面では付近に少数の小穴以外なく、耕作に関するものと考え。無遺物である。3条が平行に北方向に並ぶ。どれも深さ4cm程度と浅い。

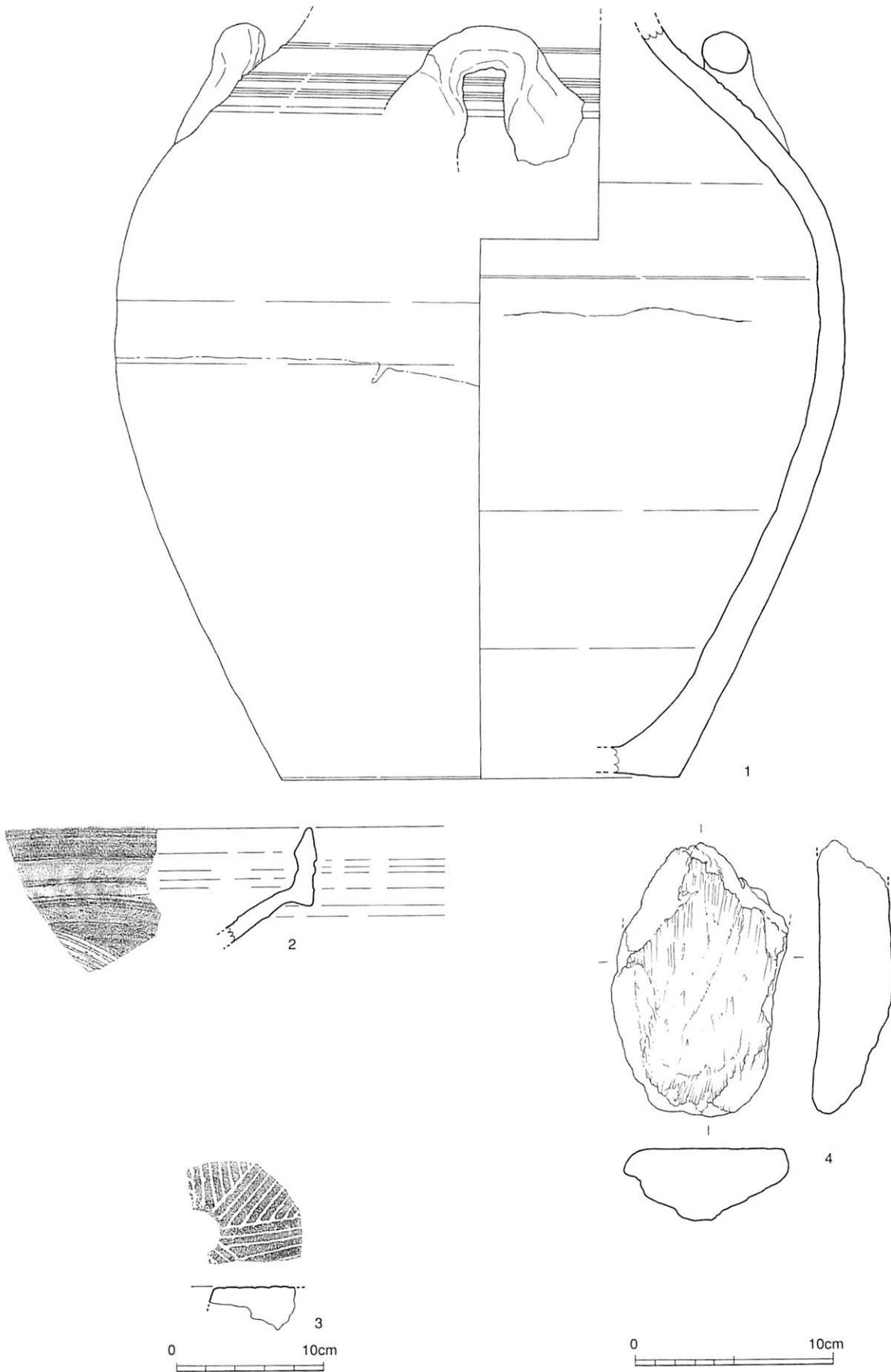
SK47 (第85図) E65区にある。年代の分かる遺物はない。



第70図 SX54・SK55 実測図



第71図 SK53・SX54 出土遺物



第72図 SK55 出土遺物実測図

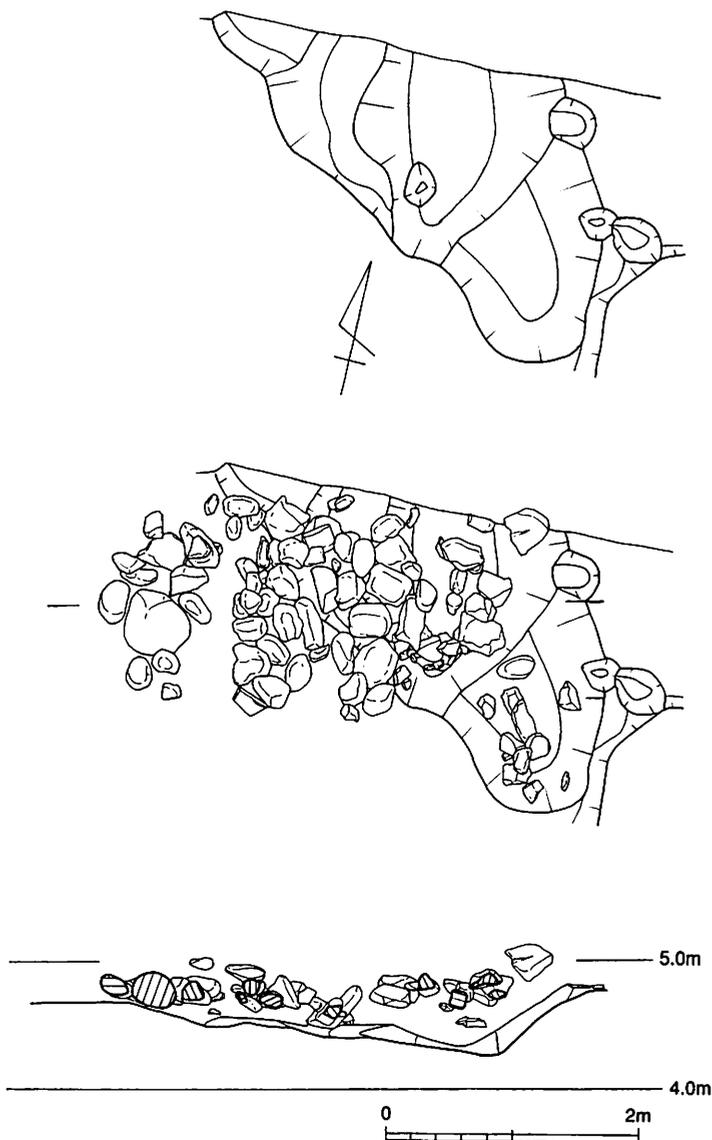
SK69 (第73図) C区北西部で検出した土坑である。掘り下げの結果、二基の重複と判断した。遺構の一部は北側の調査区外に出ている。土坑の範囲をはみ出すように、多数の礫が上部から出土した。

出土遺物 (第74図1~4) 1・2は1期の京都系土師器皿である。3はやや新しい傾向をもつ。4は丸瓦である。

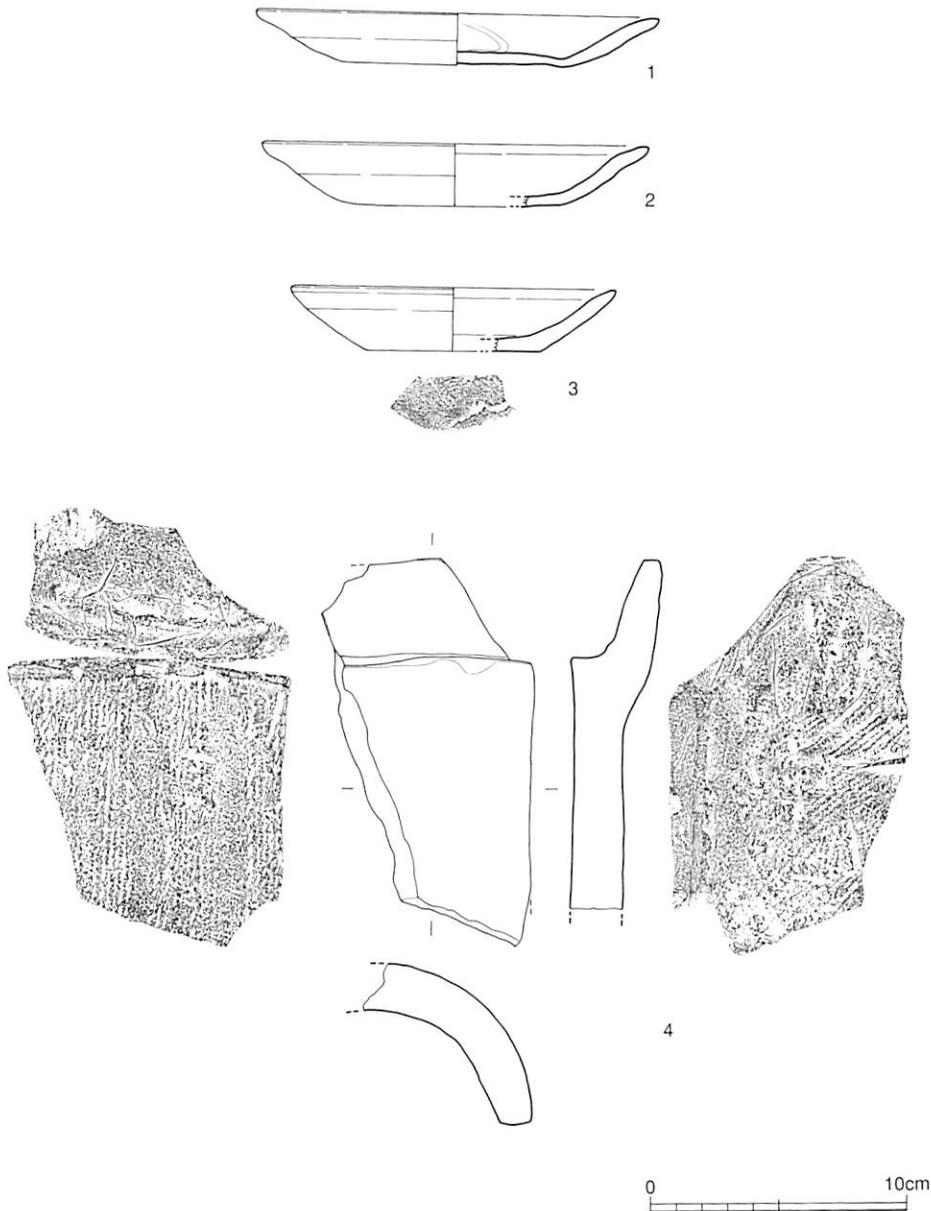
SK71 (第5図) Y区東部に位置し、南北方向に長い土坑である。16世紀後葉のSE14に切られる。

出土遺物 (第93図2~4) 2は高麗青磁、3は京都系土師器、4は在地系土師器である。

SK73 (第99図) C区北西部に位置する楕円形気味の土坑である。時期の分かる出土遺物はないので、この段階に位置づけられるかははっきりしない。



第73図 SK69 実測図



第74図 SK69 出土遺物実測図

SD80（第75図）Z区を北から26°西方向に振って直線的に走る全長9mの溝状遺構である。埋土下部に砂層・粘土層があり、水流があったようである。埋没後、SK79が掘り込んでいる。上面の幅は1.3m前後、深さは1.3mである。埋土状態の観察によれば、床面の標高3.9mのところ一度、埋没した溝を掘り直して使った跡がある。床面の高さは北側の方がやや高い傾向にある。

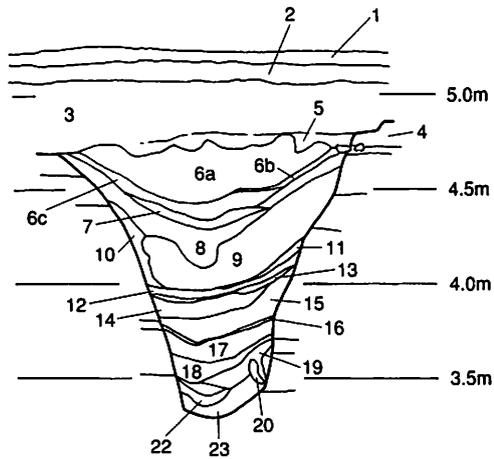
出土遺物（第78図1～8）1～3は在地系土師器、4・5は京都系土師器の1期。6は瓦質の火鉢、7・8は鉄釘である。

SK81（第5図）Z64区に位置する。この時期とする明確な遺物は出土していない。

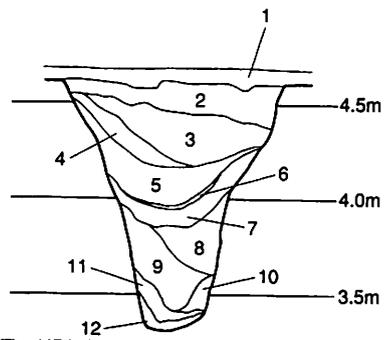
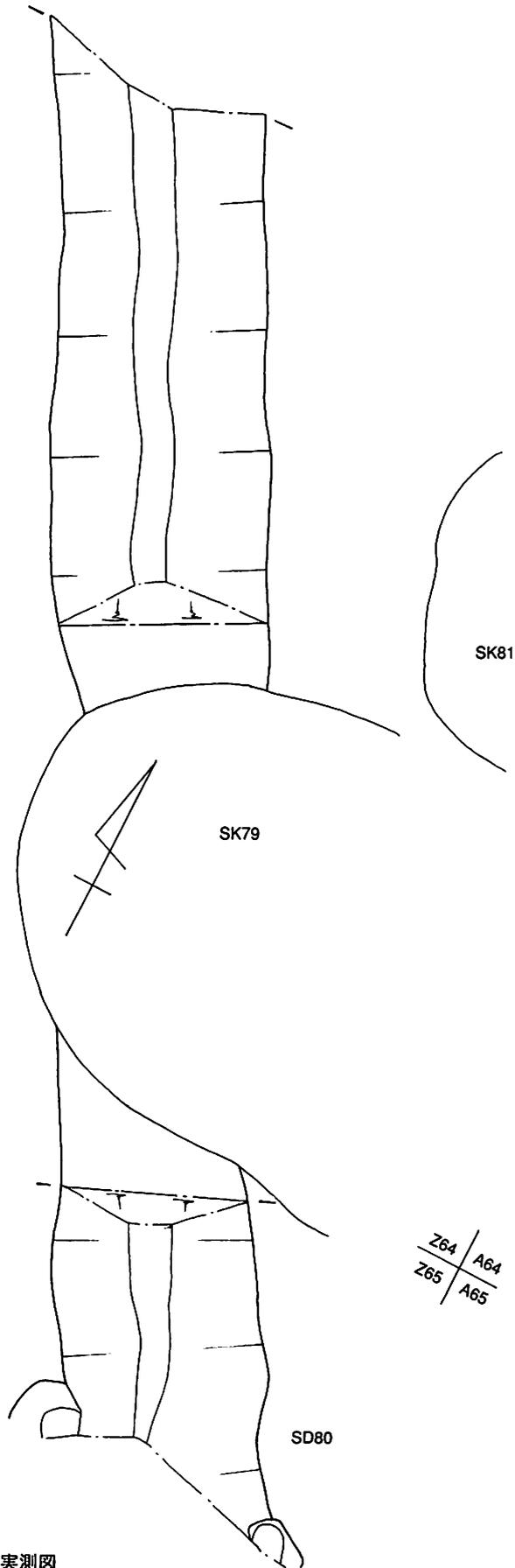
出土遺物（第79図）1は鉄釘である。

SK85（第76図）A65区にあり、SK51の下位に検出した不整形土坑である。半分くらいは調査区外にある。

出土遺物（第77図1～8）在地系（1・2）と京都系（3～8）の土師器が出土した。

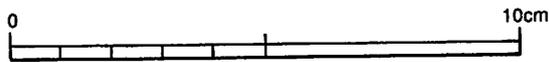
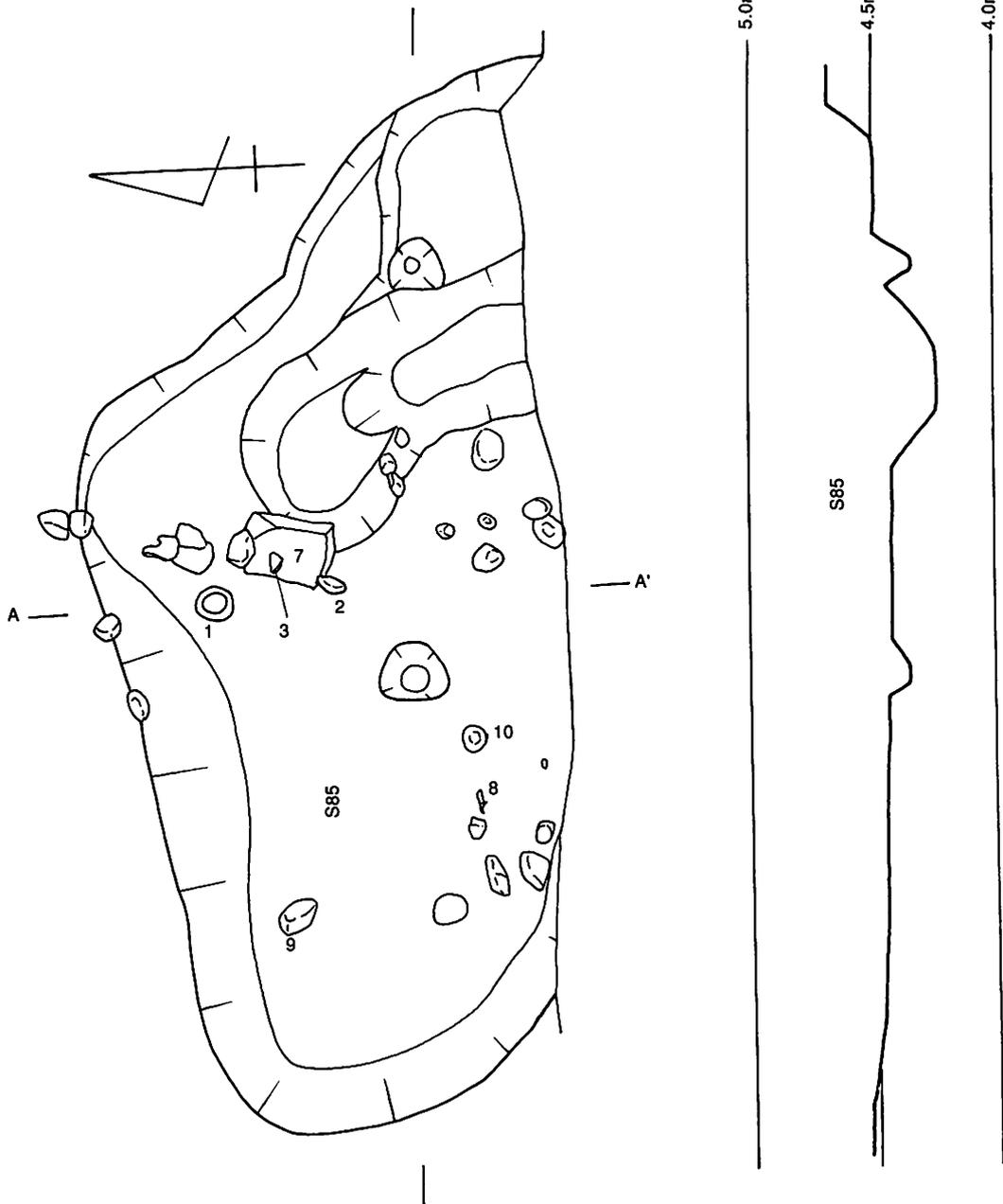
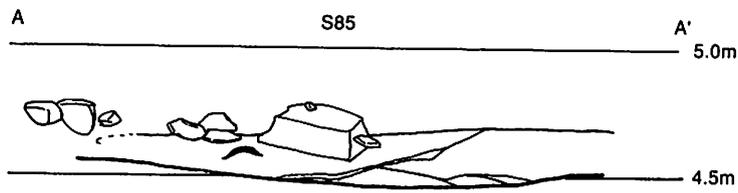


- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1層: 水田床土。酸化硬化層 | 11層: 白灰色の微細砂層。 |
| 2層: 暗灰色土。酸化鉄が多量。 | 12層: 暗灰色粘土層。 |
| 3層: 暗灰色土。酸化鉄が多量。上面床土。 | 13層: 白灰色の微細砂層。 |
| 4層: 黒褐色土。焼土を含む | 14層: 暗黄灰色土。砂が多くバサバサ。 |
| 5層: 黄褐色土。焼土を含む。 | 15層: 暗黄色土。砂が多くバサバサ。 |
| 6a層: 青灰色細砂層。焼土を含む。 | 16層: 白灰色土。微細砂が多くバサバサ |
| 6b層: 黄色土。 | 17層: 白灰色土。微細砂が多くバサバサ |
| 6c層: 青灰色粗砂層。 | 18層: 白灰色土。微細砂が多くバサバサ。 |
| 6d層: 青灰色細砂層。 | 19層: 白灰色砂質粘土。 |
| 7層: 暗茶褐色土。 | 20層: 黒灰色粘土。壁の崩落土。 |
| 8層: 暗灰色粘土。炭化物がやや多い。 | 21層: 暗黄灰色砂質粘土。 |
| 9層: 暗黄灰色砂質土。炭化物・焼土若干あり | 22層: 白灰色砂質粘土。 |
| 10層: 暗灰色粘土。 | 23層: 暗灰色砂質粘土。 |

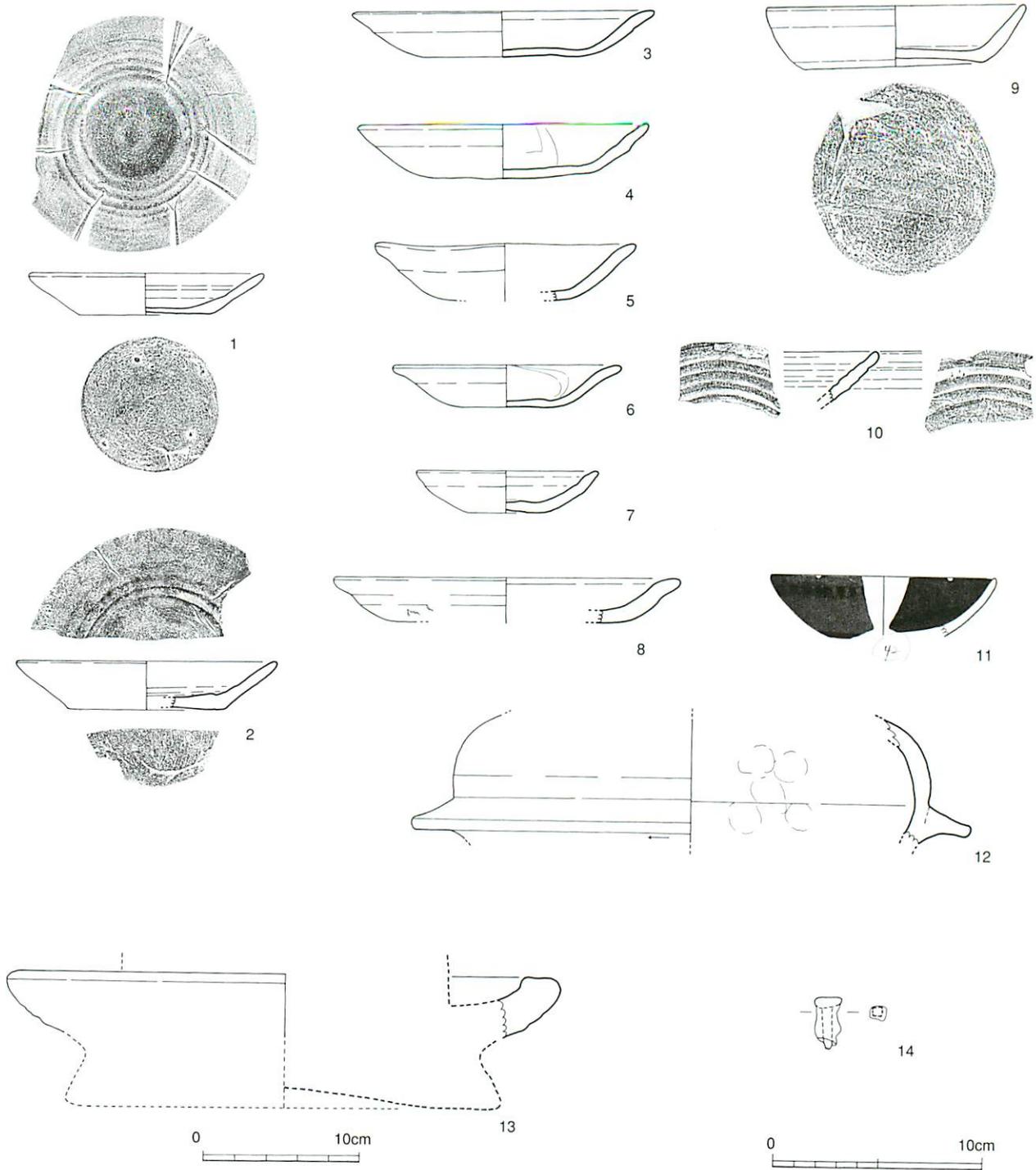


- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1層: 暗褐色土。酸化した硬化層。 | 7層: 黄灰色土。シルト質。 |
| 2層: 暗黄褐色土。酸化した硬化層。 | 8層: 4層とほぼ同じ。 |
| 3層: 暗灰色土。シルト質。 | 9層: 4層とほぼ同じ。 |
| 4層: 暗黄灰色土。シルト質。 | 10～12層: 暗灰色。シルト質。 |
| 5層: 4層とほぼ同じ。 | |
| 6層: 灰色の微細な砂層。 | |

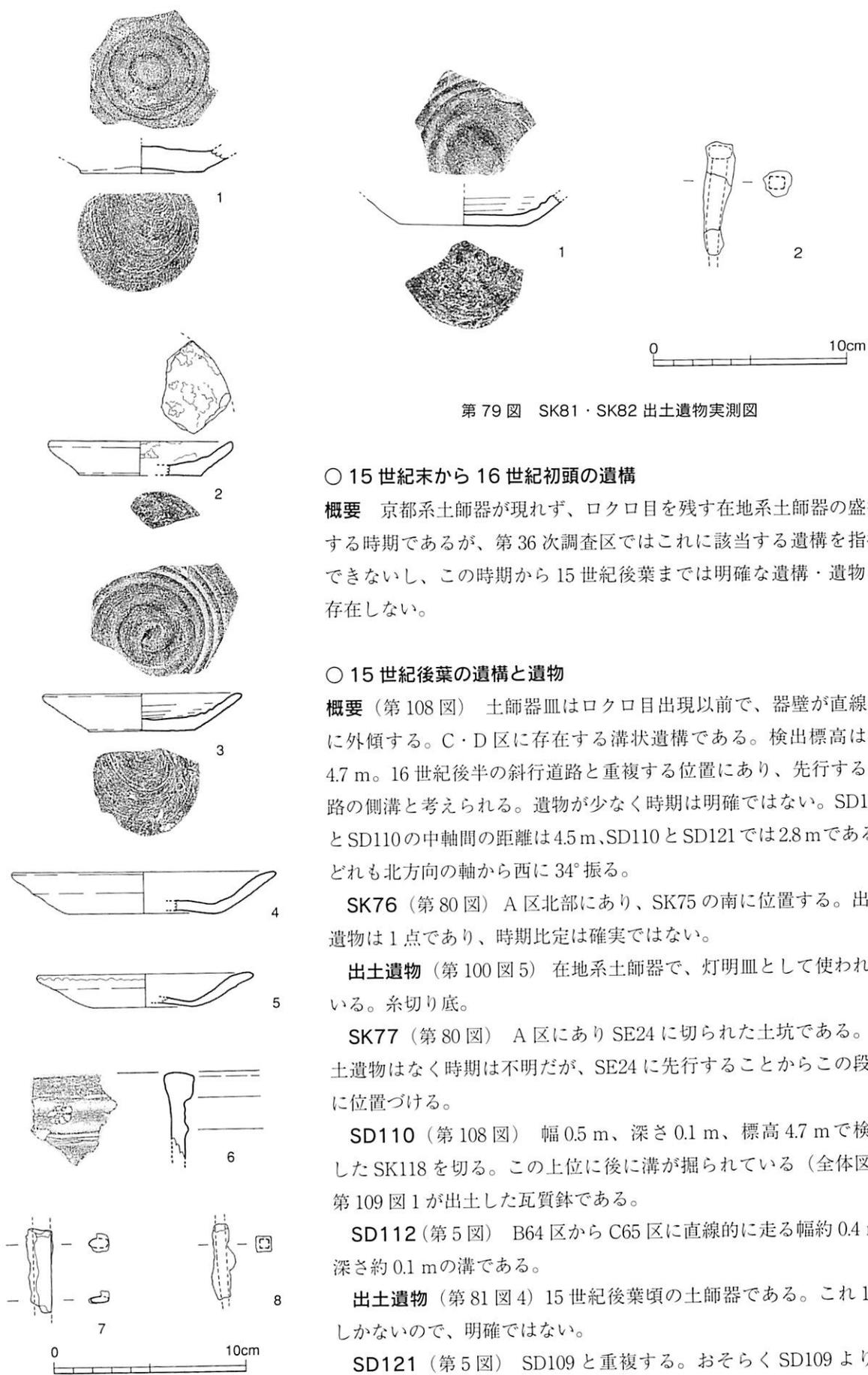
第75図 SD80 実測図



第76図 SK85実測図



第77図 S85～S108出土遺物実測図



第78図 SD80 出土遺物実測図

第79図 SK81・SK82 出土遺物実測図

○ 15世紀末から16世紀初頭の遺構

概要 京都系土師器が現れず、ロクロ目を残す在地系土師器の盛行する時期であるが、第36次調査区ではこれに該当する遺構を指摘できないし、この時期から15世紀後葉までは明確な遺構・遺物は存在しない。

○ 15世紀後葉の遺構と遺物

概要 (第108図) 土師器皿はロクロ目出現以前で、器壁が直線的に外傾する。C・D区に存在する溝状遺構である。検出標高は約4.7m。16世紀後半の斜行道路と重複する位置にあり、先行する道路の側溝と考えられる。遺物が少なく時期は明確ではない。SD112とSD110の中軸間の距離は4.5m、SD110とSD121では2.8mである。どれも北方向の軸から西に34°振る。

SK76 (第80図) A区北部にあり、SK75の南に位置する。出土遺物は1点であり、時期比定は確実ではない。

出土遺物 (第100図5) 在地系土師器で、灯明皿として使われている。糸切り底。

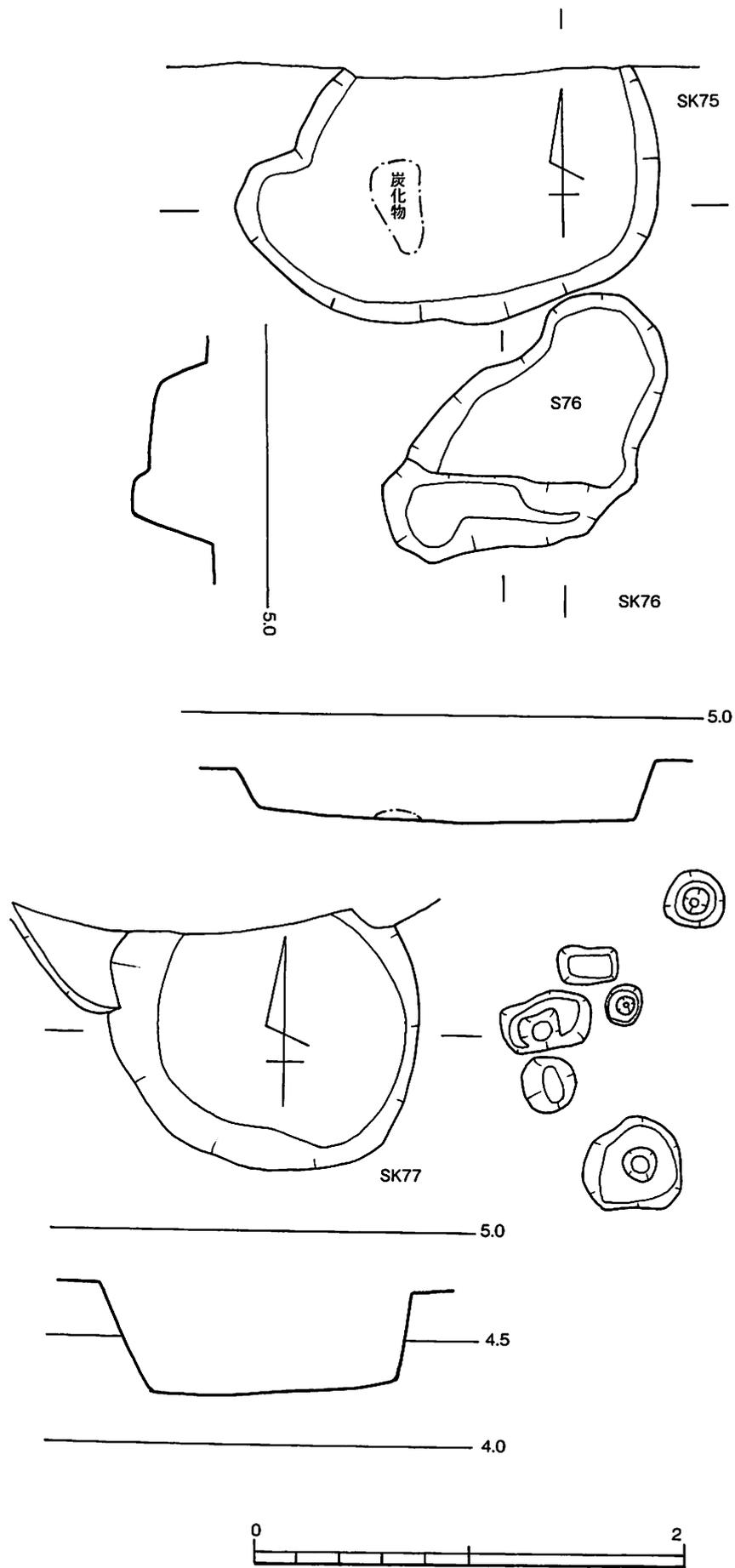
SK77 (第80図) A区にありSE24に切られた土坑である。出土遺物はなく時期は不明だが、SE24に先行することからこの段階に位置づける。

SD110 (第108図) 幅0.5m、深さ0.1m、標高4.7mで検出したSK118を切る。この上位に後に溝が掘られている(全体図)。第109図1が出土した瓦質鉢である。

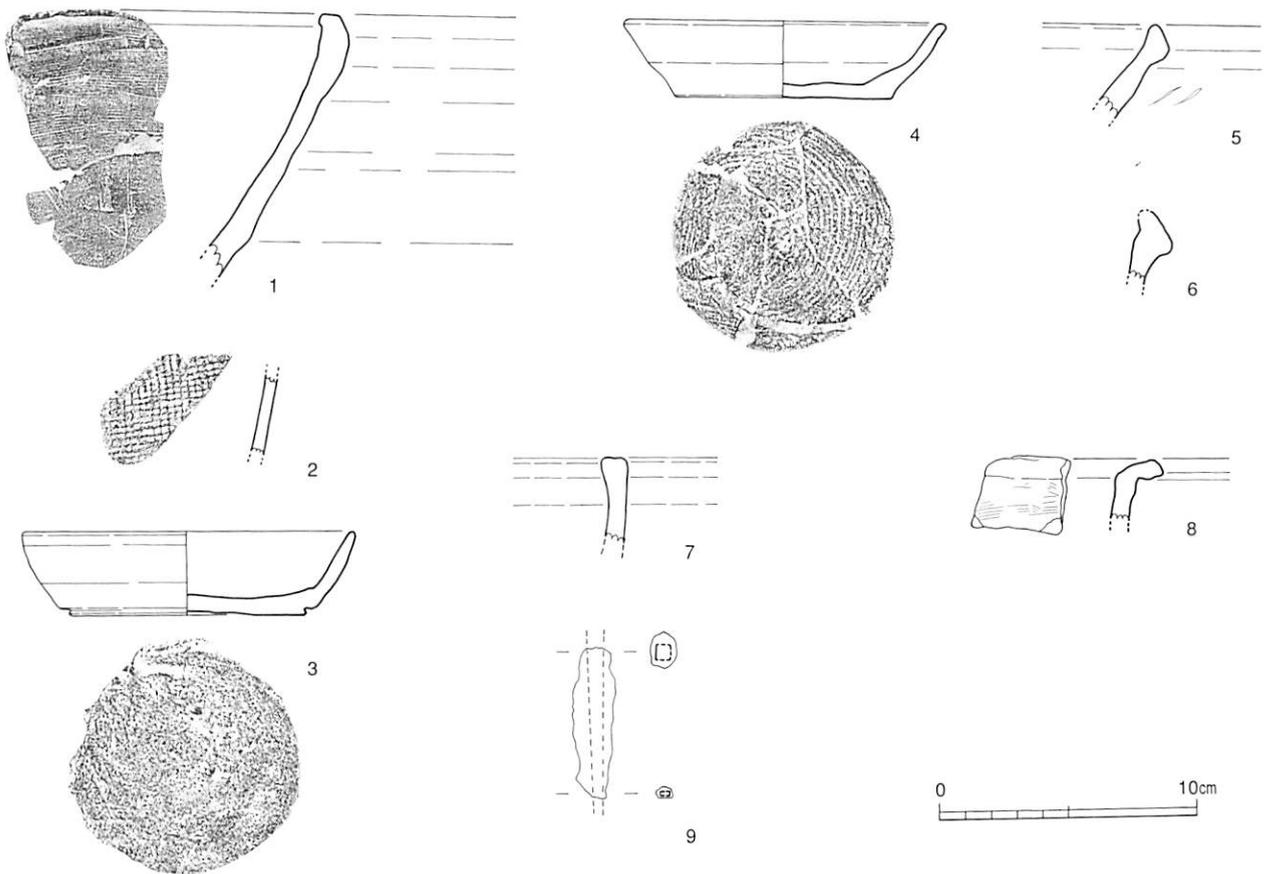
SD112 (第5図) B64区からC65区に直線的に走る幅約0.4m、深さ約0.1mの溝である。

出土遺物 (第81図4) 15世紀後葉頃の土師器である。これ1点しかないので、明確ではない。

SD121 (第5図) SD109と重複する。おそらくSD109よりも後から作られたと思われるが、確認できなかった。



第80図 SK75～77実測図



第81図 SD110～112・SK114・117 出土遺物実測図

○ 14世紀末から15世紀前葉の遺構と遺物

概要 この時期の土師器皿は、器壁の下部が厚く、直線的に続く口縁端部は薄いつくりである。遺構は少ない。

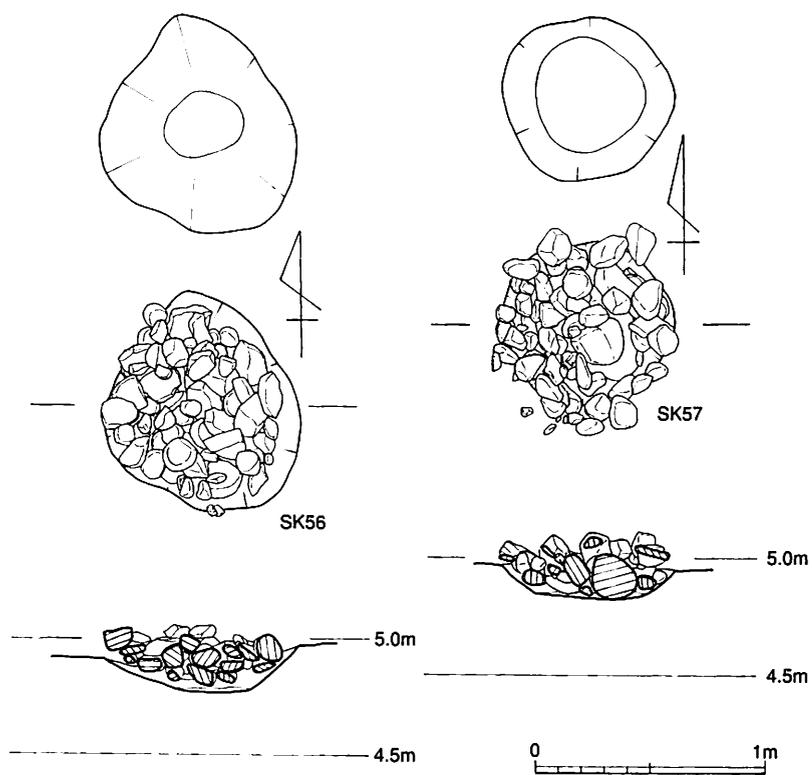
○ 14世紀中葉から後葉の遺構と遺物

概要 遺物からこの時期と思われるのはC・D・F区の溝状遺構・土坑・井戸がある。概して調査区東部に遺構が分布する傾向がある。

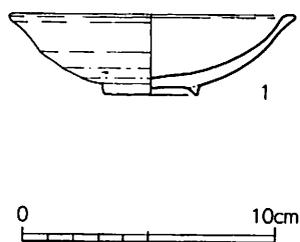
SK49 (第84図) F区西端にあり、標高5.0mから中世の地山に掘り込んだ半円形土坑である。

出土遺物 (第90図) 1～4は在地系土師器で、1・4は体部の下部が厚い特徴をもつ。2・3は体部中央が厚い。5は瓦質鍋である。

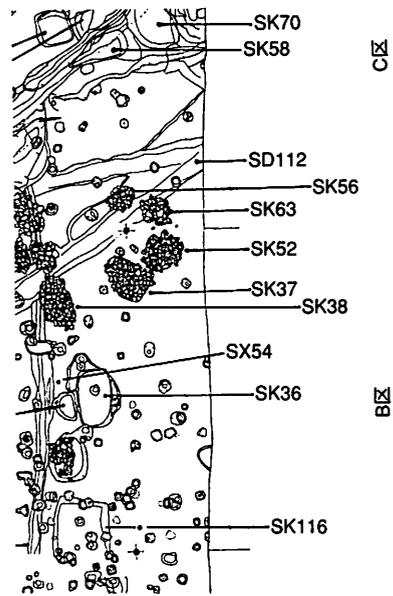
SX41 下位出土遺物 (第93図5～10) D区のSX41付近下位から出土した遺物である。9は瓦質のこね鉢、10は常滑焼甕。

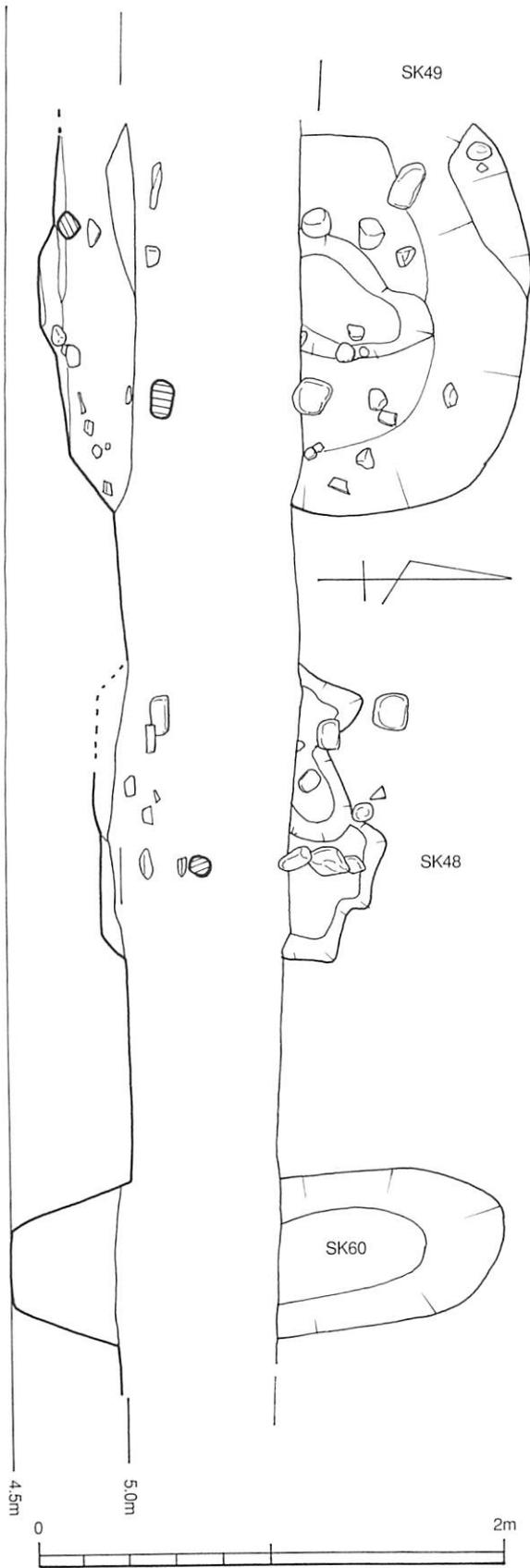


第82図 SK56・SK57 実測図

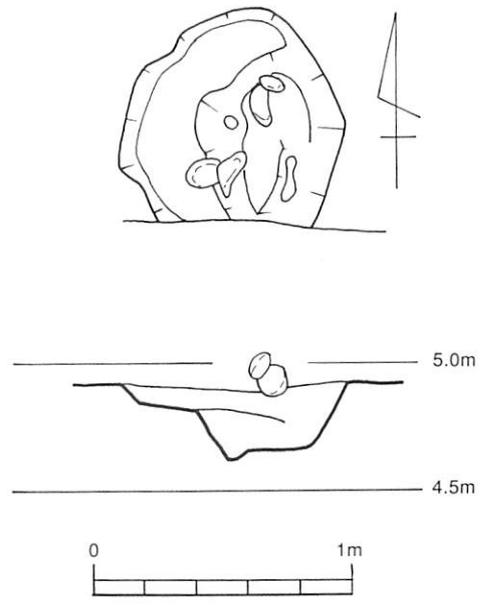


第83図 SK58 出土遺物実測図

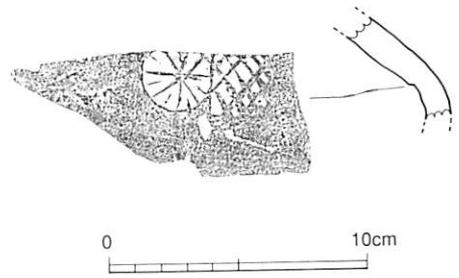




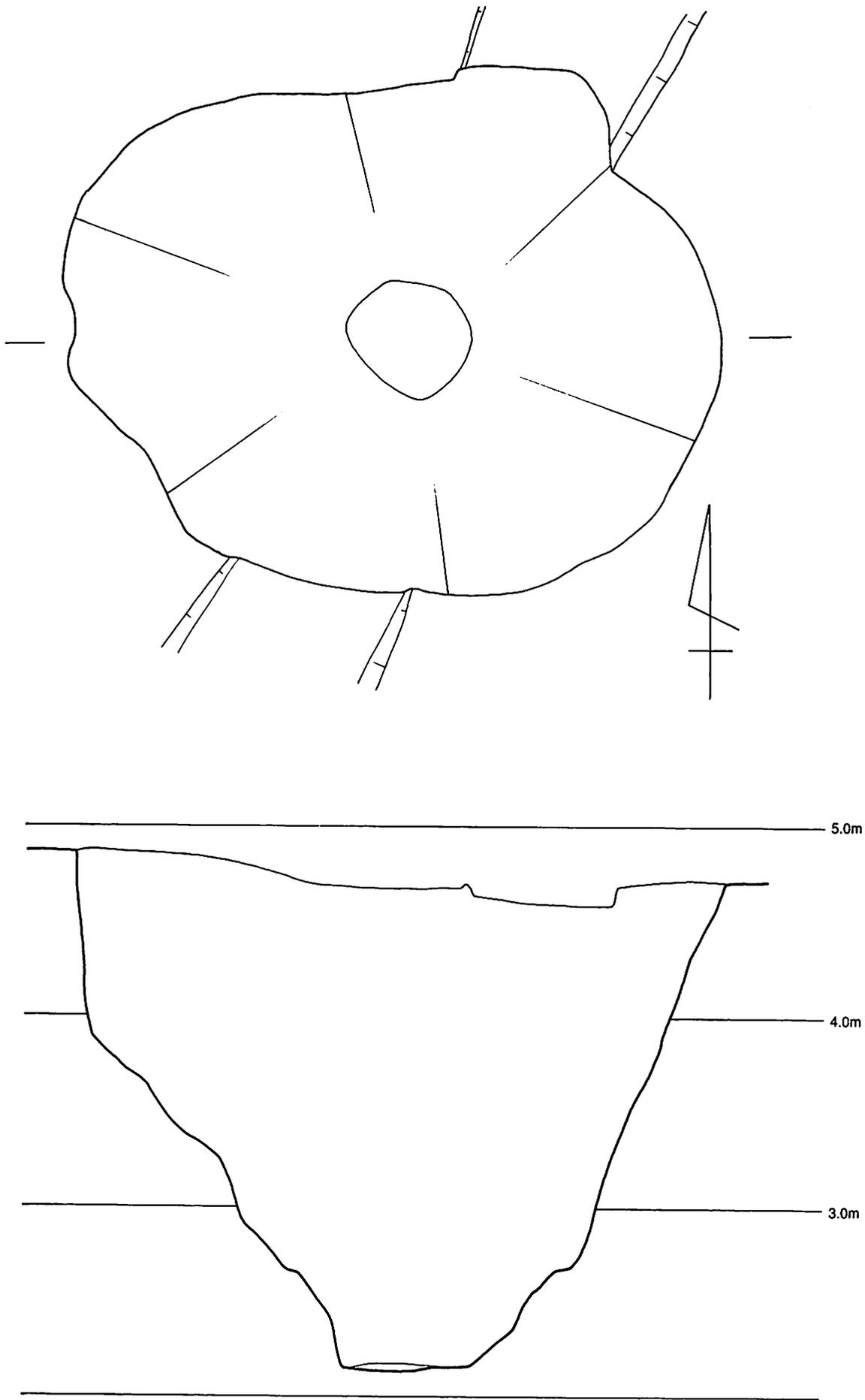
第84図 SK48・SK49・SK60実測図



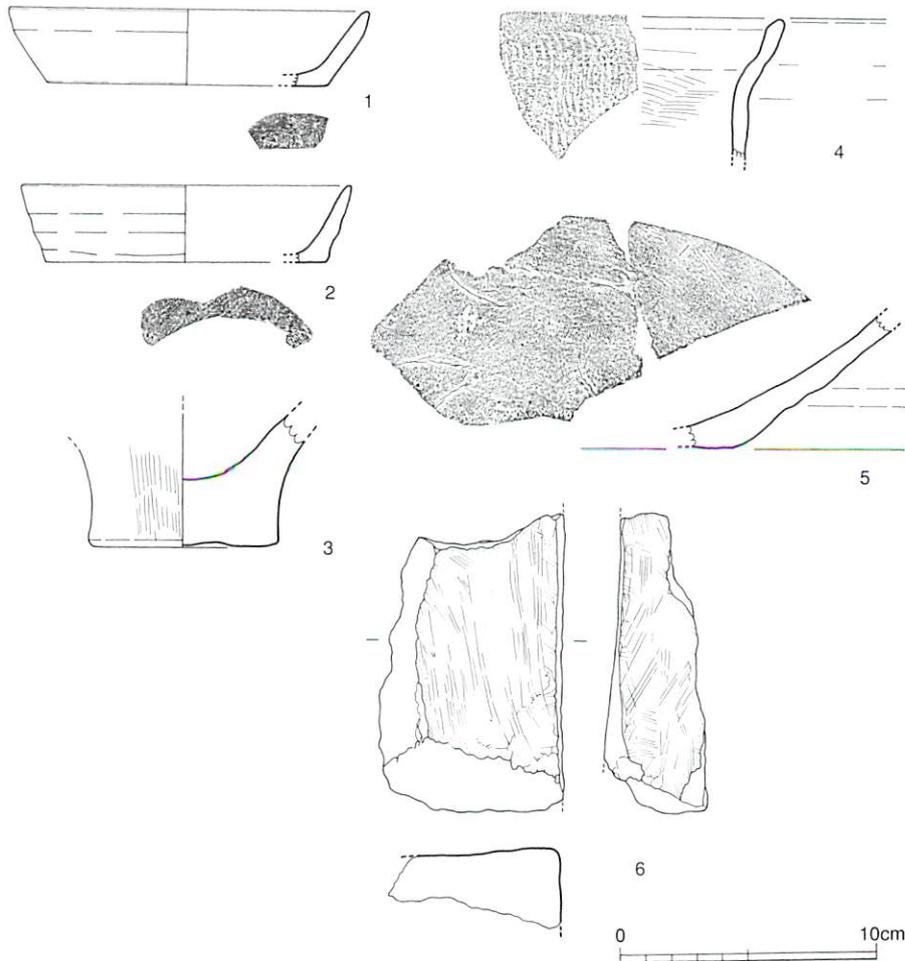
第85図 SK47実測図



第86図 SK45出土遺物実測図



第 87 図 SE59 実測図



第88図 SE59 出土遺物実測図

SD97 (第5図) X65区からY64区に北東方向45°で走る幅50cm、深さ11cm前後の溝状遺構である。標高4.66～4.50mで検出した。同じ面に同一方向、同一規模の溝状遺構SD83・98がある。これらからは時期の明らかな遺物は出土していないが、検出面からこの段階と考える。

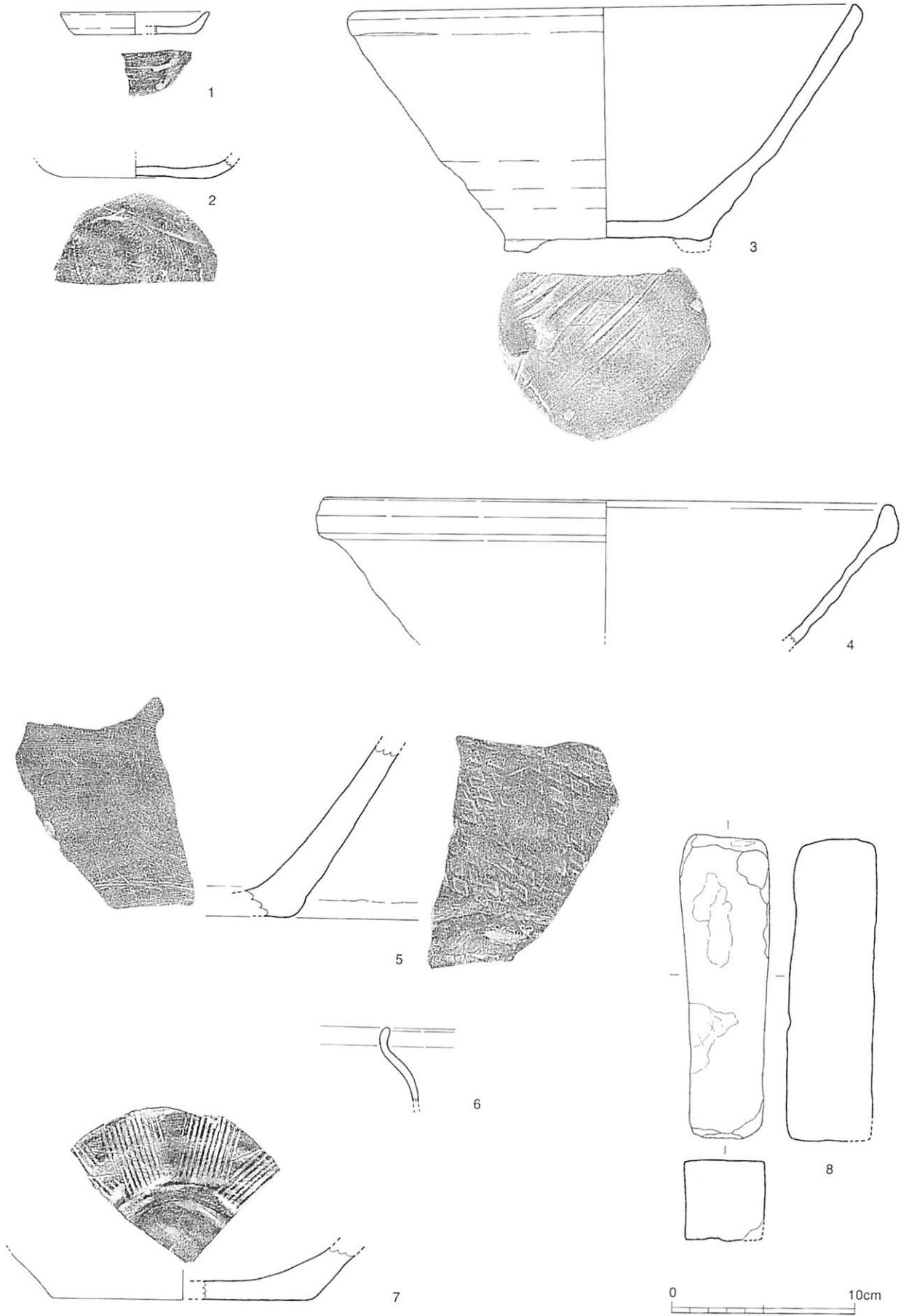
SE59 (第87図) D64区に位置する。上位にSD8や柱穴類があり、斜行道路に直交する試掘溝を入れて発見した。土層断面図を作成していないので井戸側・水溜の埋没状況は不明である。平面形は長さ3.5m×2.7mほどの楕円形で、検出面から底までは2.7mある。断面は底に向かって狭まる形で、底は標高2.1m強である。木質のものは何も発見できなかった。出土遺物から、SE59の時期は14世紀中葉前後と考える。

出土遺物 (第88図1～6) 1は器壁が中位から上位にかけて厚くなる特徴の土師器皿。2は底部近くの器壁が厚く、口縁端部が尖る土師器皿である。3は弥生時代中期くらいの土器。4は外面刷毛目調整の甕である。

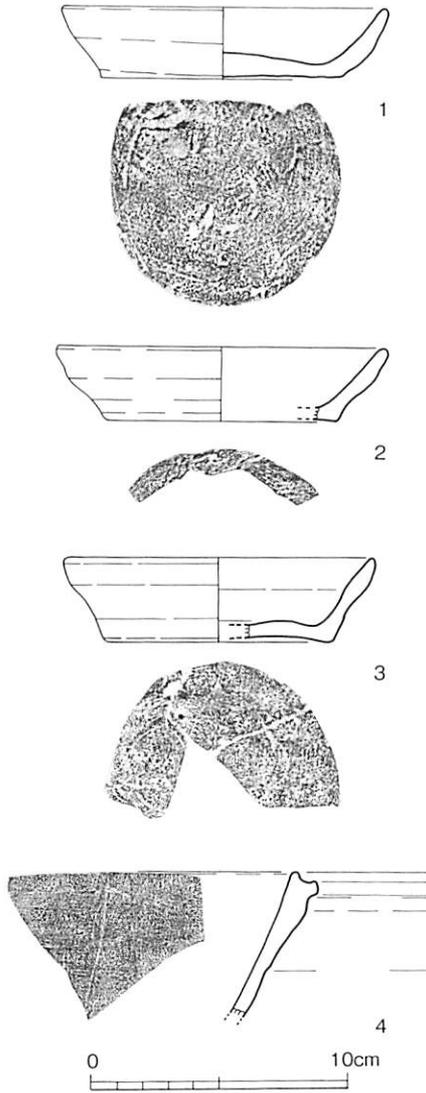
5は瓦質の鉢、6は天草砂岩製の砥石で、二面を使用している。

SK60 (第84図) F区南部にあり、一部は調査区外に延びる。標高5mで検出した。

出土遺物 (第89図1～5) 1・2は在地系土師器皿。3は瓦質土器の鉢で、口径29.2cm、底径11.2cm、器高12.8cmである。4は東播系こね鉢。口径30.1cm。5は外面に斜格子の叩き目を残す瓦質土器。



第 89 図 SK60 ~ 62 出土遺物実測図



第90図 SK49 出土遺物実測図

○ 14 世紀前葉の遺構と遺物

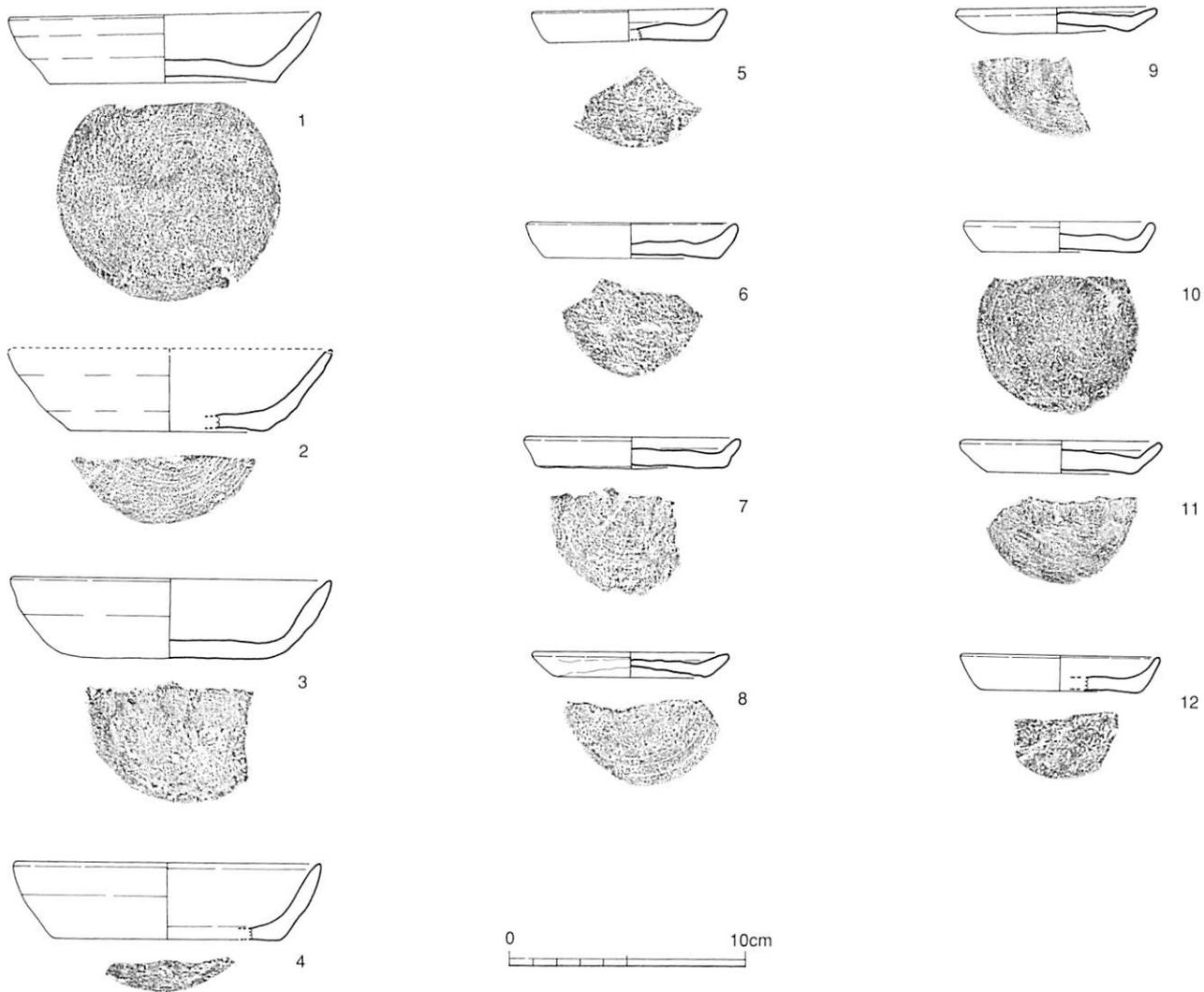
概要 調査区中央からやや東寄りのD区で一箇所だけ遺物が分布していた。他にはこの時期の明確な遺構は存在しない。

SK56 (第5図) C区中央に位置する。礫の詰まった穴である。検出位置からこの時期の可能性がある。

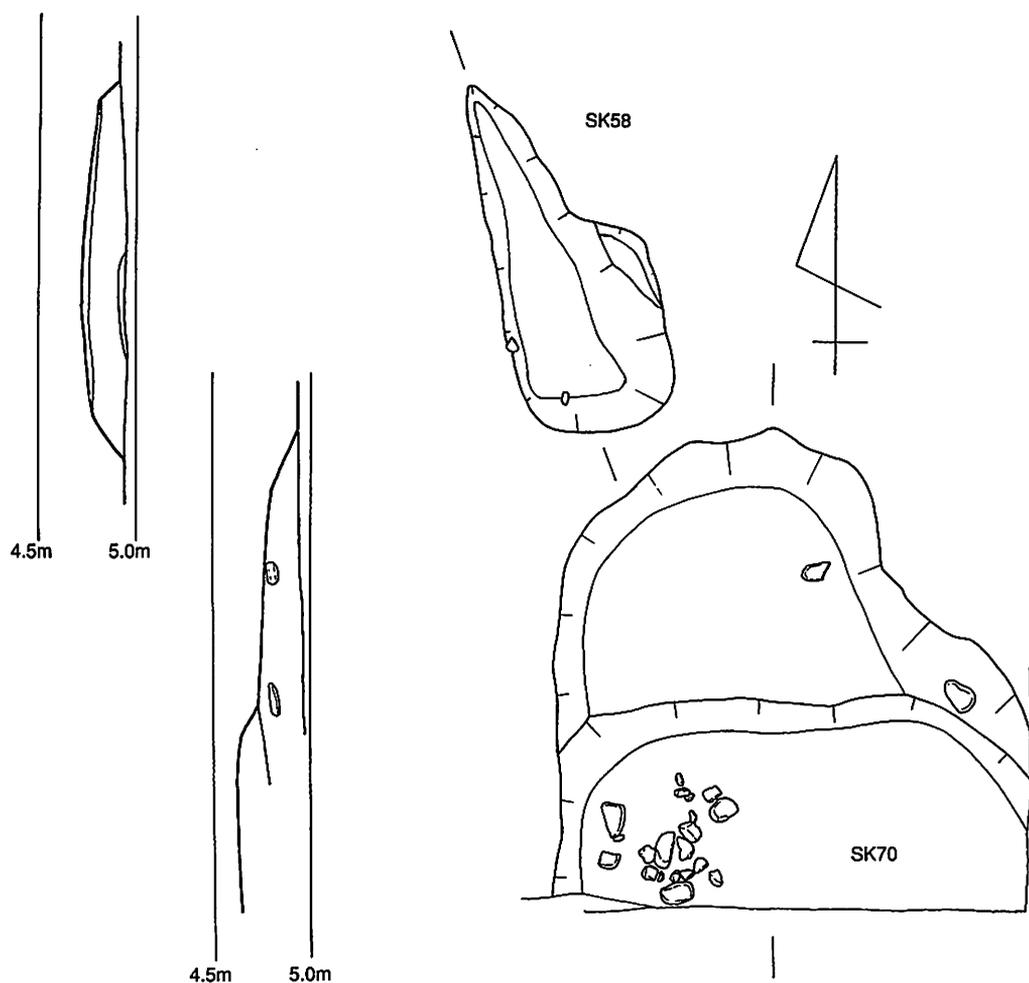
SX65 (第5図) D区北部にあり、SX41の北側で検出した土師器が直径50cmくらいの範囲に面的に散乱していた部分である。土坑を見つけることは出来なかった。遺物の底の高さは標高約4.9mであった。

出土遺物 (第91図1～12) 1～4は皿で、1・3・4は体部の上半部が厚い特徴をもち、2は体部中位が薄く、下部から底にかけてなだらかに移行する。口径は12.8cm～13.5cm、器高は2.9cm～3.6cmである。5～12は小皿で、底部から体部が外傾し直線的に伸びる。口径は8.2cm～10.0cm、器高は1.0cm～1.5cmである。

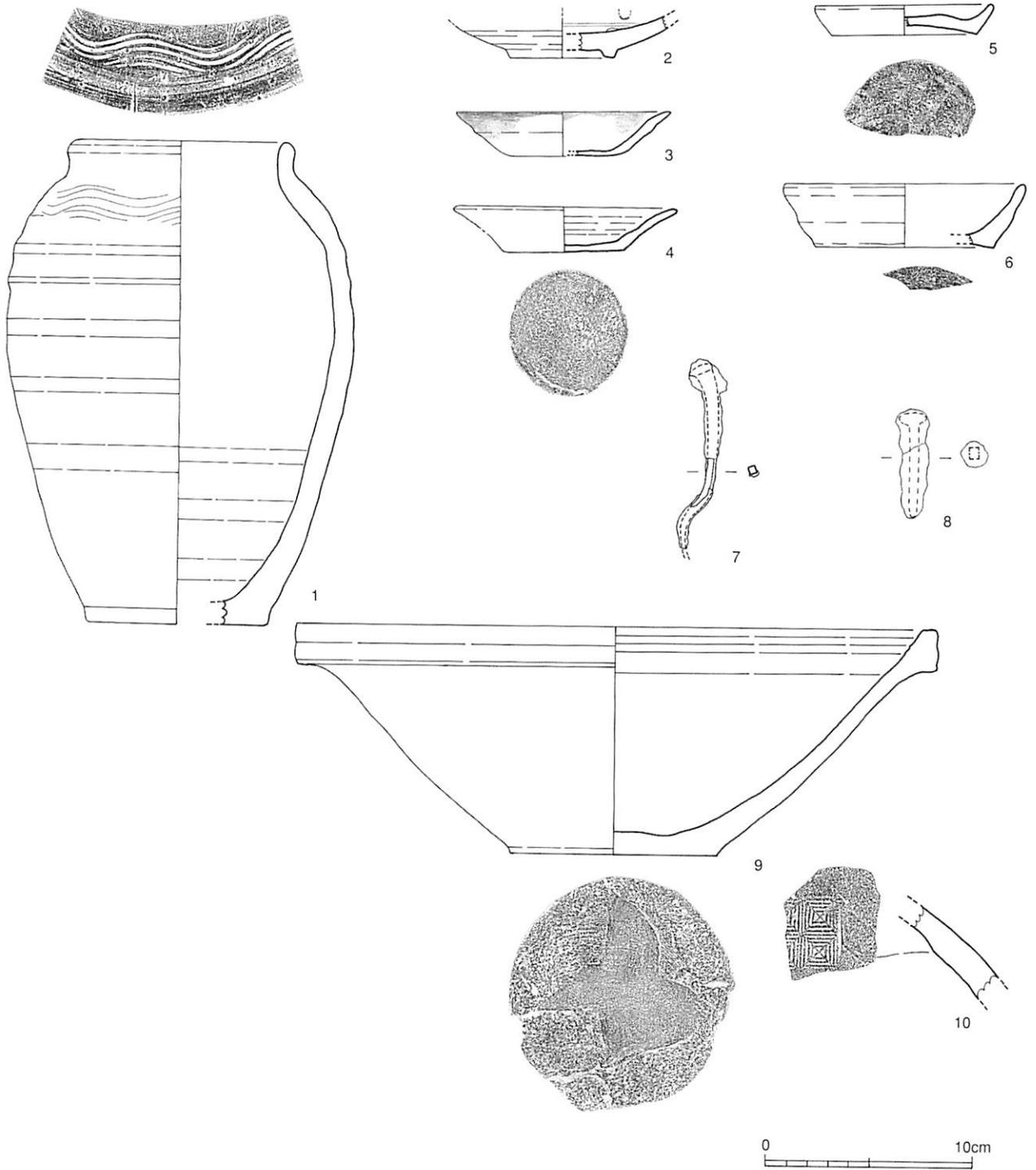
8・9・11は傾きが弱く、12は体部が丸みを帯びて立ち上がる。7は体部外面が窪んでおりやや新しい傾向を見せるが、他は14世紀前葉の所産と考えてよいであろう。



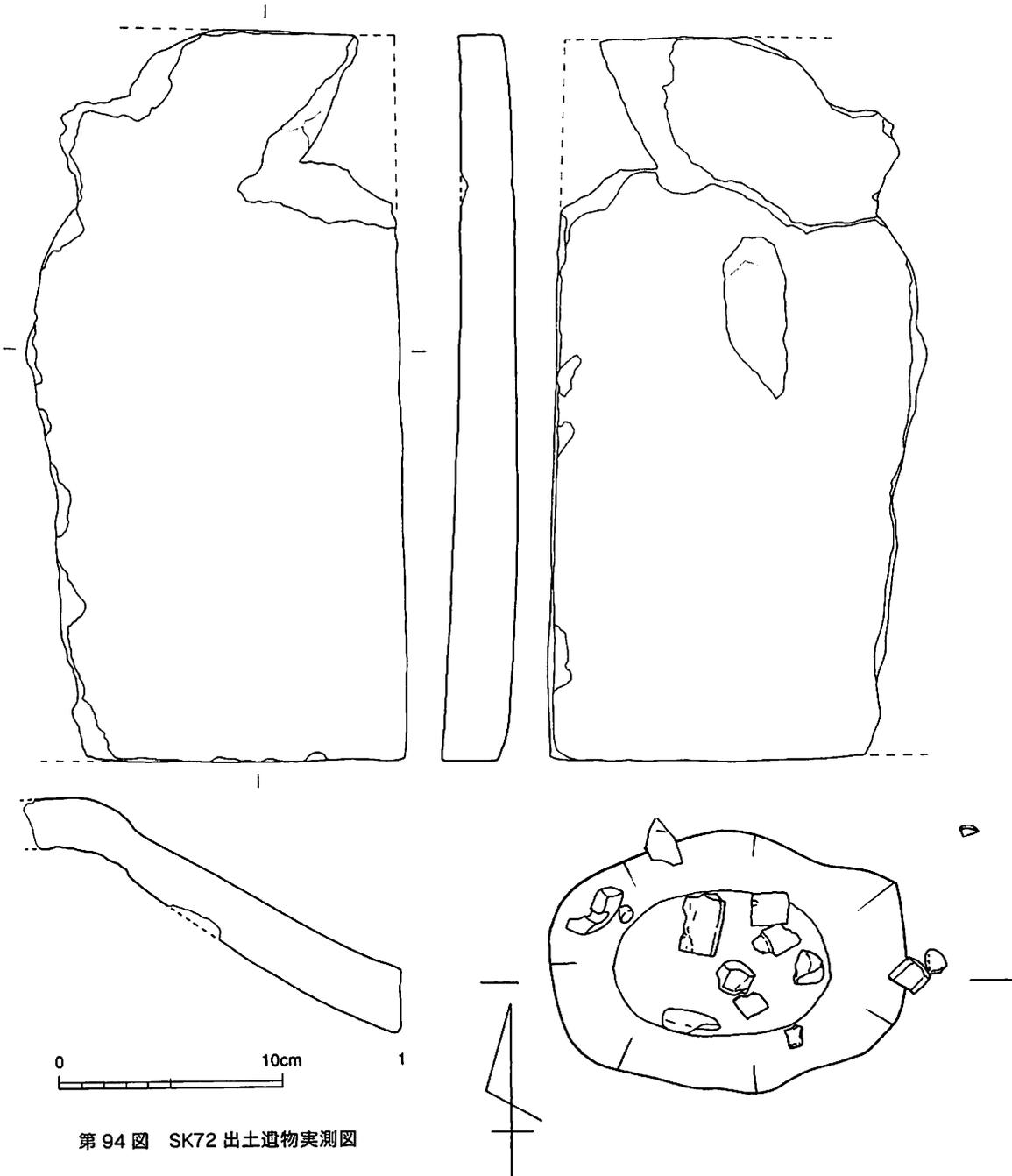
第91図 SX65 出土遺物実測図



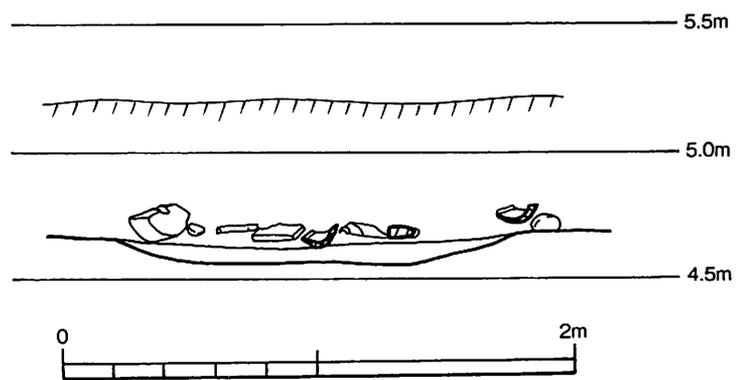
第92図 SK58・SK70実測図



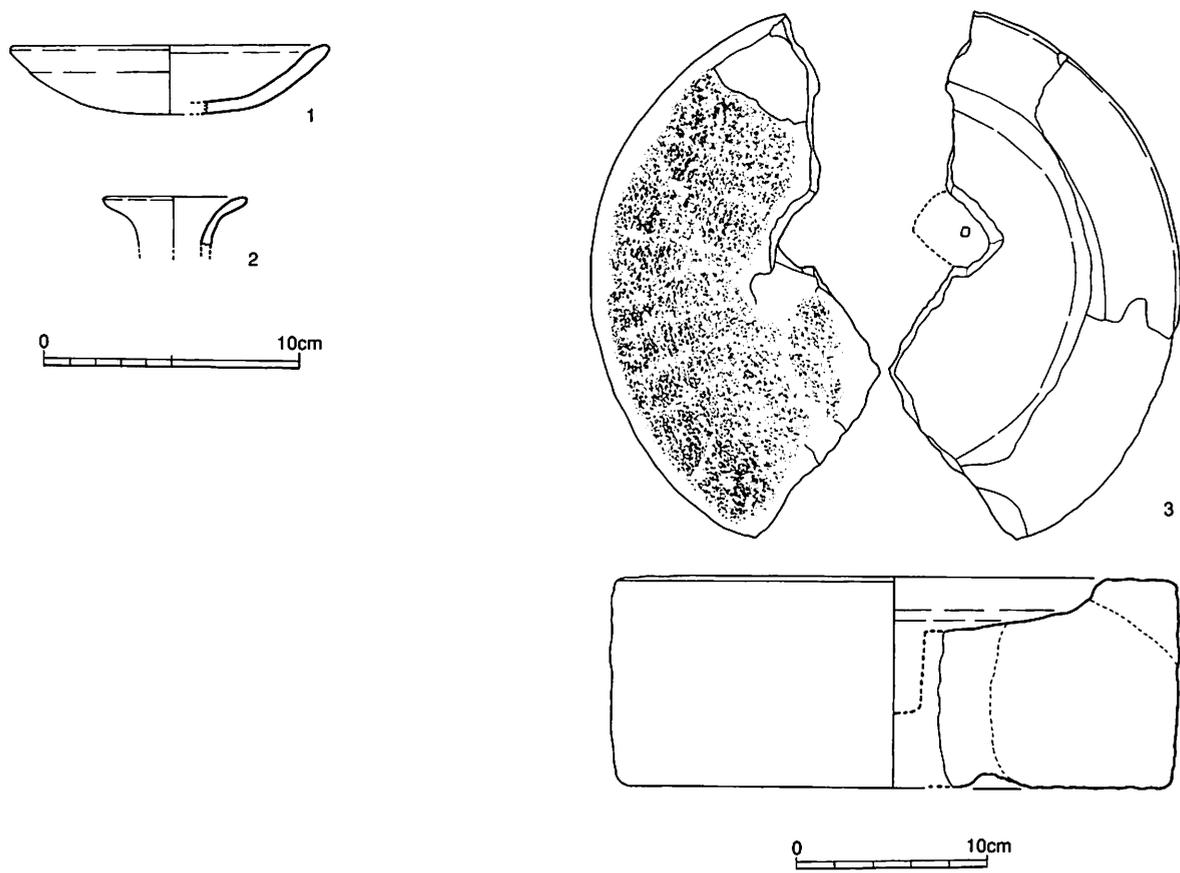
第93図 SK70・71・41の下位出土遺物実測図



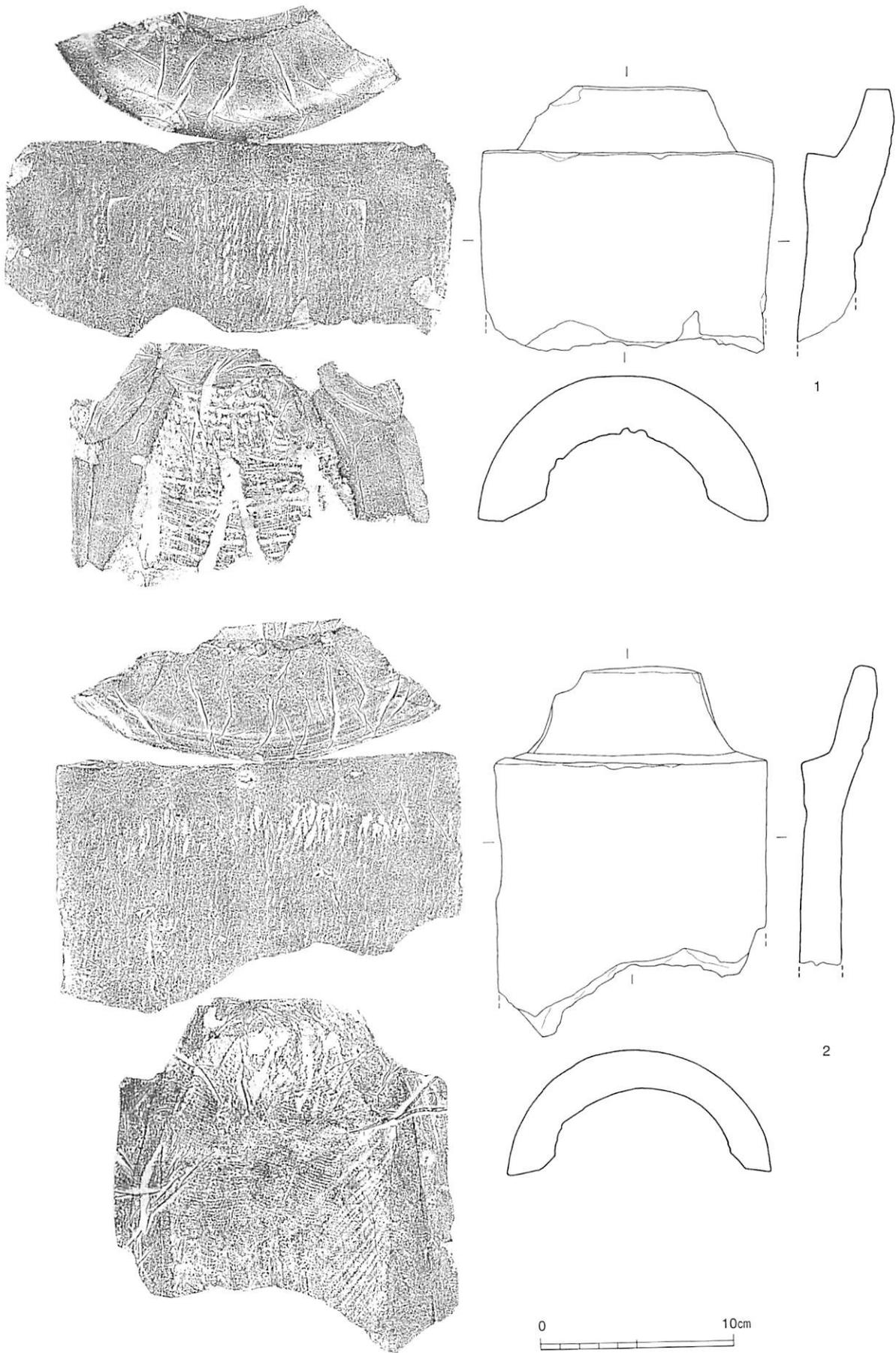
第94図 SK72 出土遺物実測図



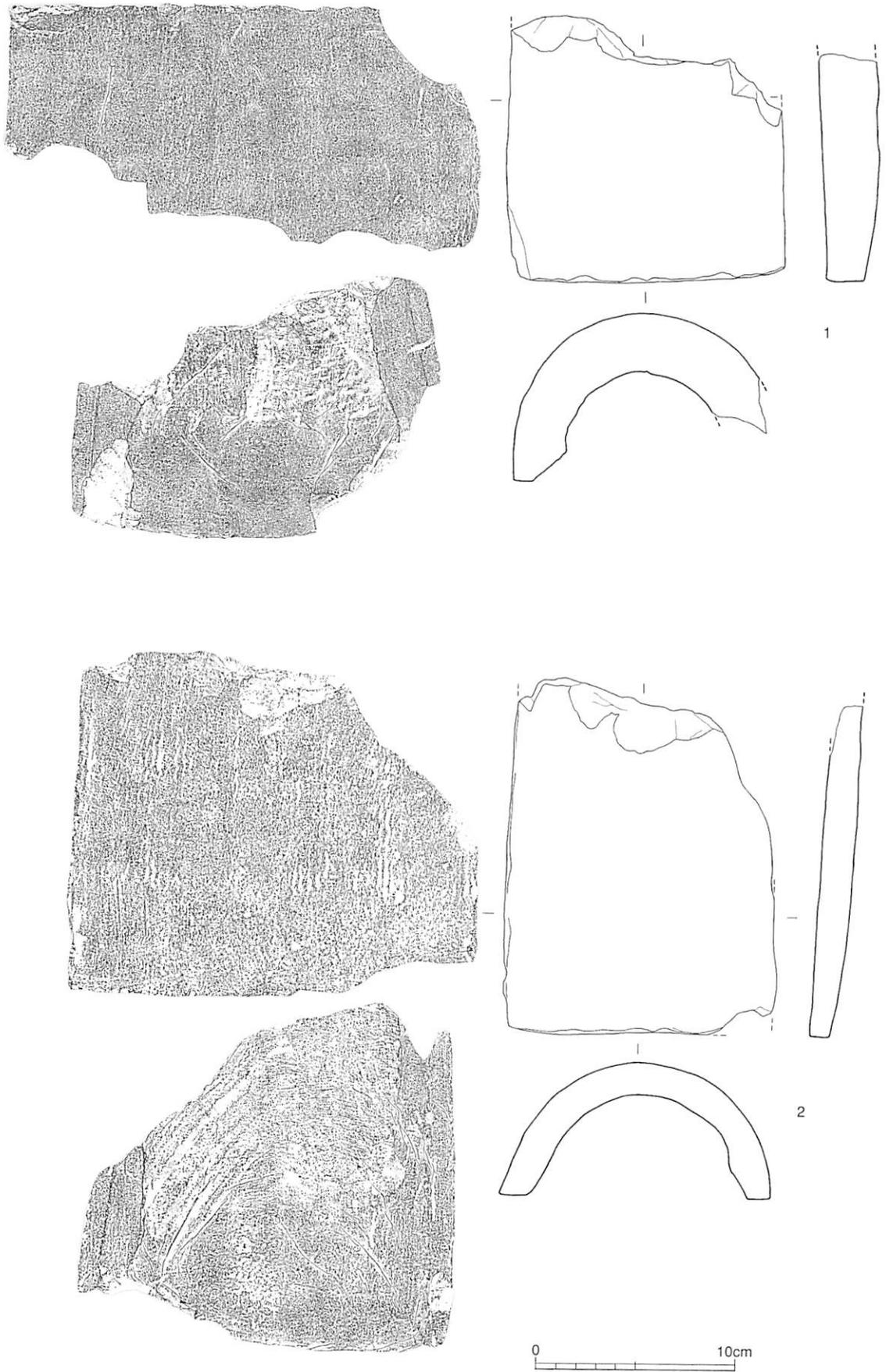
第95図 SK72 実測図



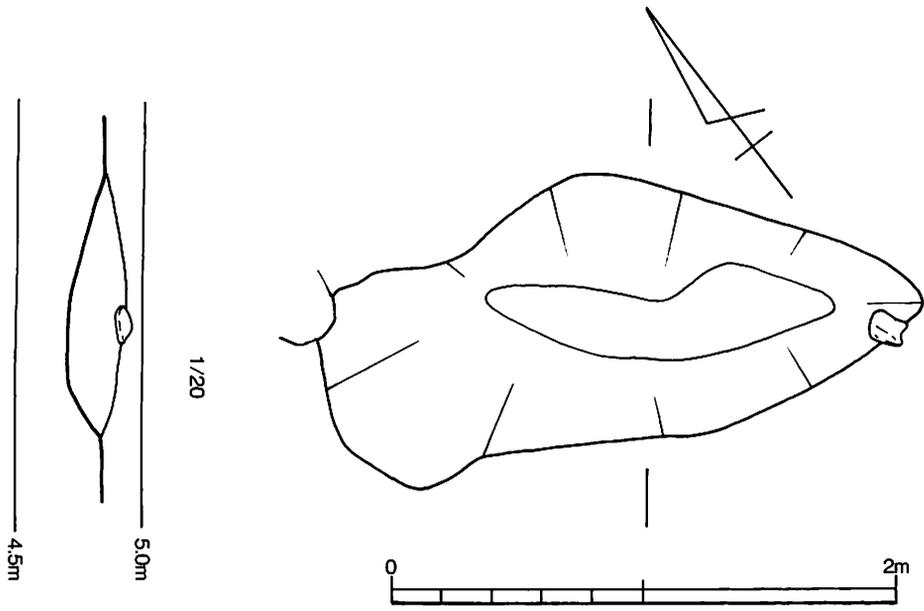
第 96 図 SK72 出土遺物実測図



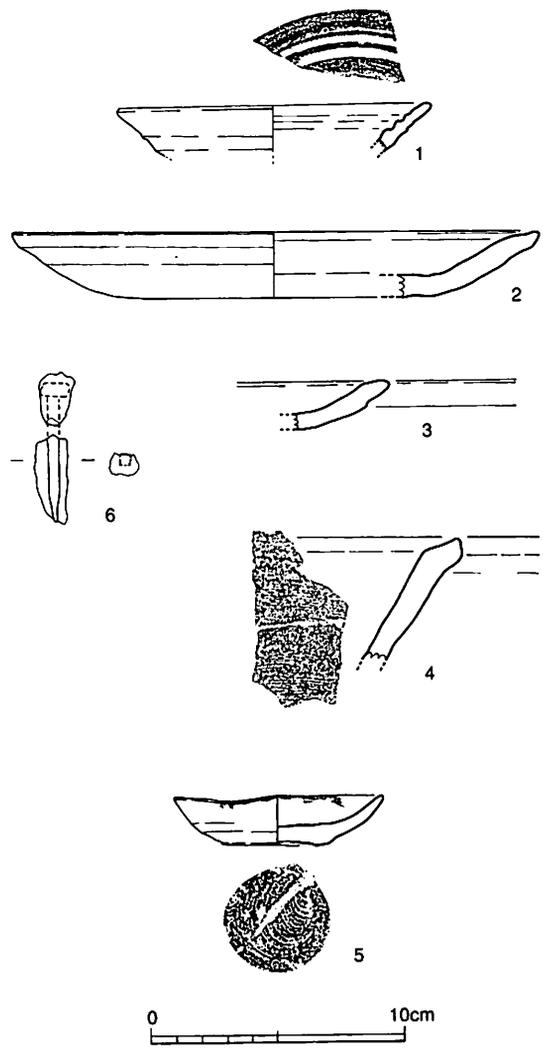
第 97 図 SK72 出土遺物実測図



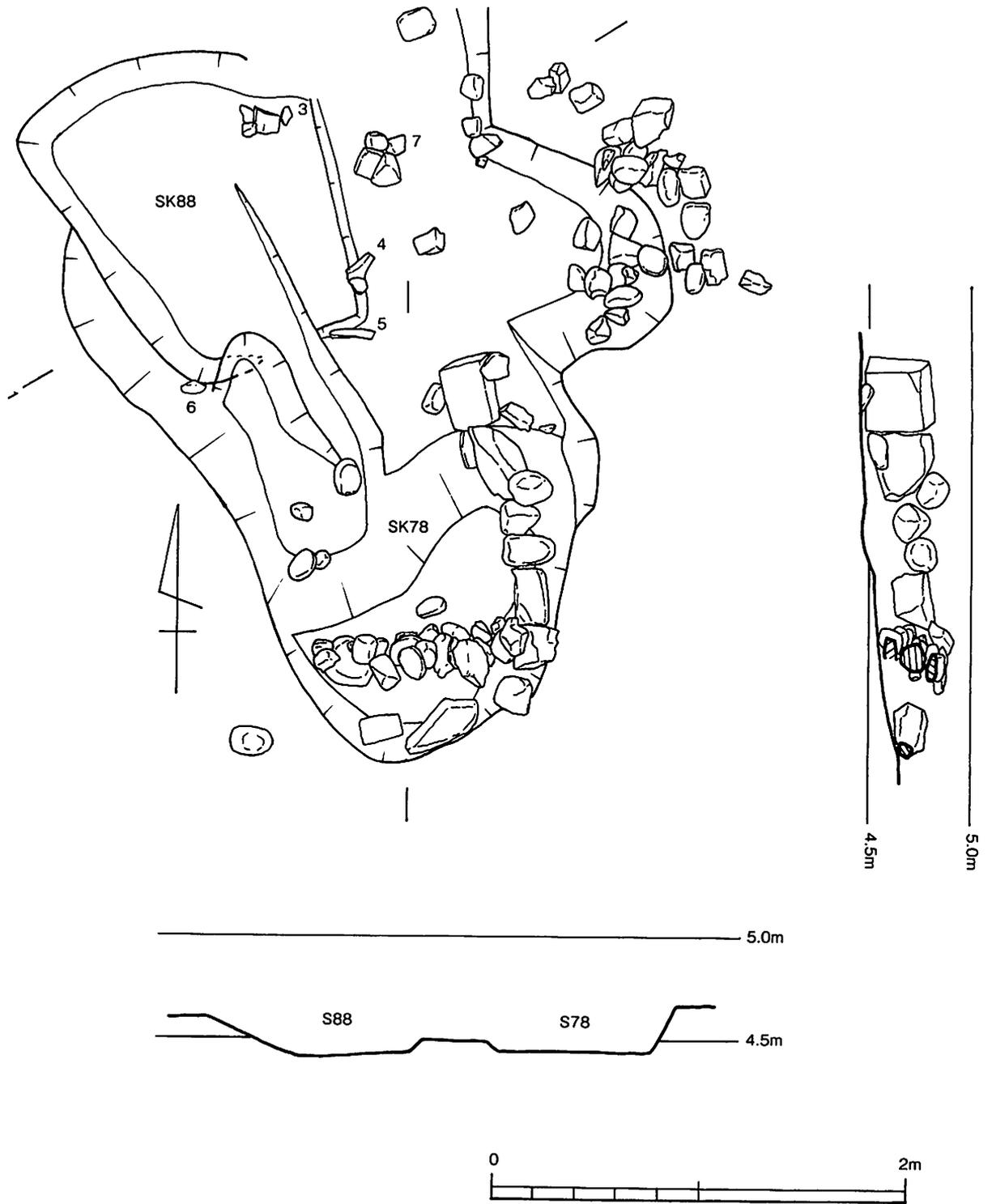
第98図 SK72 出土遺物実測図



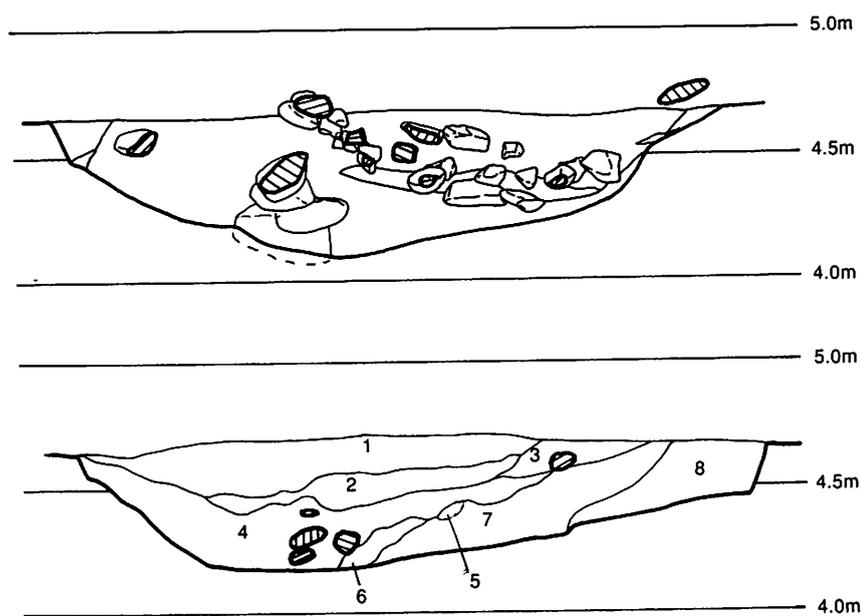
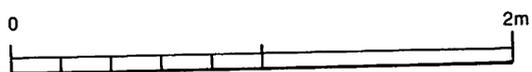
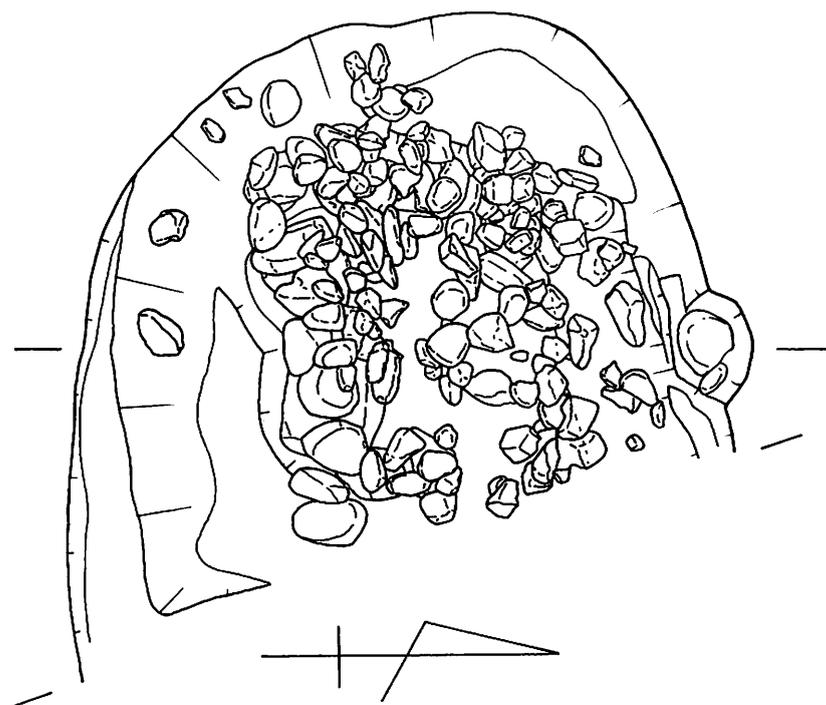
第99図 SK73 実測図



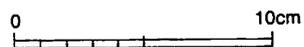
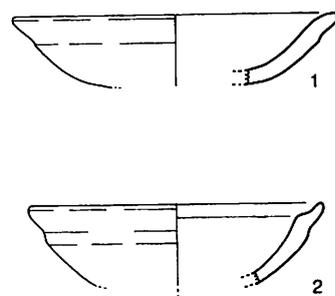
第100図 SK75・76 出土遺物実測図



第 101 図 SK78・SK88 実測図



第102図 SK79 実測図

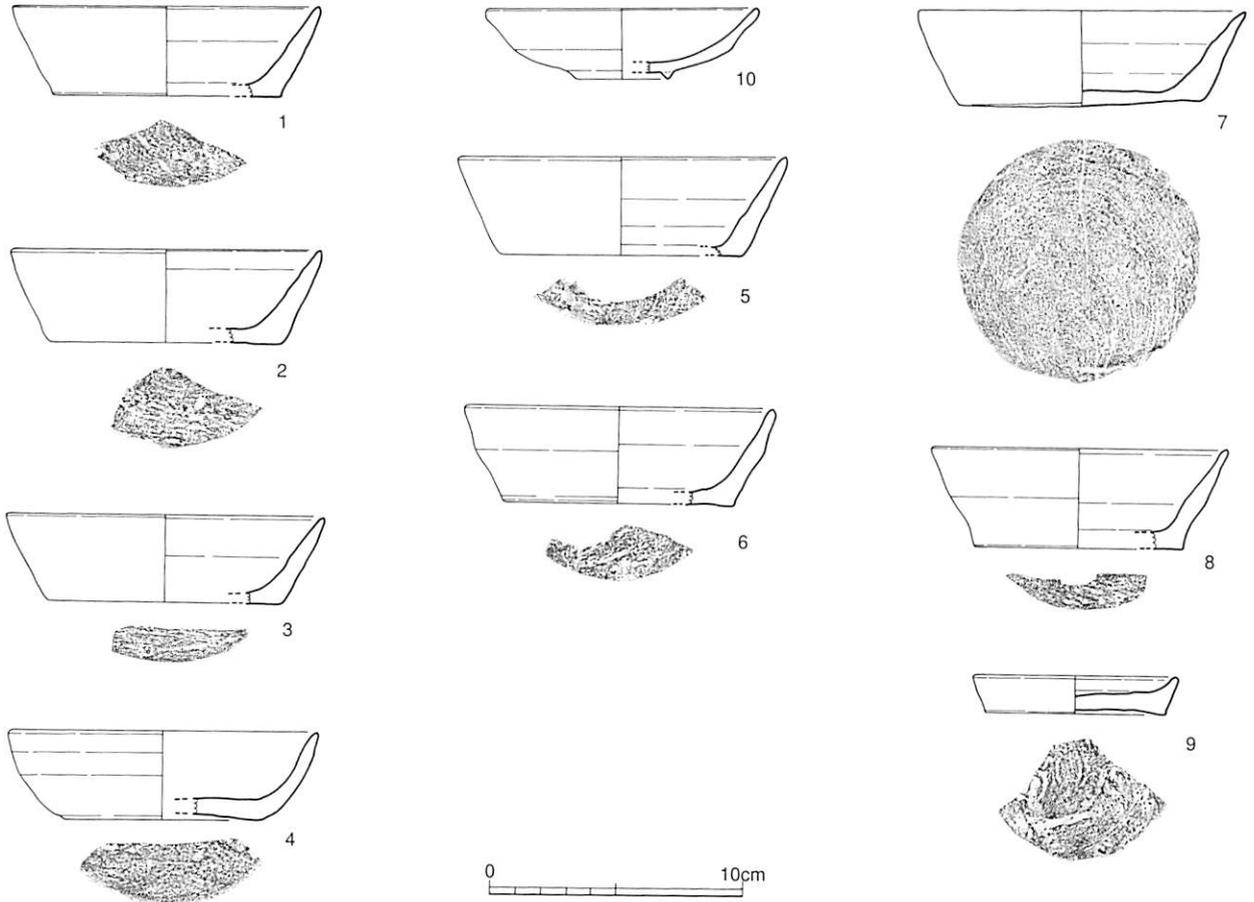


第103図 SK79 出土遺物実測図

○ 13世紀の遺構と遺物

概要 14世紀前葉よりも古い遺構が若干存在する。

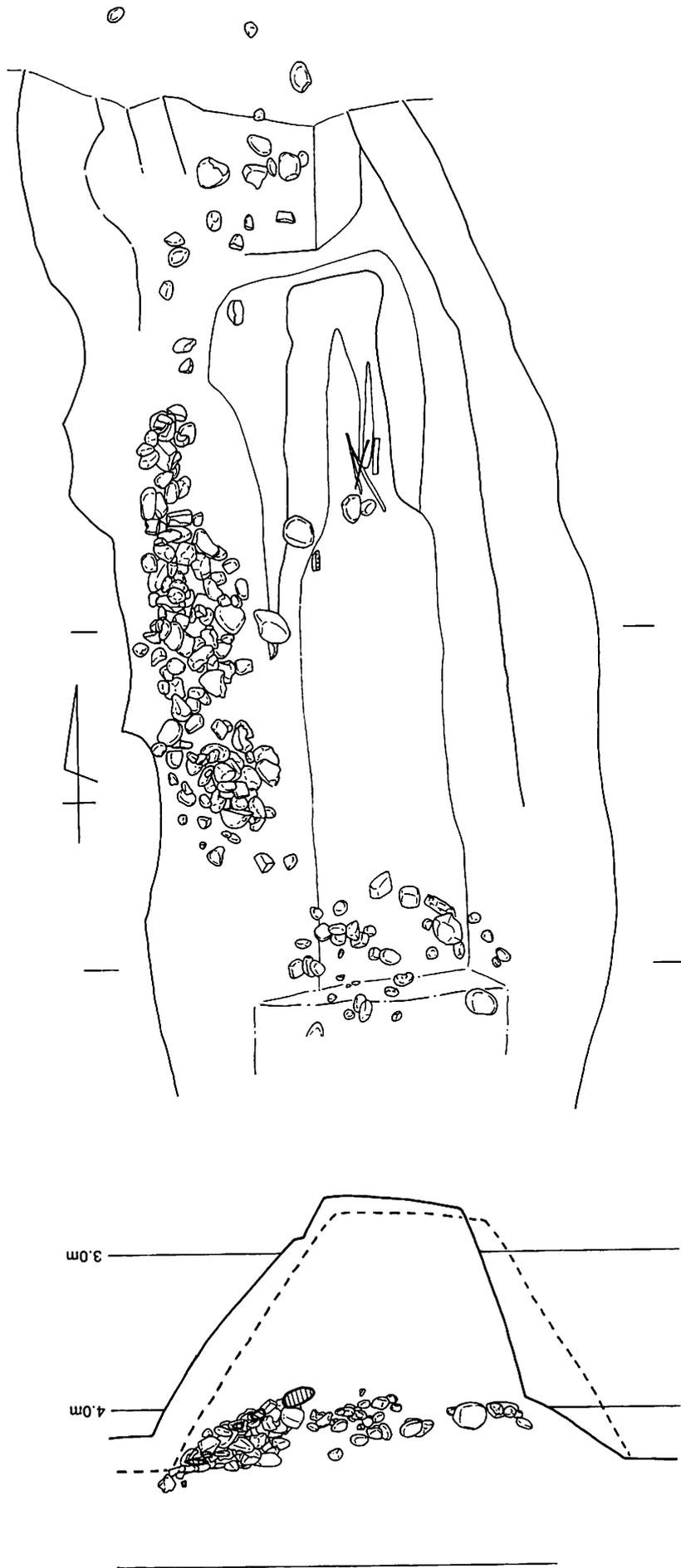
SX66（第83図1～10） 64D区にあり、SX65の北西に遺物が分布した部分のことである。穴として検出できず、平面的に廃棄した状態であった。1～8は皿、9は小皿、10は吉備系土器である。1～3・5・7・8は口縁端部が尖り気味で体部は直線的に外反する。口径は8が11.6cmとやや小さいが、他は12.0cm～12.9cmに収まる。器高は3.4cm～3.9cmに収まる。これらはSX65の一群よりも口径は小さく、器高は大きい特徴をもつ。4は体部下半に丸みをもち、体部が内湾する皿で、他よりも古い特徴をもつ。9は小皿で、底部から体部の断面が三角形状であり、13世紀的である。



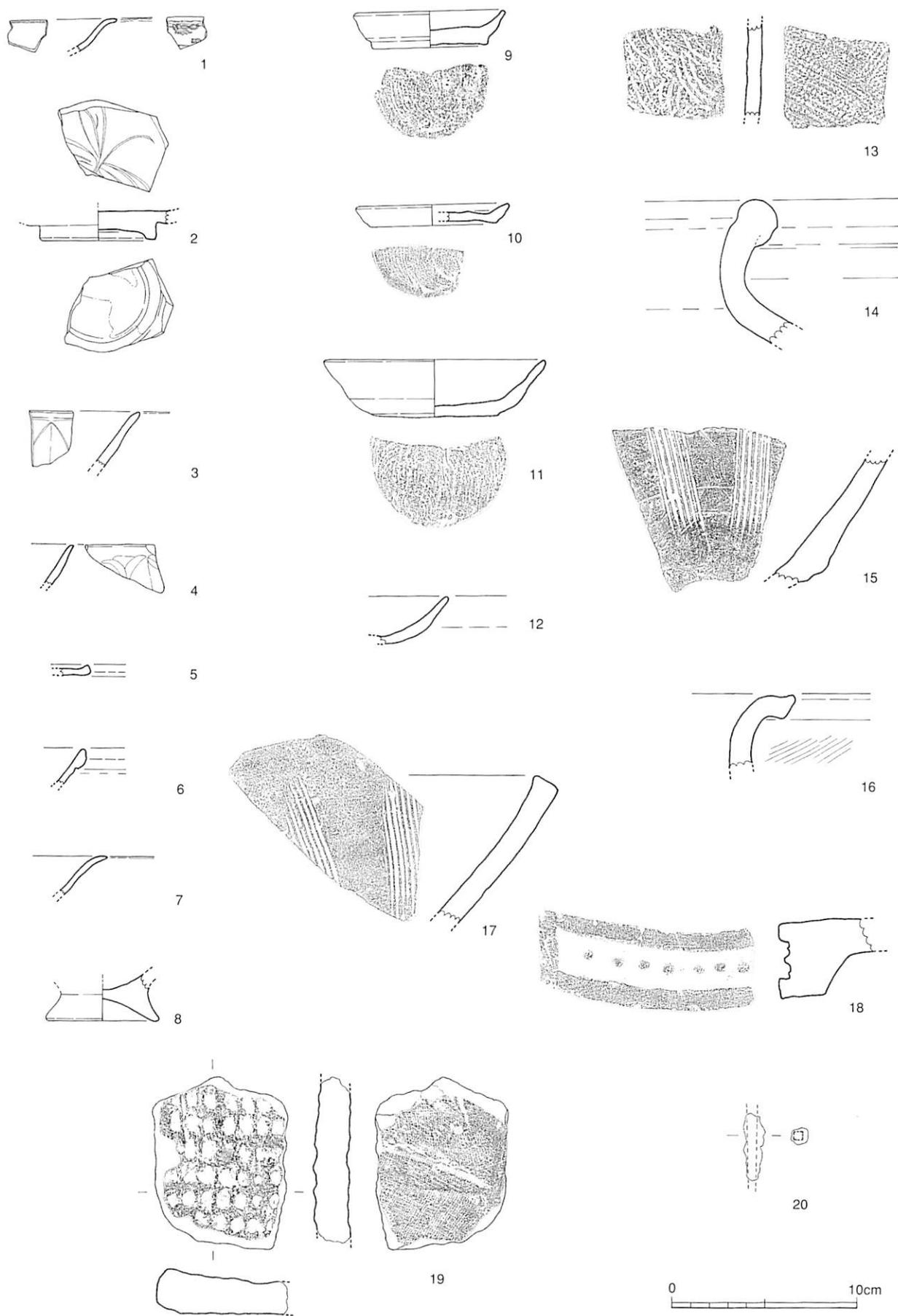
第104図 SX66 出土遺物実測図

SD109（第105図） 16世紀の斜行道路の下の方で、C区とD区の境で検出した溝状遺構である。上面の幅は約3m、深さは1.7mで、床面は南側が低い。埋土上部には西側から礫が投げ捨てられ、下部では水中ポンプを使う必要があるほど水分が多く、木質遺物も出土した。この溝はSD120～122と重複するが、調査時点で先後関係に注意して観察した結果、SD109がこれらの溝を切るという証拠は見つけられなかった。埋土は湿気を帯びていた。床面は北部で一段高くなっている。北部の床は崩壊の危険性があるので、次回の調査に調査することにした。埋土上部には礫が窪んで堆積していた。

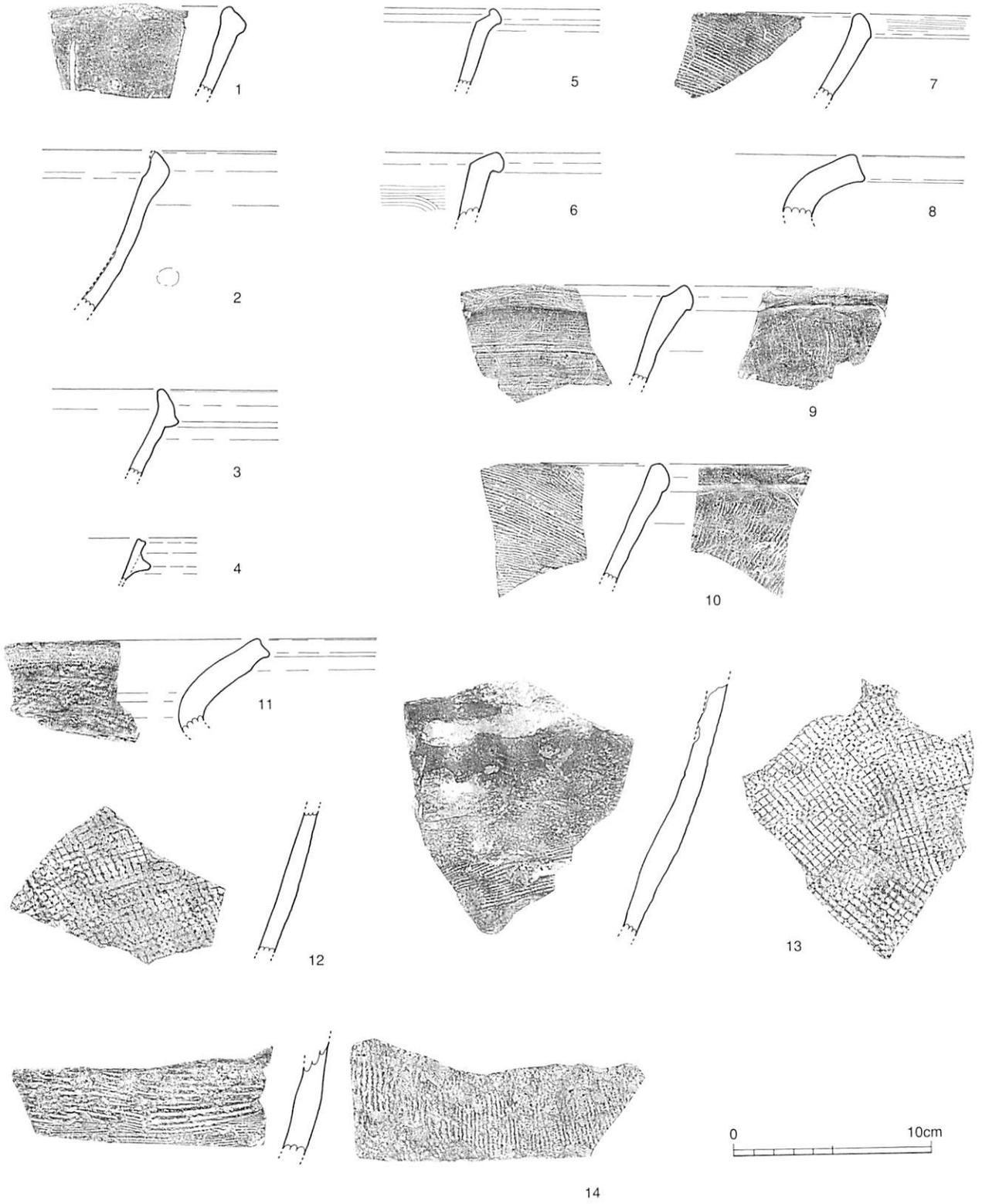
出土遺物（第106図1～20、107図1～14） 第106図1は青花、2～5は青磁、6・7は白磁、8は土師器、9～12は土師器で12だけは時期が新しいので混入と思われる。13は須恵器、14・15・17は備前焼、16は常滑焼、18・19は瓦、20は鉄釘である。第107図は瓦質土器。



第 105 図 SD109 実測図



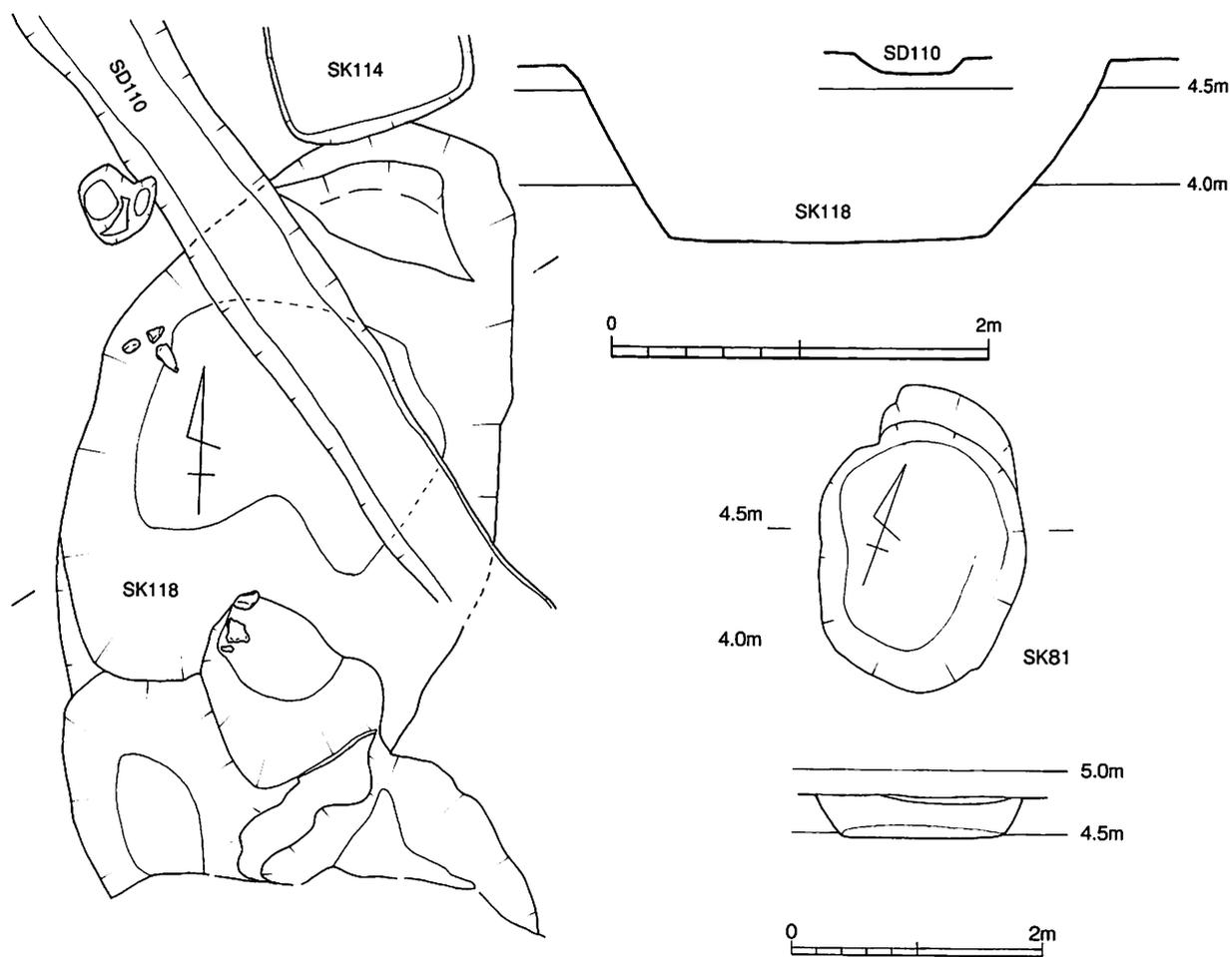
第 106 図 SD109 出土遺物実測図



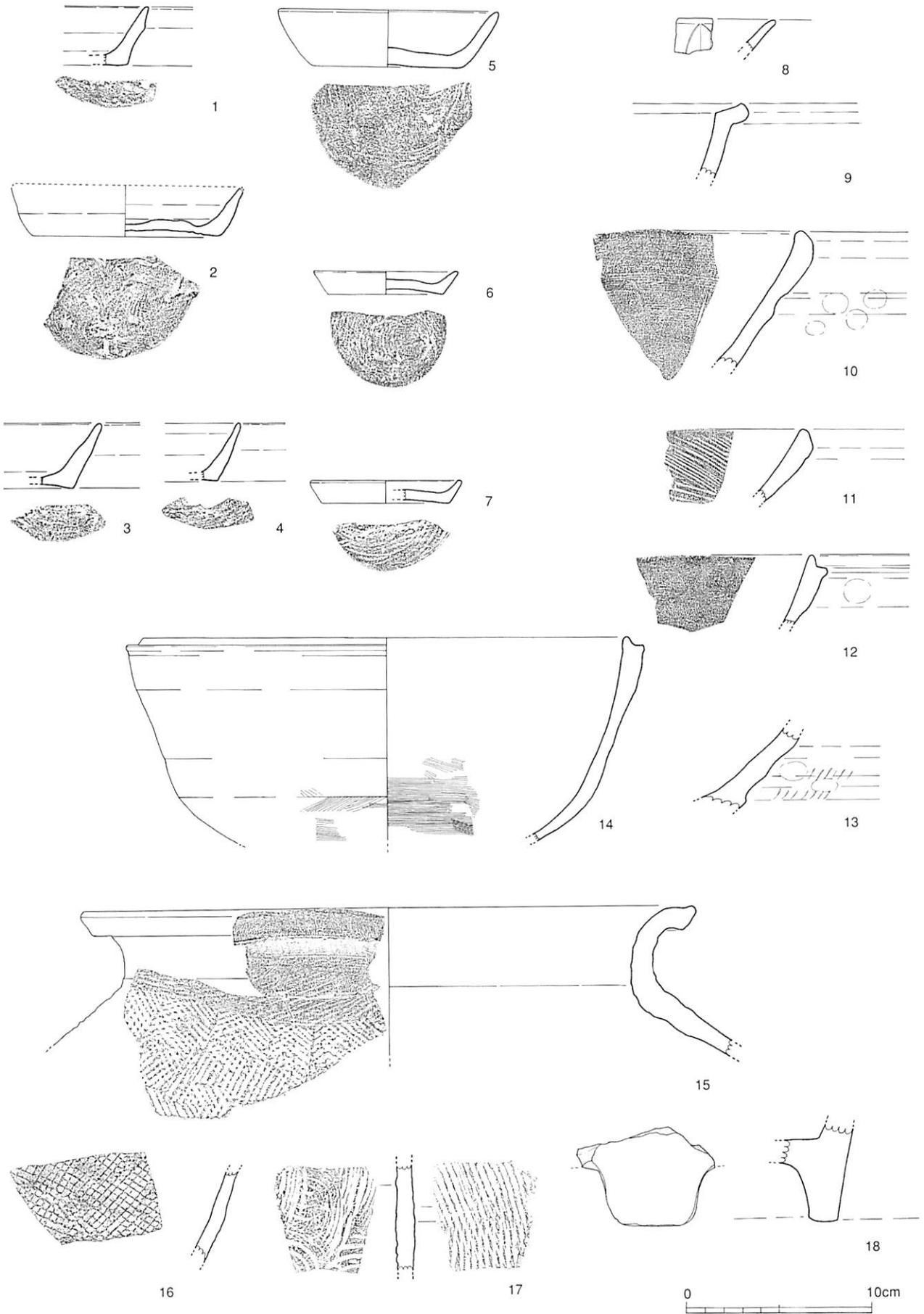
第107図 SD109 出土遺物実測図

SK118 (第108図) C65区にあり、埋没後にSD110が作られている。SD110と同規模で東側2mの間隔を置いて平行に走るSD121(SD122)がSD109に切られている。従って、SK118が最も古く、SD110とSD121がこれに次ぎ、SD109が最も新しいことになる。

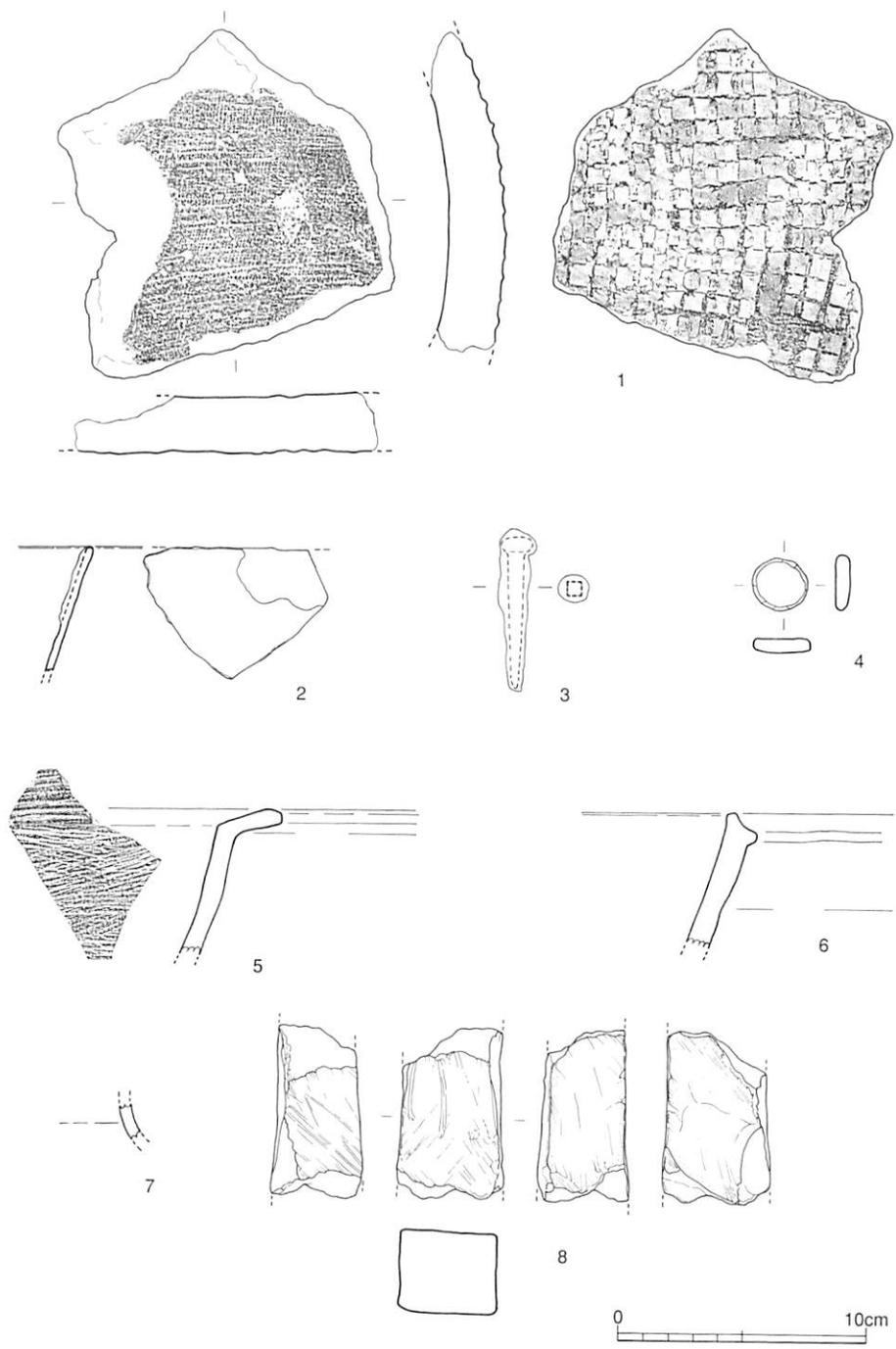
出土遺物 (第109・110図) 1～7の土師器皿は器壁の下部が厚く、口縁部に向かって尖るものが多い。15の東播系甕は頸上部で強く外反する形である。18は混入か。



第108図 SK114・SK118・SD110 実測図



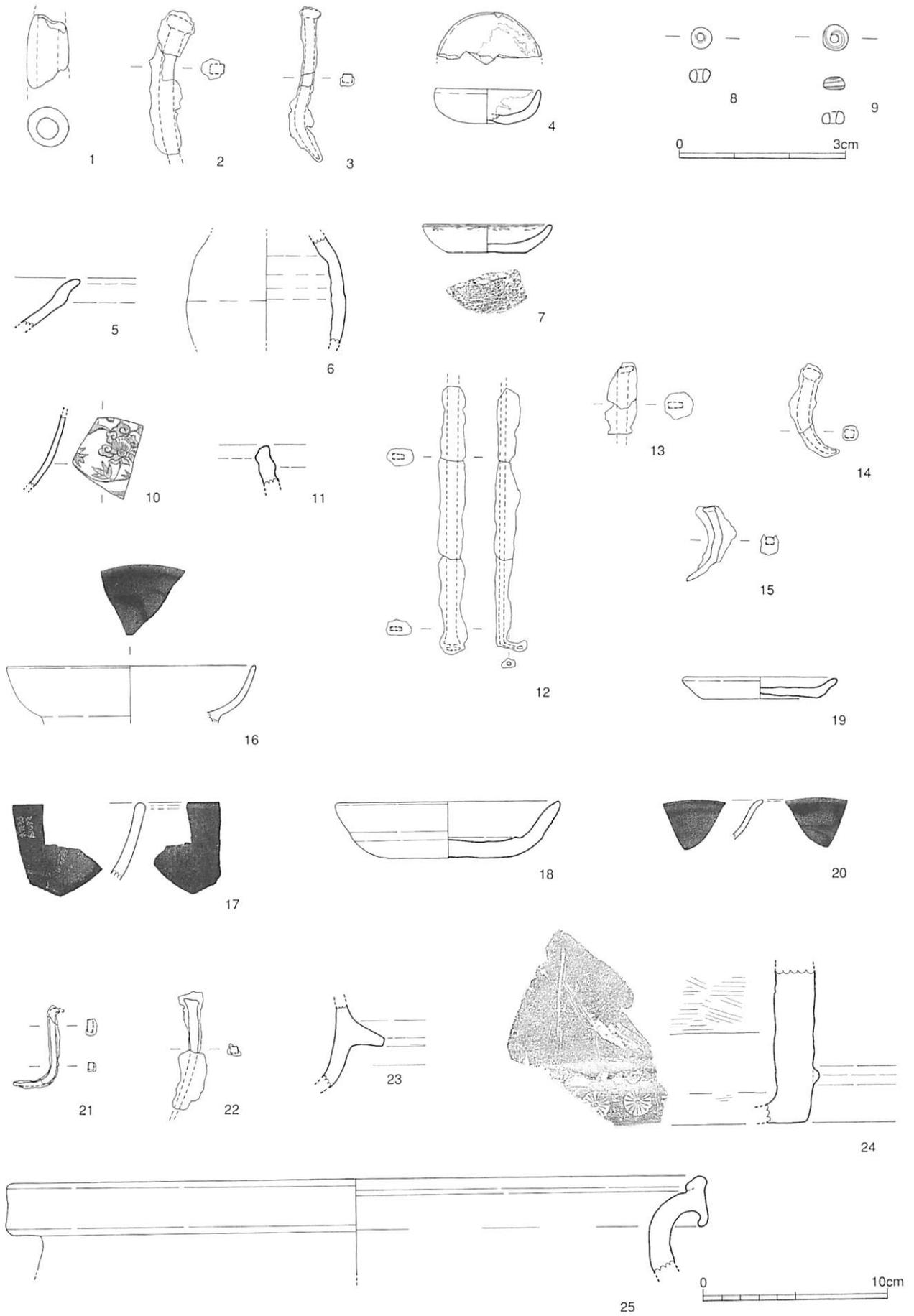
第109図 SK118 出土遺物実測図



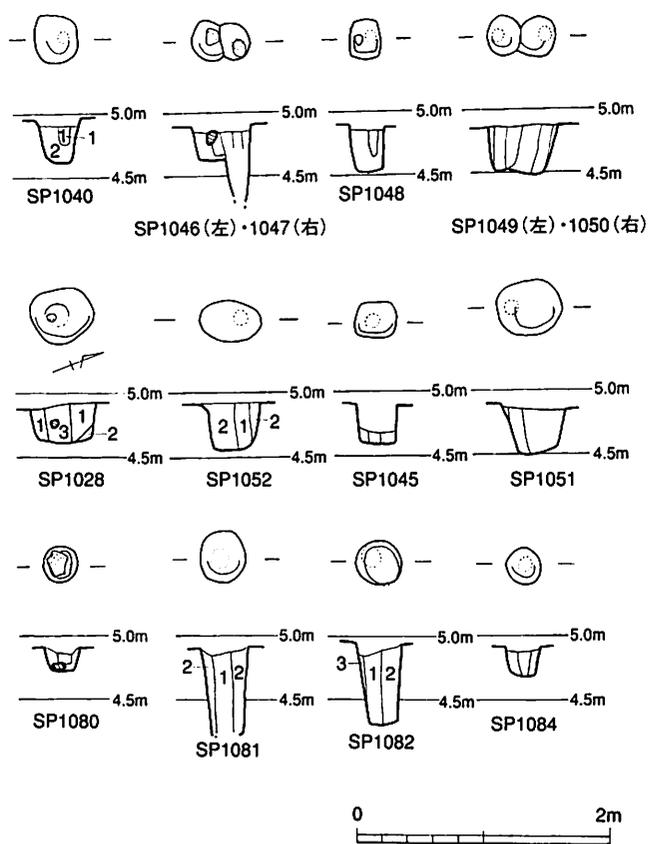
第110図 SK118～120 出土遺物実測図

○柱穴 (第112図) 多数の柱穴を検出したが、調査区が細長いためもあって、建物として確実に復元できなかった。掘立柱建物跡については、隣接調査区の成果を待って、改めて再検討したい。柱穴は木柱の痕跡が軟らかい土層として、断面図・平面図で示すように他と区別できた。直径は10cm程度の例が多く、最大でも20cm以下であった。方形の断面の柱はなく、確認例はすべて円形断面であった。

○包含層の遺物 (第115～153図) 遺構外から多数の遺物が出土した。内容は観察表に示した。



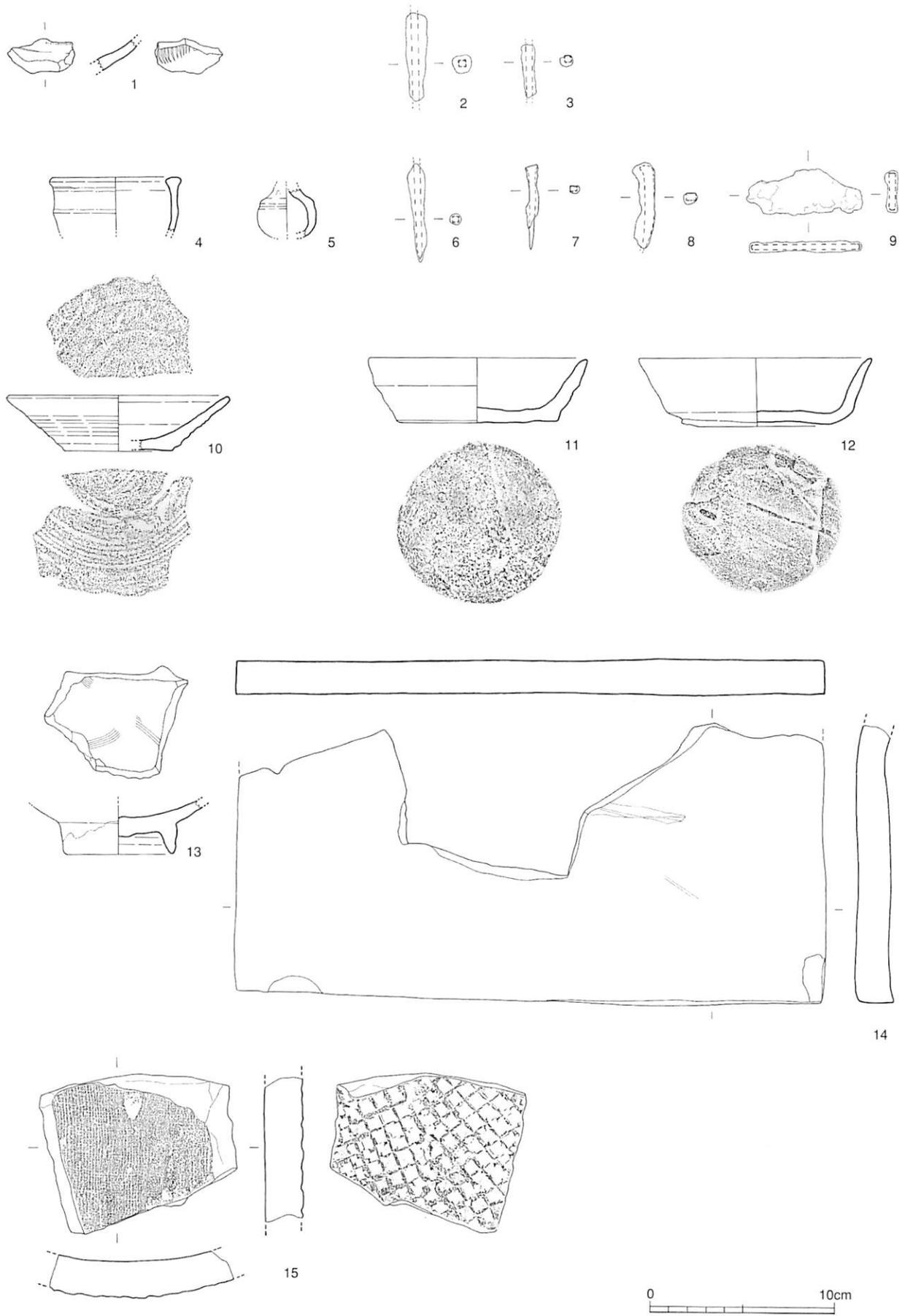
第 111 図 柱穴出土遺物実測図



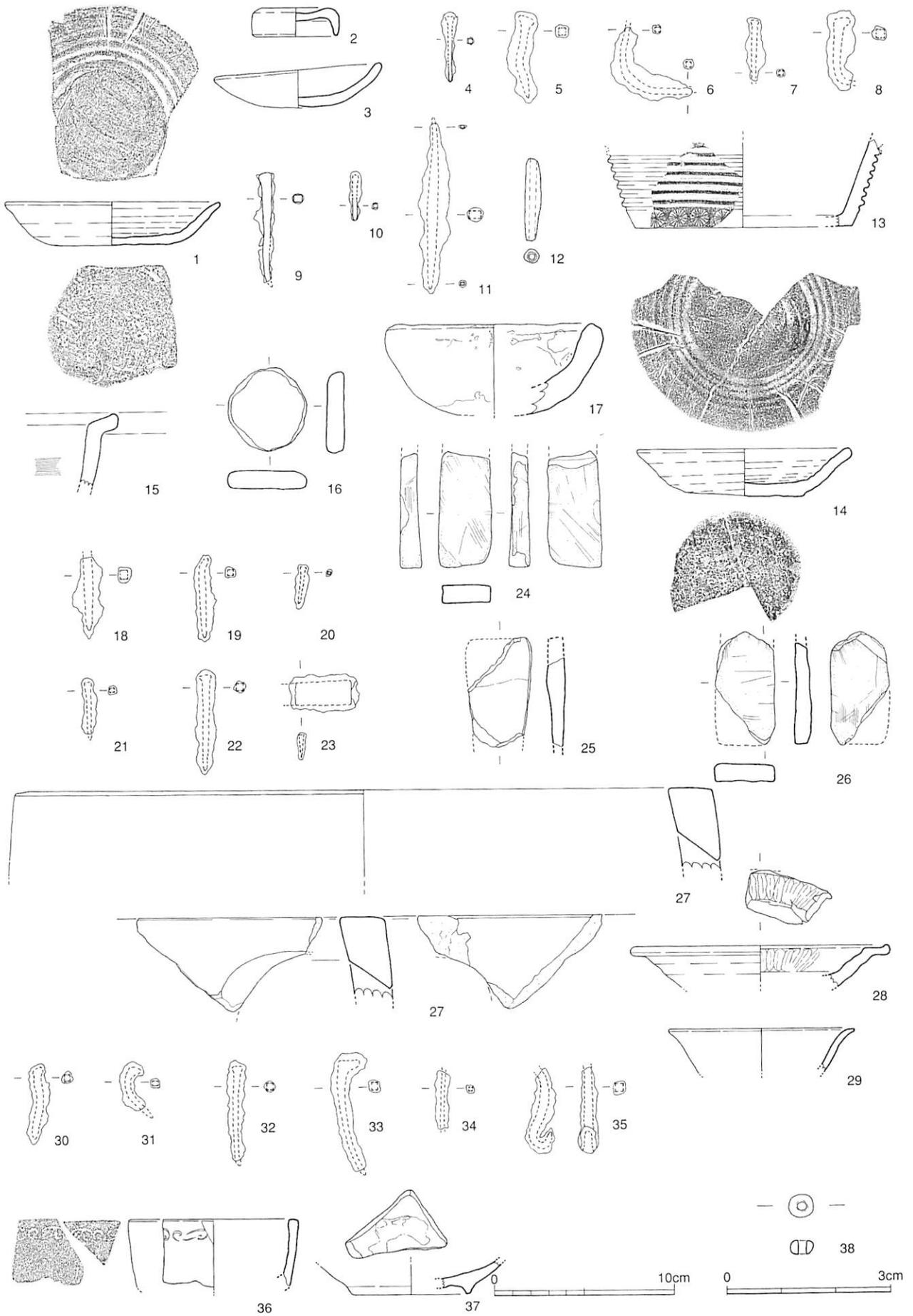
第 112 図 柱穴実測図



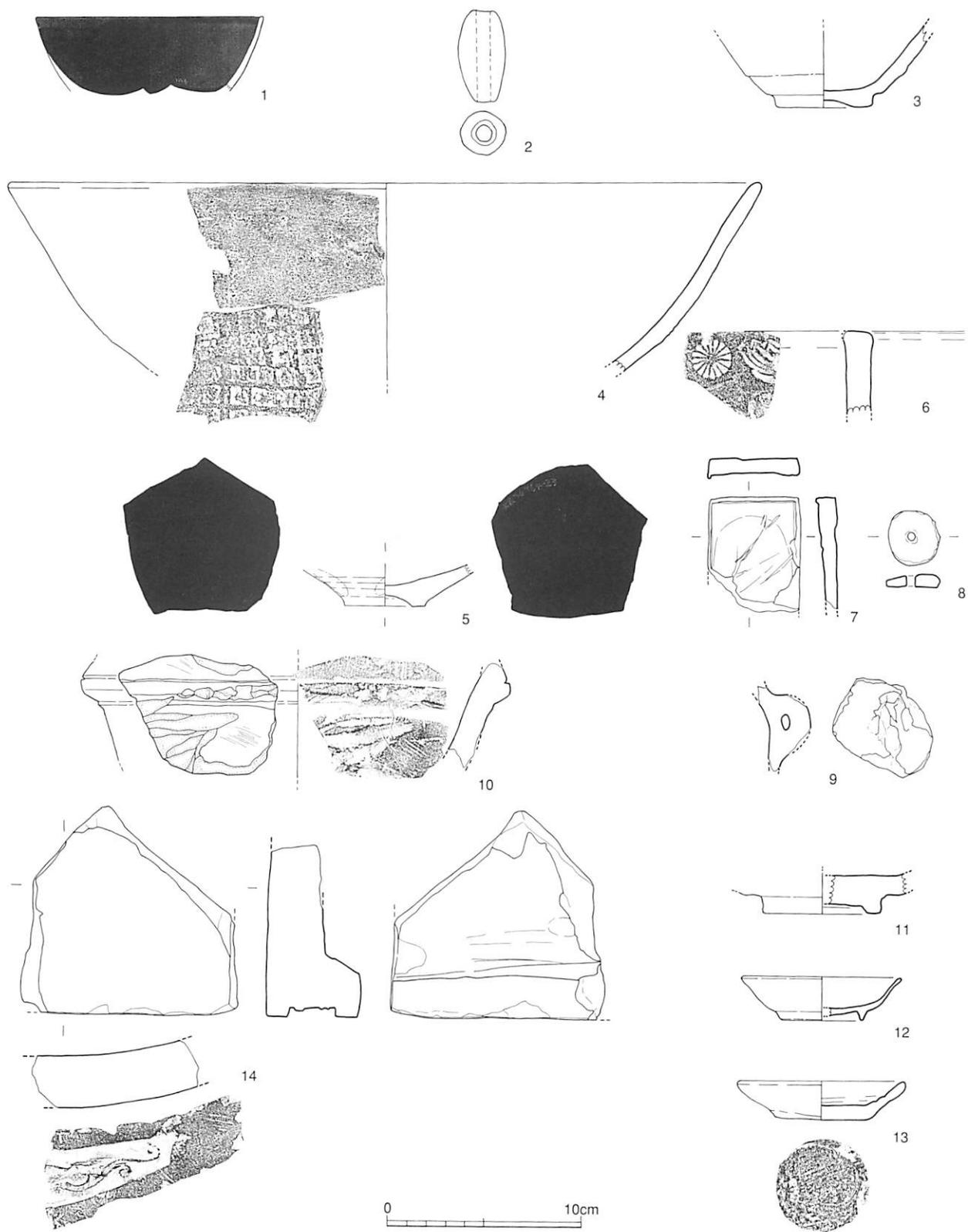
第 113 図 柱穴出土遺物実測図



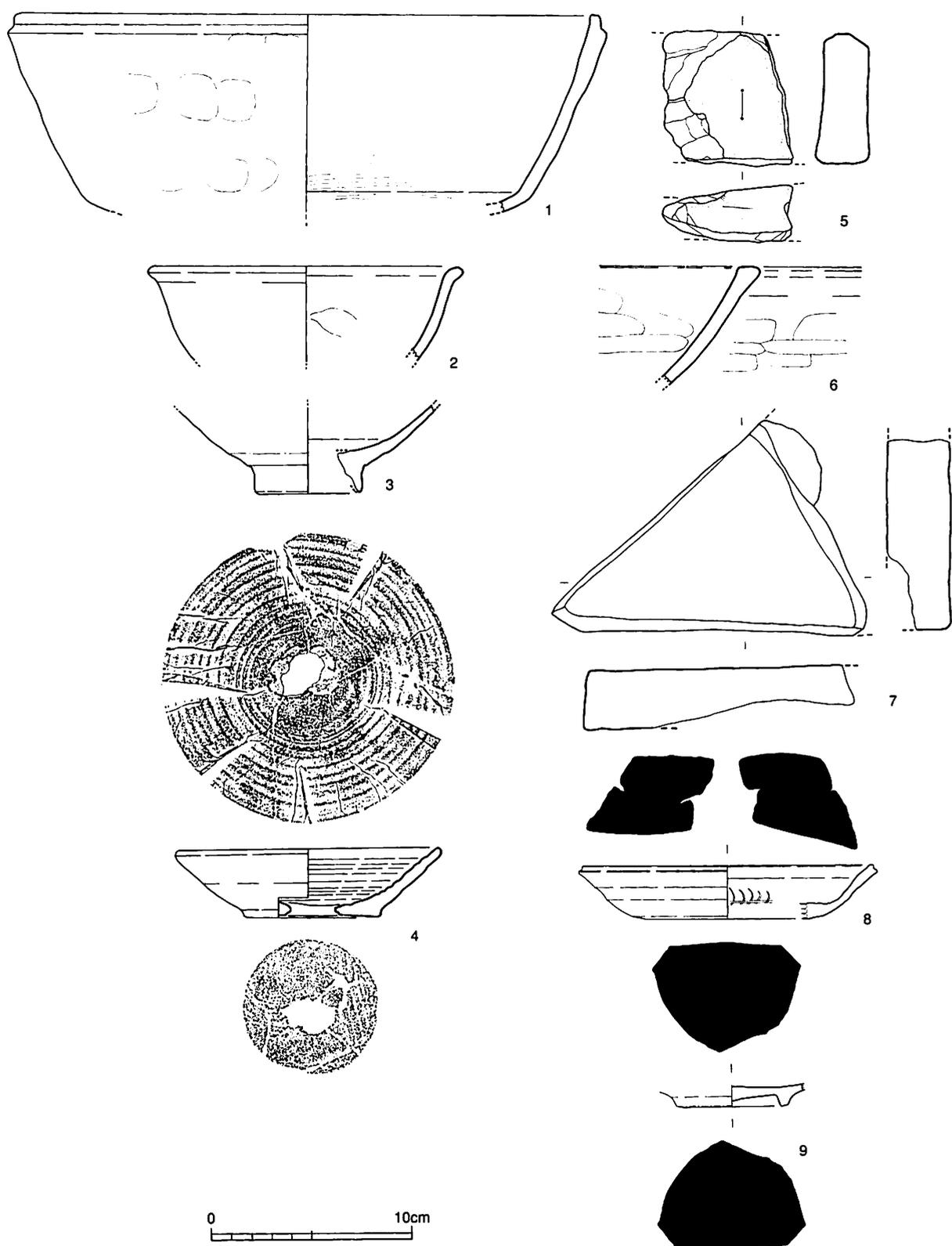
第114図 包含層出土遺物実測図



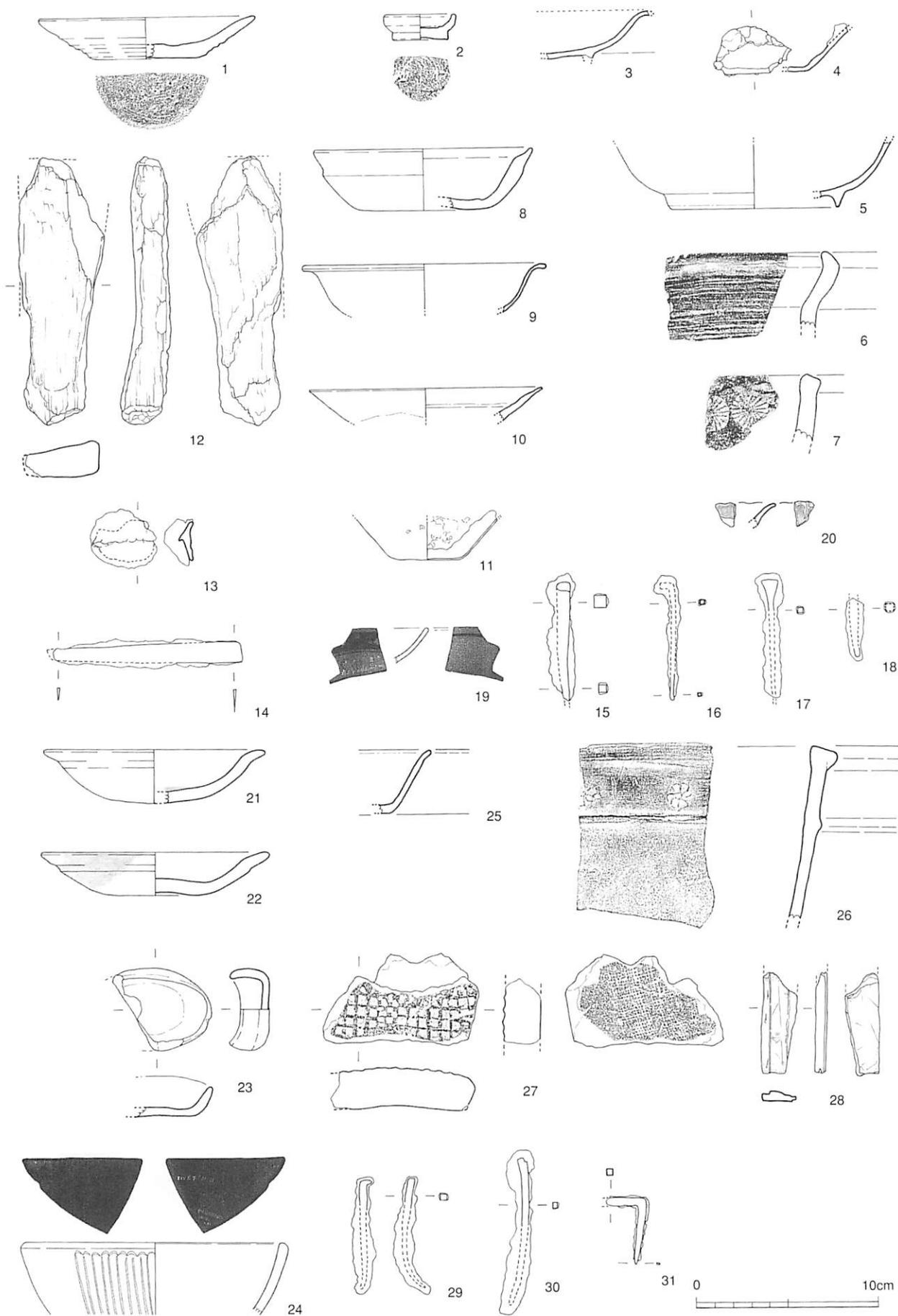
第115図 包含層出土遺物実測図



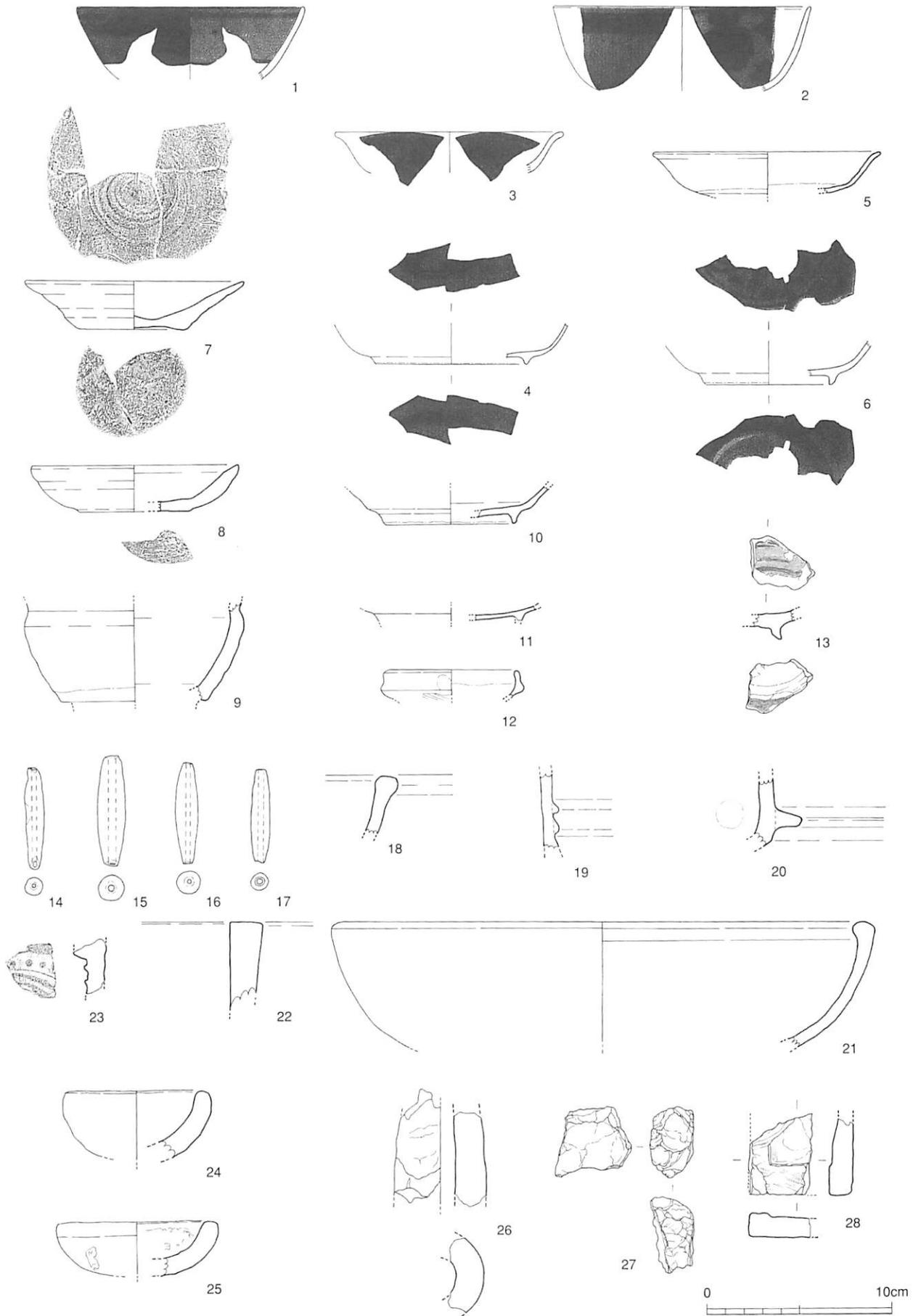
第116図 包含層出土遺物実測図



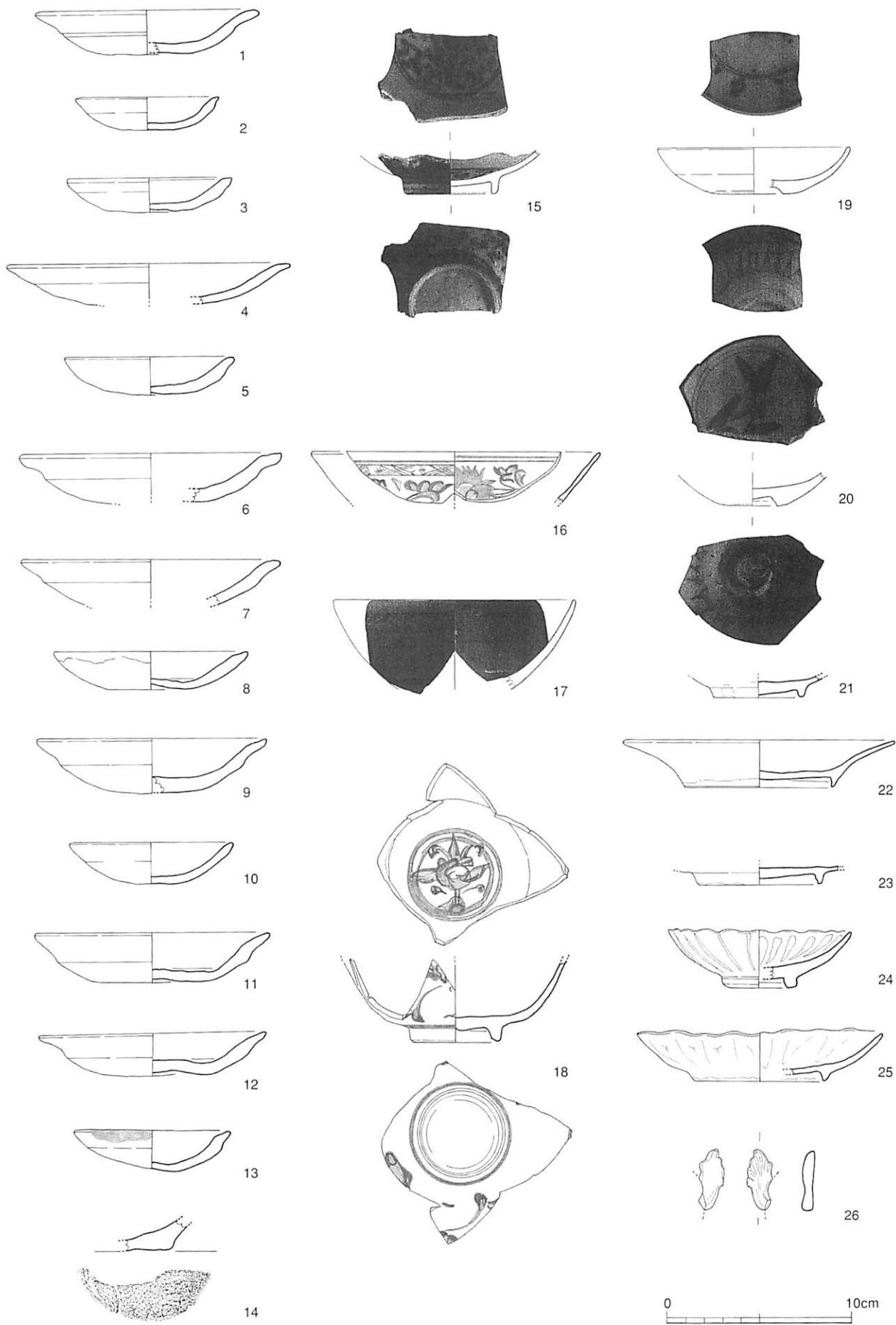
第117図 包含層出土遺物実測図



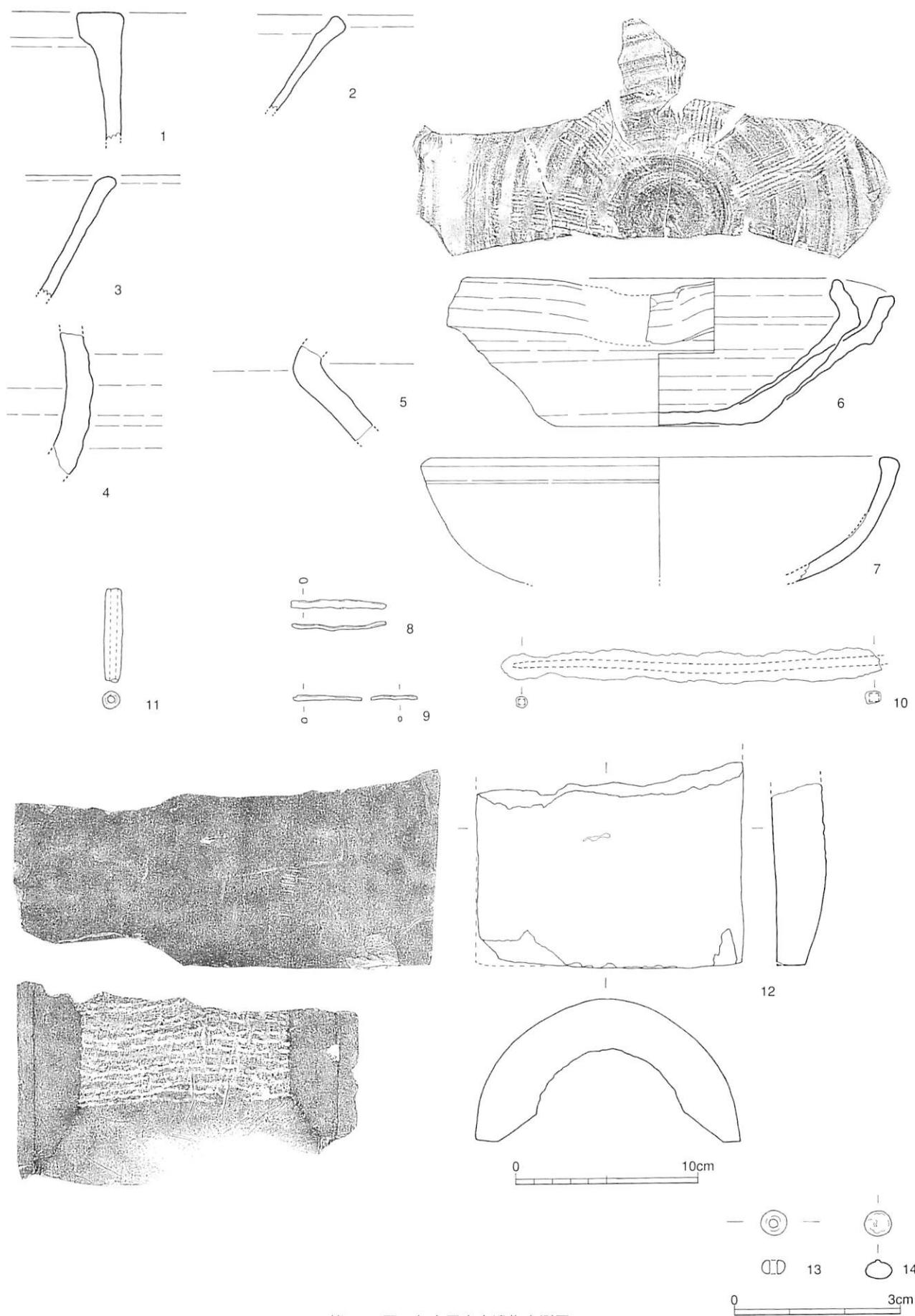
第118図 包含層出土遺物実測図



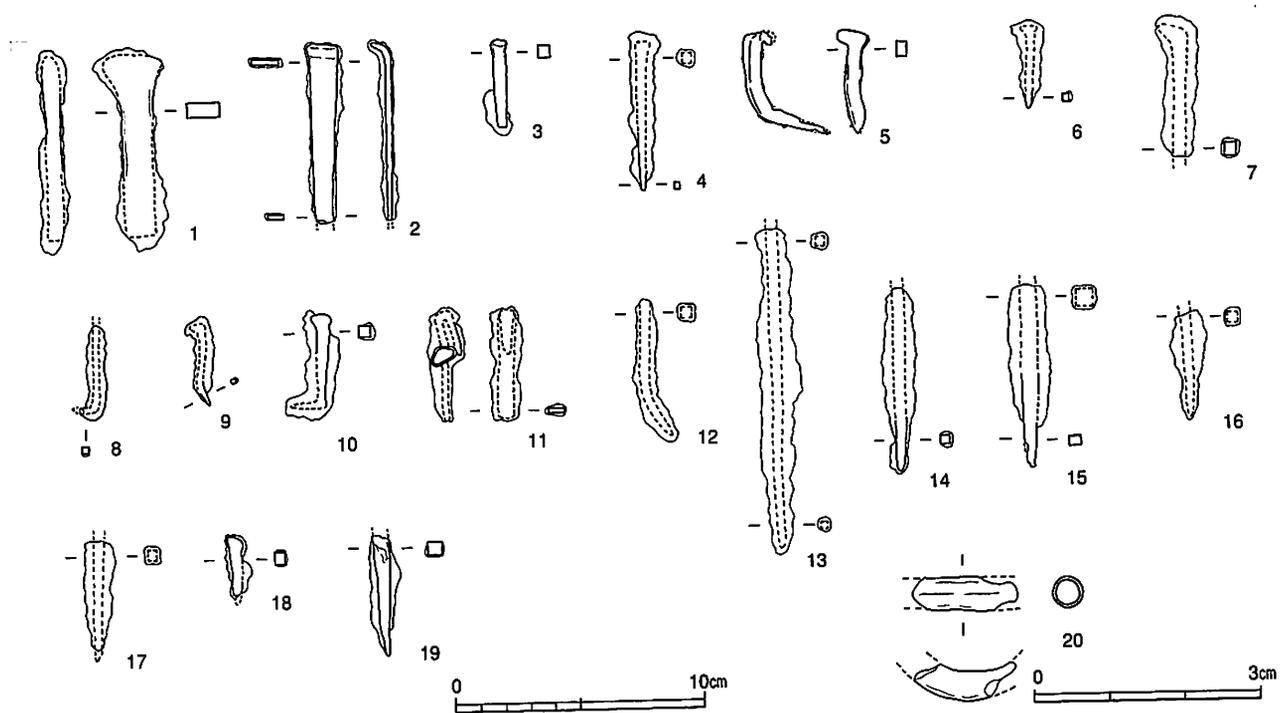
第119図 包含層出土遺物実測図



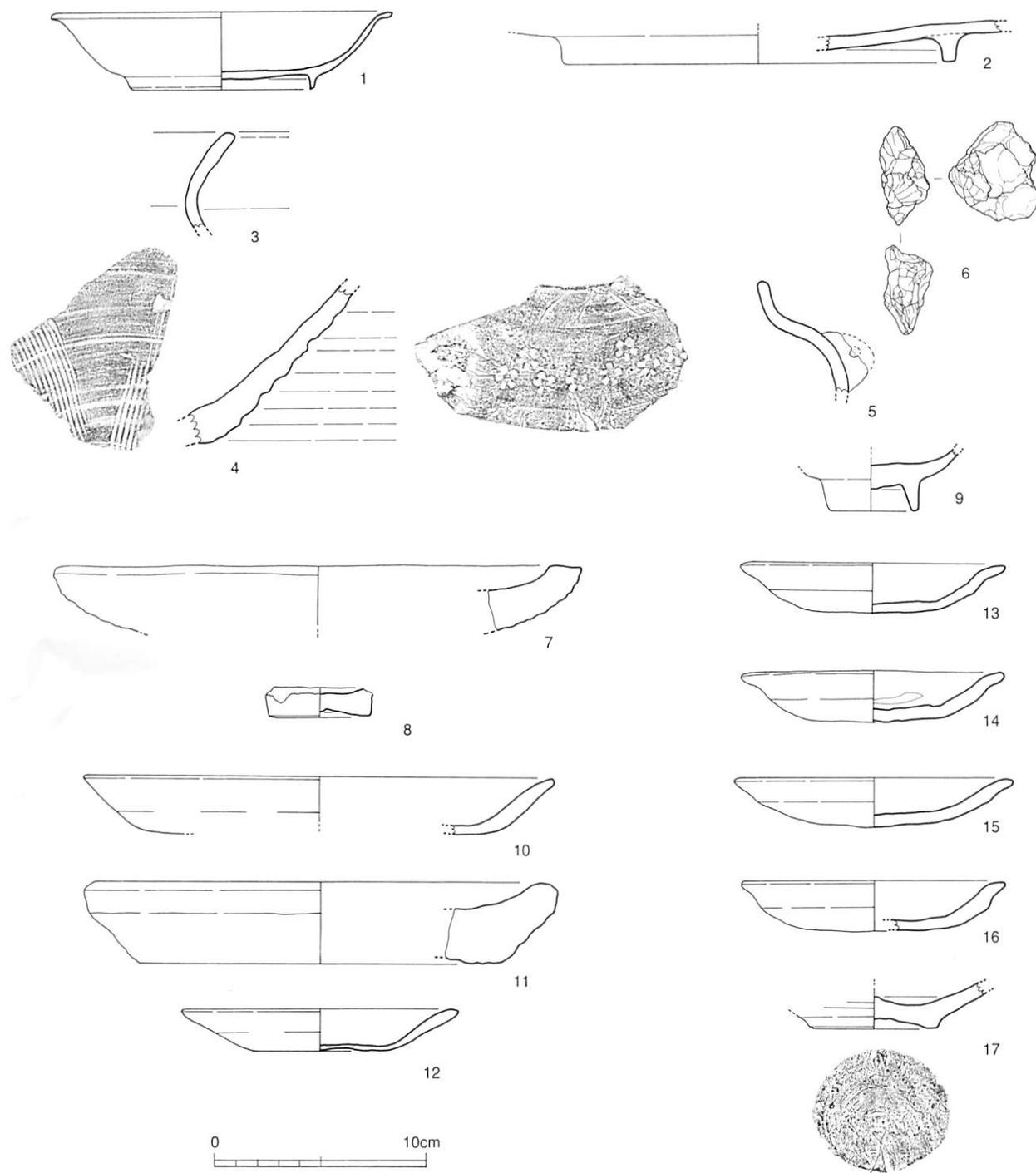
第120図 包含層出土遺物実測図



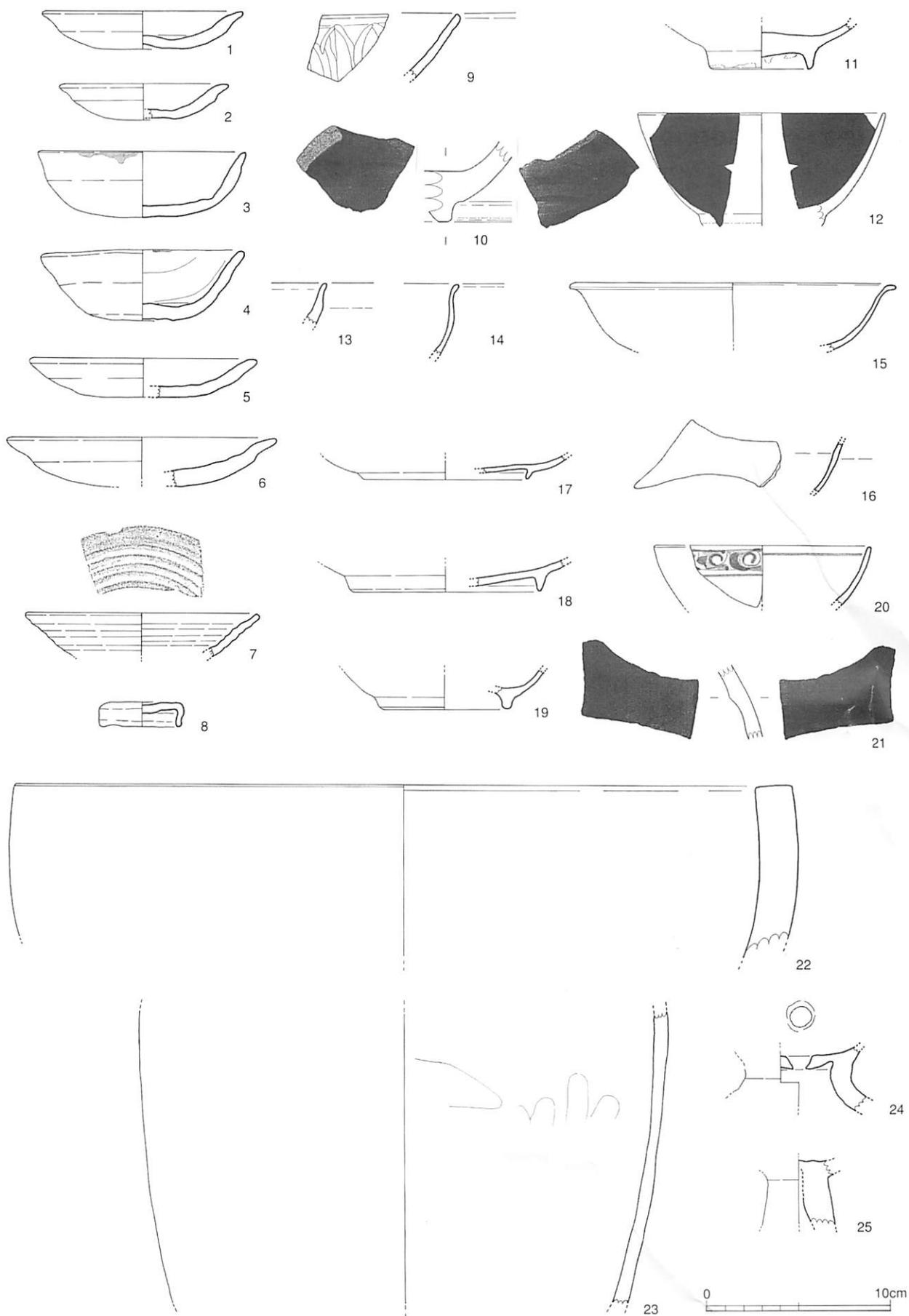
第121図 包含層出土遺物実測図



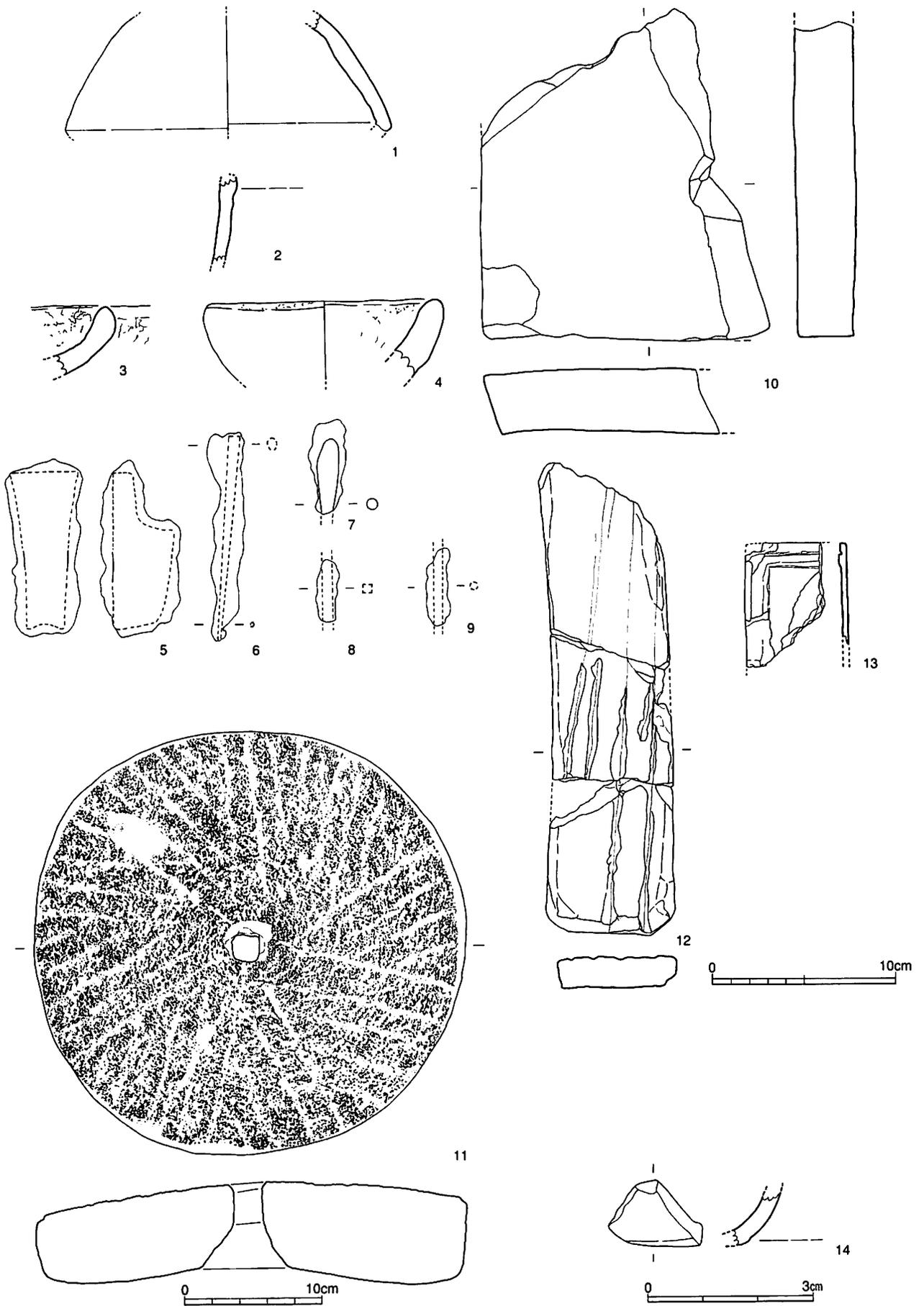
第 122 図 包含層出土遺物実測図



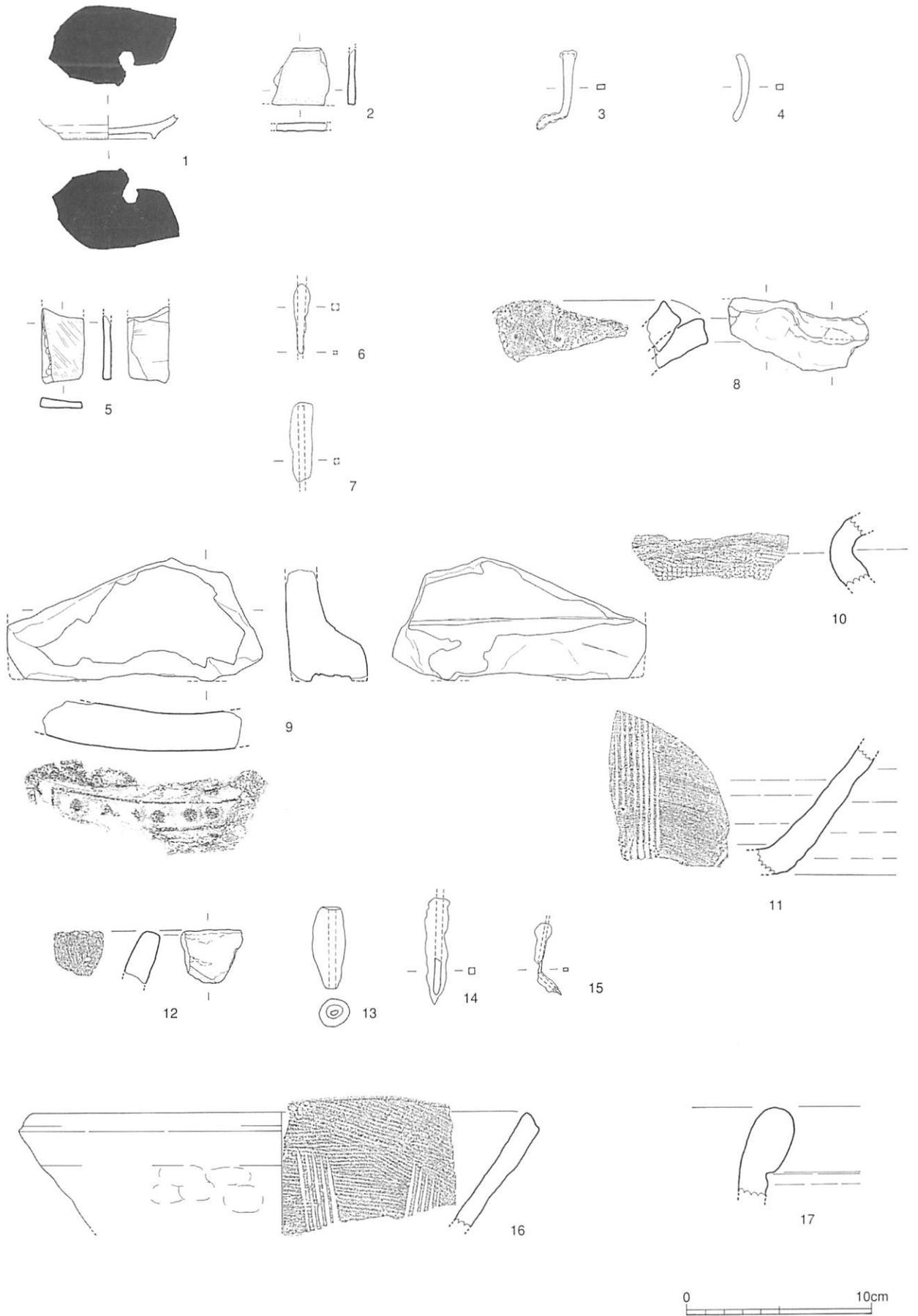
第123図 包含層出土遺物実測図



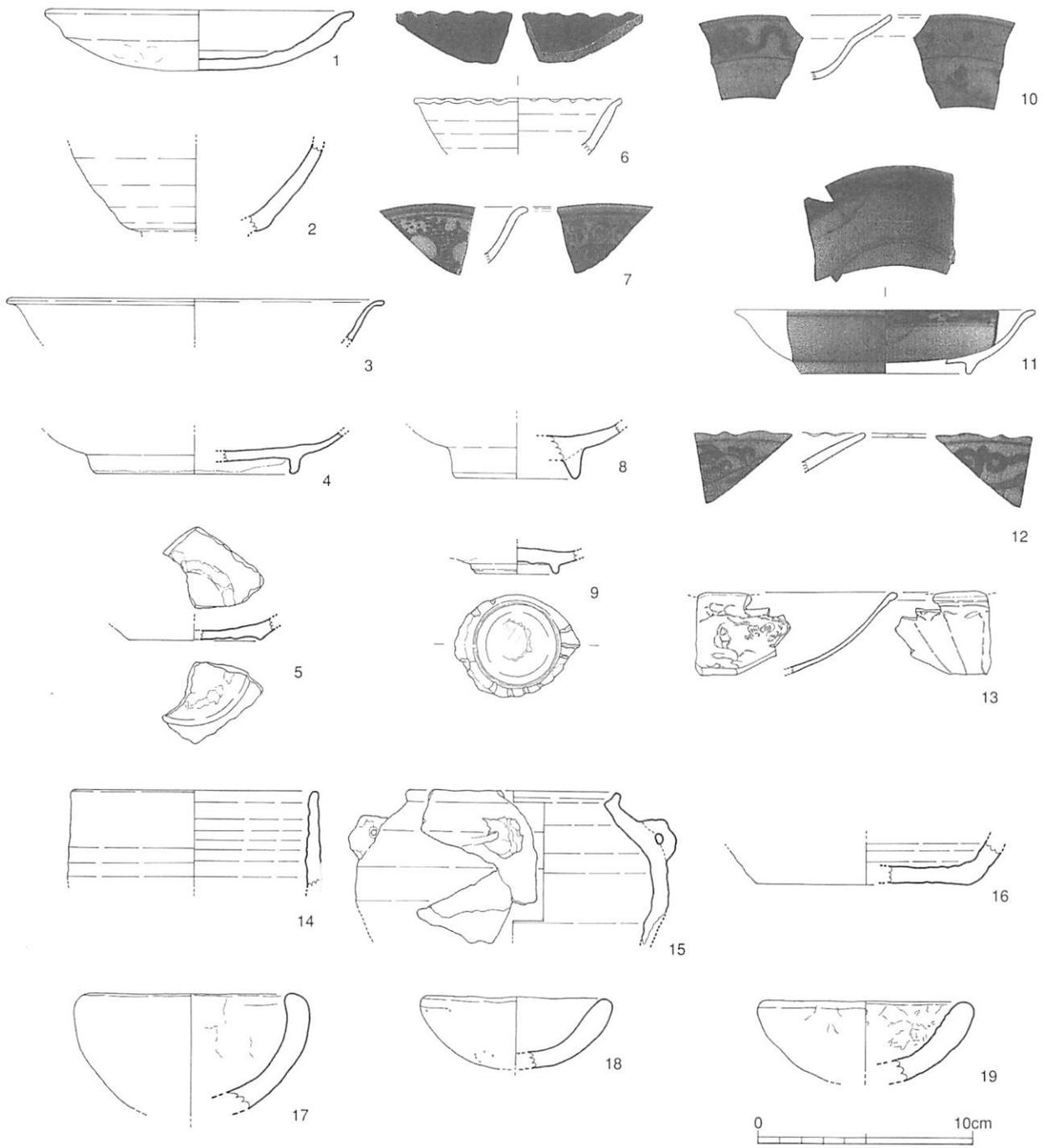
第124图 包含層出土遺物実測図



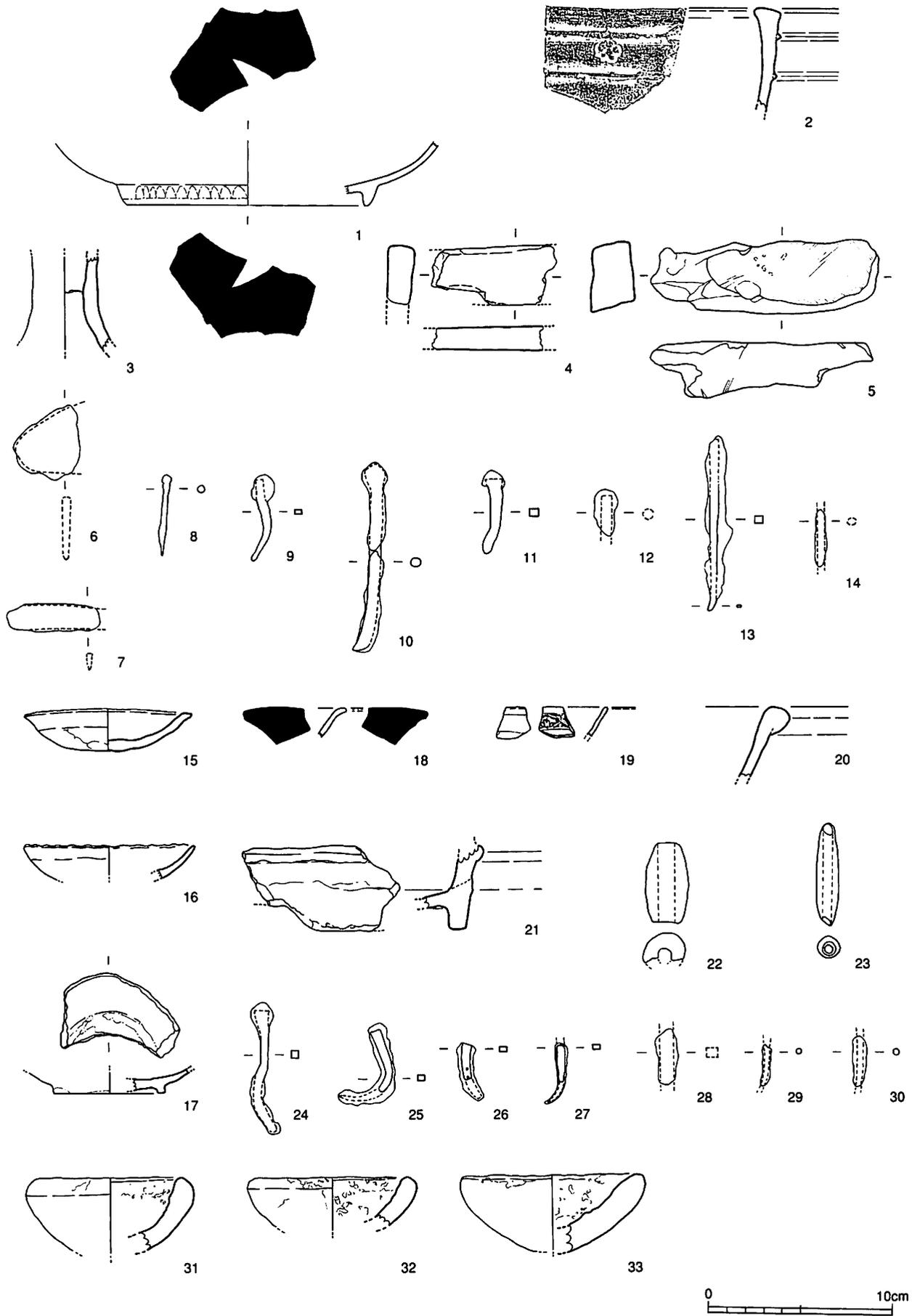
第125図 包含層出土遺物実測図



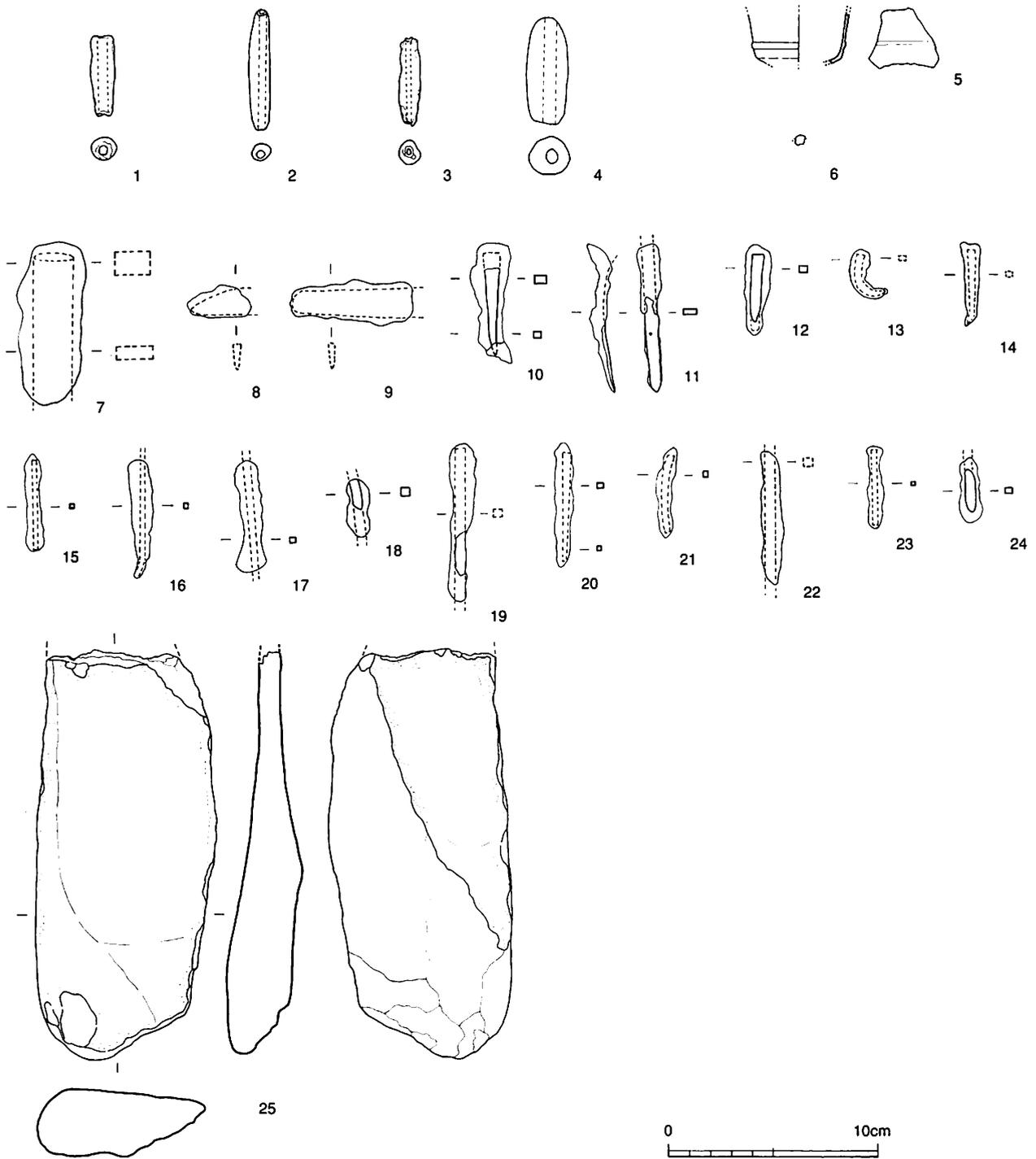
第126図 包含層出土遺物実測図



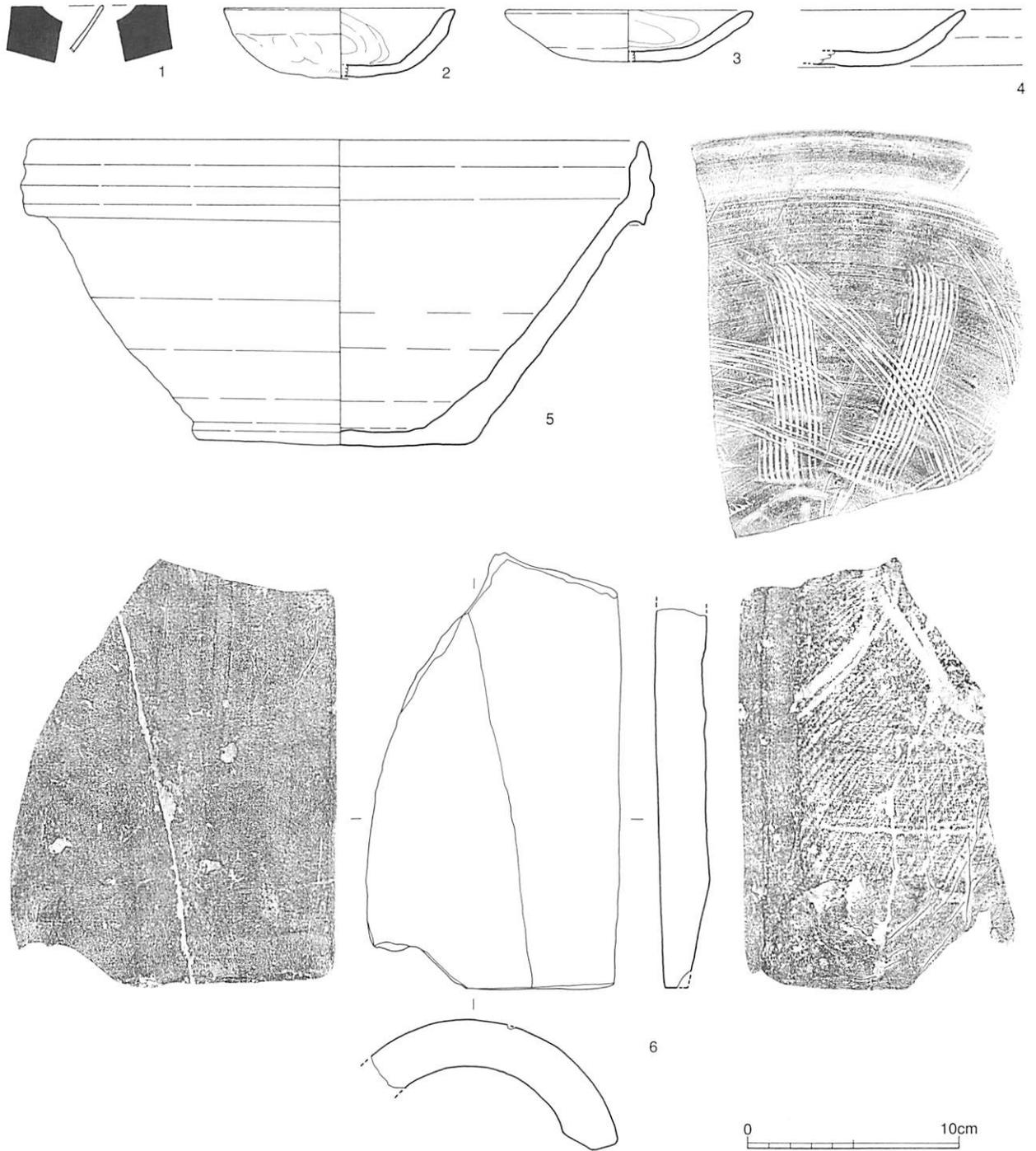
第 127 図 包含層出土遺物実測図



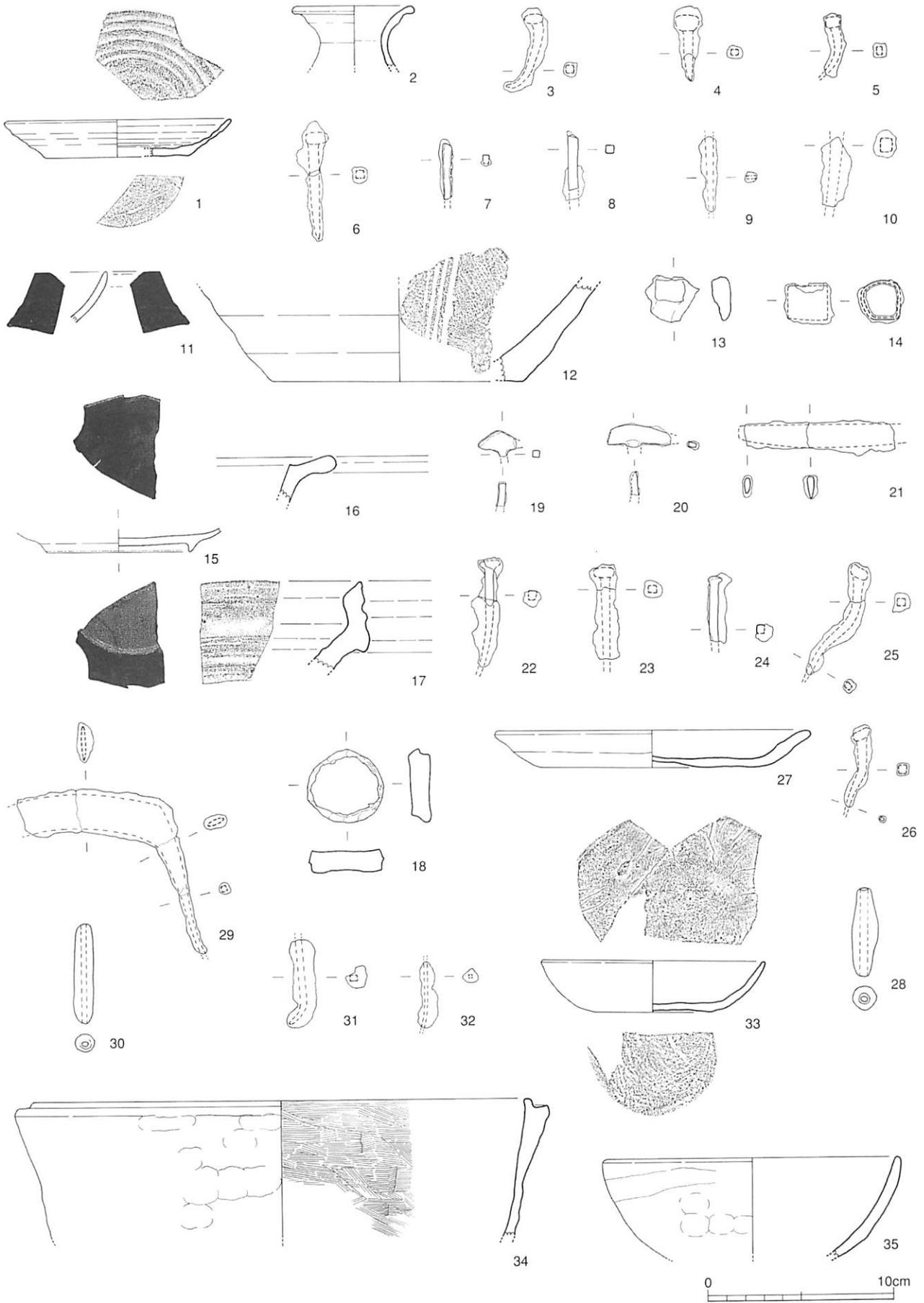
第128图 包含層出土遺物実測図



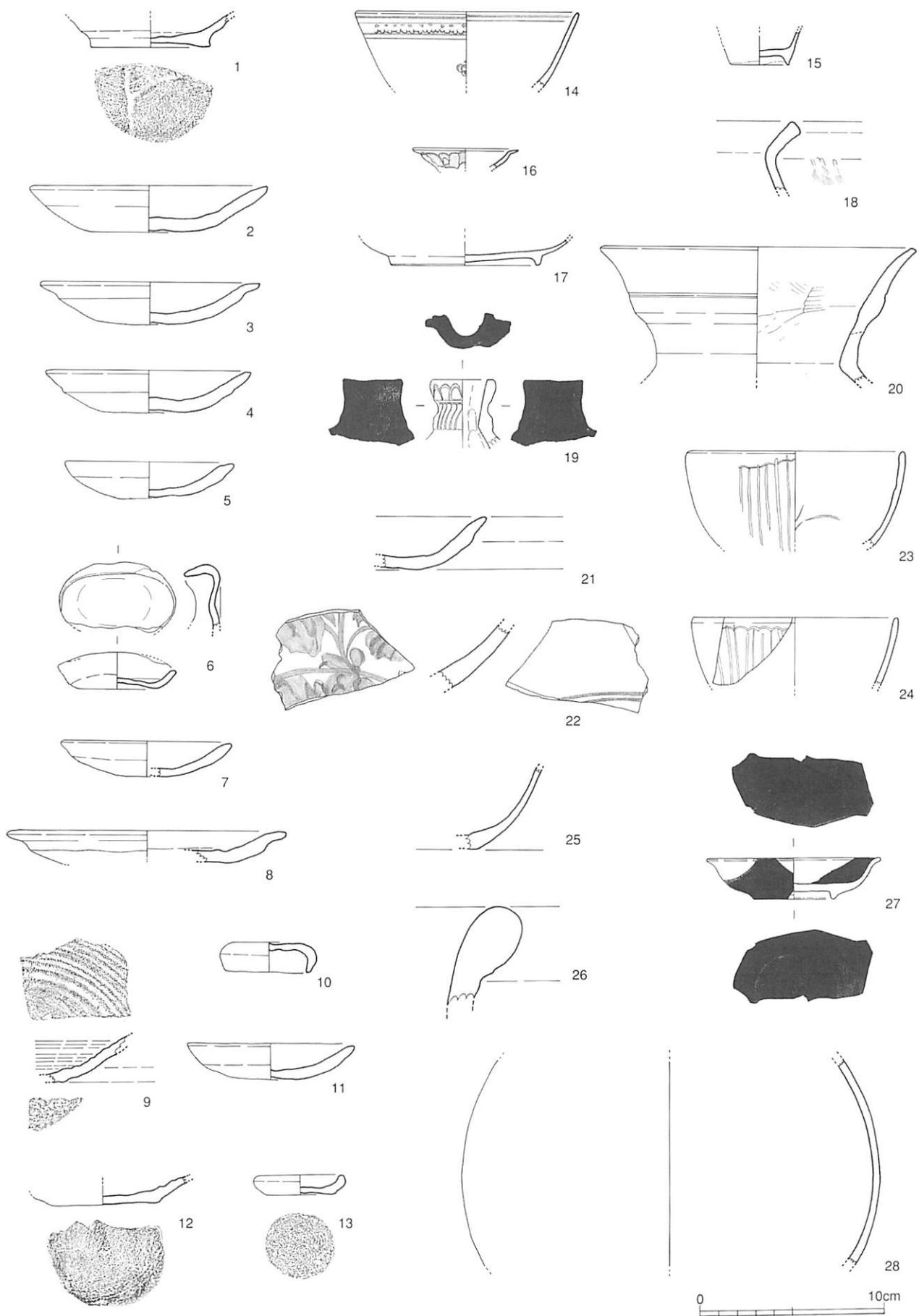
第129図 包含層出土遺物実測図



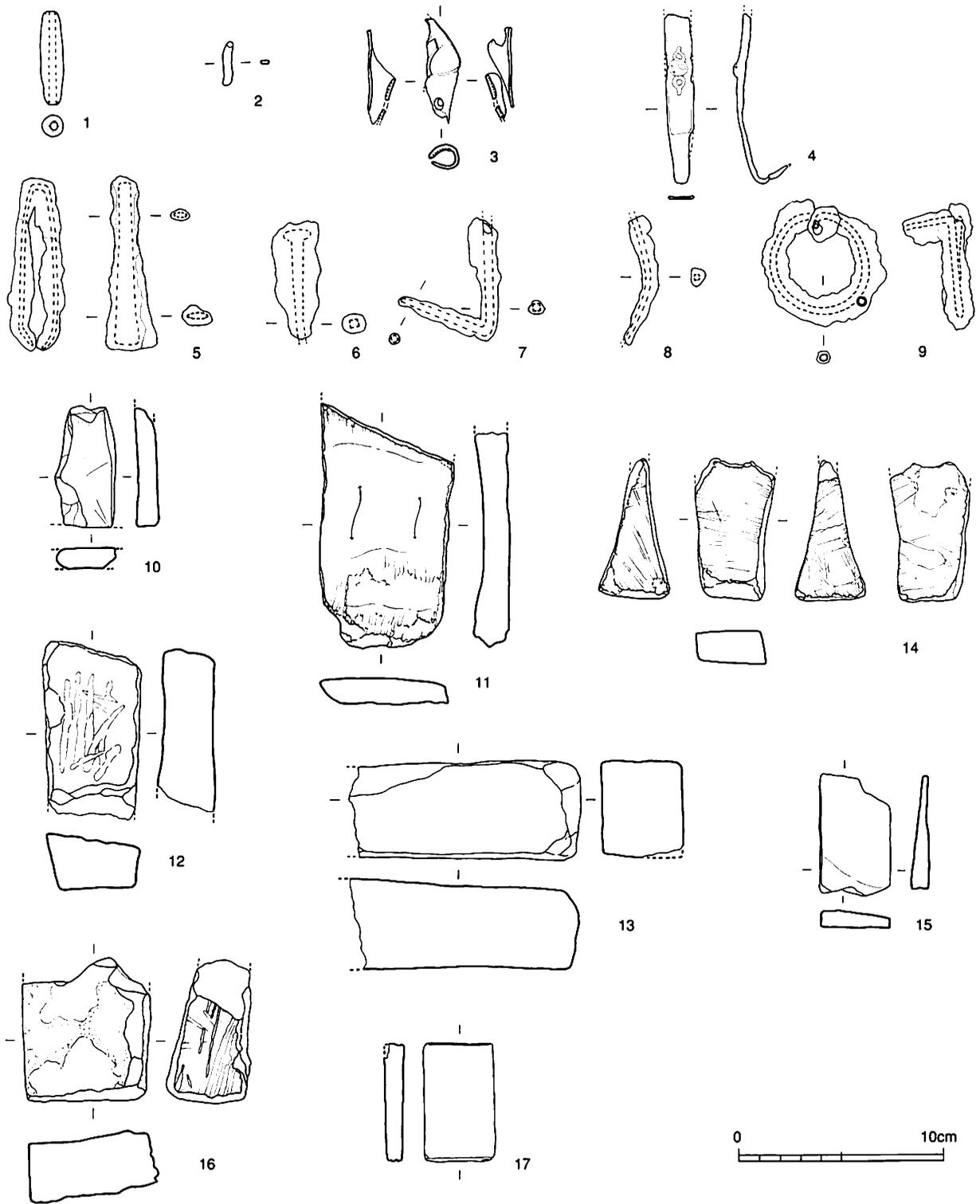
第130図 包含層出土遺物実測図



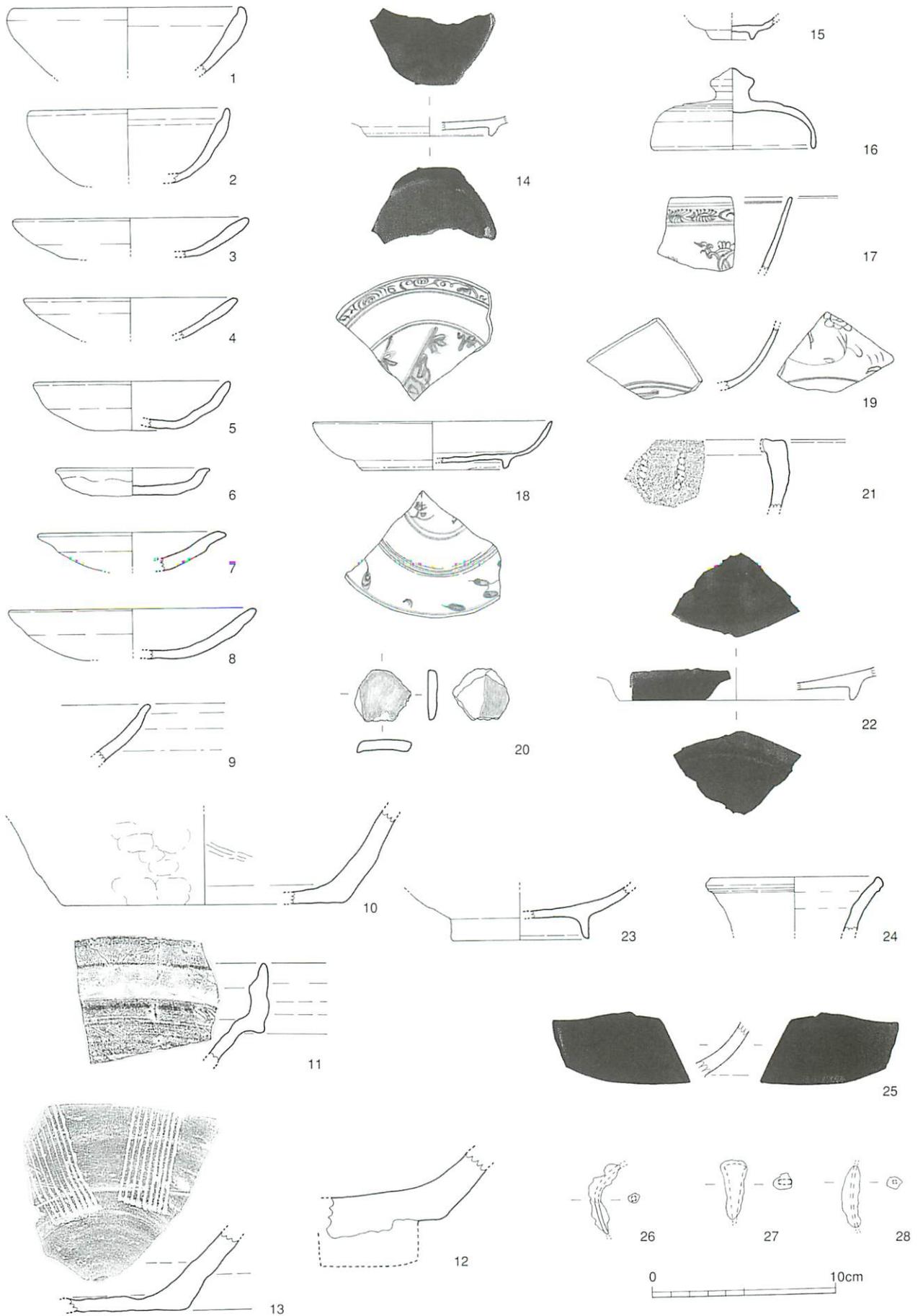
第 131 図 包含層出土遺物実測図



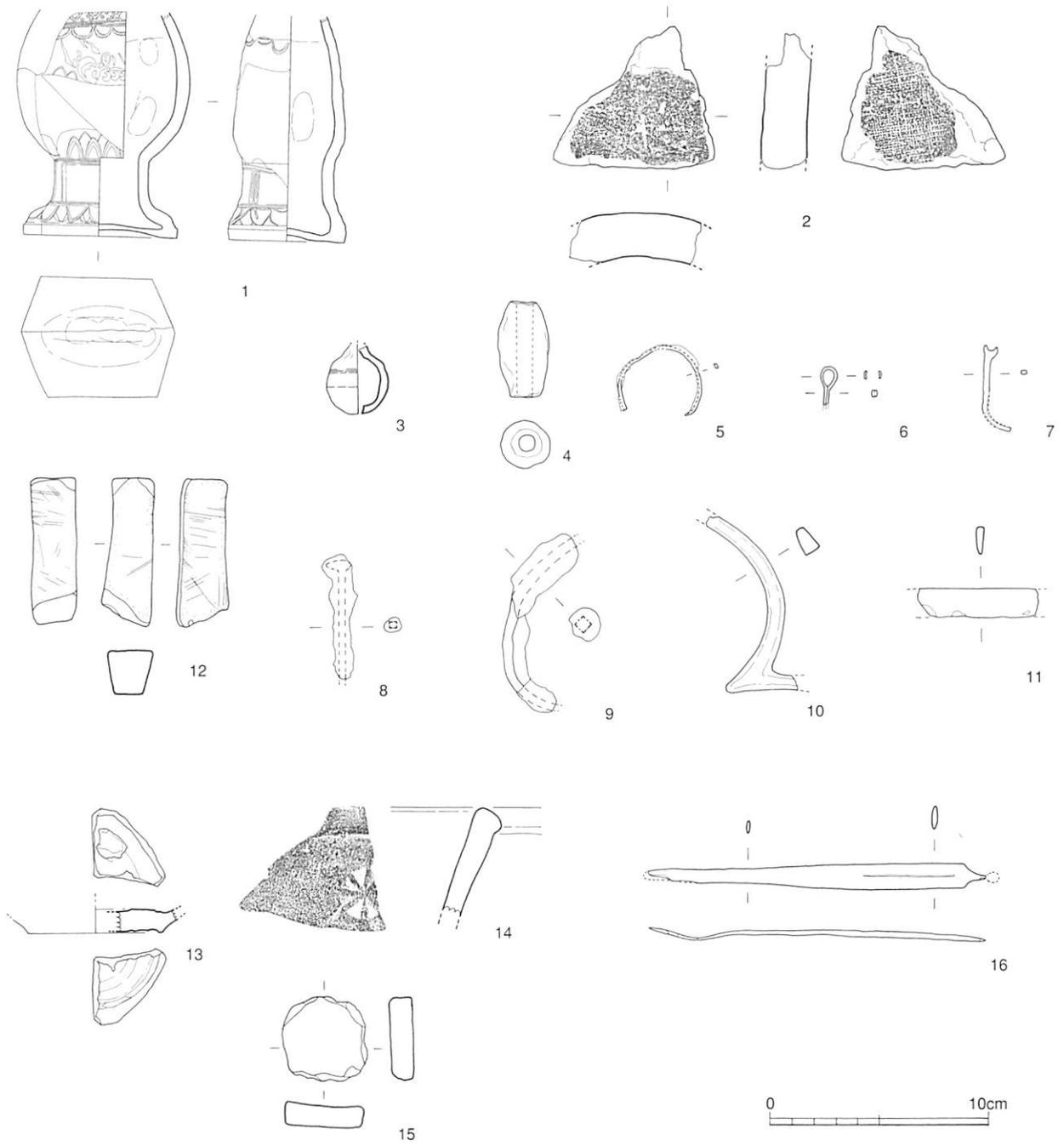
第132图 包含層出土遺物実測図



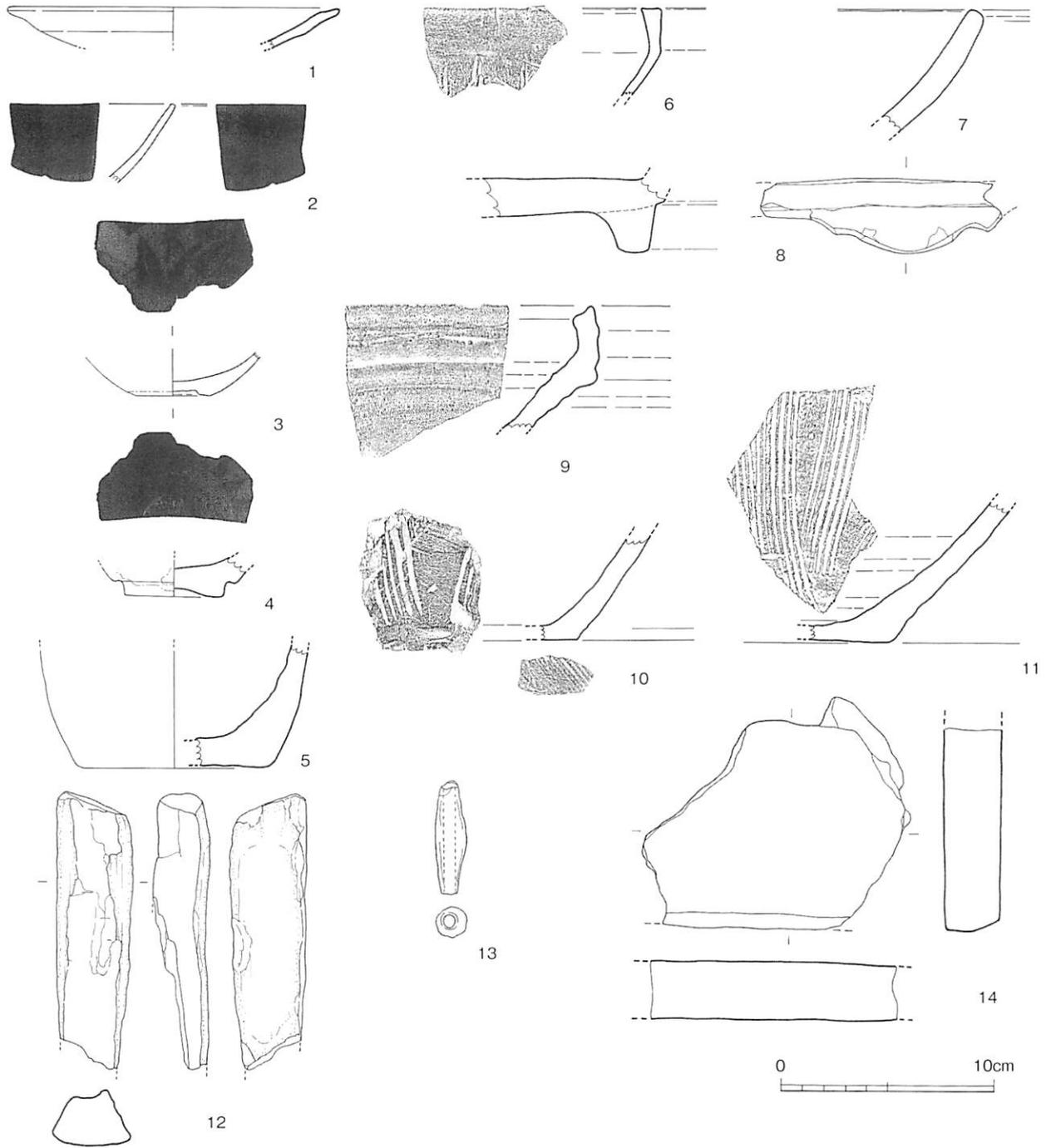
第133图 包含層出土遺物実測図



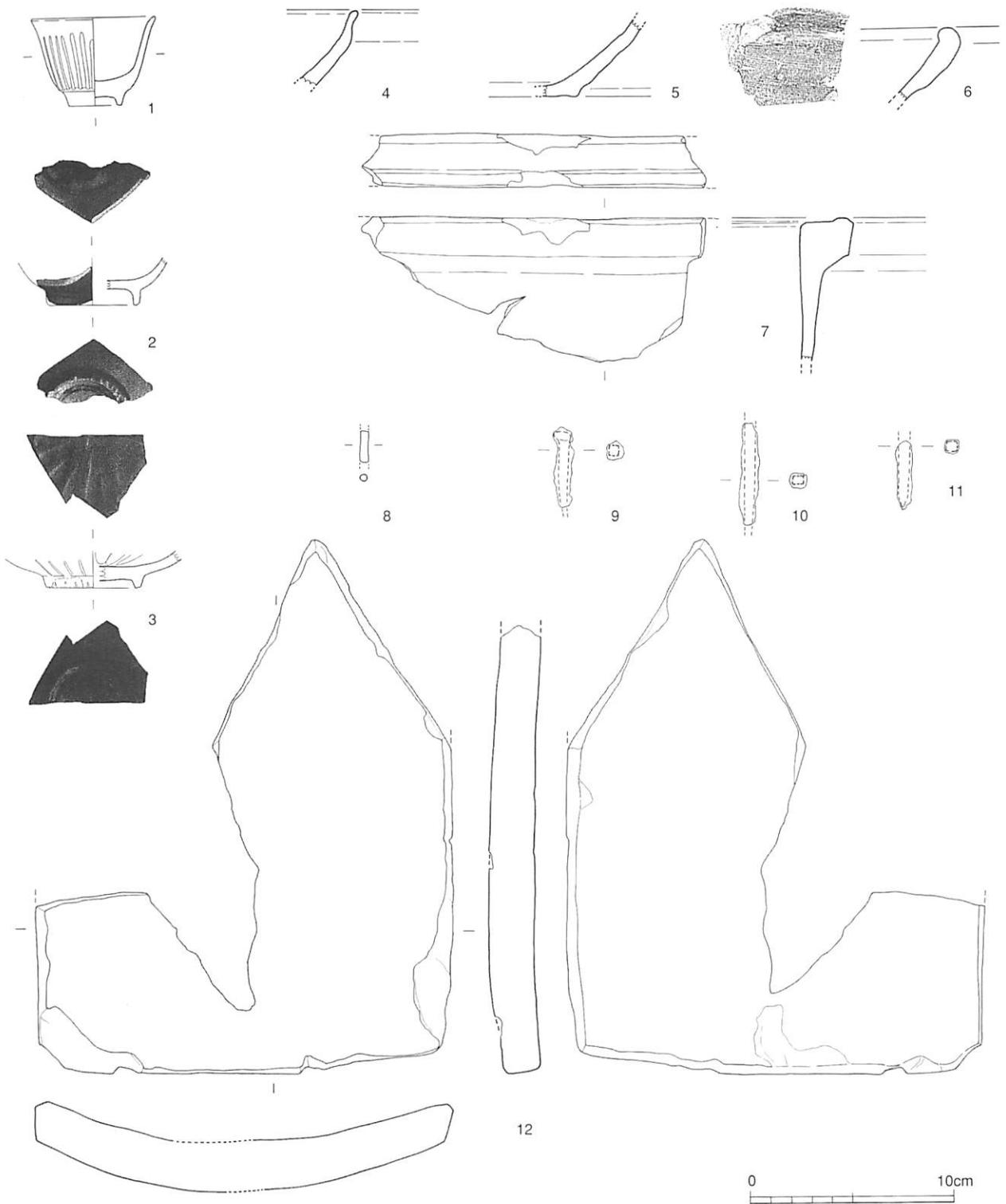
第134図 包含層出土遺物実測図



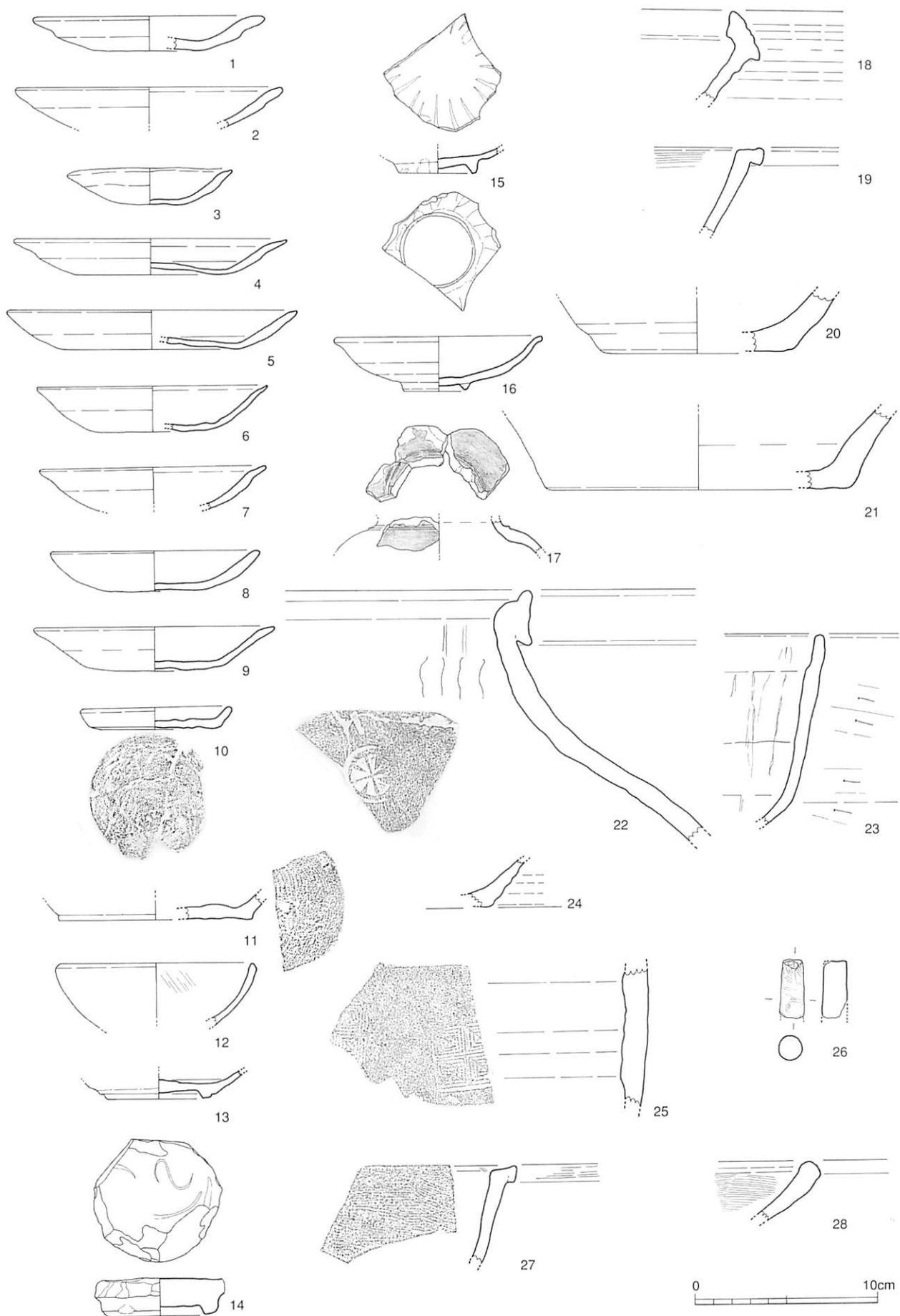
第135図 包含層出土遺物実測図



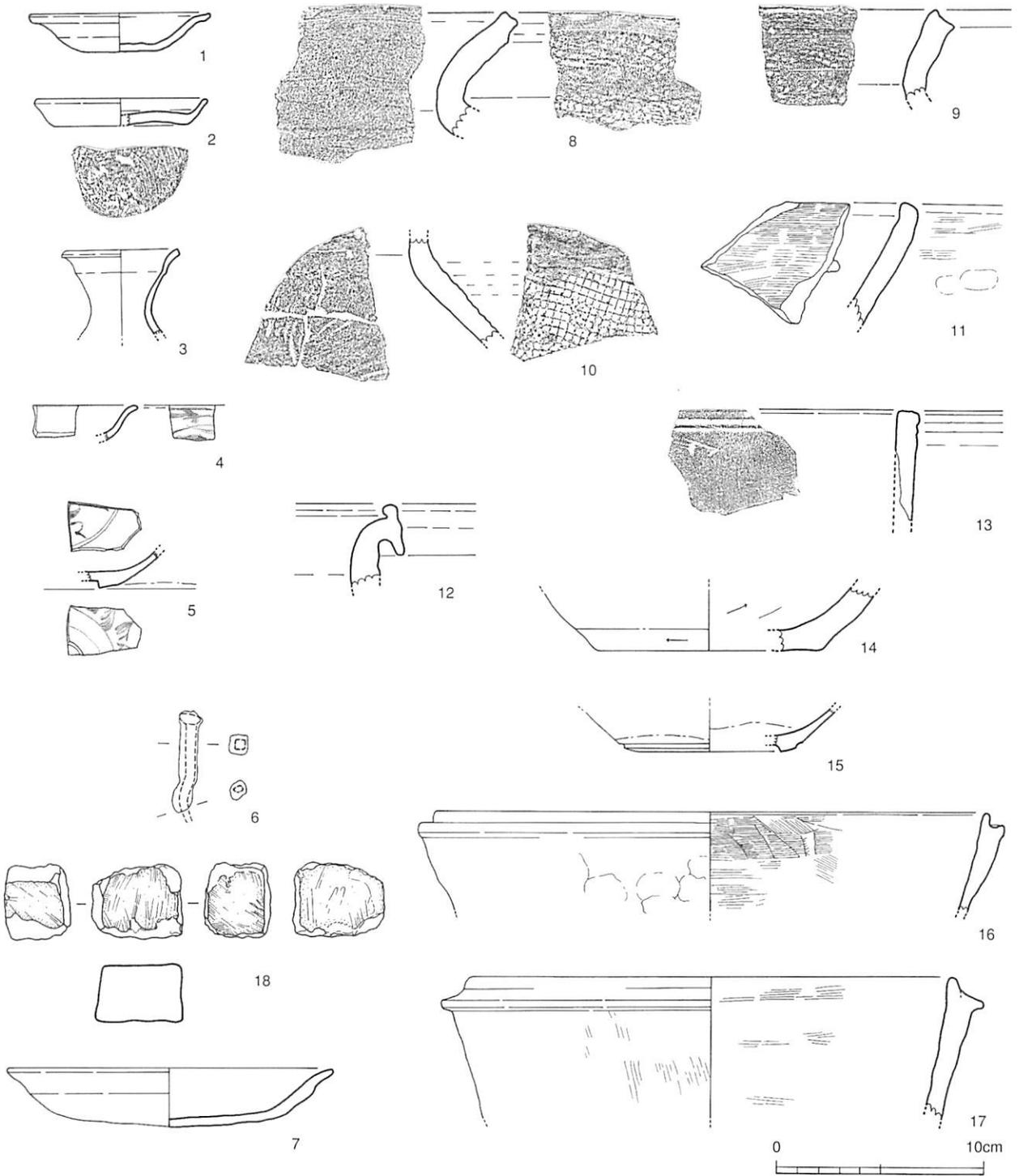
第 136 図 包含層出土遺物実測図



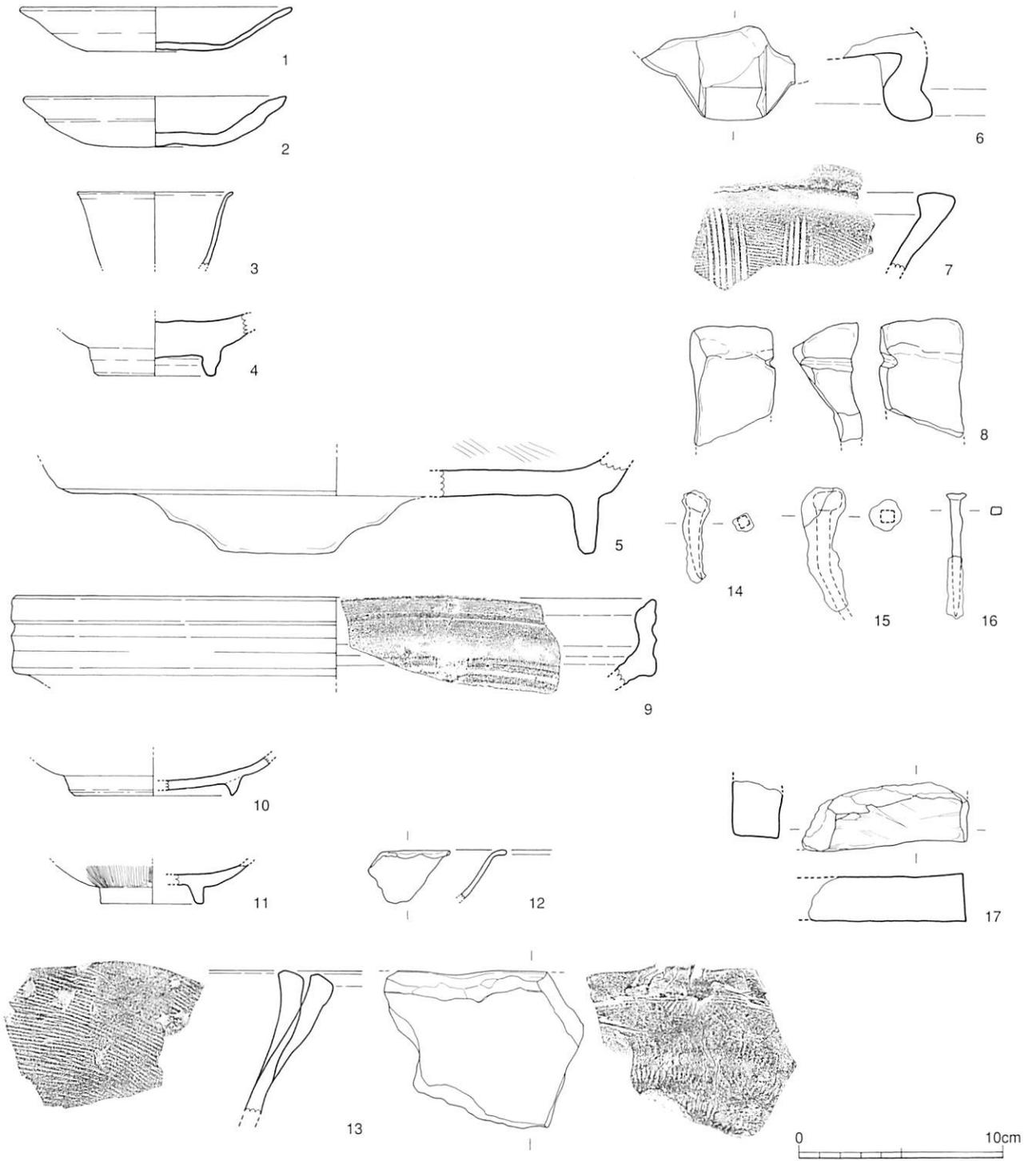
第 137 図 包含層出土遺物実測図



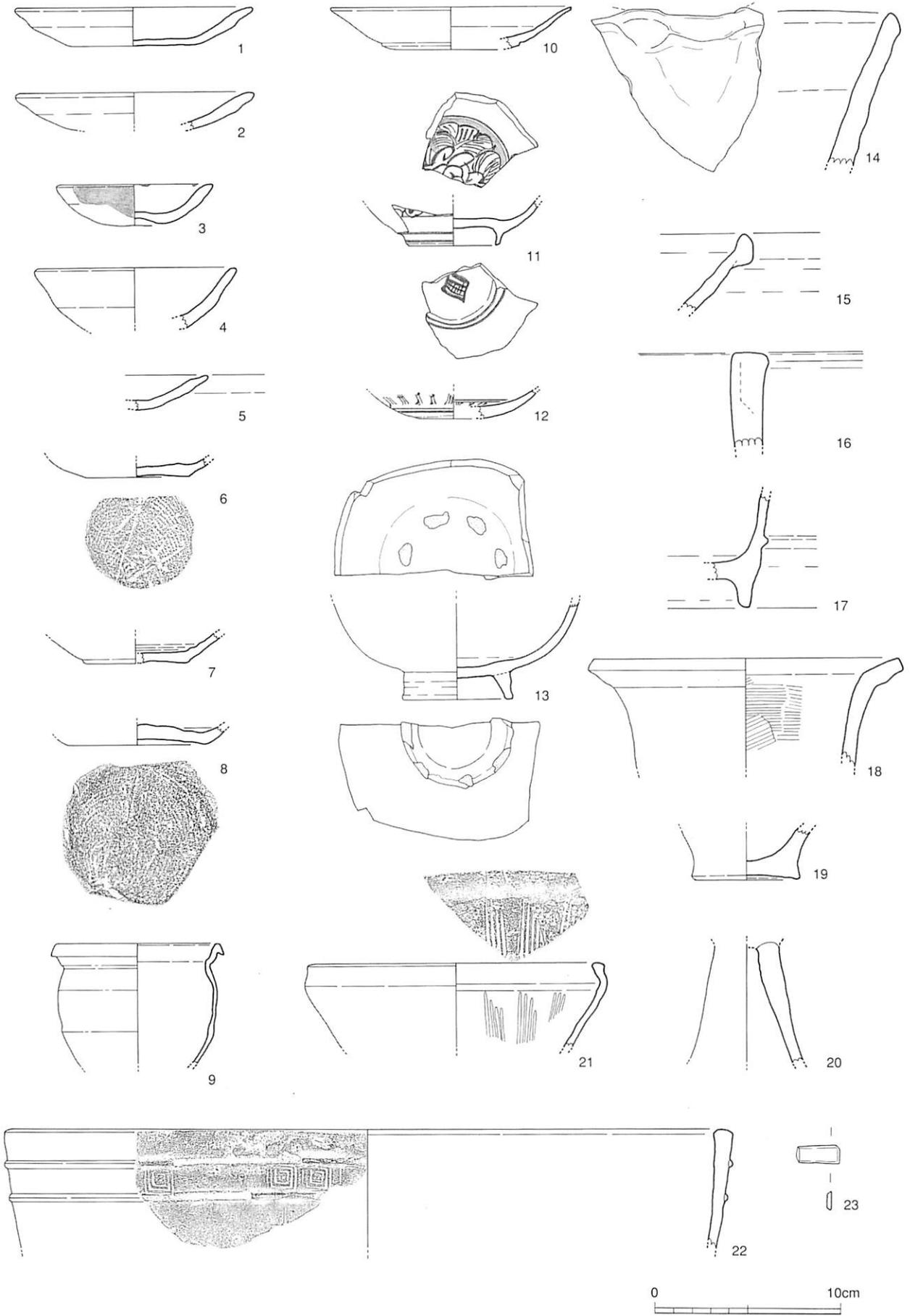
第 138 図 包含層出土遺物実測図



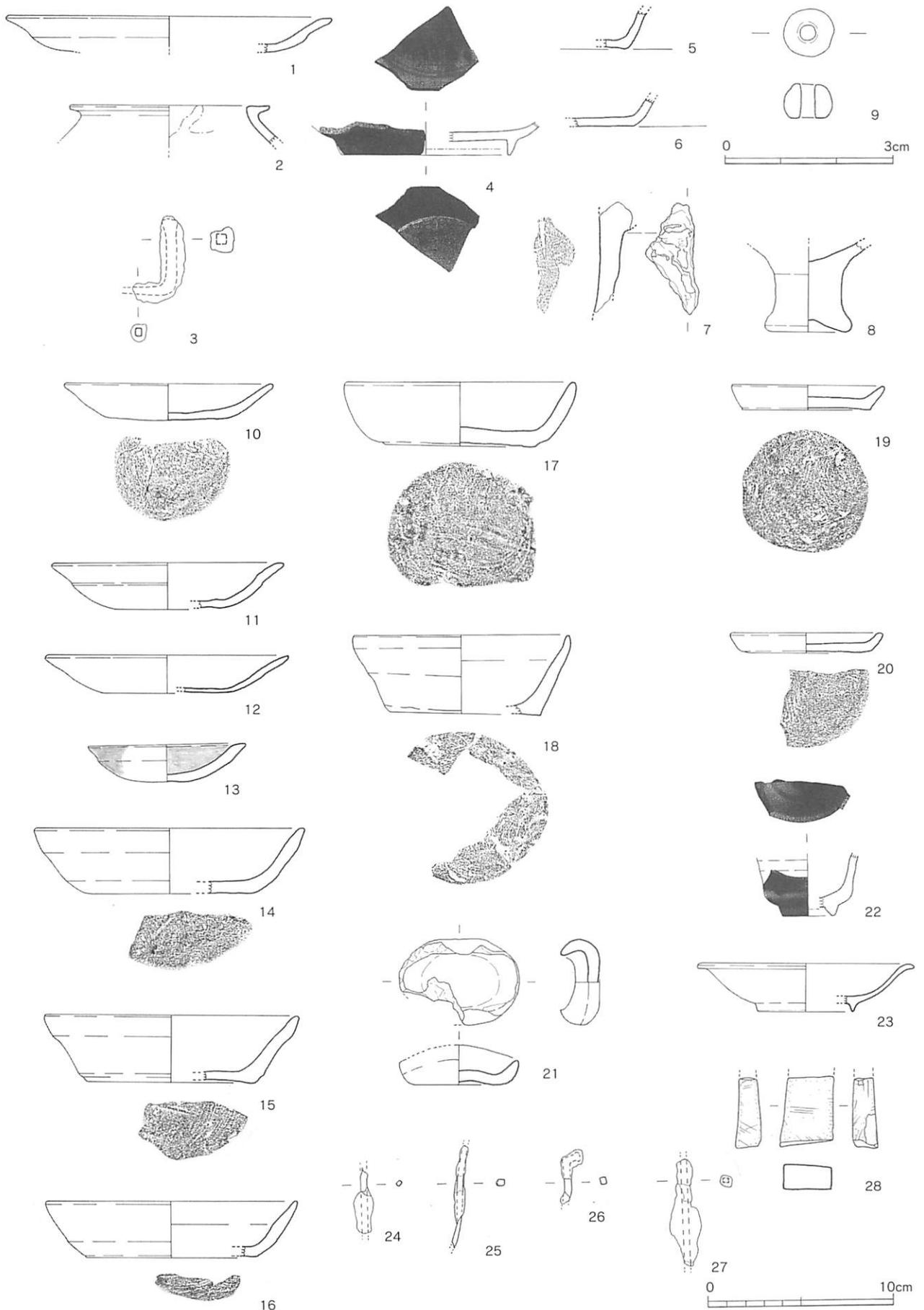
第 139 図 包含層出土遺物実測図



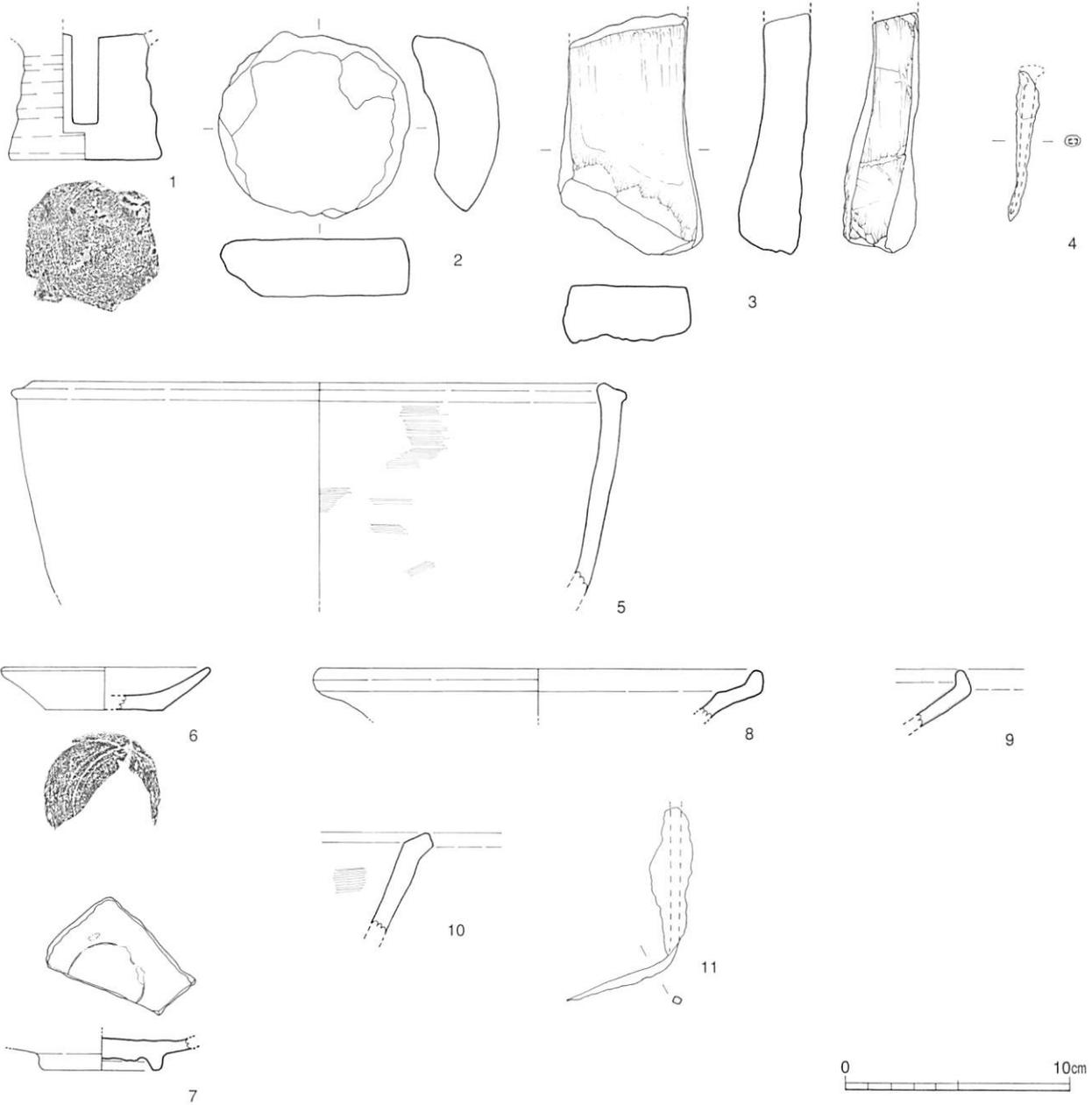
第 140 図 包含層出土遺物実測図



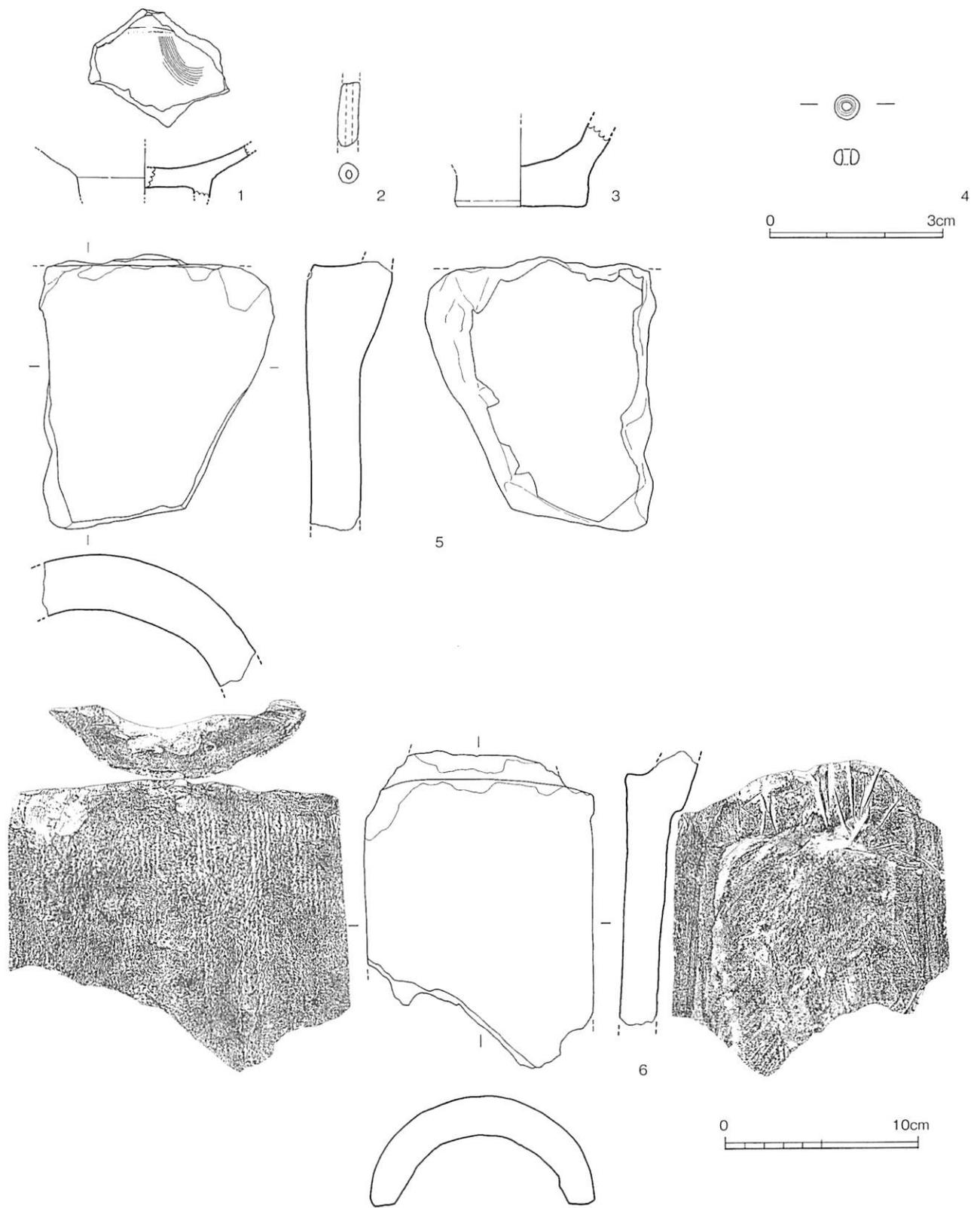
第 141 図 包含層出土遺物実測図



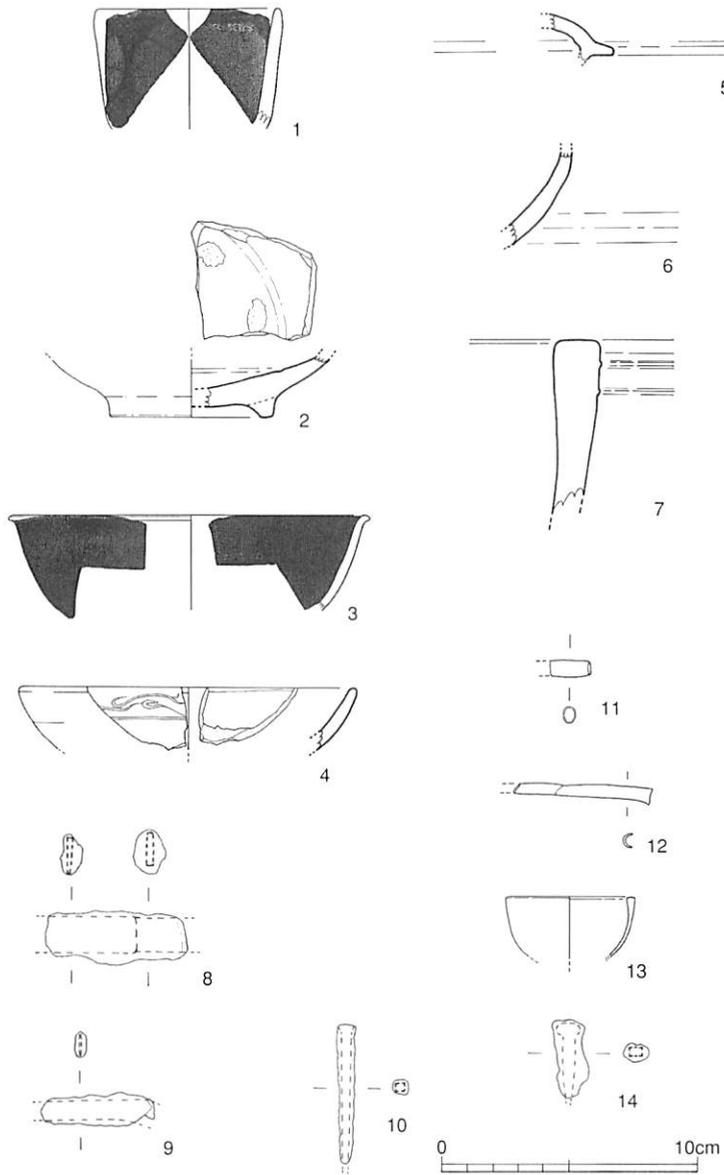
第 142 図 包含層出土遺物実測図



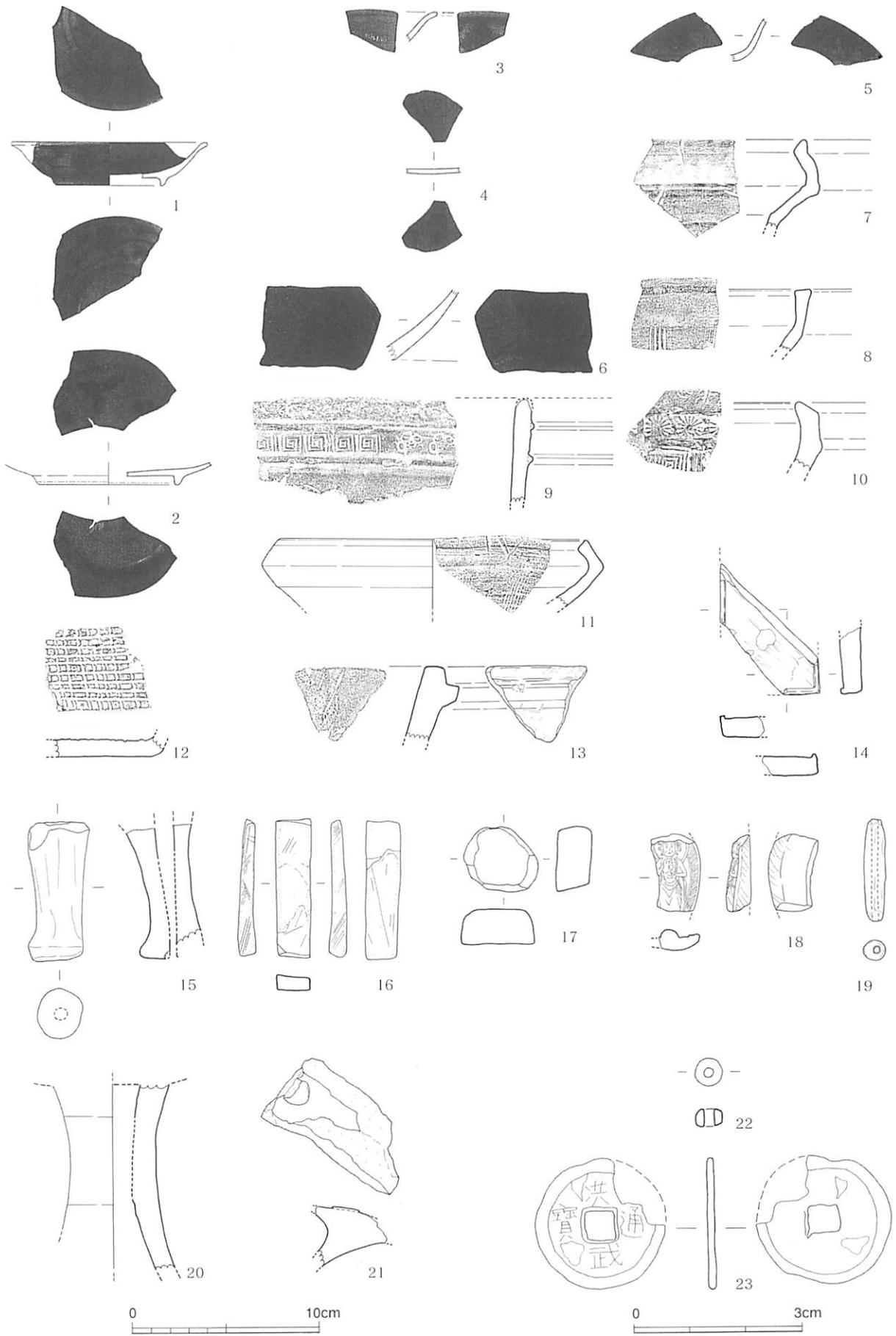
第 143 図 包含層出土遺物実測図



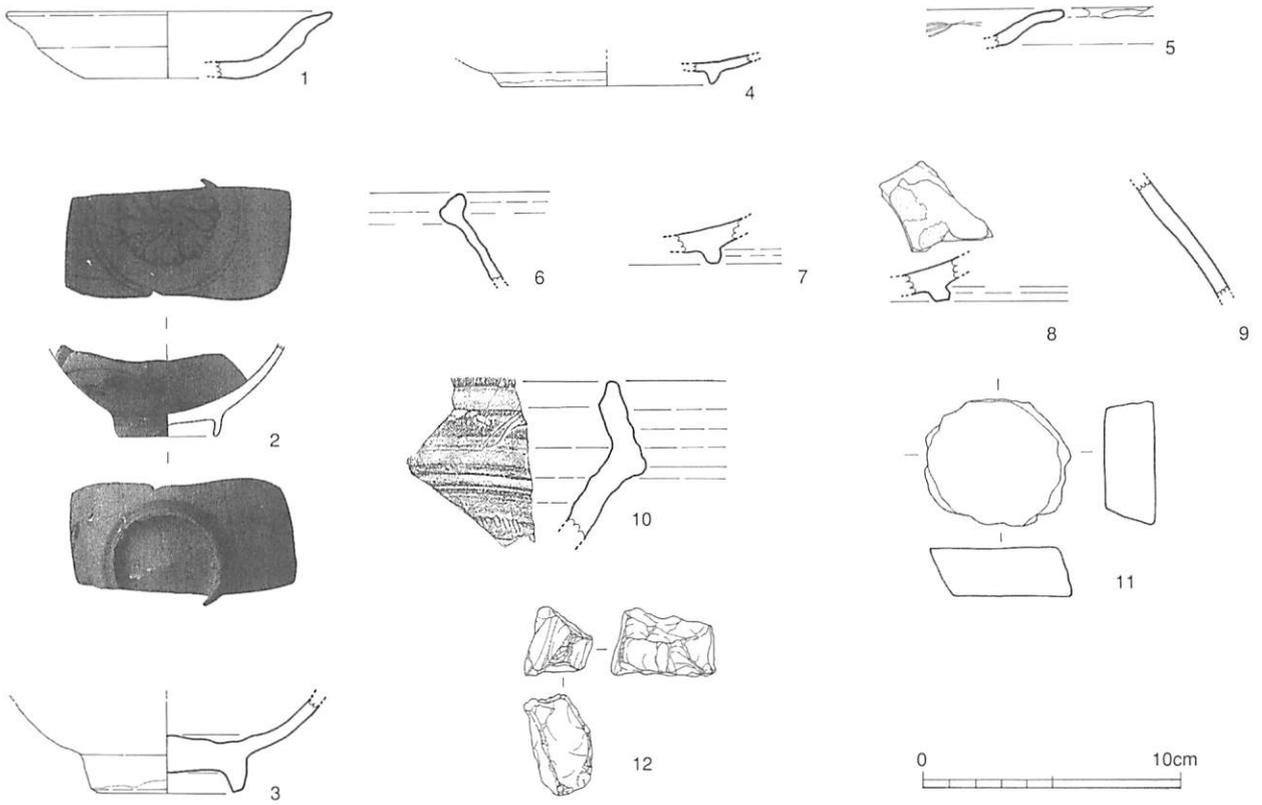
第 144 図 包含層出土遺物実測図



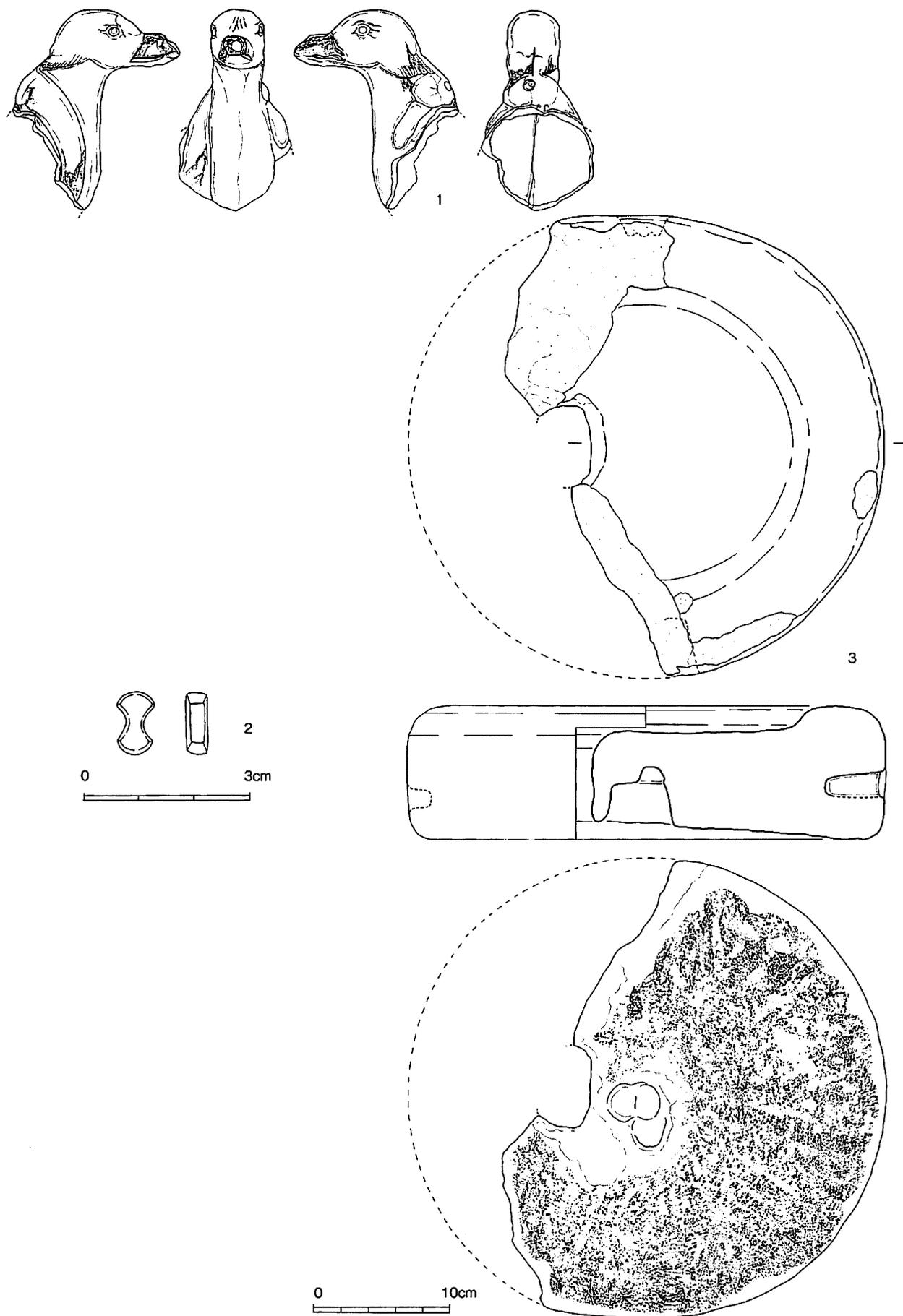
第 145 図 包含層出土遺物実測図



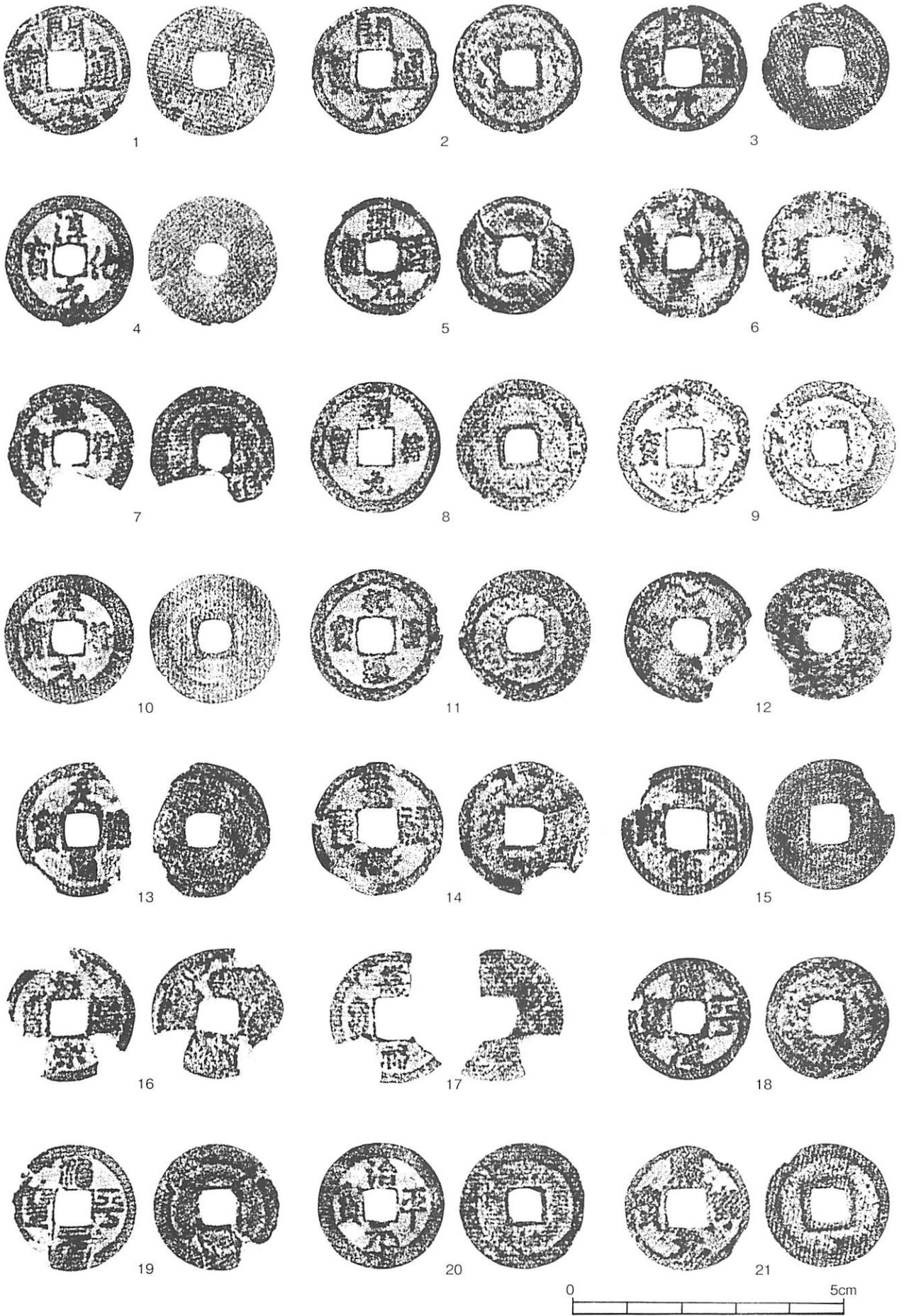
第146図 包含層出土遺物実測図



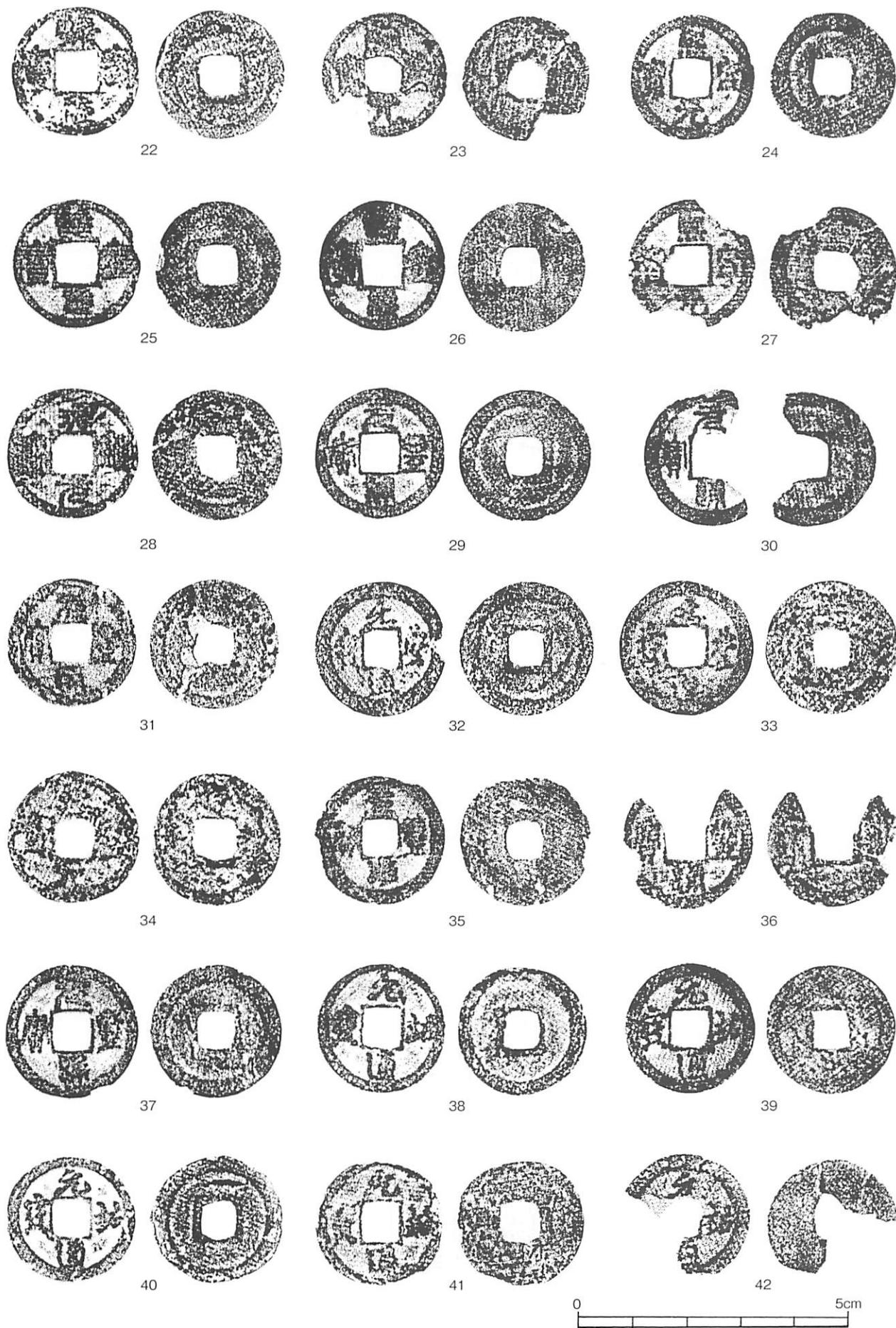
第 147 図 包含層出土遺物実測図



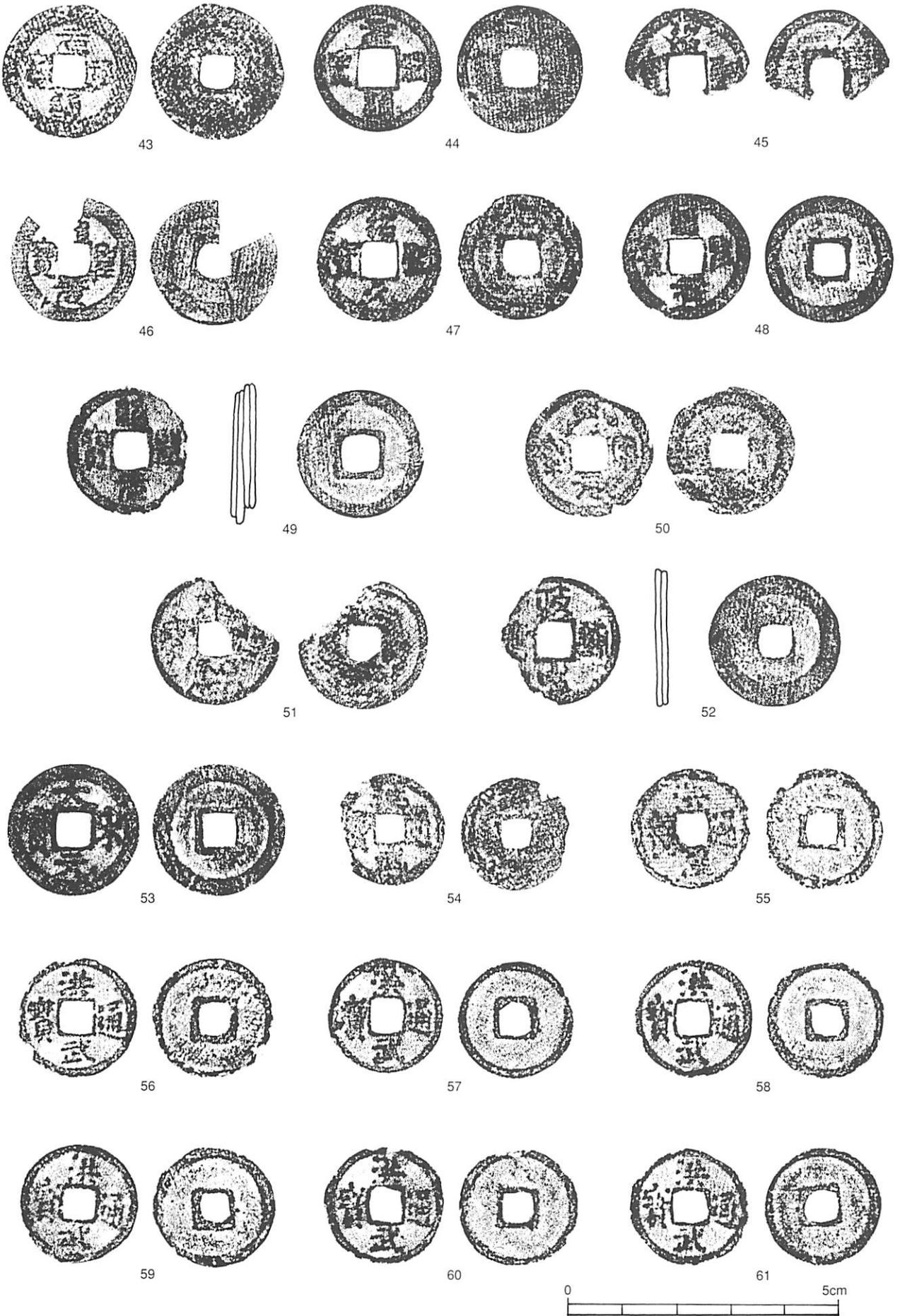
第148図



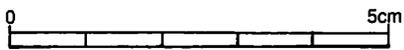
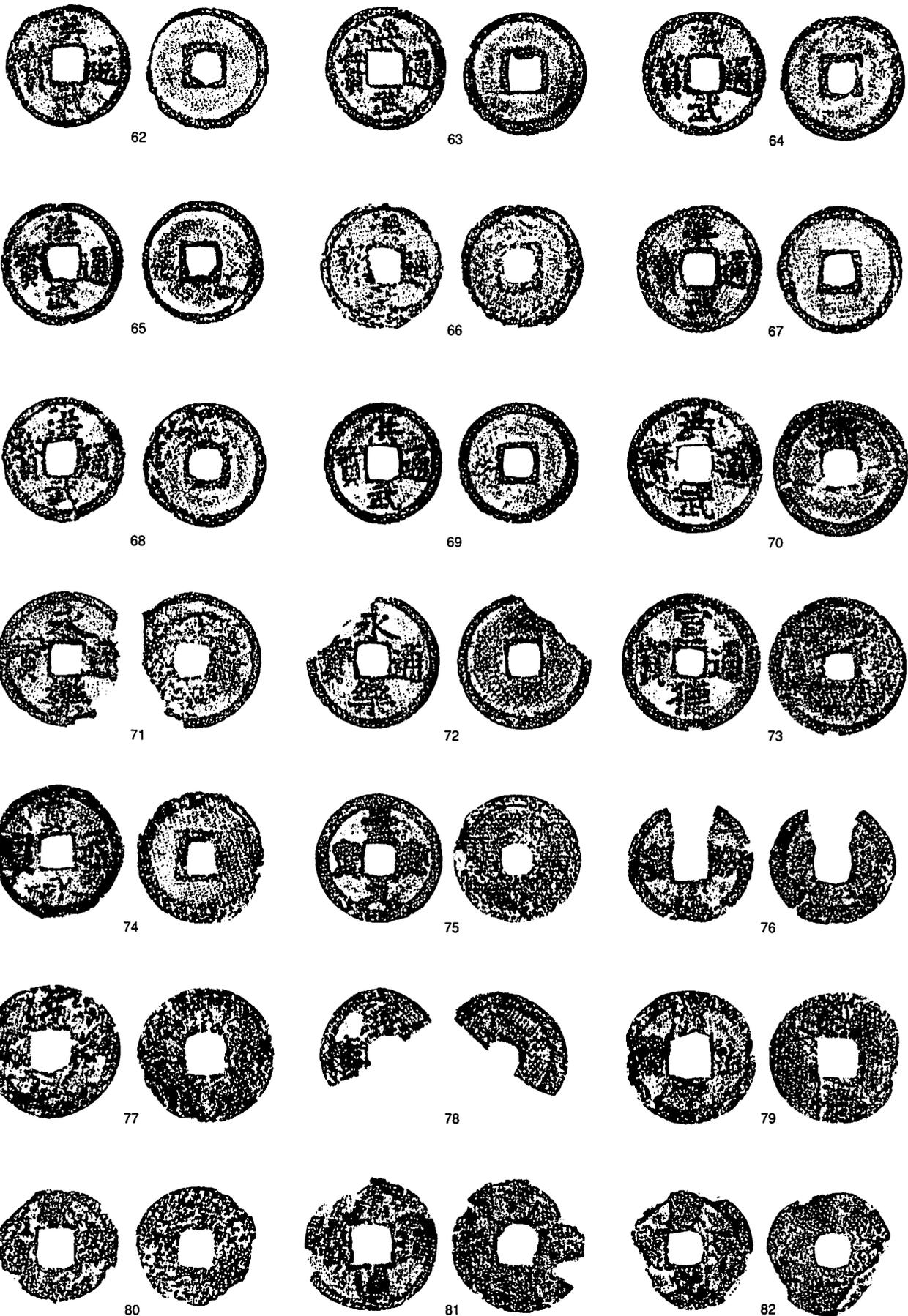
第149図 錢貨



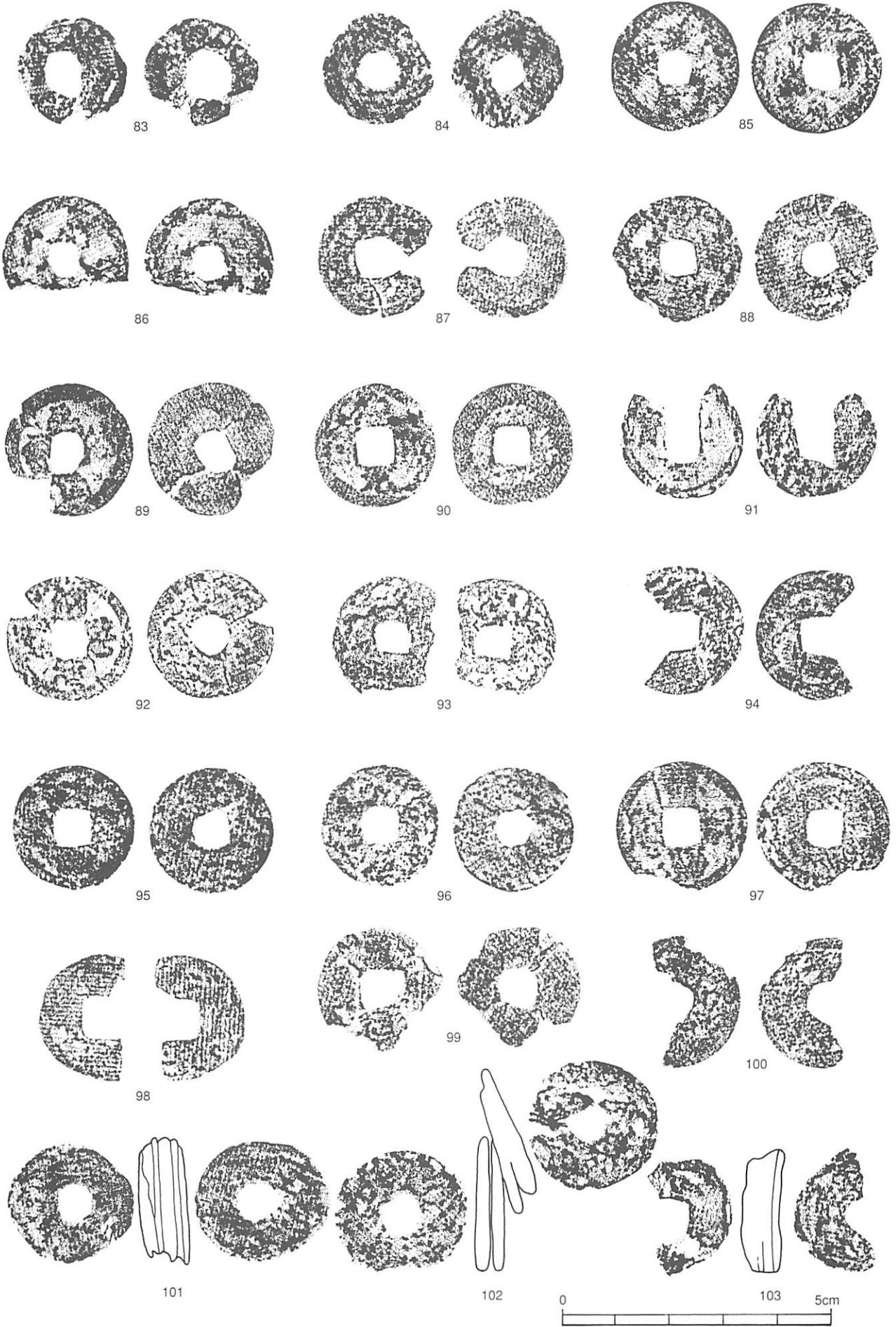
第150図 錢貨



第151図 銭貨



第152図 銭貨



第153図 銭貨

府内町跡36次調査遺物観察表

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第7図1	在地系土師器	皿	在地	12.6	9	2.7	SK 1	浅い黄橙色
第8図2	京都系土師器	皿					SK 1	
第8図3	磁器	碗	肥前				SK 1	
第8図4	青花	皿	中国景德镇窯				SK 1	
第8図5	陶器	奘	備前				SK32	
第8図6	瓦質土器	火鉢	国内				SK33	
第8図7	鉄製品	釘	国内	3.5	0.4	3.5 g	SK 1	
第8図8	京都系土師器	皿	在地	9.6			SK2	
第8図9	青花	皿	中国					
第8図10	青磁	碗	中国				SK2	
第8図11	青花	皿	中国				SK2	
第8図12	磁器	碗	肥前				SK39	
第11図1	青花	皿	中国漳州窯				SD1	釉薬茶褐色
第11図2	土師器	椀	国内		3.0		SK31	にぶい橙色
第11図3	石製品	砥石					SK31	粘板岩
第13図1	京都系土師器	皿	在地	11.6		2.2	SK4	
第13図2	京都系土師器	皿	中国	12.0		2.4	SK4	薄緑
第13図3	京都系土師器	皿	在地	8.4		2.0	SK4	淡灰白色
第13図4	京都系土師器	皿	在地				SK4	茶色土粒少量
第13図5	在地系土師器	皿	在地				SK4	底部ヘラ切りか?
第13図6	陶器	碗	肥前				SK4	
第13図7	白磁	碗	中国				SK4	瓮付内側にの一部釉
第13図8	陶器	溝線皿	肥前				SK4	薄緑褐色釉
第13図9	陶器	奘	備前				SK4	
第13図10	瓦質土器	鉢	国内				SK4	黄褐色
第13図11	瓦質土器	鉢	国内				SK4	
第13図12	土師質	土錘	国内	3.8	1.3	5.6 g	SK4	
第13図13	鉄製品	釘	国内	5.7	0.5	9.2 g	SK4	
第13図14	鉄製品	釘	国内				SK4	
第13図15	鉄製品	釘	国内				SK4	
第13図16	鉄製品	釘	国内				SK4	
第15図1	青花	皿	中国景德镇窯				SK3	
第15図2	青花	皿	中国景德镇窯				SK3	
第15図3	陶胎染付け	碗	肥前				SK16	
第15図4	陶器	壺	備前				SK16	
第15図5	鉄製品	釘	在地	4.1	0.4	6.4 g	SK16	
第15図6	鉄製品	釘	在地	3.0	0.4	2.9 g	SK16	
第15図7	鉄製品	釘	在地	4.5	0.9	6.7 g	SK16	
第15図8	瓦質土器	土鍋	国内		底径		SK5	
第19図9	埴瓦		国内	12.6	10.7	3.6	SK3	
第16図1	陶器	皿	瀬戸美濃		5.7		SD7	
第16図2	白磁	皿	中国	12.9			SD7	
第16図3	磁器	碗	肥前				SD7	灰～淡赤褐色1630～50
第16図4	在地系土師器	皿	在地		8.7		SD7	
第16図5	京都系土師器	角火鉢	在地	11.2			SD7	橙色
第16図6	瓦質土器	火鉢	在地				SD7	にぶい黄橙色
第16図7	瓦質土器	火鉢	国内				SD8	
第16図8	土師器	燭台	在地	6.6		6.7 g	SD8	
第16図9	青磁	碗	中国				SD8	
第16図10	陶器	碗	朝鮮				SD8	ワラ灰釉
第16図11	青磁	香炉	中国龍泉窯				SD8	
第16図12	石製品	火打石	在地	4.4	2.6	63.7 g	SD8	六太郎石的・茶褐色
第16図13	鉄製品	釘	在地	5	0.5	9.6 g	SK43	
第20図1	焼締め陶器	鉢	中国南部				SE10	
第20図2	陶器	奘	備前				SE10	
第20図3	瓦質土器	鉢	東播系				SE10	
第20図4	瓦質土器	鉢	国内				SE10	灰
第20図5	埴瓦		国内				SE10	
第20図6	木製品	板	在地	45.7	5.8	2.0	SE10	
第21図1	焼締め陶器	鉢	中国南部				SE10	
第21図2	焼締め陶器	鉢	中国南部				SE10	
第21図3	陶器	搦鉢	備前				SE10	交叉すり目
第21図4	陶器	搦鉢	備前				SE10	
第21図5	陶器	搦鉢	備前				SE10	
第21図6	陶器	搦鉢	備前				SE10	

挿図No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
			口径	底径	器高		
第21図7	土師質土器	埴塙	国内	8.4			SE10
第21図8	瓦質土器	火鉢	国内				SE10
第21図9	京都系土師器	皿	在地				SE10 裏込め
第21図10	石製品	砥石	国内	22.1	7.2	4.2	SE10 結晶片岩・1200.1 g
第22図1	磁器	碗	中国南部				SE10
第22図2	木製品	板	国内	37.5	9.7	0.6	SE10
第22図3	木製品	板	国内	16.8	2.1	0.7	SE10 箱の基部
第26図1	瓦質土器	火鉢	在地				SE14 井側内
第26図2	瓦質土器	鉢	在地				SE14 淡い黄灰色
第26図3	瓦質土器	火鉢	在地				SE14 暗褐色
第26図4	瓦質土器	火鉢	在地				SE14 淡い灰褐色
第26図5	陶器	甕	備前				SE14 にぶい褐色・裏込め
第26図6	陶器	甕	備前		23.8		SE14 暗赤褐色
第26図7	瓦質土器	鉢	在地				SE14 灰褐色
第26図8	陶器	甕	備前		33		SE14 暗赤褐色
第27図1	陶器	甕	備前				SE14 SK37、A64床-10~20でも出土
第27図2	陶器		備前				SE14
第27図3	陶器	搦鉢	備前				SE14 交叉播り目
第27図4	陶器	搦鉢	備前				SE14
第27図5	陶器	天目碗	瀬戸美濃				SE14
第27図6	瓦質土器	風炉	国内				SE14 口縁部・井側内
第27図7	土師質土器	埴塙	国内	7.6			SE14
第27図8	土師質土器	埴塙	国内	8.2			SE14
第27図9	木製品	漆椀	国内	14.6			SE14 赤い紋様
第27図10	埴瓦		国内				SE14
第27図11	埴瓦		国内				SE14
第28図1	石製品	羽口	国内				SE14 凝灰岩
第28図2	木製品	棒状加工品		11.7	3.1	3.0	SE14 井側内
第28図3	木製品			9.1	3.7	2.7	SE14 全面削り
第28図4	木製品	縦割材		16.8	3.9	4.2	SE14 井側内
第28図5	鉄製品	釘	国内	4	0.4	11.7 g	SE14 井側内
第28図6	鉄製品	釘	国内	3.2	0.3	2.0 g	SE14 裏込め
第28図7	鉄製品	釘	国内	3.1	0.3	2.0 g	SE14
第30図1	陶器	天目碗	瀬戸美濃	12.1			SE10
第30図2	瓦質土器	埴塙	国内	11.8			SK12
第30図3	埴瓦		国内	8	8.8	2.9	SK12
第30図4	鉄製品	釘	国内	2.1	0.4	2.9 g	SK12
第31図1	京都系土師器	皿	在地	16.0			SX41
第31図2	瓦質土器	鉢	東播系				SX41
第31図3	陶器	搦鉢	備前				SX41 D64-N0.28と接合
第35図1	在地系土師器	皿	在地	12.0	6.5	2.7	SE18 橙色
第35図2	京都系土師器	皿	在地	18.0		2.2	SE18 灰黄褐色
第35図3	京都系土師器	皿	在地	13.1		2.3	SE18 灰褐色~橙色
第35図4	京都系土師器	皿	在地	11.6		2.4	SE18 灰橙褐色
第35図5	京都系土師器	皿	在地	11.6		2.5	SE18 にぶい黄褐色
第35図6	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.2	SE18 灰黄褐色
第35図7	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.4	SE18 淡橙灰色
第35図8	京都系土師器	皿	在地	9		2.4	SE18 淡橙灰色
第35図9	土師質土器	埴塙	国内	11.4		5.3	SE18 淡灰黄色
第35図10	土師質土器	埴塙	国内				SE18 金属溶融
第35図11	陶器	甕	備前				SE18
第35図12	瓦質土器	火鉢	在地	34.8			SE18 暗灰褐色
第35図13	瓦質土器	火鉢	在地		33.5		SE18 淡褐色
第36図1	陶器	壺	備前				SE18
第36図2	陶器	壺	備前				SE18
第36図3	焼締め陶器	蓋	中国南部	16.4	19.4		SE18
第36図4	陶器		備前				SE18 明茶褐色
第36図5	青銅		国内	2.2	0.7	1.6 g	SE18
第36図6	青銅		国内	3.4	1.5	6.6 g	SE18
第36図7	凝灰岩	容器状	在地	33.8		13.3	SE18
第36図8	安山岩	石臼	国内				SE18 故意に割る
第36図9	凝灰岩	不明	在地	14.0	12.5	9.0	SE18
第37図1	平瓦		国内	31.0	23.8	1.5	SE18 コビキ痕
第39図1	青花	皿	中国景德鎮				SK26
第39図2	青花	碗	中国漳州窯				SK26
第39図3	銅製品	棒	国内	7.6	0.5	8.7 g	SK26 断面四角・溝三条

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第39図4	鉄製品	釘	国内	14.8	0.3	17.6 g	SK26	
第39図5	鉄製品	釘	国内	5.4	0.3	9.2 g	SK26	
第39図6	鉄製品	釘	在地	4.8	0.5	9.9 g	SK26	
第40図1	石製品	上臼	国内				SK26	
第40図2	瓦質土器	鉢	在地				SK26	脚は一箇所現存
第40図3	石製品	砥石	国内	17.4	17.3	1700 g	SK26	流紋岩。両面に使用痕
第42図1	京都系土師器	皿	在地	128		2.2	SK51	淡灰色
第42図2	在地系土師器	皿	在地	120	6.2	2.3	SK51	暗黄灰色
第42図3	陶器	瓶	備前	5.2	7.0	15.2	SK51	口径・底径・胴部径。S9・1011も
第42図4	青花	皿	中国景德镇				SK51	
第42図5	白磁	皿	中国	18.0	10.2	3.8	SK51	
第42図6	陶器	香炉?	備前				SK51	
第42図7	土師質土器	鉢	東播系				SK51	暗灰色
第42図8	瓦質土器	風炉	国内				SK51	にぶい橙色
第42図9	埴瓦		国内	8.3	9.4	2.9	SK51	
第42図10	銅製品	小刀?	国内	6.0	1.4	10.1 g	SK51	
第42図11	銅製品		国内	2.3	1.3	1.1 g	SK51	
第42図12	鉄製品	釘	国内	5.6	1.0	4.5 g	SK51	
第42図13	土師器	高杯	在地				SK51	石英が多く結晶片岩を含む。
第43図1	青花	皿	中国景德镇				SK51	
第43図2	白磁	皿	在地				SK51	SK2・1011他包含層に分布
第43図3	京都系土師器	皿	在地	11.6		2.2	SK51	灰褐色～にぶい橙色
第43図4	在地系土師器	皿	在地	11.4			SK51	にぶい橙色
第43図5	京都系土師器	皿	在地	8.9		1.9	SK51	にぶい黄褐色～オリーブ黒。煤付着
第43図6	陶器	甕	備前				SK51	黄褐色
第43図7	陶器	壺	備前	28.6			SK51	SE14井側・S1122他
第43図8	陶器	掃鉢	備前		10.8		SK51	交叉掃り目
第43図9	石製品	上臼	国内				SK51	10と類似石材
第43図10	石製品	下臼	国内				SK51	
第43図11	石製品	上臼	在地				SK51	凝灰岩
第43図12	石製品	上臼	国内				SK51	安山岩
第44図1	京都系土師器	皿	在地	13.4		2.2	SK20	
第44図2	在地系土師器	皿	在地				SK20	
第44図3	土師器	高杯	在地				SK20	淡赤褐色
第44図4	瓦質土器	火鉢	在地				SK20	
第44図5	瓦質	土鉢	国内	4.8	2.9	28.2 g	SK20	灰白色
第44図6	鉄製品	釘	国内	7.2	0.6	14.3 g	SK20	
第47図1	在地系土師器	皿	在地				SE24	橙色・裏込め
第47図2	在地系土師器	皿	在地	8.1	4.5	1.7	SE24	被熱で黒褐色・糸切底・裏込め
第47図3	在地系土師器	皿	在地		1.9		SE24	淡灰褐色・裏込め
第47図4	京都系土師器	皿	在地	15.2		2.1	SE24	橙色
第47図5	京都系土師器	皿	在地	13.6		2.2	SE24	淡灰褐色
第47図6	京都系土師器	皿	在地	13.2		2.9	SE24	裏込め
第47図7	京都系土師器	皿	在地	14.1		2.5	SE24	
第47図8	京都系土師器	皿	在地	12.0		2.5	SE24	暗褐色
第47図9	京都系土師器	皿	在地	13.5		2.5	SE24	淡灰色・裏込め
第47図10	京都系土師器	皿	在地	10.9		2.5	SE24	
第47図11	京都系土師器	皿	在地	12.6			SE24	橙灰色
第47図12	京都系土師器	皿	在地	11.1			SE24	橙褐色
第47図13	京都系土師器	皿	在地	8.2		1.9	SE24	井側内
第47図14	京都系土師器	皿	在地	7.8		1.9	SE24	井側内
第47図15	陶器	天目椀	瀬戸美濃				SE24	
第47図16	瓦質土器	鉢	在地				SE24	淡橙褐色
第47図17	瓦質土器	火鉢	在地				SE24	裏込め
第47図18	瓦質土器	火鉢	在地				SE24	裏込め
第47図19	陶器	甕	備前				SE24	裏込め
第48図1	青花	碗	中国漳州窯				SE24	裏込め
第48図2	青花	碁笥皿	中国漳州窯				SE24	
第48図3	青花	碁笥皿	中国漳州窯				SE24	
第48図4	青花	碗	中国漳州窯				SE24	井側内
第48図5	青花	碗	中国漳州窯				SE24	裏込め
第48図6	鉄製品	鍋	国内	28.0			SE24	
第49図1	木製品	漆椀	国内	13.4	7.4	4.3	SE24	井側内
第49図2	木製品	漆椀	国内	17.2			SE24	井側内
第49図3	木製品	漆椀	国内	6.7			SE24	井側内
第49図4	木製品	漆椀	国内	15.3			SE24	井側内

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第49図5	木製品	漆椀	国内	18.9			SE24	井側内
第49図6	木製品	漆椀	国内				SE24	裏込め
第49図7	木製品	漆椀	国内				SE24	井側内
第50図1	木製品		国内	4.3	3.1	1.3	SE24	井側内。長・幅・厚さ
第50図2	木製品	棒	国内	24.5	6.3	6.8	SE24	井側内。長・幅・厚さ
第50図3	木製品		国内	7.0	2.8	2.1	SE24	長・幅・厚さ
第50図4	鉄製品	釘	国内	7.6	0.5	16.9 g	SE24	裏込め
第50図5	石製品	五輪	在地				SE24	井側内。凝灰岩
第50図6	銭	咸平元宝	北宋998年	2.4		2.0 g	SE24	裏込め
第51図1	京都系土師器	皿	在地	8.6		1.9	SK29	淡灰黄色
第51図2	瓦質土器	火鉢	国内				SK29	暗灰色
第51図3	陶器	搦鉢	備前			10.8	SK29	SK6にも分布
第51図4	石製品	硯	国内	12.9	6.2	1.2	SK27	長・幅・厚さ
第53図1	京都系土師器	皿	在地	12.6		2.5	SK30	
第53図2	鉄製品	釘	国内	11.9	0.6	33.2 g	SK30	
第53図3	鉄製品	釘	国内	11.3	0.4	35.0 g	SK30	
第53図4	鉄製品	釘	国内	9.6	0.5	23.5 g	SK30	
第55図1	京都系土師器	埴塼					SK34	
第55図2	京都系土師器	埴塼					SK34	
第55図3	京都系土師器	埴塼					SK34	
第55図4	京都系土師器	埴塼					SK34	
第55図5	京都系土師器	埴塼					SK34	
第55図6	京都系土師器	埴塼					SK34	
第55図7	土師質土器	埴塼		10		5.1	SK34	
第55図8	土師質土器	埴塼		7.8			SK34	
第55図9	土師質土器	埴塼		9.3		4.0	SK34	
第55図10	土師質土器	埴塼					SK34	片口部分
第55図11	土師質土器	埴塼					SK34	口縁部黒変
第55図12	土師質土器	埴塼					SK34	
第55図13	土師質土器	埴塼					SK34	
第55図14	土師質土器	埴塼					SK34	
第56図1	陶器	搦鉢	備前	31.0	13.4	11.4	SK34	SK51と接合
第56図2	陶器	甕	備前				SK34	
第56図3	陶器	鉢	備前	15.9			SK34	
第56図4	陶器	德利	備前	3.3			SK34	最小径
第56図5	陶器	片口鉢	備前	15.9			SK34	
第56図6	白磁	八面坏	中国		4.0		SK34	高台剥落。灰色
第56図7	青花	碗	中国漳州窯				SK34	外底面露胎
第56図8	陶器	天目碗	瀬戸美濃		5.1		SK34	高台のみ円形に再加工
第56図9	陶器	天目碗	瀬戸美濃				SK34	
第56図10	陶器	天目碗	瀬戸美濃				SK34	
第57図1	瓦質土器	風炉	国内	39.2			SK34	にぶい橙色
第57図2	瓦質土器		国内		21.0		SK34	外面所々摩滅
第57図3	瓦質土器	蓋	国内	14.5		1.0	SK34	
第57図4	青磁	碗	中国龍泉窯				SK34	
第57図5	青花	皿	中国漳州窯				SK34	
第57図6	土師質土器	羽口	国内	6.7	4.3		SK34	上部は熱で灰黒色
第57図7	瓦質土器	鉢	国内				SK34	灰黒色
第57図8	埴瓦		国内	12.6	12.0	2.4	SK34	
第57図9	石製品	上白	国内				SK34	安山岩
第58図1	瓦	丸瓦	国内	8.1	14.8		SK34	長・幅
第58図2	瓦	丸瓦	国内	13.8	7.0		SK34	長・幅
第59図1	瓦		国内	14.3	12.1		SK34	
第59図2	瓦		国内		10.9		SK34	
第59図3	埴瓦		国内	14.4	11.3	3.3	SK34	
第59図4	埴瓦		国内	11.4	7.8	3.0	SK34	
第61図1	青花	碗	中国				SK36	
第61図2	青花	皿	中国景德镇				SK36	SK118にも分布
第61図3	土師質	土鉢	国内	4.7	1.0	4.6 g	SK36	
第61図4	陶器	壺	備前	13.0			SK36	胴部径
第61図5	陶器	天目碗	瀬戸美濃				SK35	
第61図6	石製品	上白	和泉産砂岩				SK37	
第61図7	石製品	上白	安山岩				SK37	
第61図8	石製品	下白	凝灰岩				SK37	
第63図1	陶器	甕	備前	29.4			SK38	他にSK10・52・55・1035に分布
第63図2	陶器	甕	備前				SK38	

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第63図3	陶器	甕	備前		41.8		SK38	胴部最大径
第63図4	陶器	甕	備前		27.0		SK38	底部径
第63図5	陶器	掃鉢	備前				SK38	黒褐色
第63図6	石製品	砥石	天草砂岩				SK38	4面使用
第63図7	鉄製品	釘	国内	5.8	0.4	8.6 g	SK38	
第63図8	埴瓦		国内	11.6	15.0	2.5	SK38	
第64図1	陶器	掃鉢	備前		9.2		SK40	
第64図2	石製品		在地・凝灰岩	27.2	26.5	13.2	SK38	
第64図3	石製品	上臼	在地・凝灰岩				SK38・SK34	
第65図1	京都系土師器	皿	在地				SK63	
第65図2	土師質土器	燭台	在地				SK63	
第65図3	陶器	掃鉢	備前				SK63	赤黒色
第65図4	京都系土師器	皿	在地				SK64	
第65図5	瓦質土器	鉢	在地				SK64	石英細砂中量。外面煤
第67図1	土師質土器	燭台	在地				SK51	
第67図2	青磁	皿	中国				SK52	
第67図3	在地系土師器	皿	在地	8.5	4.8	1.6	SK52	橙色
第67図4	陶器	掃鉢	備前				SK52	交叉掃り目
第67図5	瓦質土器	鉢	国内				SK52	淡黄色
第67図6	陶器	掃鉢	備前				SK52	暗赤灰色
第67図7	瓦質土器	風炉 ^ひ	国内	49.1			SK52	橙色
第69図1	京都系土師器	皿	在地	9.2		2.4	SK37	煤付着。灯明皿
第69図2	京都系土師器	皿	在地				SK37	
第69図3	陶器	皿	肥前	14.2	4.6	3.1	SK37	淡茶色・内野山窯17世紀後半
第69図4	瓦質土器	鉢	国内				SK37	
第69図5	陶器	掃鉢	備前	32.5			SK37	暗灰色
第69図6	陶器	掃鉢	備前		21.0		SK37	
第69図7	瓦質土器	火鉢	国内	30.0			SK37	淡灰色。胴部最大径
第71図1	京都系土師器	皿	在地	12.6		2.4	SX54下	淡黄灰色
第71図2	鉄製品	釘	国内	9.1	0.7	5.5 g	SK53	
第71図3	鉄製品	釘	国内	3.1	0.4	3.7 g	SK53	
第72図1	陶器	四耳壺	夕イ	37.0	20.4	38.4	SK55	SK10・29・37・52・54・67、包含層も
第72図2	陶器	掃鉢	備前				SK55	灰赤色
第72図3	石製品	下臼	国内				SK55	黒色。砂岩?
第72図4	石製品	砥石	国内	14.0	8.3	515.5 g	SK55	結晶片岩
第74図1	京都系土師器	皿	在地	15.8		2.0	SK69	淡橙灰色
第74図2	京都系土師器	皿	在地	15.2		2.4	SK69	淡灰色
第74図3	在地系土師器	皿	在地	12.7	6.9	2.5	SK69	暗褐色
第74図4	瓦質土器	丸瓦	国内	13.8	7.8	1.9	SK69	淡橙褐色
第77図1	在地系土師器	皿	在地	11.2	6.5	2.5	SK85	にぶい黄橙色
第77図2	在地系土師器	皿	在地	12.4	7.6	2.4	SK85	にぶい黄橙色
第77図3	京都系土師器	皿	在地	14.4		2.2	SK85	橙褐色
第77図4	京都系土師器	皿	在地	14.8		2.5	SK85	淡褐色
第77図5	京都系土師器	皿	在地	12.6			SK85	橙色
第77図6	京都系土師器	皿	在地	11.0		2.0	SK85	淡黄色
第77図7	京都系土師器	皿	在地	8.8		2.0	SK85	灰黄褐色
第77図8	京都系土師器	皿	在地	16.6			SK85	にぶい黄橙色
第77図9	在地系土師器	皿	在地	12.3	9.0	2.9	SK91	にぶい橙色
第77図10	在地系土師器	皿	在地				SK100	淡橙白色
第77図11	青花	碗	中国漳州窯				SK88	
第77図12	瓦質土器	羽釜	国内	26.6			SK95	暗灰色。外径
第77図13	石製品	下臼	国内	35.5			SK108	安山岩
第77図14	鉄製品	釘	国内	2.5	0.5	3.3 g	SK88	
第78図1	在地系土師器	皿	在地		6.3		SD80	橙色
第78図2	在地系土師器	皿	在地	9.6	6.4	1.7	SD80	灰色
第78図3	在地系土師器	皿	在地	10.4	5.5	1.9	SD80	にぶい黄橙色
第78図4	京都系土師器	皿	在地	13.8		2.2	SD80	にぶい黄橙色
第78図5	京都系土師器	皿	在地	11.4		1.8	SD80	にぶい黄橙色
第78図6	瓦質土器	火鉢	国内				SD80	淡黄色
第78図7	鉄製品	釘	国内				SD80	
第78図8	鉄製品	釘	国内				SD80	
第79図1	在地系土師器	皿	在地				SK83	橙色
第79図2	鉄製品	釘	国内	5.9	0.7	11.8 g	SK81	
第81図1	瓦質土器	鍋	国内				SK110	灰色
第81図2	須恵質土器		国内				SK112	灰黄色
第81図3	在地系土師器	皿	在地	13.1	9.3	3.1	SK117	淡橙白色

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第81図4	在地系土師器	皿	在地	12.6	8.5	3.0	SK112	暗褐色
第81図5	瓦質土器	こね鉢	東播系				SK111	灰色
第81図6	瓦質土器	こね鉢	東播系				SK116	灰色
第81図7	陶器	鉢	備前				SK114	灰色
第81図8	瓦質土器	鍋	備前				SK110	茶褐色
第81図9	鉄製品	釘	国内	5.9	0.6	18.9 g	SK116	
第83図1	瓦質土器	碗	国内	11.3	3.6	3.1	SK58	吉備系?
第86図1	陶器	甕	常滑				SK45	
第88図1	在地系土師器	皿	在地	14.0	10.8	2.9	SE59	浅黄橙色
第88図2	在地系土師器	皿	在地	12.8	10.8	3.0	SE59	にぶい橙色
第88図3	弥生式土器	甕	在地		7.3		SE59	淡灰黄色
第88図4	瓦質土器	鉢	国内				SE59	淡黄色
第88図5	瓦質土器	鉢	国内				SE59	
第88図6	石製品	砥石	天草砂岩	11.7	6.7	312.1 g	SE59	二面使用
第89図1	在地系土師器	皿	在地	8	6.5	1.2	SK60	橙色
第89図2	在地系土師器	皿	在地		7.8		SK60	にぶい褐色
第89図3	瓦質土器	鉢	在地	29.2	11.2	12.8	SK60	粘土紐巻き上げ
第89図4	須恵質土器	こね鉢	東播系	30.1			SK60	暗灰色
第89図5	須恵質土器	甕	国内				SK60	橙灰色。SK109にも
第89図6	陶器	壺	備前				SK61	灰褐色
第89図7	陶器	描鉢	備前				SK61	
第89図8	石製品	砥石	天草砂岩				SK62	四面使用。B64区-63と接合
第90図1	在地系土師器	皿	在地	12.6	9.4	2.8	SK49	浅黄褐色
第90図2	在地系土師器	皿	在地	12.8	8.8	2.8	SK49	にぶい褐色
第90図3	在地系土師器	皿	在地	12.1	8.7	3.2	SK49	淡橙灰色
第90図4	在地系土師器	皿	在地	12.7	9.2	2.9	SK49	褐色
第91図1	在地系土師器	皿	在地	12.9	9.3	2.9	SK65	浅黄橙色
第91図2	在地系土師器	皿	在地	13.5	8.0	3.6	SK65	
第91図3	在地系土師器	皿	在地	13.4	8.4	3.2	SK65	
第91図4	在地系土師器	皿	在地	12.8	9.4	3.2	SK65	淡橙灰色
第91図5	在地系土師器	小皿	在地	8.2	6.9	1.2	SK65	淡橙灰色
第91図6	在地系土師器	小皿	在地	8.9	7.3	1.4	SK65	淡橙灰色
第91図7	在地系土師器	小皿	在地	9.2	8.2	1.4	SK65	明褐色
第91図8	在地系土師器	小皿	在地	8.3	6.4	1.1	SK65	褐色
第91図9	在地系土師器	小皿	在地	8.4	6.4	1.0	SK65	褐色
第91図10	在地系土師器	小皿	在地	10.0	6.5	1.2	SK65	にぶい橙色。外面煤付着
第91図11	在地系土師器	小皿	在地	8.6	6.2	1.4	SK65	黄褐色。金色の雲母
第91図12	在地系土師器	小皿	在地	8.2	6.9	1.5	SK65	淡黄色
第93図1	陶器	壺	備前	12.0	8.9	23.2	SK70	にぶい赤褐色
第93図2	高麗青磁	皿	朝鮮		5.1		SK71	砂目積み痕。見込みに象嵌圏線2
第93図3	京都系土師器	皿	在地	10.4		2.1	SK71	灰黄褐色
第93図4	在地系土師器	皿	在地	10.8	5.8	1.1	SK71	暗褐色
第93図5	在地系土師器	小皿	在地	9.6	7.0	1.4	SX41の下	浅黄褐色
第93図6	在地系土師器	皿	在地	11.6	8.5	3.0	SX41の下	浅黄褐色
第93図7	鉄製品	釘	国内	9.0	0.4	14.6 g	SX41の下	
第93図8	鉄製品	釘	国内	5.0	0.5	12.5 g	SX41の下	
第93図9	瓦質土器	こね鉢	東播系	32.2	10.8	11	SX41の下	灰色
第93図10	陶器	甕	常滑焼				SX41の下	
第94図1	瓦	伏間瓦	国内	32.3	16.6	2.5	SK72	石英多い。浅橙色
第96図1	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.2	SK72	浅黄褐色
第96図2	陶器	瓶	備前	5.8			SK72	暗赤褐色
第96図3	石製品	上臼	国内				SK72	凝灰岩。SK30からも小片
第97図1	瓦	丸瓦	国内	13.8	15.1	3.0	SK72	
第97図2	瓦	丸瓦	国内	19.3	14.0	2.0	SK72	
第98図1	瓦	丸瓦	国内	13.3	13.8	2.9	SK72	
第98図2	瓦	丸瓦	国内	17.9	13.4	1.7	SK72	
第100図1	在地系土師器	皿	在地	12.3			SK75	橙色
第100図2	京都系土師器	皿	在地	20.8		2.8	SK75	灰橙褐色
第100図3	京都系土師器	皿	在地				SK75	にぶい黄褐色
第100図4	瓦質土器	鍋	国内				SK75	茶褐色
第100図5	在地系土師器	小皿	在地	8.1	4.3	1.9	SK76	明橙色 口に煤付着
第100図6	鉄製品	釘	国内	5.5	0.5	8.9	SK73	
第103図1	京都系土師器	皿	在地	12.6			SK79	灰黄褐色
第103図2	京都系土師器	皿	在地	11.4			SK79	にぶい橙色
第104図1	在地系土師器	皿	在地	12.0	9.0	3.6	SK66	淡橙灰色
第104図2	在地系土師器	皿	在地	12.1	8.9	3.6	SK66	淡橙色

押図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第104図3	在地系土師器	皿	在地	12.3	8.9	3.4	SK66	明橙灰色
第104図4	在地系土師器	皿	在地	12.1	7.6	3.4	SK66	橙褐色
第104図5	在地系土師器	皿	在地	12.9	9.6	3.8	SK66	淡橙褐色
第104図6	在地系土師器	皿	在地	12.3	9.1	3.8	SK66	淡橙白色
第104図7	在地系土師器	皿	在地	12.7	9.3	3.6	SK66	褐色
第104図8	在地系土師器	皿	在地	11.6	8.2	3.9	SK66	淡橙褐色
第104図9	在地系土師器	小皿	在地	7.9	7.0	1.5	SK66	橙褐色
第106図1	青花	皿	中国景德镇				SE109	
第106図2	青磁	碗	中国		6.3		SE109	
第106図3	青磁	碗	中国				SE109	竊蓮弁紋
第106図4	青磁	碗	中国				SE109	
第106図5	青磁	碗	中国				SE109	
第106図6	白磁	碗	中国				SE109	
第106図7	白磁	碗	中国				SE109	口禿
第106図8	土師器	碗	国内		6.0		SE109	暗褐色
第106図9	在地系土師器	皿	在地	8.2	6.2	1.8	SE109	褐色
第106図10	在地系土師器	皿	在地	8.2	6.6	0.5	SE109	褐色
第106図11	在地系土師器	皿	在地	12.0	7.0	30.0	SE109	明褐色
第106図12	京都系土師器	皿	在地				SE109	白褐色
第106図13	須恵器	甕	国内				SE109	
第106図14	陶器	甕	備前				SE109	暗赤褐色
第106図15	陶器	擂鉢	備前				SE109	
第106図16	陶器	甕	常滑				SE109	灰黑色
第106図17	陶器	擂鉢	備前				SE109	
第106図18	瓦	軒平瓦	国内				SE109	
第106図19	瓦	古代平瓦	国内				SE109	格子目叩き
第106図20	鉄製品	釘	国内	3.6	0.5	4.8 g	SE109	
第107図1	瓦質土器	鍋	国内				SE109	
第107図2	須恵質土器	鉢	東播系				SE109	
第107図3	須恵質土器	鉢	東播系				SE109	
第107図4	瓦質土器	鍋	国内				SE109	
第107図5	瓦質土器	鍋	国内				SE109	
第107図6	瓦質土器	鍋	国内				SE109	
第107図7	瓦質土器	鍋	国内				SE109	
第107図8	須恵質土器	甕	国内				SE109	
第107図9	瓦質土器	鍋	国内				SE109	
第107図10	瓦質土器	甕	国内				SE109	
第107図11	須恵質土器	甕	国内				SE109	
第107図12	須恵質土器	甕	国内				SE109	
第107図13	須恵質土器	甕	国内				SE109	
第107図14	須恵質土器	甕	国内				SE109	
第109図1	在地系土師器	皿	在地				SK118	淡橙白色
第109図2	在地系土師器	皿	在地				SK118	明褐色
第109図3	在地系土師器	皿	在地				SK118	淡橙褐色
第109図4	在地系土師器	皿	在地				SK118	明橙褐色
第109図5	在地系土師器	皿	在地	11.9	7.9	3.1	SK118	橙褐色
第109図6	在地系土師器	小皿	在地	7.8	6.2	1.3	SK118	橙褐色
第109図7	在地系土師器	小皿	在地	8.2	6.9	1.2	SK118	橙褐色
第109図8	青磁	碗	中国				SK118	
第109図9	瓦質土器	鍋	国内				SK118	灰黄褐色
第109図10	瓦質土器	鍋	国内				SK48	灰色
第109図11	瓦質土器	鍋	国内				SK118	灰白色
第109図12	瓦質土器	鍋	国内				SK118	浅黄褐色
第109図13	瓦質土器	鍋	国内				SK118	灰白色
第109図14	須恵質土器	鉢	東播系	26.0			SK118	にぶい橙褐色
第109図15	瓦質土器	甕	国内	33.2			SK118	灰黄褐色
第109図16	瓦質土器	甕	国内				SK118	暗灰色
第109図17	須恵器	甕	国内				SK118	
第109図18	瓦質土器	火鉢	在地				SK118	灰色
第110図1	瓦	古代平瓦	国内				SK118	石英。暗灰色
第110図2	鉄製品	鍋	国内		0.3	38.9 g	SK118	
第110図3	鉄製品	釘	国内	6.4	0.6	10.0 g	SK118	
第110図4	土師器再利用		在地	2.2	2.1	2.1 g	SK118	浅黄褐色
第110図5	瓦質土器	鍋	国内				SK119	
第110図6	瓦質土器	鍋	国内				SK120	
第110図7	陶器	瓶	備前				SK119	

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第110図8	石製品	砥石	国内	6.9	4.3	139.3 g	SK120	四面使用
第111図1	土師質土器	土錘	国内	3.9	2.3	13.2 g	SP1001	
第111図2	鉄製品	釘	国内	7.7	0.8	30.8	SP1004	
第111図3	鉄製品	釘	国内	8.3	0.5	12.8 g	SP1010	
第111図4	瓦質土器	坏	国内	5.8		1.9	SP1015	黄灰色
第111図5	京都系土師器	皿	在地				SP1015	褐色
第111図6	陶器	壺	備前	8.6			SP1015	明茶褐色
第111図7	在地系土師器	皿	在地	7.1	4.2	1.5	SP1017	橙色。口に煤付着
第111図8	ガラス	玉		0.4	0.3	0.06 g	SP1020	白濁色に青色
第111図9	ガラス	玉		0.4	0.3	0.09 g	SP1021	紺色に白色
第111図10	青花	碗	中国景德镇				SP1021	
第111図11	陶器	掃鉢	備前				SP1023	
第111図12	鉄製品	釘					SP1021	
第111図13	鉄製品	釘					SP1021	
第111図14	鉄製品	釘					SP1022	
第111図15	鉄製品	釘					SP1025	
第111図16	青花	碗	中国景德镇				SP1052	
第111図17	青磁	碗	中国景德镇				SP1052	
第111図18	京都系土師器	皿	在地	12.3		3.1	SP1063	暗灰褐色
第111図19	在地系土師器	小皿	在地	8.4	3.6	1.1	SP1059	明褐色
第111図20	青花	碗	中国				SP1063	
第111図21	鉄製品	釘	国内	4.5	0.3	5.7 g	SP1093	
第111図22	鉄製品	釘	国内	6.5	0.4	9.6 g	SP1066	
第111図23	瓦質土器	羽釜	国内				SP1071	淡灰白色
第111図24	瓦質土器	火鉢	国内				SP1083	
第111図25	陶器	甕	常滑				SP1089	
第70図8	陶器	瓶	備前				SK52	暗赤灰色
第70図9	石製品	上臼	花崗岩				SK52	穴から下面は被熱
第81図5	瓦質土器	鍋	在地				SK49	にぶい橙色。外面煤付着
第83図10	土師器	皿	吉備系?	10.8	3.6	2.8	SK68	淡灰黄色
第113図1	青花	皿	中国	2.4	2.0g		SP1121	
第113図2	陶器	甕	備前	2.4	2.0g		SP1127	濃灰色
第113図3	銅製品			2.4	1.6	11.9 g	SP1129	
第113図4	鉄製品		国内	2.8	1.0	3.5 g	SP1132	
第113図5	京都系土師器	皿	あ一	14.6		2.3	SP1133	
第113図6	鉄製品	釘	国内	9.7	0.5	22.9 g	SP1141	
第113図7	青花	皿	中国景德镇				SP1174	
第113図8	瓦質土器	掃鉢	在地				SP1171	内面に掃り目
第113図9	在地系土師器	皿	在地	12.1	8.9	3.4	SP1178	暗褐色
第113図10	瓦	丸瓦	国内	22.5	7.0		SP1142	淡灰色
第114図1	青磁	皿	中国同安窯	3.9	2.3	13.2 g	X64・65	検出面
第114図2	鉄製品	釘	国内	4.7	0.4	10.9 g	X64・65	床土下20~40cm
第114図3	鉄製品	釘	国内	2.9	0.4	3.7 g	X64・65	床土下20~40cm
第114図4	青磁	香炉 ⁱ	中国同安窯	6.7			X64	上層
第114図5	土製品	鈴	国内	3.2			X64	淡茶灰色。上層
第114図6	鉄製品	釘	国内	5.1	0.3	4.7 g	X64	上層
第114図7	鉄製品	釘	国内	4.6	0.3	2.7 g	X64	上層
第114図8	鉄製品	釘	国内	4.4	0.5	4.5 g	X64	上層
第114図9	鉄製品	火打ち金	国内	6.0	2.3	12.9 g	X64	上層
第114図10	在地系土師器	皿	在地	12.0	5.8	3.0	X64No.2	明黄褐色
第114図11	在地系土師器	皿	在地	11.8	8.8	3.5	X64No.6	
第114図12	在地系土師器	皿	在地	12.3	8.3	3.6	X64No.6	橙褐色
第114図13	白磁	碗	中国同安窯		5.8		X64No.4	
第114図14	瓦	伏間瓦	国内	31.8	15.1	1.9	X65No.4	金色の宗母多い
第114図15	瓦		国内			1.9	X65No.7	淡灰色
第115図1	在地系土師器	皿	在地	12.0	6.5	2.4	Y64	床土直上
第115図2	京都系土師器		在地	4.7	4.6	1.5	Y64	淡黄色。床土直上
第115図3	京都系土師器	皿	在地	8.3		2.1	Y64	床土面
第115図4	鉄製品	釘	国内	3.8	0.9	2.2 g	Y64	床土-20cmまで
第115図5	鉄製品	釘	国内	5.0	1.1	10.5	Y64	床土-20cmまで
第115図6	鉄製品	釘	国内	5.1	1.4	15.2 g	Y64・65	床土
第115図7	鉄製品	釘	国内	3.5	1.0	5.2 g	Y64・65	床土
第115図8	鉄製品	釘	国内	4.4	1.6	12.0 g	Y64・65	
第115図9	鉄製品	釘	国内	6.0	1.1	5.9 g	Y64	床土-20cmまで
第115図10	鉄製品	釘	国内	2.7	0.8	2.1 g	Y64	床土-20cmまで
第115図11	鉄製品	釘	国内	9.0	0.5	21.3 g	Y64・65	床土

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第115図12	土師質土器	土鏝	国内	4.5	0.9	3.7 g	Z64	床土直上
第115図13	瓦質土器	火鉢	国内		11.8		Y64・65	暗灰色.床土-15cmまで
第115図14	在地系土師器	在地	在地	11.8	6.5	2.6	Y64	橙色.床土直上
第115図15	瓦質土器	鍋	国内				Y64	明褐色.床土-30cmまで
第115図16	土師質土器	再加工	在地				Y64・65	床土直下
第115図17	土師質土器	埴塼	国内				Y64	
第115図18	鉄製品	釘	国内					
第115図19	鉄製品	釘	国内	4.7	1.0	6.1 g	Y65	床土-30cmまで
第115図20	鉄製品	釘	国内	2.5	0.7	1.9 g	Y64	床土-45cmまで
第115図21	鉄製品	釘	国内	3.2	0.8	2.9 g	Y65	床土-30cmまで
第115図22	鉄製品	釘	国内	5.8	1.1	7.8 g	Y65	床土-30cmまで
第115図23	鉄製品	小刀	国内	3.8	2.1	13.6 g	Y64・65	
第115図24	石製品	砥石	天草砂岩	6.5	2.9	31.2 g	Y64	床土-45cmまで
第115図25	石製品	砥石	結晶片岩	6.0	3.7	0.5	Y64・65	床土直下
第115図26	石製品	砥石	結晶片岩	5.8	3.2	29.3 g	Y64・65	床土直下
第115図27	瓦質土器	風炉	国内	38.4			Y64・65	床土直下.abは同一個体
第115図27	瓦質土器	風炉	国内				Y64・65	床土直下
第115図28	陶器	皿	瀬戸美濃				Y64・65	床土直下
第115図29	白磁	碗	中国	10.2			Y65	淡灰色.床土-45cmまで
第115図30	鉄製品	釘	国内	4.4	1.1	5.4 g	Y64・65	床土直下
第115図31	鉄製品	釘	国内	2.7	0.8	4.2 g	Y64・65	床土直下
第115図32	鉄製品	釘	国内	5.6	1.0	8.3 g	Y64・65	床土直下
第115図33	鉄製品	釘	国内	6.7	1.1	12.1 g	Y64・65	床土直下
第115図34	鉄製品	釘	国内	3.3	0.9	3.6 g	Y64・65	床土直下
第115図35	鉄製品	釘	国内	4.8	1.2	9.9 g	Y64・65	床土直下
第115図36	瓦質土器	鉢	国内	9.4			Y64	淡灰色.床土-20cm
第115図37	陶器	碗	唐津		6.0		Y64	床土の上層
第115図38	ガラス	玉					Y64No.13	
第116図1	青花	碗	中国漳州窯				Y64No.5	
第116図2	土師質	土鏝	国内	4.6	2.4	25.5 g	Y64No.7	
第116図3	陶器	天目碗	瀬戸美濃		6.0		Y64No.19	高台は二次利用し円形加工
第116図4	瓦質土器	鉢	国内	38.4			Y64No.14	黄褐色
第116図5	青花	碗	中国漳州窯				Y64No.23	
第116図6	瓦質土器	火鉢	国内				Y64No.20	灰黄褐色
第116図7	石製品	硯	赤間石				Y64No.22	
第116図8	土師質	紡錘車	国内	2.7	0.6	4.6 g	Y64No.31	
第116図9	瓦質土器	土鍋	国内				Y64No.37	
第116図10	石製品	石鍋	長崎				Y64No.30	
第116図11	青磁	碗	中国		6.0		Y64No.45	
第116図12	白磁	皿	中国	8.2	4.0	2.2	Y64No.46	
第116図13	在地系土師器	皿	国内	8.6	4.8	2.0	Y64No.47	
第116図14	瓦質土器	軒平瓦	国内	10.5	11.0	4.9	Y64No.38	
第117図1	瓦質土器	鍋	国内	30.0			Y64No.49	橙色
第117図2	青磁	碗	中国	15.6			Y64No.59	
第117図3	白磁	碗	中国		5.0		Y64No.51	
第117図4	在地系土師器	皿	在地	13.2	6.7	3.5	Y64No.58	底面外側から打撃穿孔
第117図5	石製品	砥石	天草砂岩	6.8	5.8	103.4 g	Y64No.52	
第117図6	瓦質土器	鉢	国内				Y64No.55	にぶい黄等橙色
第117図7	埴瓦		国内	13.5	9.4	3.1	Y64No.56	
第117図8	青花	碗	中国漳州窯				Y64	床土-30cmまで
第117図9	青花	碗	中国漳州窯				Y64	床土-30cmまで
第118図1	在地系土師器	皿	在地	11.8	2.3	6.4	Z64	橙色.床面直上
第118図2	在地系土師器	皿	在地	4.0	3.0	1.4	Z64	浅黄橙色.床土-30~45cm
第118図3	白磁	皿	中国				Z64	床土-20~40cm
第118図4	鉄製品	鍋	国内			10.7 g	Z64	床土-20~40cm
第118図5	白磁	皿	中国	9.0			Z64	床土-20cm
第118図6	瓦質土器	鍋	国内				Z64	床土-20~40cm.褐色
第118図7	瓦質土器	火鉢	国内				Z64	床土-20~40cm
第118図8	京都系土師器	皿	在地	12.0		3.4	Z64	褐色.床土-35cm
第118図9	白磁	皿	中国	13.4			Z64	床土-20~40cm
第118図10	白磁	皿	中国	12.8			Z64	床土-20~40cm
第118図11	鉄製品	鍋	国内		3.7	25.8 g	Z64	床土-20~40cm
第118図12	石製品	砥石	結晶片岩	14.7	4.7	160.7g	Z64	床土下
第118図13	鉄製品	鋤先	国内	3.2	3.6	19.7 g	Z64	床土-20~40cm
第118図14	鉄製品	刀子	国内	10.2	1.6	21.0 g	Z64	床土-20~40cm
第118図15	鉄製品	釘	国内	6.9	0.7	14.9 g	Z64	床土-20~40cm

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第118図16	鉄製品	釘	国内	6.8	0.3	4.7 g	Z64	床土-20~40cm
第118図17	鉄製品	釘	国内	6.3	0.3	9.4 g	Z64	床土-20~40cm
第118図18	鉄製品	釘	国内	3.4	0.4	3.8 g	Z64	床土-20~40cm
第118図19	青花	碗	中国景德鎮				Z64	床土-35~40cm
第118図20	翡翠釉陶器	皿	中国南部				Z64	床土-20~40cm
第118図21	京都系土師器	皿	在地	12.0		3.0	Z64	灰黄褐色。床土-30~40cm
第118図22	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.3	Z64	にぶい黄橙色。床土-30~40cm
第118図23	京都系土師器	耳皿	在地	3.4		2.2	Z64	淡黄色。床土-20~40cm
第118図24	青磁	碗	中国龍泉窯				Z64	床土-30~40cm
第118図25	白磁	皿	中国龍泉窯				Z64	床土-30~40cm
第118図26	瓦質土器	火鉢	国内				Z64	灰白色。床土-30~40cm
第118図27	瓦	古代平瓦	国内				Z64	床土-30~40cm
第118図28	石製品	小豆色	国内	5.6	1.5	9.8 g	Z64	床土-30~45cm
第118図29	鉄製品	釘	国内	6.4	0.5	9.5 g	Z64	床土-30~40cm
第118図30	鉄製品	釘	国内	9.1	0.4	18.2 g	Z64	床土-30~40cm
第118図31	鉄製品	釘	国内	3.8	0.4	4.3 g	Z64	床土-30~45cm
第119図1	青花	碗	中国漳州窯				Z64・65	検出面。第121図18と同一個体
第119図2	青花	碗	中国漳州窯				Z64・65	検出面
第119図3	青花	皿	中国景德鎮				Z64・65	検出面
第119図4	青花	皿	中国景德鎮				Z64・65	検出面
第119図5	白磁	皿	中国	12.4			Z64・65	検出面
第119図6	青花	皿	中国景德鎮				Z64・65	検出面
第119図7	在地系土師器	皿	在地	12.1	5.8	2.6	Z64・65	にぶい橙色。検出面
第119図8	京都系土師器	皿	在地	11.4	6.0	2.5	Z64・65	にぶい黄橙色。検出面
第119図9	陶器	天目碗	瀬戸美濃				Z64・65	検出面
第119図10	青磁	皿	中国		7.0		Z64・65	検出面
第119図11	白磁	皿	中国		7.8		Z64・65	検出面
第119図12	陶器	蓋		7.0			Z64・65	検出面
第119図13	緑釉陶器	碗	国内				Z64・65	胎土は淡黄褐色。検出面
第119図14	土師質	土鉢	国内	5.5	1.0	6.1 g	Z64・65	検出面
第119図15	土師質	土鉢	国内	6.0	1.5	12.9 g	Z64・65	検出面
第119図16	土師質	土鉢	国内	5.4	1.2	8.5 g	Z64・65	検出面
第119図17	土師質	土鉢	国内	5.0	1.0	5.3 g	Z64・65	検出面
第119図18	瓦質土器	鍋	国内				Z64・65	金色の雲母。にぶい赤褐色。検出面
第119図19	瓦質土器	甕	国内				Z64・65	明赤褐色。検出面
第119図20	瓦質土器	羽釜	国内				Z64・65	にぶい橙色。検出面
第119図21	瓦質土器	鉢	国内	29.6			Z64・65	黒色。検出面
第119図22	瓦質土器	風炉	国内				Z64・65	にぶい黄橙色。検出面
第119図23	瓦	軒丸瓦	国内				Z64・65	検出面
第119図24	土師質	埴塼	国内				Z64・65	検出面
第119図25	土師質	埴塼	国内				Z64・65	検出面
第119図26	土師質	羽口	国内				Z64・65	検出面。熱変色
第119図27	石製品	火打石	国内	3.8	2.9	36.2 g	Z64・65	山香町六太郎石。検出面
第119図28	石製品	硯	赤間石	4.4	3.3	33.1 g	Z64・65	検出面
第120図1	京都系土師器	皿	在地	12.0		2.4	Z64N0.10	
第120図2	京都系土師器	皿	在地	7.6		1.8	Z64N0.11	
第120図3	京都系土師器	皿	在地	8.8		1.9	Z64N0.34	
第120図4	京都系土師器	皿	在地	15.4		2.2	Z64N0.46	
第120図5	京都系土師器	皿	在地	9.2		2.1	Z64N0.50	油煤付着
第120図6	京都系土師器	皿	在地	14.1		2.6	Z64N0.62	
第120図7	京都系土師器	皿	在地	19.0		2.5	Z64N0.72	
第120図8	京都系土師器	皿	在地	10.4		2.0	Z64N0.73	
第120図9	京都系土師器	皿	在地	12.4		3.0	Z64N0.74	
第120図10	京都系土師器	皿	在地	8.8		2.3	Z64N0.76	
第120図11	京都系土師器	皿	在地	12.6		2.7	Z64N0.77	
第120図12	京都系土師器	皿	在地	12.2		2.3	Z64N0.78	
第120図13	京都系土師器	皿	在地	8.5		2.2	Z64N0.79	油煤付着
第120図14	在地系土師器	皿	在地				Z64N0.17	明褐色
第120図15	青花	碗	中国景德鎮				Z64N0.2	
第120図16	青花	碗	中国景德鎮	15.8			Z64N0.42	
第120図17	青花	碗	中国漳州窯				Z64N0.51	
第120図18	青花	碗	中国漳州窯		4.6		Z64N0.17	第120図1と同一個体
第120図19	青花	皿	中国漳州窯				Z64N0.16	
第120図20	青花	皿	中国漳州窯		2.6		Z64N0.48	
第120図21	青花	皿	中国		4.9		Z64N0.20	
第120図22	白磁	皿	中国	14.1	8.0	2.6	Z64N0.64	

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第120図23	白磁	皿	中国		6.6		Z64N0.27	
第120図24	青磁	皿	中国	9.8	4.1	3.1	Z64N0.66	
第120図25	青磁	皿	中国	13.3	7.2	2.7	Z64N0.39	
第120図26	白磁	玉取獅子	中国				Z64N0.68	
第121図1	瓦質土器	火鉢	国内				Z64N0.14	
第121図2	瓦質土器		国内				Z64N0.15	
第121図3	瓦質土器		国内				Z64N0.31	
第121図4	瓦質土器		国内				Z64N0.44	
第121図5							Z64N0.41	
第121図6	陶器	插鉢	備前	20.2	11.1	8.1	Z64N0.80	
第121図7	瓦質土器	鍋	国内				Z64N0.40	
第121図8	銅製品	簪	国内	5.2	0.5	2.3 g	Z64N0.28	
第121図9	銅製品		国内	3.8	0.2	1.1 g	Z64N0.25	
第121図10	鉄製品	釘	国内	20.6	1.7	71.7 g	Z64N0.63	
第121図11	土師質土器	土錘	国内	5.1	1.1		Z64N0.19	
第121図12	瓦	丸瓦	国内	14.5	9.5	2.8	Z64N0.70	
第121図13	ガラス	玉	国内	4.5	2.5	0.07 g	Z64N0.54	白色
第121図14	銅製品	玉	国内	0.5	0.5	0.2 g	Z64N0.40	
第122図1	鉄製品		国内	8.0	2.8	29.5 g	Z64-65	検出面
第122図2	鉄製品	錠	国内	7.1	1.6	9.1 g	Z64-65	検出面
第122図3	鉄製品	釘	国内	3.6	1.7	3.7 g	Z64-65	検出面
第122図4	鉄製品	釘	国内	6.2	1.3	7.6 g	Z64-65	検出面
第122図5	鉄製品	釘	国内	4.0	0.4	5.7 g	Z64-65	検出面
第122図6	鉄製品	釘	国内	3.4	1.3	3.2 g	Z64-65	検出面
第122図7	鉄製品	釘	国内	5.4	1.6	17.3 g	Z64-65	検出面
第122図8	鉄製品	釘	国内	3.7	0.8	3.0 g	Z64-65	検出面
第122図9	鉄製品	釘	国内	3.3	1.1	2.1 g	Z64-65	検出面
第122図10	鉄製品	釘	国内	4.3	1.3	7.2 g	Z64-65	検出面
第122図11	鉄製品	釘	国内	4.4	1.4	7.7 g	Z64-65	検出面
第122図12	鉄製品	釘	国内	5.6	1.1	8.2 g	Z64-65	検出面
第122図13	鉄製品	釘	国内	12.6	1.7	26.5 g	Z64-65	検出面
第122図14	鉄製品	釘	国内	7.2	0.5	15.1 g	Z64-65	検出面
第122図15	鉄製品	釘	国内	7.1	0.7	15.9 g	Z64-65	検出面
第122図16	鉄製品	釘	国内	4.2	1.5	6.4 g	Z64-65	検出面
第122図17	鉄製品	釘	国内	4.3	1.3	9.1 g	Z64-65	検出面
第122図18	鉄製品	釘	国内	2.5	1.0	2.1 g	Z64-65	検出面
第122図19	鉄製品	釘	国内	4.6	1.2	6.8 g	Z64-65	検出面
第122図20	銅製品		国内	1.4	1.5	0.1 g	Z64-65	検出面
第123図1	白磁	皿	中国	16.0	8.6	4.6	Z65	床土-20~30cm
第123図2	瓦質土器	火鉢	国内		18.5		Z65	床土-20~30cm
第123図3	瓦質土器	甕	国内				Z65	床土-40~50cm
第123図4	陶器	插鉢	備前				Z65N0.1	
第123図5	瓦質土器	土瓶	国内				Z65No.3	側面環状部び鉄片付着
第123図6	石製品	火打石	国内	4.7	2.3	32.9 g	Z65-65	検出面。石英
第123図7	石製品	下臼		33.5			Z65No.16	安山岩? 灰黒色
第123図8	陶器	天目碗	瀬戸美濃		4.8		Z65No.18	
第123図9	青磁	碗	中国		4.6		Z65No.8	
第123図10	京都系土師器	皿	在地	22.1		2.7	Z65No.20	
第123図11	石製品	下臼		30.0		5.2	Z65	No.24 + 25 安山岩? 灰黒色
第123図12	京都系土師器	皿	在地	13.0		2.0	Z65No.26	
第123図13	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.5	Z65No.9	
第123図14	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.4	Z65No.11	
第123図15	京都系土師器	皿	在地	13.1		2.3	Z65No.12	
第123図16	京都系土師器	皿	在地	12.3		2.4	Z65No.13	
第123図17	在地系土師器	皿	在地		6.0		Z65No.27	
第124図1	京都系土師器	皿	在地	10.8		2.1	A64No.6	
第124図2	京都系土師器	皿	在地	9.1		2.0	A64No.18	
第124図3	京都系土師器	皿	在地	11.2		3.6	A64No.20	
第124図4	京都系土師器	皿	在地	11.0		3.8	A64No.21	
第124図5	京都系土師器	皿	在地	12.2		2.1	A64No.40	
第124図6	京都系土師器	皿	在地	14.6		2.7	A64No.48	
第124図7	在地系土師器	皿	在地	12.6			A64No.70	
第124図8	京都系土師器	蓋	在地	4.2		1.4	A64No.69	
第124図9	青磁	碗	中国				A64No.4	鍋遊弁紋
第124図10	青花		中国				A64No.8	
第124図11	青磁	碗	中国		5.0		A64No.3	

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第124図12	青花	碗	中国				A64No.5	
第124図13	陶器	天目碗	中国				A64No.28	
第124図14	白磁	碗	中国				A64No.36	
第124図15	白磁	碗	中国				A64No.37	
第124図16	白磁	碗	中国				A64No.42	
第124図17	白磁	碗	中国		9.0		A64No.44	
第124図18	白磁	皿	中国		6.2		A64No.47	
第124図19	白磁	碗	中国		6.6		A64No.45	
第124図20	青花	碗	中国	11.6			A64No.57	
第124図21	陶器	甕	中国磁そう				A64No.52	
第124図22	瓦質土器	風炉	国内	42.8			A64No.15	
第124図23	瓦質土器	火鉢	国内	28.6			A64No.62	
第124図24	瓦質土器	高坏	国内				A64No.55	
第124図25	土師器	高坏	在地				A64No.29	
第125図1	須恵器		国内	15.8			A64No.12	
第125図2	瓦質土器	鉢	国内				A64No.21	
第125図3	土師質	埴塼	国内				A64No.	
第125図4	土師質	埴塼	国内				A64No.	
第125図5	鉄製品	斧	国内	9.7	4.3	219.8 g	A64No.11	
第125図6	鉄製品	釘	国内	11.3	0.5	29.9 g	A64No.24	
第125図7	鉄製品	釘	国内	5.1	0.7	16.9 g	A64No.24	
第125図8	鉄製品	釘	国内	3.4	0.5	6.1 g	A64No.29	
第125図9	鉄製品	釘	国内	4.8	0.5	5.6 g	A64No.24	
第125図10	埴瓦		国内	16.9	12.9	3.4	A64No.29	
第125図11	石製品	上臼	安山岩	30.6		7.5	A64No.58	
第125図12	石製品	砥石	泥岩	25.2	10.5	0.7	A64No.56	
第125図13	石製品	硯?	粘板岩	6.8	4.3	0.6	A64No.17	
第125図14	ガラス						A64No.67	
第126図1	青花	皿	中国漳州窯				A6・465	床土
第126図2	石製品	砥石	国内	3.0	2.8	6.8 g	A64	床土-8~12cm
第126図3	鉄製品	釘	国内	4.6	0.4	3.7 g	A64	床土-20~35cm
第126図4	鉄製品	釘	国内	3.6	0.4	2.2 g	A64	床土-20~35cm
第126図5	石製品	砥石	国内	4.1	2.2	0.5	A64	床土-8cm
第126図6	鉄製品	釘	国内	3.8	0.4	2.4 g	A64	床土-8cm
第126図7	鉄製品	釘	国内				A64	床土-8cm
第126図8	陶器	搥鉢	備前				A64	床土-18cm
第126図9	瓦	軒平瓦	国内				A64	床土-20~35cm
第126図10	瓦質土器	甕	国内				A64	床土-20~35cm
第126図11	陶器	搥鉢	備前				A64	床土-20~35cm
第126図12	石製品	鍋	長崎	3.3	2.9	21.4 g	A64	床土-5~60cm
第126図13	土師質	土鉢	国内	4.3	1.8	11.5 g	A64	床土-60cm
第126図14	鉄製品	釘	国内	5.7	0.3	10.9 g	A64	床土-60cm
第126図15	鉄製品	釘	国内	3.9	0.3	1.7 g	A64	床土-60cm
第126図16	瓦質土器	搥鉢	国内				A64	地山上20cm
第126図17	陶器	甕	備前				A64	地山上28cm
第127図1	京都系土師器	皿	在地	14.4		2.8	A64・65	検出面
第127図2	陶器	天目碗	瀬戸美濃				A64・65	検出面
第127図3	白磁	皿	中国	17.6			A64・65	検出面
第127図4	白磁	皿	中国		9.2		A64・65	検出面
第127図5	陶器	皿	瀬戸美濃		6.0		A64・65	検出面
第127図6							A64・65	検出面
第127図7							A64・65	検出面
第127図8	青磁	碗	中国		6.6		A64・65	検出面
第127図9	青磁	碗	中国		3.8		A64・65	淡灰色。検出面
第127図10	青花	皿	中国				A64・65	検出面
第127図11							A64・65	検出面
第127図12							A64・65	検出面
第127図13							A64・65	検出面
第127図14							A64・65	検出面
第127図15	陶器	瓶	備前	10.0			A64・65	検出面
第127図16	陶器	瓶	備前		10.0		A64・65	検出面
第127図17							A64・65	検出面
第127図18							A64・65	検出面
第127図19							A64・65	検出面
第128図1	青花	碗	中国				A64・65	
第128図2	瓦質土器		国内				A64	暗灰色

押図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第128図3	陶器	瓶	備前				A64・65	
第128図4	石製品	砥石	結晶片岩	6.6	3.0	1.5	A64・65	
第128図5	石製品	砥石	国内	12.0	4.0	3.0	A64・65	146.5 g
第128図6	鉄製品		国内				A64・65	
第128図7	鉄製品		国内				A64・65	
第128図8	鉄製品	釘	国内				A64・65	
第128図9	鉄製品	釘	国内				A64・65	
第128図10	鉄製品	釘	国内				A64・65	
第128図11	鉄製品	釘	国内				A64・65	
第128図12	鉄製品	釘	国内				A64・65	
第128図13	鉄製品	釘	国内				A64・65	
第128図14	鉄製品	釘	国内				A64・65	
第128図15	京都系土師器	皿	在地	9.0		2.3	A64・65	完全品
第128図16	青磁	皿	中国	9.1			A64・65	
第128図17	青磁	皿	中国		6.0		A64・65	
第128図18	青花	碗	中国				A64・65	二回目掘り下げ面
第128図19	青花	碗	中国				A64・65	
第128図20	瓦質土器	鉢	国内				A64・65	床土-25cm
第128図21	瓦質土器	火鉢	国内				A64・65	淡茶褐色
第128図22	土師質	土錘	国内	4.3	2.3	16.6 g	A64・65	
第128図23	土師質	土錘	国内	5.5	1.2	8.9 g	A64・65	
第128図24	鉄製品	釘	国内	7.1	0.4	7.6 g	A64・65	
第128図25	鉄製品	釘	国内	4.4	0.4	8.0 g	A64・65	
第128図26	鉄製品	釘	国内	3.1	0.5	2.4 g	A64・65	
第128図27	鉄製品	釘	国内	3.3	0.4	1.7 g	A64・65	
第128図28	埴埴		国内					
第128図29	埴埴		国内					
第128図30	埴埴		国内					
第128図31	鉄製品	釘	国内	3.0	1.2	4.8 g	A64・65	
第128図32	鉄製品	釘	国内	2.2	0.3	0.5 g	A64・65	
第128図33	鉄製品	釘	国内	2.6	0.3	2.0 g	A64・65	
第129図1	土師質	土錘	国内	3.3	1.2	5.7 g	A64・65	検出面
第129図2	土師質	土錘	国内	5.6	1.0	6.1 g	A64・65	検出面
第129図3	土師質	土錘	国内	4.1	1.1	4.7 g	A64・65	検出面
第129図4	土師質	土錘	国内	5.0	2.0	20.2 g	A64・65	検出面
第129図5	銅製品	小容器	国内	4.6		0.13 g	A64・65	検出面
第129図6	鉄製品		国内	7.8	1.1	86.9 g	A64・65	検出面
第129図7	鉄製品		国内	3.0	0.4	6.2 g	A64・65	検出面
第129図8	鉄製品		国内	5.9	0.3	16.4 g	A64・65	検出面
第129図9	鉄製品	釘	国内	5.7	0.5	16.7	A64・65	検出面
第129図10	鉄製品	釘	国内	7.0	0.2	6.6 g	A64・65	検出面
第129図11	鉄製品	釘	国内	4.3	0.4	5.6 g	A64・65	検出面
第129図12	鉄製品	釘	国内	2.4	0.4	2.0 g	A64・65	検出面
第129図13	鉄製品	釘	国内	4.0	0.3	3.0 g	A64・65	検出面
第129図14	鉄製品	釘	国内	4.7	0.2	3.7 g	A64・65	検出面
第129図15	鉄製品	釘	国内	5.6	0.2	6.6 g	A64・65	検出面
第129図16	鉄製品	釘	国内	5.8	0.3	10.5 g	A64・65	検出面
第129図17	鉄製品	釘	国内	2.8	0.5	3.3 g	A64・65	検出面
第129図18	鉄製品	釘	国内	7.6	0.5	15.6 g	A64・65	検出面
第129図19	鉄製品	釘	国内	5.8	0.4	5.2 g	A64・65	検出面
第129図20	鉄製品	釘	国内	4.3	0.3	2.5 g	A64・65	検出面
第129図21	鉄製品	釘	国内	6.9	0.5	9.8 g	A64・65	検出面
第129図22	鉄製品	釘	国内	3.9	0.2	3.0 g	A64・65	検出面
第129図23	鉄製品	釘	国内	3.0	0.4	2.5 g	A64・65	検出面
第129図24	石製品	砥石	結晶片岩	19.8	8.7	3.8	A64・65	検出面
第130図1	青花	碗	中国				A65N0.2	
第130図2	京都系土師器	皿	在地	11.0		3.5	A65N0.13	淡黄赤色
第130図3	京都系土師器	皿	在地	11.8		2.5	A65N0.18	暗茶褐色
第130図4	京都系土師器	皿	在地				A65N0.23	橙褐色
第130図5	陶器	播鉢	備前	30.0	10.2	15.7	A65N0.27	交叉掘り目
第130図6	瓦質土器	丸瓦	国内	20.7	12.1	2.2	A65N0.22	
第131図1	在地系土師器	皿	国内	12.3	7.8	2.0	A64	白色。床土～18cmまで
第131図2	陶器	瓶	備前	3.8			B64・65	床土-25～30cm
第131図3	鉄製品	釘	国内	4.6	0.5	6.6	B64・65	床土-25～30cm
第131図4	鉄製品	釘	国内	4.1	0.4	7.7 g	B64・65	床土-25～30cm
第131図5	鉄製品	釘	国内	3.5	0.5	5.0 g	B64・65	床土-25～30cm

挿図No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	
			口径	底径	器高			
第131図6	鉄製品	釘	国内	6.5	0.4	8.3 g	B64・65	床土 - 25~30cm
第131図7	鉄製品	釘	国内	3.3	0.3	1.8 g	B64・65	床土 - 25~30cm
第131図8	鉄製品	釘	国内	7.7	0.5	5.2 g	B64・65	床土 - 25~30cm
第131図9	鉄製品	釘	国内	4.1	0.2	5.6 g	B64・65	床土 - 30cm
第131図10	鉄製品	釘	国内	3.8	0.7		B64・65	床土 - 25~30cm
第131図11	青花	碗	中国			9.2 g	B64・65	床土 - 30~40cm
第131図12	瓦質土器	搦鉢	国内		13.5		B64	淡灰色。床土 - 30~40cm
第131図13	銅製品		国内	2.4	0.9	17.3 g	B64・65	検出面
第131図14	鉄製品		国内	1.9	0.2	12.6 g	B64・65	検出面
第131図15	青花	皿	中国				B64・65	検出面
第131図16	青磁	浅形碗	中国龍泉窯				B64・65	明緑灰色。検出面
第131図17	陶器	搦鉢	備前				B64・65	検出面
第131図18	磁器	再加工		4.0	1.0	24.9 g	B64・65	検出面
第131図19	鉄製品		国内	1.4	2.1	2.0 g	B64・65	検出面
第131図20	鉄製品		国内	3.4	1.3	2.9 g	B64・65	検出面
第131図21	鉄製品	刀子	国内	8.0	0.4	17.7 g	B64・65	検出面
第131図22	鉄製品	釘	国内	5.9	0.4	11.7 g	B64・65	検出面
第131図23	鉄製品	釘	国内	5.2	0.5	14.1 g	B64・65	検出面
第131図24	鉄製品	釘	国内	3.7	0.4	5.6 g	B64・65	検出面
第131図25	鉄製品	釘	国内	6.7	0.3	11.1 g	B64・65	検出面
第131図26	鉄製品	釘	国内	4.6	0.5	6.1 g	B64・65	検出面
第131図27	京都系土師器	皿	在地	17.0		2.1	B64	暗黄橙色。2.17
第131図28	土師質	土錘	国内	4.8	1.4	8.0 g	B64	2.17
第131図29	土師質	土錘	国内	5.4	1.0	7.2 g	B64	12.24
第131図30	土師質	鎌	国内	10.0	0.3	38.1 g	B64	12.24
第131図31	鉄製品	釘	国内	4.7	0.3	11.1 g	B64	12.24
第131図32	鉄製品	釘	国内	3.6	0.2	4.0 g	B64	12.24
第131図33	在地系土師器	皿	在地	12.0	6.2	2.8	B64	最下層の地山直上包含層
第131図34	瓦質土器	鍋	国内	27.0			B64	淡灰白色。最下層の地山直上包含層
第131図35	瓦質土器	碗	国内	15.6			B64	淡灰白色。最下層の地山直上包含層
第132図1	在地系土師器	皿	在地		6.4		B64N0.	茶褐色
第132図2	京都系土師器	皿	在地	12.7		2.5	B64N0.	
第132図3	京都系土師器	皿	在地	11.7		2.3	B64N0.	
第132図4	京都系土師器	皿	在地	11.0		2.3	B64N0.	
第132図5	京都系土師器	皿	在地	9.0		2.0	B64N0.	
第132図6	京都系土師器	皿	在地	6.3		2.0	B64N0.	
第132図7	京都系土師器	皿	在地	8.2		2.0	B64N0.	
第132図8	京都系土師器	皿	在地	15.0		1.7	B64N0.	
第132図9	在地系土師器	皿	在地				B64N0.66	赤褐色
第132図10	京都系土師器	蓋	在地	5.3		1.6	B64N0.76	
第132図11	京都系土師器	皿	在地	9.0		1.9	B64N0.77	褐色
第132図12	在地系土師器	皿	在地		6.0		B64N0.78	橙色
第132図13	在地系土師器	小皿	在地	5.0	3.7	1.1	B64N0.85	茶褐色
第132図14	青花	碗	中国				B64N0.4	
第132図15	白磁	猪口	中国		3.2		B64N0.50	
第132図16	水色釉陶器	型押皿	中国南部				B64N0.10	
第132図17	白磁	皿	中国		8.0			
第132図18	土師器	甕	在地				B64N0.87	淡灰黄色
第132図19	華南三彩陶器	鳥形水注	中国南部				B64N0.19	
第132図20	土師器	壺	古墳時代	16.8			B64N0.67	褐色
第132図21	京都系土師器	皿	在地				B64N0.21	
第132図22	青花	碗	中国景德镇				B64N0.54	
第132図23	青磁	碗	中国龍泉窯				B64N0.71	
第132図24	青磁	碗	中国龍泉窯	11.2			B64N0.72	
第132図25	緑釉陶器	壺					B64N0.62	
第132図26	陶器	甕	備前				B64N0.80	
第132図27	青花						B64N0.84	
第132図28	陶器	舟德利	朝鮮				B64N0.52・63	
第133図1	土師質	土錘	国内	4.6	1.2		B64N0.56	
第133図2	銅製品		国内	2.2	0.4	0.2	B64N0.23	1.1 g
第133図3	銅製品		国内	4.4	1.6	7.01 g	B64N0.24	板を捻じ曲げたもの
第133図4	銅製品	管	国内	8.2	1.3	7.03 g	B64N0.28	
第133図5	鉄製品	毛抜き	国内	8.1	1.2	37.9 g	B64N0.3	
第133図6	鉄製品	釘	国内	5.3	0.4	31.7 g	B64N0.5	
第133図7	鉄製品	釘	国内	10.2	0.4	18.8 g	B64N0.16	
第133図8	鉄製品	釘	国内	6.3	0.3	7.8 g	B64N0.22	

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第133図9	鉄製品		国内	6.1	0.4	40.2 g	B64N0.59	
第133図10	石製品	砥石	結晶片岩	6.0	3.0	1.0	B64N0.23	32.1 g。上下面使用
第133図11	石製品	砥石	結晶片岩	12.0	6.6	1.3	B64N0.25	181.4 g。片面使用
第133図12	石製品	砥石	国内	8.7	4.8	2.4	B64N0.48	
第133図13	石製品	砥石	天草砂岩	11.3	4.7	4.1	B64N0.63	四面使用
第133図14	石製品	砥石	天草砂岩	6.9	3.8	3.4	B64N0.26	79.4 g。六面使用
第133図15	石製品	砥石	国内	6.0	3.5	0.8	B64N0.64	黄白色の砂岩。片面剥離欠損
第133図16	石製品	砥石	国内	7.0	6.3	4.3	B64N0.74	青灰色石材
第133図17	石製品	砥石	天草砂岩	5.8	3.6	1.0	B64N0.75	鋸挽き成形
第134図1	京都系土師器	皿	在地	12.9			B65N0.1	
第134図2	京都系土師器	皿	在地	10.9		4.1	B65N0.2	
第134図3	京都系土師器	皿	在地	12.8			B65N0.9	
第134図4	京都系土師器	皿	在地	11.6			B65N0.8	
第134図5	京都系土師器	皿	在地	10.6		2.7	B65N0.17	
第134図6	京都系土師器	皿	在地	8.4		1.6	B65N0.18	
第134図7	京都系土師器	皿	在地	10.2			B65N0.19	
第134図8	京都系土師器	皿	在地	13.4			B65N0.53	
第134図9	京都系土師器	皿	在地				B65	検出面
第134図10	瓦質土器	甕	国内		15.0		B65N0.76	淡灰色
第134図11	陶器	掃鉢	備前				B65N0.50	
第134図12	陶器	甕	備前				B65N0.33	
第134図13	陶器	掃鉢	備前				B65N0.52	
第134図14	青花	皿	中国漳州窯				B65N0.4	
第134図15							B65N0.5	
第134図16	緑褐釉陶器	蓋	中国南部	8.8		4.5	B65N0.13	
第134図17	青花	碗	中国漳州窯				B65N0.45	
第134図18	青花	皿	中国景德鎮	13.2	7.6	2.3	B65N0.25	
第134図19	青花	碗	中国景德鎮				B65N0.40	
第134図20	陶器	盤	中国漳州窯				B65	床土 - 30~40cm
第134図21	瓦質土器	火鉢	国内				B65	検出面
第134図22	青花	皿	中国漳州窯				B65N0.37	淡灰色
第134図23	黒色土器	碗	国内				B65N0.56	内面へら磨きで黒色
第134図24	須恵器	壺	国内	9.0			B65	検出面
第134図25	青磁	碗	中国龍泉窯				B65N0.61	
第134図26	鉄製品	釘	国内	3.9	0.3	2.5 g	B65	床土 - 30~40cm
第134図27	鉄製品	釘	国内	3.0	0.3	5.1 g	B65	検出面
第134図28	鉄製品	釘	国内	3.5	0.2	4.1 g	B65	検出面
第135図1	三彩陶器	器物	中国南部				B65N0.46	
第135図2	古代瓦	丸瓦	国内				B65N0.72	
第135図3	土製	鈴	国内	2.8			B65N0.49	灰黄色
第135図4	土師質	土錘	国内	4.3	2.3	22.3 g	B65N0.59	淡灰白色
第135図5	銅製品	環状	国内		0.2	1.64 g	B65N0.22	
第135図6	銅製品		国内	1.7	0.4	0.59 g	B65N0.28	
第135図7	銅製品		国内	4.0	0.2	0.51 g	B65N0.34	
第135図8	鉄製品	釘	国内	5.4	0.3	9.7 g	B65N0.44	
第135図9	鉄製品	釘	国内	7.9	0.5	24.7 g	B65N0.66	
第135図10	銅製品		国内				B65N0.42	
第135図11	鉄製品	刀子	国内	5.5	0.4	2.9 g	B65N0.	
第135図12			国内					
第135図13			国内					
第135図14			国内					
第135図15			国内					
第135図16	銅製品	秤	国内					
第136図1	京都系土師器	皿	在地	15.5			C64N0.10	橙色
第136図2	青花	碗	中国漳州窯				C64N0.20	
第136図3	青花	皿	中国漳州窯				C64N0.9	
第136図4	陶器	天目碗	瀬戸美濃				C64N0.19	
第136図5	褐釉陶器	瓶	中国		9.0		C64N0.35	
第136図6	瓦質土器	掃鉢	国内				C64N0.12	暗褐色
第136図7	瓦質土器	鍋	国内				C64N0.7	淡橙色
第136図8	瓦質土器	火鉢	国内				C64N0.18	暗灰色
第136図9	陶器	掃鉢	備前				C64N0.39	
第136図10	陶器	掃鉢	備前				C64N0.6	
第136図11	陶器	掃鉢	備前				C64N0.27	
第136図12	石製品	砥石	結晶片岩	12.9	3.6	2.6	C64N0.40	
第136図13	土師質	土錘	国内				C64N0.21	

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第137図14	埴瓦		国内			1.9	C64No.36	
第137図1	白磁	猪口	中国				C64・65	検出面
第137図2	青花	碗	中国景德镇				C64・65	検出面
第137図3	青磁	碗	中国				C64・65	検出面
第137図4	陶器	天目碗	瀬戸美濃				C64・65	検出面
第137図5	褐釉陶器	壺	中国南部				C63	中世道路砂利層
第137図6	瓦質土器	鍋	国内				C64No.	床土-10cm
第137図7	瓦質土器	角火鉢	国内				C64・65	中世道路砂利層
第137図8	鉄製品	釘	国内	1.6	0.5	1.0 g	C64	中世道路砂利層直下
第137図9	鉄製品	釘	国内	3.9	0.5	4.3 g	C64・65	検出面
第137図10	鉄製品	釘	国内	5.0	0.4	6.8 g	C64・65	検出面
第137図11	鉄製品	釘	国内				C64・65	検出面
第137図12	瓦質土器	平瓦	国内				D64	No.4 + 6 + 25
第138図1	京都系土師器	皿	在地	12.5		2.0	D64No.1	褐色
第138図2	京都系土師器	皿	在地	14.6		2.2	D64No.2	褐色
第138図3	京都系土師器	皿	在地	8.9		2.1	D64No.3	褐色
第138図4	京都系土師器	皿	在地	14.8		2.0	D64No.45	褐色
第138図5	京都系土師器	皿	在地	15.7		2.2	D64No.15	褐色
第138図6	京都系土師器	皿	在地	12.6		2.5	D64No.26	褐色
第138図7	京都系土師器	皿	在地	12.4			D64No.27	褐色
第138図8	京都系土師器	皿	在地	11.4		2.2	D64No.30	褐色
第138図9	京都系土師器	皿	在地	13.0		2.2	D64No.50	褐色
第138図10	在地系土師器	皿	在地	8.2		1.3	D64No.13	褐色
第138図11	在地系土師器	皿	在地		10.4		D64	No.11 + 12. 橙色
第138図12	土師器	皿		10.9			D64No.56	褐色
第138図13	青磁	皿	中国		4.5		D64No.45	
第138図14	青磁	碗	中国		6.2		D64No.53	円盤に加工
第138図15	青磁	皿	中国		4.2		D64No.24	
第138図16	土師器		吉備系	11.6	3.2	3.0	D64	No.51 + 52. 14世紀
第138図17	三彩陶器		中国南部				D64No.25	
第138図18	陶器	掃鉢	備前				D64No.54	
第138図19	瓦質土器	鍋	在地				D64No.16	
第138図20	陶器	鉢	備前		10.8		D64No.10	
第138図21	陶器	甕	備前		14.5		D64No.31	
第138図22	陶器	甕	常滑				D64	中世道路砂利層直下
第138図23	瓦質土器	鍋	国内				D64No.23	淡黄灰色。鉄鍋の模倣品
第138図24	在地系土師器	皿	在地				D64No.60	
第138図25	陶器	甕	常滑				D64No.18	
第138図26	石製品		国内	3.2	1.4	10.4 g	D64No.65	
第138図27	瓦質土器	鍋	在地				D64No.63	14世紀中～後
第138図28	瓦質土器	鍋	国内				D64No.21	
第139図1	京都系土師器	皿	在地	8.8		1.8	D64	中世道路下30cm
第139図2	在地系土師器	皿	在地	8.4	6.4	1.3	D64・65	
第139図3	陶器	舟德利	朝鮮	5.7			D64・65	検出面
第139図4	青花	皿	中国				D64・65	
第139図5	青花	皿	中国				D64・65	検出面
第139図6	鉄製品	釘	国内				D64・65	北部下部11.13
第139図7	京都系土師器	皿	在地	15.7		2.9	D63No.32	
第139図8	瓦質土器						D64	淡灰色。下層
第139図9	瓦質土器						D64	検出面
第139図10	瓦質土器						D64	淡灰色。床土-30cm
第139図11	瓦質土器						D64・65	淡灰色
第139図12	陶器	甕	常滑				D64・65	下層12.12
第139図13	瓦質土器	火鉢	在地				D64・65	10.24
第139図14	陶器	甕	備前				D64・65	
第139図15	白磁	皿	中国				D64	検出面
第139図16	瓦質土器	鍋	在地	26.6			D64・65	淡灰色。暗橙色整地層
第139図17	瓦質土器	鍋	在地	23.0			D64・65	暗茶褐色。暗橙色整地層
第139図18	石製品	砥石	天草砂岩	4.3	3.6	64.0 g	D64	中世道路直下
第140図1	京都系土師器	皿	在地	13.4		2.2	C65No.18	
第140図2	京都系土師器	皿	在地	12.8		2.5	C65No.4	
第140図3	白磁	小碗	中国	7.6			C65No.5	
第140図4	青磁	碗	中国		5.7		C65No.1	
第140図5	瓦質土器	火鉢	在地		25.2		C65No.10	
第140図6	瓦質土器	火鉢	在地				C65No.2	
第140図7	瓦質土器	掃鉢	国内				C65No.15	

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第140図8	石製品	砥石	天草砂岩	5.9	4.1	3.3	C65No.20	
第140図9	陶器	搦鉢	備前	31.3			C65No.12	
第140図10	白磁	碗	中国		7.6		C65	中世道路直下
第140図11	青磁	皿	中国		5.0		C65	中世道路直下
第140図12	白磁	皿	中国				C64・65	東部
第140図13	瓦質土器	こね鉢	国内				C65	暗褐色整地層
第140図14	鉄製品	釘	国内	4.5	0.5	6.6 g	C65	中世道路直上
第140図15	鉄製品	釘	国内	5.9	0.6	20.9 g	C65	中世道路直下
第140図16	鉄製品	釘	国内	6.1	0.4	3.9 g	C65	中世道路下15cm
第140図17	石製品	砥石	砂岩				C65	中世道路下15cm
第141図1	京都系土師器	皿	在地	12.9		2.1	D65No.21	
第141図2	京都系土師器	皿	在地	12.9		2.0	D65No.22	
第141図3	京都系土師器	皿	在地	8.4		2.2	D65No.36	油煤付着
第141図4	京都系土師器	皿	在地	11.4			D65No.43	
第141図5	京都系土師器	皿	在地				D65No.39	
第141図6	在地系土師器	皿	在地		5.8		D65No.23	
第141図7	在地系土師器	皿	在地		5.6		D65No.40	金色の雲母
第141図8	在地系土師器	皿	在地		7.5		D65No.110	
第141図9	陶器	壺	備前	9.3		6.5	D65No.34	
第141図10	白磁	皿	中国	13.0	7.5	2.3	D65No.31	
第141図11	青花	碗	中国景德鎮		4.6		D65No.41	
第141図12	青花	皿	中国景德鎮		3.4		D65No.45	
第141図13	白磁	碗	中国		5.9		D65No.47	D64中世道路砂利層も。砂目積み
第141図14	瓦質土器	こね鉢	国内				D65No.12	
第141図15	瓦質土器	こね鉢	東播系				D65No.51	
第141図16	瓦質土器	風炉	在地				D65No.46	
第141図17	瓦質土器	火鉢	在地				D65No.38	
第141図18	瓦質土器	鉢	在地				D65No.110	
第141図19	弥生土器	甕	在地		5.8		D65No.27	
第141図20	弥生土器	高坏	在地				D65No.33	
第141図21	瓦質土器	搦鉢	国内	16.0			D65	
第141図22	瓦質土器	火鉢	在地	39.2			D65No.28	
第141図23	銅製品		国内	2.3	0.3	2.4 g	D65No.37	
第142図1	京都系土師器	皿		17.4			D65	
第142図2	褐釉陶器	壺	中国	10.6			D65	中世道路下30cm
第142図3	鉄製品	釘	国内	6.5	0.3	15.6 g	D65	床土-6cm
第142図4	青花	皿	中国				D65	南西部
第142図5	陶器	舟德利	朝鮮				D65	D64中世道路砂利層
第142図6	白磁	皿	中国				D65	床土-60cm
第142図7	石製品	石鍋	長崎				D65	中世道路下30cm
第142図8	土師器		在地		4.6		D65	床土-60cm
第142図9	ガラス	玉		0.9	0.7	0.62 g	D65	三回目検出面12.3
第142図10	京都系土師器	皿	在地	11.2		2.0	E64No.1	
第142図11	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.5	E64No.18	
第142図12	京都系土師器	皿	在地	13.0		2.0	E64No.35	
第142図13	京都系土師器	皿	在地	8.4		2.0	E64No.20	内面半分油煤付着。完全品
第142図14	在地系土師器	皿	在地	14.4	9.0	3.5	E64No.4	
第142図15	在地系土師器	皿	在地	13.6	9.0	3.6	E64No.12	
第142図16	在地系土師器	皿	在地	13.4	9.2	3.1	E64No.18	
第142図17	在地系土師器	皿	在地	12.6	8.1	3.4	E64No.10	
第142図18	在地系土師器	小皿	在地	11.8	8.1	4.2	E64No.6	
第142図19	在地系土師器	皿	在地	8.2	6.8	1.3	E64No.15	
第142図20	在地系土師器	皿	在地	8.2	7.0	1.1	E64No.17	
第142図21	京都系土師器	耳皿	在地	6.5		2.1	E64・65	検出面
第142図22	青花	碗	中国				E64・65	検出面
第142図23	白磁	皿	中国	11.6	5.4	2.6	E64・65	検出面
第142図24	鉄製品	釘	国内	3.7	0.3	3.9 g	E64	検出面
第142図25	鉄製品	釘	国内	5.6	0.3	4.2 g	E64・65	検出面
第142図26	鉄製品	釘	国内	2.9	0.4	3.4 g	E64・65	検出面
第142図27	鉄製品	釘	国内	5.8	0.3	14.6 g	E64	地山直上
第142図28	石製品	砥石	天草砂岩	3.6	2.8	1.4	E64・65	25.4 g。検出面
第143図1	土師器	燭台	在地		6.6	5.5	E65No.11	
第143図2	瓦	丸瓦加工	在地	7.9	8.5	3.2	E65No.5	180.4 g
第143図3	石製品	砥石	結晶片岩	10.7	6.5	2.2	E65No.13	255.5 g
第143図4	鉄製品	釘	在地	6.4	0.2	6.6 g	E65	二回目検出面
第143図5	瓦質土器	鍋	在地	27.6			E63No.3	にぶい橙色。14世紀

挿図No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	
			口径	底径	器高			
第143図6	在地系土師器	皿	在地	9.4	5.2	1.4	F64No.4	
第143図7	陶器	皿	中国南部		5.2		F64No.2	蛇の目軸剥ぎ
第143図8	青磁	皿	中国龍泉窯	20.0			F64No.8	
第143図9	瓦質土器	鉢	在地				F64・65	検出面
第143図10	瓦質土器	鉢	在地				F64・65	にぶい橙色。検出面
第143図11	鉄製品	釘	在地	12.0	0.3	24.6 g	F64	
第144図1	白磁	碗	中国				F65No.6	
第144図2	土師質	土鉢	在地	3.3	1.1	4.3 g	F65No.4	
第144図3	弥生土器	甕	在地		0.7		F65No.10	
第144図4	ガラス	玉		0.4	0.3	0.007 g	F65No.7	緑色
第144図5	瓦	丸瓦	国内	13.5	12.0	4.3 g	F65No.8	
第144図6	瓦	丸瓦	国内	16.0	12.0	2.0	F65No.11	
第145図1	染付け	筒型碗	肥前					2層
第145図2	白磁	皿	朝鮮		6.2			2層
第145図3	青花	碗	中国漳州窯					2層
第145図4	青磁	碗	中国龍泉窯	13.2				2層
第145図5	白磁	蓋						2層
第145図6	陶器	天目碗	瀬戸美濃					2層
第145図7	瓦質土器	火鉢	在地					2層
第145図8	鉄製品	刀子	在地	5.4	1.4	18.2 g		2層
第145図9	鉄製品	刀子	在地	4.3	0.7	7.4 g		2層
第145図10	鉄製品	釘	在地	5.4	0.3	5.7 g		2層
第145図11	鉄製品		在地					2層
第145図12	鉄製品		在地					一回目遺構検出面
第145図13	銅製品							2層
第145図14	鉄製品	釘	在地	2.9	0.4	5.3 g		2層
第146図1	青花	皿	中国漳州窯					2層
第146図2	青花	皿	中国					中世層下部
第146図3	青花	碗	中国					1層
第146図4	青花	皿	中国					中世層下部
第146図5	青花	碗	中国景德镇					中世層上部
第146図6	青磁	皿	中国					5層
第146図7	陶器	掃鉢					SP1035	
第146図8		掃鉢						
第146図9	瓦質土器	火鉢					1 4 土手	4層
第146図10	瓦質土器	火鉢					1 6 土手	8層
第146図11	陶器	掃鉢	備前				北トレ	4・2層
第146図12	陶器	おろし皿	瀬戸美濃				1 7 T	
第146図13	石製品	石鍋	長崎			56.8 g		
第146図14	石製品	硯	赤間石	7.1	5.3	1.5	1 4 土手	2 2層。29.1 g
第146図15	瓦質土器	鍋の脚						金色の雲母
第146図16	石製品	砥石	天草砂岩	7.4	1.9	0.8	1 5 T	六面使用。28.2 g
第146図17	瓦	平瓦加工	在地	4.3	3.4	27.2 g	1 6 土手	3層
第146図18	土師質	仏像	国内				トレンチ	中世道路砂利下層
第146図19	土師質	土鉢	在地	5.4	1.2	8.3 g	5 T	1層
第146図20	土師器	高坏	在地				試掘 1 T	
第146図21	弥生土器	壺	在地					
第146図22	ガラス	玉					1 2 土手	3層
第146図23	銭貨	洪武通宝	明1368年	2.3		1.6 g	SK10周辺	
第147図1	京都系土師器	皿	在地	12.7		2.6	D65	中世道路砂利層
第147図2	青花	碗	中国景德镇				C65	中世道路砂利層
第147図3	白磁	碗	中国		6.0		C65	中世道路砂利層
第147図4	白磁	皿	中国		8.2		D65	中世道路砂利層
第147図5	青磁	皿	中国龍泉窯				D65	中世道路砂利層
第147図6	灰釉陶器	壺					C65	砂目。中世道路砂利層
第147図7	陶器	皿	唐津系				D65	中世道路砂利層
第147図8	青磁	瓶	中国龍泉窯				D65	中世道路砂利層
第147図9	陶器	掃鉢	備前				D65	中世道路砂利層
第147図10	陶器		備前				D65	中世道路砂利層
第147図11	瓦	平瓦加工	在地	5.5	4.9	1.9	C65	56.6 g。中世道路砂利層
第147図12	石製品	火打ち石	石英	4.0	2.7	29.5 g	C65	中世道路砂利層
第148図1	華南三彩	鳥形水注	中国南部					
第148図2	瓦質土器	火鉢	国内					
第148図3	銅製品	分銅	国内					
第149図1	開元通宝	621年	唐	2.4cm	1.8 g		B64	発掘日042117
第149図2	開元通宝	621年	唐	2.4cm	2.7 g		B64No. 4 3	発掘日031219

挿図No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
			口径	底径	器高		
第149図3	開元通宝	621年	唐	2.4cm	2.0g		裏込め(掘り方)発掘日040224
第149図4	淳化元宝	990年	北宋	2.5cm	2.4g		F64No.6
第149図5	至道元宝	995年	北宋	2.2cm	1.4g		Y65
第149図6	祥符元宝	1009年	北宋	2.4cm	2.3g		Z64No.53
第149図7	祥符-宝	1009年	北宋	2.5cm	1.5g		Z64No.43
第149図8	祥符元宝	1009年	北宋	2.5cm	2.0g		B65No.7
第149図9	祥符通宝	1009年	北宋	2.5cm	2.3g		F65No.3
第149図10	祥符元宝	1009年	北宋	2.5cm	3.0g		F65包含層
第149図11	祥符通宝	1009年	北宋	2.5cm	2.2g		B65No.55
第149図12	祥符元宝?	1009年	北宋	2.4cm	2.3g		SK22No.1
第149図13	天禧通宝	1017年	北宋	2.5cm	1.3g		Y64No.9
第149図14	景祐元宝?	1034年	北宋	2.5cm	2.2g		B64No.27
第149図15	皇宋通宝	1038年	北宋	2.4cm	1.5g		A65No.8
第149図16	皇宋通宝	1038年	北宋	2.4cm	1.5g		SK49南壁
第149図17	嘉祐通宝	1056年	北宋	2.4cm	0.5g		B64No.41
第149図18	治平元宝	1064年	北宋	2.3cm	1.3g		A65No.10
第149図19	治平元宝	1064年	北宋	2.4cm	1.6g		A65No.3
第149図20	治平元宝	1064年	北宋	2.4cm	3.0g		B65No.23
第149図21	熙寧元宝	1068年	北宋	2.4cm	2.5g		B65No.15
第150図22	熙寧元宝?	1068年	北宋	2.4cm	2.5g		F65No.3
第150図23	熙寧元宝?	1068年	北宋	2.4cm	2.0g		SK4
第150図24	熙寧元宝	1068年	北宋	2.4cm	3.4g		Z64No.6
第150図25	熙寧元宝?	1068年	北宋	2.4cm	1.9g		SK69
第150図26	熙寧元宝?	1068年	北宋	2.3cm	3.0g		SP1010
第150図27	熙寧元宝	1068年	北宋	2.3cm	1.2g		SK22No.2
第150図28	熙寧元宝?	1068年	北宋	2.4cm	1.1g		SE24掘方
第150図29	元豊通宝	1078年	北宋	2.5cm	2.9g		Z64No.45
第150図30	元-通宝		北宋	2.5cm	1.7g		Z64No.7
第150図31	元豊通宝?	1078年	北宋	2.4cm	2.3g		B65No.11
第150図32	元豊通宝	1078年	北宋	2.5cm	3.2g		A64No.63
第150図33	元豊通宝?	1078年	北宋	2.5cm	2.5g		D64No.64
第150図34	元豊通宝?	1078年	北宋	2.5cm	2.3g		D64No.61
第150図35	元豊通宝?	1078年	北宋	2.5cm	2.0g		C64No.4
第150図36	元豊通宝?	1078年	北宋	2.4cm	1.1g		B65No.32
第150図37	元豊通宝	1078年	北宋	2.4cm	1.9g		北トレ5
第150図38	元祐通宝	1086年	北宋	2.4cm	3.0g		SK4No.18
第150図39	元祐通宝	1086年	北宋	2.4cm	3.3g		SK4No.18
第150図40	元祐通宝	1086年	北宋	2.4cm	3.2g		SK81
第150図41	元祐通宝	1086年	北宋	2.4cm	2.1g		A64No.10
第150図42	元祐通-	1086年	北宋	2.4cm	0.7g		A65No.4
第151図43	元祐通宝?	1086年	北宋	2.5cm	2.1g		B64No.79
第151図44	元祐通宝	1086年	北宋	2.4cm	2.1g		Z64No.24
第151図45	紹聖元宝	1094年	北宋	2.4cm	1.0g		Z64No.9
第151図46	紹聖元宝	1094年	北宋	2.4cm	1.8g		A64No.23
第151図47	紹聖元宝	1094年	北宋	2.4cm	1.8g		Y64No.16
第151図48	紹聖元宝	1094年	北宋	2.4cm	3.0g		5トレ2層
第151図49	紹聖元宝	1094年	北宋	2.4cm	10.3g		発掘日040122二枚
第151図50	聖宋元宝	1101年	北宋	2.4cm	1.7g		B64No.45
第151図51	大觀通宝	1107年	北宋	2.5cm	1.1g		A65No.11
第151図52	政和通宝	1111年	北宋	2.4cm	4.7g		SE10掘方
第151図53	大宋元宝	1225年	北宋	2.5cm	2.1g		SE24
第151図54	洪武通宝	1368年	明	2.1cm	1.7g		B65No.10
第151図55	洪武通宝	1368年	明	2.3cm	2.6g		SK4No.18
第151図56	洪武通宝	1368年	明	2.3cm	2.7g		SK4No.18
第151図57	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	3.5g		SK4No.18
第151図58	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	2.2g		SK4No.18
第151図59	洪武通宝	1368年	明	2.3cm	2.8g		SK4No.18
第151図60	洪武通宝	1368年	明	2.3cm	2.2g		SK4No.18
第151図61	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	2.4g		SK4No.18
第152図62	洪武通宝	1368年	明	2.3cm	2.5g		SK4No.18
第152図63	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	2.1g		SK4No.18
第152図64	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	2.9g		SK4No.18
第152図65	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	2.0g		SK4No.18
第152図66	洪武通宝	1368年	明	2.3cm	2.5g		SK4No.18
第152図67	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	3.0g		SK4No.18
第152図68	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	2.5g		SK4No.18

押図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第152図69	洪武通宝	1368年	明	2.2cm	2.2g		SK4No.18	
第152図70	洪武通宝	1368年	明	2.4cm	1.4g		Z64No.67	発掘日040203
第152図71	永楽通宝	1408年	明	2.5cm	1.6g		B65No.54	発掘日040122
第152図72	永楽通宝	1408年	明	2.4cm	1.2g		SP1042	発掘日040217
第152図73	宣徳通宝	1433年	明	2.5cm	2.8g		北トレ1層	発掘日031022
第152図74	寛永通宝	1636年	日本	2.3cm	1.7g		SK23	発掘日031124
第152図75	□□元宝			2.3cm	2.1g		SK22No.1	
第152図76				2.3cm	2.5g		SE24	
第152図77				2.5cm	1.8g		SK49No.1	発掘日040216
第152図78				2.4cm	0.8g		SK26	
第152図79				2.4cm	1.7g		SP1011	発掘日031224
第152図80				2.2cm	1.8g		SK51	
第152図81				2.5cm	2.1g		北トレ5	No.7
第152図82				2.3cm	1.5g		北トレ7	No.2
第153図83				2.1cm	0.9g		Y65	発掘日040203
第153図84				2.1cm	2.0g		Y64No.32	発掘日040122
第153図85				2.5cm	1.8g		Z64No.6	発掘日031121
第153図86				2.4cm	1.3g		Z64No.53	発掘日031121
第153図87				2.3cm	0.8g		B65No.31	発掘日031219
第153図88				2.4cm	1.6g		B65No.60	発掘日040127
第153図89				2.5cm	2.0g		C64No.5	発掘日031107
第153図90				2.3cm	2.4g		C65道路砂利層	
第153図91				2.3cm	2.1g		SK4No.18	
第153図92				2.4cm	1.6g		SK44	発掘日040209
第153図93				2.4cm	1.2g		SP1023	
第153図94				2.4cm	1.2g		A65	発掘日040210
第153図95				2.3cm	1.7g		A64No.50	発掘日031217
第153図96				2.3cm	2.1g		B64No.33	発掘日031219
第153図97				2.5cm	1.9g		B64No.80	発掘日031219
第153図98				2.4cm	1.3g		B64No.60	発掘日040122
第153図99				2.4cm	0.9g		B64No.81	発掘日040130
第153図100				2.5cm	1.0g		B65No.62	発掘日040130
第153図101				2.4cm	11.9g		B65No.62	発掘日040130 四枚重ね
第153図102	大□□□			2.4cm	16.7g		B65No.62	発掘日040130 四枚
第153図103				2.4cm	8.3g		D64No.58	発掘日040212 三枚

第3章 中世大友府内町跡第55次調査区

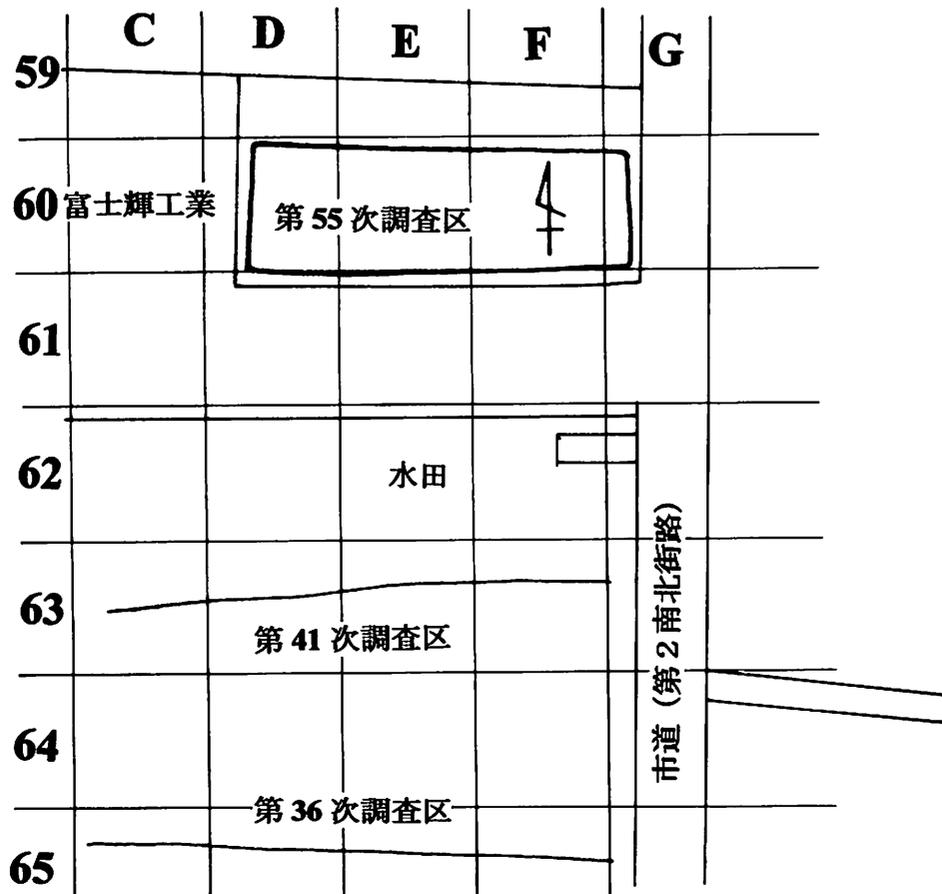
第1節 遺構の概要と基本層序

本調査区は大分市六坊北町に所在し、第36次調査区とは30mを隔てた北側に位置する。東側に接して大友氏館跡前を南北に通る第二南北街路がある。

遺構 調査面積は約320㎡で、2005年5月9日から10月20日の期間に本調査を実施した結果、16世紀代を中心に、一部14世紀以降の遺構を検出した。調査前の現地の状態は民間事業所用地として水田面の上に1m以上盛土されていた。調査では盛土およびその下の旧表土を重機で除去し、中世遺物を含む水田床土面で止め、以下を人力による掘り下げに切り替えた。

床土下で最初に検出したのは幅20cm前後の溝状遺構群である。これらは調査区全体の東部1/5では南北方向に走り、これに一部重複する形で、残り部分に東西方向の溝状遺構群を検出した。性格・用途は江戸時代の耕作に関連するものと考えられる。16世紀代の遺構としては掘立柱建物跡・長方形竪穴・土坑・板石組み六角井戸等があり、遺構数が増加する段階である。最下層は14世紀の溝状遺構である。遺構数は少ない。

層序 調査区西壁（第2図）、北壁（第3図下二段）、南壁（同上二段）で示す。遺構検出面の標高は約5.5mから4.9mまでである。水田床土の酸化して硬い層には、近世以降の耕作痕である細い溝状の掘込みがあると共に、中世末期の焼土粒が混入している。



第1図 第55次調査区地形図

第55次調査区遺構一覧表

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項
SD1	S1	溝	G区	近世	
SP2	S2	柱穴			
SD3	S3	溝	D区	近世	
SD4	S4	溝	E区	近世	
SD5	S5	溝	D区	近世	
SD6	S6	溝	D区	近世	
SD7	S7	溝	D区	近世	
SD8	S8	溝	D区	近世	
SD9	S9	溝	D区	近世	
SD10	S10	溝	D区	近世	
SD11	S11	溝	E区	近世	
SD12	S12	溝	D区	近世	
SD13	S13	溝	E区	近世	
SD14	S14	溝	E区	近世	
SD15	S15	溝	E区	近世	
SD16	S16	溝	E区	近世	
SD17	S17	溝	E区	近世	
SD18	S18	溝	D区	近世	
SD19	S19	溝	D区	近世	
SD20	S20	溝	D区	近世	
SD21	S21	溝	D区	近世	
SD22	S22	溝	D区	近世	
SD23	S23	溝	E区	近世	
SD24	S24	溝	E区	近世	
SP25	S25	柱穴	F区	近世	
SK26	S26	土坑	F区	近世	
SK27	S27	土坑	F区	近世	
SD28	S28	溝	F区	近世	
SD29	S29	溝	F区	近世	
SK30	S30	土坑	F区	近世	
SD31	S31	溝	F区	近世	
SD32	S32	溝	F区	近世	
SD33	S33	溝	F区	近世	
SD34	S34	溝	F区	近世	
SD35	S35	溝	F区	近世	
SD36	S36	溝	F区	近世	
SK37	S37	土坑	G区	近世	
SD38	S38	溝	F区	近世	
SD39	S39	溝	F区	近世	
	S45			16世紀末葉以降	
SX46	S46		D区	16世紀末葉以降	鉄碎
SD47	S47	溝	F区		
SD48	S48	溝	F区		
SD49	S49	溝	F区		
SD50	S50	溝	F区		
SD51	S51	溝		16世紀末葉以降	備前焼播鉢
SK52	S52	土坑		16世紀末葉以降	
SD53	S53	溝	F区	16世紀中葉～後葉	瑠璃釉陶器皿
SP56	S56	柱穴	F区	16世紀末葉以降	
SP57	S57	柱穴	F区		
SP58	S58	柱穴	F区		
SP59	S59	柱穴	F区		
SP60	S60	柱穴	F区		
SP61	S61	柱穴	F区		
SP62	S62	柱穴	F区	16世紀末葉以降	
SP63	S63	柱穴	F区		
SP64	S64	柱穴	F区		
SP65	S65	柱穴	F区		
SP66	S66	柱穴	F区		
SP67	S67	柱穴	F区	16世紀末葉以降	
SP68	S68	柱穴			
SK69	S69	土坑	E区	16世紀中葉～後葉	
SP70	S70	柱穴	F区		
SP71	S71	柱穴	F区		
SP72	S72	柱穴	F区		

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項
SP73	S73	柱穴	G区		
SP74	S74	柱穴	F区		
SP75	S75	柱穴	F区		
SK76	S76	土坑		16世紀末葉以降	
SK80	S80	土坑	E区	16世紀中葉～後葉	
SE85	S85	井戸	F区	14世紀中葉～後葉	常滑焼・須恵質土器・土師器
SD92	S92	溝		16世紀末葉以降	遺物なし
SK96	S96	土坑	D区	16世紀末葉以降	焼締陶器・備前焼水指・砥石
SX99	S99			16世紀末葉以降	京都系土師器・備前焼捕鉢
SE104	S104	井戸	D区	15世紀末～16世紀初頭	石鍋・朝鮮舟徳利
SK105	S105	土坑	D区	16世紀末葉以降	京都系土師器・漳州窯青花
SK106	S106	土坑	D区	16世紀末葉以降	遺物なし
SK107	S107	土坑	E区	16世紀末葉以降	
SP108	S108	柱穴	E区		
SP109	S109	柱穴	E区		
SP110	S110	柱穴	E区		
SP111	S111	柱穴	E区		
SK113	S113		E区	16世紀末葉以降	遺物なし
SP114	S114	柱穴	E区		
SP115	S115	柱穴	E区		
SP119	S119	柱穴	F区		
SD120	S120	溝		16世紀末葉以降	景徳鎮窯青花・鉄釘
SP125	S125	柱穴			
SD127	S127	溝	E区	15世紀末～16世紀初頭	在地系土師器・鉄釘
SK129	S129	土坑	D区	16世紀中葉～後葉	遺物なし
SK130	S130	土坑	E区	16世紀前葉～中葉	京都系土師器
SP131	S131	柱穴	D区		
SP132	S132	柱穴	D区		
SP133	S133	柱穴	D区		
SP134	S134	柱穴	D区		
SK139	S139	土坑	E区	16世紀中葉～後葉	京都系と在地系土師器・青磁・鉄製品
SK140	S140	土坑	E区	16世紀中葉～後葉	
SK141	S141	土坑	E区	16世紀末葉以降	銭貨
SP143	S143	柱穴	E区		
SK144	S144	土坑	F区	16世紀中葉～後葉	遺物なし
	S145				
SK148	S148	土坑	E区	15世紀末～16世紀初頭	在地系土師器
SP151	S151	柱穴	F区		
SP152	S152	柱穴	F区		
SP153	S153	柱穴	F区		
SP155	S155	柱穴	F区		
SK157	S157	土坑	D区	15世紀末～16世紀初頭	
SP158	S158	柱穴	F区		
SP159	S159	柱穴	F区		
SP160	S160	柱穴	F区		
SP161	S161	柱穴	F区		
SP162	S162	柱穴	F区		
SK164	S164	土坑	E区	16世紀中葉～後葉	京都系土師器・鏡
SP165	S165	柱穴	E区		
SP166	S166	柱穴	E区		
SP167	S167	柱穴	E区		
SP168	S168	柱穴	E区		
SP169	S169	柱穴	F区	16世紀中葉～後葉	遺物なし
SP172	S172	柱穴	E区		
SK174	S174	土坑	D区		
SP175	S175	柱穴	D区		
SK176	S176	土坑	D区		
SP177	S177	柱穴	E区		
SP183	S183	柱穴	F区		
SE186	S186	井戸	F区	14世紀中葉～後葉	軒先丸瓦
SK188	S188	土坑	E区	15世紀後葉	SK201と同じ。土師器・瓦質鍋
SP189	S189	柱穴	E区		
SP190	S190	柱穴			
SD191	S191	溝	F区	16世紀中葉～後葉	京都系土師器
SP192	S192	柱穴	F区		
SP193	S193	柱穴	F区		

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の 性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項
SP194	S194	柱穴	F区		
SP195	S195	柱穴	F区		
SP196	S196	柱穴	F区		
SP197	S197	柱穴	E区		
SP198	S198	柱穴	E区		
SD200	S200	溝	D区	16世紀前葉～中葉	京都系と在地系土師器
SP201	S201	柱穴		14世紀以前	古代の平瓦
SP202	S202	柱穴	E区		
SP203	S203	柱穴	E区		
SP204	S204	柱穴	F区		
SP205	S205	柱穴	F区		
SP205	S206	柱穴	F区		
SP205	S206	柱穴	F区		
SD209	S209	溝	E区		SD53と同じ
SK210	S210	土坑	E区		
SP211	S211	柱穴	E区		
SP212	S212	柱穴	F区		
SP213	S213	柱穴	D区		
SK214	S214	土坑	D区		
SP215	S215	柱穴	D区		
SP216	S216	柱穴	F区		
SP217	S217	柱穴	F区		
SP218	S218	柱穴	F区	14世紀以前	須恵器・高杯
SP219	S219	柱穴	F区		
SP220	S220	柱穴	F区		
SP221	S221	柱穴	F区		
SP222	S222	柱穴	F区		
SK223	S223	土坑	E区	15世紀後葉	瓦質鉢
SK224	S224	土坑	F区		
SK225	S225	土坑	F区	15世紀後葉	亀山系甕
SK227	S227	土坑	F区		
SK228	S228	土坑	D区		
SK229	S229	土坑	D区	14世紀前葉	土師器
SK230	S230	土坑	E区	14世紀末～15世紀前葉	SK248と同じ。青磁・鉄釘
SK231	S231	土坑	E区		
SP232	S232	柱穴	F区	14世紀以前	鎬蓮弁紋青磁
SP234	S234	柱穴	F区		
SP235	S235	柱穴	F区	14世紀中葉～後葉	土師器
SP237	S237	柱穴	D区		
SP238	S238	柱穴	D区		
SK239	S239	土坑	D区		
SK240	S240	土坑	D区	14世紀末～15世紀前葉	
SP241	S241	柱穴	E区		
SP242	S242	柱穴	E区		
SK245	S245	土坑	E区	15世紀後葉	板状圧痕土師器
SK246	S246	土坑	E区	15世紀後葉	亀山系甕
SK247	S247	土坑	E区		
SK249	S249	土坑	D区	14世紀末～15世紀前葉	
SK250	S250	土坑	E区		
SP251	S251	柱穴	E区		
SP257	S257	柱穴	D区	16世紀前葉～中葉	京都系と在地系土師器
SK258	S258	土坑	E区	15世紀後葉	火打鉄
SK259	S259	土坑	E区	15世紀後葉	遺物なし
SD260	S260	溝	E区	14世紀前葉	板状圧痕土師器
SK261	S261	土坑	D区	14世紀前葉	遺物なし
SP262	S262	柱穴	F区		
SD263	S263	溝	F区	14世紀末～15世紀前葉	
SK264	S264	土坑	F区		
SP265	S265	柱穴	D区	14世紀中葉～後葉	板状圧痕土師器
SD267	S267	溝	E区	14世紀前葉	遺物なし
SE268	S268	土坑	E区		碟1点
SP269	S269	柱穴	E区		
SP270	S270	柱穴	E区		
SP271	S271	柱穴	E区		
SP273	S272	柱穴	E区		
SP273	S273	柱穴	D区		

第2節 近世以降の遺構と遺物

水田床土に幅 20cm 前後の溝状遺構が多数残っていた。調査区東端に一条南北に走るものは水田に水を導く溝である。埋土から近代の型紙刷り染付片が出ている。調査区北西部と東部には東西方向の溝が多い。また、東部と西部に数条の南北溝がある。すべて近世以降の溝であるが、中世の遺物が埋土中から出土した（第4・5図）。

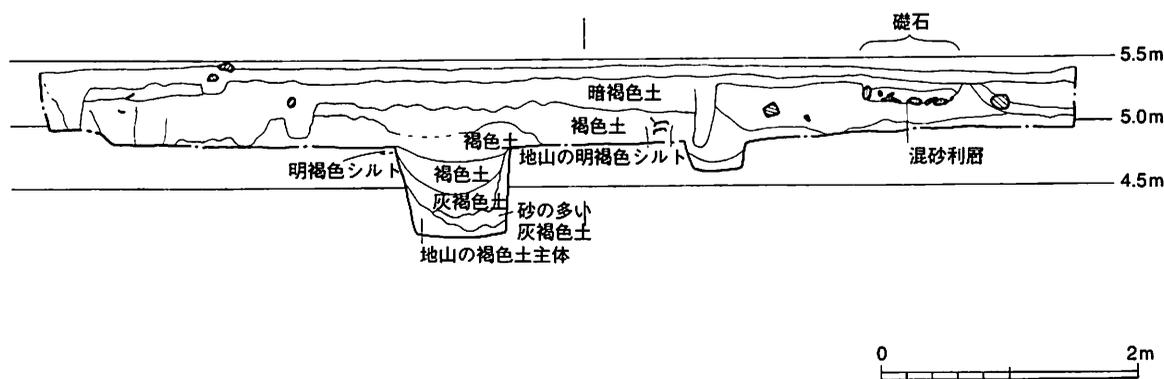
第3節 中世の遺構と遺物

近世以降の水田床土下位から厚さ約 0.6 m に渡り中世の遺構検出面が重複して存在した。第6図には 15 世紀末から 16 世紀末までの遺構配置状況と礫（黒）・主な遺物の分布状況を示している。柱穴多数も検出したが、細かな時期を特定できなかった。遺構をすべて一枚に図示しているが、現実には遺構検出面には高低差があり、同一面でないことを念のため付記しておく。

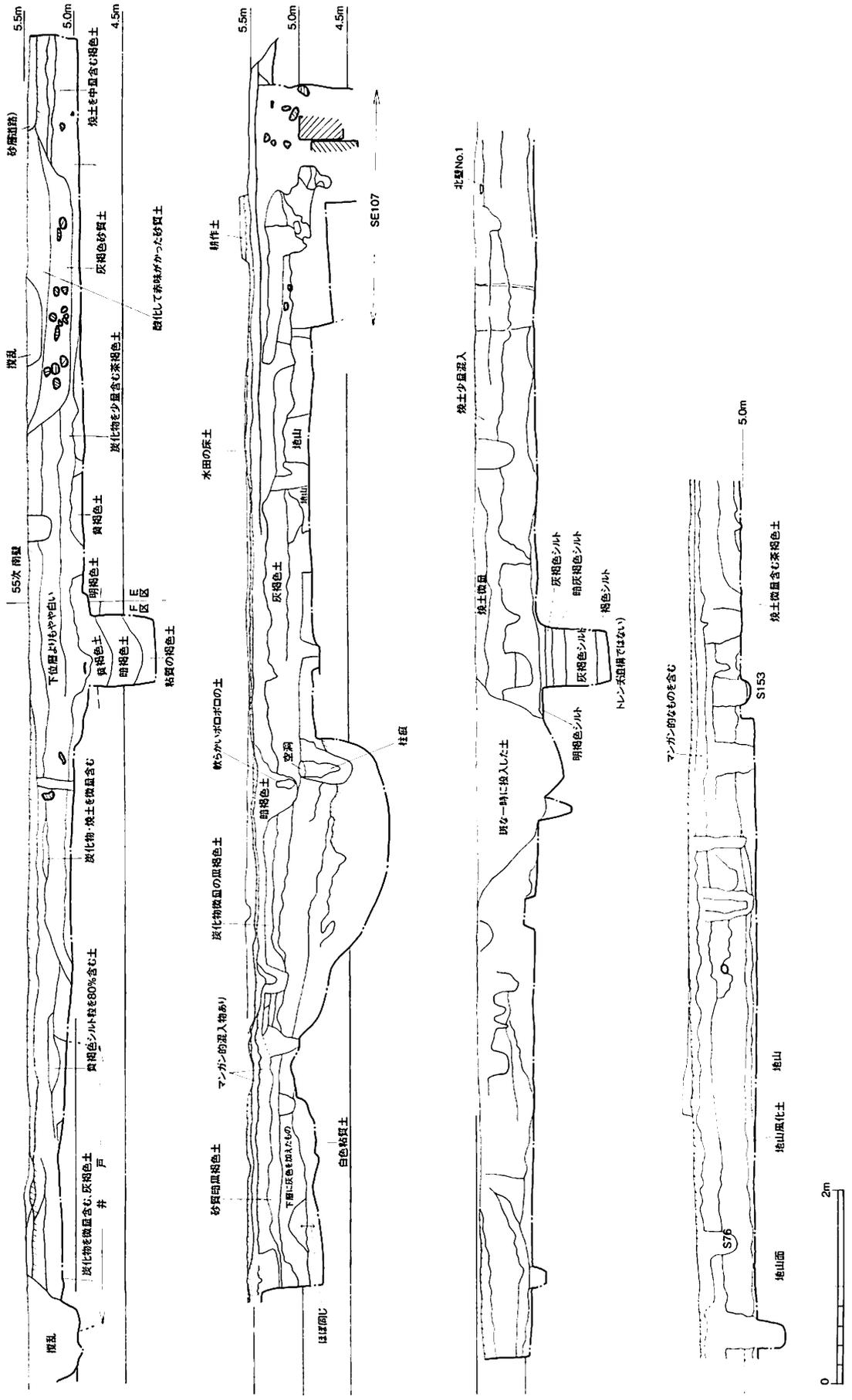
○ 16 世紀末葉以降の遺構と遺物

概要 京都系土師器 3 期の時期である。遺構は調査区東部の浅い窪み（SD51）、・石組六角形井戸（SE107）の他にゴミ穴・柱穴等を確認できた。中世最上部検出面には東部に焼土の入った柱穴（SP2・70～73）がいくつかあったが、建物を復元することはできない。E 区の南部には砂の分布する部分があった。土坑 SK140 をその場所の下位で検出した。

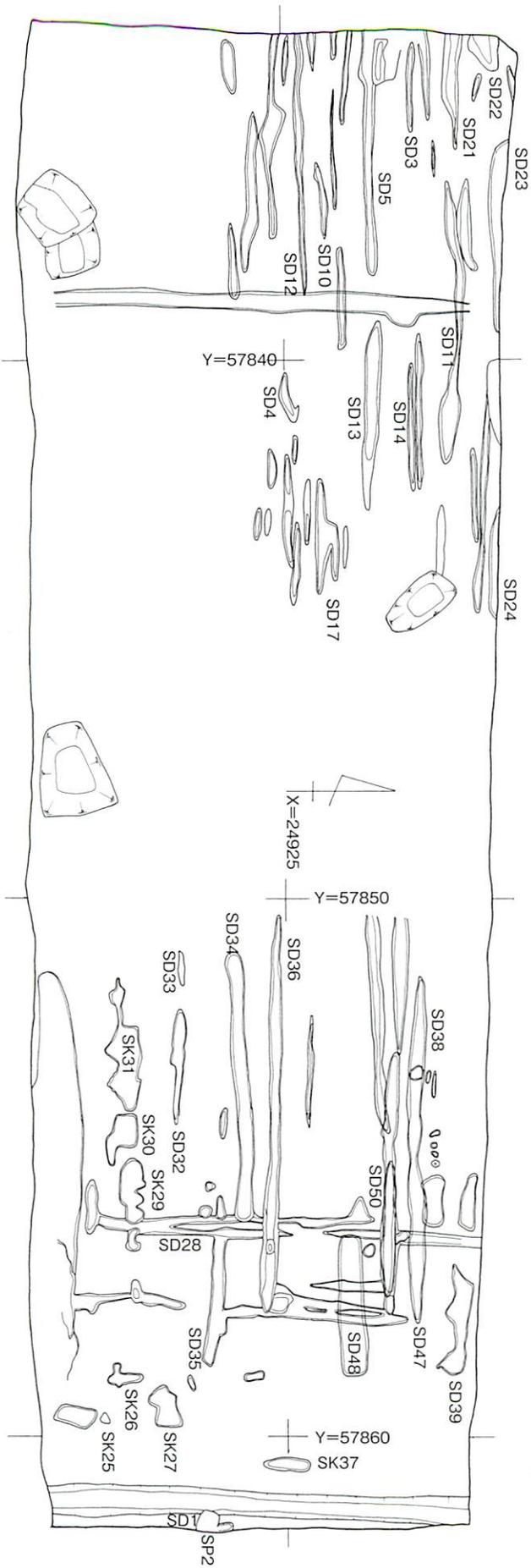
SD51（第7図） F 区を南北に走る幅 2.2 m、深さ 15cm の浅い窪みとして検出した。埋土の西部に礫が多く、これらは西側から捨てられたとみられる。焼土の入った柱穴はこの遺構上面で確認できた。



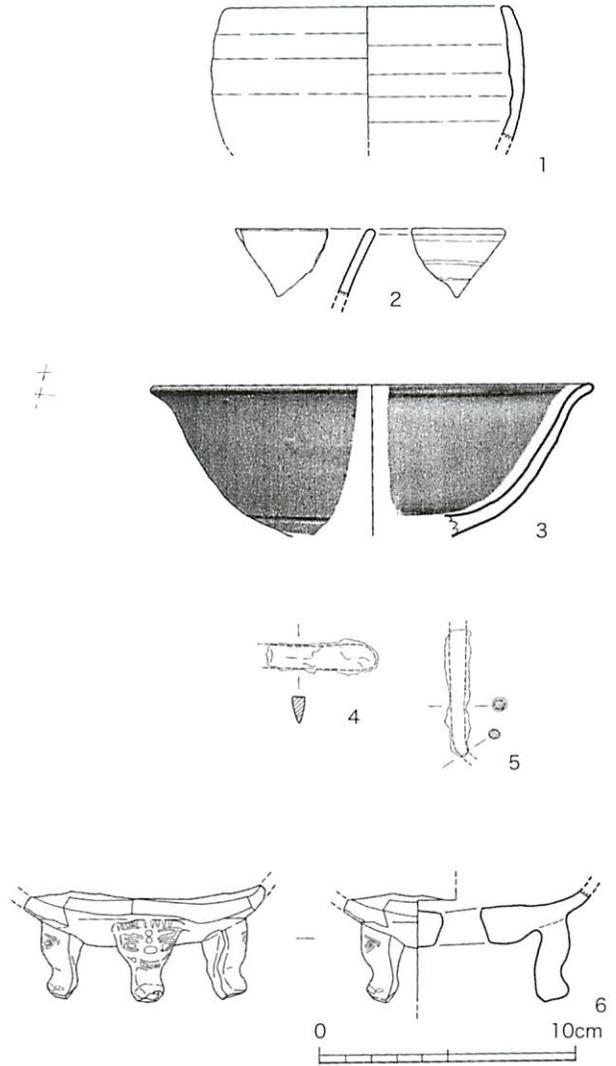
第2図 55次調査区西壁実測図（1/60）



第3図 調査区南・北壁図



第4図 近世耕作痕

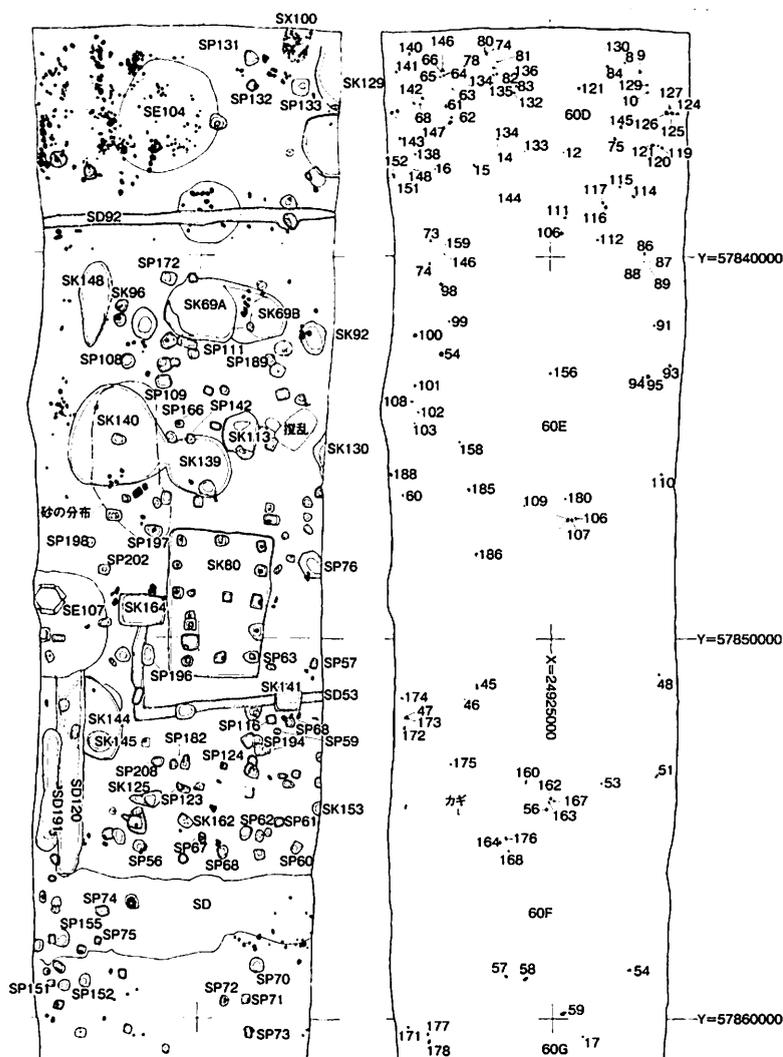


第5図 近世遺構出土遺物

出土遺物 (第8・9図) 第8図の2のような14世紀等これ以前に遡る遺物が多いが、最上層で検出したことと、第8図5・6の京都系土師器3期や備前焼播鉢(12)の存在から16世紀末葉以降に比定する。古い遺物は下位の井戸他から混入したと考える。9は中国龍泉窯青磁碗C類。第9図1は12世紀の土鍋である。

SD92 (第4・6図) 近世以降の溝状遺構を調査した後、明らかに下層から現れた南北方向の溝状遺構である。第3図の土層図参照。

SK105 (第10図) D区にありSE104埋没後に掘り込まれている(配置図はSE104参照)。上面63cm×60cm、深さ50cmの円形土坑である。



第6図 遺構配置図1・遺物分布図（黒は磔、点は遺物）

出土遺物（第11図） 1・2は京都系土師器、3は中国？州窯碗である。4は瓦質鉢で、器体の厚い部分である上2/3は斜め刷毛目調整で、内面は横なでを加えている。外面上半に煤付着。

SK106（第17図） D区にあり、SD92の下に位置する上面径約1.5mの円形土坑である。磔が40個弱入っていたが、人工的な遺物は出土していない。

SK107（第12図） E区とF区の境目に検出した六角形の石組み井戸である。掘り上げると危険なので、次回南側を調査する時に完掘することにした。今回は最上部一段目の石組み下端まで確認した。検出面では井戸側部分でその出現前に磔若干が散らばっていた。

出土遺物（第13図） 掘方から出土した遺物である。

SK96（第14図） E区、SK69の南側に位置する磔が一杯詰まった土坑である。

出土遺物 (第15図) 1は備前焼水指、2は中国南部製焼締め陶器鉢、3・4は瓦質土器で、3は二個一對の雷紋刻印を付けた火鉢、4は鉢、5は結晶片岩製の砥石である。

SK141 (第42図) F区北西部に位置し、SD53埋没後に掘られた長方形の土坑である。北宋銭しか出土せず、遺物からは時期不明だが、遺構の前後関係でこの時期に位置付ける。

SX46 (第16図) D区北部で検出した鍛冶遺構である。上面の幅は55cm×35cmで、床面は西側に向かって傾斜している。内部には鉄滓が30個弱入っていた。

SK45・52・56・62・67・76 出土遺物 (第18図1～9) 5は15世紀の中国龍泉窯青磁稜華皿。

SX99 (第19図) E区北部で検出した礫群である。中心部に50cm×30cmほどの集中部があり、遺物が出土した。

出土遺物 (第20図) 1は京都系土師器皿で、2は交叉播目をもつ備前焼播鉢である。

SK113 (第21図) E区北部、SK139の北西に位置する土坑である。遺物は出土していない。

SD120 (第38図) E区南部にあり東西方向に向けた長さ5.0m、幅67cm、深さ20cmの溝状遺構である。SK144を切り、六角井戸SE107に切られる。

出土遺物 (第39図1～5) 1・2は中国景德鎮窯青花皿。3は防長系土師質鍋の脚。4・5は鉄釘。

○ 16世紀中葉から後葉の遺構と遺物

概要 この段階は京都系土師器の2期の存在を主な特徴とし、ロクロ目の土師器は存在しない。遺物を伴わない遺構もあるが、検出面の標高や遺構の前後関係からこの時期に位置付けたものがある。

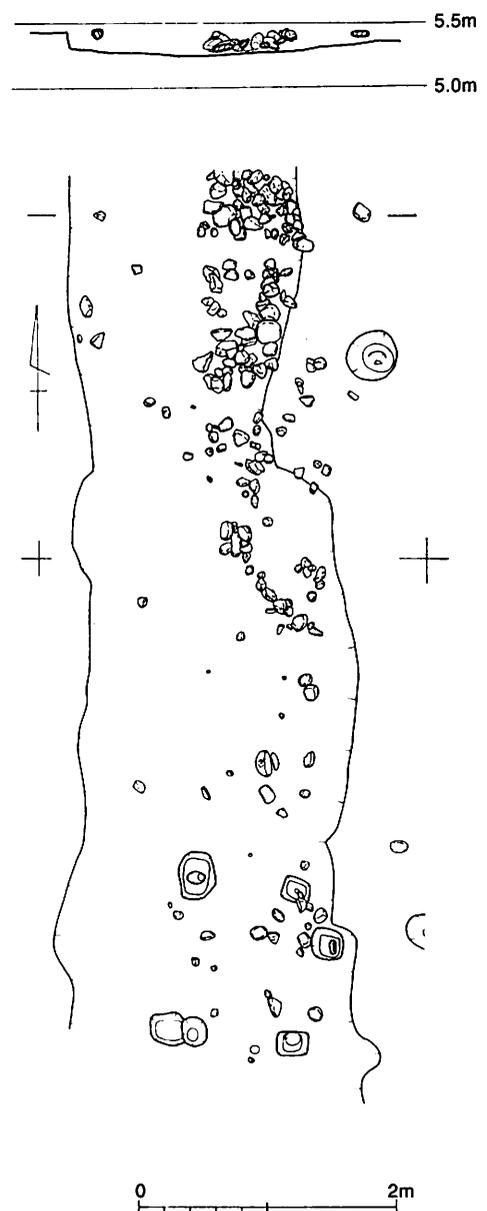
SK69 (第31図) E区西部にある。二基の円形土坑が重複したようだが、出土遺物の接合関係をみると両方にまたがって分かれて存在する遺物があり、短期間に掘られたらしい。礫が多数廃棄された状態で出土した。

出土遺物 (第32図) 京都系土師器2期、中国製白磁、瓦質火鉢等が出土した。

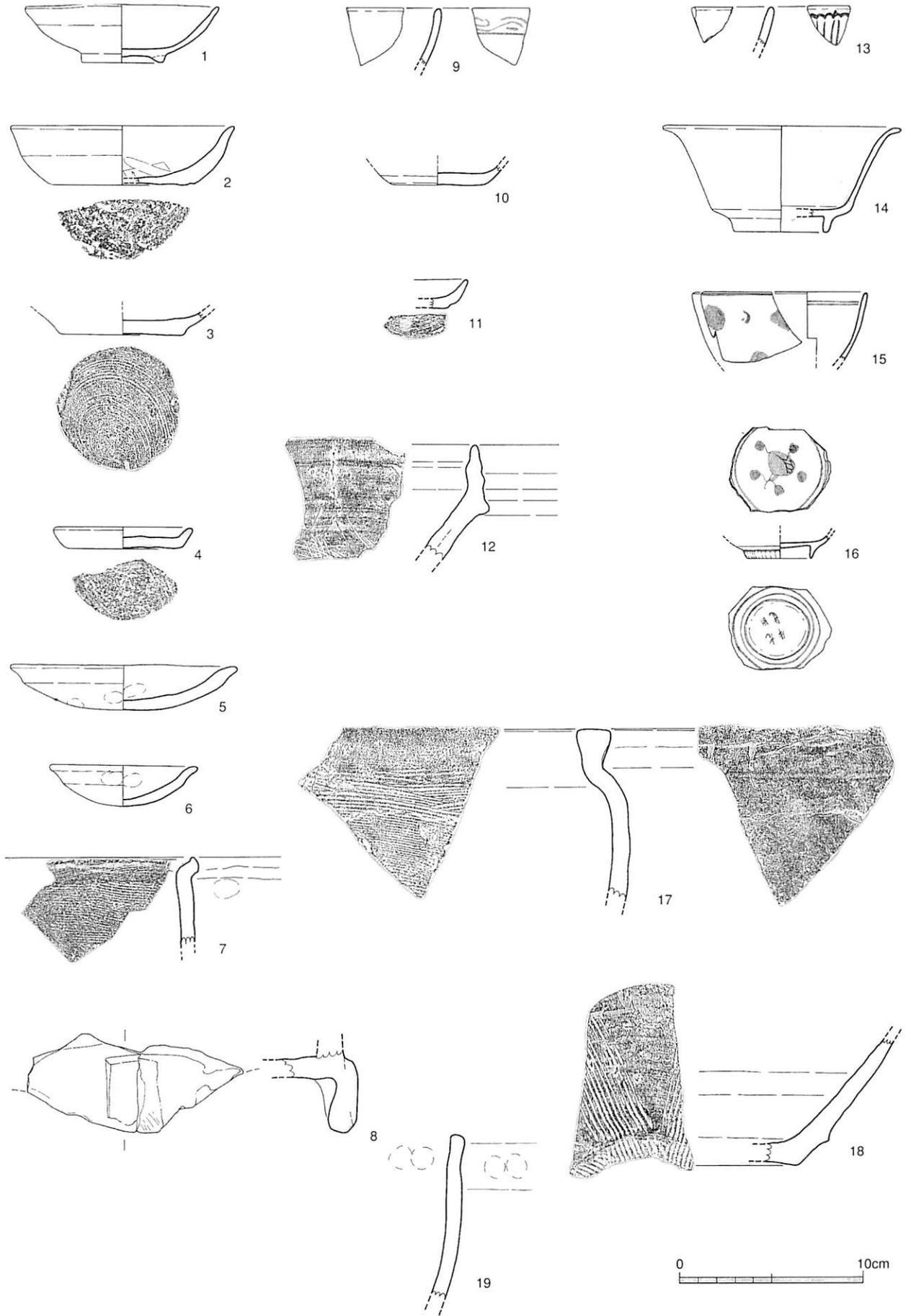
SK80 (第33～35図) E区とF区の間であり、東西方向に長い長方形の堅穴である。上面は東西3.8m、幅は西部が2.9m、東部が2.25mで東側が狭い。深さは30cm。中央部分で南北方向に堆積状態を調べたところ、床面中央の柱穴はレンズ状埋土の下面から掘り込まれていた。殆どの柱穴は直径10cm程度の柱痕がある。

出土遺物 (第36図) 1・10は京都系土師器、2～4は瓦質土器、6は青銅製分銅である。

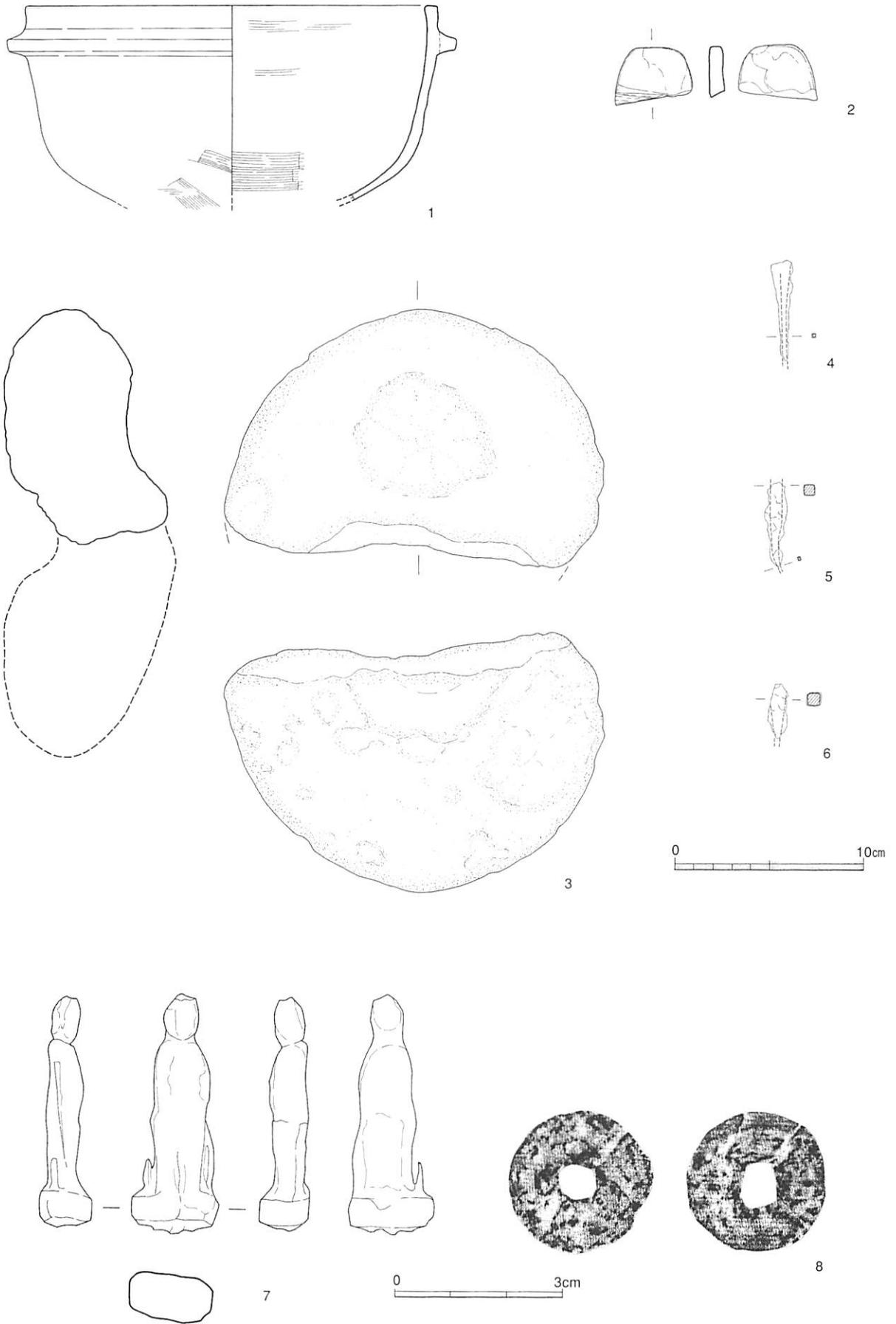
SD53 (第33図) 大半はF区にあり、SK80を取り



第7図 SD51 実測図



第8図 SD51 出土遺物実測図



第9図 SD51 出土遺物実測図

囲むように存在する。南部ではSK164が後から重複している。

出土遺物（第36図7・10）7は中国南部製瑠璃釉陶器の型押成形小皿で、表面は青緑色釉。

SK139（第40図）E区中央部にあり、SK140と重複する長さ2.8m×1.6m、深さ30cmの土坑である。

出土遺物（第37図1）1は銭貨であり、この遺構からは図示できるのはこれだけである。

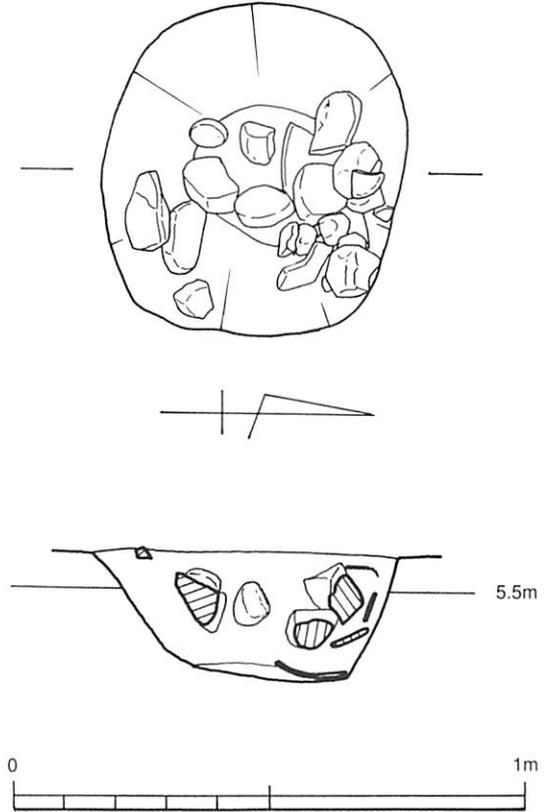
SK140（第40図）E区南部にあり、SK139と前後関係は分からないが重複する。

出土遺物（第37図2～9）2・3は2期の京都系土師器皿、4は在地系土師器の橙褐色を呈する皿である。5は京都系土師器の耳皿、6はいわゆる焼塩壺の蓋。7は中国龍泉窯の青磁碗。8は鉄釘、9は用途不明の鉄製品である。

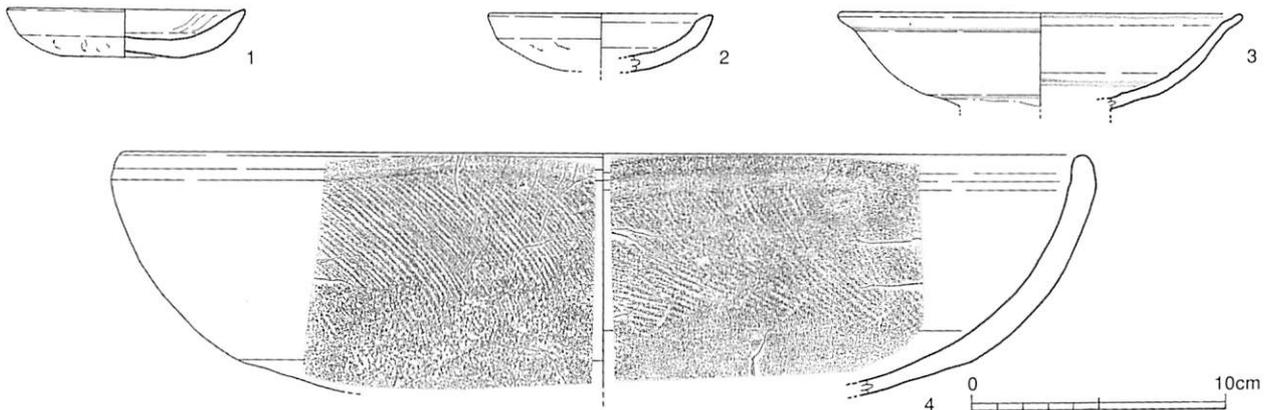
SK144（第51図）F区南部に位置し、SD120に切られる楕円形の土坑である。時期の分かる遺物は出土していない。

SK164（第41図）E区東部に位置し、SD53を切って造られている。南北1.3m、東西80cm、深さ70cmの平面長方形の土坑である。遺構上部は砂層で、内部には南側から投げ入れた状態で礫多数と鉄製鏡2個他が出土した。

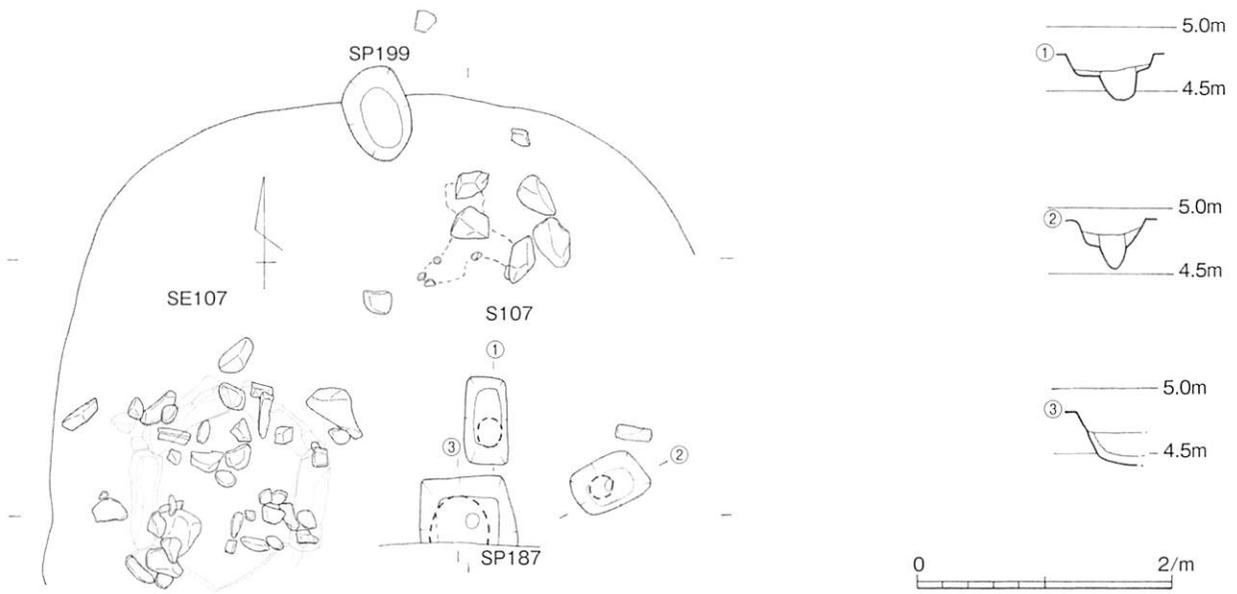
出土遺物（第42図、43図）第31図1は京都系土師器2期、2は中国景德鎮製青花皿でSK131でも小片が出土した。3の備前焼播鉢は中世6期のもの。第32図の鉄製鏡は環状部分の直径が16.5cm、棒状部分の長さは16.5cm。



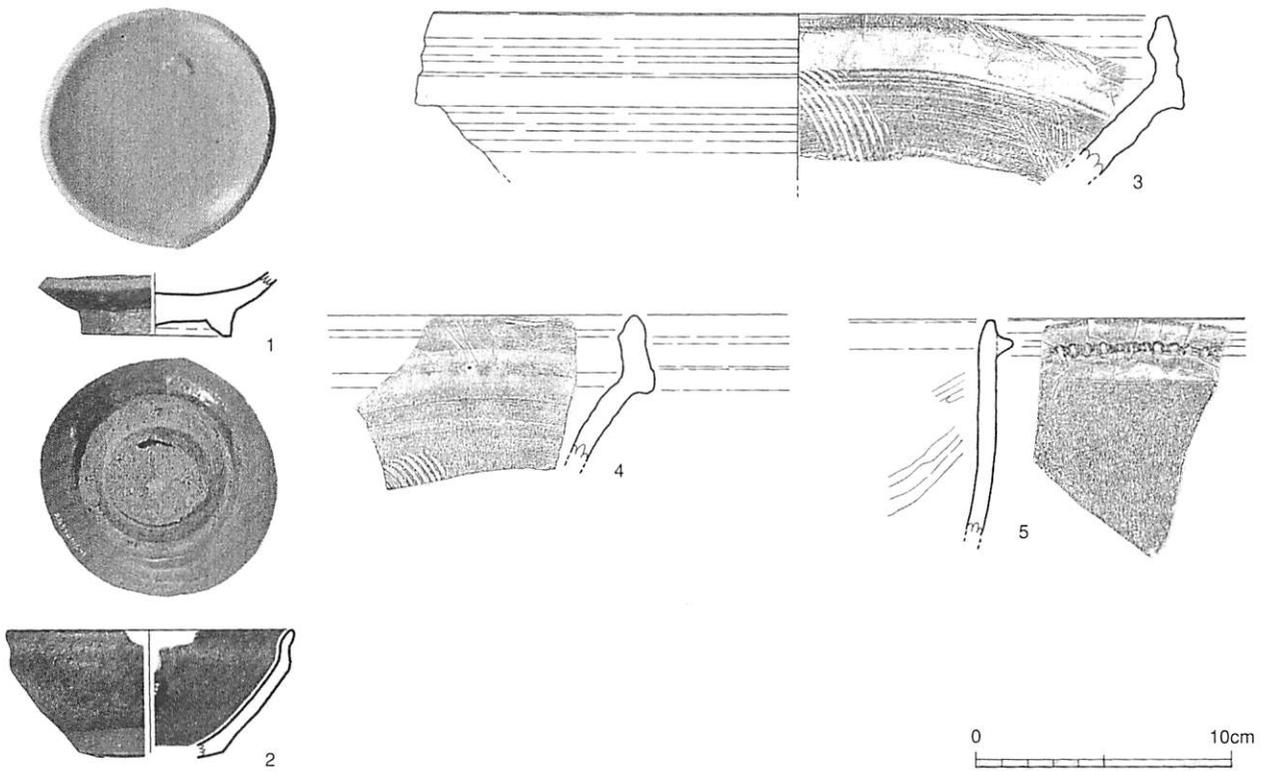
第10図 SK105実測図



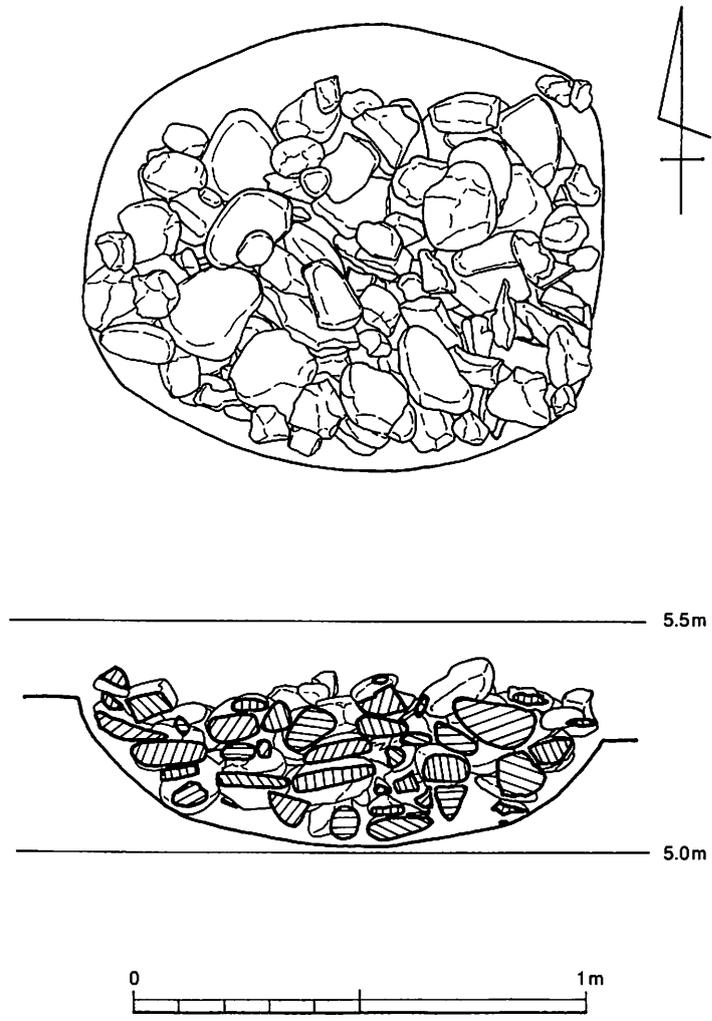
第11図 SK105出土遺物実測図



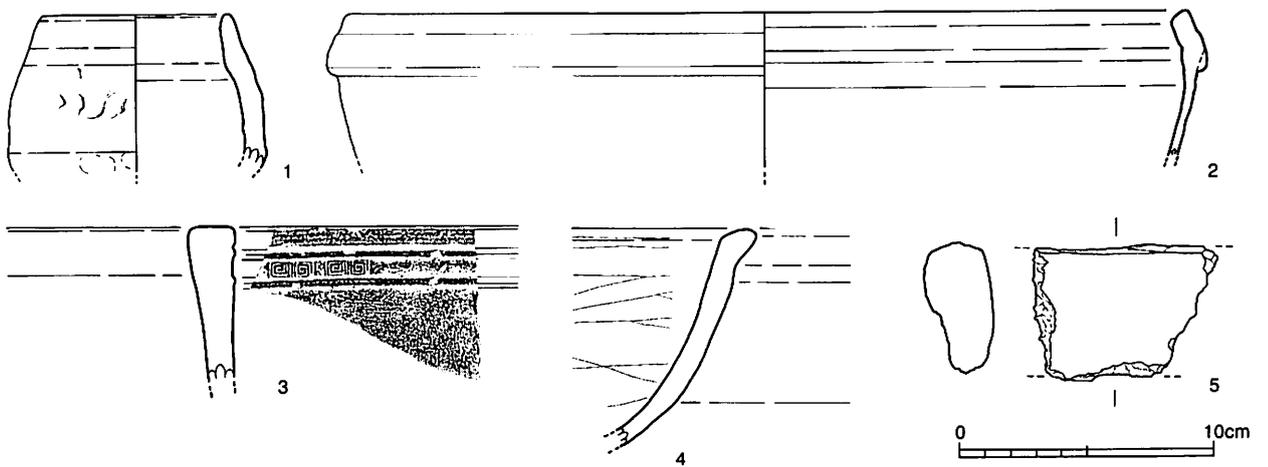
第12図 SE107 検出面実測図



第13図 SE107 出土遺物実測図



第14図 SK96 実測図



第15図 SK96 出土遺物実測図

SK191 (第46図) F区のSD120の南側に平行に位置する長さ3.3m、幅60cm、深さ25cmの細長い土坑である。

出土遺物(第47図) 遺物は埋土の上部から出土し、特に1の京都系土師器皿は最上部であり、遺構の時期は明確ではない。

SP169 (第48図) 柱穴状の土坑である。埋土上部に石が詰められていた。人工遺物は出土していない。

SK129 (第49図) 調査区北西部の標高5.1m弱で検出した無遺物の土坑である。東側にも無遺物の土坑があった。

○ 16世紀前葉から中葉の遺構と遺物

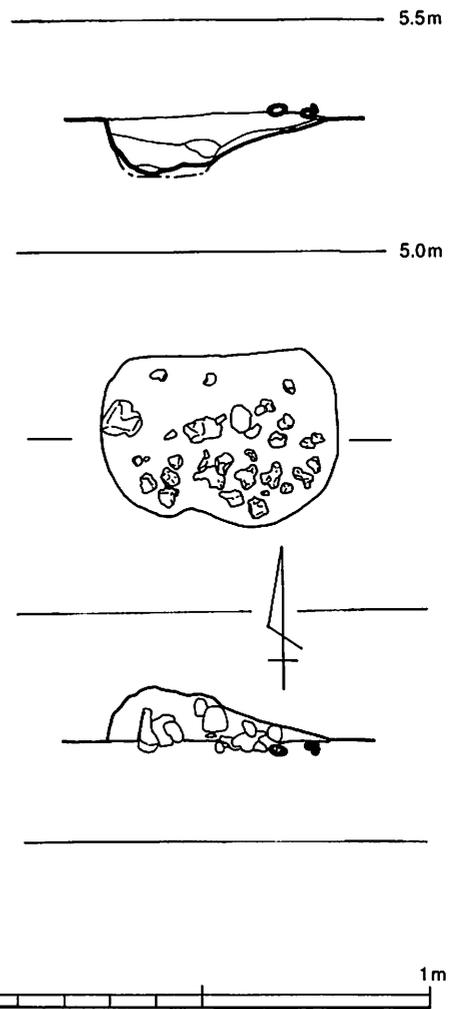
概要 この段階は京都系土師器1期とロクロ目の残る在地系土師器が伴う。

SK130 (第44図) E区北部にあり、大半は調査区の外側にある。現状での深さは10cm以下である。

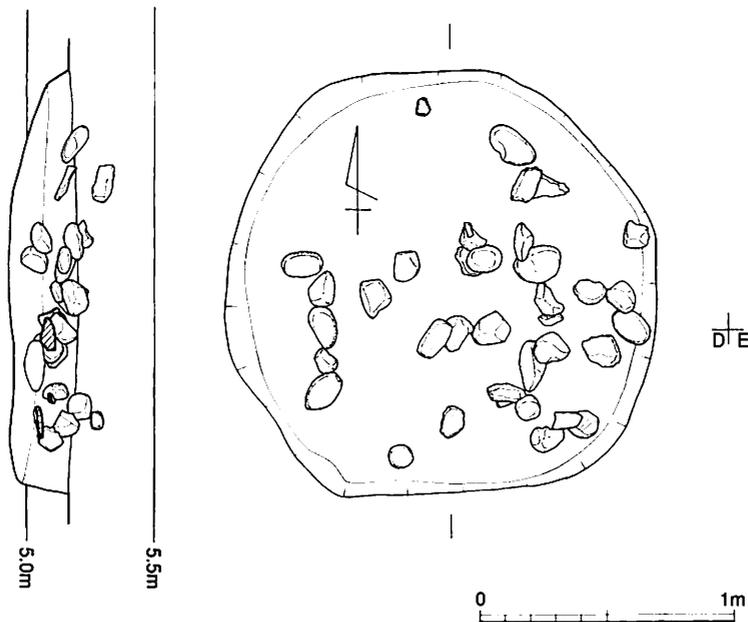
出土遺物(第45図) 口径14.0~16.6、器高1.8~2.1の京都系土師器皿である。

SK200 (第50図) 調査区南西部に位置する東西方向に長い土坑である。第6図の該当部分の礫群下位で検出した。

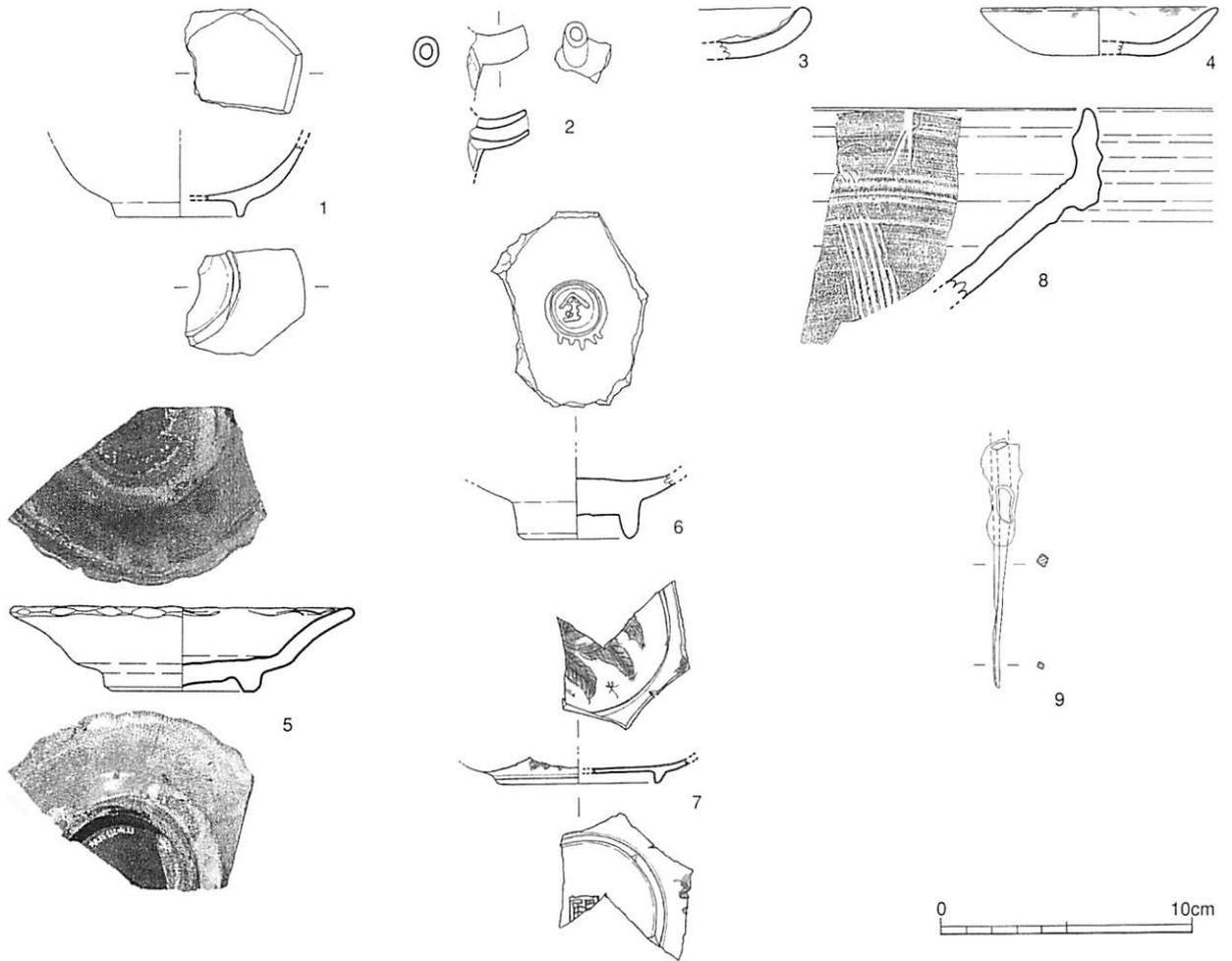
出土遺物(第50図1~5) 1・2は在地系土師器、3・4は京都系土師器である。2は褐色を呈する。5は瓦質の土瓶。



第16図 SX46 実測図



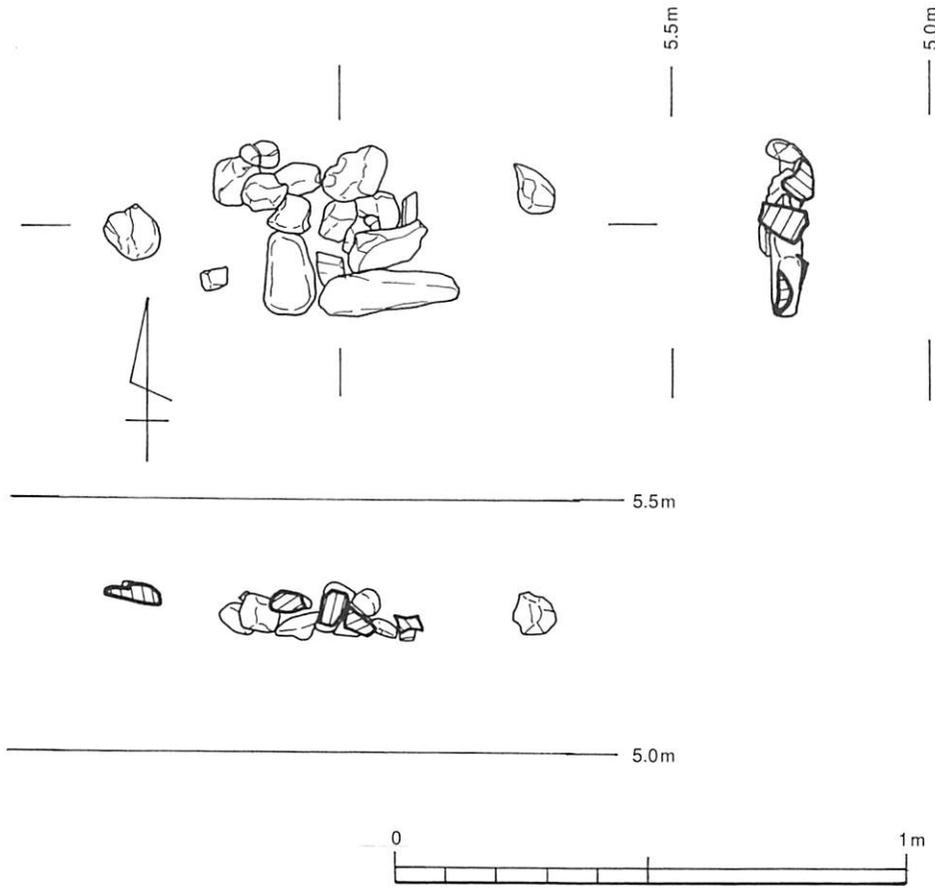
第17図 SK106 実測図



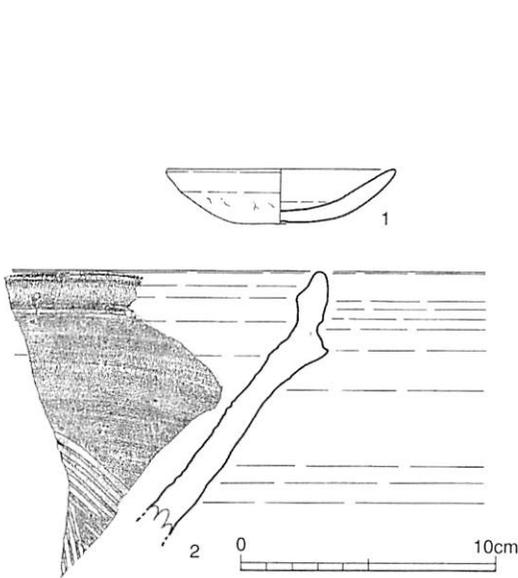
第18図 SK45～67 出土遺物実測図

SP257 (第53図) 柱穴である。

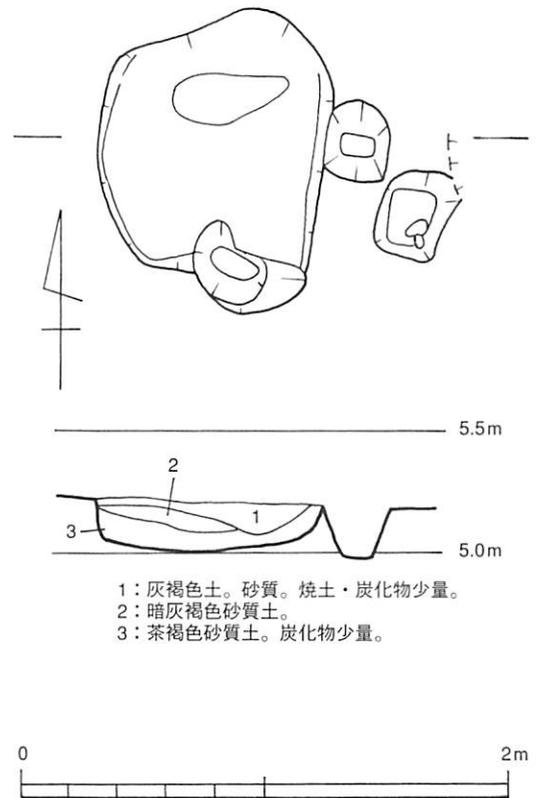
出土遺物 (第54図 1～4) 1はロクロ目のある在り系土師器、2は京都系土師器。



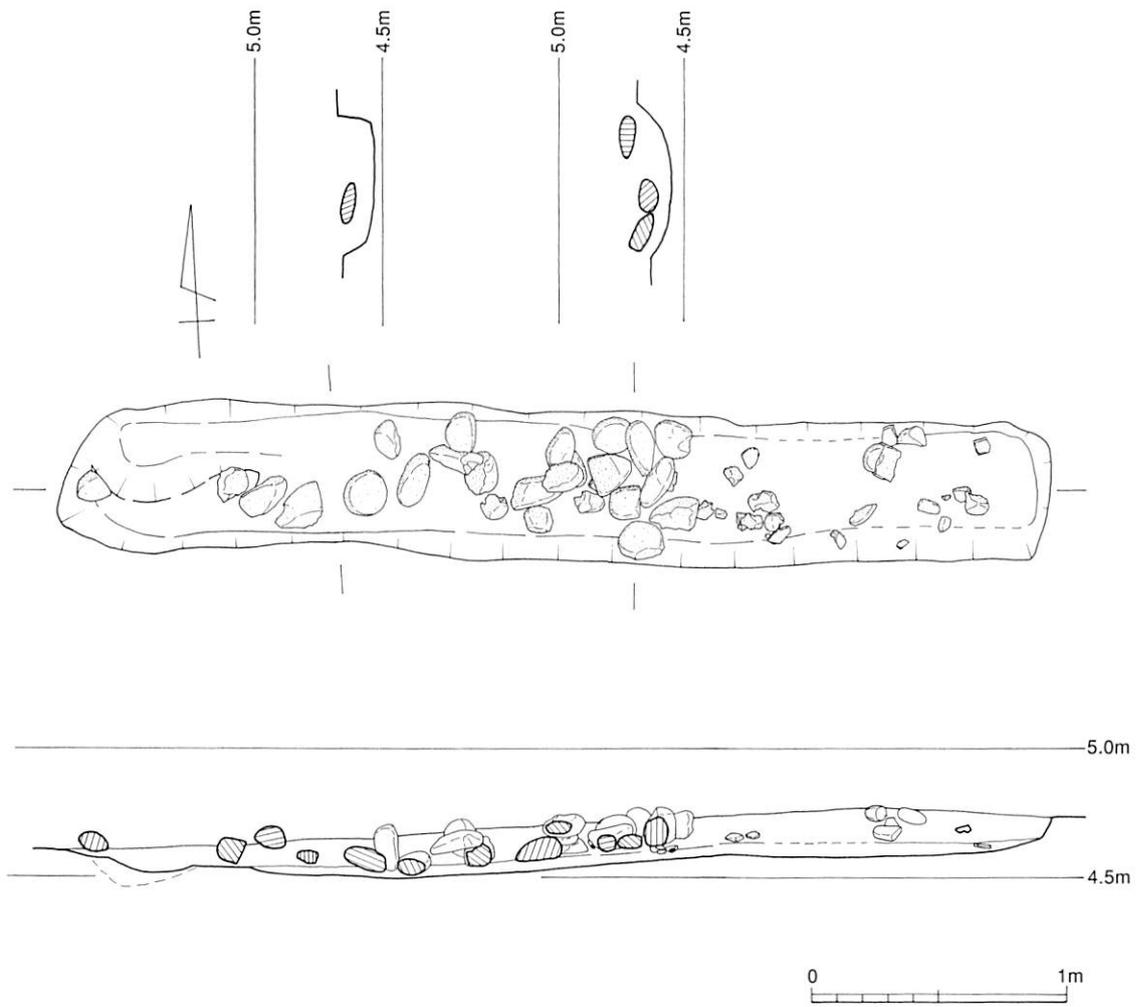
第19図 SX99 実測図



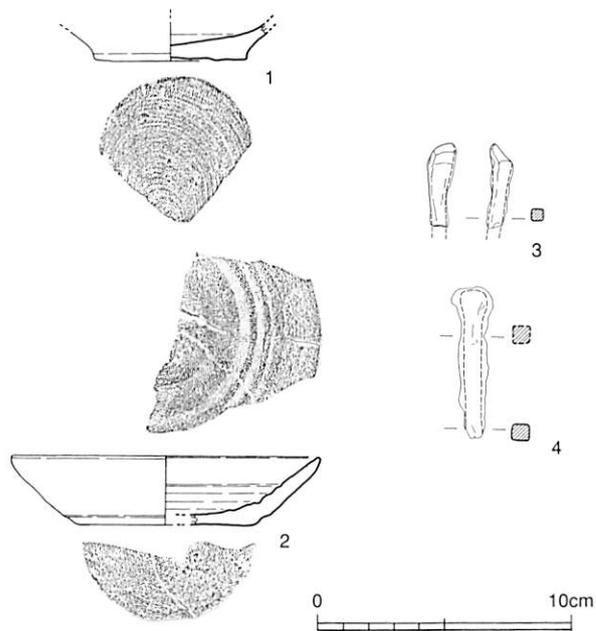
第20図 SX99 出土遺物実測図



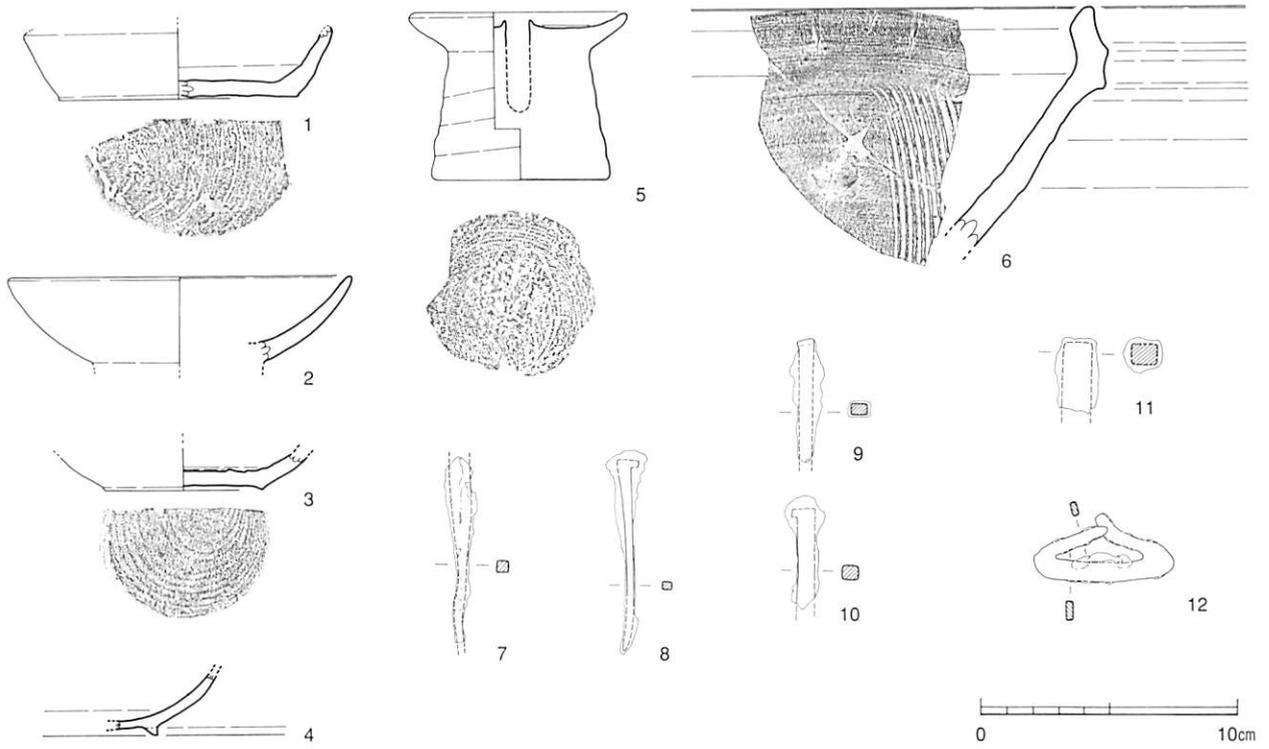
第21図 SK113 実測図



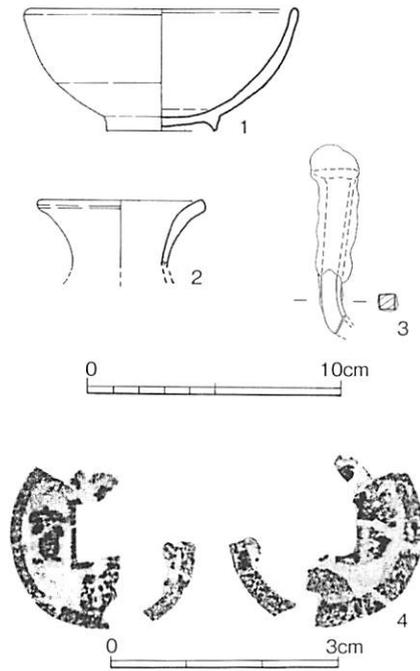
第22図 SK127 実測図



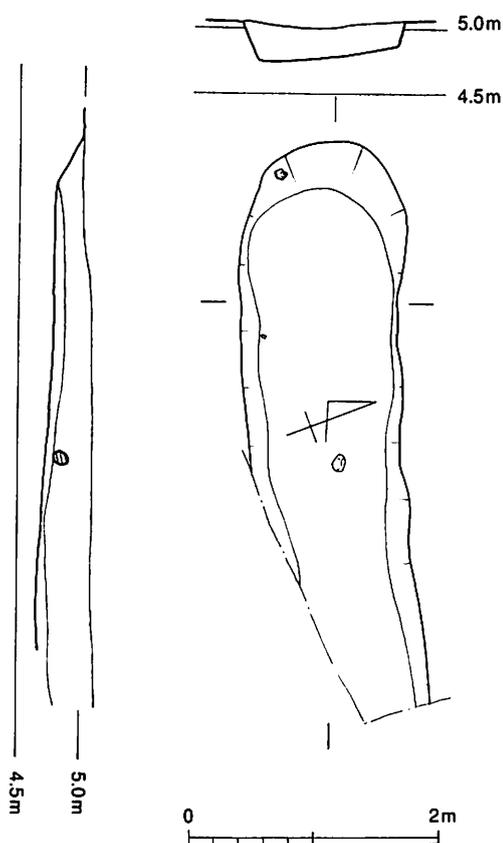
第23図 SK127 出土遺物実測図



第24図 SK135 他出土遺物実測図



第25図 SK182 他出土遺物



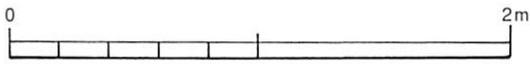
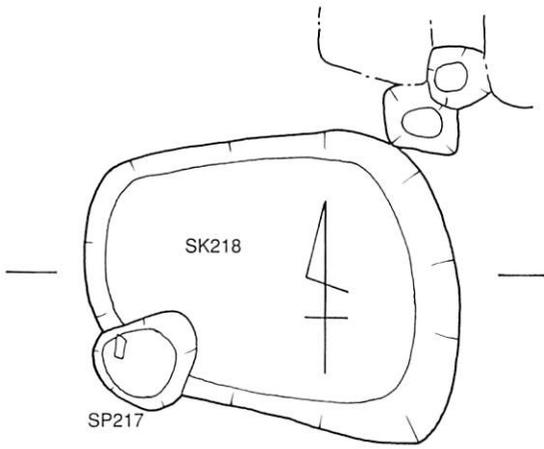
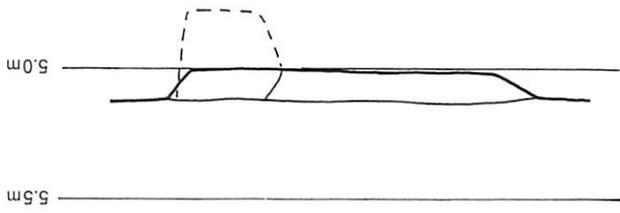
第26図 SD263 実測図

○ 14 世紀中葉から後葉の遺構と遺物

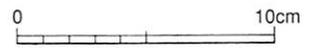
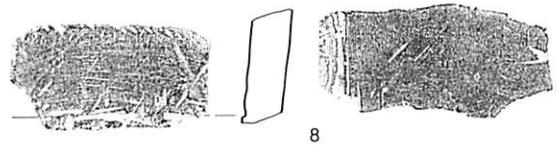
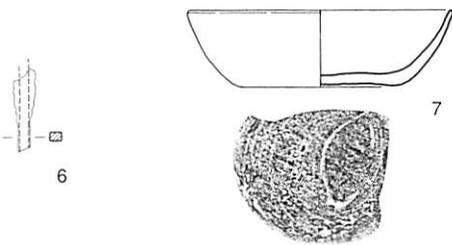
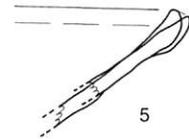
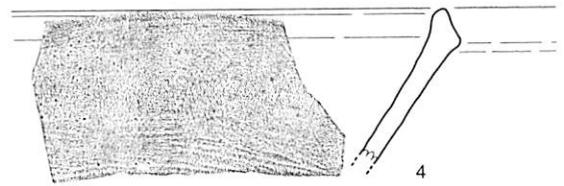
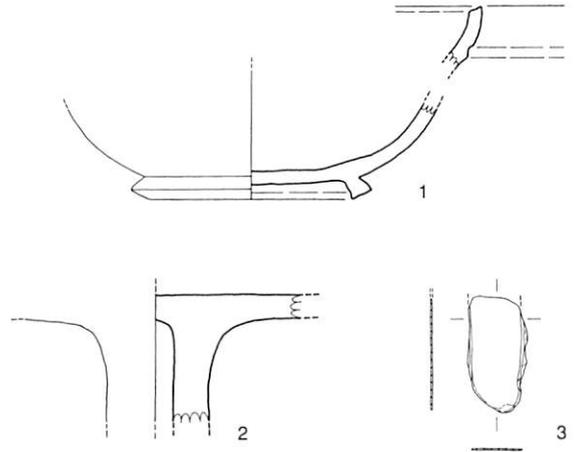
概要 調査区東端部で井戸2基が重複する。遺物から新旧を判断できなかったが、遺構自体はSE186の廃絶後にSE85が掘られている。これらと重複するSK183も同時期である。土師器を一括埋納した柱穴SP265の遺物は良好な一時期の組成である。

SE85 (第80図) F区・G区に位置する井戸である。遺構番号が少ないのは、初めSD51の床面で井戸本体の井戸側を褐色の粘土層として円形に確認したが、掘方はもう少し掘り下げた段階になって判明したからである。断面観察の結果、その部分は桶の腐食部分であり、桶を三段以上積み重ねた井戸側だったらしい。SD51出土の古手の土師器皿はSE85上部から出土した可能性がある。

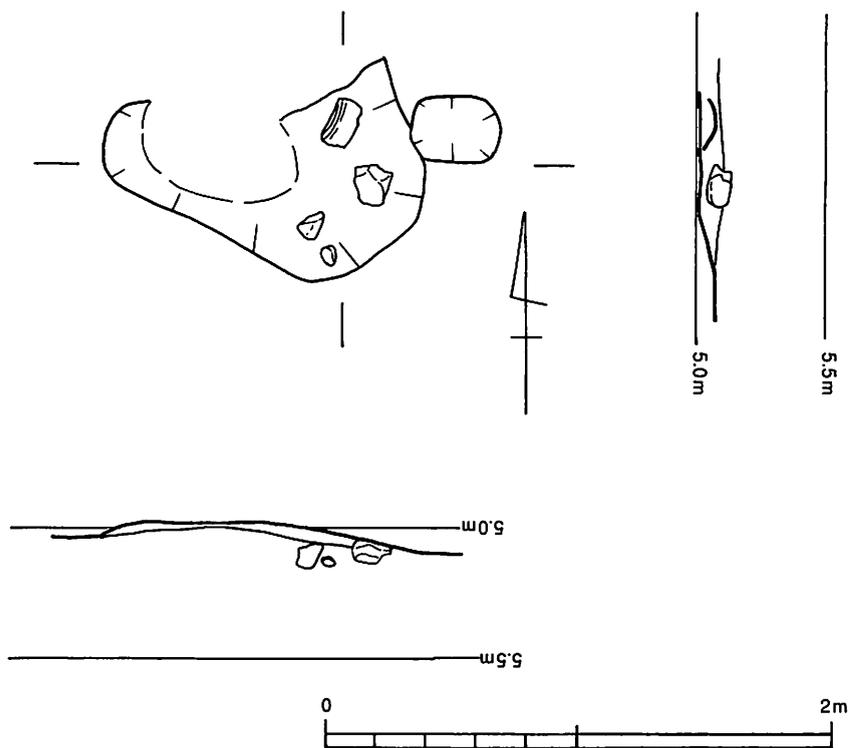
出土遺物 (第81～84図) 土師器皿・坏、瓦質土器、備前焼、常滑焼、須恵質土器等が出土した。第71図1は15世紀後半であり、混入か。



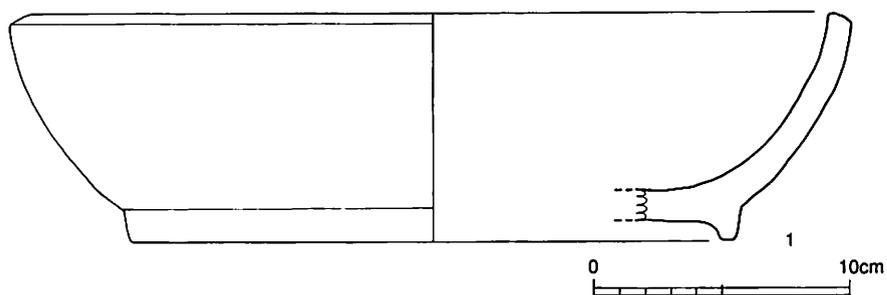
第27図 SK218 実測図



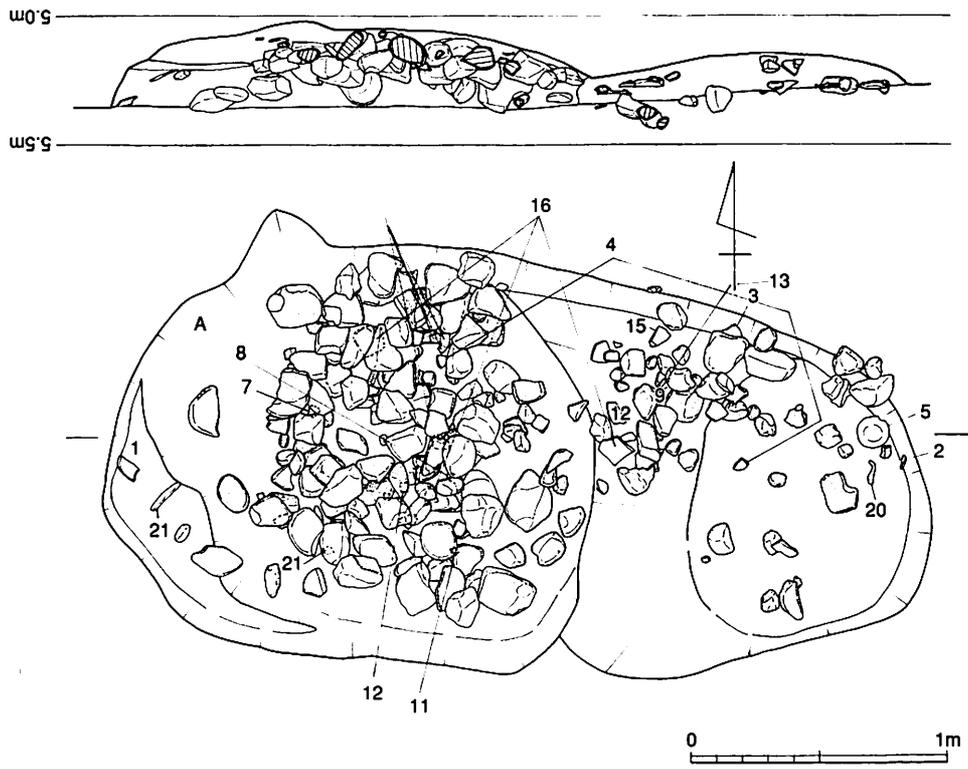
第28図 SK174・198・201・218 出土遺物実測図



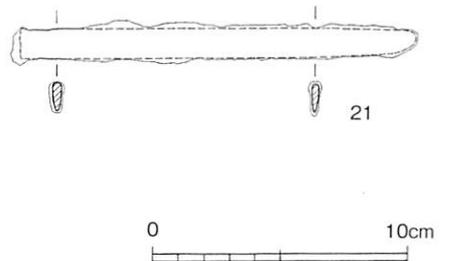
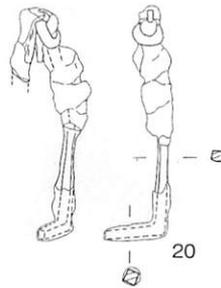
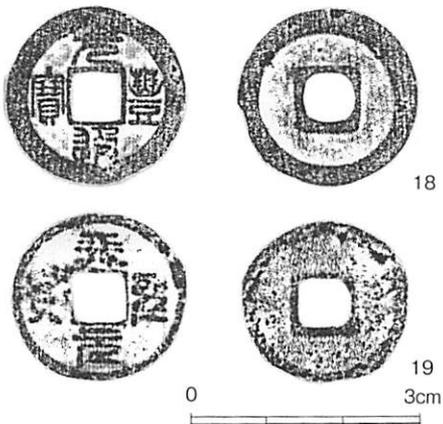
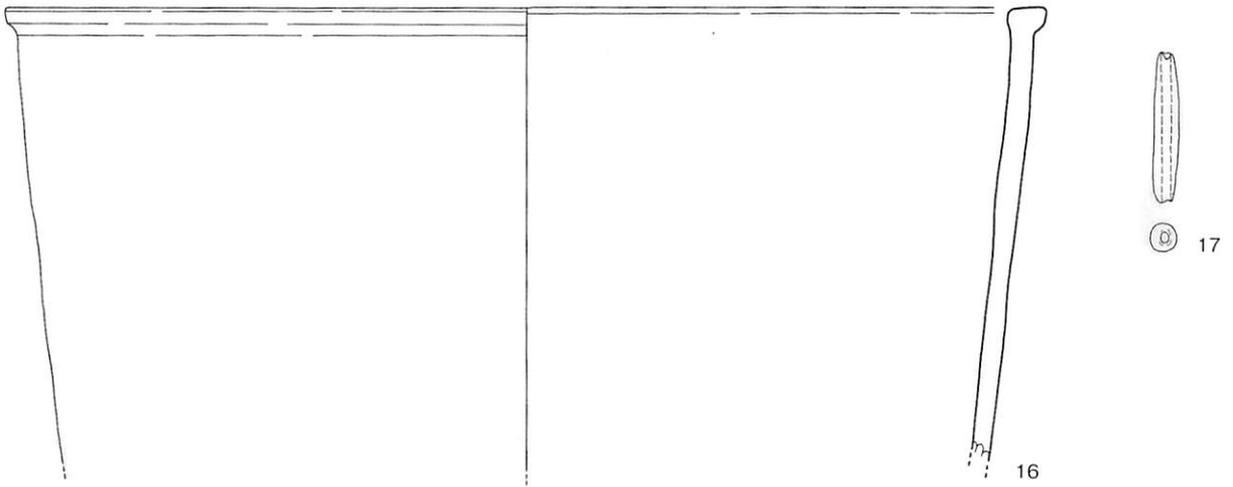
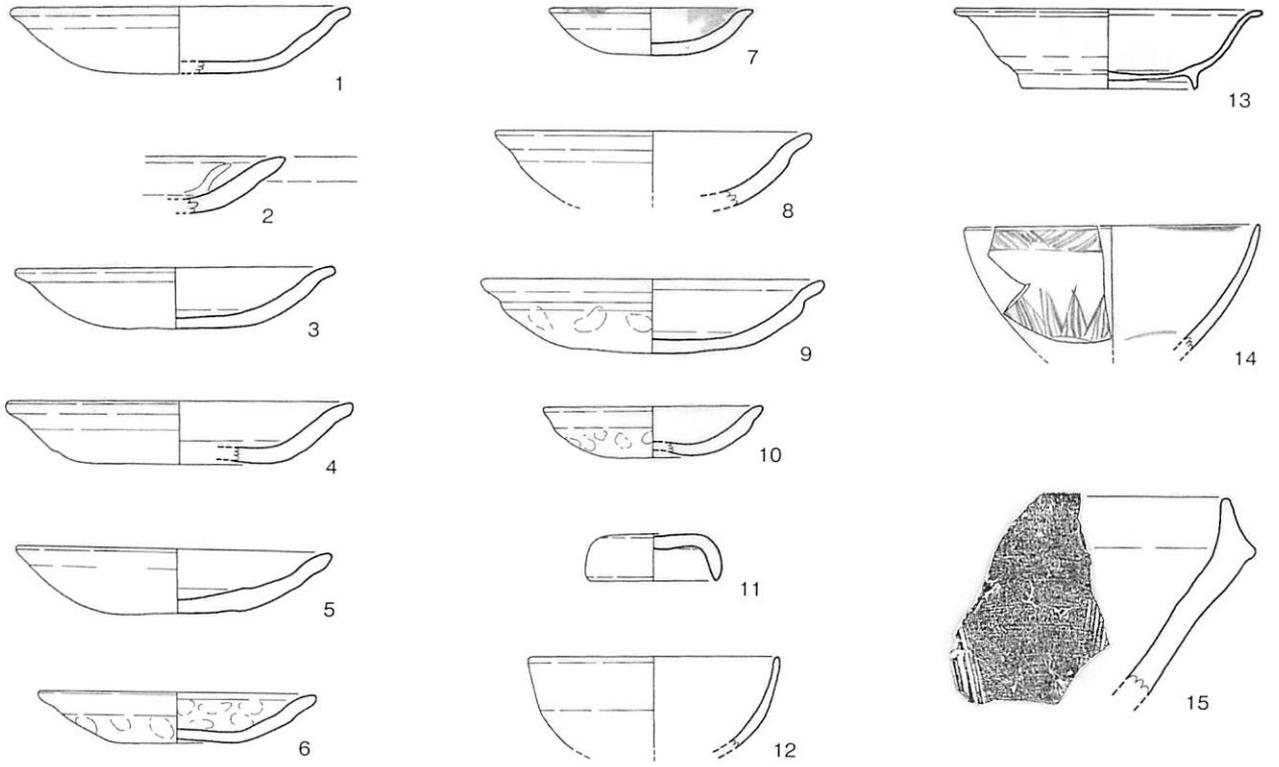
第 29 図 SK223 実測図



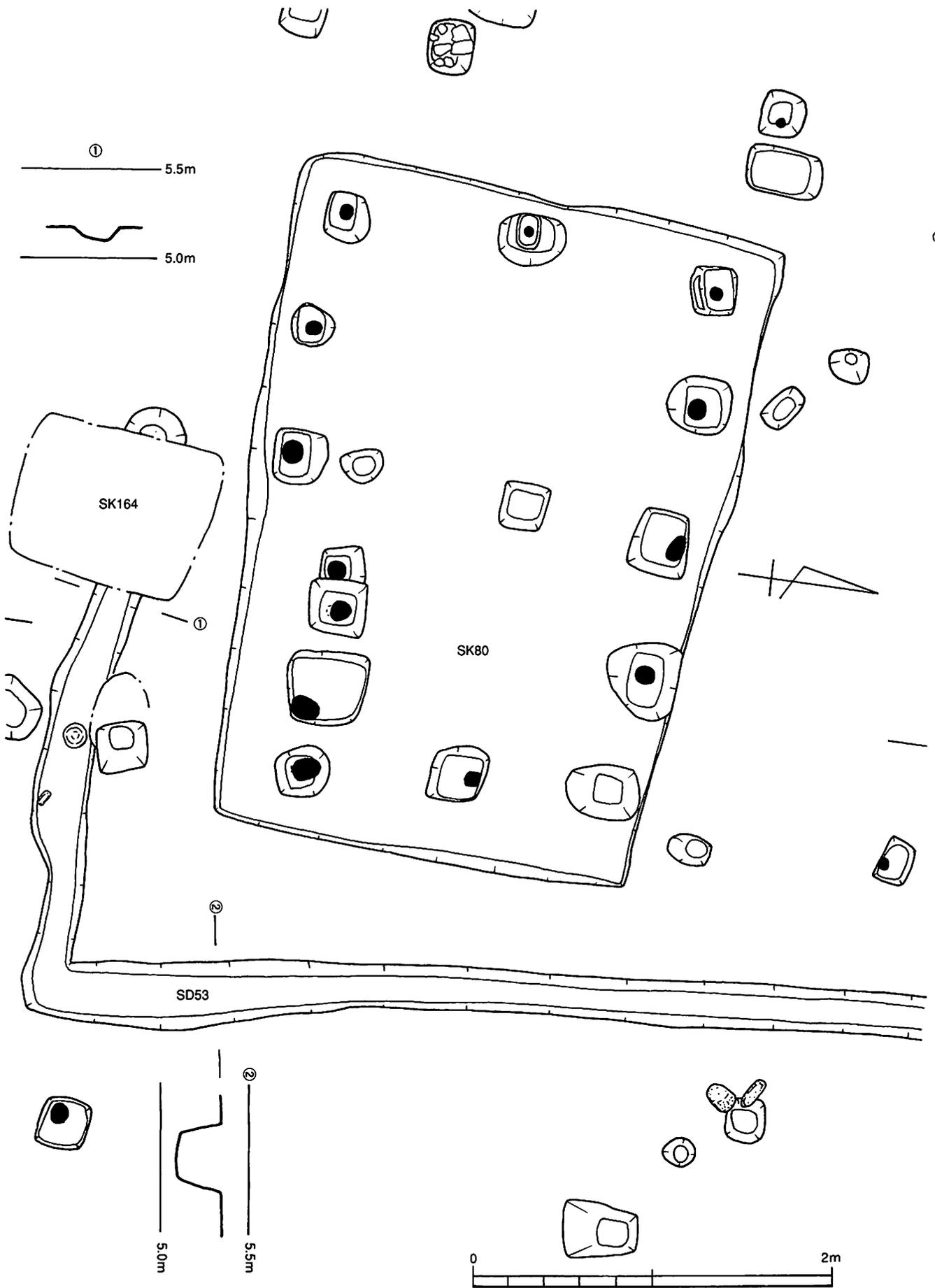
第 30 図 SK223 出土遺物実測図



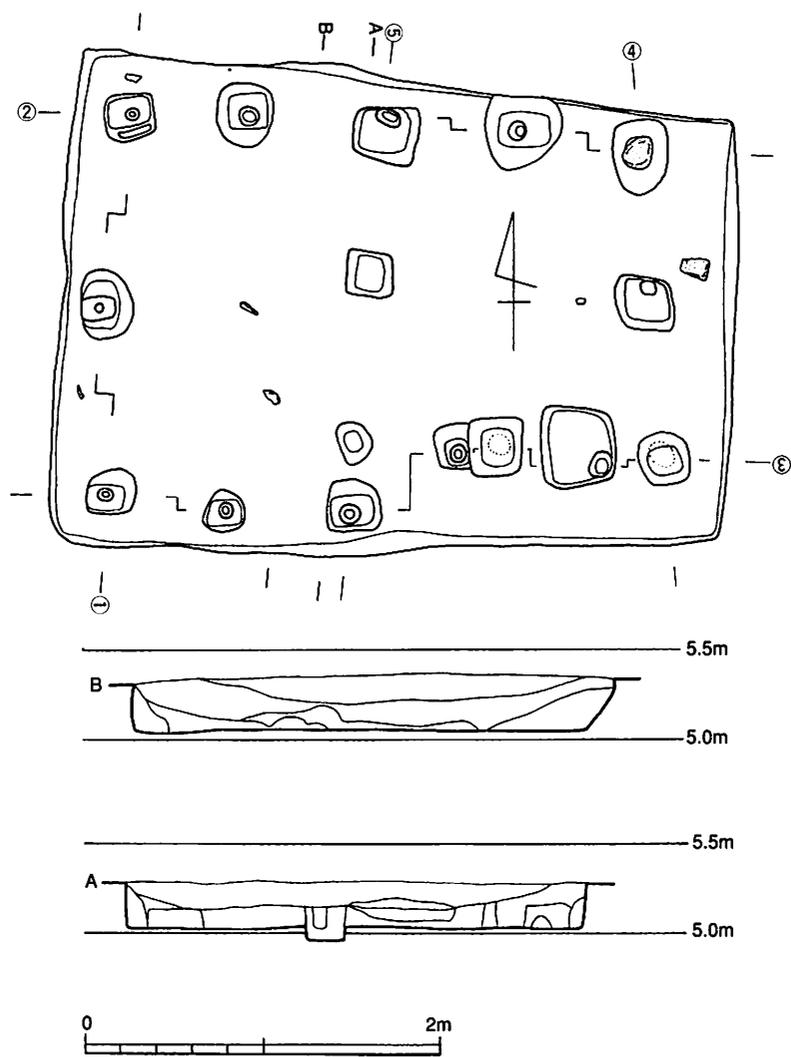
第31図 SK69実測図



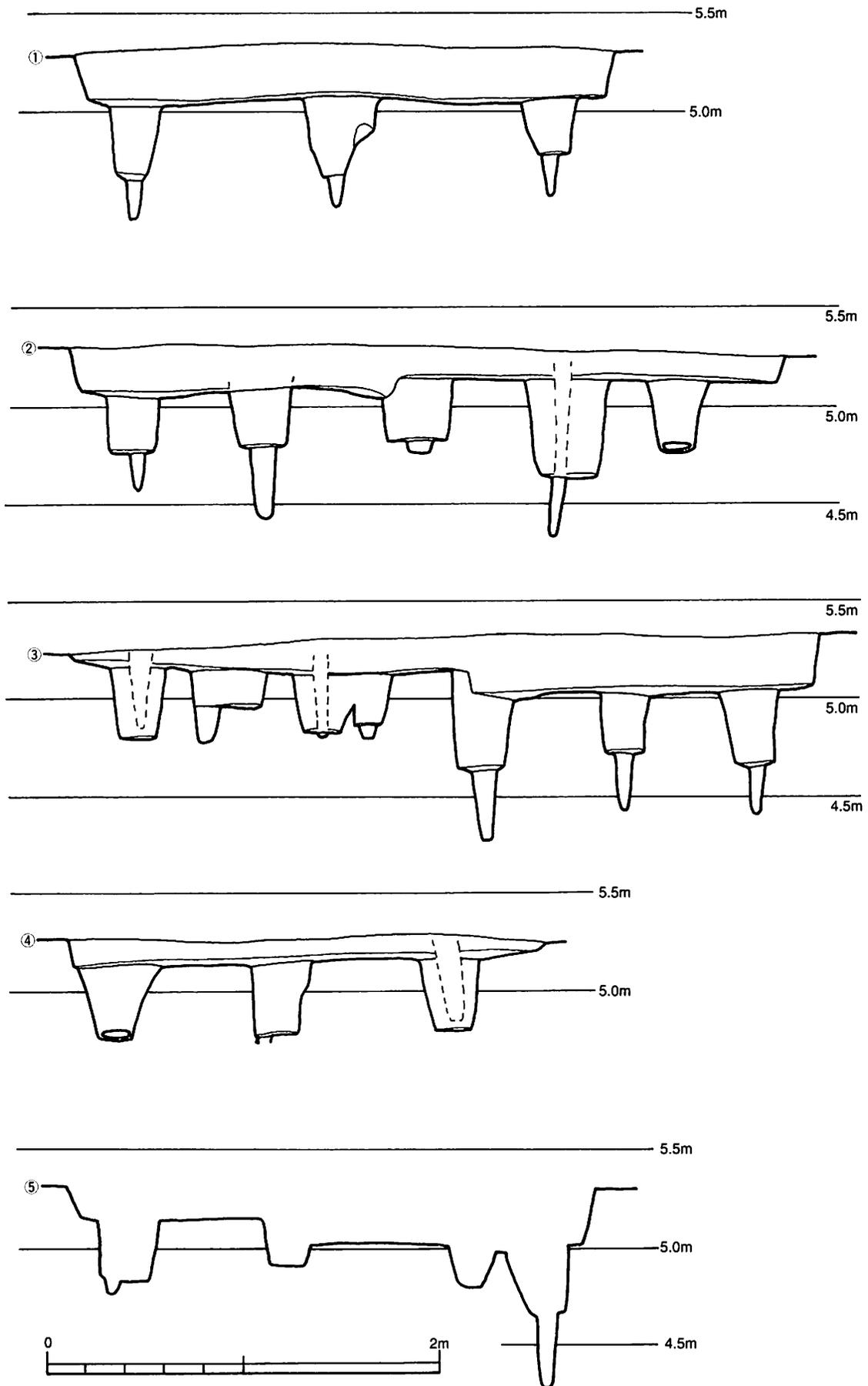
第32図 SK69 出土遺物実測図



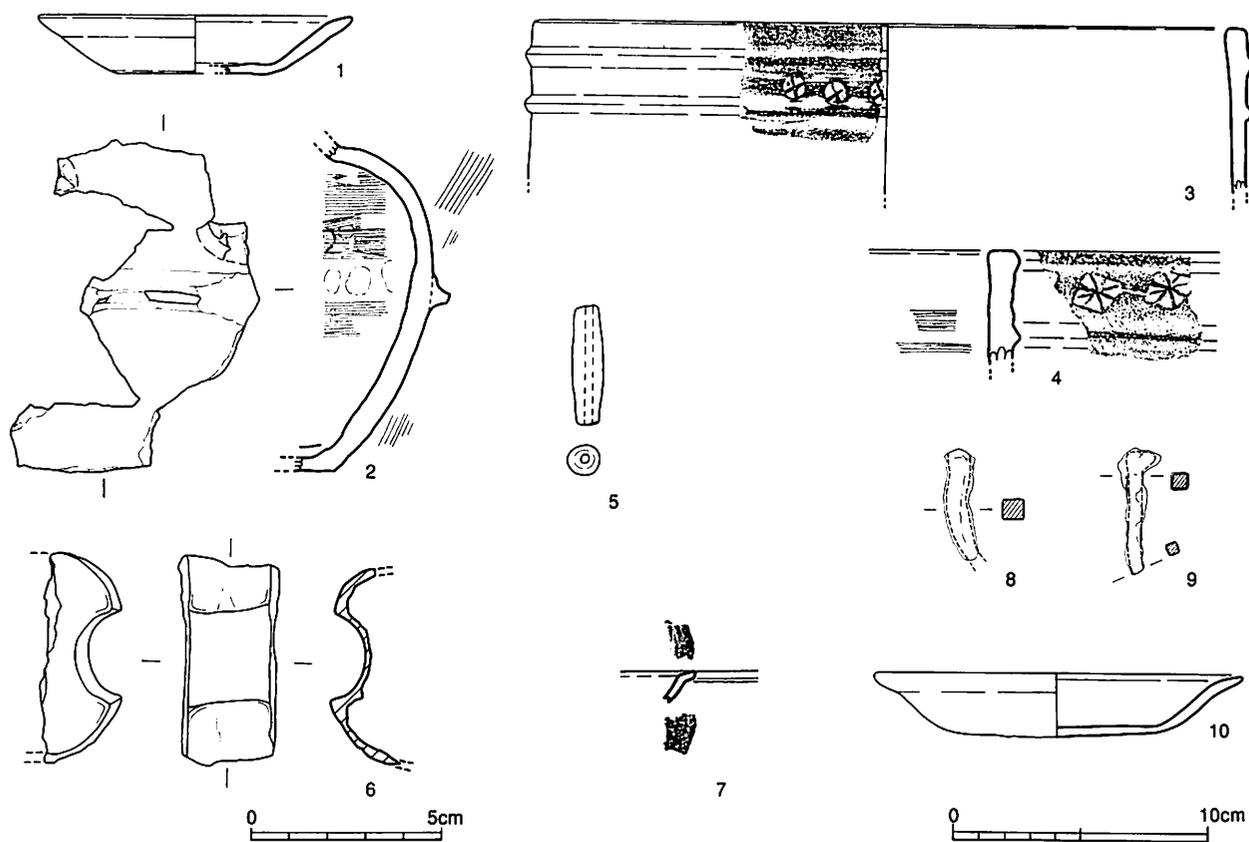
第33図 SD53・SK80 実測図



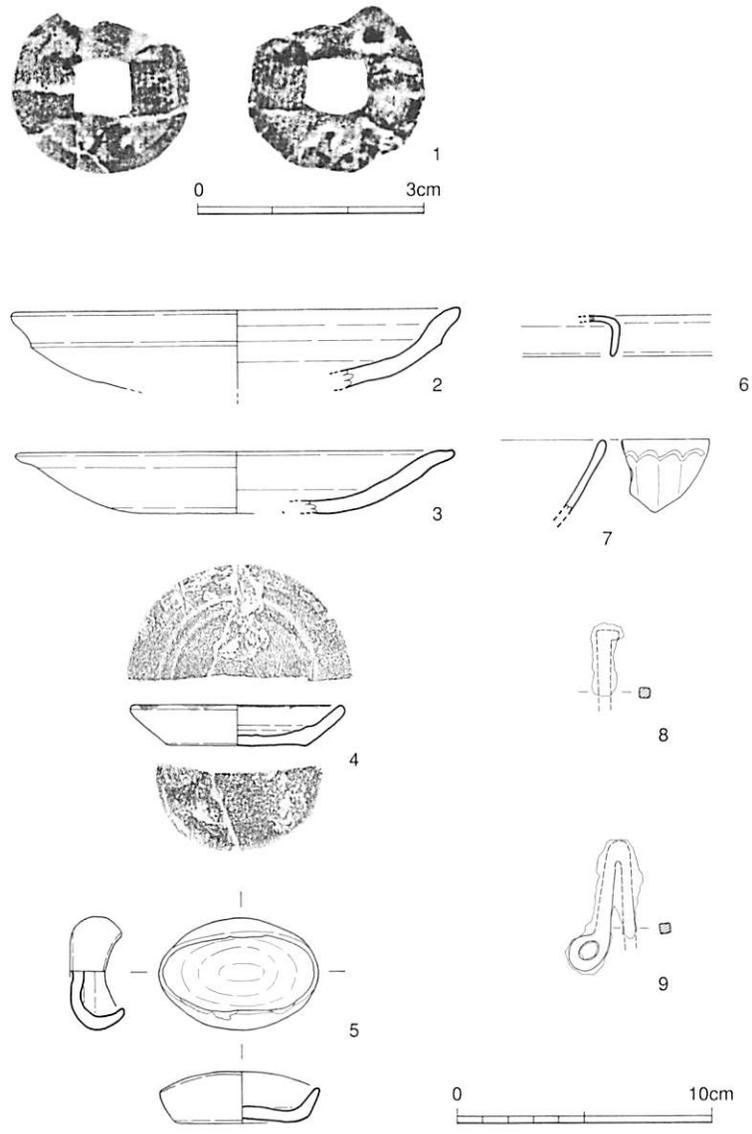
第34図 SK80土層図



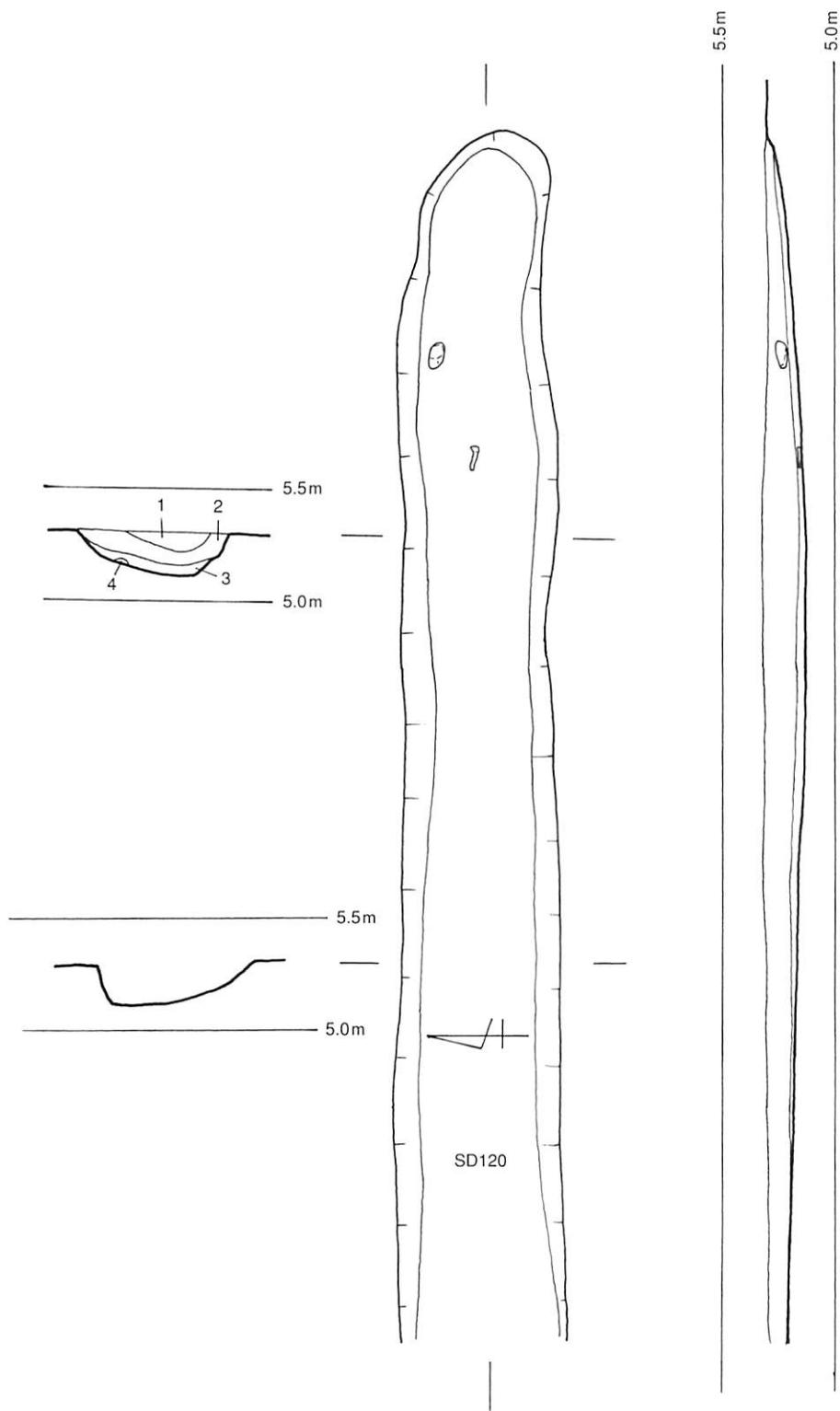
第35図 SK80 断面図



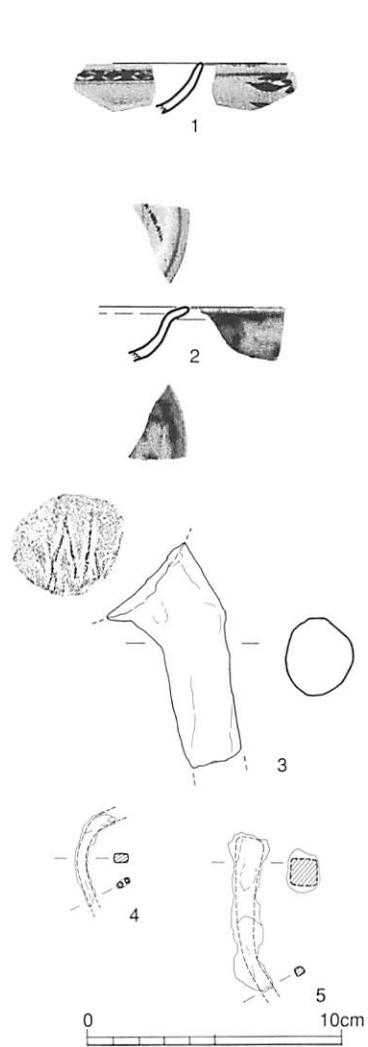
第36図 SK53・SK80 出土遺物実測図



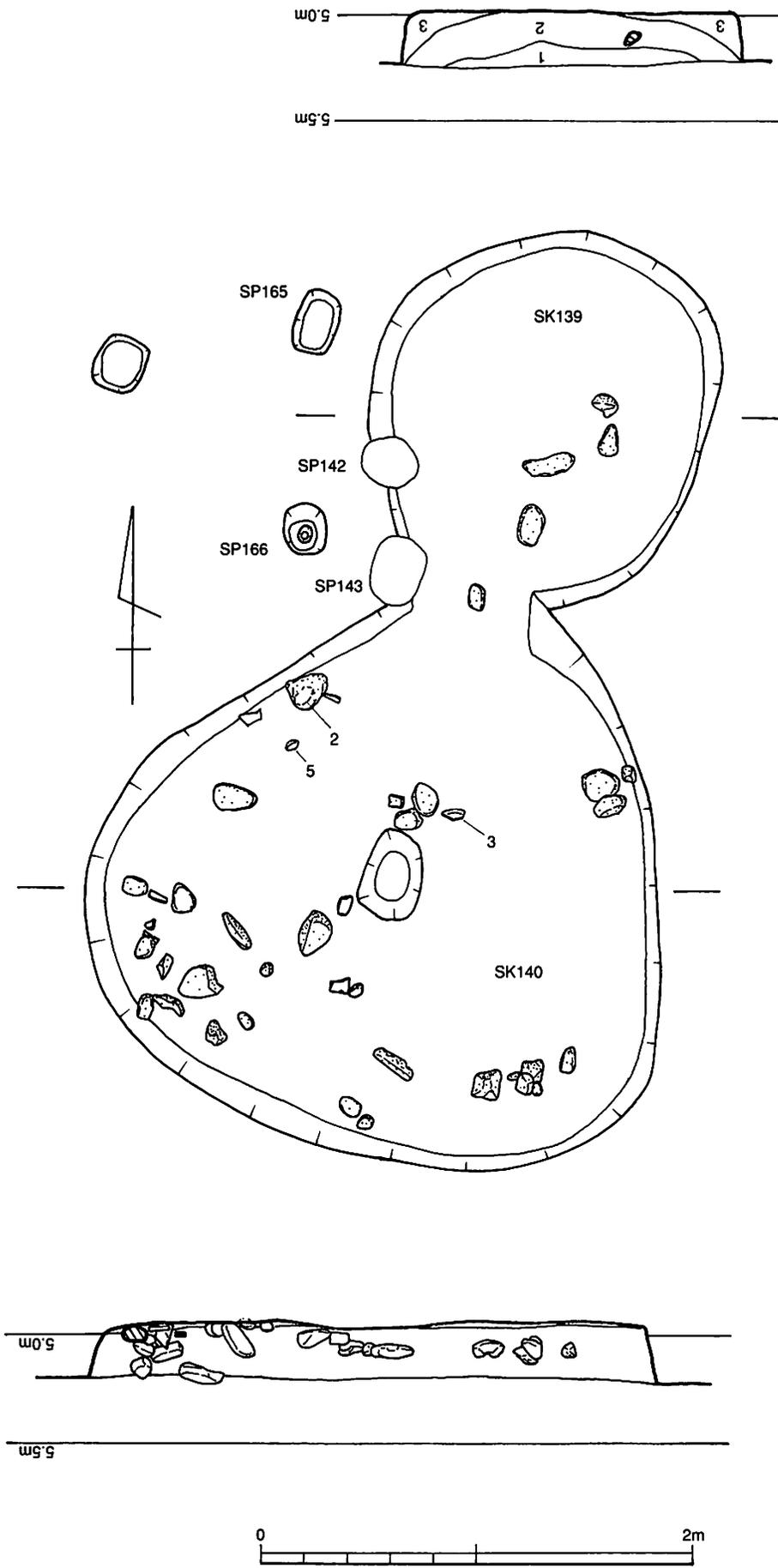
第 37 図 SK139・SK140 出土遺物実測図



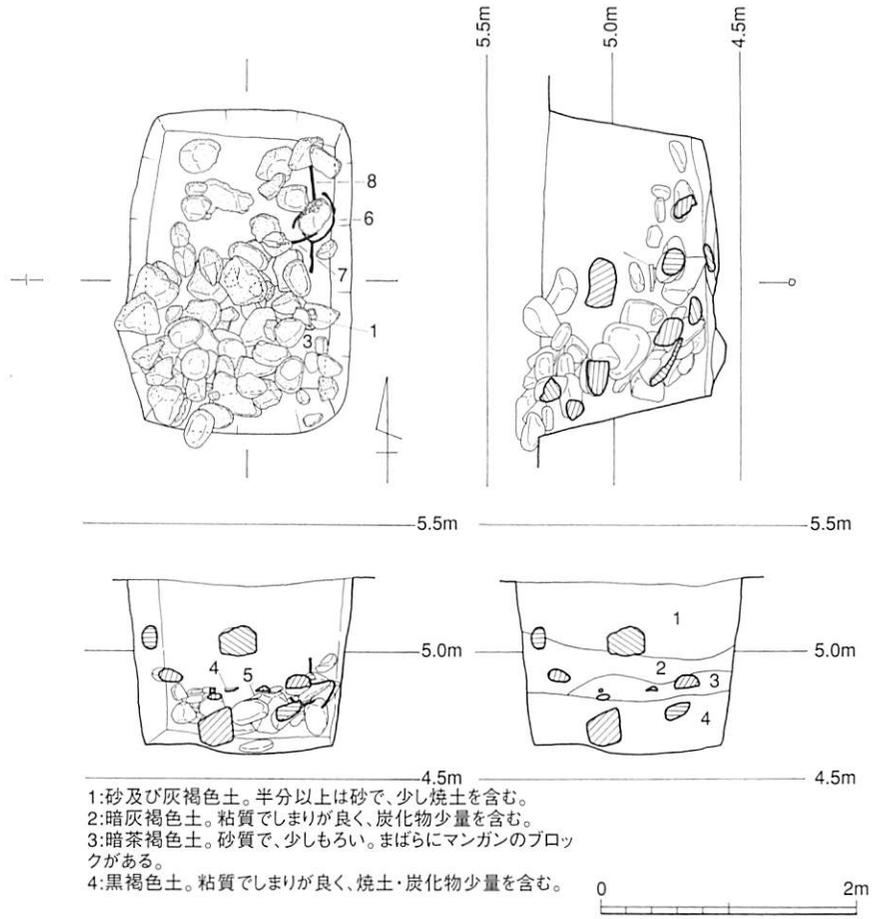
第38図 SD120 実測図



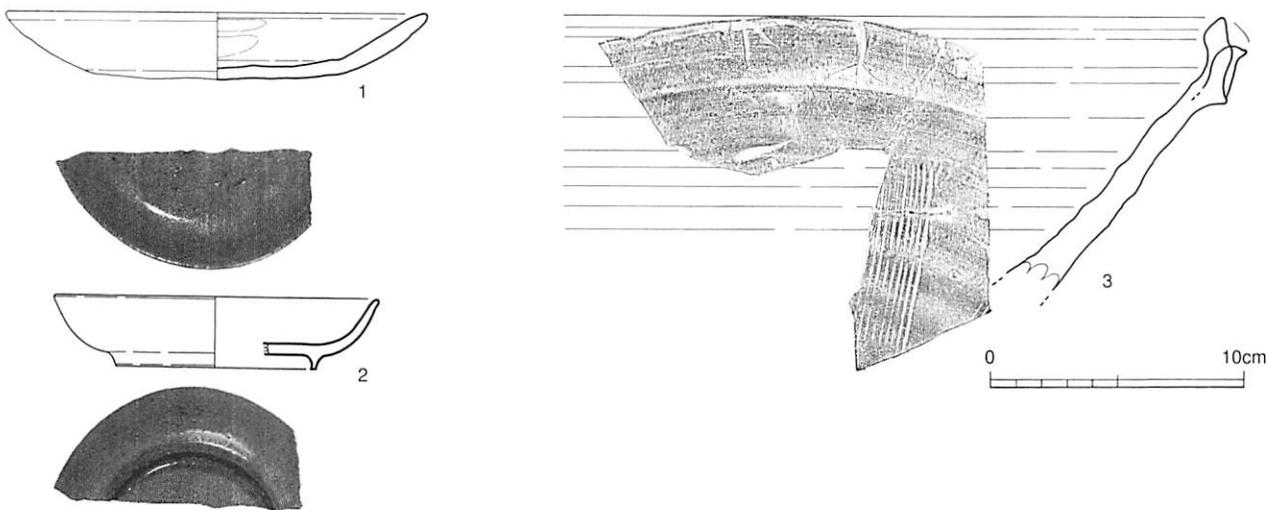
第39図 SD120 出土遺物実測図



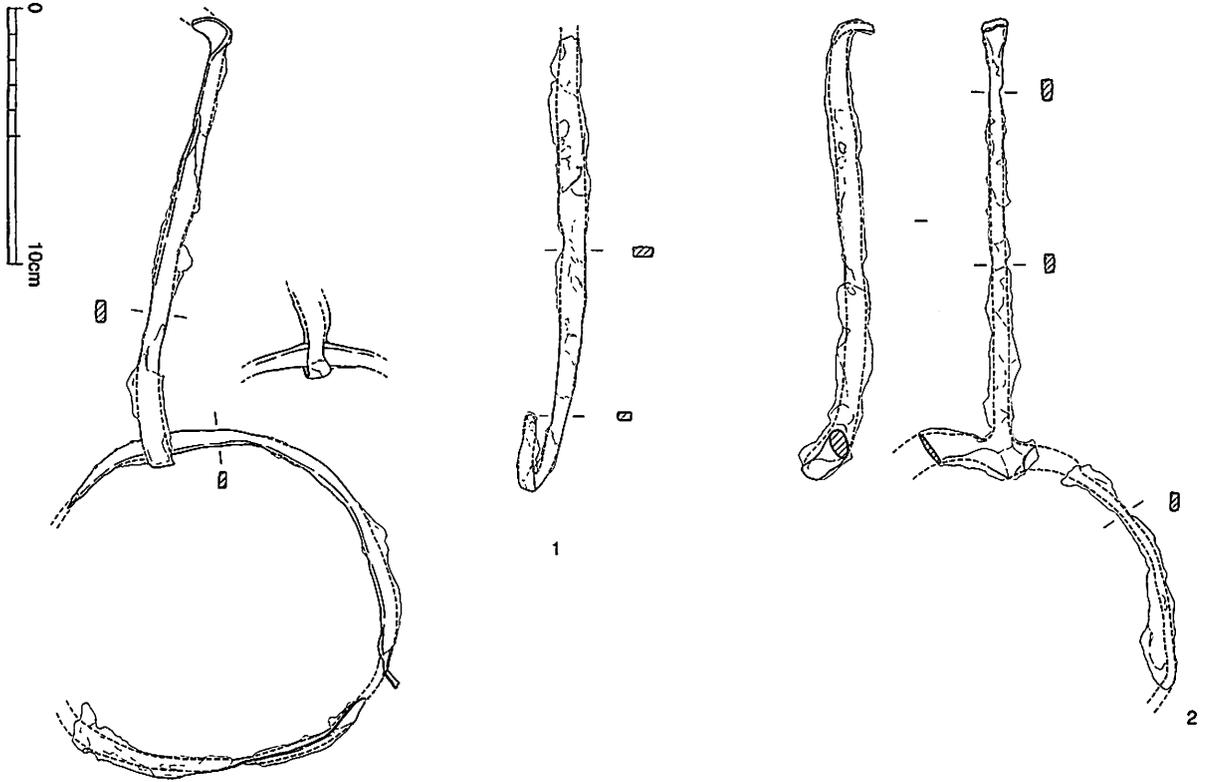
第40図 SK139・SK140 実測図



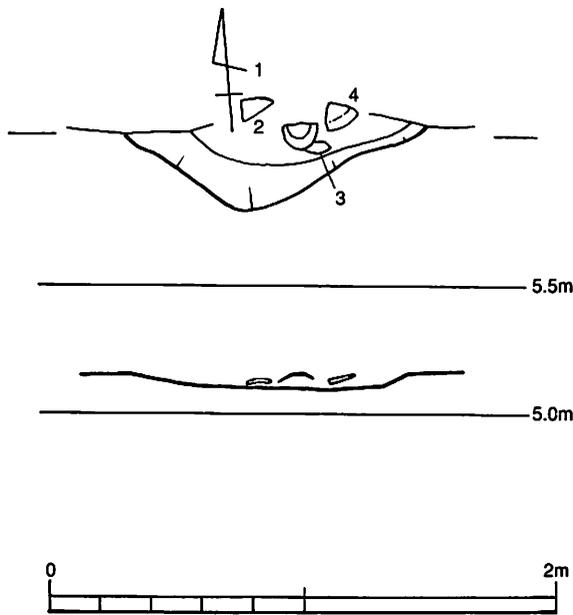
第41図 SK164 実測図



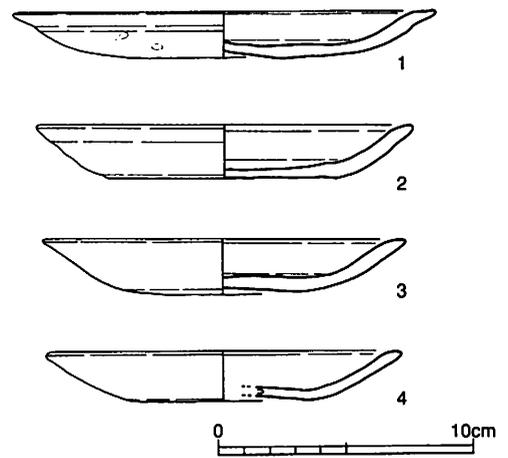
第42図 SK164 出土遺物実測図



第43图 SK164 出土遺物実測図



第44図 SK130 実測図



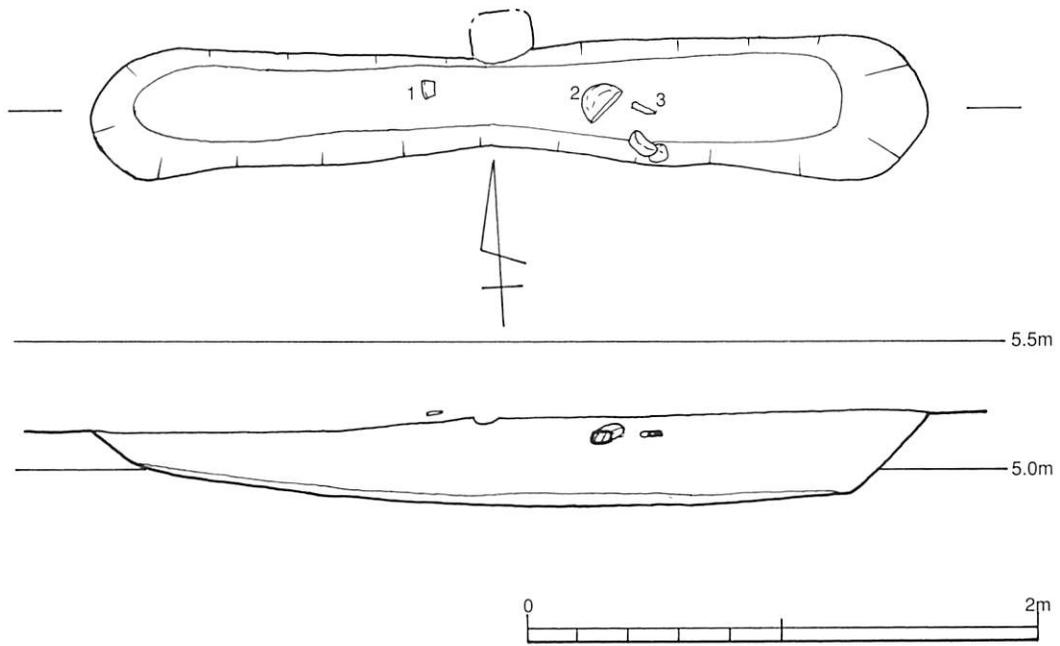
第45図 SK130 出土遺物実測図

第4節 包含層出土の遺物

包含層から出土した遺物を説明する。

3層の遺物（第96図1～27） 1～3は京都系土師器。4は青磁香炉。5は景德鎮青花碗で外面には毛彫り紋をもつもの。6は白磁。見込み、外面上部以外施釉の白磁碗。7は陶器。8・9は瀬戸美濃系陶器。13は内面毛彫り紋、外底面青花の皿。14は天目碗陶器。18は肥前陶器播鉢。19は肥前陶器。26・27は蛇紋岩の玉石。

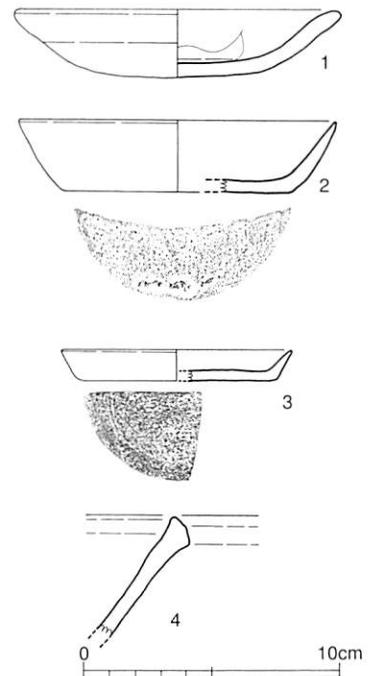
4層の遺物（第97図1～8・第98図1～23・第99図1～12・第100図1～12・第101図1～26・第102図1～14・第103図1～15） 第97図は糸切り底の在地系土師器皿で、1は14世紀、2～8はロクロ目の残る土師器で、2と3は内面にかすかなロクロ目があり16世紀初頭頃のもの。第98図は京都系土師器で1期ないし2期である。第99図は瓦質火鉢である。2は外面に巴紋の刻



第46図 SK191 実測図

印が、3～5は双頭蕨手流雲紋の刻印がある。12は底部。第100図4は中世6a期の、5・8は近世1b期の備前焼播鉢。12は備前焼瓶の頸部。第101図1は中国龍泉窯青磁碗をメンコ状に打ち欠いたもの。2は青磁蓋。3は中国龍泉窯青磁掛け花入れの底部。4は中国磁州窯陶器壺で鉄絵をもつ。器面は両面とも灰白色。15世紀頃。5は白磁合子の身。6は中国白磁碗。7は15世紀の白磁皿。高台は円く削られ、接地面は露胎。8は白磁皿。12は毛彫り紋を外面に施した白磁碗。13は碁笥底の青花皿C群。14は中国?州窯磁器碗。15は中国景德鎮窯の角形花瓶。16は中国?州窯青花碗。17は?州窯青花皿。18は中国景德鎮青花碗。21は中国景德鎮青花皿E群。22は中国景德鎮青花碗C群。23は中国景德鎮青花碗。24は関西系陶器皿で、外面下半から底面だけ施釉。25は肥前磁器碗。26は刷毛目紋で17世紀末前後の肥前系陶器香炉。第102図は京都系土師器。第103図1～6は中国南部製焼締め陶器。1・2は鉢、4は壺の蓋。5は茶入れ。6は播鉢。7～12は天目碗瀬戸美濃陶器。13は中国南部製翡翠釉菊花皿。14は中国華南三彩の鳥形水注の羽。15も華南三彩の器物水注。

4層の金属製品・ガラス玉 (第104図1～26・第105図1～23) 第104図は14の刃物以外は鉄釘。第105図1～9も鉄釘。12～18は銅製品で、12は刀装具、13は鍵、14は煙管。19は鉛製の火縄銃弾丸。直径1.25cmで重量8.6g。20～



第47図 SK191 出土遺物実測図

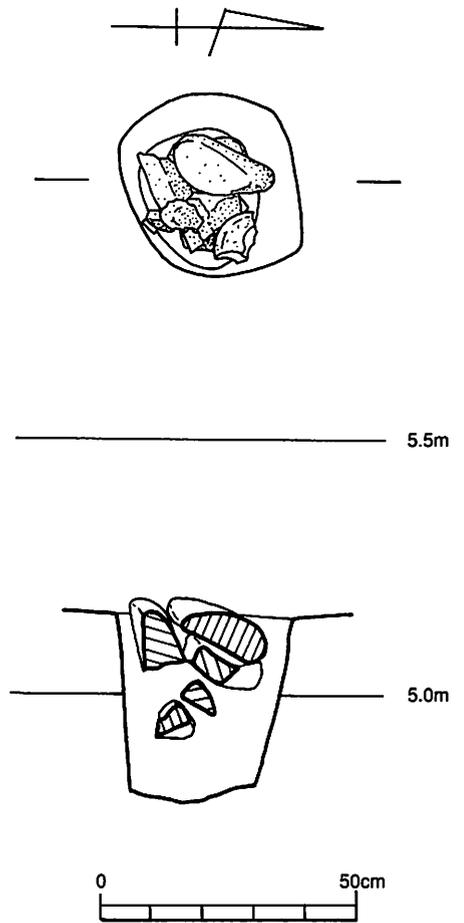
23は穿孔されたガラス玉。色調は20が白色、他は緑色である。

4層の銭貨（第106図1～13）1は開元通宝（初鑄：唐621年）、2は至道元宝（初鑄：北宋995年）、3は祥符通宝（初鑄：北宋1009年）、4は天聖元宝（初鑄：北宋1023年）、5は景祐元宝（初鑄：北宋1034年）、6は熙寧元宝（初鑄：北宋1068年）、7～9は元豊通宝（初鑄：北宋1078年）である。他は不詳。

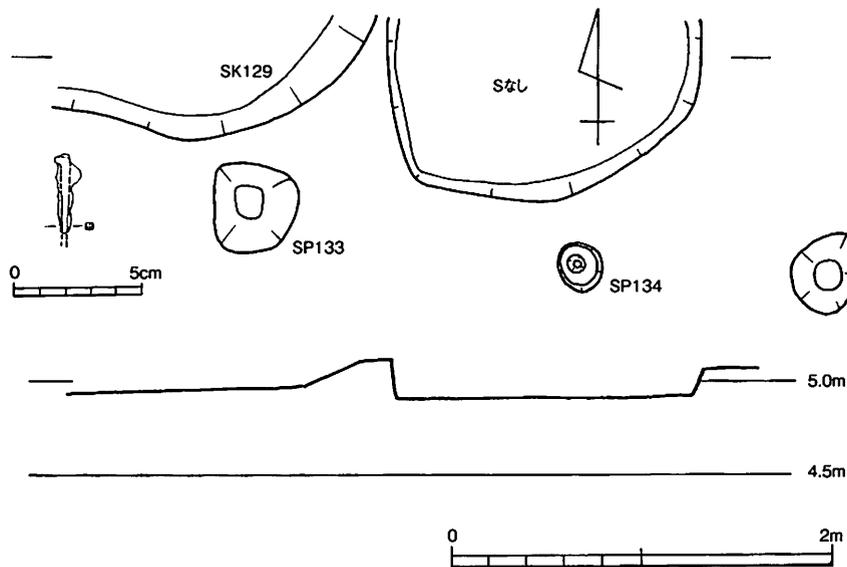
4層その他の遺物（第107図1～15）1は埴塙、2は緑釉土師質土器の碗で国内製。3～8は土錘。9は土師器の高坏脚部。10は土師器片を再加工したもの。11～13は瓦質土器。14は結晶片岩製砥石。使用面は一面で、断面左から下面は自然面のままである。15は土師質の鋳型で、製品は刀装具。長さ5.4cm、幅2.55cm、厚さ1.6cm。

5層の遺物（第108図1～18）1～3は糸切り底の在り系土師器、4は京都系土師器の箸置き。6～8は瀬戸美濃陶器の天目碗。9～11は土錘。12～17は鉄釘、18は銅製品である。

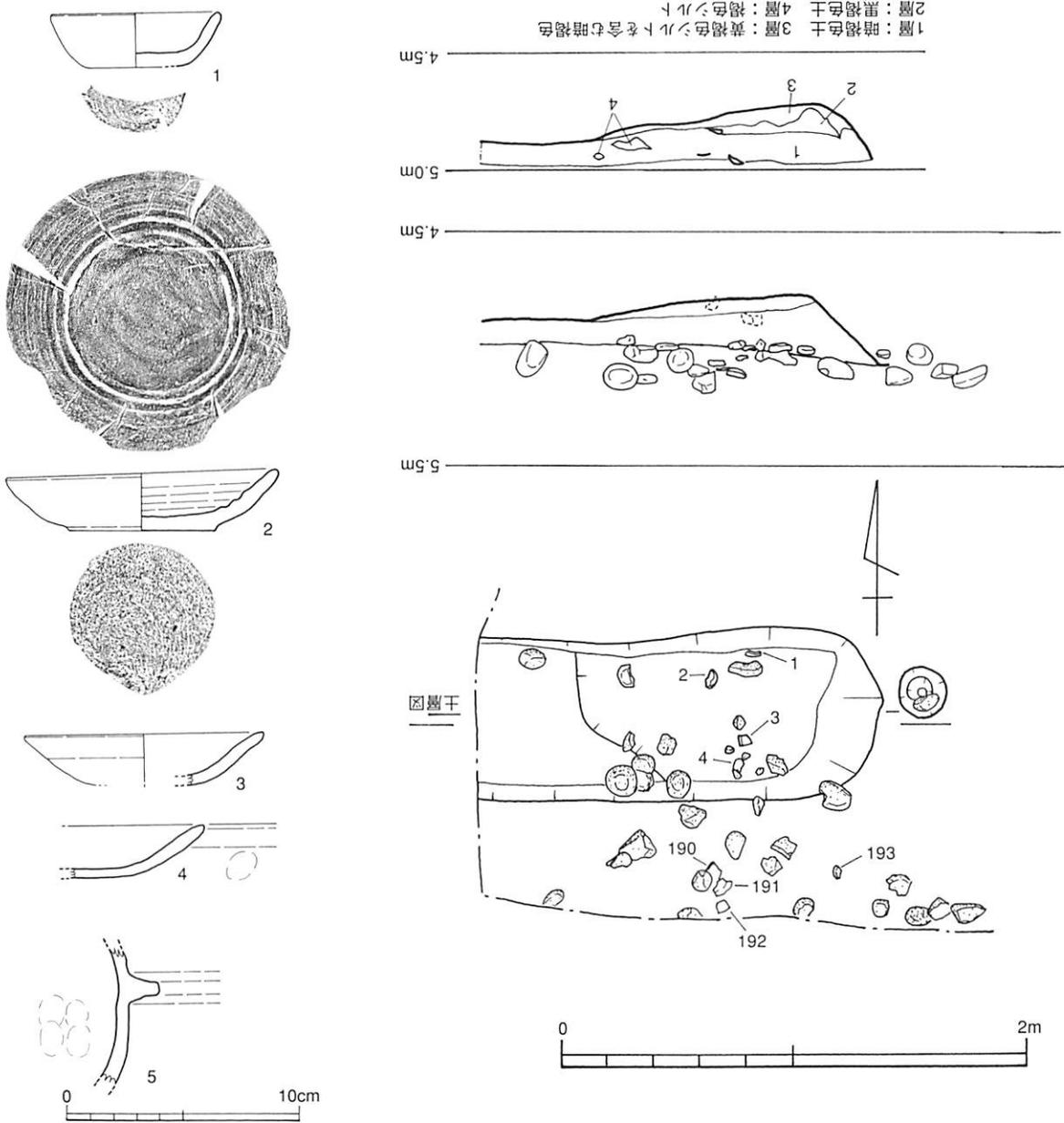
6層の遺物（第109図1～16・第110図1～26）第109図は糸切り底の在り系土師器。1～5・7～9は14世紀代のもの。6・13・14はロクロ目の残る16世紀前葉から中頃のもの。第110図1～9は京都系土師器で、1期ないし2期に属するものである。10は東播系の鉢、11は中国龍泉窯青磁碗。12・13は備前



第48図 SP169 実測図



第49図 SK129・SP133・134 実測図・SP134 出土遺物

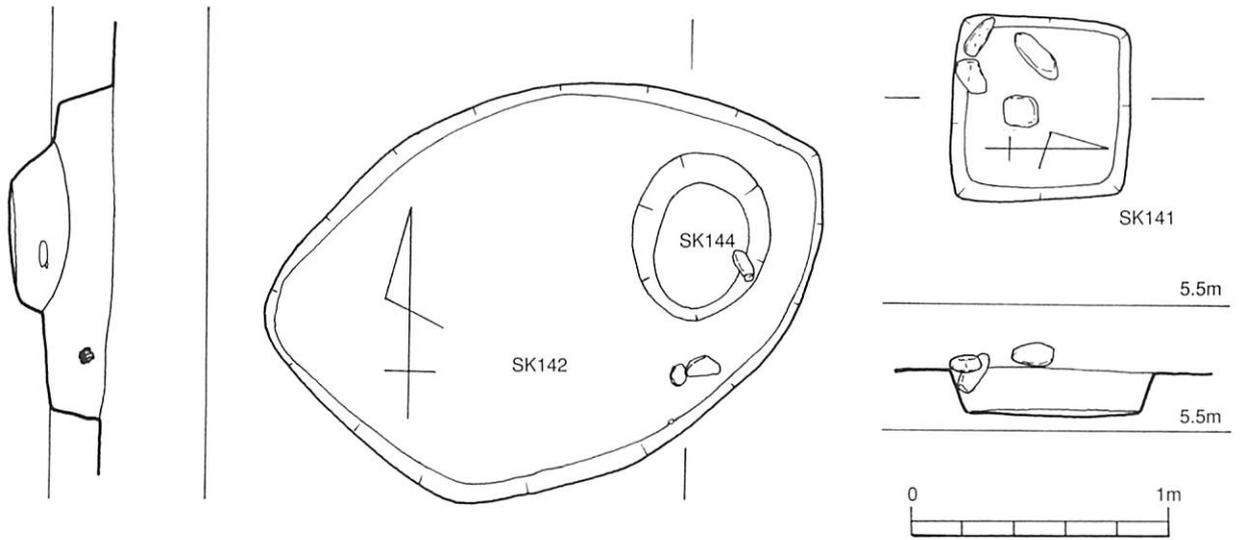


第50図 SK200 実測図・出土遺物実測図

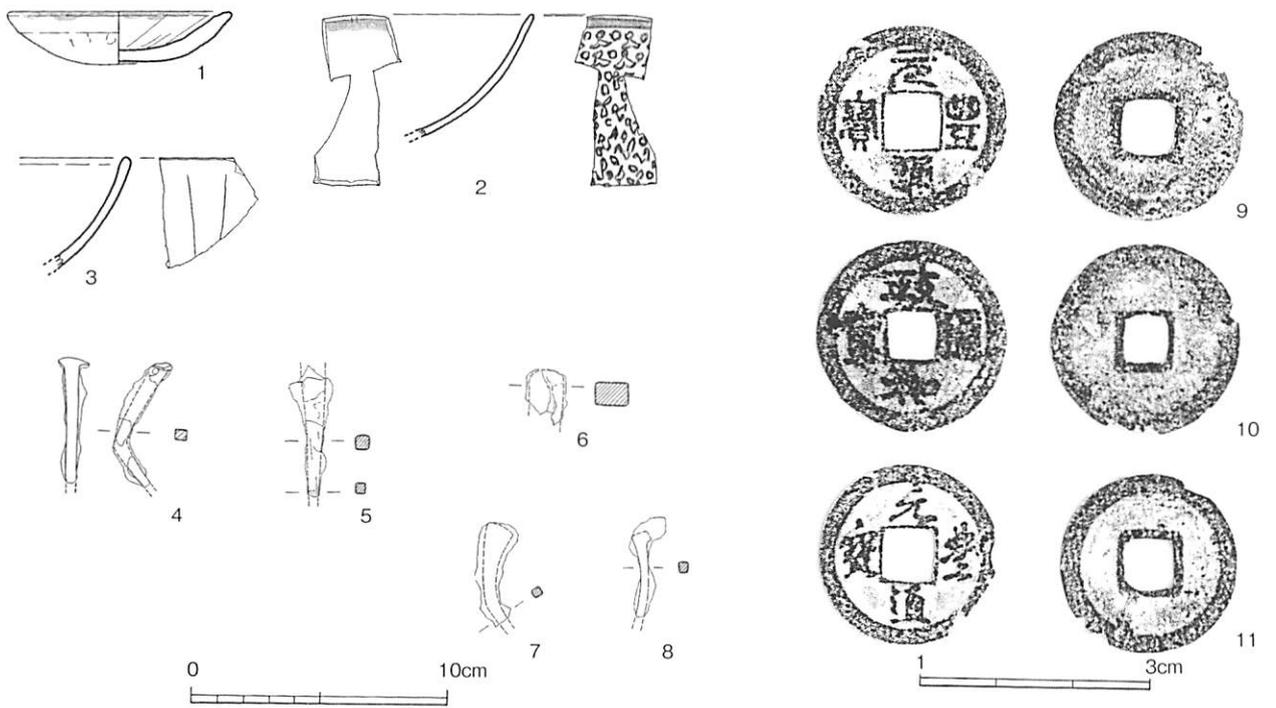
焼。14は青磁。15は吉備系土師器で断面三角の高台がつく。17は瀬戸美濃緑釉陶器の小皿。18は瀬戸美濃のそぎ皿。19は同天目碗。20は中国?州窯青花碗。21～23は土錘。24～26は砥石。23は黒い石材の砥石。24は平たい面を二面使用する天草産砂岩製。全周を使用している。25は両面と両側面を使用する物。天草砂岩製。27は弥生土器。28は古代の土師器甌で、把手が上に延び器体に接合した豊後大分型甌。

その他の遺物 (第111図1～13) 1は中国景德鎮青花皿。2は中国龍泉窯青磁で、櫛描沈線紋・見込みに花紋とヘラ切り紋をもつ。外底面は茶色。4は中国南部製焼締め陶器。5は中国龍泉窯青磁皿。6は中国?州窯磁器碗。7は白磁皿で、内面に砂目積み痕2個がつく。9・19は土師器坏。11・12は土錘。13は須恵質の甌。

番号採上げ遺物 (第112図1～9) 1～3は在地系土師器皿、4～6は京都系土師器皿である。7は須恵質の亀山系甌である。8は瓦質の火鉢。9は瓦質の火鉢で外面に巴紋の刻印がつく。

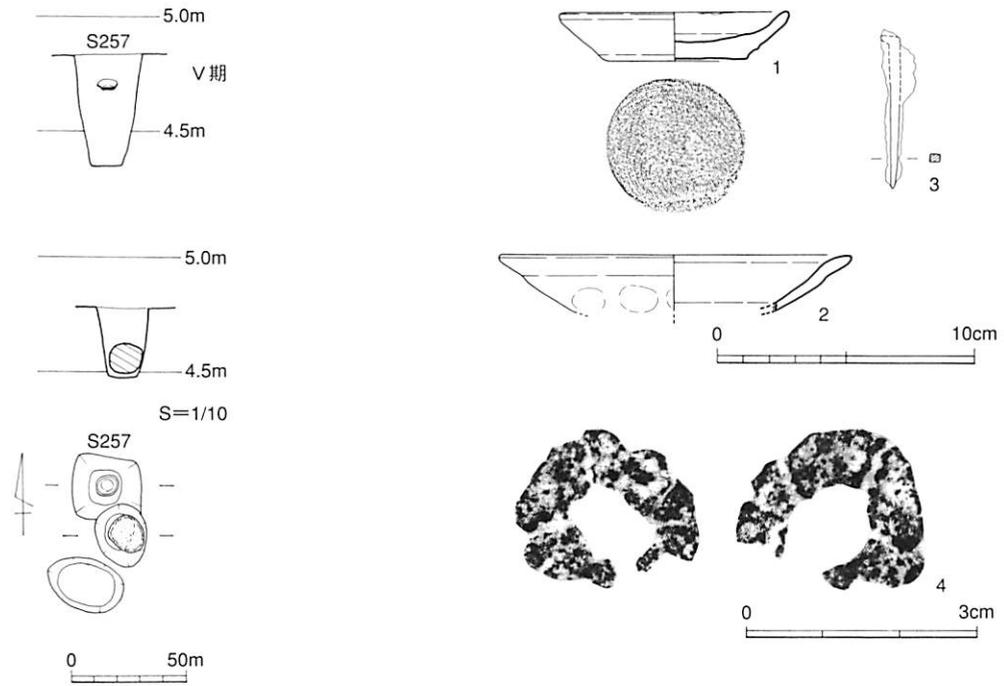


第51図 SK141・142・144



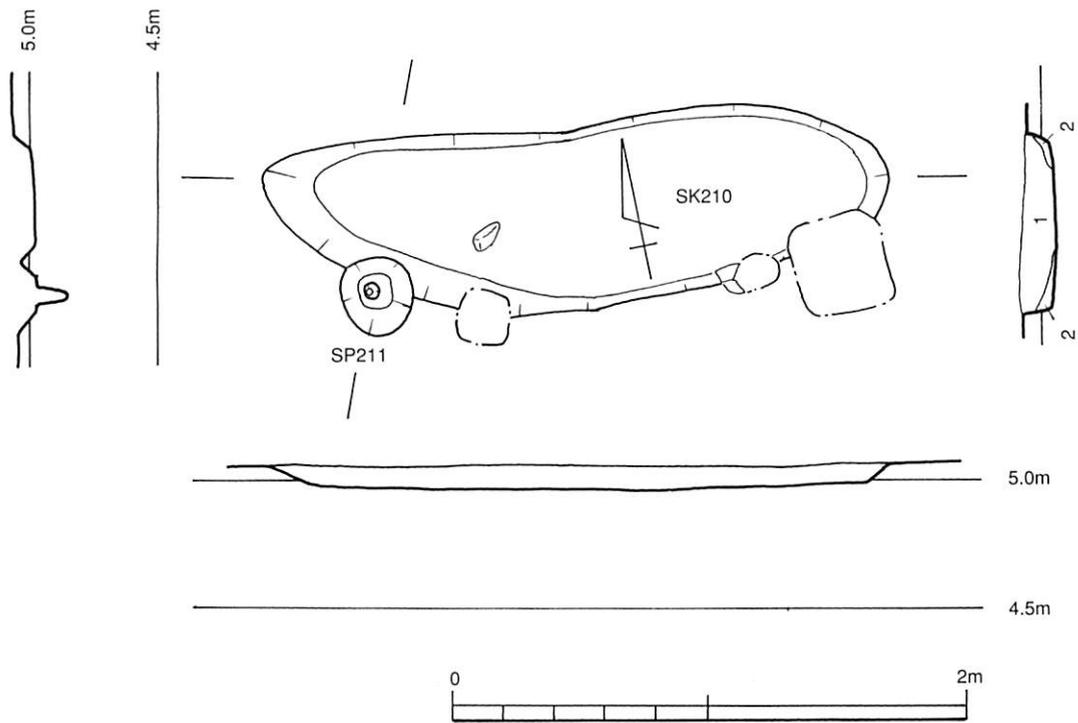
第52図 SK108 出土遺物実測図

6層の金属製品・石製品（第113図1～24）1～19は鉄釘、20は鉄製の環状の製品。21は銅の溶解物。22は断面が円い棒状の銅製品。23は不詳の銅銭。24は黒色の石材を用いた古代の石帯破片で、片面表面に円形の窪み2個が並ぶ。

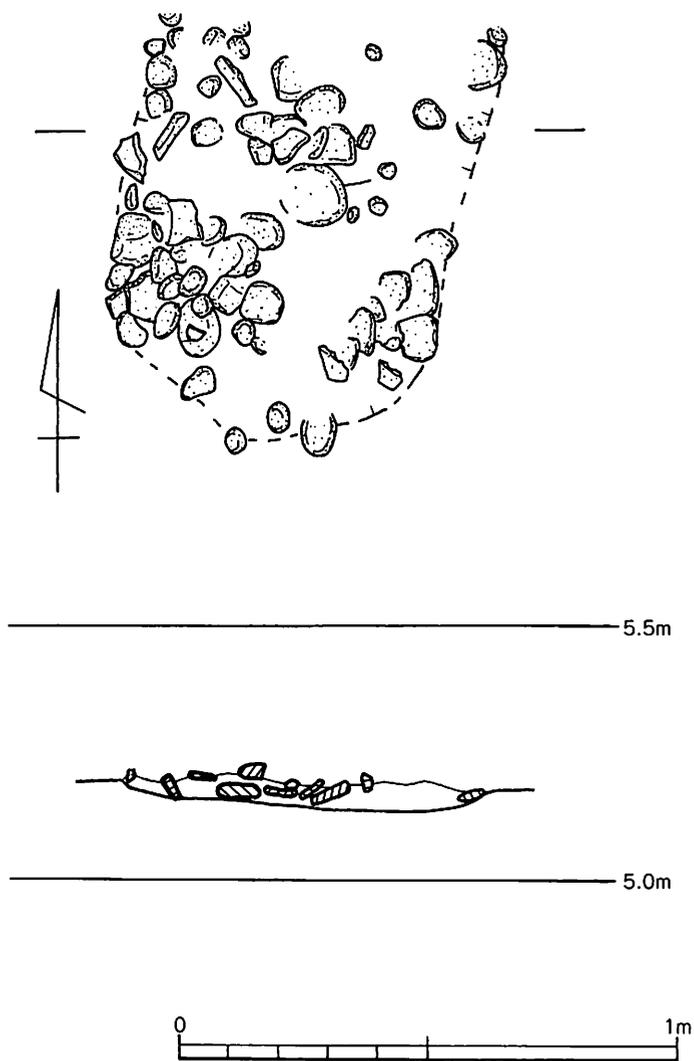


第53図 SP257 実測図

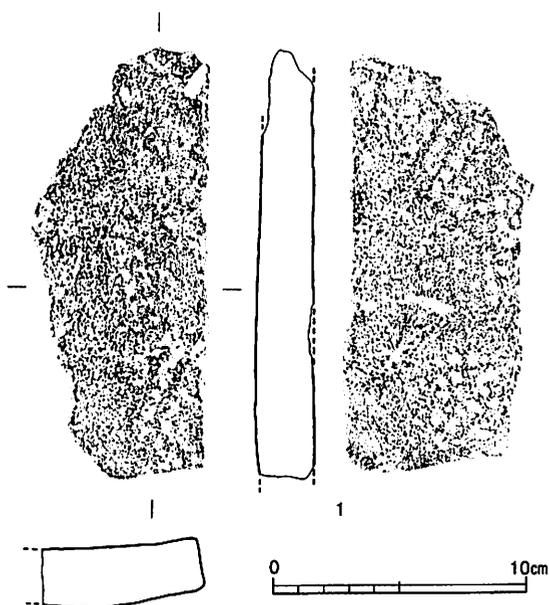
第54図 SP257・SP211 出土遺物実測図



第55図 SK210 実測図



第56図 SX100 実測図



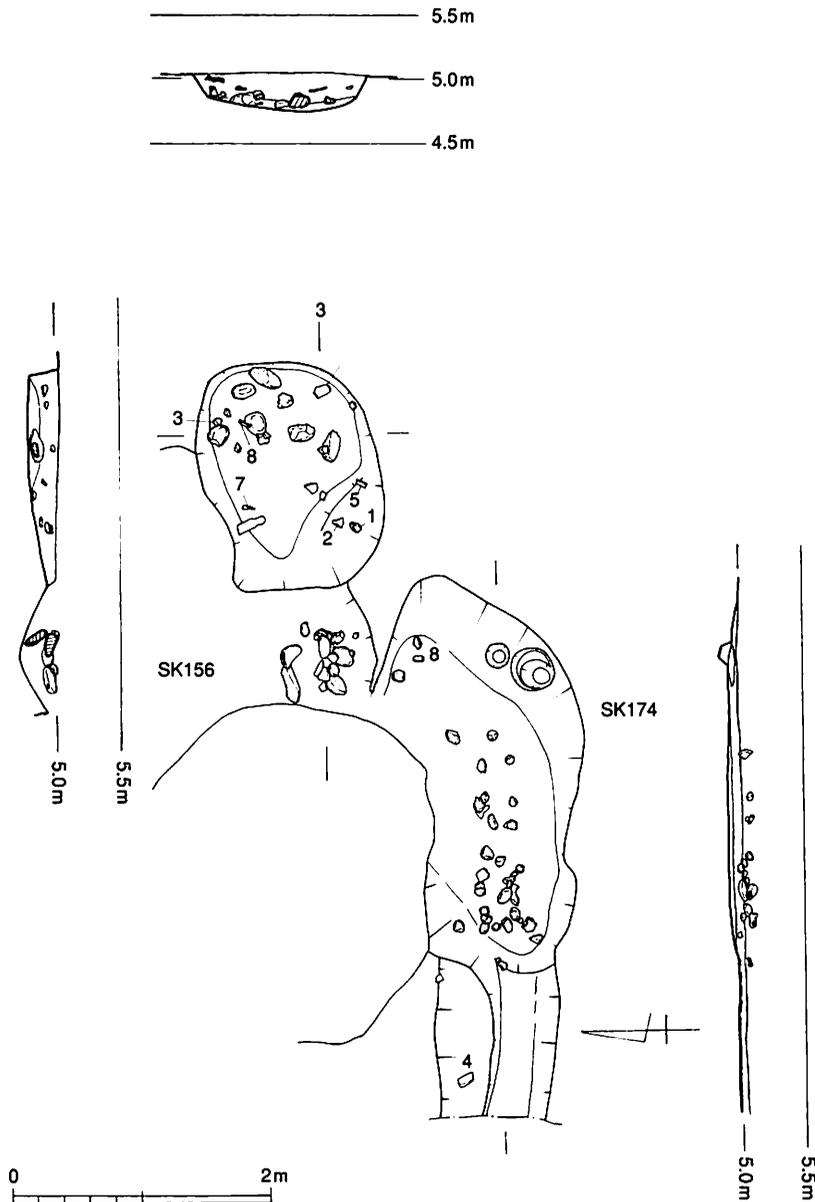
第57図 SX100 出土遺物実測図

○ 15世紀末から16世紀初頭の遺構

概要 京都系土師器が現れず、在地系の内面にロクロ目を残す土師器が盛行する時期である。井戸SE104と土坑SK127・148とがある。SK157もこの頃か。

SK157 (第58図) D区南部に位置する円形土坑である。規模は長さ1.8m、幅1.4m、深さ0.2m強で、標高5.05mで検出した。

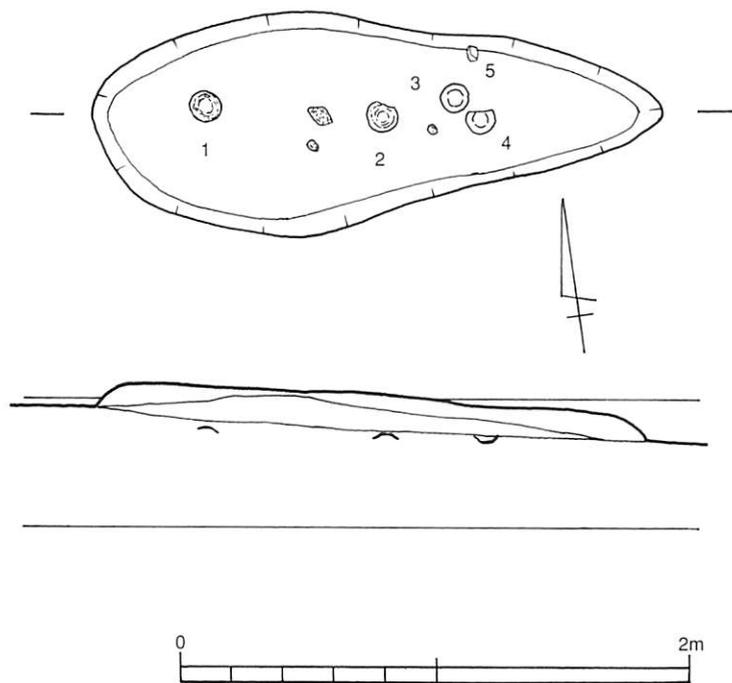
出土遺物 (第61図1～10) 1は15世紀頃と思われ他とは異なり新しい。2～4は14世紀の特徴をもつ。



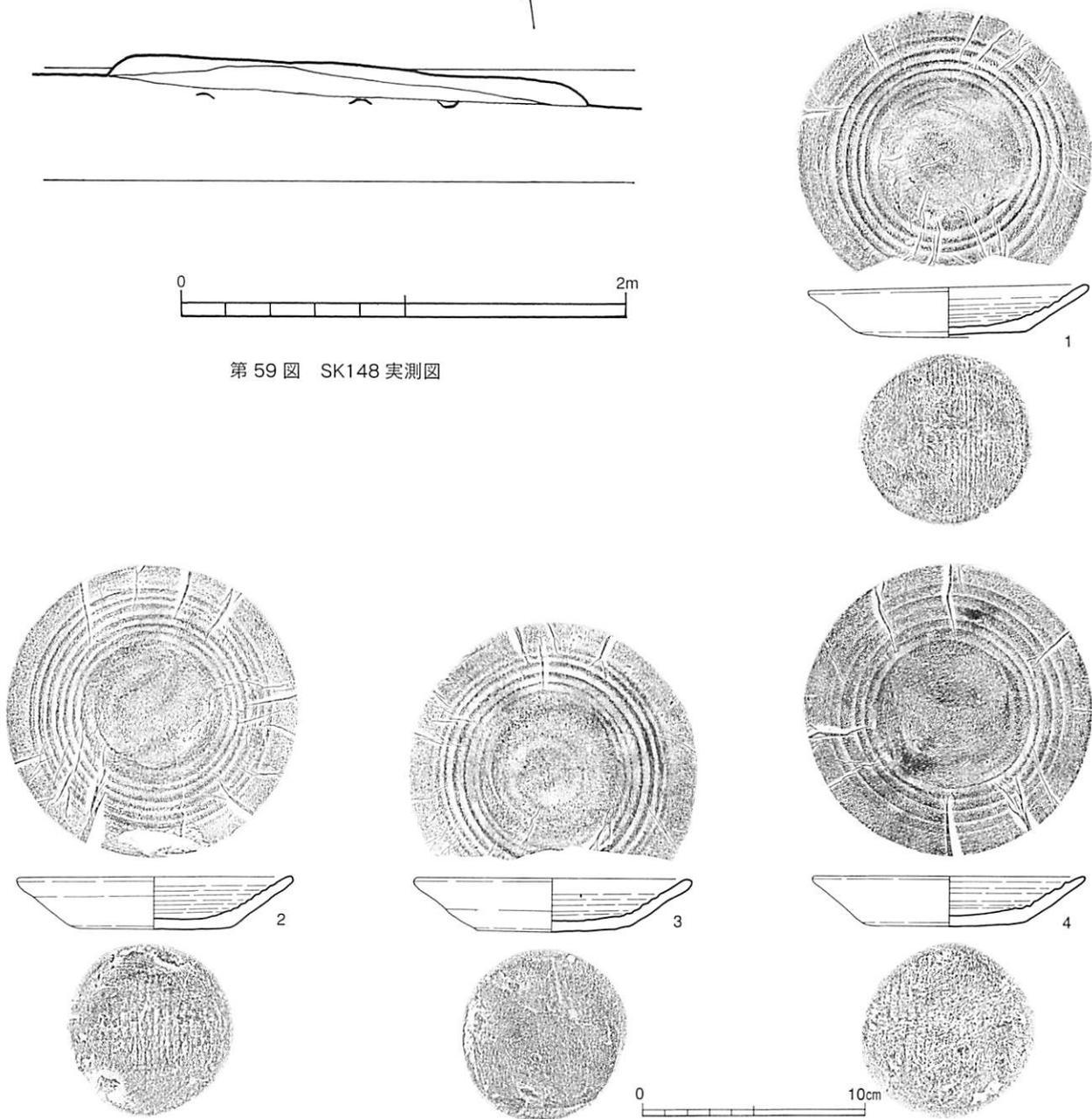
第58図 SK157・SK174実測図

SK148 (第55図) E区西部に位置する長さ2.1m、幅0.95m、深さ0.1m強の楕円形土坑である。検出面で4個の皿が出土した。うち2個は完形品であった。

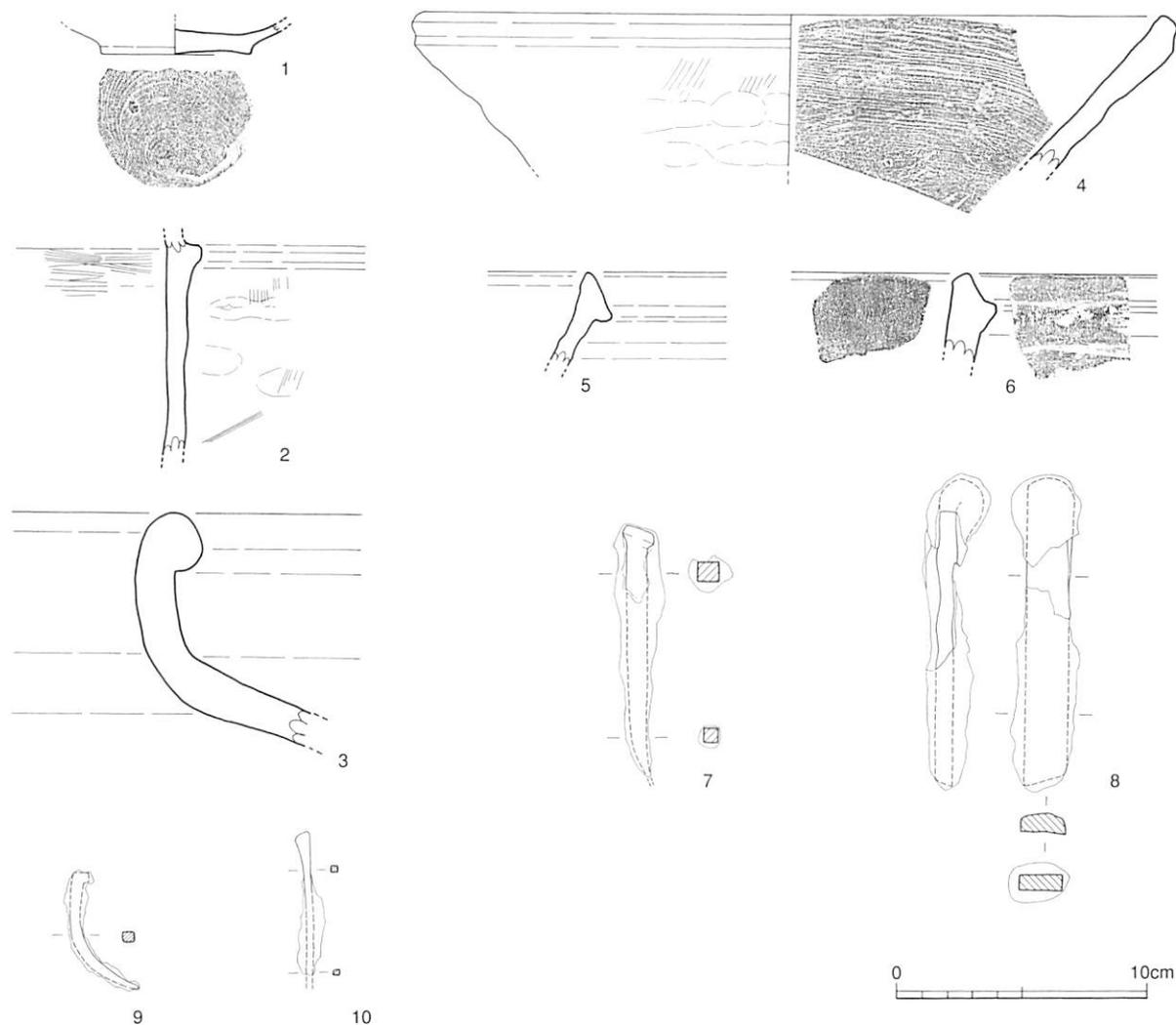
出土遺物 (第56図1～4) 4点とも在地系の土師器皿である。胎土は同じで橙褐色を呈し、外底面に板状圧痕をつける。



第59図 SK148実測図



第60図 SK148出土遺物実測図



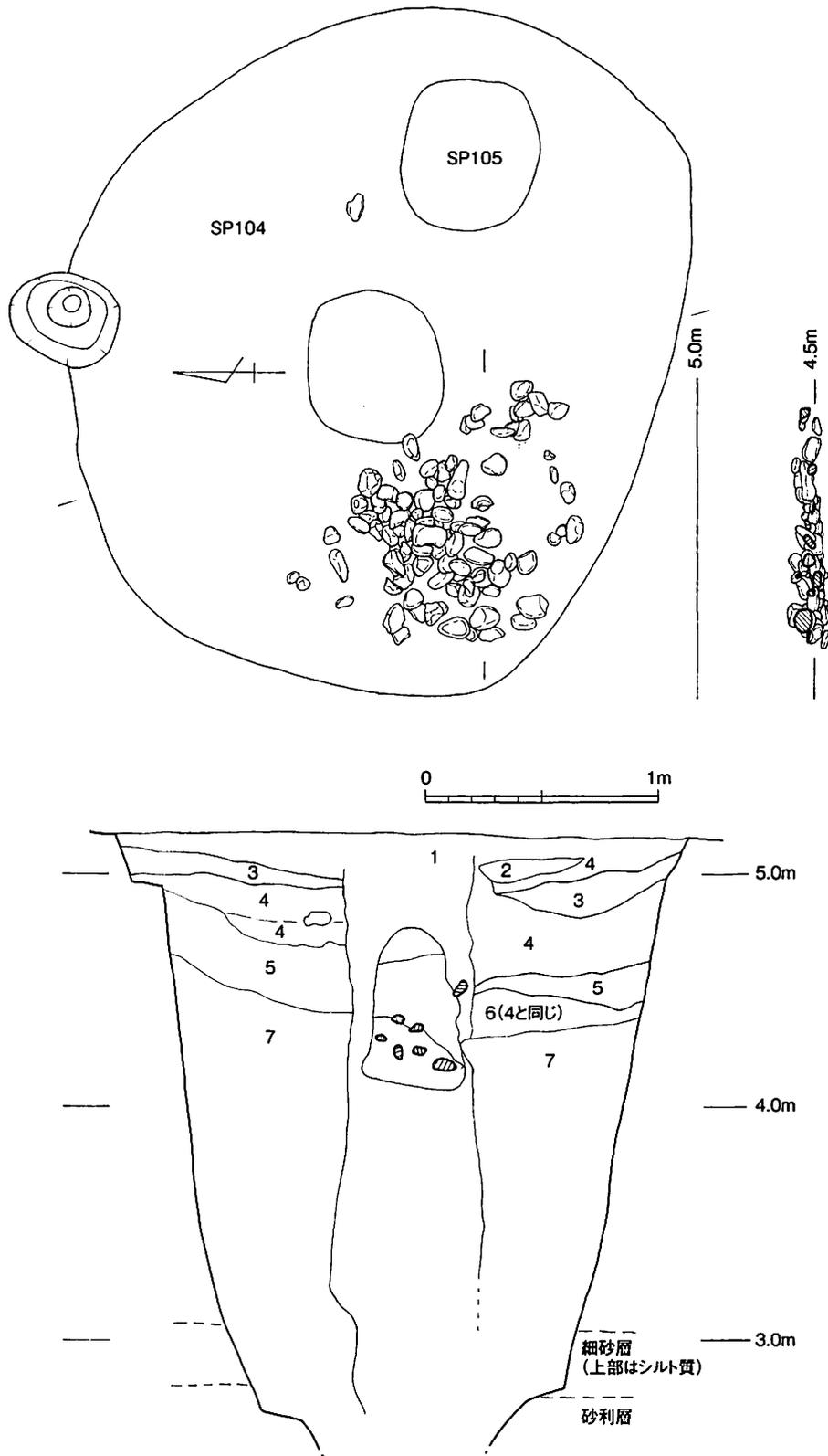
第61図 SK157 出土遺物実測図

SE104 (第62図) E区中央部で検出した。他の穴2個が後から上部に掘り込んでいる。上面は幅3.9m×2.7m、深さは2.6m以上である。平面図中の礫群は掘方埋土の途中に検出した状態である。本体は縦割りして観察したところ、井戸側そのものは残ってなかったが桶を重ねた構造だったと思われる。裏込めの埋土は標高4.5m前後から下は区別が付かず、上部は数度に分けて埋めたことがわかる。井戸下部は湧水のため不詳であったが、底は水溜まり部分が一段低くなっていた。

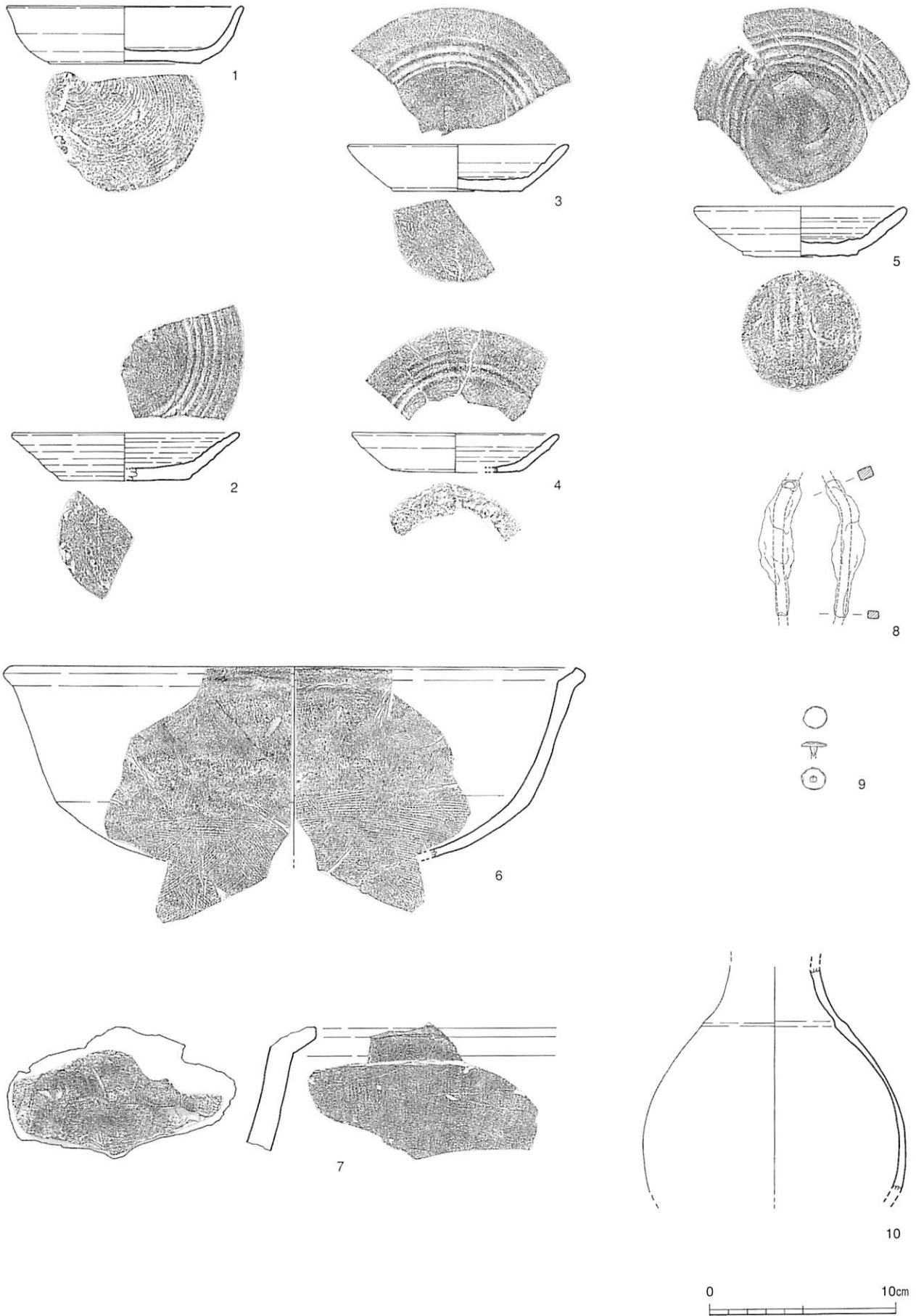
出土遺物 (第63図1～10) 1は14世紀中葉から後葉のもの。2～5がこの時期のもので、2は他の橙褐色土器と胎土が違い淡褐色を呈する。6は外反する口縁部がやや長く、14世紀前半頃のもの。7は長崎県産出の滑石を用いた14世紀の石鍋。10は朝鮮舟徳利。

SK127 (第22図・配置図は64図) E区西部にある細長い土坑である。長さ4.0m、幅0.6m、深さ0.18mで、標高4.8m弱で検出した。

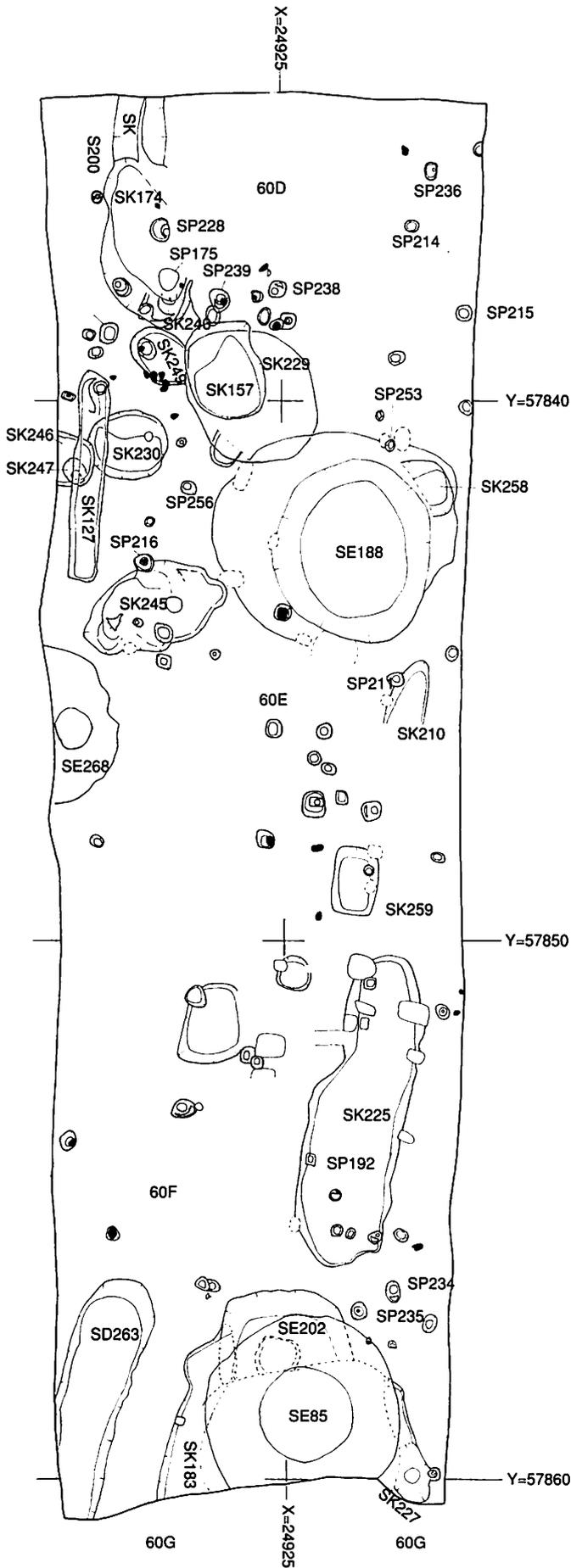
出土遺物 (第23図1～4) 1は橙褐色、2は灰褐色の在り系土師器、3・4は鉄釘である。



第 62 図 SE104 実測図



第 63 図 SE104 出土遺物実測図



第64図 遺構配置図2

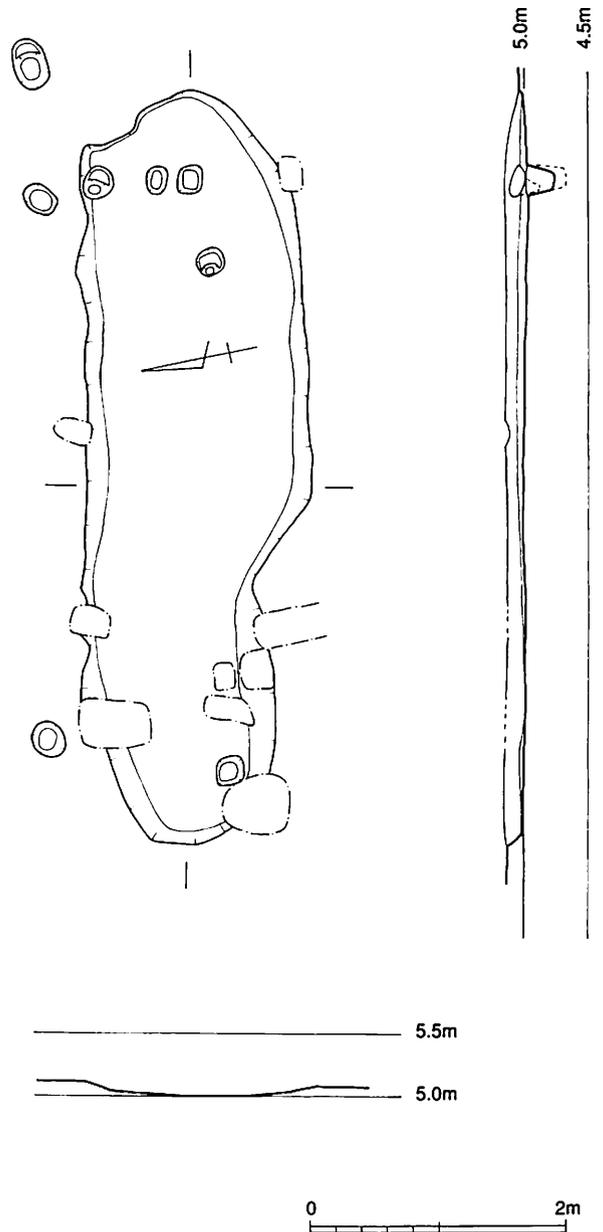
○ 15世紀後葉の遺構と遺物

概要 この時期の遺構は井戸、細長い土坑、少数の土坑がある。

SE188 (第69図) E区北部で検出した井戸である。上部は浅く広い範囲がやや窪み、井戸側は桶積重ねと思われる。

出土遺物 (第70・71図) 土師器皿は口縁部が尖り、器壁は直線あるいは内湾気味に立つ。瓦質鍋は口縁部が短く外反する特徴をもつ。

SK225 (第65図) F区北部に位置し東西方向に長く浅い土坑で、埋土に焼土を含む。明らかにSK141が後から掘り込まれていた。



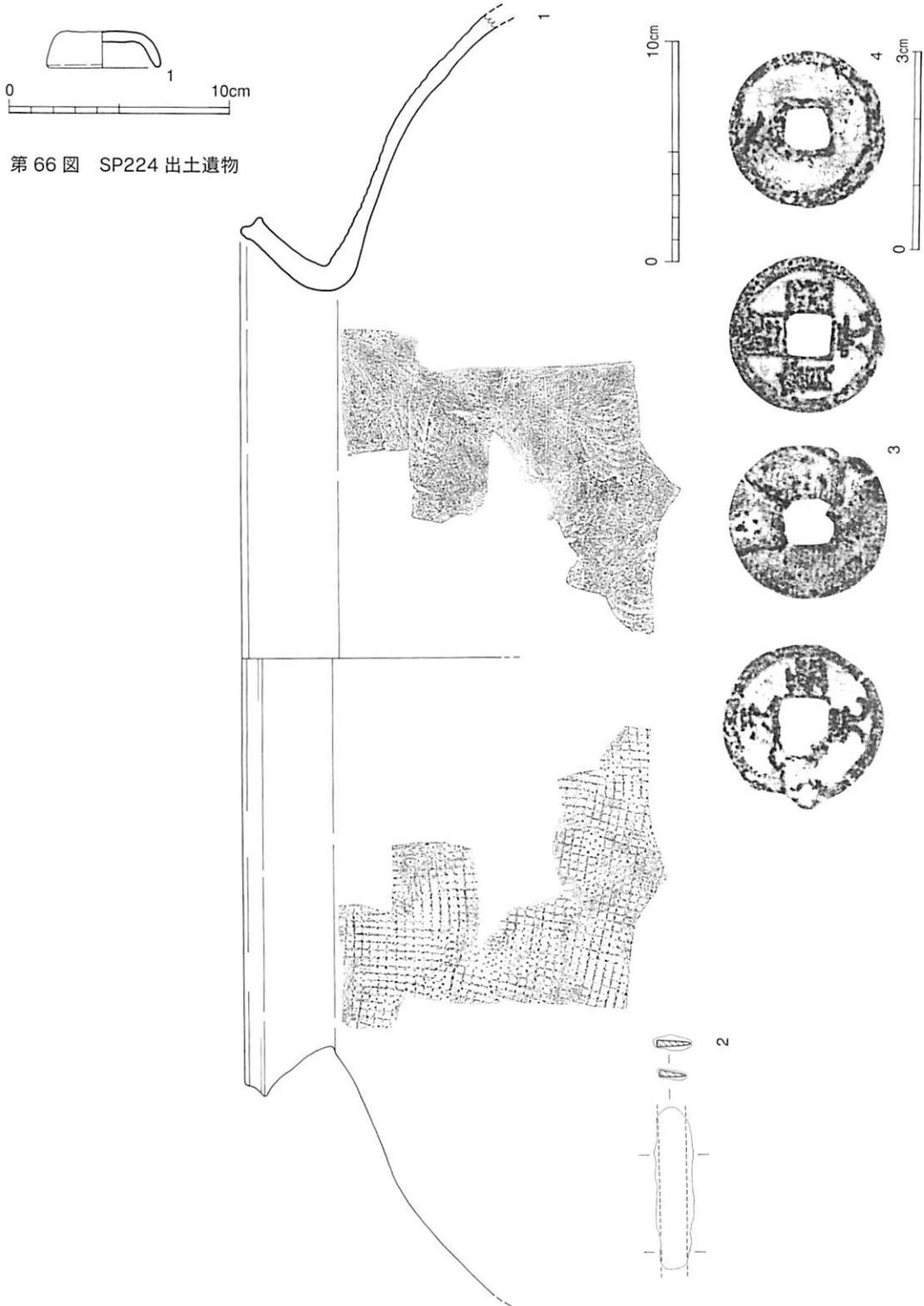
第65図 SK225 実測図

出土遺物（第67図1～4） 1は須恵質の亀山系の甕で、胴部は叩き痕が残る。この破片はS234やF60区6層からも出土している。

SK245（第72図） E区南部に位置する浅い不整形土坑である。

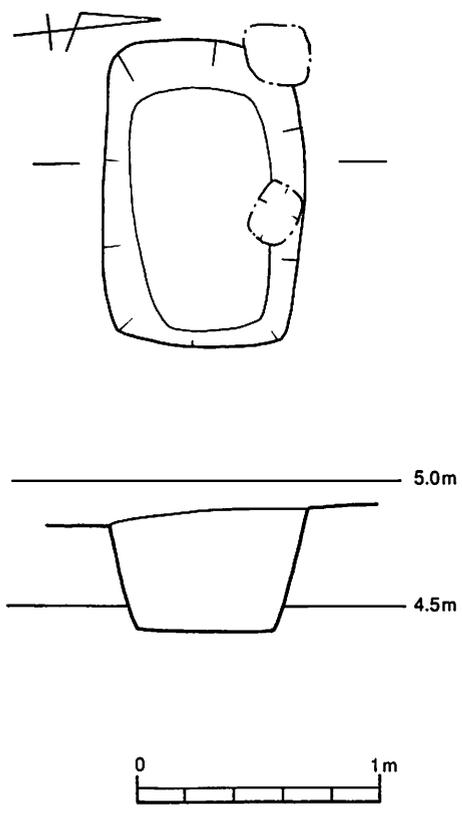
出土遺物（第74図1） 口径13.5cm、器高2.4cmの土師器皿である。外底面には糸切り後、板状圧痕がついている。

SK246（第73図） E区南部に位置し、標高5.0mで検出した。

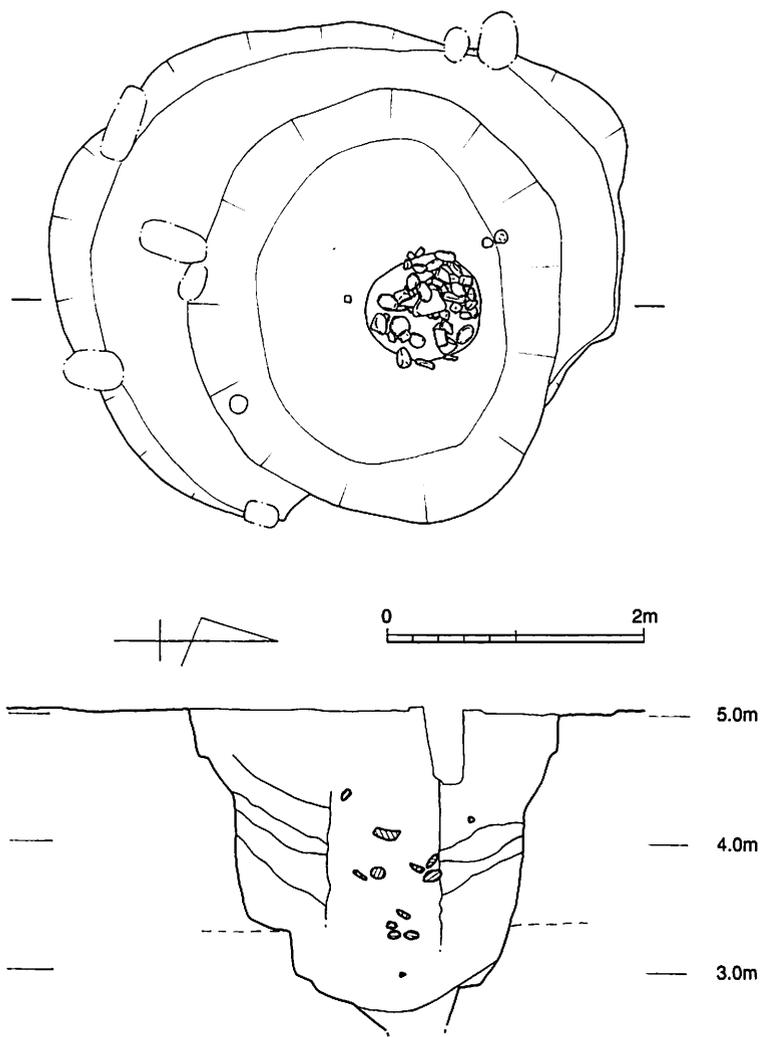


第66図 SP224 出土遺物

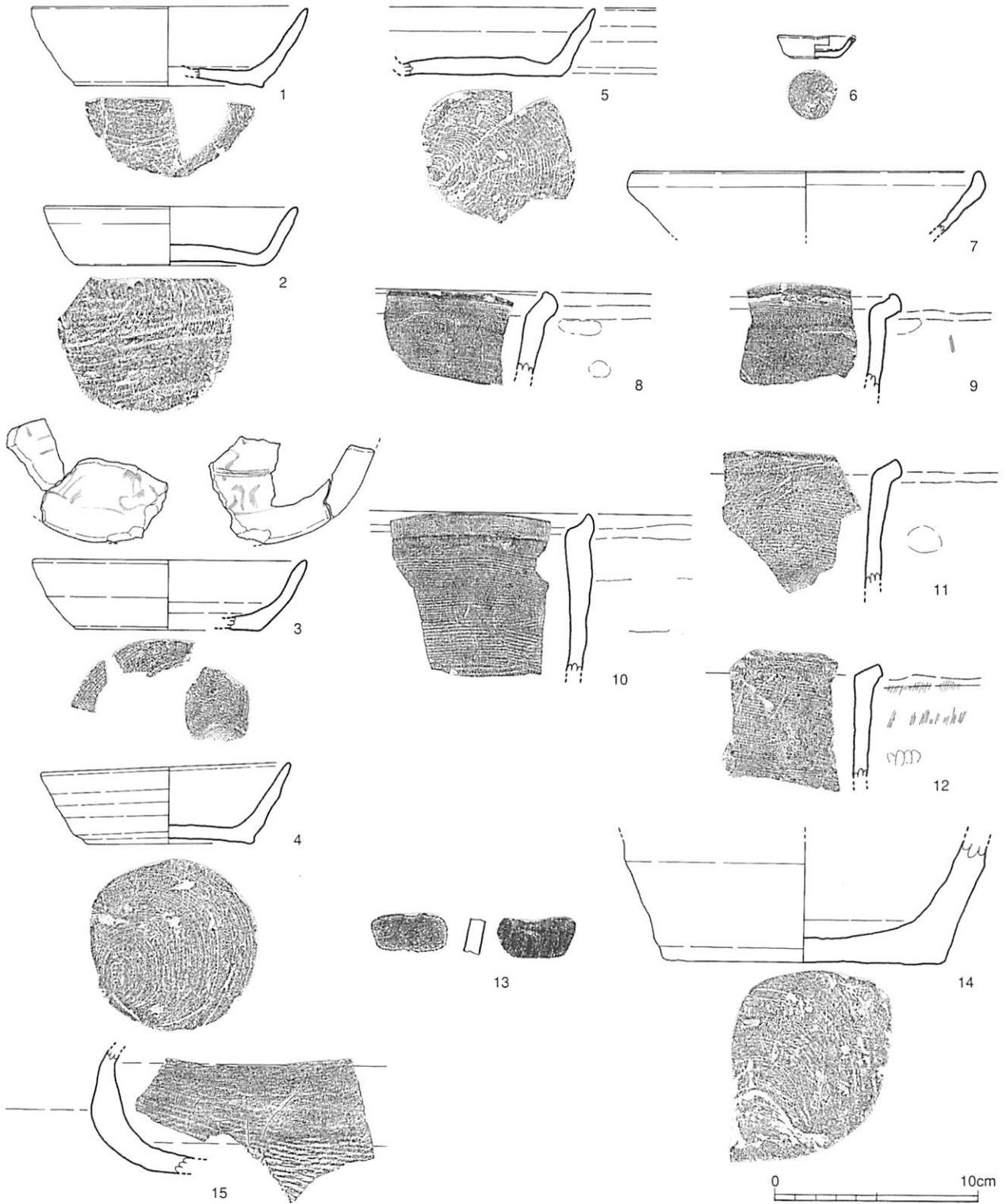
第67図 SK225 出土遺物実測図



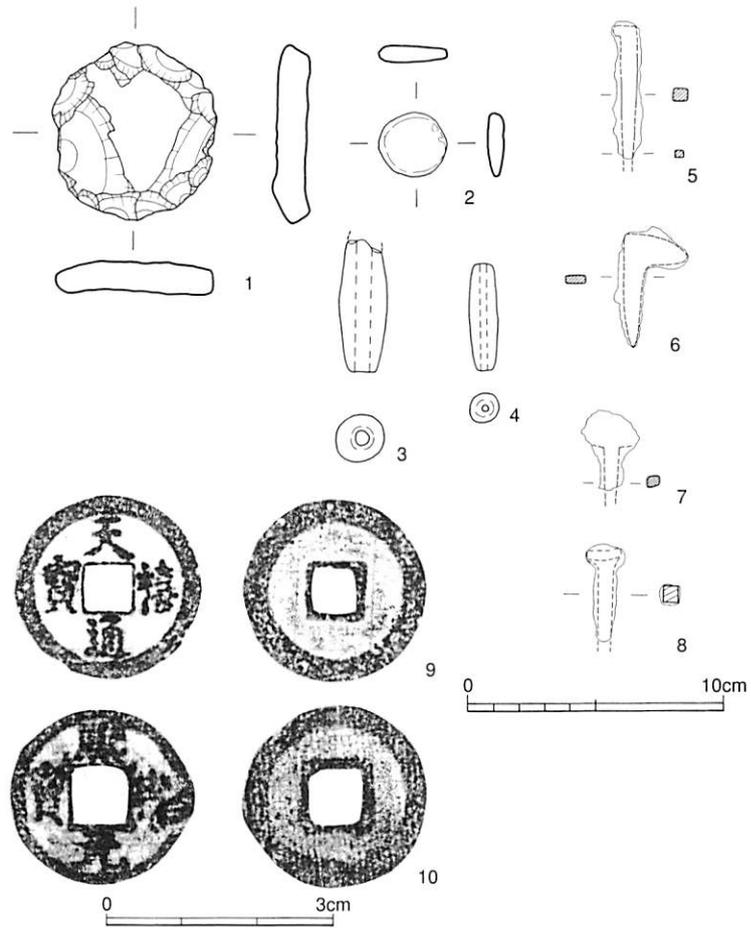
第 68 図 SK259 実測図



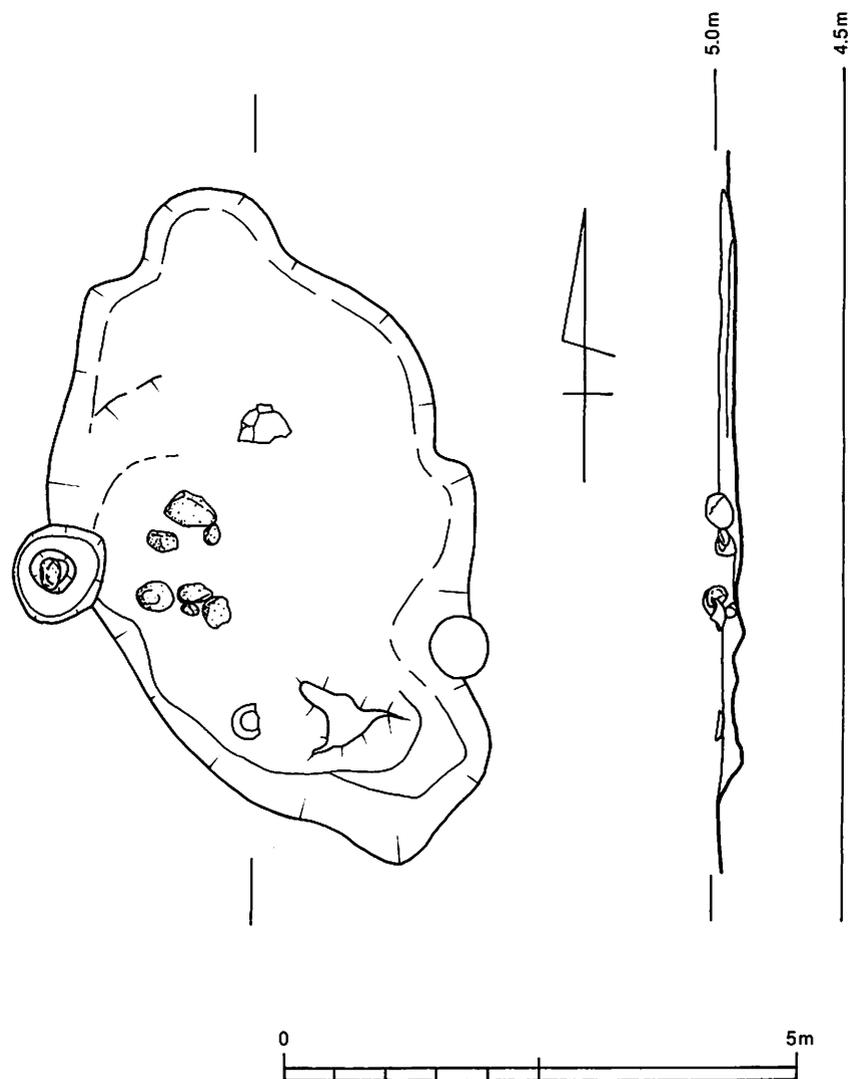
第 69 図 SE188 実測図



第70図 SE188 出土遺物実測図



第71図 SE188 出土遺物実測図



第72図 SK245実測図

出土遺物（第74図2） 亀山系の甕である。

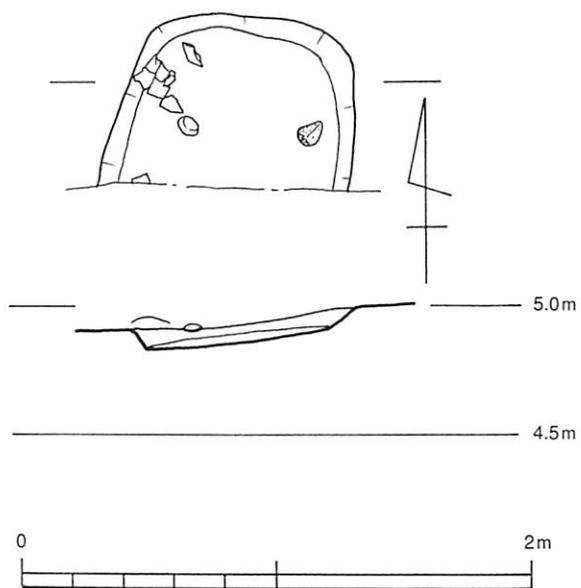
SK223（第29図） D区南部、SK240と重複して位置する。

出土遺物（第30図） 1は瓦質の鉢で、口径33.2cm、内面下部は器面に研磨が残るが、その他の表面は剥落して不詳である。

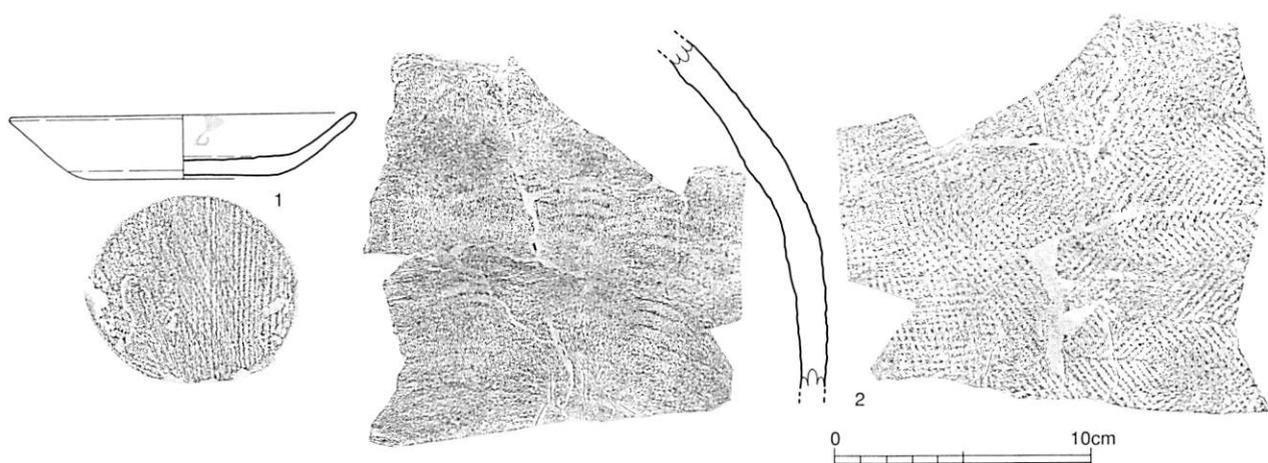
SK258（第75図） E区北部にあり、後から井戸SE85が掘られている。

出土遺物（第76図） 土師器皿・坏、火打鉄等が出土した。

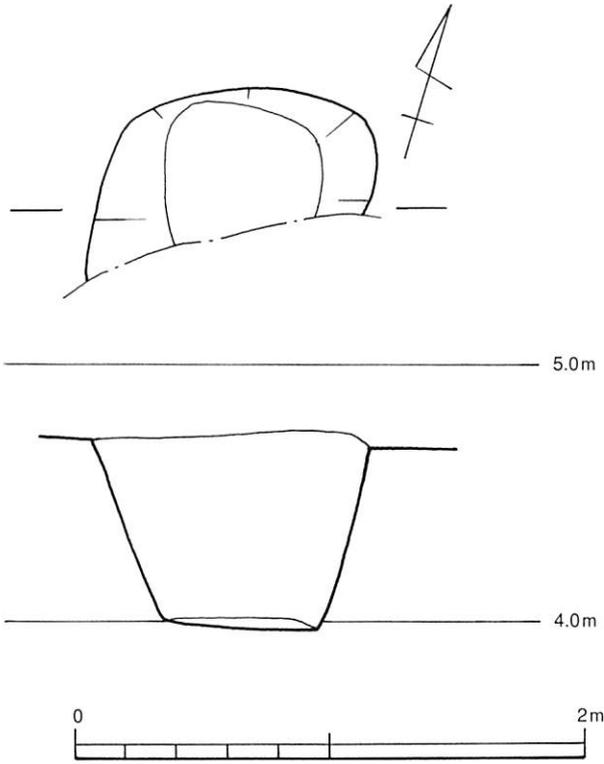
SK259（第68図） E区北部の標高4.9mで検出した長方形の土坑である。遺構の規模は長さ1.3m、幅85cm、深さ50cmで、出土遺物はないので明確な時期は不詳。



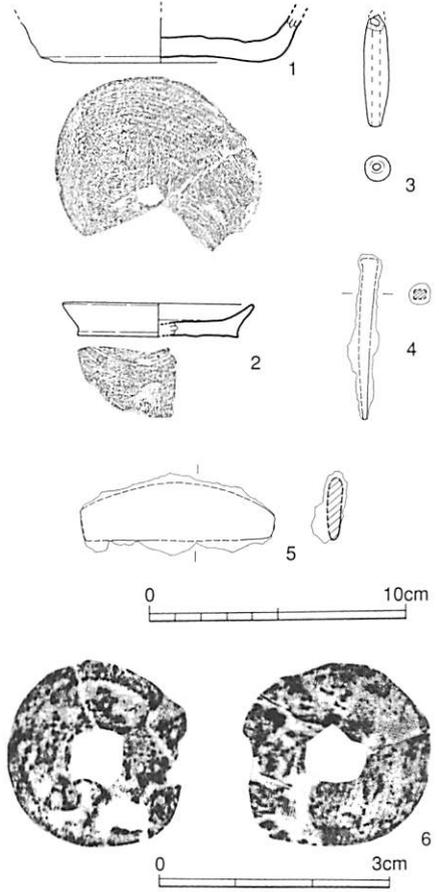
第73図 SK246 実測図



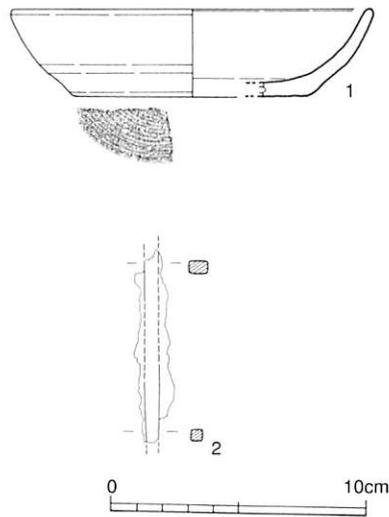
第74図 SK245・SK246 出土遺物実測図



第75図 SK258 実測図



第76図 SK258 出土遺物実測図



第77図 SK183 出土遺物実測図

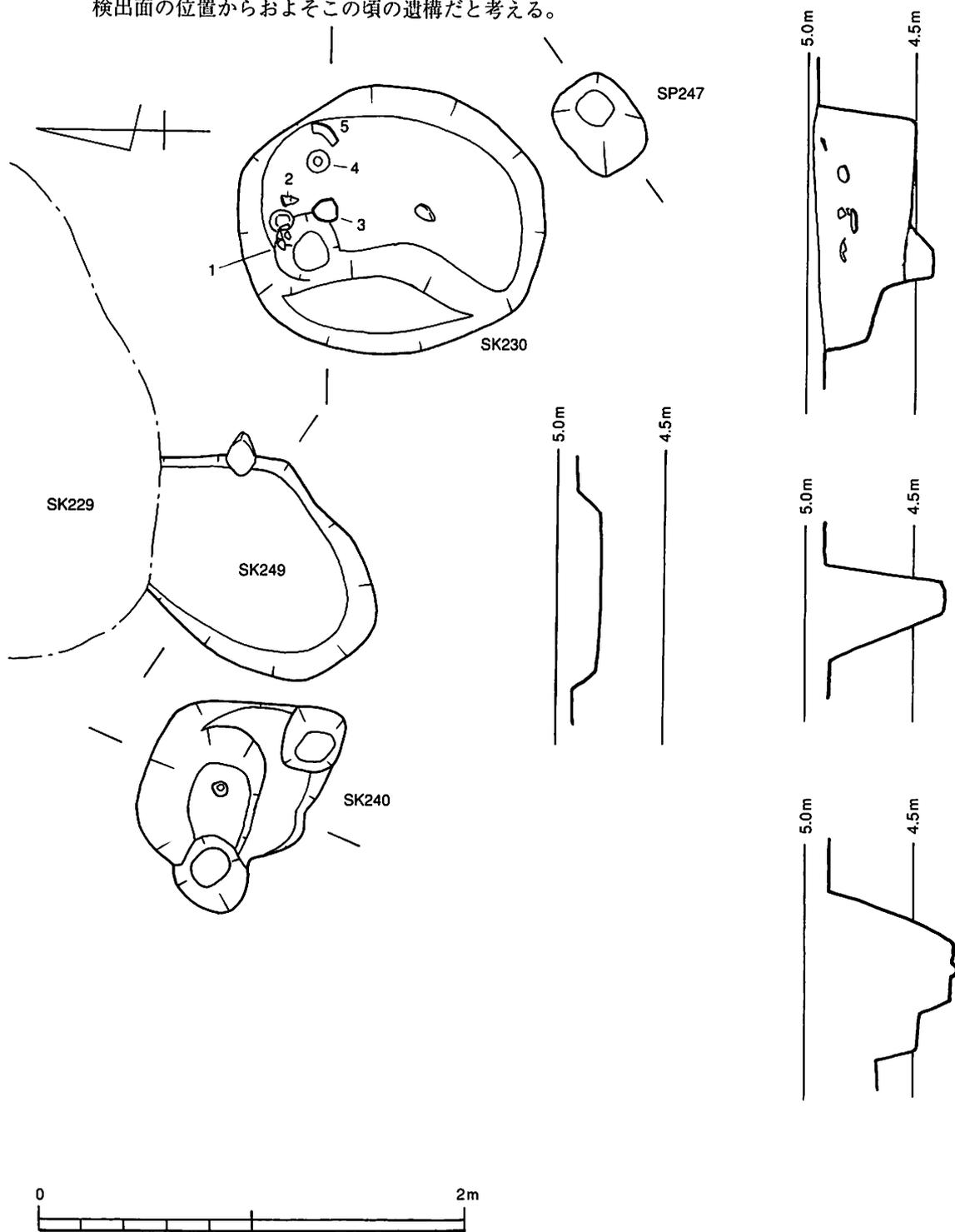
○ 14世紀末から15世紀前葉の遺構と遺物

概要 土坑が3基、溝状遺構1基がある。

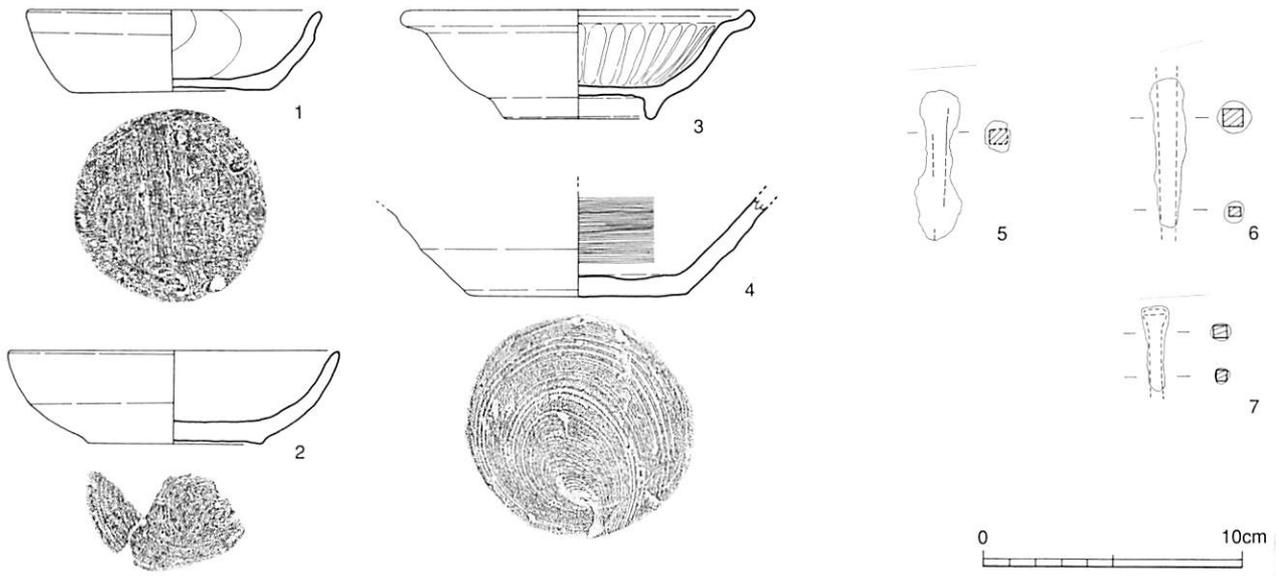
SK230・240・249（第78図） これら3基は標高5m弱から4.9mで検出した。S249はD区東部にあり、SK229に切られている。

出土遺物（第79図1～7） 1・2は在地系の土師器である。3は中国龍泉窯青磁皿である。4は須恵質土器の鉢である。5～7は鉄釘である。

SD263（第26図） F区南東部からG区にある溝状遺構である。出土遺物は磔1点だけである。検出面の位置からおよそこの頃の遺構だと考える。



第78図 SK230・SK240・SK249 実測図



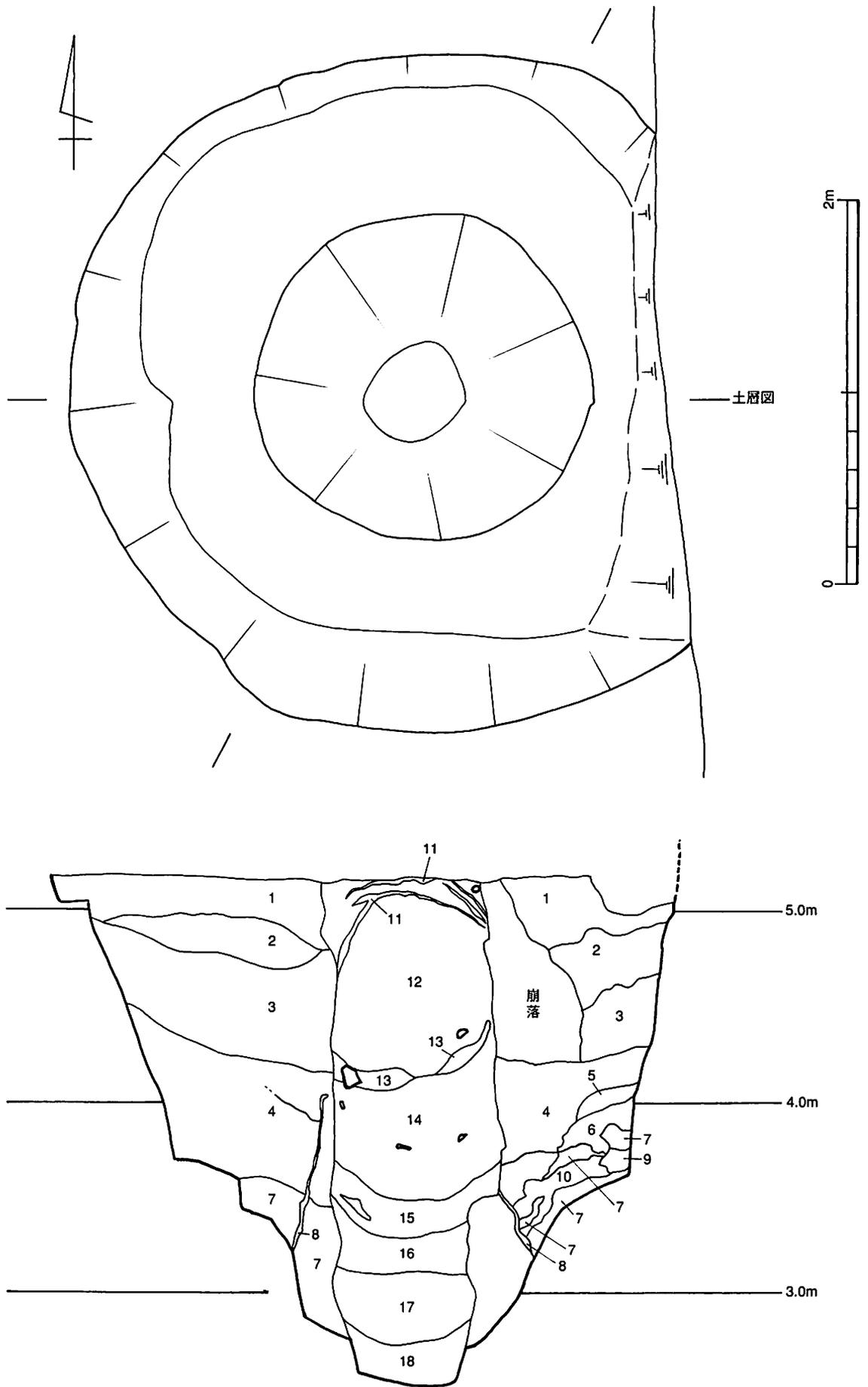
第79図 SK240 出土遺物実測図

○ 14 世紀中葉から後葉の遺構と遺物

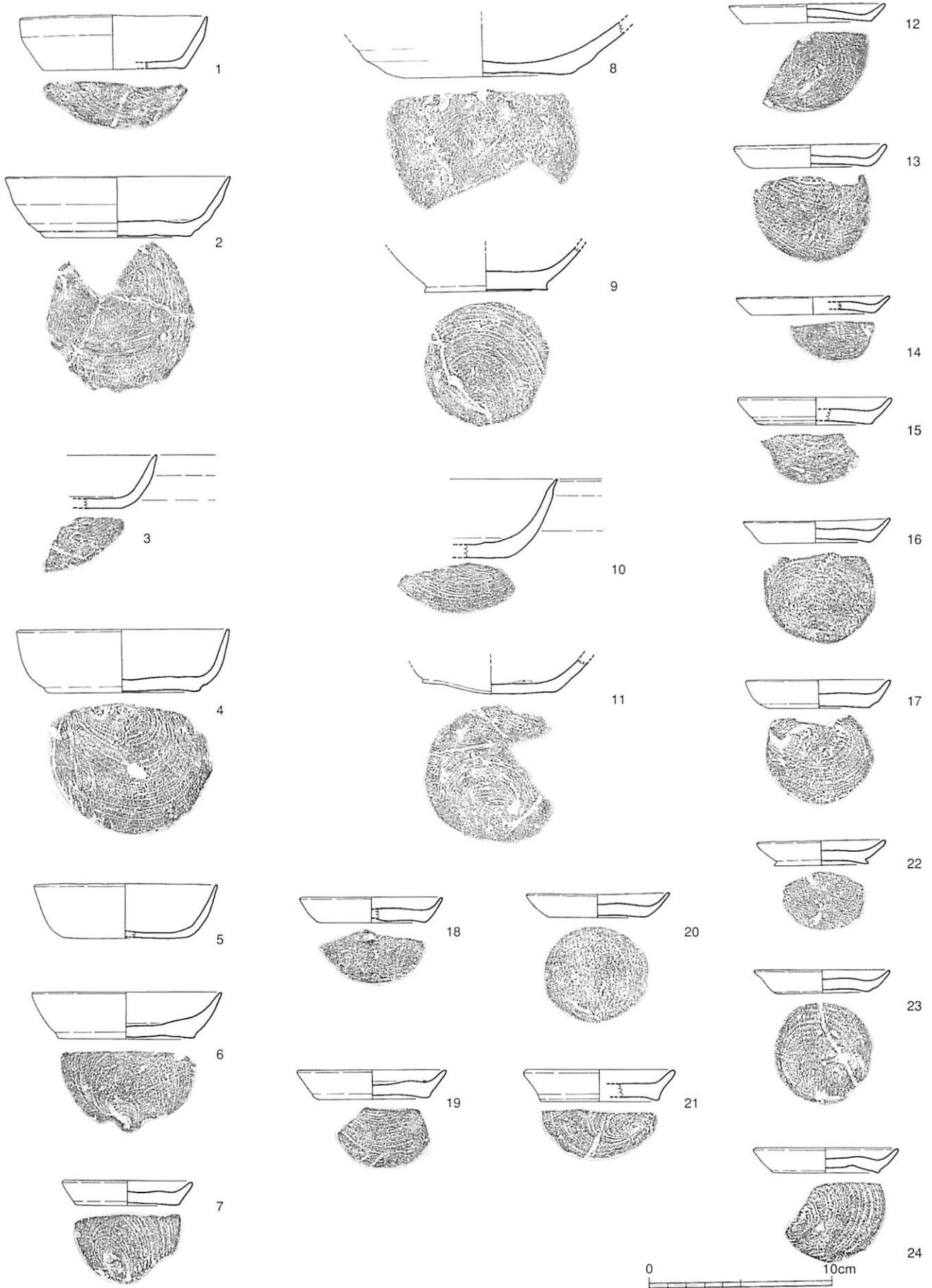
概要 調査区東端部で井戸2基が重複する。遺物から新旧を判断できなかったが、遺構自体はSE186の廃絶後にSE85が掘られている。これらと重複するSK183も同時期である。土師器を一括埋納した柱穴SP265の遺物は良好な一時期の組成である。

SE85 (第80図) F区・G区に位置する井戸である。遺構番号が少ないのは、初めSD51の床面で井戸本体の井戸側を褐色の粘土層として円形に確認したが、掘方はもう少し掘り下げた段階になって判明したからである。断面観察の結果、その部分は桶の腐食部分であり、桶を三段以上積み重ねた井戸側だったらしい。SD51出土の古手の土師器皿はSE85上部から出土した可能性がある。

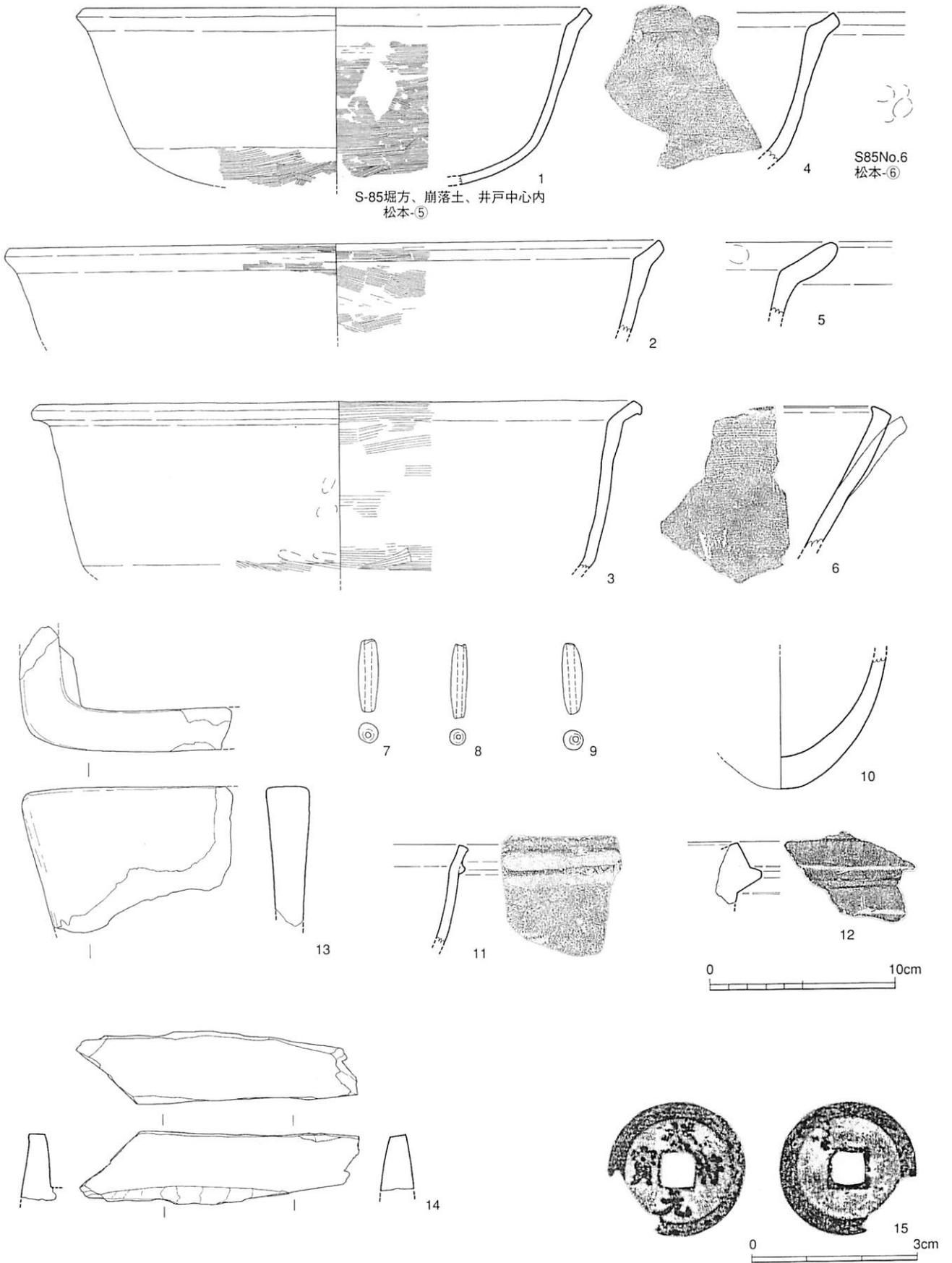
出土遺物 (第81～84図) 土師器皿・坏、瓦質土器、備前焼、常滑焼、須恵質土器等が出土した。第84図1は15世紀後半であり、混入か。



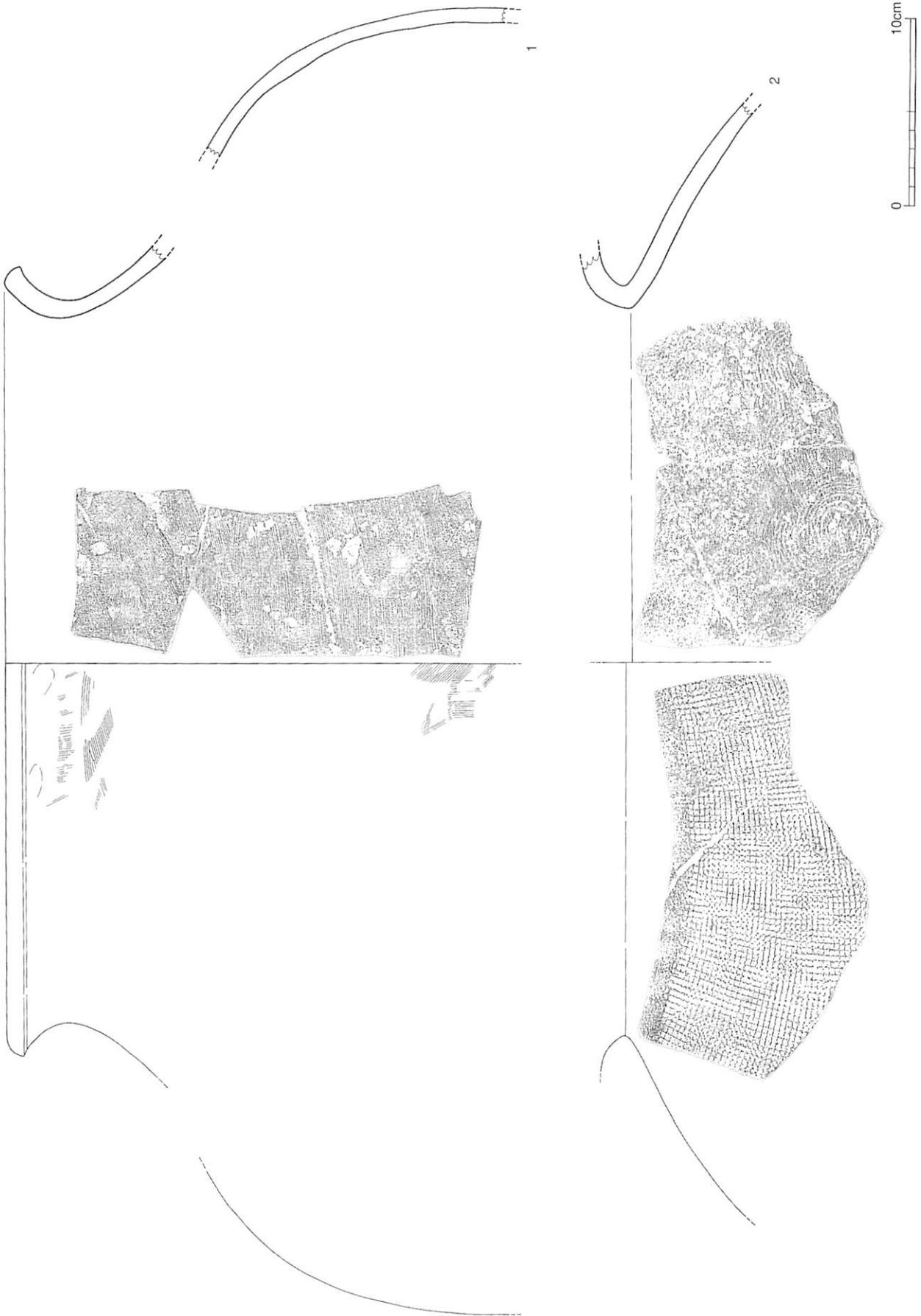
第80図 SE85 実測図



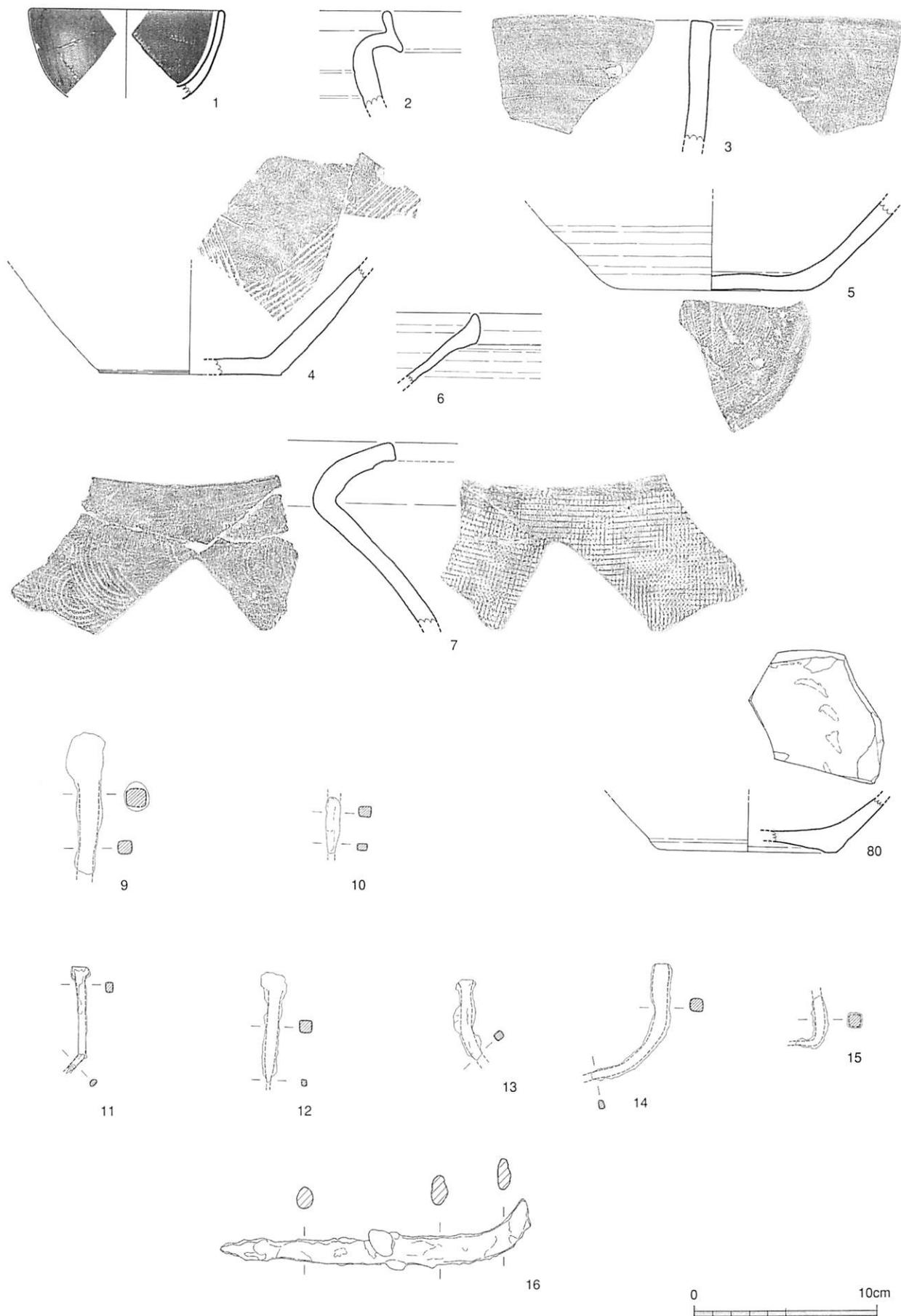
第 81 図 SE85 出土遺物実測図



第 82 図 SE85 出土遺物実測図



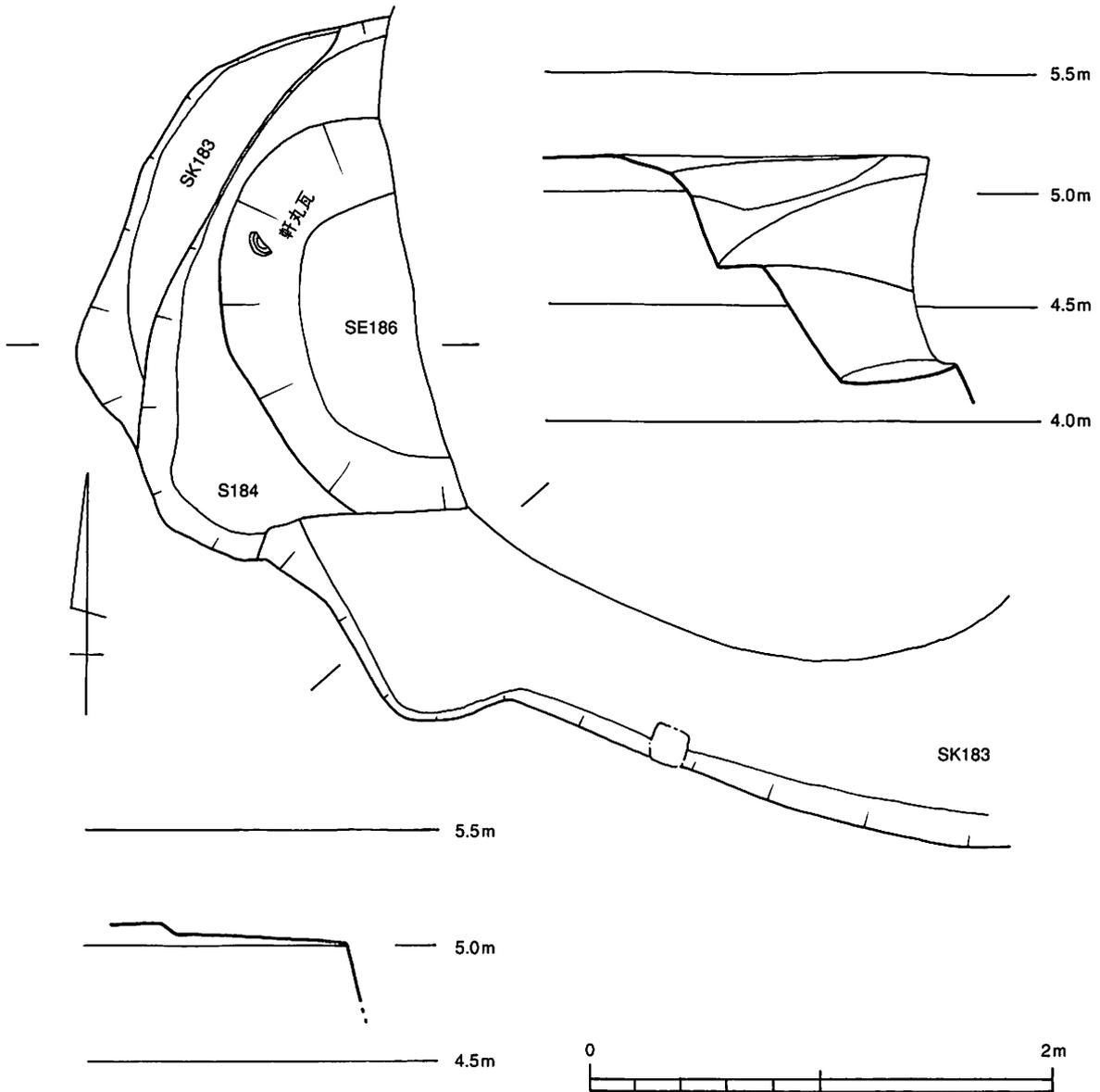
第 83 図 SE85 出土遺物実測図



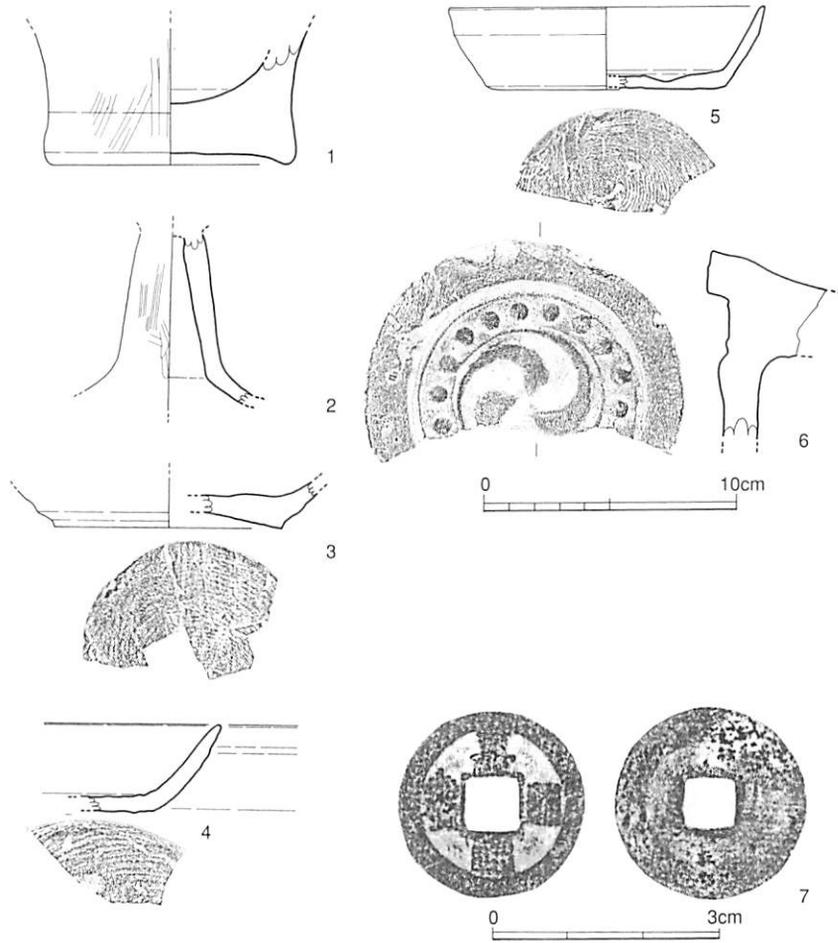
第84図 SE85 出土遺物実測図

SE186 (第85図) F区東部にありSE85に切られている。西北側と南東側に同じ高さの遺構S183が重複するが、前後関係は不明である。

出土遺物 (第86図1~7) 6は軒丸瓦で、右向きに巴紋をもつ。



第85図 SE186・SK183実測図



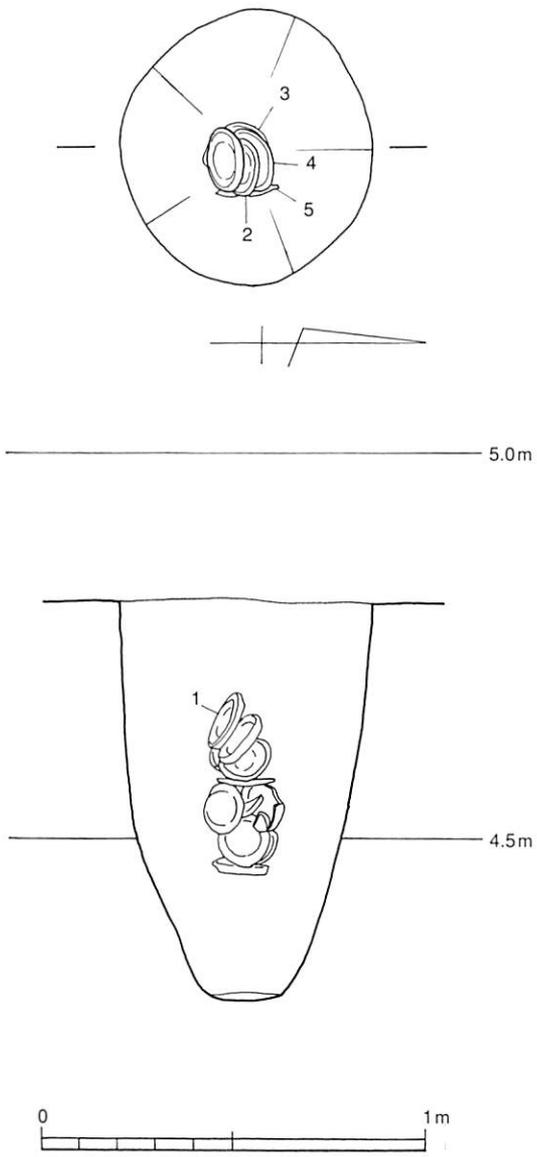
第 86 図 SE184・186 出土遺物実測図

SP265 (第 87 図) D 区西端で検出した。西壁土層図 (第 2 図) 中に位置を示している (地山に掘り込まれた右側の落込みのすぐ左の褐色土中に遺物の断面あり)。直径約 30cm の穴の中心部に、9 枚の坏と 1 枚の皿の計 10 枚の土師器が埋納された状態で出土した。穴の中心に細長く重ねられていたので、柱を抜き取った穴に土師器を入れたと考えられる。

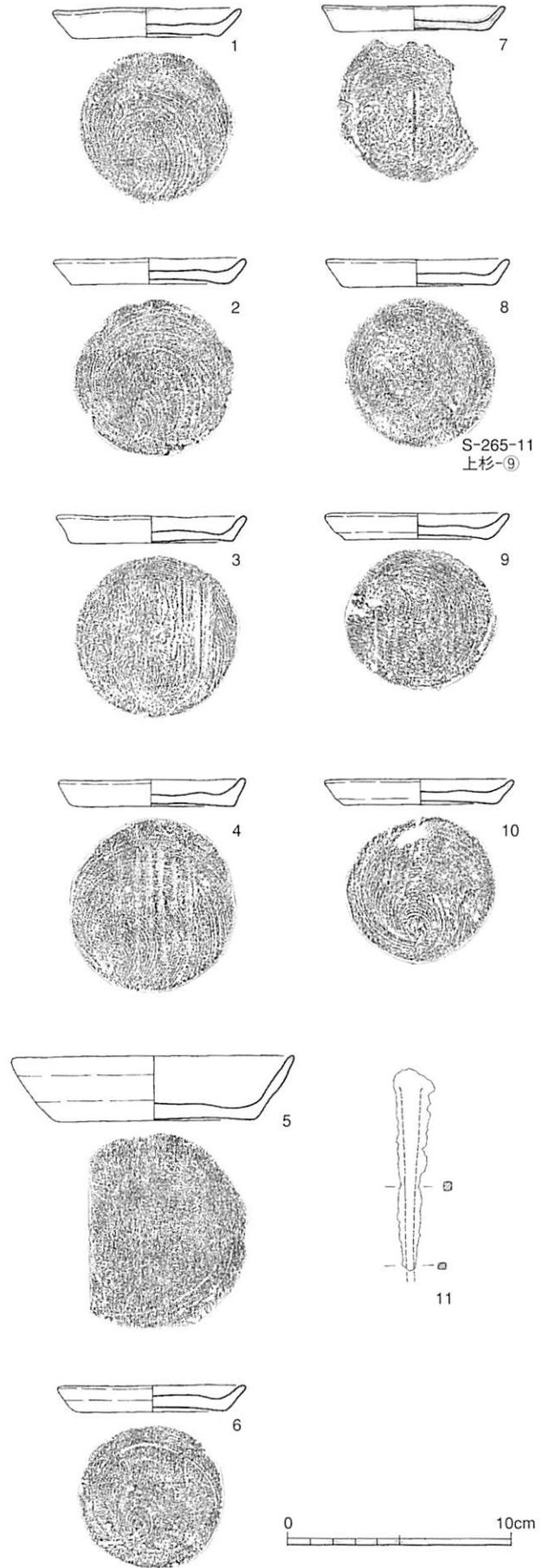
出土遺物 (第 88 図 1 ~ 11) 1 ~ 10 は土師器で、5 だけが皿で他は坏。これらは外底面に板状圧痕があり、特徴的である。坏は口径 8.5cm 前後・器高は大半が 1.2cm、皿は口径 12.7cm・器高 3.0cm・底径 9.0cm で、府内町第 30 次調査 S109 の遺物に似る。

SP235 (第 64 図) F 区の SE186 の北西に位置する柱穴である。

出土遺物 (第 94 図 3) 3 は土師器皿の底部である。



第 87 図 SP265 実測図



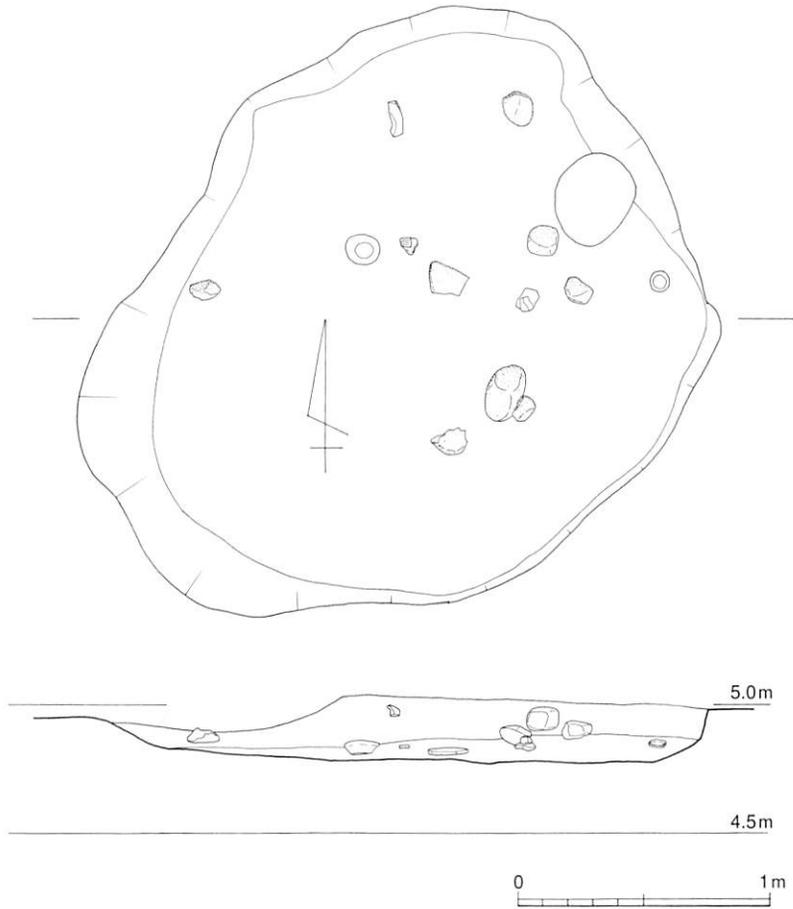
第 88 図 SP265 出土遺物実測図

○ 14世紀前葉の遺構と遺物

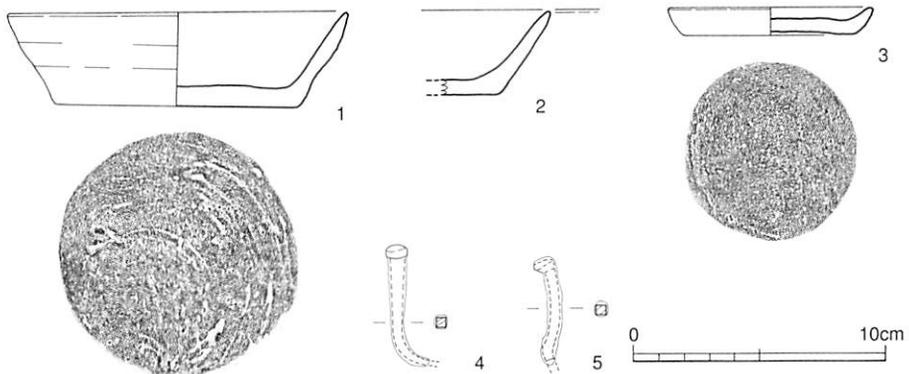
概要 土坑と柱穴各1の他、遺物は出土していないが、地山面で検出た溝状遺構がある。SK229とSP265は遺物からこの時期ということが分かるが、ほかはやや不明確である。検出面の標高と最終段階で検出したことから、この段階に入れておきたい。

SK229（第89図）D区とE区の間にある円形土坑である。

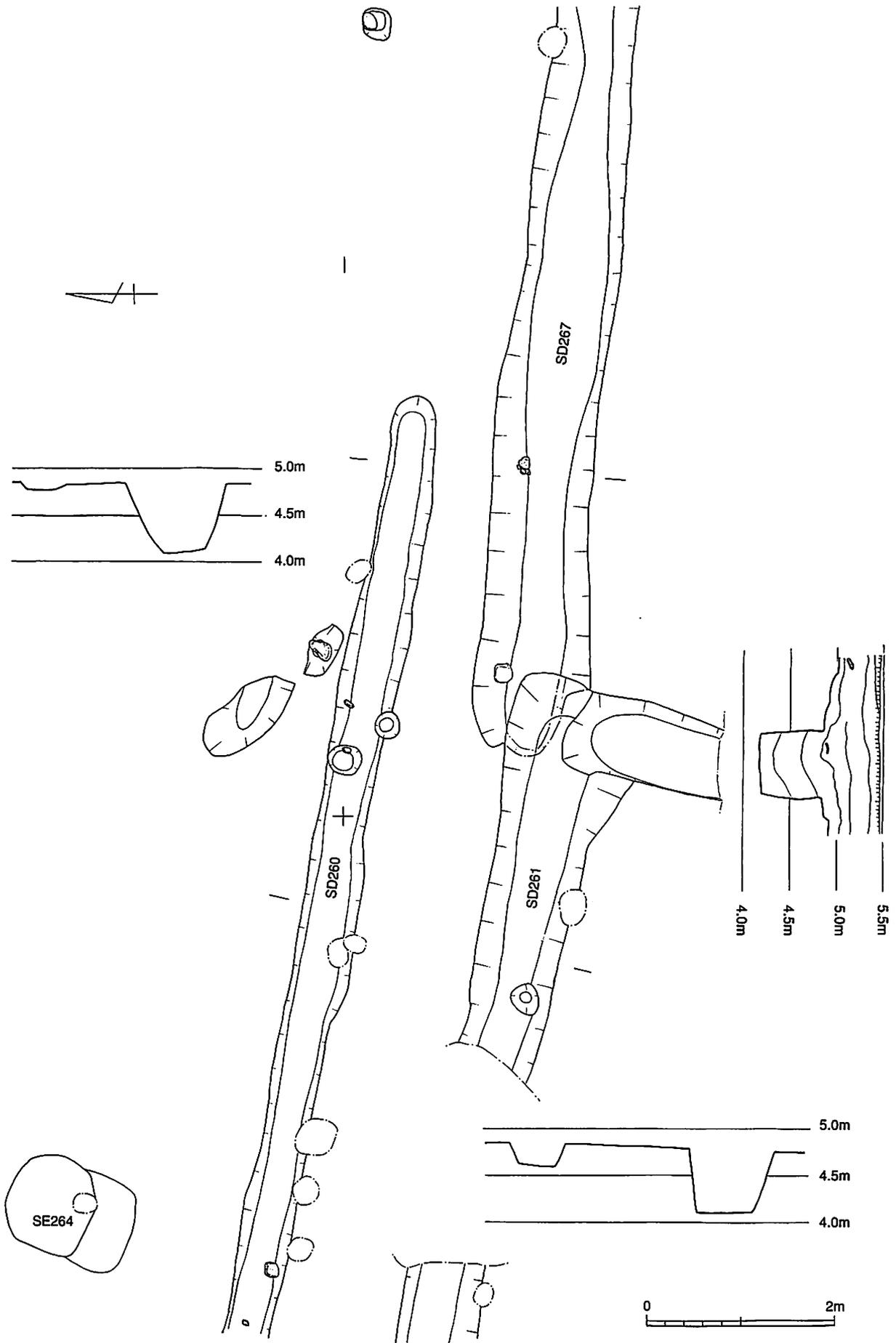
出土遺物（第90図1～5）1～3は土師器で、1は器壁の上部が膨らむ特徴をもち、2は直線的に尖る。これらは14世紀前葉である。



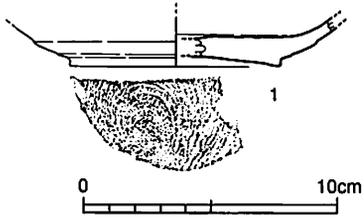
第89図 SK229実測図



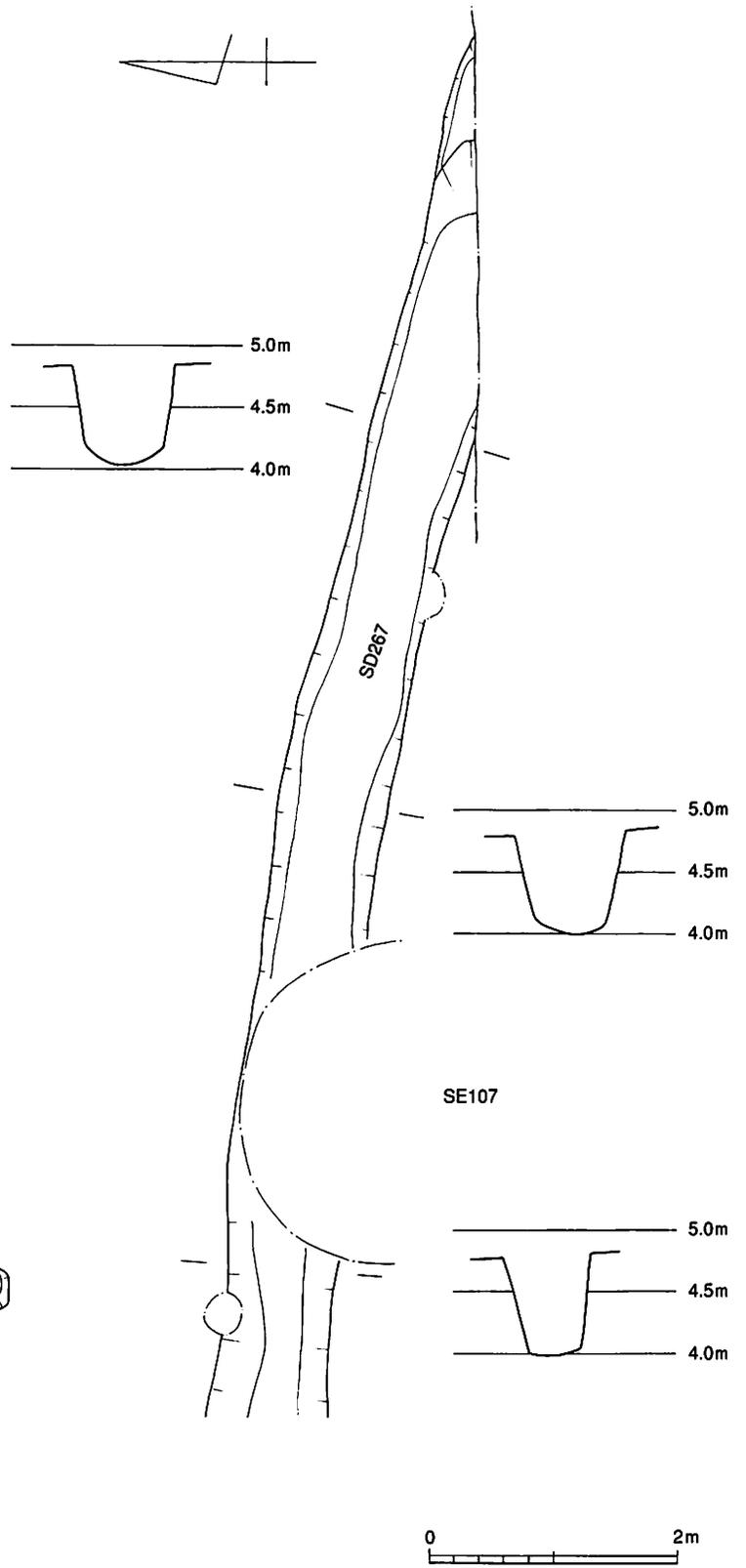
第90図 SK229出土遺物実測図



第91图 SD260・261・267実測图



第92図 SD260 出土遺構実測図



第93図 SD267 実測図

○ 14世紀以前の遺構と遺物

概要 14世紀以前の遺物が遺構から出土している。新しい時期の遺物を伴わないので、遺物の示す時期が遺構の時期である可能性を捨てきれない。

SP201 (第64図)

柱穴である。

出土遺物 (第91図1)
古代の平瓦で、外面は格子目叩き、内面には布目痕が付いている。

SP232 (第64図)

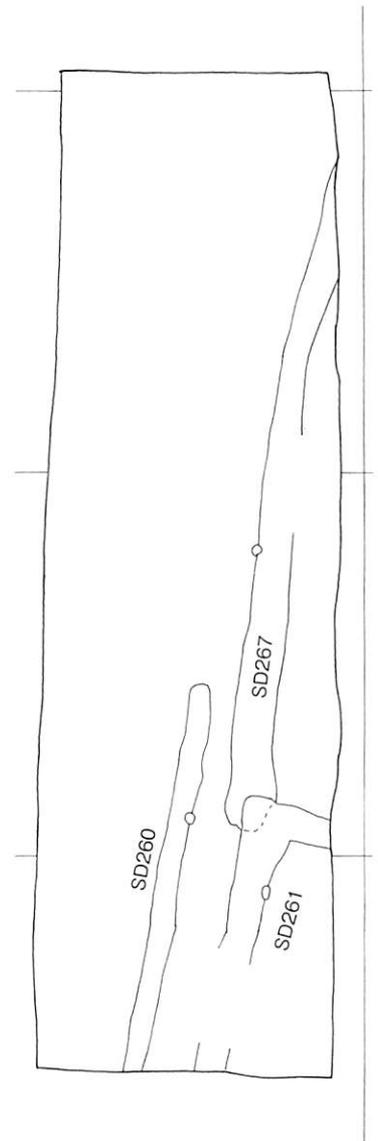
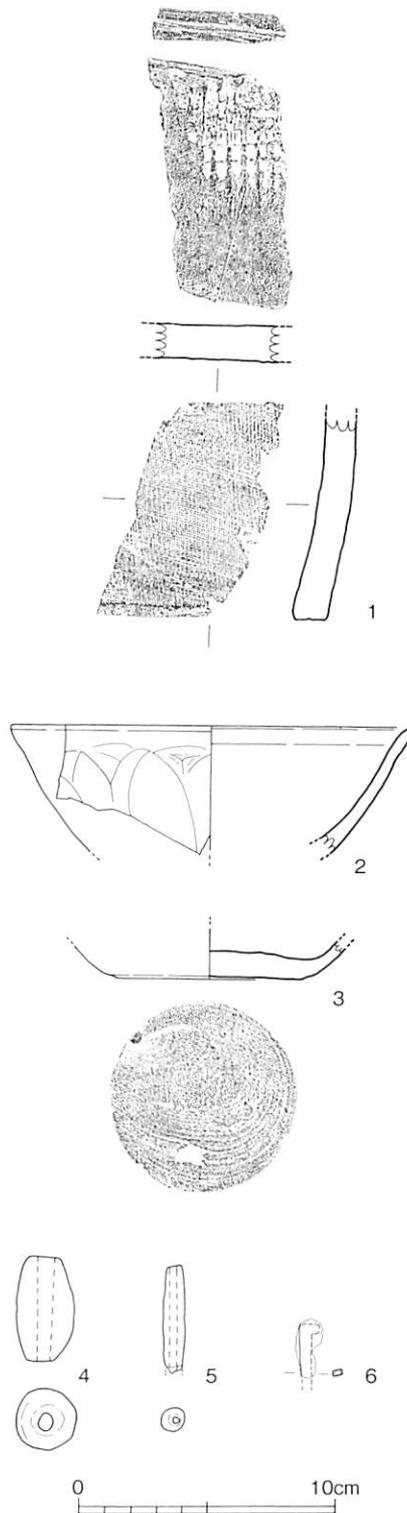
柱穴である。

出土遺物 (第91図2・4～6) 2は中国龍泉窯青磁碗B群である。口径15.6cm、外面は錦蓮弁紋を刻み、器表面はオリーブ灰色である。4・5は土錘、6は鉄釘。

SK218 (第27図)

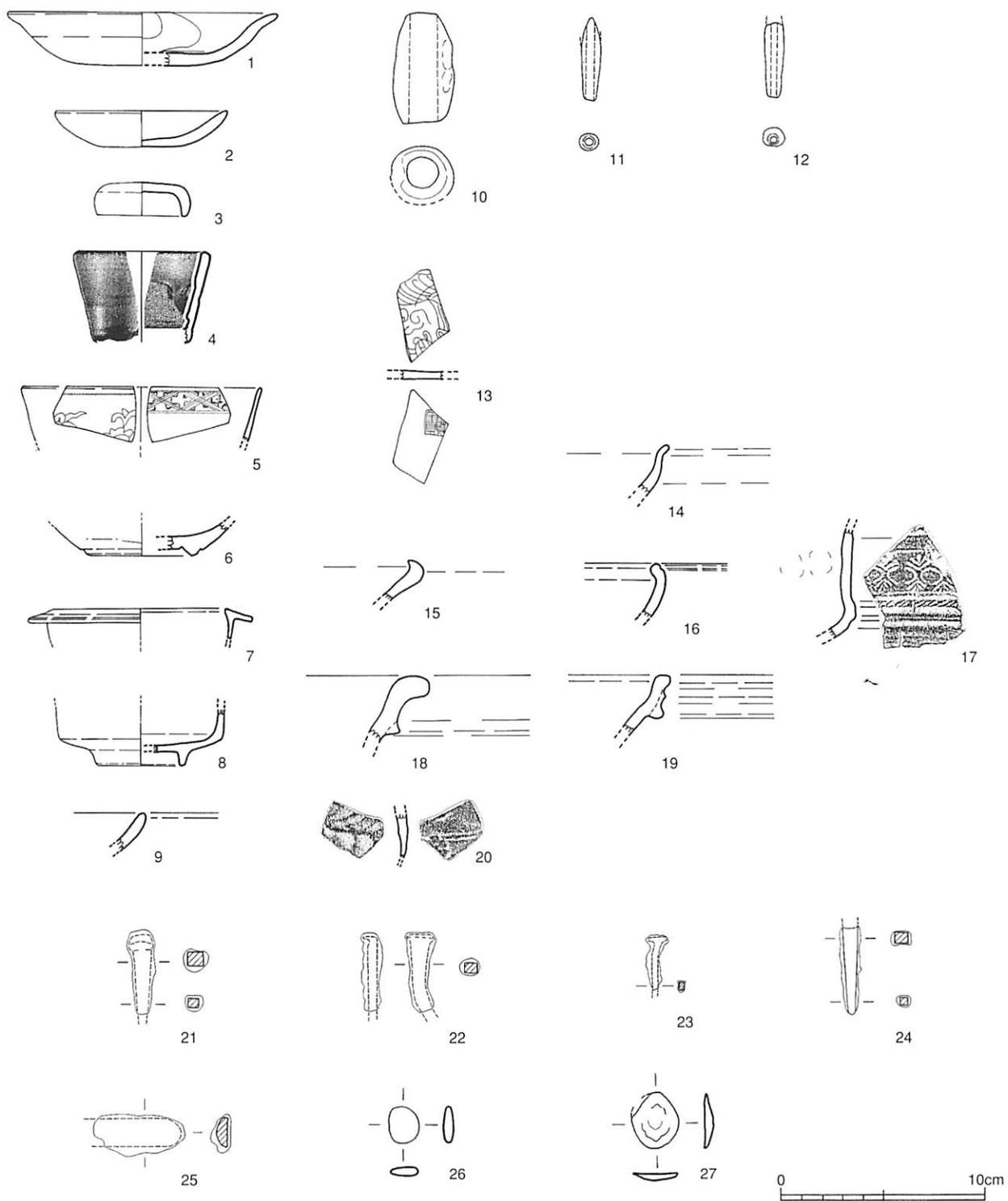
F区にあり標高5.23mで検出した長さ1.5m、幅1.2m、深さ12cmの土坑である。出土遺物は古代の須恵器・土師器が2点だが、遺構の時期は確実ではない。

出土遺物 (第90図1・2) 1は同一個体の須恵器で、口縁部と底部の破片である。2は土師器の高坏である。2点とも古代の遺物である。

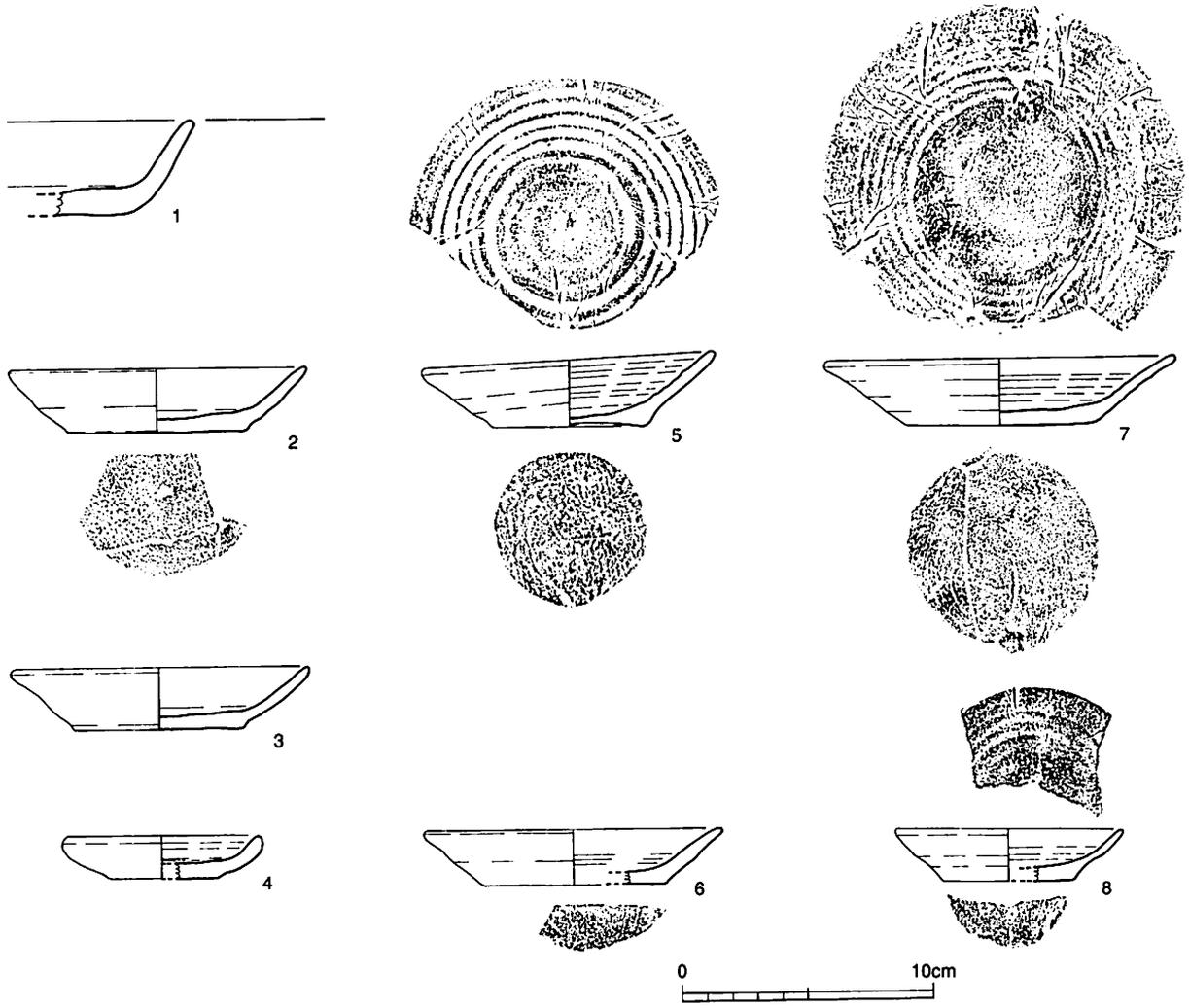


第94図 SP201・232 SP235 出土遺構実測図

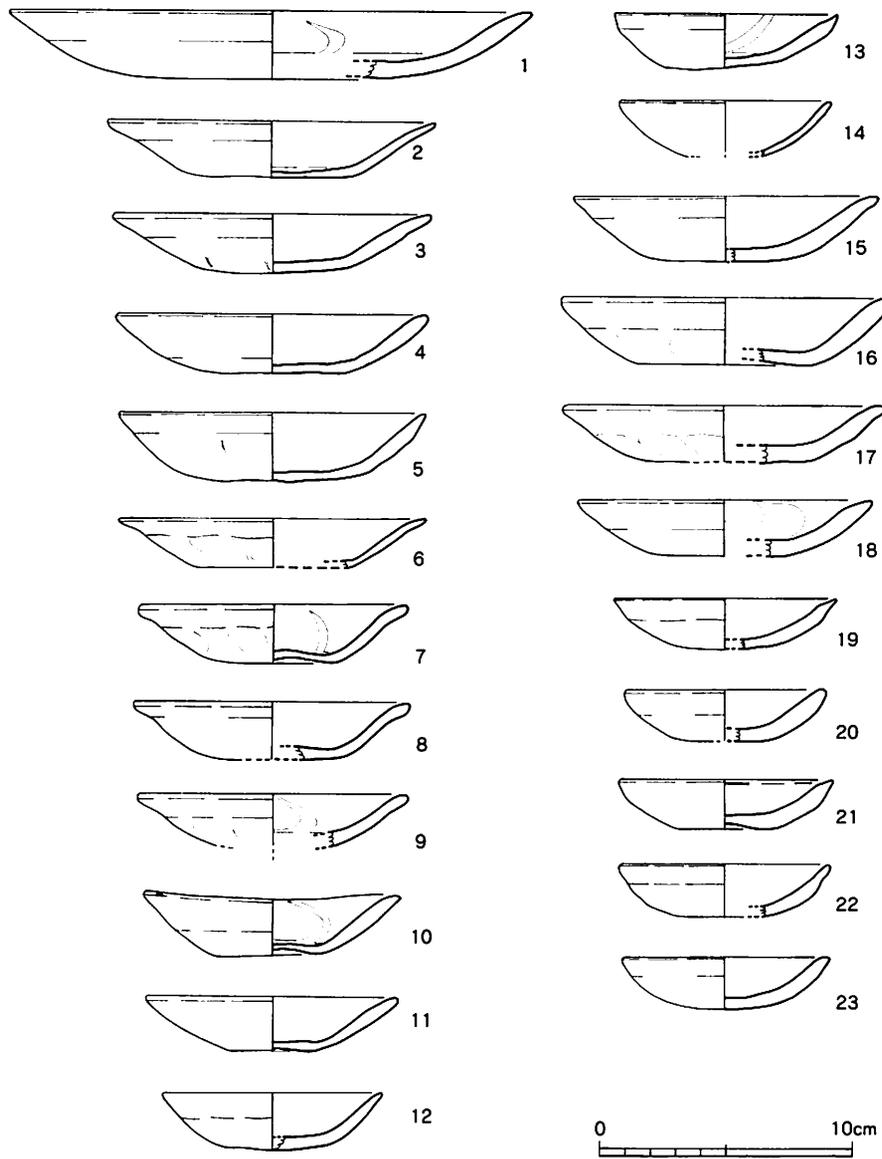
第95図 最下層の遺構



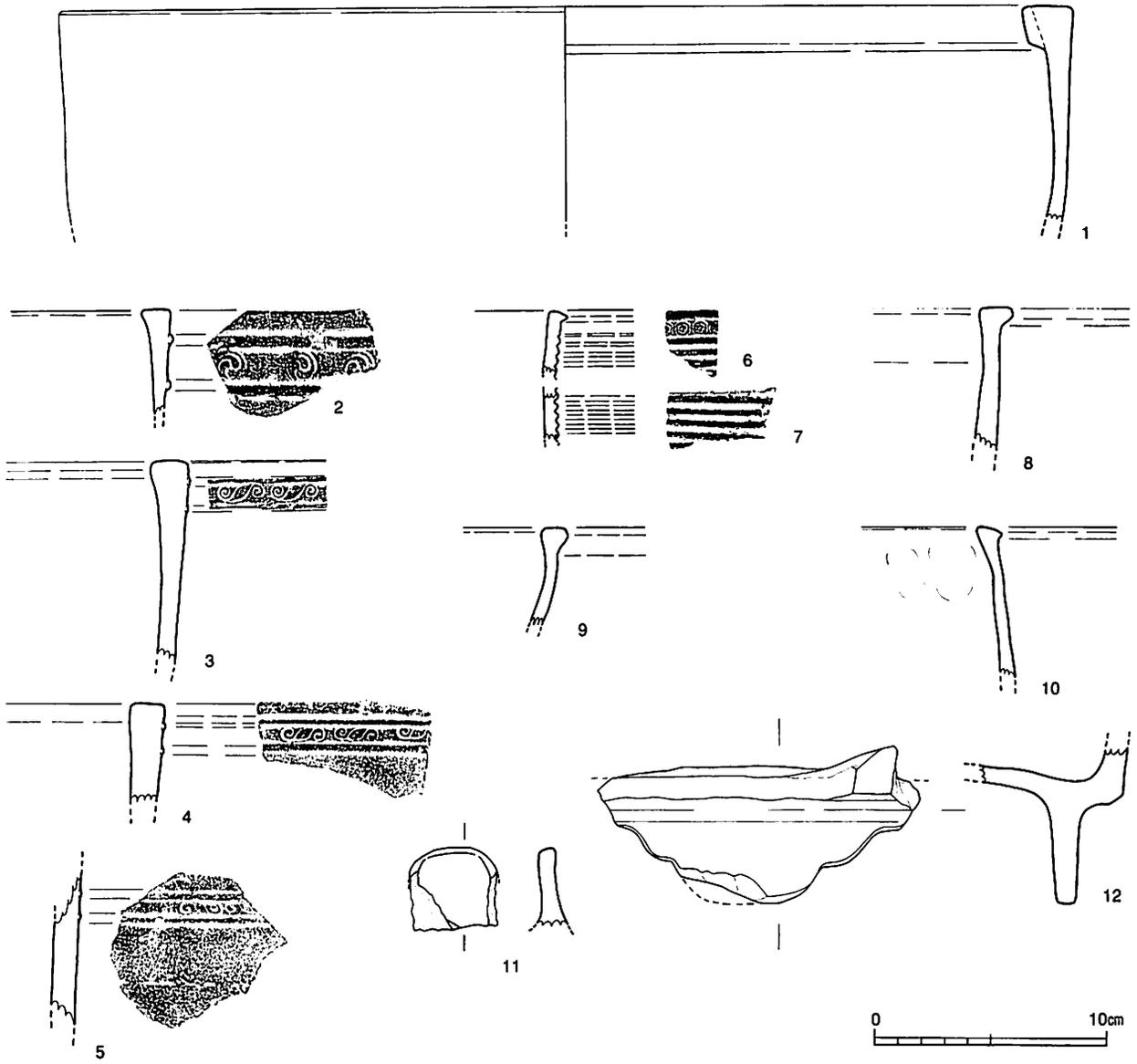
第96図 包含層出土遺物実測図



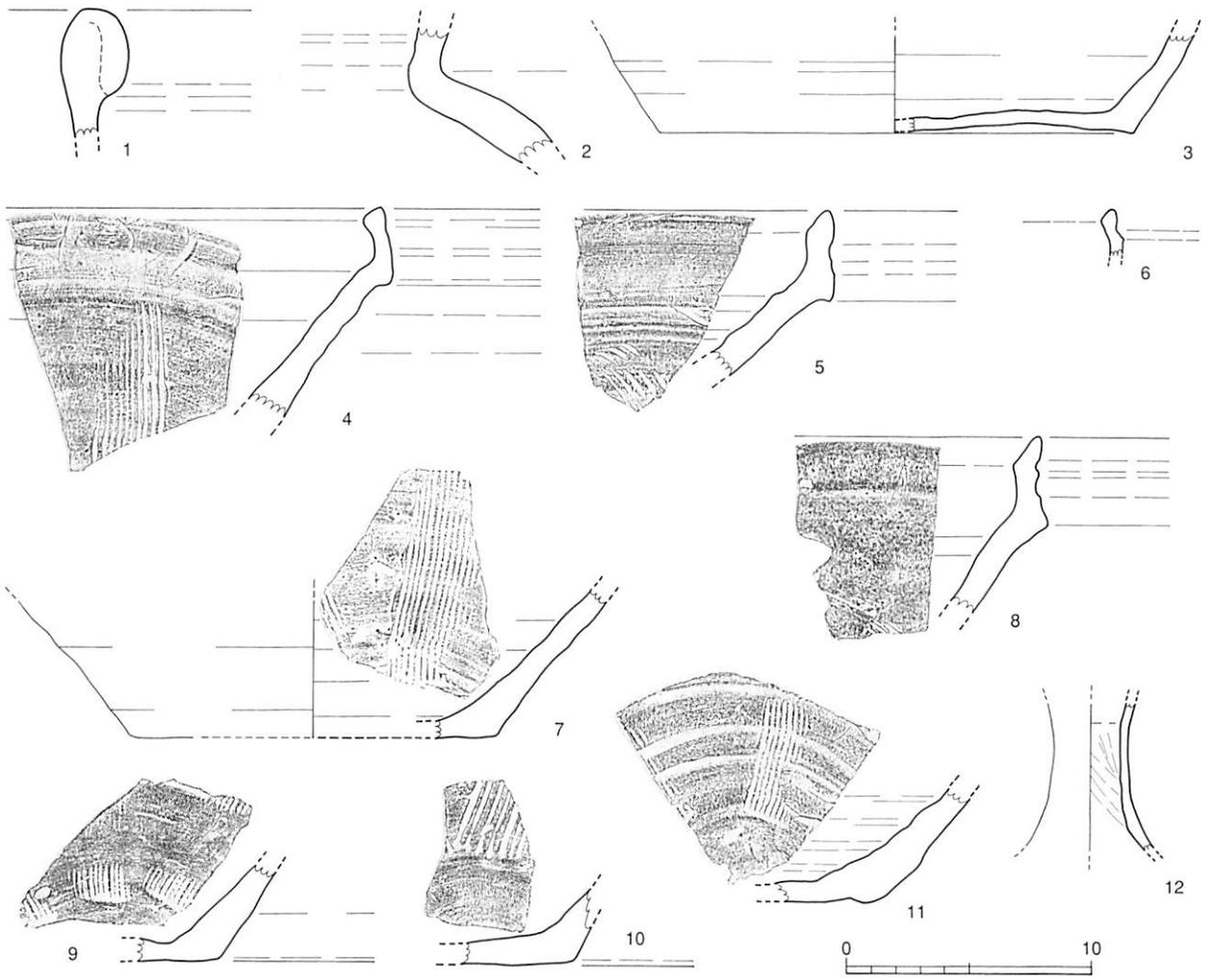
第97図 包含層出土遺物実測図



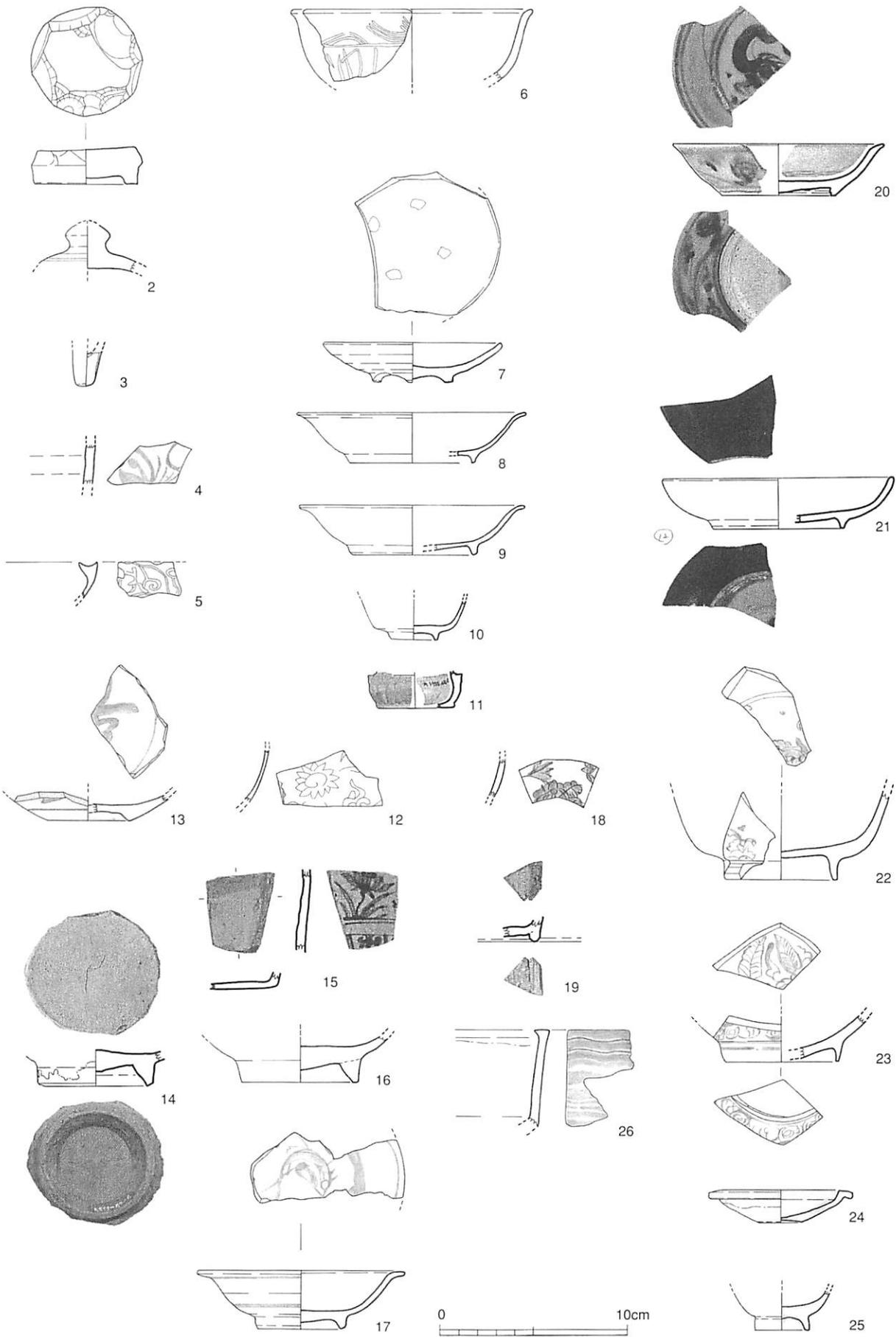
第98图 包含層出土遺物実測図



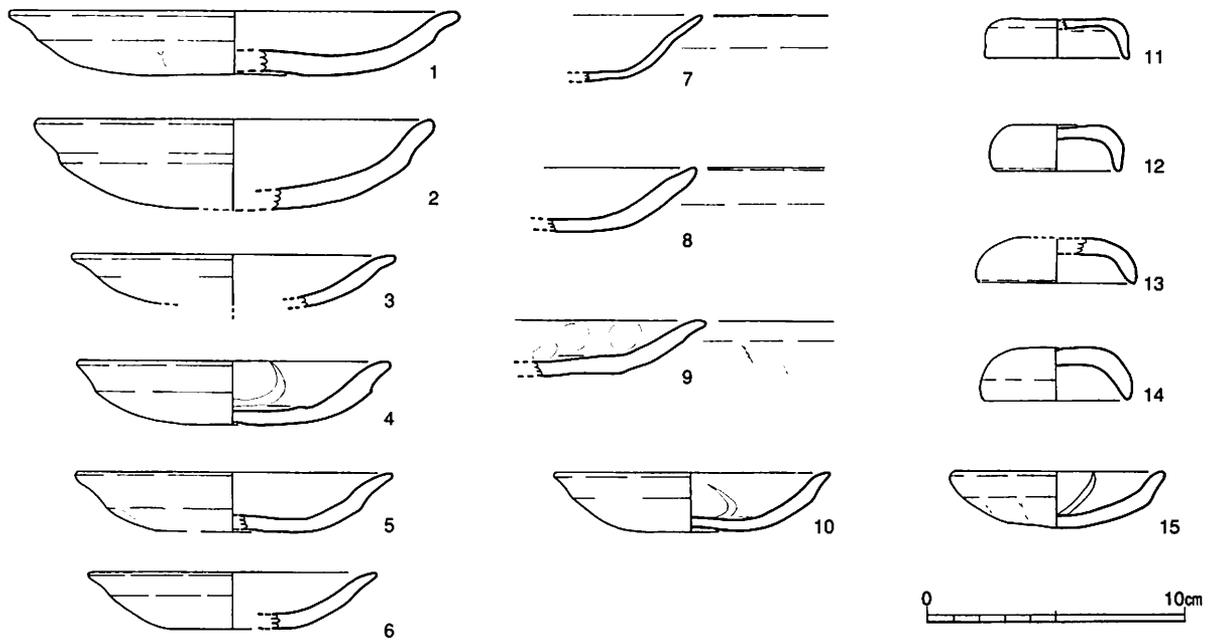
第99図 4層出土遺物実測図



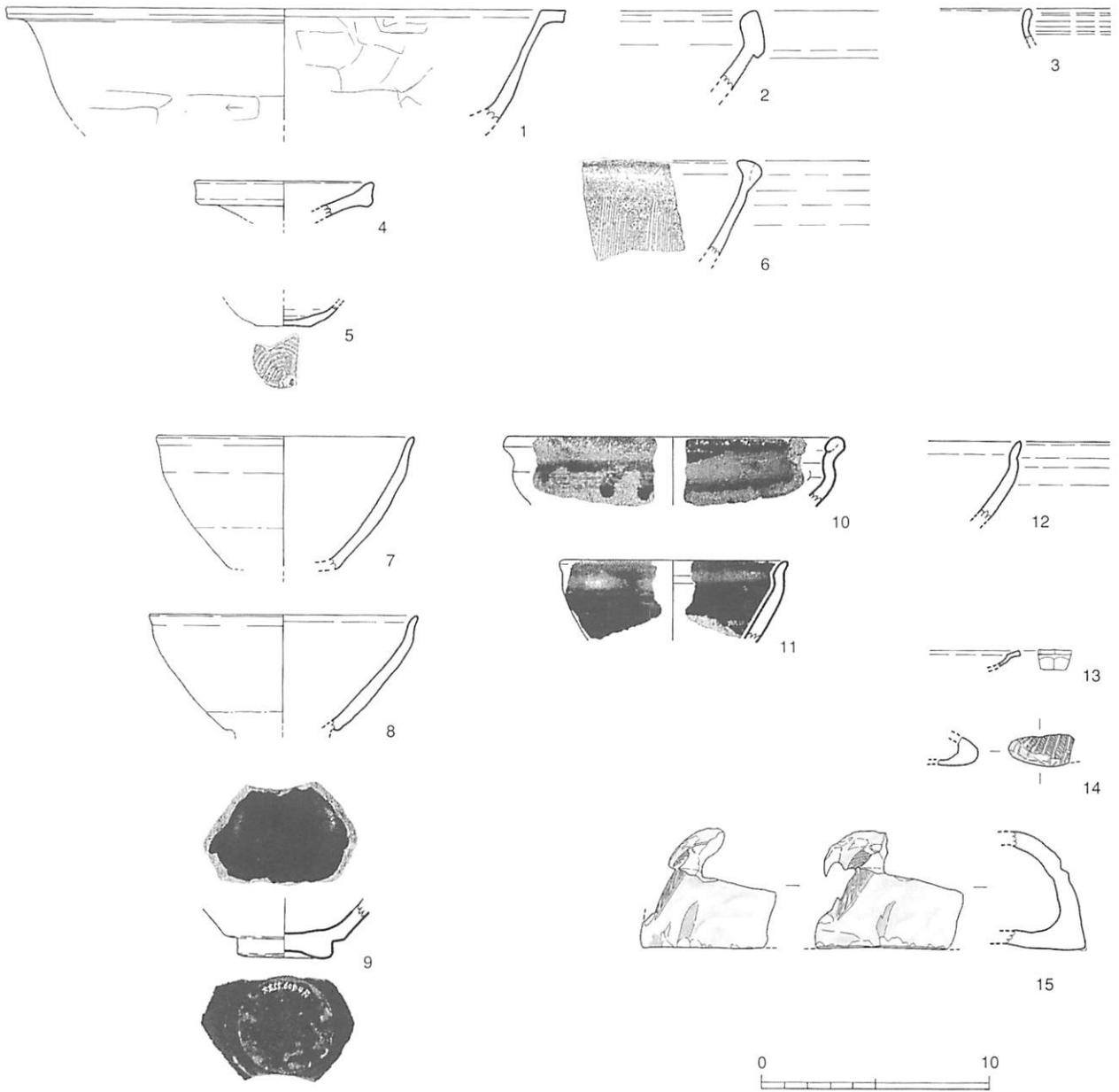
第 100 図 包含層出土遺物実測図



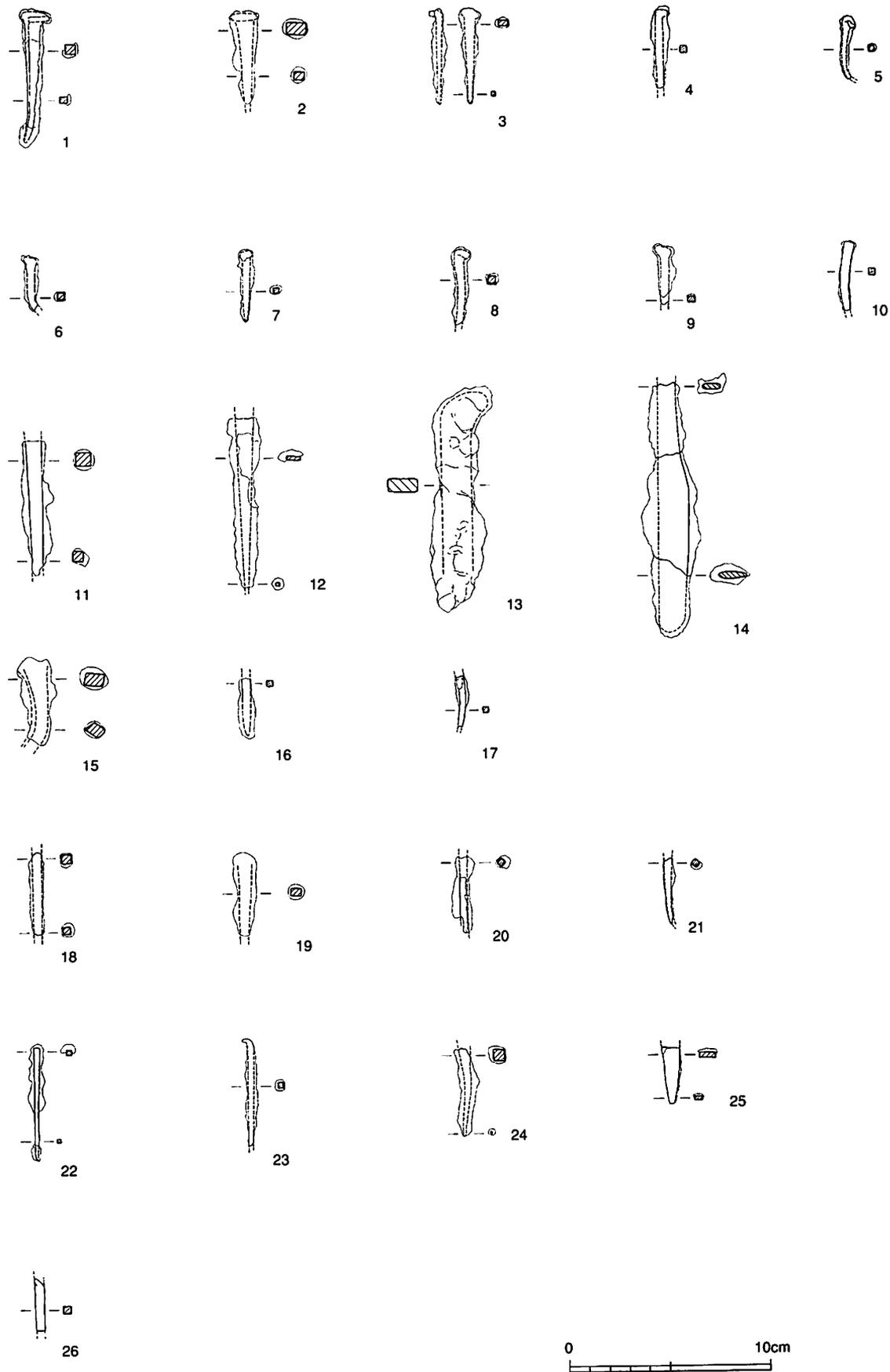
第101图 4層出土陶磁器



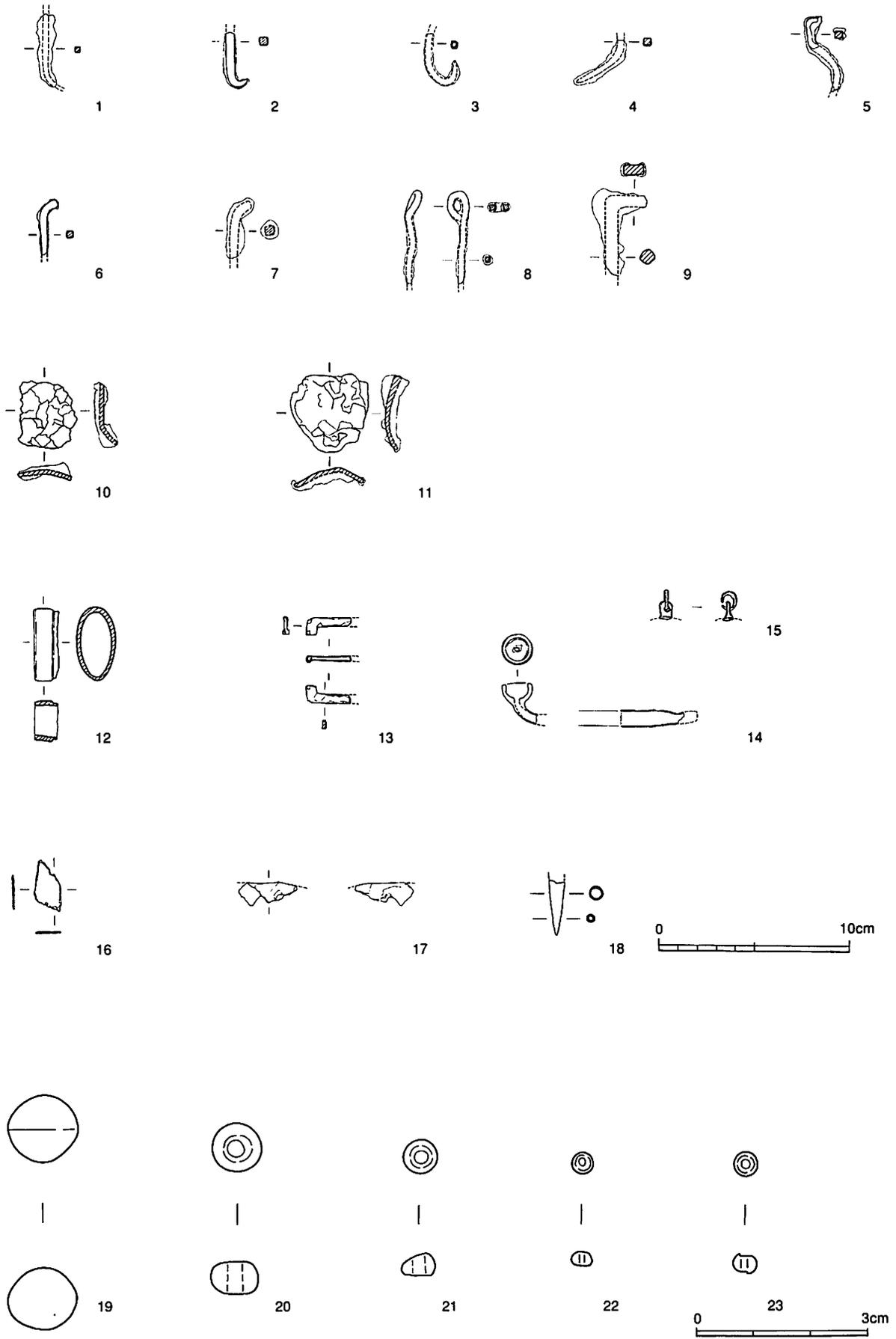
第102図 4層出土遺物実測図



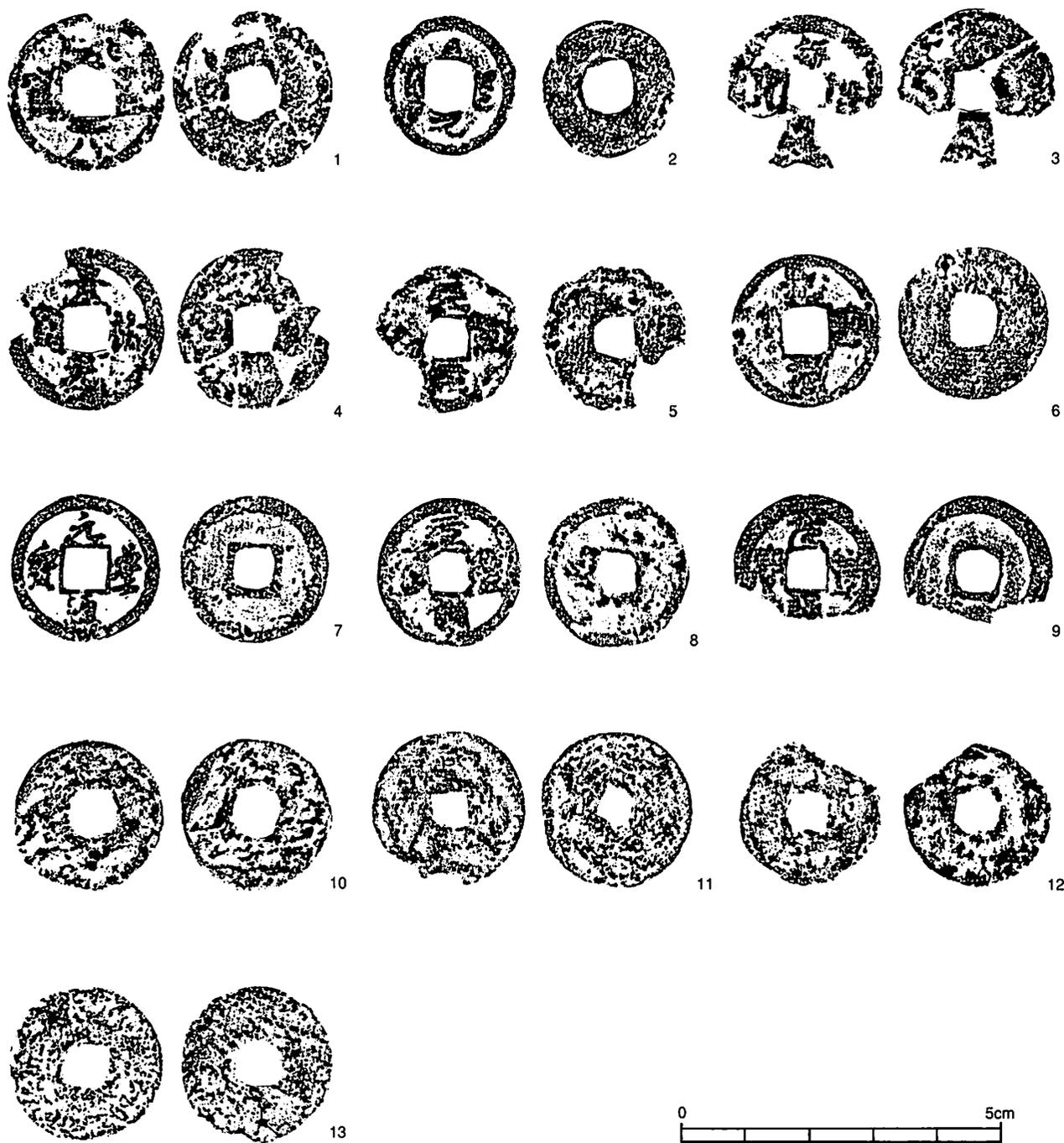
第103图 4層出土遺物実測図



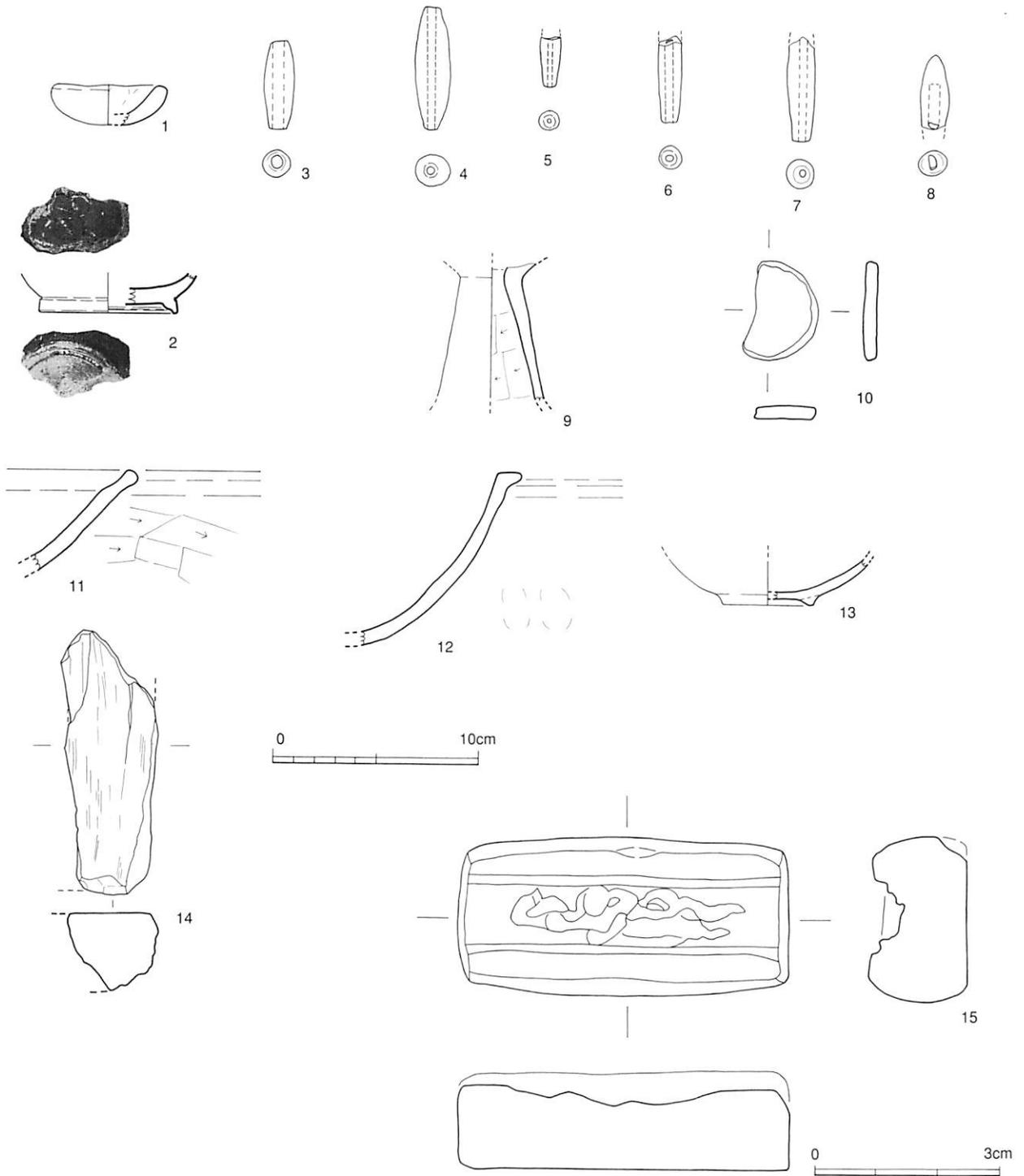
第104图 4層出土鉄製品実測図



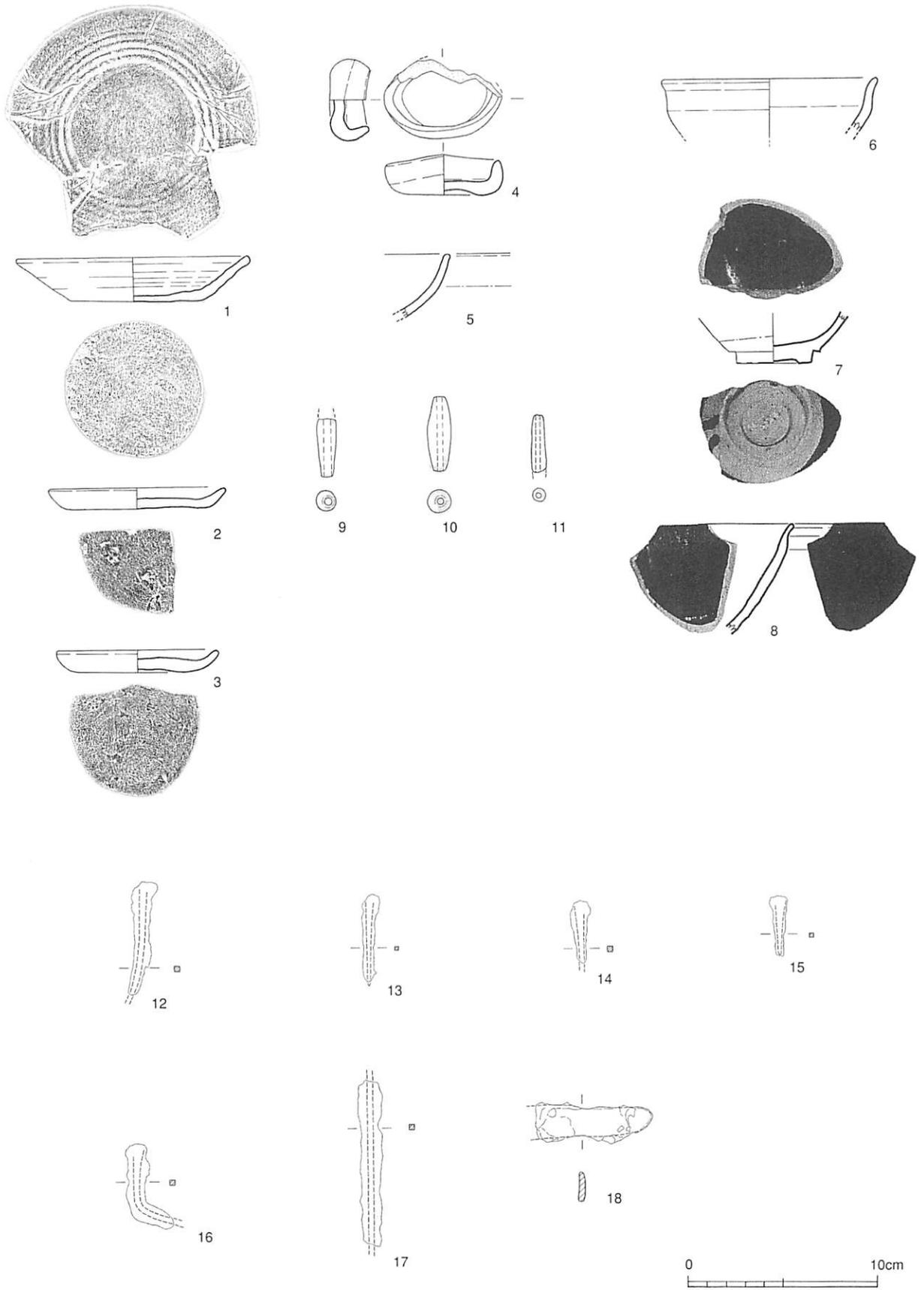
第105图 4層出土遺物実測図



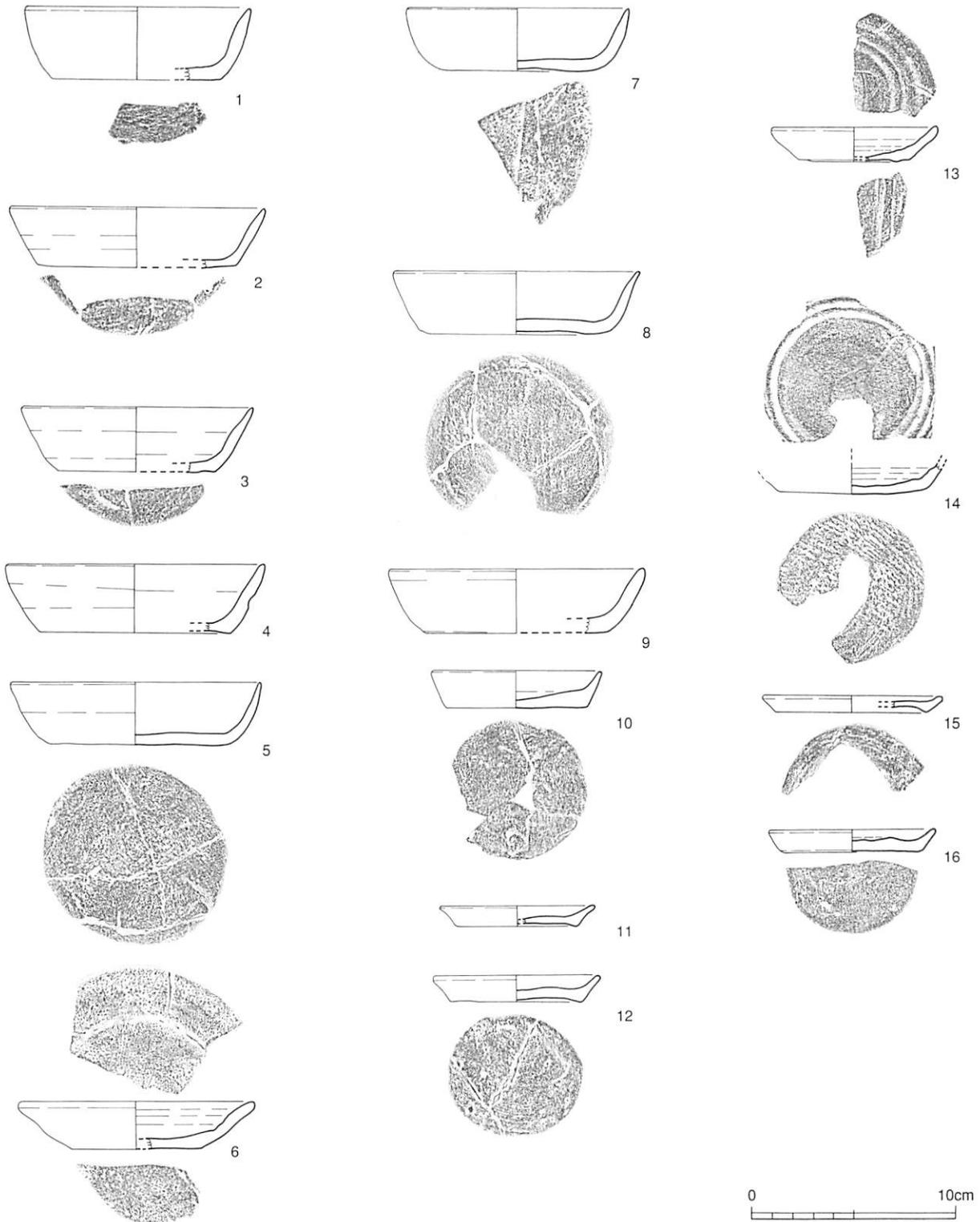
第106図 4層出土遺物実測図



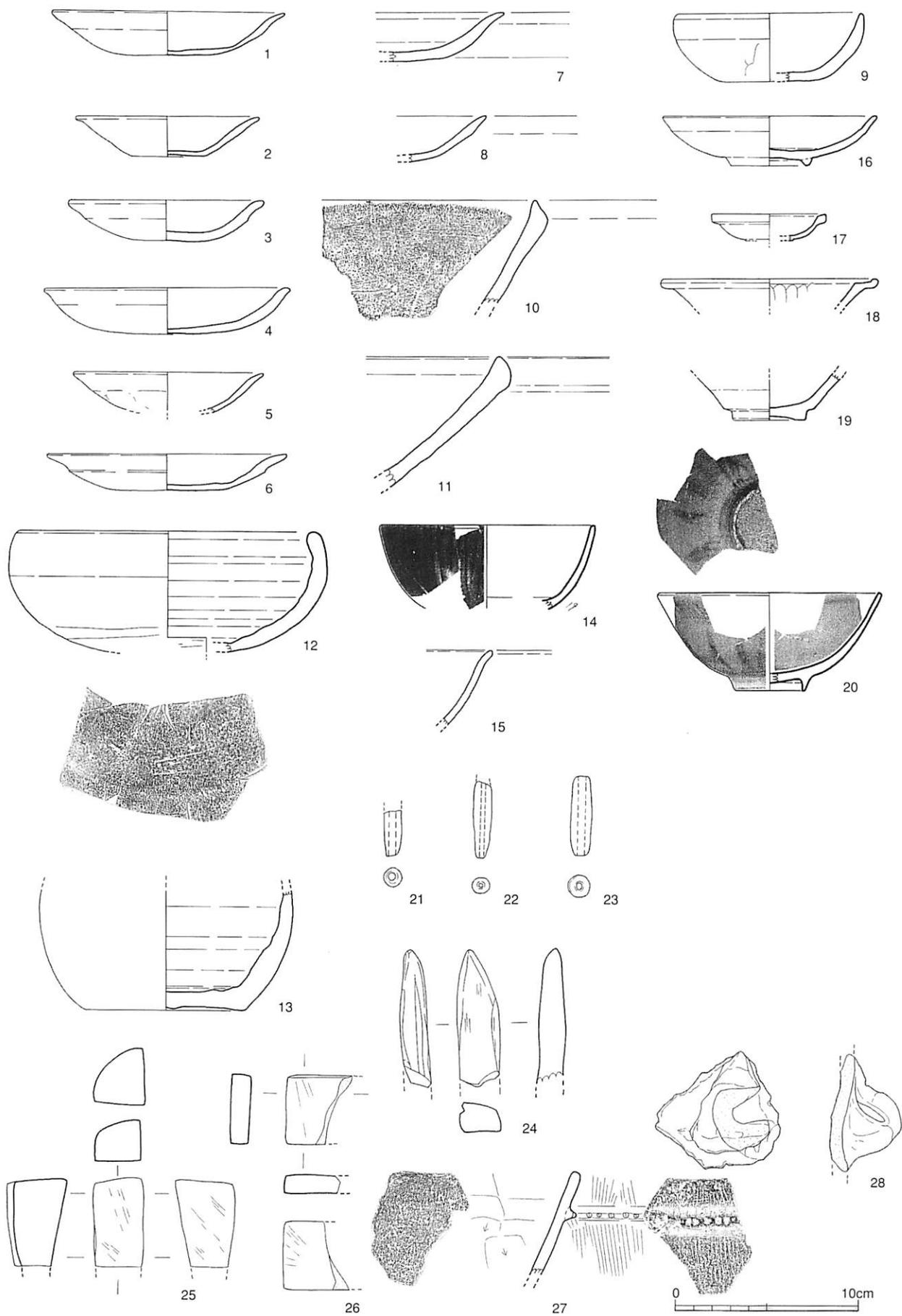
第107図 4層その他出土遺物実測図



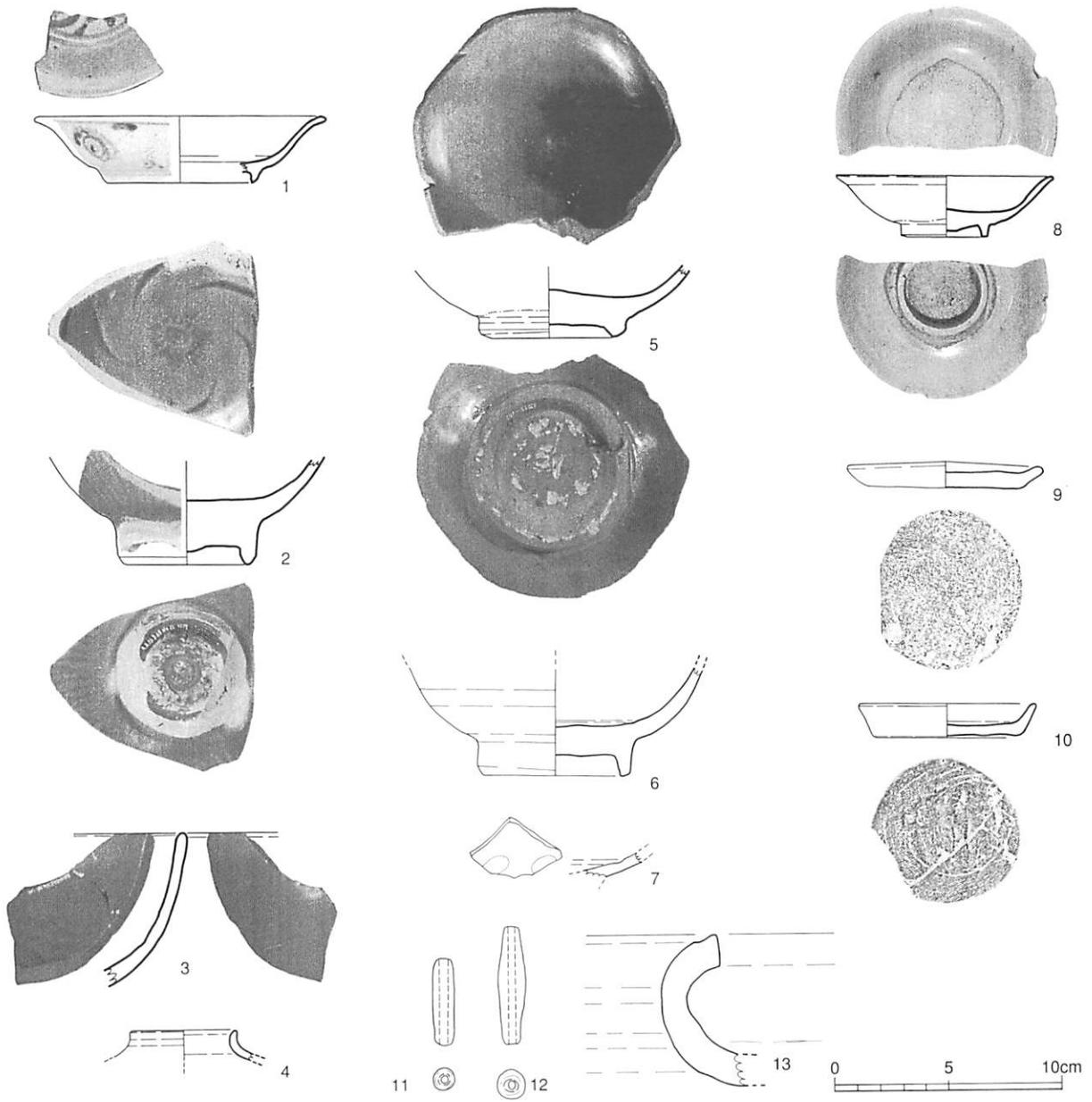
第108図 5層出土遺物実測図



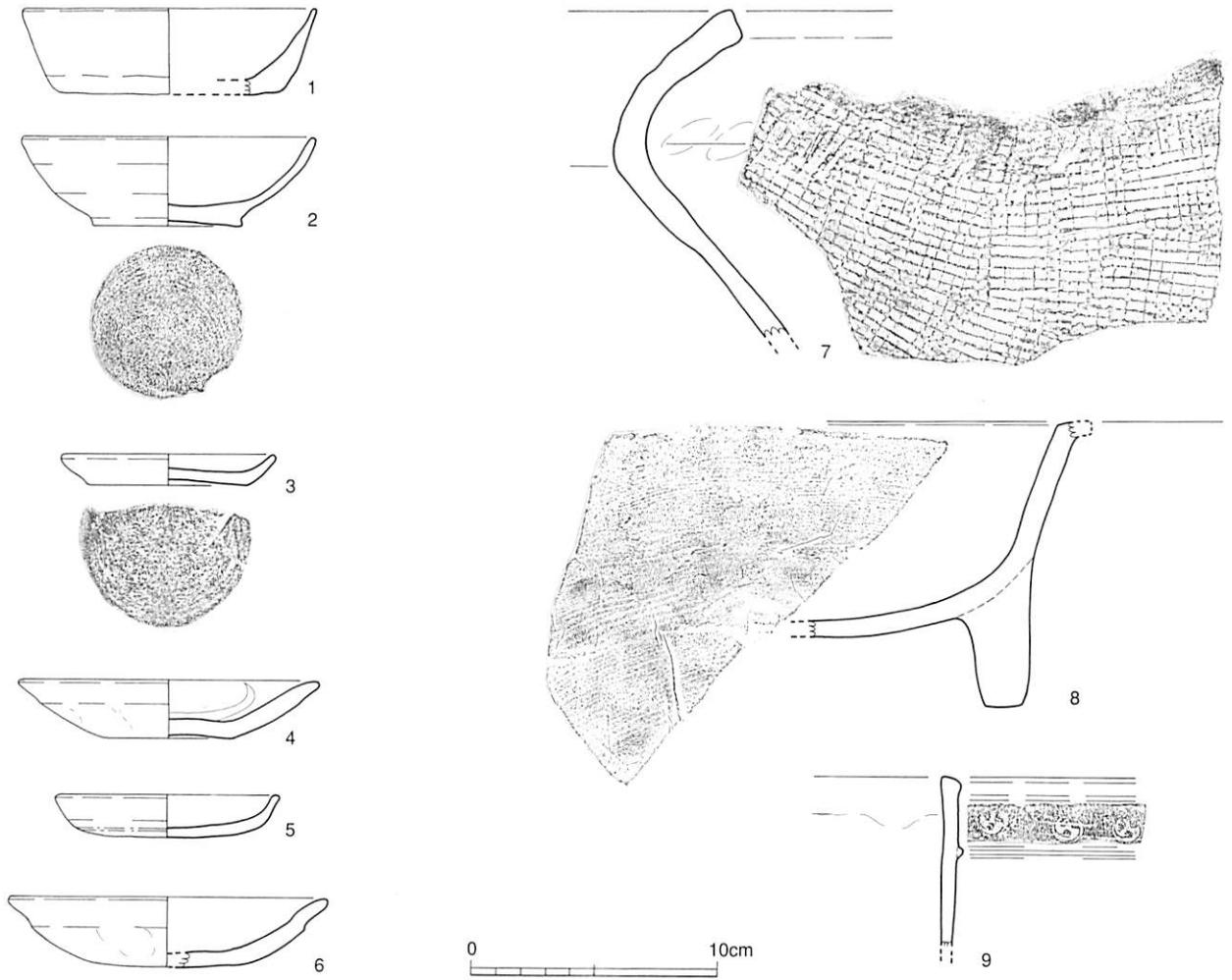
第109図 6層出土遺物実測図



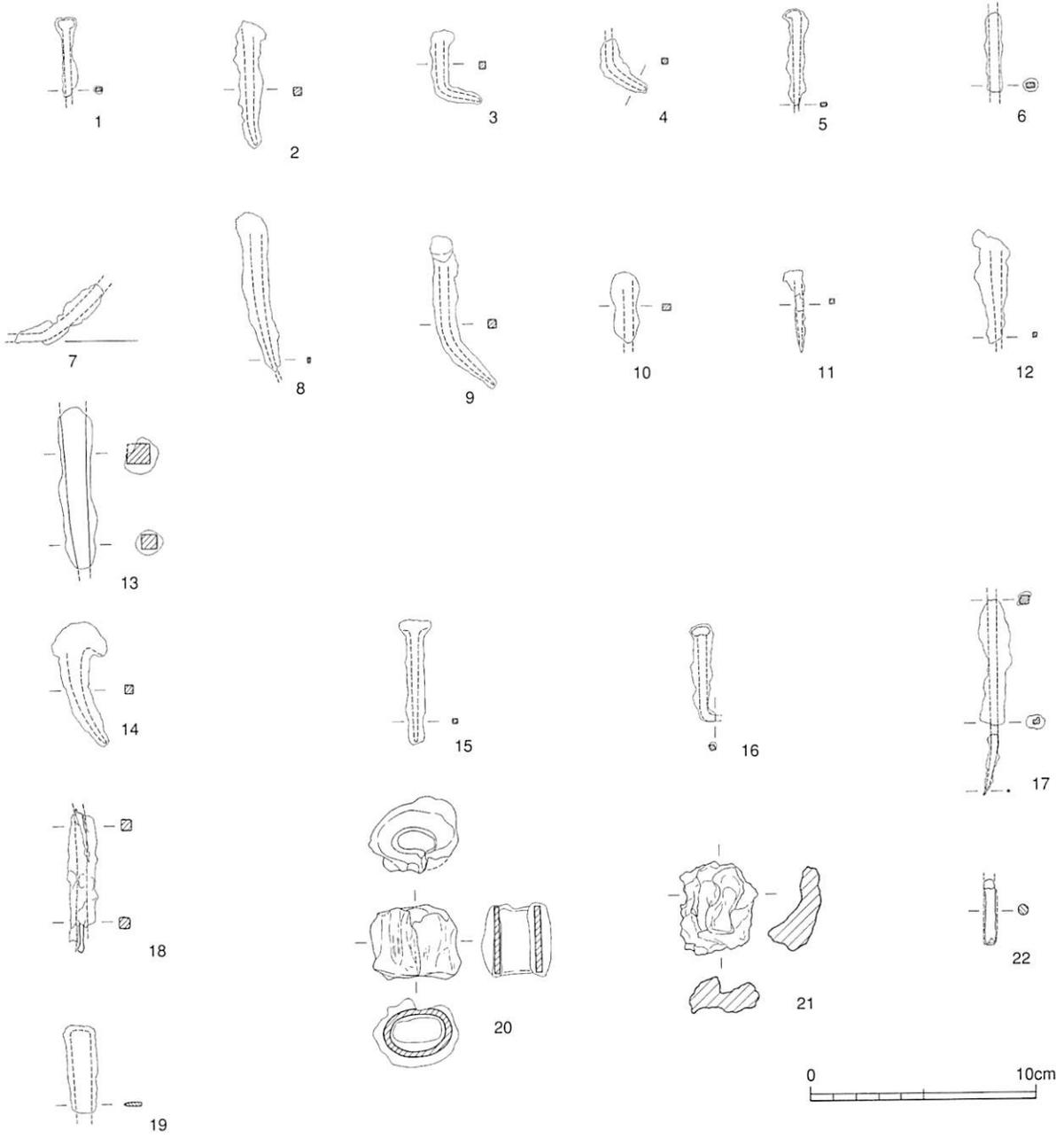
第110図 6層出土遺物実測図



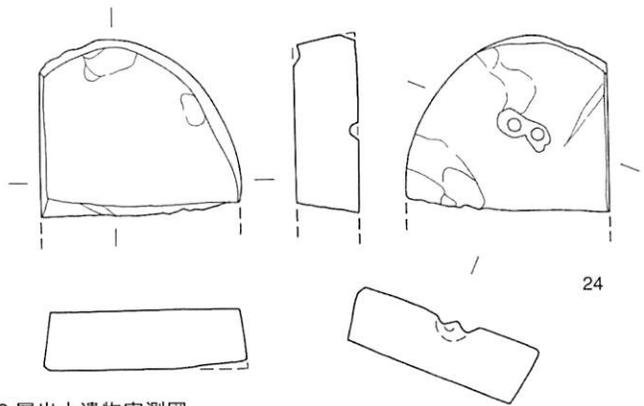
第 111 図 包含層出土遺物実測図



第 112 図 番号採上遺物実測図



23



24

第113图 6層出土遺物実測図

府内町跡55次調査遺物観察表

挿図No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
			口径	底径	器高		
第5図1							
第5図2							
第5図3							
第5図4	鉄製品						
第5図5	鉄製品						
第5図6	青磁	香炉	中国龍泉窯				
第8図1	土師質土器	皿	吉備系	10.5	4.5	3.1	SD51
第8図2	在地系土師器	皿	在地	12.0	3.2	7.8	SD51
第8図3	在地系土師器	皿	在地		6.7		SD51
第8図4	在地系土師器	皿	中国	7.6	6.4	1.2	SD51
第8図5	瓦質土器	皿	在地	12.3	—	2.4	SD51
第8図6	京都系土師器	皿	在地	7.9	—	2.2	SD51
第8図7	瓦質土器	皿	在地		—		SD51
第8図8	瓦質土器	火鉢	在地	—	—	—	SD51
第8図9	瓦質土器	鉢	備前				SD51
第8図10	青磁	皿	在地		5.0		SD51
第8図11	在地系土師器	皿	在地			—	SD51
第8図12	陶器	播鉢	在地				SD51
第8図13	青磁	碗	備前				SD51
第8図14	白磁	碗	備前	13.0	5.0		SD51
第8図15	青花	碗	中国	10.0			SD51
第8図16	青花	碗	朝鮮		3.5		SD51
第8図17	瓦質土器	鉢	国内				SD51
第8図18	陶器	播鉢	備前				SD51
第8図19	瓦質土器	鉢	国内				SD51
第9図1	瓦質土器	鉢	国内	31.8			SD51
第9図2	滑石		国内	2.8	4.0	16.1g	SD51
第9図3	凝灰岩		在地	19.8	6.7	25kg	SD51
第9図4	鉄	釘	国内	5.3		4.0g	SD51
第9図5	鉄	釘	国内	4.5		4.9g	SD51
第9図6	鉄	釘	国内	2.9		3.9g	SD51
第9図7	青銅	仏像	国内	4.2	1.5	1.0	SD51
第9図8	銭		中国	2.5		2.2g	SD51
第11図1	京都系土師器	皿	在地	35.6			SK105
第11図2	京都系土師器	皿	在地	3.3	17.8	10.3	SK105
第11図3	青花	碗	朝鮮	16.0			SK105
第11図4	瓦質土器	鉢	国内	19.4			SK105
第13図1	白磁	碗	国内				SE107
第13図2	陶器	天目碗	国内				SE107
第13図3	陶器	播鉢	備前	28.8			SE107
第13図4	陶器	播鉢	備前				SE107
第13図5	弥生土器	甕	在地				SE107
第15図1	土師質土器	製塩土器	国内	7.6			SK96
第15図2	焼締め陶器	鉢	中国南部	33.0			SK96
第15図3	瓦質土器	火鉢	在地				SK96
第15図4	瓦質土器	鉢	在地	8.8		2.1	SK96
第15図5	結晶片岩	研石		7.1	5.2	2.6	SK96
第18図1	青磁	碗			5.1		SK45
第18図2	陶器	水注	不明				SK56
第18図3	土師質土器		国内				SK47
第18図4	京都系土師器	皿	在地	9.6	4.4	1.9	SK67
第18図5	青磁	碗	中国				SK52
第18図6	青磁	碗	中国龍泉窯		4.8		SK70
第18図7	青花	皿	中国景德鎮		6.2		SK76
第18図8	陶器	播鉢	備前				SK76
第18図9	鉄	釘	国内	9.9			SK62
第20図1	京都系土師器	皿	在地	9		2.1	SX99
第20図2	陶器	播鉢	備前				SX99
第23図1	在地系土師器	皿	国内	12.2	7.2	2.7	SK127
第23図2	在地系土師器	皿	国内		6.0		SK127
第23図3	鉄	釘	国内	2.9			SK127
第23図4	鉄	釘	国内	5.9			SK127
第24図1	在地系土師器	皿	在地	9.4			SK151
第24図2	在地系土師器	皿	在地	13.6			SK156
第24図3	在地系土師器	皿	在地		6.3		SK156

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第24図4	土師器	皿	吉備系			2.9	SK163	60F区6層も。白黄色
第24図5	土師器	燭台	在地	8.6	6.8	6.5	SK195	にぶい橙色
第24図6	陶器	掃鉢	備前				SK135	灰黄色・灰白色
第24図7	鉄	釘	在地				SK124	茶褐色
第24図8	鉄	釘	在地	7.4			SK162	
第24図9	鉄	釘	国内	4.8			SK115	
第24図10	鉄	釘	国内	4.0			SK158	
第24図11	鉄	釘	国内				SK111	
第24図12	鉄	火打鉄	国内				SK111	
第25図1	陶器	德利	朝鮮				SK181	
第25図2	瓦質土器	碗	国内				SK182	
第25図3	鉄製品	釘	国内				SK182	
第25図4	銭貨	銅					SK182	
第28図1	土師質土器	椀	国内				SK218	底部回転ヘラ切り
第28図2	土師器	高杯	国内				SK218	橙色
第28図3	青銅		国内			5.7 g	SK218	
第28図4	瓦質土器	鉢	国内				SK174	灰褐色
第28図5	瓦質土器	鉢	国内				SK174	橙色
第28図6	鉄	平瓦	在地	3.1		3.5 g	SK198	
第28図7	在地系土師器	皿	在地	10.4	3.2	3.0	SK201	板状圧痕。にぶい橙色。金色雲母少
第28図8	石	石鍋	国内			119.8 g	SK174	
第30図1	瓦質土器	鉢	国内	33.2	24.2	8.9	SK223	にぶい黄橙色
第32図1	京都系土師器	皿	在地	13.2		2.6	SK69	
第32図2	京都系土師器	皿	在地				SK69	
第32図3	京都系土師器	皿	在地	12.5		2.4	SK69	
第32図4	京都系土師器	皿	在地	13.6		2.4	SK69	
第32図5	京都系土師器	皿	在地	12.3		2.7	SK69	
第32図6	京都系土師器	皿	在地	10.8		2.1	SK69	
第32図7	京都系土師器	皿	在地	8.2		1.8	SK69	
第32図8	京都系土師器	皿	在地	12.6			SK69	
第32図9	京都系土師器	皿	在地	13.6		2.9	SK69	
第32図10	京都系土師器	皿	在地	8.8		2	SK69	
第32図11	土師質土器	塩壺蓋	在地	5		1.8	SK69	
第32図12	土師質土器	椀	国内	10.0			SK69	赤橙色
第32図13	白磁	皿	中国	12.0	6.7	3.1	SK69	
第32図14	青花	碗	中国	11.6			SK69	
第32図15	陶器	掃鉢	備前				SK69	暗灰色
第32図16	瓦質土器	火鉢	在地	39.0			SK69	
第32図17	土師質	土錘	在地	5.8	1.2	0.4	SK69	長・幅・内径、重量6.3g
第32図18	銭	北宋	中国1078年			2.7g	SK69	元豊通宝
第32図19	銭	北宋	中国1023年			2.6g	SK69	天聖元宝
第32図20	鉄		国内	9.2			SK69	一端は輪
第32図21	鉄	刃物	国内	15.8	1.2	0.3	SK69	長・幅・厚さ、重量29.0g
第36図1	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.2	SK80	
第36図2	瓦質土器	茶釜	国内				SK80	
第36図3	瓦質土器	火鉢	在地				SK80	
第36図4	瓦質土器	火鉢	在地				SK80	
第36図5	土師質	土錘	在地	4.6	1.3	6.8g	SK80	
第36図6	青銅	分銅	国内	5.4	2.1	0.5	SK80	長・幅・厚さ、重量25.7g
第36図7	陶器	鉢	国内				SK80	
第36図8	鉄	釘	国内	4.3		9.4g	SK80	
第36図9	鉄	釘	国内	4.9		7.7 g	SK80	
第36図10	京都系土師器	皿	国内				SK80	
第37図1	銭		中国	2.3		1.0g	SK139	
第37図2	京都系土師器	火鉢	在地	17.8			SK140	
第37図3	京都系土師器	皿	在地	17.2		2.4	SK140	
第37図4	在地系土師器	皿	在地	8.4	5.7	1.6	SK140	橙褐色
第37図5	土師質土器	塩壺蓋	在地	3.4	0.9	7.7 g	SK140	
第37図6	土師質土器	塩壺蓋	在地	5	0.75	5.1 g	SK140	
第37図7	青磁	碗	中国				SK140	
第37図8	鉄	釘	国内	2.6			SK140	
第37図9	鉄		国内				SK140	
第39図1	青花	皿	中国景德镇窯				SD120	
第39図2	青花	皿	中国景德镇窯				SD120	
第39図3	土師質土器	鍋	国内				SD120	
第39図4	鉄	釘	国内	4.2		3.2 g	SD120	

押図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口徑	底徑	器高		
第39図5	鉄	釘	国内	6.2		15.8 g	SD120	
第42図1	京都系土師器	皿	在地	16.6		2.6	SK164	
第42図2	白磁	皿	中国				SK164	
第42図3	陶器	播鉢	備前				SK164	SK80の同一個体
第43図1	鉄	鎧	国内	16.5	13	86.1g	SK164	直線部長・輪部長・重量
第43図2	鉄	鎧	国内	17.8		69.3g	SK164	直線部長・重量
第45図1	京都系土師器	皿	在地	16.6		1.8	SK130	
第45図2	京都系土師器	皿	在地	14.8		2.1	SK130	
第45図3	京都系土師器	皿	在地	14.3		2.1	SK130	
第45図4	土師質土器	こね鉢	東播系				SK130	
第47図1	京都系土師器	皿	在地	12.8		2.6	SK191	にぶい黄橙
第47図2	在地系土師器	皿	在地	12.4	9	2.8	SK191	にぶい橙
第47図3	在地系土師器	皿	在地	9	7.6	1.2	SK191	にぶい黄橙
第47図4	須恵質土器	鉢	東播系				SK191	灰白色
第49図1	鉄製品	釘	国内	3	0.3	2.4 g	SP134	
第40図1	鉄製品	釘	国内	3	0.3	2.4 g	SK134	
第50図1	在地系土師器	皿	在地	7.4	4.4	2.3	SD200	にぶい橙色
第50図2	在地系土師器	皿	在地	11.8	6.4	2.6	SD200	橙色
第50図3	京都系土師器	皿	在地	10.4			SD200	にぶい黄橙色
第50図4	京都系土師器	皿	在地				SD200	にぶい黄橙色
第50図5	瓦質土器	羽釜	国内				SD200	にぶい黄橙色
第52図1	京都系土師器	皿	在地	8.9		9.0	SK108	
第52図2	青花	碗	中国景德鎮窯				SK108	
第52図3	青磁	碗	中国龍泉窯				SK108	
第52図4	鉄製品	釘					SK108	
第52図5	鉄製品	釘					SK108	
第52図6	鉄製品	釘					SK108	
第52図7	鉄製品	釘					SK108	
第52図8	鉄製品	釘					SK108	
第52図9	銭貨	銅	元豊通宝				SK108	
第52図10	銭貨	銅	政和通宝				SK108	
第52図11	銭貨	銅	元豊通宝				SK108	
第57図1	瓦	平瓦	在地				SX100	古代。桶巻きつけ。格子目叩き
第60図1	在地系土師器	皿	在地	9.0	5.5	1.9	SP257	橙褐色
第60図2	京都系土師器	皿	在地	13.8			SP257	淡い褐色
第60図3	鉄	釘	国内				SP257	
第60図4	銭	青銅	中国	2.4		0.8 g	SP257	
第61図1	在地系土師器	皿	在地				SK157	
第61図2	瓦質土器	皿	国内				SK157	
第61図3	陶器	甕	備前				SK157	
第61図4	瓦質土器	皿	国内				SK157	
第61図5	土師質土器	鉢	東播系				SK157	褐灰色
第61図6	石	石鍋	在地				SK157	
第61図7	鉄	釘	在地				SK157	
第61図8	鉄	皿	在地				SK157	
第61図9	鉄	釘	在地				SK157	
第61図10	鉄	火鉢	在地				SK157	
第63図1	在地系土師器	皿	在地	12.8	8.2	3.1	SE104	淡褐色。板状圧痕。掘り方
第63図2	在地系土師器	皿	在地	12.4	7.4	2.6	SE104	淡褐色。井側
第63図3	在地系土師器	皿	在地	12.0	6.8	2.5	SE104	No.1。橙褐色。板状圧痕
第63図4	在地系土師器	皿	在地	12.2	7.2	2.1	SE104	橙褐色
第63図5	在地系土師器	皿	在地	11.4	6.2	2.7	SE104井側	60D5層も。橙褐色。板状圧痕
第63図6	瓦質土器	不明	国内	33.6			SE104	
第63図7	石	石鍋	国内				SE104	No.3
第63図8	鉄	釘	国内	7.7			SE104	
第63図9	青銅	留め金具	国内	1.3	0.8	1.1 g	SE104	直径・高さ・重量
第63図10	陶器	舟徳利	朝鮮		5.4		SE104	掘り方+S69-4層
第54図1	在地系土師器	皿	在地	12.6	7.7	2.2	SK148	板状圧痕。橙褐色
第54図2	在地系土師器	皿	在地	12.4	7.2	2.4	SK148	板状圧痕。橙褐色
第54図3	在地系土師器	皿	在地	12.6	7.3	2.4	SK148	板状圧痕。橙褐色
第54図4	在地系土師器	皿	在地	12.2	7.4	2.2	SK148	板状圧痕。橙褐色
第66図1	土師質	塩竈蓋	在地	5.2		1.7	SP224	
第67図1	瓦質土器	甕	国内	38.9			SK225・234	灰色
第67図2	鉄	刃物	国内	7.4		15.0 g	SK225	
第67図3	銭	北宋	中国1023年	2.4		2.0 g	SK225	天聖元宝
第67図4	銭	唐	中国621年	2.4		2.8 g	SK225	開元通宝

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第70図1	在地系土師器	皿	国内	13.6	9.3	3.9	SE188	淡褐色。井側
第70図2	在地系土師器	皿	国内	12.6	9.4	2.9	SE188	淡褐色。No.4
第70図3	在地系土師器	皿	国内	11.2	7.0	3.2	SE188	白褐色。掘り方多数+S258
第70図4	在地系土師器	皿	国内	12.4	8.6	3.9	SE188	橙褐色。No.3
第70図5	陶器	皿	瀬戸美濃		3.3		SE188	井側。淡褐色。注ぎ口一箇所
第70図6	在地系土師器	皿	在地	3.7	2.3	1.1	SE188	
第70図7		鉢	国内	17.0			SE188	井側。灰褐色
第70図8	瓦質土器	鉢	国内				SE188	
第70図9	瓦質土器	鉢	国内				SE188	井側
第70図10	瓦質土器	鉢	国内				SE188	掘り方
第70図11	瓦質土器	鉢	国内				SE188	淡褐色
第70図12	瓦質土器	鉢	国内				SE188	橙褐色。外面煤付着
第70図13	石	石鍋	国内				SE188	
第70図14	瓦質土器	皿	在地			13.8	SE188	井側。橙褐色
第70図15	瓦質土器	皿	在地				SE188	井側。黒褐色
第71図1	土師質	土器片	在地				SK188	No.2
第71図2	土師質	皿	在地	2.7	2.5	0.6	SK188	掘り方。長・幅・厚さ
第71図3	土師質	土錘	在地	5.2	2.0	18.1 g	SK188	長・幅・重量、淡褐色
第71図4	土師質	土錘	在地	4.2	1.2	5.9 g	SK188	長・幅・重量、褐灰色
第71図5	鉄	釘	在地	5.2		9.5 g	SK188	
第71図6	鉄	釘	在地	4.5		7.3 g	SK188	
第71図7	鉄	釘	在地	3.8		8.2 g	SK188	
第71図8	鉄	釘	在地			7.0 g	SK188	井側
第71図9	銭	北宋	中国1017年				SK188	No.1。天キ通宝
第71図10	銭	北宋	中国1068年				SK188	キ寧元宝
第74図1	土師質	皿	在地	13.5	8.4	2.5	SK245	
第74図2	瓦質土器	甕	国内				SK246	灰橙褐色
第77図1	在地系土師器	皿	在地	14.2	9.5	3.4	SK183	淡褐色
第77図2	鉄	釘	国内	7.4	0.5	13.6 g	SK183	
第79図1	在地系土師器	皿	在地	11.6	7.8	3.3	SK230	にぶい黄橙色
第79図2	在地系土師器	皿	在地	13.0	6.8	3.2 g	SK230	にぶい黄橙色
第79図3	青磁	皿	中国龍泉窯	13.8	5.8	4.2	SK230	明緑灰色
第79図4	土師質土器	皿	国内		8.6		SK230	暗灰色
第79図5	鉄	釘	在地	5.7		17.7 g	SK230	
第79図6	鉄	釘	在地				SK240	
第79図7	鉄	釘	在地				SK240	
第81図1	在地系土師器	皿	在地	10.4	7.9	3.1	SE85	黄橙
第81図2	在地系土師器	皿	在地	12.4	8.0	3.4	SE85	橙色
第81図3	在地系土師器	皿	在地				SE85	橙色
第81図4	在地系土師器	皿	在地	11.6	8.2	3.5	SE85	橙色
第81図5	在地系土師器	皿	在地	10.1	6.8	3.0	SE85	にぶい橙
第81図6	在地系土師器	皿	在地	10.4	7.6	2.6	SE85	にぶい黄橙
第81図7	在地系土師器	皿	在地	7.0	5.7	1.4	SE85	にぶい橙
第81図8	土師質土器	こね鉢	東播系		9.3		SE85	灰色
第81図9	在地系土師器	皿	在地		6.9		SE85	橙色
第81図10	在地系土師器	皿	在地	15.2	9.6	4.5	SE85	にぶい黄橙色
第81図11	在地系土師器	皿	在地		7.6		SE85	にぶい黄橙色
第81図12	在地系土師器	皿	在地	8.5	7.1	1.1	SE85	にぶい黄橙色
第81図13	在地系土師器	皿	在地	8.2	6.5	1.3	SE85	橙色
第81図14	在地系土師器	皿	在地	8.3	6.8	1.0	SE85	橙色
第81図15	在地系土師器	皿	在地	8.3	6.0	1.5	SE85	橙色
第81図16	在地系土師器	皿	中国	8.0	6.0	1.3	SE85	橙色
第81図17	在地系土師器	皿	在地	7.7	5.6	1.6	SE85	橙色
第81図18	在地系土師器	皿	在地	7.8	5.9	1.4	SE85	橙。金色の雲母を中量含む
第81図19	在地系土師器	皿	在地	8.0	6.1	1.6	SE85	橙色
第81図20	在地系土師器	皿	在地	7.8	5.8	1.3	SE85	橙色
第81図21	在地系土師器	皿	在地	8.0	6.4	1.8	SE85	にぶい黄橙色
第81図22	在地系土師器	皿	在地	6.8	5.0	1.3	SE85	橙色
第81図23	在地系土師器	皿	在地	7.4	5.1	1.3	SE85	にぶい橙
第81図24	在地系土師器	皿	在地	7.8	5.8	1.4	SE85	橙色
第82図1	瓦質土器	鉢	在地	27.3			SE85	掘り方
第82図2	瓦質土器	鉢	在地	35.0			SE85	14世紀(山本)・掘り方
第82図3	瓦質土器	鉢	在地	32.1			SE85	井側・掘り方
第82図4	瓦質土器	鉢	在地				SE85	No.6
第82図5	瓦質土器	鉢	在地				SE85	井側
第82図6	瓦質土器	鉢	在地				SE85	掘り方

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第82図7	土師質	土錘	在地				SE85	井側
第82図8	土師質	土錘	在地				SE85	井側
第82図9	土師質	土錘	在地				SE85	掘り方
第82図10	弥生土器	壺	在地				SE85	井側
第82図11	弥生土器	甕	在地				SE85	
第82図12	滑石	石鍋	在地				SE85	掘り方
第82図13	瓦質土器	角火鉢	在地				SE85	No.9
第82図14	石		国内				SE85	井側。輝緑凝灰岩
第82図15	青銅銭	北宋	中国	2.5		3.3g	SE85	祥符元宝1009年
第83図1	瓦質土器	甕	国内	40.2	70.2		SE85	口径・胴部径
第83図2	瓦質土器	甕	国内				SE85	
第75図3	陶器	鉢	中国磁そう窯系				SE85	
第75図4	陶器	鉢	中国磁そう窯系				SE85	鉄釉。淡い黄褐色
第84図1	土師質	皿	在地	13.5	8.4	2.5	SK245	
第84図1	青磁	碗	中国				SE85	
第84図2	陶器	甕	常滑				SE85	掘り方
第84図3	瓦質土器	鉢	国内				SE85	
第84図4	陶器	播鉢	備前				SE85	
第84図5	土師質	こね鉢	東播系				SE85	掘り方
第84図6	土師質	こね鉢	東播系				SE85	掘り方
第84図7	瓦質土器	甕	国内				SE85	井側
第84図8	青磁	碗					SE85	井側
第84図9	鉄	釘	国内				SE85	掘り方
第84図10	鉄	釘	国内				SE85	掘り方
第84図11	鉄	釘	国内				SE85	井側
第84図12	鉄	釘	国内				SE85	
第84図13	鉄	釘	国内				SE85	
第84図14	鉄	釘	国内				SE85	
第84図15	鉄	釘	国内				SE85	井側
第84図16	鉄	刃物	国内				SE85	井側
第86図1	弥生土器	甕	在地				SE184	
第86図2	土師器	高杯	在地				SE184	
第86図3	在地系土師器	皿	在地				SE184	
第86図4	在地系土師器	皿	在地				SE184	
第86図5	在地系土師器	皿	在地				SE184	
第86図6	軒丸瓦		在地				SE184	
第86図7	銭貨		中国				SE184	
第88図1	在地系土師器	皿	在地	8.5	6.7	1.4	SP265	橙色
第88図2	在地系土師器	皿	在地	8.7	7.2	1.2	SP265	橙色
第88図3	在地系土師器	皿	在地	8.5	7.3	1.2	SP265	板状圧痕。橙色
第88図4	在地系土師器	皿	在地	8.4	7.4	1.2	SP265	板状圧痕。橙色
第88図5	在地系土師器	皿	在地	12.7	9.0	3.0	SP265	板状圧痕。浅黄橙色
第88図6	在地系土師器	皿	在地	8.5	6.6	1.2	SP265	にぶい黄橙色
第88図7	在地系土師器	皿	在地	8.1	6.9	1.1	SP265	板状圧痕。にぶい黄橙色
第88図8	在地系土師器	皿	在地	8.2	6.9	1.2	SP265	にぶい黄橙色
第88図9	在地系土師器	皿	在地	8.3	6.2	1.2	SP265	板状圧痕。浅黄橙色
第88図10	在地系土師器	皿	在地	8.5	6.8	1.2	SP265	にぶい橙色
第88図11	鉄	釘	在地	8.7			SP265	
第91図1	古代瓦	平瓦	在地				SK201	内面布目・外面格子目。石英少
第91図2	青磁	碗	中国龍泉窯	15.6			SK232	
第91図3	在地系土師器	皿	在地		7.5		SK235	
第91図4	土師質土器	土錘	在地	4.1	2.3	21.7 g	SK232	内面布目・外面格子目。石英少
第91図5	土師質土器	土錘	在地	4.2	0.9	4.0 g	SK232	
第91図6	鉄	釘	在地	2.1			SK232	
第92図1	在地系土師器	皿	在地		8.4		SD260	
第96図1	京都系土師器		在地	13.2		2.5	60E区3層	にぶい黄橙色
第96図2	京都系土師器		長崎	8.4		1.7	60E区3層	黄褐色
第96図3	京都系土師器		在地	4.4		1.6	60E区3層	黄褐色
第96図4	青磁	香炉	中国				検出面	
第96図5	青花	碗	中国景德鎮窯	11.6			60E区3層	
第96図6	白磁	碗	中国		5.4		60E区3層	
第96図7	陶器	鉢					60E区3層	
第96図8	陶器	碗	瀬戸美濃		4.4		60E区3層	黒茶色
第96図9	陶器	碗	瀬戸美濃				60D区3層	暗褐色
第96図10	土師質	土錘	在地	5.2	3.1	27.1 g	60E区3層	長・幅・重量
第96図11	土師質	土錘	在地		1.0	3.3 g	60E区3層	幅・重量

押図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第96図12	土師質	土鉢	在地		1	3.3 g	60E区3層	幅・重量
第96図13	青花	皿	中国				60E区3層	
第96図14	陶器	天目碗	国内				60E区	
第96図15	陶器	鉢	備前				60E区3層	
第96図16	陶器	鉢	備前				60E区3層	
第96図17	陶器	鉢	国内				60D区3層	刻印
第96図18	陶器	搦鉢	肥前				60E区3層	暗赤褐色
第96図19	陶器	搦鉢	肥前				60E区3層	
第96図20	土師質		国内				60D区3層	花紋の貼付け
第96図21	鉄	釘	国内				60E区3層	
第96図22	鉄	釘	国内				60E区3層	
第96図23	鉄	釘	国内				60G区3層	
第96図24	鉄	釘	国内				60E区3層	
第96図25	鉄		国内				60E区3層	
第96図26	蛇紋岩	玉砂利	在地	1.8	1.5	2.5 g	60E区3層	
第96図27	蛇紋岩	玉砂利	在地	2.7	1.3	3.2 g	中央6層	
第97図1	在地系土師器	皿	在地				4層54	金色雲母少
第97図2	在地系土師器	皿	在地	12.0	7.2	2.6	4層122	にぶい黄橙色
第97図3	在地系土師器	皿	在地	13.0	6.8	2.5	4層128・129	浅黄橙色
第97図4	在地系土師器	皿	在地	8.0	4.4	1.7	60D区4層	にぶい黄橙色
第97図5	在地系土師器	皿	在地	11.8	6.2	2.7	4層153	橙色
第97図6	在地系土師器	皿	在地	12.0	7.4	2.2	4層120	にぶい黄橙色
第97図7	在地系土師器	皿	在地	14.0	7.5	2.7	4層154	にぶい橙色
第97図8	在地系土師器	皿	在地	9.0	5.2	2.1	60D区4層	黄灰色
第98図1	京都系土師器	皿	在地	20.8		2.6	4層116	にぶい黄橙色
第98図2	京都系土師器	皿	在地	13.0		2.2	4層123	にぶい黄橙色
第98図3	京都系土師器	皿	在地	12.6		3.3 g	60E区4層	にぶい黄橙色
第98図4	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.3	4層90	にぶい黄橙色
第98図5	京都系土師器	皿	在地	12.2		2.1	4層140	にぶい橙色
第98図6	京都系土師器	皿	在地	12.2		1.9	60E区4層	淡黄色
第98図7	京都系土師器	皿	在地	10.8		2.3	4層56	にぶい黄橙色
第98図8	京都系土師器	皿	在地	11.0		2.2	4層72	にぶい黄橙色
第98図9	京都系土師器	皿	在地	10.8		2.0	60D区5層	浅黄橙色
第98図10	京都系土師器	皿	在地	10.2		2.4	4層118	にぶい黄橙色
第98図11	京都系土師器	皿	在地	10.0		2.1	60D区4層	にぶい橙色
第98図12	京都系土師器	皿	在地	8.8		2.2	60D区4層	黄橙色
第98図13	京都系土師器	皿	在地	8.8		2.1	4層14	にぶい黄橙色
第98図14	京都系土師器	皿	在地	8.5		2.1	60F区4層	にぶい黄橙色
第98図15	京都系土師器	皿	在地	12.0		2.5	4層141	にぶい黄橙色
第98図16	京都系土師器	皿	在地	13.0		2.6	60D区4層	にぶい黄橙色
第98図17	京都系土師器	皿	在地	12.8		2.2	4層67	にぶい黄橙色
第98図18	京都系土師器	皿	在地	11.6		2.2	4層138	黄褐色
第98図19	京都系土師器	皿	在地	8.8		2.0	60E区4層	にぶい黄橙色
第98図20	京都系土師器	皿	在地	8.0		2.0	4層68	にぶい黄橙色
第98図21	京都系土師器	皿	在地	8.4		1.9	60D区5層	にぶい黄橙色
第98図22	京都系土師器	皿	在地	8.4		2.1	60F区4層	にぶい橙色
第98図23	京都系土師器	皿	在地	8.2		2.0	4層142	にぶい黄橙色
第99図1	瓦質土器	火鉢	国内	44.0			4層173	SK107-1と同一
第99図2	瓦質土器	火鉢	国内				60D区4層	灰色
第99図3	瓦質土器	火鉢	在地				4層125	にぶい橙色
第99図4	瓦質土器	火鉢	在地				4層32	灰色
第99図5	瓦質土器	火鉢	在地				4層136	灰色
第99図6	瓦質土器	火鉢	国内				60F区4層	7と同一個体
第99図7	瓦質土器	火鉢	国内				60F区4層	灰色
第99図8	瓦質土器	火鉢	国内				60D区	4層上面～10cmの間
第99図9	瓦質土器	火鉢	国内				60F区4層	褐灰色
第99図10	瓦質土器	火鉢	国内				4層23	灰色
第99図11	瓦質土器	火鉢	国内				60F区4層	脚
第99図12	瓦質土器	火鉢	在地				4層126	灰黄褐色
第100図2	陶器	搦鉢	備前				4層100	赤褐色
第100図2	陶器	搦鉢	備前				5層151	灰赤褐色
第100図3	陶器	搦鉢	備前		19.4		4層114	灰色
第100図4	陶器	搦鉢	備前				4層131	灰赤色
第100図5	陶器	搦鉢	備前				60E区4層	灰褐色
第100図6	陶器	搦鉢	備前				60F区4層	灰色
第100図7	陶器	搦鉢	備前				4層75	灰褐色

挿図No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	
			口径	底径	器高			
第100図8	陶器	播鉢	備前			60E区4層	灰赤色	
第100図9	陶器	播鉢	備前			4層156	灰赤褐色	
第100図10	陶器	播鉢	備前			4層115	明褐色	
第100図11	京都系土師器	播鉢	備前			4層9	灰褐色	
第100図12	京都系土師器	播鉢	備前			4層37	灰色	
第101図1	青磁	碗再利用	中国	5.5		4層20	灰オリーブ色	
第101図2	青磁	蓋	中国			4層36		
第101図3	青磁	掛花入れ	中国			4層43		
第101図4	陶器	壺	中国磁州窯			4層40	灰白色地に褐色上絵	
第101図5	白磁	合子	中国			60E4層下部	灰白色地に褐色上絵	
第101図6	白磁	碗再利用	中国	12.8		60F区4層	オリーブ灰色	
第101図7	白磁	皿	中国	9.6	4.2	2.0	4層29	目跡・
第101図8	白磁	皿	中国	12.2	6.6	2.7	60E区4層	淡黄色
第101図9	白磁	皿	中国	12.0	2.2	6.4	4層11	灰白色地に褐色上絵
第101図10	白磁	碗	中国		2.4		4層110	灰白色地に褐色上絵
第101図11	白磁	合子	中国			4層		
第101図12	白磁	碗	中国			60E4層下部	線刻紋	
第101図13	青花	皿	中国しょうしゅう	4.2			60E区4層	
第101図14	青花	碗	中国しょうしゅう	6.1			60F区4層	再利用
第101図15	青花	角花瓶	中国				60F区4層	
第101図16	青花	碗	中国しょうしゅう				4層34	
第101図17	青花	皿	中国しょうしゅう	110.0	4.8	3.1	4層35	
第101図18	青花	碗	中国景德鎮				60F区4層	
第101図19	青花	角花瓶	中国				4層40	第104図15と同一個体
第101図20	青花	皿	中国景德鎮				60E区4層	
第101図21	青花	皿	中国景德鎮				60D区4層	内外茶色釉(高台内側以外)
第101図22	青花	碗	中国しょうしゅう				4層66	
第101図23	青花	碗	中国				4層65	
第101図24	陶器	皿	関西系	7.6	2.3	1.7	60E区4層	
第101図25	磁器	碗	肥前		2.9		4層28	
第101図26	陶器	香炉	肥前				60E区4層	60G区3層も
第102図1	京都系土師器	皿	在地	17.6		2.5	4層113	にぶい黄橙色
第102図2	京都系土師器	皿	在地	15.6		3.5	4層77	にぶい橙色
第102図3	京都系土師器	皿	在地	12.6		1.9	4層62	橙色
第102図4	京都系土師器	皿	在地	12.2		2.5	4層70	にぶい黄橙色
第102図5	京都系土師器	皿	在地	12.4		2.3	4層134	にぶい黄橙色
第102図6	京都系土師器	皿	在地	11.4		2.2	60F区4層	にぶい橙色
第102図7	京都系土師器	皿	在地				4層121	にぶい橙色
第102図8	京都系土師器	皿	在地				4層132	にぶい橙色
第102図9	京都系土師器	皿	在地				4層137	にぶい橙色
第102図10	京都系土師器	皿	在地	10.8		2.3	4層95	にぶい橙色
第102図11	京都系土師器	焼塩壺蓋	在地	5.6		1.5	60D区4層	にぶい橙色
第102図12	京都系土師器	焼塩壺蓋	在地	5.0		1.8	60D区4層	灰黄褐色
第102図13	京都系土師器	焼塩壺蓋	在地	6.0		1.7	60E区4層	にぶい黄橙色
第102図14	京都系土師器	焼塩壺蓋	在地	5.6		2.0	4層21	浅黄色
第102図15	京都系土師器	皿	在地				4層	
第103図1	瓦質土器	鉢	国内				60E区94	
第103図2	陶器	鉢	中国南部				60E区4層	
第103図3	焼締め陶器	鉢	中国南部				60F区4層	
第103図4	焼締め陶器	壺蓋	中国南部				60E区4層	
第103図5	陶器	碗	中国				60D区4層	
第103図6	焼締め陶器	播鉢	中国南部				60D区4層	
第103図7	陶器	天目碗	瀬戸美濃	11.4	5.7		4層3	
第103図8	陶器	天目碗	瀬戸美濃	11.8			60E区4層	
第103図9	陶器	天目碗	瀬戸美濃				60D区4層	
第103図10	陶器	碗	瀬戸美濃				60D区4層	
第103図11	陶器	天目碗	瀬戸美濃				60E区4層	
第103図12	陶器	天目碗	瀬戸美濃				60F区4層	
第103図13	陶器翡翠釉	菊花小皿	中国南部				60F区4層	
第103図14	陶器	三彩	中国南部				4層52	
第103図15	不明銭	三彩	中国南部				3層5	4層8も
第104図1	鉄	釘	国内	7.0		11.1 g	60D区4層	
第104図2	鉄	釘	国内					
第104図3	鉄	釘	国内	4.8		3.4 g	60D区4層	
第104図4	鉄	釘	国内				60E区4層	
第104図5	鉄	釘	国内	3.2		12.0 g	60D区4層	

押図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第104図6	鉄	釘	国内	2.3		1.7 g	60D区4層	
第104図7	鉄	釘	国内	3.6		3.0 g	60D区4層	
第104図8	鉄	釘	国内	3.7		4.1 g	60D区4層	
第104図9	鉄	釘	国内	2.9		5.0 g	60D区	4層上面~10cmの間
第104図10	鉄	釘	国内	3.4		21.8 g	60E区4層	
第104図11	鉄	釘	国内	6.7		13.6 g	60F区4層	
第104図12	鉄	釘	国内	8.5		17.3 g	60D区4層	
第104図13	鉄	釘	国内	11.4		81.8 g	4層51	
第104図14	鉄	刃物	国内	12.5		3.4 g	60D区4層	
第104図15	鉄	釘	国内	4.4		11.0 g	60F区4層	
第104図16	鉄	釘	国内	2.9		3.7 g	60E区4層	
第104図17	鉄	釘	国内	2.6		1.0 g	60D区4層	
第104図18	鉄	釘	国内	4.2		3.4 g	60D区4層	
第104図19	鉄	釘	国内	4.1		4.8 g	60F区4層	
第104図20	鉄	釘	国内	3.8		4.0 g	60D区4層	
第104図21	鉄	釘	国内	3.3		1.9 g	60F区4層	
第104図22	鉄	釘	国内	5.7		3.0 g	60D区	4層上面~10cmの間
第104図23	鉄	釘	国内	5.4		4.2 g	60F区4層	
第104図24	鉄	釘	国内	4.4		7.6 g	60G区4層	
第104図25	鉄	釘	国内	2.9		5.3 g	60D区	4層上面~10cmの間
第104図26	鉄	釘	国内	2.6		1.6 g	60D区4層	
第105図1	鉄	釘	国内	3.8		3.5 g	60D区5層	
第105図2	鉄	釘	国内			2.7 g	60E区4層	
第105図3	鉄	釘	国内			1.5 g	60D区4層	
第105図4	鉄	釘	国内			3.2 g	60D区4層	4層上面~10cmの間
第105図5	鉄	釘	国内			4.9 g	60E区4層	
第105図6	鉄	釘	国内	2.9		1.6 g	60E区4層	
第105図7	鉄	釘	国内				60E区4層	
第105図8	鉄		国内	4.8		3.2 g	60E区4層	
第105図9	鉄		国内			15.8 g	60E区4層	
第105図10	鉄		国内				60E区4層	
第105図11	鉄		国内			22.0 g	60E区4層	
第105図12	青銅	刀装具	国内			8.3 g	4層60	
第105図13	青銅	鏃	国内			1.4 g	4層144	
第105図14	青銅	煙管	国内			7.2 g	4層27	
第105図15	青銅		国内			0.8 g	4層34	
第105図16	青銅		国内			1.2 g	4層42	
第105図17	青銅		国内			2.0 g	4層41	
第105図18			国内	2.9	0.7	1.0 g	60F区4層区4層	
第105図19	鉄砲玉	鉛		1.2	1.3	8.6 g		
第105図20	ガラス玉			0.9	0.6	0.5 g	3層2	白色
第105図21	ガラス玉			0.6	0.4	0.2 g	4層130	内部緑色・表面白色
第105図22	ガラス玉			0.4	0.3	0.1 g	4層183	緑色
第105図23	ガラス玉			0.4	0.3	0.1 g	4層13	緑色
第106図1	銭	開元通宝	唐621	2.4		1.8 g	60F区4層	
第106図2	銭	至道元宝	北宋995	2.2		2.8 g	4層133	
第106図3	銭	祥符通宝	北宋1009	2.4		1.3 g	4層44	
第106図4	銭	天聖元宝	北宋1023	2.3		1.6 g	4層53	
第106図5	銭	景祐元宝	北宋1034	2.4		1.6 g	60F区4層	
第106図6	銭	景寧元宝	北宋1068	2.4		2.9 g	4層30	
第106図7	銭	元豊通宝	北宋1078	2.3		3.3 g	4層50	
第106図8	銭	元豊通宝	北宋1078	2.3		4.0 g	60F区4層	
第106図9	銭	元豊通宝	北宋1078	2.4		2.9 g	60F区4層	
第106図10	銭			2.3		2.0 g	60F区4層	
第106図11	銭			2.4		3.4 g	4層26	
第106図12	銭			2.2		1.0 g	4層46	
第106図13	銭			2.4		2.3 g	4層25	
第107図1	土師質土器	埴塙	在地	5.6		1.9 g	60E区4層	
第107図2	土師器	緑釉碗	国内				60E区4層	
第107図3	土師質	土鉢	国内	4.2	1.4	8.0 g	60E区4層	
第107図4	土師質	土鉢	国内	5.9	1.7	16.4 g	60F区4層	
第107図5	土師質	土鉢	国内			2.8 g		
第107図6	土師質	土鉢	国内	4.2	1.1	5.9 g	60F区4層	
第107図7	土師質	土鉢	国内	4.9	1.3	9.0 g	60D区4層	
第107図8	土師質	土鉢	国内	3.6	1.4		60E区4層	
第107図9	土師器	高坏	在地				4層49	褐色

挿図No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第107図10	土師質	再利用	在地	4.8	3.2	17.5 g	60E区 4層	
第107図11	土師質	鍋	国内				4層79	
第107図12	瓦質土器	鍋	国内					灰白色
第107図13							60E区 4層	
第107図14	結晶片岩						4層58	
第107図15	瓦質	鋳型	国内	5.4	2.6	1.6		
第108図1	在地系土師器	皿	在地	12.2	6.9	2.3	N0.147, 5層	
第108図2	在地系土師器	皿	在地	8.4	7.2	1.1	60F区 5層	
第108図3	在地系土師器	皿	在地	8.6	6.0	1.2	60F区 5層	
第108図4	京都系土師器	皿	在地	6.0		2.1	No.149, 5層	
第108図5	瓦質土器	碗	国内				60F区 5層	
第108図6	陶器	天目碗	瀬戸美濃	11.4			60F区 5層	
第108図7	陶器	天目碗	瀬戸美濃				60D区 5層	
第108図8	陶器	天目碗	瀬戸美濃					
第108図9	土師質	土鉢	国内	3.0	1.0	2.7 g	60D区 5層	
第108図10	土師質	土鉢	国内	3.9	1.3	6.3 g	60D区 5層	
第108図11	土師質	土鉢	国内	3.1	0.8	2.4g	60F区 5層	
第108図12	鉄	釘	国内	5.8		6.1 g	60D区 5層	
第108図13	鉄	釘	国内	4.5		3.2 g	60D区 5層	
第108図14	鉄	釘	国内	3.2		2.1 g	60D区 5層	
第108図15	鉄	釘	国内	3.3		2.7 g	60D区 5層	
第108図16	鉄	釘	国内	4.4		9.9 g	60D区 5層	
第108図17	鉄	釘	国内	8.6		16.1 g	60D区 5層	
第108図18	青銅		国内	6.1		13.2 g	No.148, 5層	
第109図1	在地系土師器	皿	在地	11.2	8.4	3.5	60F区 6層	橙色
第109図2	在地系土師器	皿	在地	12.6		2.9 g	60D区 6層	橙色
第109図3	在地系土師器	皿	在地	11.4	7.8	3.2	60E区 6層	橙色
第109図4	在地系土師器	皿	在地	12.8	9.4	3.3	60D区 6層	にぶい黄橙色
第109図5	在地系土師器	皿	在地	12.4	9.0	3.0	60E区 6層	橙色
第109図6	在地系土師器	皿	在地	11.6	6.4	2.3	No.191, 6層	橙色
第109図7	在地系土師器	皿	在地	11.0	7.6	3.0	60E区 6層	橙色
第109図8	在地系土師器	皿	在地	12.2	9.0	3.0	60E区 6層	橙色
第109図9	在地系土師器	皿	在地	12.6	9.2	3.1	60E区 6層	にぶい黄橙色
第109図10	在地系土師器	皿	在地	8.4	7.0	1.8	60D区 6層	橙色
第109図11	在地系土師器	皿	在地	7.6	6.0	1.0	No.167, 6層	灰黄色
第109図12	在地系土師器	皿	在地	8.2	6.5	1.3	60E区 6層	にぶい黄橙色
第109図13	在地系土師器	皿	在地	8.2	5.4	1.7	60E区 6層	橙色
第109図14	在地系土師器	皿	在地		7.2		60D区 6層	にぶい橙色
第109図15	在地系土師器	皿	在地	8.8	7.4	1.8	60E区 6層	浅黄橙色
第109図16	在地系土師器	皿	在地	8.2	6.6	0.9	60F区 6層	黄褐色
第110図1	京都系土師器	皿	在地	12.6		2.4	60D区 6層	にぶい橙色
第110図2	京都系土師器	皿	在地	10.0		2.2	60D区 6層	浅黄橙色
第110図3	京都系土師器	皿	在地	10.6		2.2	No.166, 6層	にぶい黄橙色
第110図4	京都系土師器	皿	在地	13.4		2.5	60F区 6層	黄褐色
第110図5	京都系土師器	皿	在地	10.3		2.1	60D区 6層	にぶい橙色
第110図6	京都系土師器	皿	在地	13.0		2.0	60D区 6層	灰白色
第110図7	京都系土師器	皿	在地				60F区 6層	淡い褐色
第110図8	京都系土師器	皿	在地				60D区 6層	にぶい橙色
第110図9	京都系土師器	皿	在地	10.4		3.8	60F区 6層	にぶい黄橙色
第110図10	土師器	鉢	東播系				60F区 6層	灰色・暗灰色
第110図11	青磁	碗	中国				60E区 6層	三本単位の施紋
第110図12	陶器	鉢	備前	16.6			60F区 6層	灰褐色
第110図13	陶器	壺?	備前		8.6		60F区 6層	暗褐色
第110図14	青磁	碗	中国				60E区 6層	明緑灰色
第110図15	土師器	皿	吉備系	11.6		2.7	60F区 6層	灰白色
第110図16	緑釉陶器	小皿	瀬戸美濃	6.2		1.4	60D区 6層	灰白色・オリブ白色
第110図17	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	11.8			60D区 6層	60F区 4層も
第110図18	陶器	天目碗	瀬戸美濃		4.0		60F区 6層	
第110図19	青花	碗	中国				60D区 6層	
第110図21	土師質	土鉢	国内	2.5	1.0	2.4g	60D区 6層	
第110図22	土師質	土鉢	国内	4.2		4.1 g	60D区 6層	
第110図23	土師質	土鉢	国内	4.4	1.2	6.1 g	60F区 6層	
第110図24	石	砥石	国内	7.4	2.2	39.6 g	60D区 6層	黒い頁岩?
第110図25	砂岩	砥石	天草	4.8	2.0	59.7 g	60D区 6層	
第110図26	砂岩	砥石	天草	3.8	3.6	22.0 g	60D区 6層	
第110図27	弥生土器	甕	在地				60E区 6層	黄褐色

挿図No.	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考
				口径	底径	器高		
第110図28	土師器	甌	在地					
第111図1	青花	皿	中国				A64区	
第111図2	青磁	碗	中国				B65区12	外底面茶色
第111図3							B65区	
第111図4	焼締陶器		中国	4.8				口径
第111図5							C64区141	
第111図6	磁器	碗	中国召集		6.6		北壁	
第111図7	白磁	皿	中国				60F区	灰白色
第111図8								
第111図9	在地系土師器	皿	在地	8.6	6.8	2.2		橙色
第111図10	在地系土師器	皿	在地	7.8	6.6	1.4		板状圧痕
第111図11	土師質	土錘	国内			3.6g	60F区	灰褐色
第111図12	土師質	土錘	国内	5.1	1.3	7.0g	60F区	黒灰色
第111図13	須恵質	甕	国内					にぶい橙色
第112図1	在地系土師器	皿	在地	11.8	8.6	3.4	No.185	にぶい黄橙色
第112図2	在地系土師器	皿	在地	11.8	6.0	3.5	No.186	浅黄橙色
第112図3	在地系土師器	皿	在地	8.6	6.4	1.2	No.189	橙色
第112図4	京都系土師器	皿	在地	12.0		2.3	No.188	黄褐色
第112図5	京都系土師器	皿	在地	9.0		1.7	No.198	灰白色
第112図6	京都系土師器	皿	在地	12.8		2.7	No.170	淡黄色
第112図7	須恵質	甕	亀山系				No.196	灰白色~黒灰色
第112図8	土師質	盤	防長系				No.181	橙色。内外面横方向刷毛目
第112図9	瓦質土器	火鉢	国内				No.169	灰黄褐色
第113図1	鉄	釘	国内	3.5	0.3	3.2g	60F区6層	
第113図2	鉄	釘	国内	5.6		7.5g	60D区6層	
第113図3	鉄	釘	国内	3.2		3.9g	60D区6層	
第113図4	鉄	釘	国内	2.4		3.0g	60D区6層	
第113図5	鉄	釘	国内	4.2	0.3		60F区6層	
第113図6	鉄	釘	国内	3.5	0.4	3.9g	60F区6層	
第113図7	鉄	鍋	国内	2.5		43.2g	60E区6層	底部
第113図8	鉄	釘	国内	7.0		16.1g	60E区6層	
第113図9	鉄	釘	国内	6.7		11.1g	60E区6層	
第113図10	鉄	釘	国内	3.1		4.4g	60E区6層	
第113図11	鉄	釘	国内	3.6		1.4g	60E区6層	
第113図12	鉄	釘	国内	5.0		9.4g	60E区6層	
第113図13	鉄	釘	国内	7.0		21.4g	60F区6層	
第113図14	鉄	釘	国内	5.5		17.9g	60D区	
第113図15	鉄	釘	国内	5.5		8.0g	60D区	
第113図16	鉄	釘	国内	4.3		6.8g	60F区	
第113図17	鉄	釘	国内	9.0		11.3g	60F区	
第113図18	鉄	釘	国内	6.4		7.1g	No.155	
第113図19	鉄		国内	3.8		8.3g	60D区	
第113図20	鉄		国内	3.6		44.8g	No.187	
第113図21	銅溶解物		国内			67.0g	No.174	
第113図22	青銅		国内	2.9	0.5	2.7g	No.55	
第113図23	鏡		中国	2.5		1.9g	No.184	
第113図24	石	石帯	古代	2.7	0.8	9.5g		

第4章 中世大友城下町跡第36次調査区出土の動物遺体

西本 豊弘

中世大友城下町跡第36次調査区で6点の動物骨が出土し、シカとウシとウマが含まれていた。その内容は表に示したとおりである。シカは角座部分の破片であり、1本角である。表面の顆粒が十分に形成されているので、生育途中の角ではなく十分に形成されたものであることから、生後1歳半の秋に捕獲された個体であろう。ニホンジカとしてはかなり小さい個体である。ウシは脛骨1点と寛骨1点が出土している。脛骨は近位部から骨幹部の破片であり、遠位端は欠損していた。近位間接面に骨端線がまだ見られるので、おそらく3歳前後の亜成獣で体高110cm程度の小型のウシである。寛骨破片は小さなものであり、保存状態が悪いので、小型の成獣としかわからない。この寛骨の破片と思われるものである。

ウマは上顎第4前臼歯が見られた。歯の摩耗はある程度進んでおり、歯根部の長さから見ると9歳から10歳程度の成獣のものである。歯の大きさから見ると、体高120cm前後の小型のウマであろう。これらの骨の他に、ウシまたはウマの手根骨が1点と部位不明の小骨片が1点見られただけである。

表1 中世大友城下町跡第36次調査区出土の動物遺体一覧表

出土区	遺物番号	日付	種名	部位名	左右	残存部分	備考	個数
SK64 (Z65区)	No.4	040205	シカ	喉頭骨・骨				1
D64区	No.7	031107	ウシ	脛骨	L	近位端-骨幹部		1
D65区	No.11	031107	ウシ	寛骨	R	白	小型	1
D65区	No.11	031107	ウシ/ウマ	破片				1
D65区	No.15	031117	ウシ/ウマ	手根骨?				1
D65区	No.17	031117	ウマ	上顎第4前臼歯	R		長さ27.7mm 歯根長41.5mm→ 9~10歳	1

第5章 まとめ

第36次調査結果について

第36次調査区では、14世紀から16世紀にかけて本地域が居住地として利用されつづけたことが明らかになった。特徴的な点は、14世紀に南北方向に造られた大型溝状遺構が出現する点、それを15世紀後葉に改変し、南東-北西方向の道路を新設したことである。

府内古図にあるこの道路は御蔵場の南から西を限る存在であり、ただ単にこの小地域の改変に止まらず、大きな町並み改変の一部であった可能性がある。第36次調査区の北西500mに位置する府内町第5次調査区(御蔵場北西側・JR日豊本線の南側)では15世紀後葉に溝状遺構が造られ初め、町屋が形成され始めると報告されている。第5次調査区の東側にあたる第8次調査区(国道10号の西側)では、やや先行し14世紀末から15世紀前半に大型溝を伴う道路が出現し、15世紀後半には軸線が変更されている。府内古図を基に復元された大友府内町には、南北方向に二つの基本軸があったと指摘されている(坂本2001)。もっとも東に位置する第1南北街路だけは他の3本と方位が異なるのである。第1南北街路路中央には1306年に創建された万寿寺がある。第7次調査区ではその第1南北街路を挟むように、14世紀に大型溝が造られたことを明らかにし、第1南北街路は14世紀に出現したらしいことが示されている。ただ、川沿いのこの辺りは「市河」と呼ばれる河原市があったことが11世紀に記述されている。本格的な町作りが14世紀だったということかも知れない。これまでの発掘調査結果が示すのは、府内町地域では、初めに万寿寺周辺が居住地として開発され、15世紀後葉に16世紀の府内町の基礎が作り直されたらしいことである。鹿毛敏夫によれば、大友府内町を南北に貫く四本の道(東から第1南北街路・第2・・)のうち、第1街路は大分川に沿うので最も古く、第4街路は南方の上野原館に直線的に繋がりに古くという。具体的な年代の指摘はないが、これらの時間的な変化は第36次調査区の調査結果と連動している筈である。

共伴土器がないため時期は不明だが、猪の上顎骨その他が調査区東南部から出土した。骨の所属時期はおそらく中世以前と思われるが、中世以前の年代不詳の時代にこの場所には大分川の支流が流れていた。南東川の大分川から分岐し、御蔵場南西を通る斜行道路と平行するように微妙な低地帯が連続しており、微地形的には居住しにくい場所とそうでない場所があり、後者に動物骨が放置されたのであろう。西本豊弘氏により、シカは1歳半の秋に捕獲されたもので、ウシやウマは小型であるとの報告を頂いた。9歳から10歳の馬で体高120cm前後というのは当時の大きさとしては、普通の部に属するのであろう。

第55次調査結果について

第55次調査区では、初めに東西方向の溝が出現している。出土遺物が少ないため、細かな時期は不明だが14世紀代のことである。溝は東西方向に対して東側が南に10°振れている。これは第1南北街路と直交関係にあり、何らかの関連を示すものかと思われる。

掘立柱建物跡は復元できなかったが、16世紀中葉から後葉の竪穴遺構SK80は長軸を東西方向に向けており、東側の第2南北街路に直交する形で土地が分割・利用されていた可能性が考えられる。「大分市史」では第55次調査区の位置は「御蔵場」に比定されているが、遺構配置状態や遺構そのものに御蔵場らしき様子が反映されていない。本調査区周辺の字図をみると、字図に記録された土地の境界線は、第2南北街路に面して東西方向に細長いものが集まっており、考古学的証拠と併せ考えると第55次調査区の場所は御蔵場ではなく、町屋的状况であるとすべきだろう。掘立柱

建物を復元できなかったが、想像を逞しくして述べれば、第2南北街路に面して建物があり、背後に竪穴遺構と石組六角井戸があり、その後ろに庭があってゴミ穴が掘られた状況が16世紀後葉のこの場所にあった町屋の様子ではなかったか。

大友城下町跡の板石組六角井戸について

大友城下町跡地域内では、これまでに実施された発掘調査で多数の井戸が調査されてきた。現状で利用できる範囲でも115基が報告されている。全ての物が時間とともに変化するように、本地域の井戸もまた、様々な形態を示す。今回報告する第36次調査区では3基、第55次調査区では4基の井戸を検出した。両方とも、阿蘇凝灰岩を板状に加工したものを六角形に組んで数段積み重ねた井戸が含まれている。板石組六角形井戸は大友城下町ではいくつも類例がある型式であるが、本地域での井戸全体の消長とともに板石組六角井戸の出現について、現在判明する報告された資料で検討しておきたい。

井戸各部の名称は様々であるらしい。宇野隆夫の「井戸考」によれば、井戸最下部の水を溜める部分はまなこ・井筒・水溜の名称があり、その上部の細長い部分は井筒・井戸側等の名で呼ばれている。また、地上部分には井桁の名称がある。確かに、地上から底まで全く同じ構造の井戸は考えにくいので、地上部・中間部・最下部を区別する必要がある。ここでは、地上部を井桁とし、中間部は円筒形のものだけとは限らないので井筒を捨て、「井戸考」に倣い井戸側とする。最下部は水溜と呼ぶことにする。

井戸の構築年代ははっきりしない場合が多い。井戸側・水溜から出土した遺物は、井戸使用時期の最終時点を示す可能性をもつだけである。大友城下町では井桁の残存例はない。

本地域で最古の井戸は奈良時代8世紀前半に遡る。その府内町第18次調査区SE176は、木質は残っていないが縦割り断面観察により井戸側から水溜までが連続的な構造であり、折り曲げた板材である曲物を用いていたらしい。

次に古い例は14世紀前葉以前と判断された第8次B調査区SE238である。水溜は六角形に組んだ木の板材で、井戸側は板を四角に組んでいた。14世紀前半代と考えられるのは第21次B調査区SE100である。井戸側は方形縦板組隅柱横棧型という方形で、水溜は曲物である。14世紀中葉から後葉とされるのは2例ある。第20次B調査区SE009は板を四角く組んだもので、水溜は残っていない。第8次調査区SE101もこの時期で、桶利用の最古例であり井戸側・水溜とも桶である。

15世紀前葉～後葉とされる第8次調査区SE102・SE228では、木型方形の井戸側、曲物の水溜であった。木組方形の井戸側は15世紀後葉まで残り、第5次B調査区SE259例がある。16世紀後葉～末葉に比定された第5次B調査区SE108は井戸側上部に礫を円く積んだ状態が残る。井戸側に桶を利用する井戸の中には、上部に礫を積む例があることを示している。本地域では礫を井戸側全体に積み上げる例は2例ある（5次A区SE502・503）。井戸側に桶を用いる場合の水溜は、15世紀中葉以前とされる1例（第10次調査Ⅱ北区SE300）が曲物である例外を除き、すべて桶である。

15世紀になると五輪塔部材を井戸側材とする例が出現する。7基報告されている。礫と共に用いる場合や五輪塔のみのもの、平面形は環状1基・六角形5基・八角形1基があり、井戸側基部に凝灰岩板石を平たく並べて井戸側の重量を分散する仕組みのものが1例（八角形井戸側）ある。水溜には例外なく桶を設置している。

16世紀の主流は井戸側・水溜に桶を利用する井戸である。16世紀後葉になると、板状に加工した阿蘇凝灰岩を六角形に何段も組んで井戸側とするものが少数現れる。そのうちに井戸側基部に板石を平たく並べて重量分散を図る例が2例ある。別に基部の板石だけを残し、井戸側が撤去されたものがある（第10次SE212・第13次SE266）のは石材を再利用したのであろう。この種も水溜に

大友城下町跡関連井戸集成—井戸中心部構造—

NO.	調査次	番号	井戸側	井戸側基部	水溜	抜取他	
1	3次	SE212	桶?	未調査	未調査		
2	3次	SE213	?	未調査	未調査		16C前半以前
3	3次	SE120	瓦質桶(水溜と一体)	瓦質桶			
4	3次	SE206	桶(土層から)		桶(同)		16C中葉以降
5	3次	SE211			桶?	有	16C中葉以降
6	4次	SE151				有?	
7	4次	SE159	桶			無	
8	4次	SE175	桶	未調査	未調査		
9	4次	SE188	桶	未調査	未調査		
10	4次	SE195	桶	未調査	未調査		
11	4次	SE200				?	
12	5次	SE500	五輪六角		桶		16C後葉以降
13	5次A	SE501	桶		桶		16C末葉
14	5次A	SE502	扁平礫囲の円		桶		16C末葉
15	5次A	SE503	五輪・礫の円形		桶二段		15C末～16C初頭
16	5次A	SE504	扁平礫囲の円だったか?	基部礫基礎?	桶		15C後葉以前
17	5次A	SE505	五輪一段六角		桶		16C末葉SE508を切る
18	5次A	SE506	桶らしい		桶・曲物片		15C末～16C初頭
19	5次A	SE507	未調査		未調査		15C?
20	5次A	SE508	未調査	未調査	未調査		SE505に切られる
21	5次A	SE510	土色変化の方形平面有		未調査		15C SE507を切る
22	5次A	SE511	桶二段以上				15C
23	5次A	SE512	五輪2点。六角形?		桶		15C?～
24	5次A	SE513	桶		未調査		15C
25	5次A	SE515	桶らしい		未調査		16C末葉
26	5次A	SE514	不明		未調査		16C後葉
27	5次B	SE108	礫積み下部に桶		桶		16C後葉～末葉
28	5次B	SE119	抜取り		曲物		15C後葉～16C初頭
29	5次B	SE132	?		桶		15C後葉～16C代
30	5次B	SE142	桶(水溜と一体)桶		15C後葉		
31	5次B	SE203	?		?		
32	5次B	SE220	五輪五段六角		桶		
33	5次B	SE221	桶(水溜と一体)桶		16C末葉		
34	5次B	SE228	抜取り		桶		15C後葉
35	5次B	SE238	木組方形		六角板		14C前葉以前
36	5次B	SE247	桶(水溜と一体)桶		16C末葉		
37	5次B	SE248	桶(水溜と一体)桶	2重複	16C末		
38	5次B	SE249			桶		15C後葉
39	5次B	SE259	木組方形痕			節抜竹	15C後葉
40	7次	SE800	木組方形		小礫敷		15C
41	7次	SE773	木組方形の下部に桶		15C		
42	7次	SE558	桶が水溜と一体化桶		16C第2四半期		
43	7次	SE532	桶が水溜と一体化	桶	16C第3四半期		
44	7次	SE541	桶が水溜と一体化桶		16C第4四半期		
45	7次	SE19			桶	有	16C第3四半期
46	7次	SE108			桶	有	16C第4四半期
47	7次	SE331	板石六角形	板石花卉	桶	有	16C第4四半期
48	8次	SE101	桶?桶		14C中葉～後葉		
49	8次	SE102	木型方形		曲物→桶		15C前葉or15C後葉
50	9次Ⅱ	SE028	不明		不明		16C後葉～末葉
51	9次Ⅱ	SE029	不明		不明		16C後葉～末葉
52	9次Ⅲ	SE031	木型方形		未調査		14C前葉
53	9次Ⅲ	SE032			桶		14C中葉～後葉
54	9次Ⅲ	SE033	桶		未調査		16C後葉～末葉
55	10次Ⅰ	SE014	不明		未調査		15C代
56	10次Ⅰ	SE017	桶(水溜と一体)	桶 作替え			
57	10次Ⅰ	SE126	縦板組隅柱横棧型		曲物		13C末～14C初頭
58	10次Ⅱ北	SE144	桶	未調査	未調査		16C第2四半期

NO.	調査次	番号	井戸側	井戸側基部	水溜	抜取他	
59	10次Ⅱ北	SE147	桶	未調査	未調査		1587年以降
60	10次Ⅱ北	SE148	五輪塔八角形	剝抜板石	桶		16C第4四半期
61	10次Ⅱ北	SE210	桶	未調査	未調査	無	16C第4四半期
62	10次Ⅱ北	SE234	桶	未調査	未調査		16C後半
63	10次Ⅱ北	SE235	桶?	未調査	未調査		16C第2四半期
64	10次Ⅱ北	SE291	桶	未調査	未調査		16C第2四半期
65	10次Ⅱ北	SE300	桶のタガ		曲物		15C中葉以前
66	12次	SE01	なし	なし	なし		16C後葉～末廃
67	12次	SE03	なし		桶		16C中葉以前
68	13次	SE253	桶痕のみ(水溜と一体) 桶	石投入	16C後葉～末廃絶		
69	13次	SE266	無・平瓦	基部花卉状7枚板石	桶	有	16C後葉～末廃絶
70	13次	SE286	桶痕		未調査	抜取・投入無	16C末
71	13次	SE377	桶(水溜と一体)桶	上部石	16C後葉廃絶		
72	13次	SE384	五段板石六角形		桶	上部石投入	16C後葉～末
73	14次	SE118	灰石剝抜		10角		18C末～明治以降
74	14次	SE250	平瓦組合せ				18C末～明治以降
75	17次	SE212	石組六角形	花卉状板石	桶四段	井戸側上部抜取り	16C後葉～末
76	17次	SE249	SE212に転用?			有	16C後葉～末
77	17次	SE170			平瓦的	有	16C後半(近世?)
78	17次	SE290			平瓦的		16C後半(近世?)
79	17次	SE940	桶腐朽桶腐朽		16C後半		
80	17次	SE960	桶腐朽(水溜と一体)桶		16C後半		
81	18次	SE079	撤去さる	基部雑な花卉状	桶		16C後葉六角だろ
82	18次	SE261	桶3段(水溜と一体)桶	石投	16C後葉		
83	18次東	SE176	井戸側から木箱まで連続的な断面が観察されたが?	曲物?	8C前半		
84	18次東	SE075	全部抜取り	鉄管	16C後葉		
85	18次東	SE079	抜取り。六角形石組?	板石花卉状6枚	桶		16C後葉
86	18次東	SE261	桶5段井戸側と水溜が一体桶		16C後葉		
87	18次東	SE307	未調査	未調査	未調査		16C後葉
88	18次西	SE016	方形痕跡		円形痕跡		15～16C中葉
89	20次A	SE104				有	16C後葉～末
90	20次B	SE006			桶	有	16C後葉～末
91	20次B	SE009			方形井筒		14C中葉～後葉
92	20次B	SE010				有	16C後葉～末
93	20次B	SE017			桶井筒	有	16C後葉～末
94	21次	SE84	桶痕(水溜と一体)桶		16C後葉～末		
95	21次	SE100	方形縦板組隅柱横棧型				14C前半代
96	21次	SE108	桶(水溜と一体)桶	有	16C末廃絶		
97	21次	SE115	4段桶		桶		16C末廃絶
98	21次	SE117			桶		SE115と同じ穴で先行
99	22次	SE007	不明		不明		16C中葉～後葉
100	22次	SE010	不明		不明		16C後葉～末葉
101	22次	SE012	桶(水溜と一体)桶	有	16C後葉～末葉		
102	22次	SE021	不明		不明		16C中葉～末葉
103	22次	SE201		方形隅柱横板型下部に桶		14～15C	
104	22次	SE242		方形隅柱横板型内部に曲物		14C代?	
105	28次	SE027	桶		未調査	石投入	16C後葉～末葉
106	大友36次	SE10					
107	大友36次	SE14					
108	大友36次	SE24					
109	大友40次	SE36	未調査	未調査	未調査		
110	大友48次	SE032	円形痕		桶?		15C代
111	大友55次	SE85					
112	大友55次	SE104					
113	大友55次	SE107	板石六角形	未調査	未調査		
114	大友55次	SE130					
115	大友55次	SE188					
116	下志村2次	SE290	五輪・宝篋印塔六角三段		なし		～17C中頃

は例外なく桶を設置している。

中世に遡る県外での板石組六角形井戸発掘例を探し出すことができなかった。存在するとしても稀であろうと思われ、今後報告されるものを加えれば、20基くらいは調査された豊後府内町の出土基数は全国的にも突出した存在である。発掘された例ではないが、板石組六角形井戸として知られているものは全国的には40例ほどあるらしい(河野忠2004)。河野によれば、上部の井戸枠が六角形または八角形のもので秋田から沖縄まで、全国に40基程度存在するらしい。設置年代についての言及はみられないが京都・奈良・淡路島周辺・長崎に集中する傾向があるという(半ページ分の発表要旨であり、一覧表は示されていない)。

以下は大友府内町ではないが、郊外にあたる下志村遺跡 SE290 には、中世末から17世紀中頃と推定される五輪塔部材を環状に組んだ例がある。水溜から井戸側下部に三段積んだ例で、石材が水溜から立ち上がり、桶は存在しない。これは大友府内町が消滅した後に造られた事例かも知れない。

府内町からは多数の平瓦様のものを井戸側に利用する例が数基調査されている。中世末とされるものもあるが、福岡市内にある類例も中世例は存在しないので、府内町例も江戸から明治に造られたものであろう。16世紀に出現した府内の板石組六角形井戸の構築技術は、後世に引き継がれ発展することはなかったようである。

ところで、江戸時代の板石組六角形井戸発掘例は、福岡県北九州市に6基がある。府内との共通点は水溜に桶を使うこと(4基。1基はヒューム管)で、相違点は石材は砂岩であること、井戸側基部に平石を置かないことである。相互の井戸に関連があるのか、現時点では判断できない。

参考文献

- 坂本嘉弘 2001 「考古学から見た中世大友府内城下町の成立と構造」『南蛮都市・豊後府内』大分市教育委員会・中世都市研究会
 鹿毛敏夫 2001 「文献・絵図から見た大友館と府内の町～都市と国際性～」『同上』
 宇野隆夫 1982 「井戸考」『史林』65巻5号
 河野忠 2004 「名数からみた井戸枠の形式－六角井戸の研究－」『地域研究』42巻12号
 関川安・毛利恒彦 2001 「小倉城下大坂町遺跡」北九州市文化財調査報告書第92集 北九州市教育委員会
 山口信義 1999 「常盤橋西勢溜り跡」北九州市埋蔵文化財文化財調査報告書第229集 (財)北九州市埋蔵文化財調査室 2号
 山口信義・川上秀秋 2001 「木屋瀬宿本陣跡・脇本陣跡3」北九州市埋蔵文化財文化財調査報告書第266集
 (財)北九州市埋蔵文化財調査室
 山手誠治 2004 「朽網南塚遺跡4」北九州市埋蔵文化財文化財調査報告書第318集 (財)北九州市埋蔵文化財調査室
 2005 「下志村遺跡第2次発掘調査」大分市教育委員会

写真図版



北西から



真上から



西部



中央部



東部

写真図版 3
(36 次調査)



南側層壁



南側層壁



南側層壁



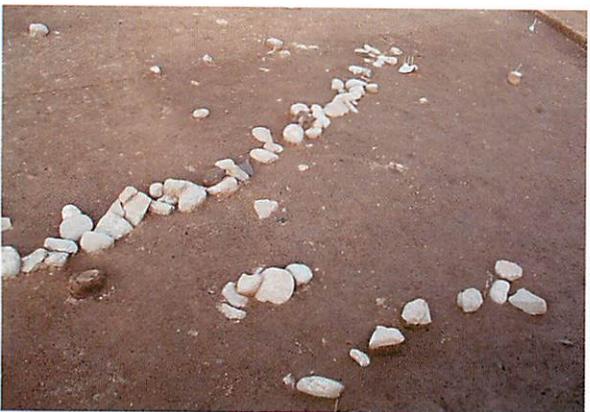
近世溝 (東から)



16 世紀検出状況



16 世紀包含層調査状況



16 世紀検出状況



16 世紀包含層調査状況



礫の詰まった土坑群



S018 (南から)



S020 土層



S014 (井戸)



S016 (西から)



S010 (井戸、南から)



SK34



備前焼壺

写真図版 5
(36次調査)



E区調査風景



SK34



同右



華南三彩鳥形水注出土状況



SK4



褐釉陶器蓋



東から見た調査風景



SD80 南壁



SD80



SD113



イノシシ



道路側溝検出状況

写真図版 7
(36 次調査)



SE14



SE24 掘方遺物出土状況



SE14



SE10 (井戸 南東から)



SE14



SE10 (井戸)



X・Y区



X区下層溝検出状態



14世紀の道路側溝



調査区西部



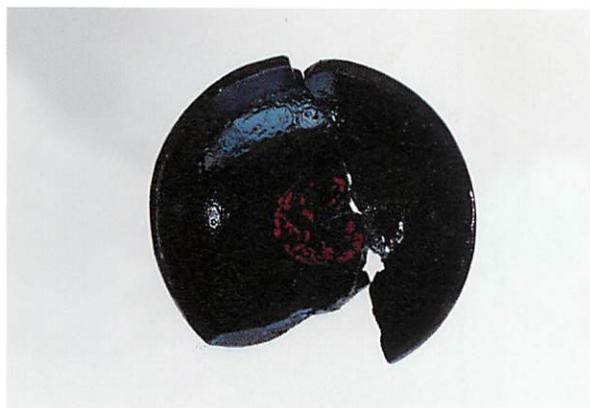
SE24 漆器椀



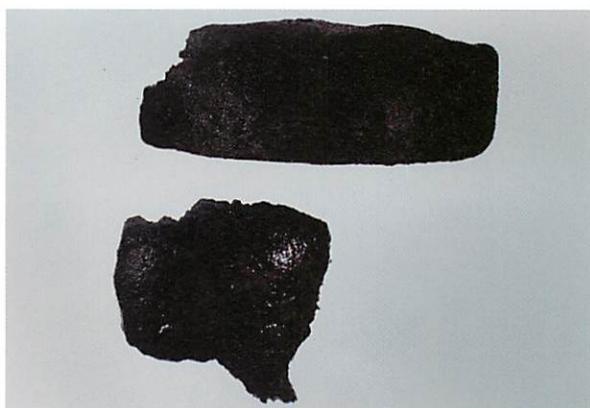
SE14 漆器碗



SE14 漆器碗



SE24 漆器碗



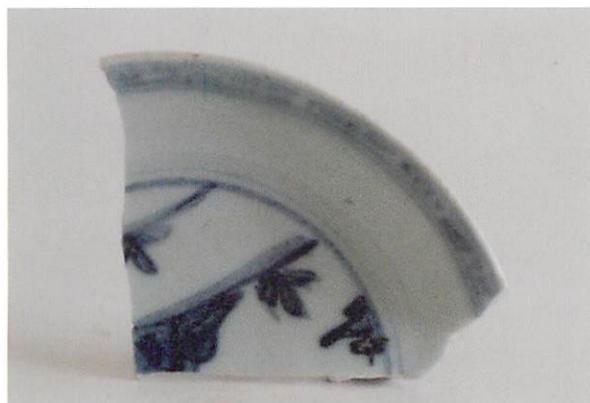
SE24 漆器碗



SE24 漆器碗



柱穴出土青花



包含層青花

写真図版 11
(36次調査)



包含層



包含層



包含層



S10



S59



SK118

火打石 (左2個は包含層・
右上は SF1 砂利層、
右下は SD8)



ガラス玉 (下左2個は
大型玉と詰まっていた
木の棒)



包含層出土石臼





第 55 次調査区出土遺物



第36次調査区出土遺物



SK55



SK70



SK37



包含層出土ガラス



青銅製品



SE10



SK26



SK29



SK51



SK18



SK72



包含層



同左の内面



SK118



南から調査区を見る



北側から見た第 55 次調査区



南上空から



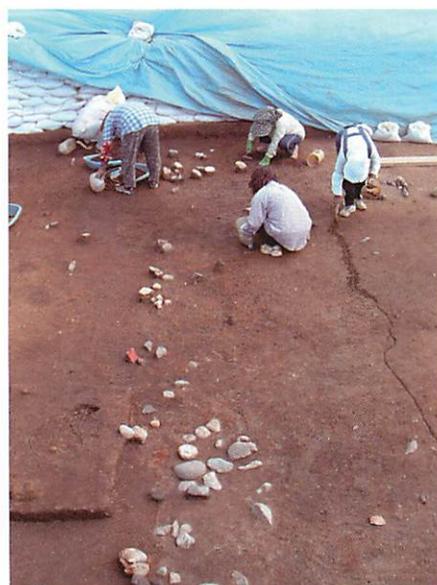
真上から



近世の溝



SD1 検出状況



SD1 検出状況



SD51



SD260



最下層 (西から)

写真図版 21
(55次調査)



南側壁土層



北側壁土層



SX100 半割状況



SX100 検出状況



遺構確認状況



南側壁



同右の東方



SK80 調査後の下位面



最下層全景



東からの上層調査状況



SE107



SK139・140



SE85



SD267・270



SX100



SK80 完掘状況



SK164 完掘状況



SE85 井筒断面



現場



SK265 遺物検出状況



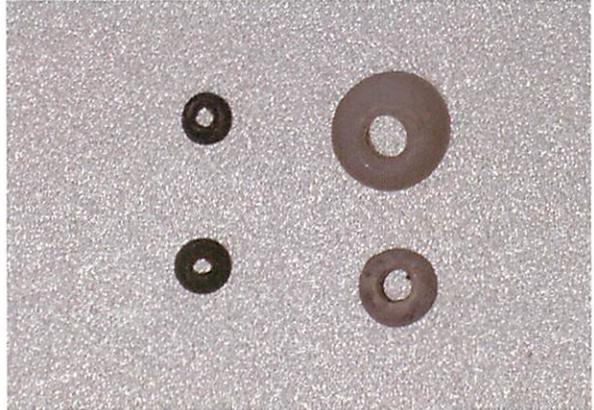
SK130



SK148 および周囲



SK225 須恵質土器



4層ガラス玉



包含層須恵質土器



SK105 瓦質土器



SK164 鏡



脚付土器



青磁香炉



古代の石帯

報告書抄録

ふりがな	ぶんごふない9ちゆうせいおおともふないまちあとだい36じ・だい55じちようさく
書名	豊後府内9 中世大友府内町跡第36次・第55次調査区
副書名	大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	6
シリーズ名	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第24集
編集者名	高橋信武
編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター
所在地	〒870-1113 大分市大字中判田字ビワノ門1977番地
発行年月日	西暦2008年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北, 緯 "	東, 経 "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ちゆうせいおおとも 中世大友 ふないまちあと 府内町跡 第36次調査	おおいたしろくほうきたまち 大分市六坊北町	322	51	33° 13' 36.82"	131° 37' 4.83"	20031015 ~ 20040315	850㎡	県道庄の原 佐野線建設
ちゆうせいおおとも 中世大友 ふないまちあと 府内町跡 第55次調査	おおいたしろくほうきたまち 大分市六坊北町	322	51	131° 37' 5.04"	131° 37' 4.83"	20050509 ~ 20051020	320㎡	県道庄の原 佐野線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中世大友 府内町跡 第36次調査	中世都市	中世	溝・道路・井戸	青磁・貿易陶磁・ 鳥形水注	中世の町を描いた 「府内古図」の御蔵 場南側に該当する。
中世大友 府内町跡 第55次調査	中世都市	中世	溝・竪穴遺構・ 井戸	青磁・貿易陶磁・ 古代石帯	中世の町を描いた 「府内古図」の御蔵 場南部・南側に該 当する。

要 約	中世大友府内町跡第36次調査区は府内古図にある御蔵場の南側に描かれた「魚ノ店」・「斜行道路」・「ノコギリ町」に該当する。今回の調査で初めて「斜行道路」の位置・規模・築造時期が確定した。その他の遺構は町屋跡の状況であった。
-----	--

豊後府内9

中世大友府内町跡第36次・第55次調査区

庄の原佐野線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第24集

平成20(2008)年3月25日

編集・発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター
〒870-1113
大分市大字中判田字ピアノ門1977番地
TEL 097-597-5675

印 刷 株式会社エポックアート
〒870-0942
大分市羽田984-1
TEL 097-569-1181
